三重県埋蔵文化財調査報告４０４

中坪遺跡（第３・４次）発掘調査報告

２０２２（令和４）年３月

三 重 県 埋 蔵 文 化 財 セ ン タ ー

６区全景（北西から）

人面墨書土器（1421）

例　　言

1．　本書は、平成 29 年度及び平成 30 年度に実施した高度水利機能確保基盤整備事業（朝見上地区）に伴う中坪遺跡第３次及び第４次埋蔵文化財発掘調査の報告書である。

2．　調査地は、三重県松阪市立田町に所在する。

3．　本遺跡の調査は、三重県教育委員会が三重県農林水産部から依頼を受けて実施した。現地調査から報告書作成に至る経費は、三重県教育委員会が文化庁からの国庫補助金を得て一部を負担し、その他を三重県農林水産部から執行委任を受けて実施した。

4．　発掘調査は、下記の体制で実施した。

・第３次調査

調査主体　　三重県教育委員会

調査担当　　三重県埋蔵文化財センター　調査研究１課

主幹　中川　明・中井英幸、　技師　鐸木厚太・水谷侃司

調査期間　　平成 29 年６月 29 日～平成 30 年１月 29 日

調査面積　　3,775㎡

・第４次調査（工事立会）

調査担当　　三重県埋蔵文化財センター　調査研究１課

主幹　伊藤文彦

調査期間　　平成 30 年 10 月 16 日～ 10 月 18 日

調査面積　　64㎡

5．　現地での図面作成及び写真撮影は調査担当者により、遺物写真撮影は当センター 主査 森川常厚及び主査田中久生が行い、微化石分析、貝殻同定、塗膜構造調査、樹種同定に伴う写真は各受託業者による。

6．　本書の執筆は、微化石分析、貝殻同定、塗膜構造調査、樹種同定については各受託業者が、他は森川が行い、編集は森川による。

7．　本書の遺跡地形図で使用した図は、三重県市町総合事務組合管理者の承認を得た三重県共有デジタル図を用いている。（令和３年４月５日三総合地第１号）。遺跡調査区位置図に使用した事業計画図は三重県農林水産部の提供による。

8．　本書で用いた座標は世界測地系による座標北である。標高は、東京湾平均海水面を基準とした。

9．　調査にあたっては、下記の方々の協力及び指導・助言を得た。

松阪市教育委員会　三重県農林水産部農業基盤整備課　三重県松阪農林事務所　朝見上土地改良区

地元各位　木本凱夫

10.　土層及び土器の色調表記は、小山正忠･竹原秀雄編『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社、2005 年版）に拠った。

11.　調査図面・写真・出土遺物は、三重県埋蔵文化財センターにて保管している。

目　　次

Ⅰ．前言 …… 1
　1．調査に至る経緯 …… 1
　2．調査の経過 …… 1
　3．文化財保護法に関する諸手続き …… 1

Ⅱ．位置と環境 …… 2

Ⅲ．遺構 …… 6
　1．縄文時代の遺構 …… 6
　2．弥生時代終末～古墳時代初頭の遺構 …… 6
　3．奈良時代の遺構 …… 11
　4．平安時代前半の遺構 …… 36
　5．平安時代中頃の遺構 …… 37
　6．平安時代末～鎌倉時代の遺構 …… 38
　7．室町時代の遺構 …… 44
　8．近世以降及び時期不明の遺構 …… 68

Ⅳ．遺物 …… 75
　1．縄文時代の遺構出土遺物 …… 75
　2．弥生終末～古墳時代初頭の遺構出土遺物 …… 75
　3．奈良時代の遺構出土遺物 …… 75
　4．平安時代前半の遺構出土遺物 …… 90
　5．平安時代中頃の遺構出土遺物 …… 91
　6．平安時代末～鎌倉時代の遺構出土遺物 …… 92
　7．室町時代の遺構出土遺物 …… 99
　8．江戸時代の遺構出土遺物 …… 153
　9．包含層等出土遺物 …… 163

Ⅴ．微化石分析 ……（株式会社パレオ・ラボ）…… 211
　1．分析試料 …… 211
　2．珪藻分析・花粉分析・植物珪酸体分析 …… 211

Ⅵ．貝殻同定 ……（中村賢太郎　株式会社パレオ・ラボ）…… 220
　1．試料と方法 …… 220
　2．結果と考察 …… 220

Ⅶ．塗膜構造調査 ……（株式会社吉田生物研究所）…… 221
　1．調査資料 …… 221

２．調査方法 …… 221
３．断面観察 …… 221
４．摘要 …… 221

Ⅷ．樹種同定 ……（汐見 真　株式会社吉田生物研究所）‥ ２２２
１．観察方法 …… 222
２．結果 …… 222
３．まとめ …… 224

Ⅸ．結語 …… ２２８
１．各遺構の時期 …… 228
２．水利施設 …… 230
３．室町時代の集落構成 …… 232

挿　図　目　次

第１図　遺跡位置図 …… 3
第２図　遺跡地形図 …… 4
第３図　調査区位置図 …… 5
第４図　１区平面図 …… 7
第５図　１区土層断面図 …… 8
第６図　２区平面図 …… 9
第７図　２区北壁・東壁土層断面図 …… 10
第８図　２区南部東壁・中央部南壁
・中央部西壁土層断面図 … 11
第９図　３区平面図 …… 12
第10図　３区土層断面図 …… 12
第11図　５区平面図① …… 13
第12図　５区平面図②、４－１区平面図 …… 14
第13図　５区検出面断面図 …… 15
第14図　４－１区土層断面図 …… 15
第15図　６区平面図 …… 16
第16図　６区土層断面図 …… 17
第17図　4-2・7・8・9区平面図① …… 18
第18図　4-2・7・8・9区平面図② …… 19
第19図　4-2・7・8・9区平面図③ …… 20
第20図　4-2・7・8・9区平面図④ …… 21
第21図　4-2・7・8・9区平面図⑤ …… 22
第22図　4-2・7・8・9区平面図⑥ …… 23
第23図　4-2・7・8・9区平面図⑦ …… 24
第24図　4-2区土層断面図 …… 24
第25図　4-2・7・8・9区平面図⑧ …… 25
第26図　７区土層断面図 …… 26
第27図　８区西壁土層断面図 …… 28～29
第28図　８区中央東壁・中央南壁
・南部北壁・南部南壁土層断面図 … 30
第29図　９区土層断面図 …… 31
第30図　SR38033、SD38090・38091実測図 …… 32
第31図　SB32007・37019実測図、
SB32007柱穴遺物出土状況図 … 34
第32図　SZ38101、SK32008・38053実測図 …… 34
第33図　SR39016実測図 …… 35
第34図　SB32001・SE32006実測図 …… 36
第35図　SE35005・38022、SK35003実測図 …… 39
第36図　SK35002・37004・38052
・38093実測図 … 40
第37図　SK35004・35007・38019、
SD38029実測図 … 41
第38図　SD35008・38098・38099実測図 …… 42
第39図　SB36025・36026・37018・38102、
SA36027・36028実測図 … 43
第40図　SB38067、SA39017、
SK38065、SD38062実測図 … 44
第41図　SK36011・37001、
SE38040・39015実測図 … 46
第42図　SE38001・39002、SK38002実測図 …… 47
第43図　SE38041・38064・38082、
SK38063実測図 …… 48
第44図　SE38005・38006、SD38011実測図、
SD38011遺物出土状況図 … 50
第45図　SK35001・36005・36008・36009、
SD36004実測図 … 52
第46図　SK38013・38034～38037
・38039・38045実測図 … 53
第47図　SE38047、SK38048・38049
・38055・38061実測図 … 54
第48図　SK38050・38077実測図 …… 56
第49図　SK39003、SD39001実測図、
SD39001遺物出土状況図 … 58
第50図　SK39005、SD36012
・36017・36022実測図 … 60
第51図　SD36014・37009・37011・38020
・38044実測図、SD38017遺物出土状況図 … 62
第52図　SD37005・38046・38060
・38068実測図 … 64
第53図　SD38038・38042・38043実測図 …… 66
第54図　SD38018・38027、SK39012実測図 …… 69
第55図　縄文時代、弥生終末
～古墳時代初頭の遺構出土遺物 … 75
第56図　奈良時代の遺構出土遺物 …… 77
第57図　SD31005（井戸１・井戸２）出土遺物 …… 78
第58図　SR39016出土遺物① …… 79
第59図　SR39016出土遺物② …… 80
第60図　SR39016出土遺物③ …… 81
第61図　SR39016出土遺物④ …… 82
第62図　SR39016出土遺物⑤ …… 83
第63図　SR39016出土遺物⑥ …… 84
第64図　SR39016出土遺物⑦ …… 85
第65図　SR39016出土遺物⑧ …… 86
第66図　SR39016出土遺物⑨ …… 87

第67図　SR39016出土遺物⑩…… 88
第68図　SD33005、SB32001、SE32016出土遺物… 89
第69図　平安時代の遺構出土遺物 …… 90
第70図　SK38093、SE35005出土遺物 …… 91
第71図　SK35002出土遺物…… 92
第72図　SK37004出土遺物①…… 93
第73図　SK37004出土遺物② …… 94
第74図　SK37004出土遺物③ …… 95
第75図　鎌倉時代の遺構出土遺物① …… 97
第76図　鎌倉時代の遺構出土遺物②…… 98
第77図　SE39002、SK38007、SD36022出土遺物‥ 100
第78図　SK38085出土遺物…… 101
第79図　SD38027出土遺物…… 102
第80図　SD36006出土遺物①…… 103
第81図　SD36006出土遺物②…… 104
第82図　室町時代の遺構出土遺物①…… 106
第83図　SD36017・38062・38075出土遺物…… 108
第84図　室町時代の遺構出土遺物②…… 110
第85図　SE38005・39015出土遺物 …… 111
第86図　SE38001出土遺物①…… 112
第87図　SE38001出土遺物②…… 113
第88図　SE38001出土遺物③…… 114
第89図　SE38001出土遺物④ …… 115
第90図　SE38001出土遺物⑤…… 116
第91図　SE38082出土遺物①…… 117
第92図　SE38082出土遺物②…… 118
第93図　室町時代の遺構出土遺物③…… 119
第94図　室町時代の遺構出土遺物④ …… 120
第95図　SD38011出土遺物…… 122
第96図　SD36002出土遺物①…… 124
第97図　SD36002出土遺物② …… 125
第98図　SD38018出土遺物① …… 126
第99図　SD38018出土遺物② …… 127
第100図　SD38018出土遺物③ …… 128
第101図　SD38018出土遺物④ …… 130
第102図　SD38018出土遺物⑤ …… 131
第103図　SD38018出土遺物⑥ …… 132
第104図　SD38018出土遺物⑦ …… 133
第105図　SD39001出土遺物…… 134
第106図　SD39014出土遺物…… 135
第107図　SD36012出土遺物…… 136
第108図　SD37006出土遺物 …… 137
第109図　SD36004出土遺物①…… 138
第110図　SD36004出土遺物②…… 140
第111図　SD36004出土遺物③…… 141
第112図　SD36004出土遺物④…… 142
第113図　SD38017出土遺物①…… 143
第114図　SD38017出土遺物②…… 144
第115図　SD38042出土遺物①…… 145
第116図　SD38042出土遺物②…… 146
第117図　SD36003・36007・37011出土遺物…… 148
第118図　SD38043出土遺物…… 150
第119図　SD38079・38080・38087出土遺物…… 151
第120図　SD38066・38073・38078出土遺物…… 152
第121図　SD38051・39004出土遺物…… 153
第122図　SD38038出土遺物①…… 154
第123図　SD38038出土遺物②…… 155
第124図　SD38038出土遺物③…… 156
第125図　SD38026出土遺物①…… 157
第126図　SD38026出土遺物②…… 158
第127図　SD38026出土遺物③…… 159
第128図　SK38003・39010出土遺物…… 160
第129図　SK39012出土遺物…… 161
第130図　包含層等出土遺物① …… 162
第131図　包含層等出土遺物② …… 164
第132図　包含層等出土遺物③ …… 165
第133図　包含層等出土遺物④ …… 166
第134図　包含層等出土遺物⑤ …… 168
第135図　包含層等出土遺物⑥ …… 169
第136図　堆積物中の珪藻化石分布 …… 214
第137図　花粉分布 …… 216
第138図　植物珪酸体分布 …… 218
第139図　平安時代前半の遺構配置図 …… 228
第140図　水利施設 …… 231
第141図　水利施設樹種比較図 …… 232
第142図　室町時代遺構変遷図 …… 233
第143図　根石検出位置図 …… 234

写　真　図　版

巻頭図版 …… ６区全景
…… 人面墨書土器
写真図版１ …… 調査前風景
…… １区全景
…… １区全景
写真図版２ …… ２区北部全景
…… ２区全景
…… ２区全景
…… ２区中央突出部全景
写真図版３ …… ３区北部全景
…… ４－１区全景
…… ４－２区全景
…… ５区全景
写真図版４ …… ６区全景
…… ７区全景
…… ８区全景
写真図版５ …… ８区中央部全景
…… ８区南部全景
写真図版６ …… ９区下層全景
…… ９区全景
……SB32001
…… SB32007柱穴遺物出土状況
写真図版７ …… SB36025・SA36027
……SB36026
…… SA36027柱穴
……SB36025柱穴
……SB36025柱穴
…… SB36026柱穴
……SB36026柱穴
……SB36026柱穴
写真図版８ ……SB38102
…… SB38067・SD38062
写真図版９ …… SA39017
…… SK1断面
……SE32006断面
…… SE38041断面
……SE35005断面
……SE38064断面
……SE38040断面
写真図版10 ……SE38001断面
……SE38001
写真図版11 ……SE38082
……SE39015
写真図版12 ……SE39002断面
…… SK35002断面
…… SK35003断面
……SK35004・SK35007
…… SK36010断面
……SK36008
……SK37016
……SK38013
写真図版13 …… SK37004断面
……SK38034
……SK39012
…… SK38035・SK38036・SK38037断面
……SD31002
写真図版14 ……SD32002
……SD33005
…… SD33007断面
…… SD33005断面
…… SD33012断面
……SD36004
……SD36007
……SD36012・SD36017
写真図版15 ……SD38074
…… SD37007断面
……SD38078
……SD37008
…… SD37009・SD37011・SD37014断面
…… SD37013断面
…… SD37006断面
写真図版16 …… SD38011遺物出土状況
…… SD38018・SD38027・SD38030
……SD38018・SD38027断面
……SD38044
……SD38059・SD38086断面
……SD38060
…… SD38066断面
…… SD38072・SD38076・SD38100
写真図版17 ……SD38080
……SD38087

写真図版18 ……SD38073
…… SD39001遺物出土状況
……SD38081
…… SD39004
……SR39016
写真図版19 …… 水利施設
…… 水利施設
…… 水利施設
…… 水利施設
写真図版20 ‥縄文土器･弥生土器
･古式土師器･須恵器
写真図版21 …… 土師器
写真図版22 …… 土師器
写真図版23 …… 土師器
写真図版24 …… 土師器
写真図版25 …… 土師器
写真図版26 …… 土師器
写真図版27 …… 土師器
写真図版28 …… 土師器
写真図版29 …… 土師器
写真図版30 …… 土師器
写真図版31 …… 土師器
写真図版32 …… 灰釉陶器･山茶椀
写真図版33 …… 山茶椀
写真図版34 …… 施釉陶器
写真図版35 …… 施釉陶器
写真図版36 …… 陶器
写真図版37 …… 瓦質土器･磁器
写真図版38 …… 瓦
写真図版39 …… 瓦
写真図版40 …… 磚
写真図版41 …… 土製品
写真図版42 …… 石器･石製品
写真図版43 …… 木製品
写真図版44 …… 木製品
写真図版45 …… 木製品
写真図版46 …… 木製品
写真図版47 …… 木製品
写真図版48 …… 木製品･金属製品
写真図版49 ……堆積物中の珪藻化石の顕微鏡写真
…… 産出した花粉化石
写真図版50 …… 産出した植物珪酸体
写真図版51 ……写真１　資料№449内面
……写真２　№449内面の断面
……写真３　資料№449外面
……写真４　№449外面の断面
…… １．アカニシ？（№９）
写真図版52 …… 木製品顕微鏡写真
写真図版53 …… 木製品顕微鏡写真
写真図版54 …… 木製品顕微鏡写真
写真図版55 …… 木製品顕微鏡写真
写真図版56 …… 木製品顕微鏡写真
写真図版57 …… 木製品顕微鏡写真
写真図版58 …… 木製品顕微鏡写真
写真図版59 …… 木製品顕微鏡写真
写真図版60 …… 木製品顕微鏡写真
写真図版61 …… 木製品顕微鏡写真
写真図版62 …… 木製品顕微鏡写真
写真図版63 …… 木製品顕微鏡写真
写真図版64 …… 木製品顕微鏡写真
写真図版65 …… 木製品顕微鏡写真
写真図版66 …… 木製品顕微鏡写真
写真図版67 …… 木製品顕微鏡写真
写真図版68 …… 木製品顕微鏡写真
写真図版69 …… 木製品顕微鏡写真
写真図版70 …… 木製品顕微鏡写真
写真図版71 …… 木製品顕微鏡写真
写真図版72 …… 木製品顕微鏡写真
写真図版73 …… 木製品顕微鏡写真
写真図版74 …… 木製品顕微鏡写真
写真図版75 …… 木製品顕微鏡写真
写真図版76 …… 木製品顕微鏡写真
写真図版77 …… 木製品顕微鏡写真
写真図版78 …… 木製品顕微鏡写真
写真図版79 …… 木製品顕微鏡写真
写真図版80 …… 木製品顕微鏡写真
写真図版81 …… 木製品顕微鏡写真
写真図版82 …… 木製品顕微鏡写真
写真図版83 …… 木製品顕微鏡写真
写真図版84 …… 木製品顕微鏡写真
写真図版85 …… 木製品顕微鏡写真
写真図版86 …… 木製品顕微鏡写真
写真図版87 …… 木製品顕微鏡写真
写真図版88 …… 木製品顕微鏡写真

表　目　次

第１表　掘立柱建物一覧 …… 70
第２表　遺構一覧 …… 71～74
第３表　出土遺物観察表 …… 170～210
第４表　分析試料一覧 …… 211
第５表　珪藻化石の環境指標種群一覧 …… 212
第６表　堆積物中の珪藻化石産出表 …… 213
第７表　産出花粉胞子一覧 …… 215
第８表　試料１g当りのプラント
・オパール個数 … 217
第９表　貝殻同定結果 …… 220
第10表　調査資料 …… 221
第11表　漆器の断面観察結果 …… 221
第12表　樹種同定結果 …… 225～227

Ⅰ．前　　言

１．調査に至る経緯

櫛田川左岸に広がる広大な田園地帯を対象に高度水利機能確保基盤整備事業が計画されたが、対象地域には、堀町遺跡、四常遺跡、大角遺跡、朝見遺跡、中坪遺跡が周知されていた。このため当センターでは事業担当機関の三重県松阪農林事務所と当該地域の遺跡に関する保護措置を協議[①]した。平成 22 年度から開始された確認調査において、遺跡の包蔵が良好な範囲が明らかとなり、これらを極力保存する工法において事業の実施が図られた。しかし、どうしても保存が困難な範囲に限り、発掘調査を実施し記録による保存を行った。

中坪遺跡においても、記録による保存が必要な範囲が生じた[②]が、発掘調査は隣接する堀町遺跡・朝見遺跡と一体として事業の進捗に合わせて計画された。中坪遺跡では第１次調査として平成 25 年度に 1,955.6㎡、第２次調査として平成 26 年度に 1,100㎡が調査されている。その結果、鎌倉時代から室町時代の多数の井戸等が検出され、土師器の皿や鍋が多く出土[③]している。

２．調査の経過

今回の調査は、当該事業地域内の最終発掘調査となり、第３次調査として平成 29 年度に 3,775㎡を、残る 64㎡については平成 30 年度に第４次調査として工事立会で実施した。なお、今回の調査では、田面地下深くで保存が可能な一部の井戸や溝等については掘削を途中で止め、現地保存としている。

調査区は事業地内に点在するため､最北部を１区、以後南へ向けて９区まで区称を与えた。その内、５区は第１次調査Ａ区に北接し、８区は第２次調査区東側に隣接する。また、２ヶ所に分かれる４区は第４次調査の対象区である。

第３次調査は北方の１区及び２区を並行するかたちで開始し、３区、９区、７区、８区、５区の順に進み、最後に６区を行った。しかし、各区毎に調査進捗が異なるため３区以上の並行作業を余儀なくされた日もあった。検出された遺構や出土した遺物は、後述するとおりである。

３．文化財保護法に関する諸手続き

（１）県文化財保護条例第 48 条第１項

平成 22 年９月９日付　松農環第 4236 － １号
（県教育長あて県知事通知）
「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等の発掘通知書」

（２）県文化財保護条例第 48 条第２項

平成 22 年９月 13 日付　教委第 12 － 4075 号
（県知事あて県教育委員会教育長通知）
「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事について」（朝見遺跡、堀町遺跡、大角遺跡、中坪遺跡、四常遺跡）

（３）文化財保護法第 99 条第１項

・平成 29 年７月３日付　教埋第 117 号
（県教育長あて県埋蔵文化財センター所長報告）
「埋蔵文化財発掘調査の報告について」
・平成 29 年７月 14 日付　教委第 12 － 4314 号
（県埋蔵文化財センター所長あて県教育長通知）
「埋蔵文化財発掘調査の報告について」

（４）文化財保護法第 100 条第２項

・平成 30 年２月 20 日付　教委第 12 － 4423 号
（松阪警察署長あて県教育委員会教育長通知）
「埋蔵文化財の発見について」
・平成 31 年２月 12 日付　教委第 12 － 4426 号
（松阪警察署長あて県教育委員会教育長通知）
「埋蔵文化財の発見について」

［註］

① 三重県埋蔵文化財センター『朝見遺跡（第１・２次）発掘調査報告』2014 年 10 月

② 三重県埋蔵文化財センター『中坪遺跡（第１次）発掘調査報告』2017 年３月

③ ・ 前掲②に同じ
・ 三重県埋蔵文化財センター『中坪遺跡（第２次）発掘調査報告』2018 年３月

Ⅱ．位置と環境

中坪遺跡（１）が所在する松阪市立田町は、伊勢平野の大河、櫛田川によって形成された沖積平野に位置する。広大な田園風景が広がり、若干の微高地に農村集落が点在する景観を呈している。

明治８年の合併までは立利村と称され、中世の売券や古文書に「たてり」や「立利」といった人名や地名がみられる[①]。また、中世には伊勢街道が当地を横断していたとされ、文久元年の『神三郡分境堺之図』にも朝田から立利を経由し清水・櫛田へ向かう街道（２）が描かれている[②]。櫛田川右岸の史跡斎宮跡（３）へ向かう古代官道（４）や近世伊勢街道（５）は南方の丘陵ちかくに想定されているものの、当地は中世から近世に至るまで東西交通の要衝であったようである。

立田町は古代には飯野郡に属し、「神三郡」と呼ばれる伊勢神宮の影響が強い地域であった。集落内には、『勢国見聞集』に「飯南郡穴師神社式内立田村に座す」と記される[③]式内穴師神社（６）が鎮座し、神明造の社殿を構えている。また、西に約 700 ｍには「朝田の地蔵さん」として広く信仰を集める朝田寺（７）がある。弘法大師の伊勢参宮の際に当地の練君長者の本願により弘法大師が創建したと伝わり、本尊はその際に彫り上げたとされる[④]。一木造で、地蔵菩薩としては最古の様式を示し、重要文化財に指定されている。周囲の水田には条里地割が良好に残っており、その方向は古代官道に一致している。当遺跡名の「中坪」も条里に由来するものかも知れない。

中世にはいると北畠氏の神三郡への影響が強くなり[⑤]、南北朝の争乱時には延元二年（1337）に北畠親房の御教書書を受けて潮田刑部左衛門尉幹景が神山城（８）に立て籠もったとされる。その神山城は中坪遺跡の南方 4.5㎞の丘陵頂部に所在する。山麓を櫛田川が削る標高 300 ｍほどの丘陵で、頂部には聖徳太子創建と伝える一条寺があり、その西方に複数の平坦面や堀が確認されている[⑥]。塩田氏等が北朝の高師秋等の軍勢と立利畷で激しい戦闘を行ったと伝えられ[⑦]、中坪遺跡周辺が交通の要衝であったことを裏付けている。さらに、一条寺境内には仁木義長の墓と伝えられる石塔もある。神山の南麓の独立した小丘陵には尾岳館跡（９）があり土塁が残っている[⑧]。櫛田川対岸の丘陵にも北畠氏一族の居住により岩内御所と称される[⑨]岩内城跡(10)がある。この様に、南部の丘陵上には中世城館が散在する状況にある。

一方、中坪遺跡周辺の沖積平野では城館跡がみられず、はるか北東の海岸沿いに北畠教具の隠居城とされる大淀城跡が伝えられるに過ぎない。しかし、中の坊遺跡（11）では条里方向に沿う直角に曲がる堀状の溝を検出しており、有力者の屋敷を想定している[⑩]。また、朝見遺跡（12）でも第６次調査 11 区で「コ」の字状に巡る堀状の溝を確認しており[⑪]、沖積平野においても城館が埋没している可能性を示唆している。

近年、中坪遺跡周辺では、当地域を南北に貫く松阪多気バイパスの建設に伴い堀町遺跡（13）が、農業関連事業に伴い堀町遺跡、朝見遺跡等の発掘調査が相次ぎ、奈良時代から中世にかけての集落等の一端や、沖積平野における縄文時代遺構の検出等、当地域の様相が明らかになりつつある[⑫]。

〔註〕

① 平松令三監修『日本歴史地名大系 第二十四巻 三重県の地名』株式会社平凡社 1983 年 5 月 20 日

② 松阪市史編さん委員会『松阪市史 別巻 1 松阪地図集成』畠山滋 1983 年 6 月 10 日

③ 松阪市史編さん委員会『松阪市史 第八巻 史料篇 地誌（1)』畠山滋 1979 年 9 月 25 日

④ 前掲①に同じ

⑤ 小林秀「中世後期南伊勢の鋳物師について」『Mie history vol2』三重歴史文化研究会 1990.11
または小林秀「伊勢国司北畠氏の神三郡支配に関する一試論」『史叢 38 号』

⑥ 奥義次「神山城」『三重の中世城館』三重県教育委員会 昭和 52 年 1 月 11 日

⑦ 「角川日本地名大辞典」編纂委員会『角川日本地名大辞典 24 三重県』株式会社角川書店　昭和 58 年 6 月 8 日

⑧　奥義次「尾タケ館」『三重の中世城館』三重県教育委員会 昭和 52 年 1 月 11 日

⑨　新人物往来社『日本城郭大系 10 三重・奈良・和歌山』1980 年

⑩　伊藤裕之ほか『中の坊遺跡』三重県埋蔵文化財センター 1997（平成 9 年）年 3 月

⑪　三重県埋蔵文化財センター『朝見遺跡（第 3･4･6 次）発掘調査報告』2020（令和 2）年 3 月

⑫　前掲⑪の他に

・　三重県埋蔵文化財センター『一般国道 42 号松阪・多気バイパス建設地内埋蔵文化財発掘調査報告Ⅶ 堀町遺跡』2000.3

・　三重県埋蔵文化財センター『朝見遺跡（第 1･2 次）発掘調査報告』2014（平成 26）年 10 月

・　三重県埋蔵文化財センター『堀町遺跡（第 5 次）発掘調査報告』2016（平成 28）年 3 月

・　三重県埋蔵文化財センター『堀町遺跡（第 6･7 次）発掘調査報告』2018（平成 30）年 3 月

等がある。

第 1 図　遺跡位置図（1:50,000）［国土地理院「松阪」1:50,000 より］

第２図　遺跡地形図（1：5,000）

第３図 調査区位置図（1：2,000）

Ⅲ. 遺　構

縄文時代から近世に至る各時期の遺構を検出しているが、その大部分は室町時代のものである。これまでの第１次・第２次調査結果と同様に、井戸または井戸状の土坑が目立つ傾向に変化はない。

１．縄文時代の遺構

明確にこの時期とできるものはないが、８区及び７区の東部で若干の遺物が出土している。８区では検出面下に縄文土器を含む層を確認しているが、遺構の検出には至っていない。７区東部に集中する土坑群は大半が無遺物であるが、少量の縄文土器が出土するものが若干ある。出土したものはいずれも小片で、時期決定に苦しむが、中期後半から後期のものである。

（１）土坑

ＳＫ３７０１６・３７０１７　両者とも７区東部で検出した。ＳＫ 37017 は直径 0.8 ～ 1.2 ｍの不整楕円形を呈するが、それより規模の小さい複数土坑の集合体のようである。深さは検出面から 20 ～ 30cm で、前述の状況を反映して一様でない。壁は袋状にはならず、比較的緩やかである。縄文土器の小片が複数出土している。

ＳＫ 37016 は、ＳＫ 37017 の東方１ｍに所在する。形状はＳＫ 37017 と類似し、縄文土器の小片が出土しているが、土師器の小片もある。ＳＫ 37020 を含め近隣に同様な遺構が集中するため、土師器片は混入とし、縄文時代の土坑としておく。

ＳＫ３７０２０（第 26 図）　７区東部の調査区南端で検出した。同時期のＳＫ 37016･37017 と近接し、両者と同様な土坑群のようにもみえる。一方、深さは検出面から 30cm 程度、底部は比較的平坦で竪穴住居の隅を検出している可能性もある。埋土の主体は複数土色が混じった状態で、人為的に埋め戻したものかも知れない。複数の縄文土器小片が出土している。

（２）溝

ＳＤ３８０２９（第 37 図）　８区南東端ちかくで検出した南北に延びる溝である。幅 60cm、検出面からの深さ 15cm 程度である。縄文土器の小片が出土したに止まり、この時期とする根拠に乏しい。検出時点では重複する全ての遺構に先行していたが、土層観察の結果は鎌倉時代のＳＫ 38019 より後出という結果になった。このように錯綜しているが、20ｍ北方の７区にはこの時期の遺構が検出されていることもあり、一応この時期としておく。

２．弥生時代終末～古墳時代初頭の遺構

若干の遺構を検出したが、自然流水路と思われるものが多い。その他のものは、時期決定の根拠が薄弱である。

（１）土坑

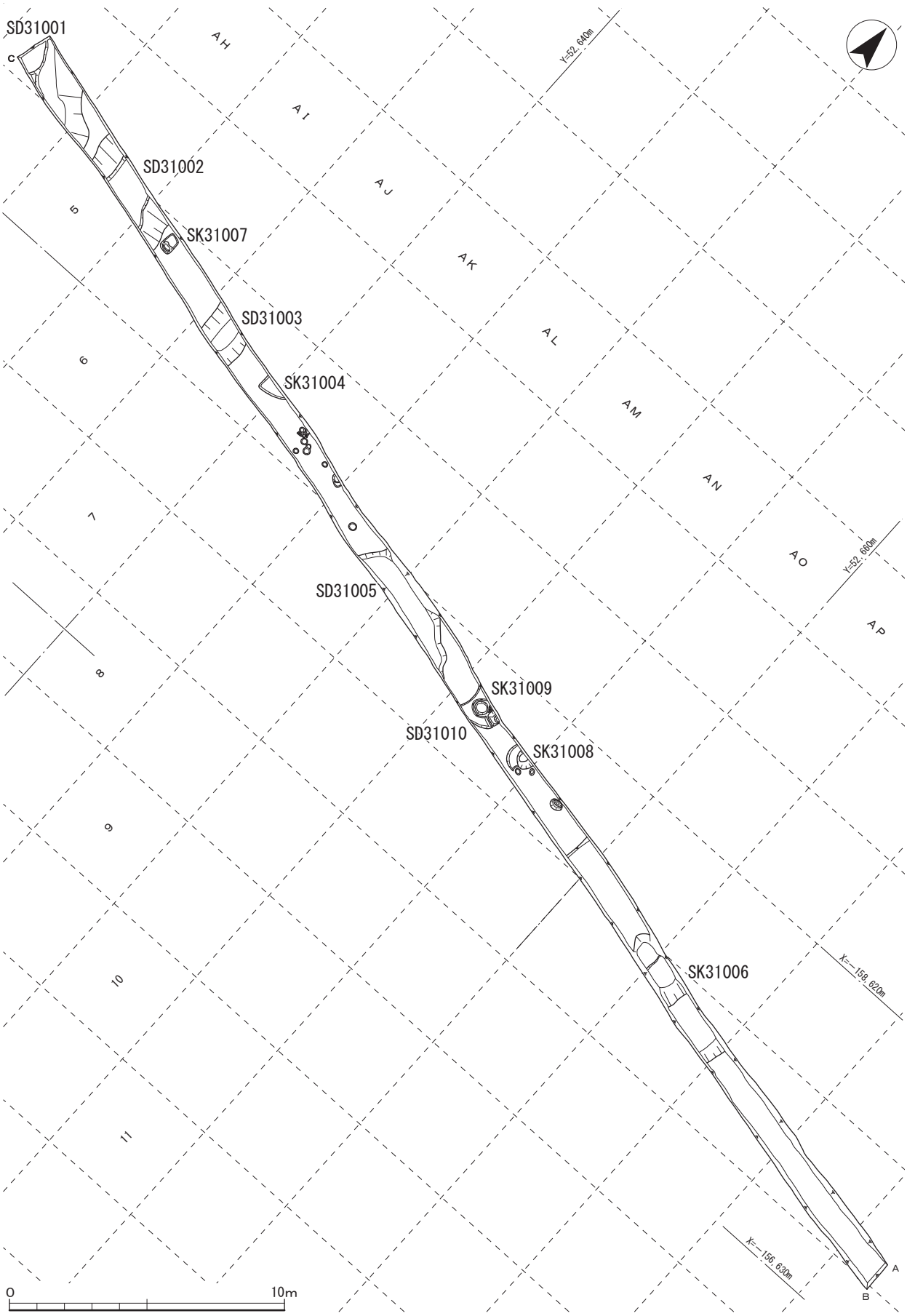
ＳＫ３８００９　８区南部で検出した。直径１ｍの円形を呈し、深さは検出面から 20cm 足らずである。近隣には若干規模が異なるものの室町時代の土坑が多数あり、これと同時期としたいところである。しかし、壺の体部片と思われる小片が出土しており、根拠は薄弱なものの、この時期としておく。

（２）溝

ＳＤ３１００２（第５図）　１区西部で検出した溝である。幅４ｍ、検出面からの深さは 70㎝程度で幅に対して比較的浅いものである。埋土は概ね上下に分かれ、下半は礫または砂が多く、流水が豊富であったようである。上半は粘土質が主体となり溝幅も狭くなる。これらから埋没が進むにつれて流水が弱くなった様子が伺える。Ｓ字状口縁台付甕片や壺・高杯片が出土しているが、環濠とするには溝壁が緩やかなことから、自然流水路の可能性が高いものとしておく。

ＳＤ３２０１４（第７図）　２区北西端ちかくで検出した溝である。幅 2.6 ｍ、検出面からの深さは 50㎝程度で幅に対して比較的浅いものである。このため壁の傾斜は非常に緩やかであるが、中央部の幅 30㎝ほどは 10㎝ほど垂直に落ちる。埋土各層とも砂を含み、流路であったようである。

ただし、土層観察結果は鎌倉時代のＳＤ 32013 を覆う層の上位から切り込んでおり、矛盾を生じてい



第４図　１区平面図（1：200）

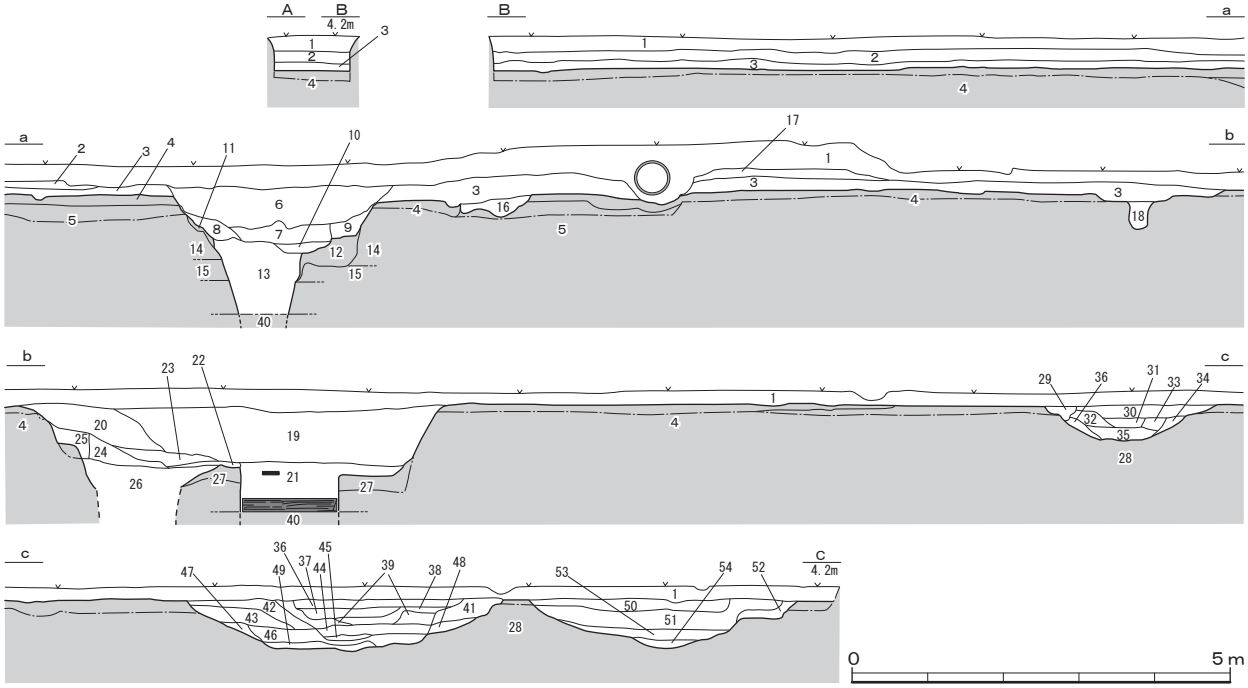
る。ヘラミガキ調整された壺片のみが出土しているため、この時期としておくが、最下層のみがこの時期の可能性もある。その場合は幅50cm、深さ10cm程度の小規模なものとなる。

ＳＤ３２０２０　２区北部で検出した東西に延びる溝としたが、幅2.8ｍに対し、深さは10cm程度しかなく、遺構とするに疑問のあるものである。

ＳＲ３８０３３・ＳＤ３８０９０（第27･28･30図）

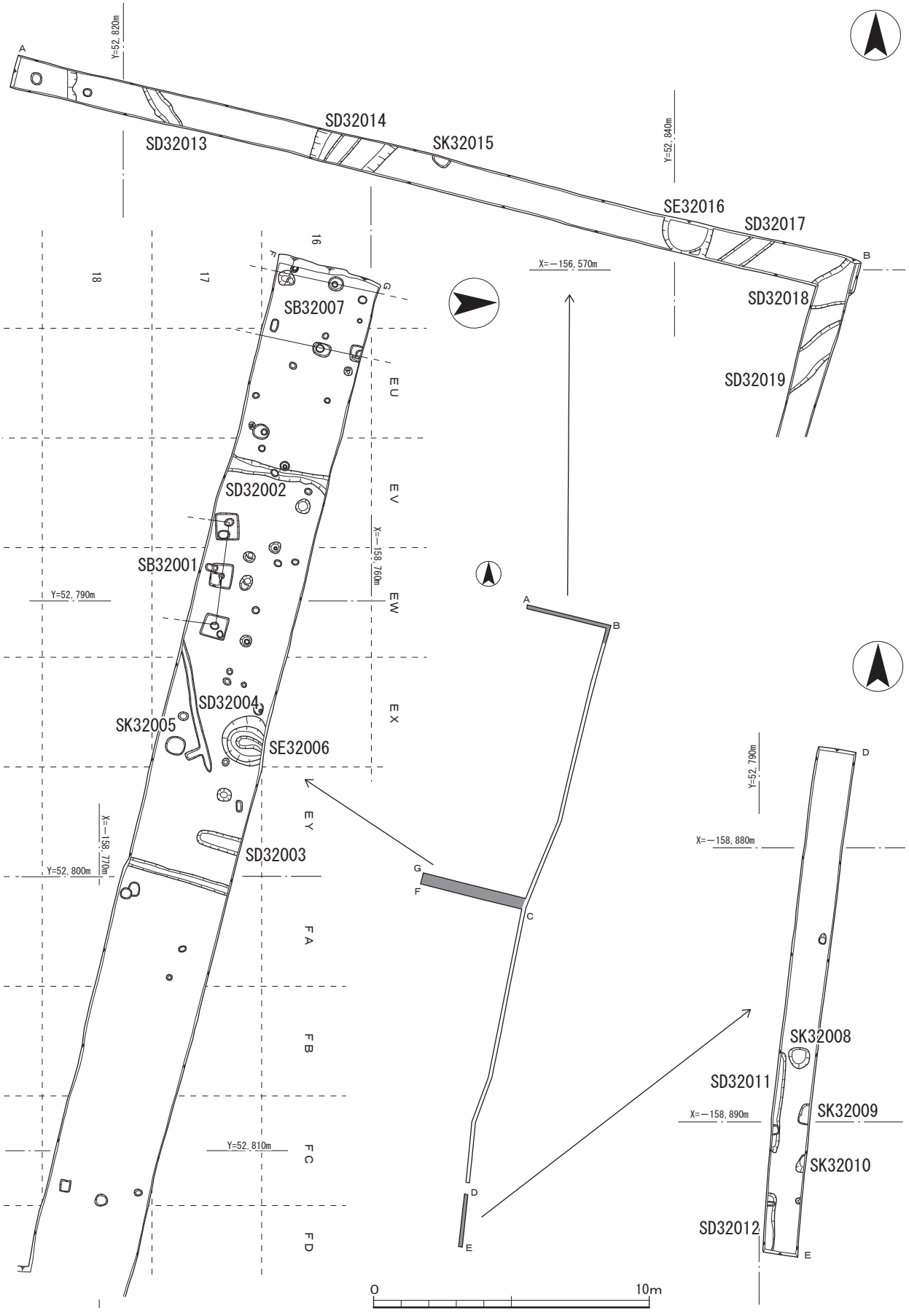
ＳＲ38033は８区南東部を南東から北西方向へ直線的に延びる。幅２ｍを測るが、検出面からの深さは30cm程度で幅に比べ浅いものである。埋土は砂を中心としており、このような状況から自然流水路と判断した。出土遺物は少なく時期決定の決め手を欠くが、古式土師器の壺の小片が出土していることからこの時期とした。ただし、土層観察では室町時代のＳＤ38032より後出の結果となり矛盾を生じている。

ＳＲ38033の北西側の延長上にＳＤ38090が位置する。この付近は、中世以降の溝が交わり、検出や掘削が交錯した状況にあったが、形状や埋土が酷似



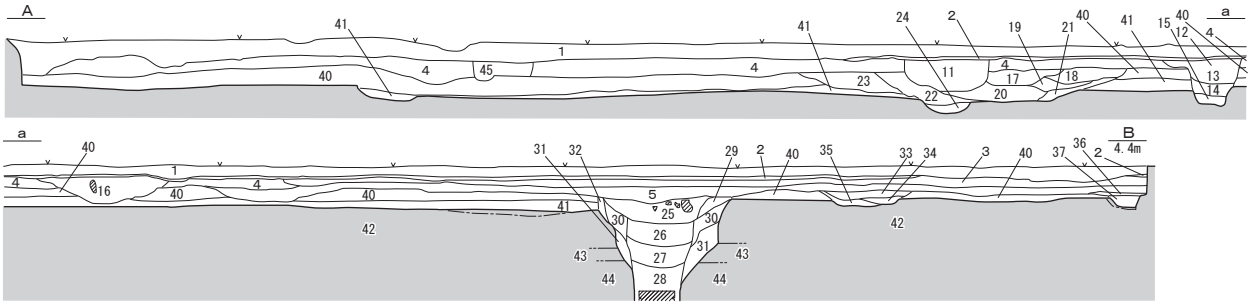
1 表土
2 2.5Y5/3 黄褐色シルト＜床土＞
3 2.5Y4/2 暗灰黄色粘土＜包含層＞
4 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト（鉄分若干含）＜検出面＞
5 2.5Y8/4 淡黄色粘土
6 2.5Y5/3 黄褐色シルト（2.5Y6/4鈍い黄色シルト塊含）＜SK31006埋土＞
7 2.5Y7/6 明黄褐色粘土＜SK31006埋土＞
8 2.5Y4/4 オリーブ褐色粘土（鉄分若干含）＜SK31006埋土＞
9 2.5Y8/6 黄色粘質土　（2.5Y6/1 黄灰色粘質土含）＜SK31006埋土＞
10 2.5Y6/1 黄灰色土（礫岩）＜SK31006埋土＞
11 5Y8/8 黄色粘土
12 2.5Y4/1 黄灰色中砂（礫含）
13 5Y4/1 灰色粘土＜SK31006埋土＞
14 2.5Y6/4 にぶい黄色粘土
15 5B6/1 青灰色砂礫
16 2.5Y7/1 灰白色粘質土
17 2.5Y5/3 黄褐色シルト（礫含）＜道路用盛土＞
18 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト（鉄分含）＜SD31010埋土＞
19 10YR4/3 鈍い黄褐色シルト（10YR5/6黄褐色シルト塊含）
＜SD31005（井戸1）埋土＞
20 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト（2.5Y6/4鈍い黄色シルト塊含）
＜SD31005（井戸1）埋土＞
21 2.5Y3/1 黒褐色粘土（10Y5/1黄灰色粘土塊含）＜SD31005（井戸1）埋土＞
22 10Y6/1 灰色粘土＜SD31005（井戸1）埋土＞
23 5Y5/3 灰オリーブ色極細粒砂（下層に鉄分沈着）
＜SD31005（井戸1）埋土＞
24 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト（黄色粘土塊・礫含）
＜SD31005（井戸2）埋土＞
25 2.5Y4/1 黄灰色シルト＜SD31005（井戸2）埋土＞
26 10Y4/1 灰色粘土＜SD31005（井戸2）埋土＞
27 10Y5/1 灰色粘土
28 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト（マンガン・縄文土器片含）＜検出面＞
29 2.5Y5/3 黄褐色細砂（砂粒含）＜SD31003埋土＞
30 2.5Y5/3 黄褐色シルト（小礫若干含）＜SD31003埋土＞
31 10YR3/3 暗褐色細砂（砂粒含）＜SD31003埋土＞
32 2.5Y6/2 灰黄色シルト（砂粒若干含）＜SD31003埋土＞
33 2.5Y6/3 鈍い黄色シルト（砂粒若干含）＜SD31003埋土＞
34 2.5Y5/2 暗灰黄色極細粒砂＜SD31003埋土＞
35 2.5Y6/4 鈍い黄色シルト＜SD31003埋土＞
36 2.5Y5/3 黄褐色シルト（10YR4/3 細砂塊含）＜SD31002・31003埋土＞
37 10YR4/3 鈍い黄褐色細砂＜SD31002埋土＞
38 2.5Y6/3 鈍い黄色シルト＜SD31002埋土＞
39 2.5Y6/2 灰黄色シルト＜SD31002埋土＞
40 礫
41 2.5Y5/3 黄褐色シルト（マンガン若干含）＜SD31002埋土＞
42 2.5Y5/3 黄褐色シルト＜SD31002埋土＞
43 10YR4/3 にぶい黄褐色混礫土＜SD31002埋土＞
44 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土（細礫含）＜SD31002埋土＞
45 7.5Y5/1 灰色中砂＜SD31002埋土＞
46 白色系礫（2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト含）＜SD31002埋土＞
47 2.5Y4/6 オリーブ褐色シルト（礫含）＜SD31002埋土＞
48 5Y5/2 灰オリーブ色細砂＜SD31002埋土＞
49 2.5Y5/3 黄褐色細砂＜SD31002埋土＞
50 10YR4/4 褐色シルト（マンガン含、礫若干含）＜SD31001埋土＞
51 2.5Y5/3 黄褐色シルト（マンガン含、礫若干含）＜SD31001埋土＞
52 2.5Y5/4 黄褐色シルト（礫若干含）＜SD31001埋土＞
53 2.5Y5/2 灰黄褐色シルト（2.5Y5/6黄褐色シルト含）＜SD31001埋土＞
54 2.5Y5/1 黄灰色シルト＜SD31001埋土＞

第５図　１区土層断面図（1：100）

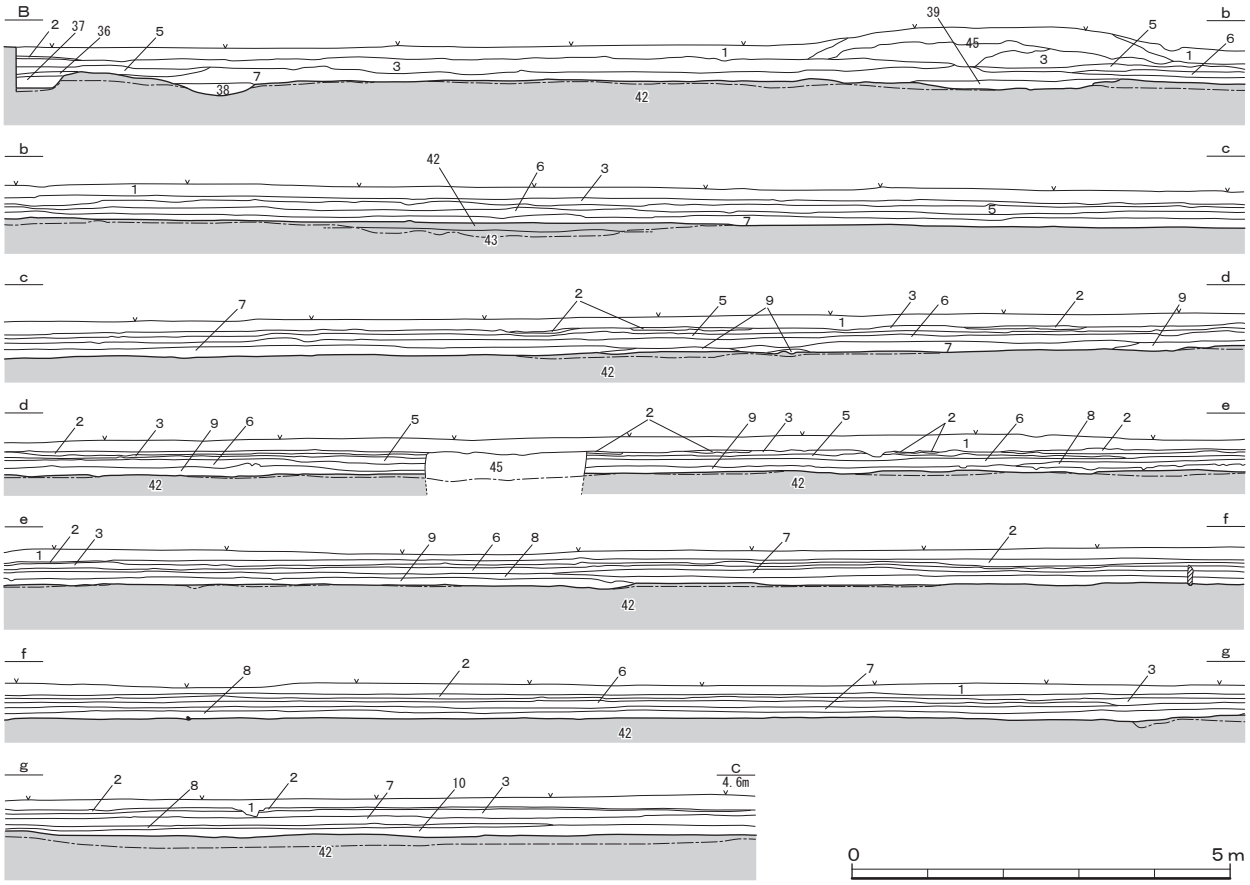


第６図　２区平面図（1：200）

北壁



東壁



1 耕作土
2 10YR5/6黄褐色極細～中粒砂（マンガン塊含）＜床土＞
3 10YR5/2灰黄褐色極細～中粒砂（マンガン塊含）＜旧耕作土＞
4 2.5Y5/2暗灰黄色極細～中粒砂と10Y4/6シルト
～極細粒砂の混成土（2～5㎜の礫含）
5 10YR4/2灰黄褐色シルト～極細粒砂（マンガン塊含）
6 10YR5/4にぶい黄褐色シルト～細粒砂＜包含層＞
7 10YR4/3鈍い黄褐色シルト～極細粒砂（黒褐色シルト塊含）
8 2.5Y7/4浅黄色シルト～極細粒砂（オリーブ褐色粘土粒含）＜包含層＞
9 2.5Y4/2暗灰色シルト～極細粒砂（明黄褐色シルト塊含）
10 2.5Y7／2灰黄色シルト＜包含層＞
11 5Y7/4浅黄色シルトと5Y5/3灰オリーブ色細粒砂の混成土（陶磁器含）
12 10YR7/2にぶい黄褐色極細粒砂と2.5Y4/6褐色極細粒砂
の混成土（礫含）＜SK32015埋土＞
13 2.5Y6/2灰黄色極細粒砂と10YR5/4にぶい黄褐色シルト
の混成土＜SK32015埋土＞
14 2.5Y5/2暗灰黄色細粒砂と10YR4/6褐色極細粒砂の混成土＜SK32015埋土＞
15 2.5Y5/3黄褐色シルト～極細粒砂＜SK32015埋土＞
16 2.5Y6/2灰黄色極細粒砂と10YR4/3にぶい黄褐色シルトの混成土
17 2.5Y5/3黄褐色～粗砂（0.2～1㎝の礫多含）＜SD32014埋土＞
18 2.5Y6/2灰黄色シルトと2.5Y4/6オリーブ褐色極細～中粒砂
の混成土＜SD32014埋土＞
19 2.5Y6/1黄褐色極細～細粒砂と2.5Y4/4オリーブ褐色細
～粗砂の混成土＜SD32014埋土＞
20 2.5Y5/4黄褐色極細～粗砂（0.2～1㎝の礫含）＜SD32014埋土＞
21 2.5Y4/2暗灰褐色極細～中粒砂（0.2～1㎝の礫混）＜SD32014埋土＞
22 2.5Y5/2暗灰褐色細粒砂と2.5Y4/3にぶい黄褐色極細粒砂
の混成土（マンガン塊含）＜SD32014埋土＞
23 10YR6/2灰黄褐色極細粒砂と2.5Y4/6褐色極細粒砂
の混成土＜SD32014埋土＞
24 2.5Y4/2暗灰黄色細～中粒砂と10YR5/3にぶい黄褐色シルト
の混成土＜SD32014埋土＞
25 2.5Y4/2暗灰黄色シルト
～極細粒砂（2.5Y5/6黄褐色極細粒砂塊含）＜SE32016埋土＞
26 2.5Y5/2暗灰黄色シルト～極細粒砂（明黄褐色粘土塊）＜SE32016埋土＞
27 7.5Y4/1灰色シルト＜SE32016埋土＞
28 7.5Y5/1灰色極細粒砂（曲物出土層）＜SE32016埋土＞
29 2.5Y6/3にぶい黄色極細粒砂と2.5Y4/4褐色極細粒砂
の混成土＜SE32016埋土＞
30 2.5Y6/2灰黄色極細粒砂と2.5Y4/6オリーブ褐色土の混成土＜SE32016埋土＞
31 5Y5/1灰色粘土と2.5Y5/6黄褐色粘土～シルト塊(径5㎝程)
の混成土＜SE32016埋土＞
32 2.5Y7/4浅黄色シルト～極細粒砂＜SE32016埋土＞
33 2.5Y5/2暗灰黄色シルト～極細粒砂と2.5Y4/3オリーブ褐色シルト
の混成土＜SD32017埋土＞
34 2.5Y6/3にぶい黄色シルトと2.5Y4/3オリーブ褐色シルト
の混成土＜SD32017埋土＞
35 2.5Y4/2暗灰黄色シルトと2.5Y4/6オリーブ褐色シルト
の混成土＜SD32017埋土＞
36 7.5YR4/2灰褐色極細粒砂～シルト＜SD32018埋土＞
37 10YR4/1褐灰色極細粒砂～シルト（マンガン含）＜SD32018埋土＞
38 10YR3/3暗褐色シルト～極細粒砂（マンガン含）＜SD32019埋土＞
39 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト～粘土＜SD32020埋土＞
40 2.5Y6/8明黄褐色シルト～粘土（黄褐色粘土塊含）
41 2.5Y3/3暗オリーブ褐色粘土（褐色粘土粒塊含）＜SD32013埋土・包含層＞
42 2.5Y7/6明黄褐色シルト～粘土（マンガン塊含）＜検出面＞
43 7.5Y5/2灰オリーブシルト
44 7.5Y6/2灰オリーブ色極細砂
45 2.5Y6/2灰黄色シルトと10YR5/6黄褐色極細粒砂
の混成土（礫含）＜客土・攪乱層＞

第７図　２区北壁・東壁土層断面図（1：100）

することから、土師器皿の小片出土しているもののＳＲ 38033 と一連のものとした。

さらに北西に延長すると第２次調査のＳＤ 2071 がある。時期は古代以前と報告[①]されており、一連のものとするに矛盾はない。また 10 ｍ北側を並走する同様な溝ＳＤ 38076 からもこの時期の高杯が出土している。以上から、室町時代に下る可能性を残しつつ、この時期とした。

ＳＤ３８０７６・３８１００（第 27 図） ＳＤ 38076 は８区中央部を東西に延びる溝である。幅は 1.8 ｍ程度、検出面からの深さは 40cm の浅いものである。埋土は砂を中心とし、この時期の高杯が出土している。10 ｍ南側に前述したＳＤ 38090 があり、形状が似ることもあり、これも自然流水路と考えられる。

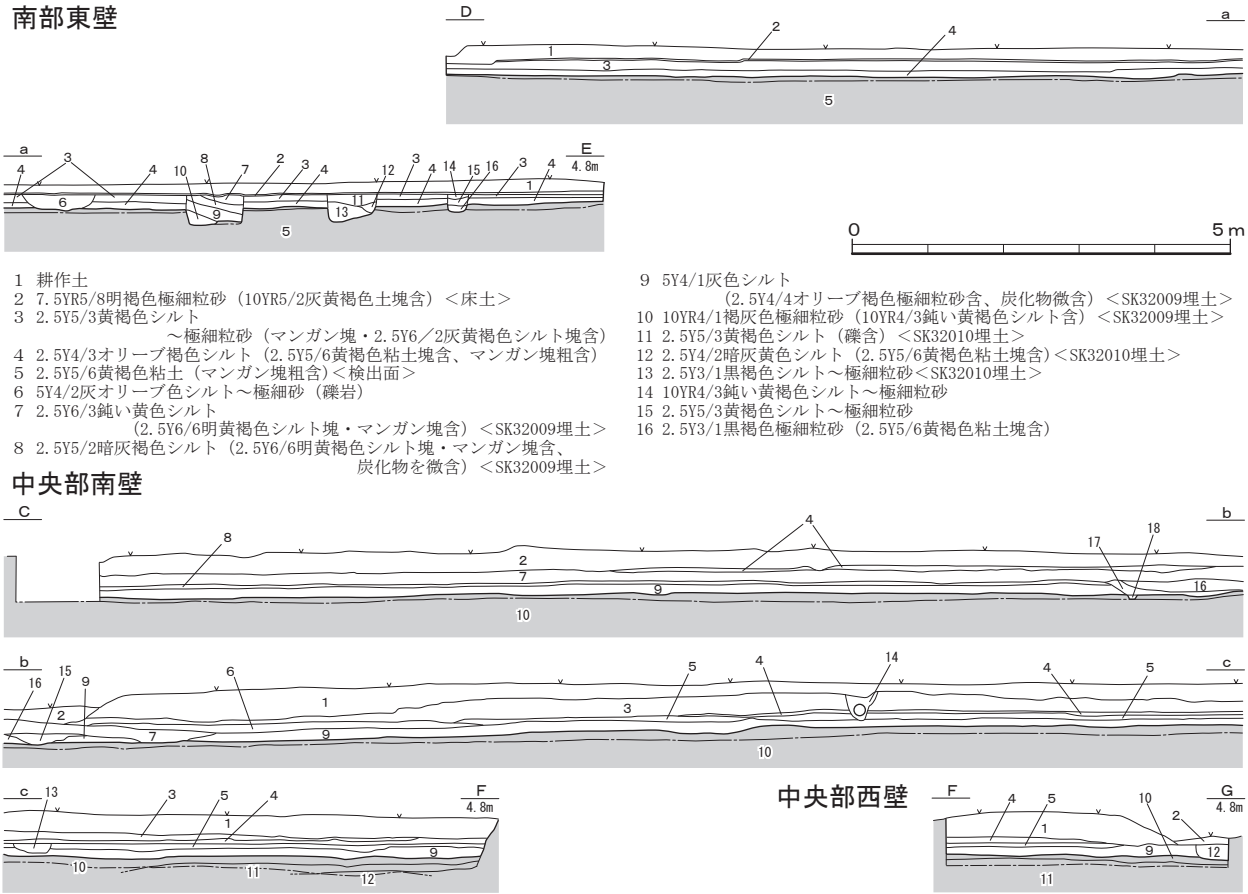
ＳＤ 38100 はＳＤ 38076 の南側に接するように並走する。出土遺物はないものの同様な状況から、この流路の一時期の分流に想定した。

３．奈良時代の遺構

この時期の遺構は、多くが調査区北部の１区・２区に集中して分布する。水利施設を伴うＳＲ 39016 は、他から離れた調査区南西端の９区から検出されている。

（１）掘立柱建物

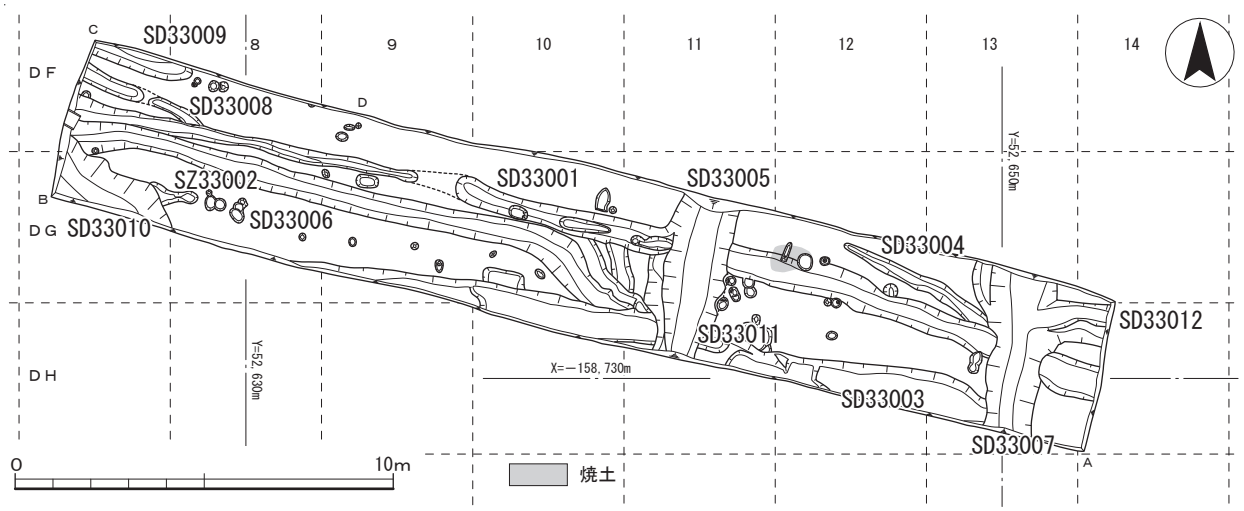
ＳＢ３２００７（第 31 図） ２区中央部西端で検出した。柱間 1.5 ｍの南北棟を想定したが、検出できない柱穴もあることに加え、柱掘形の形状も統一を欠く。このため建物とするに疑問が多いが、その



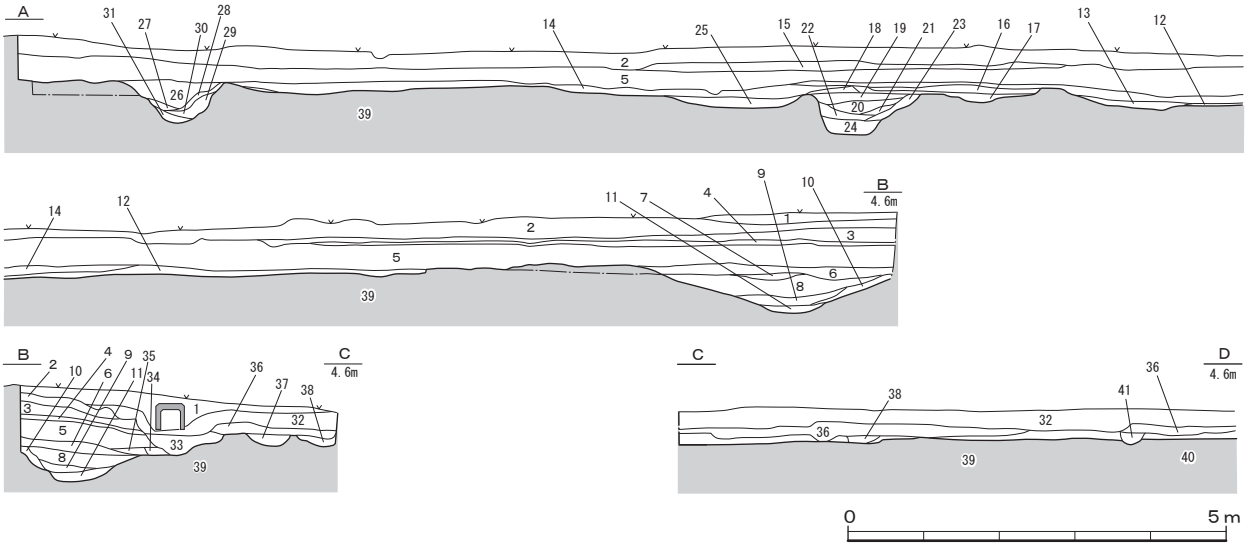
1 耕作土
2 7.5YR5/8明褐色極細粒砂（10YR5/2灰黄褐色土塊含）＜床土＞
3 2.5Y5/3黄褐色シルト
～極細粒砂（マンガン塊・2.5Y6／2灰黄褐色シルト塊含）
4 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト（2.5Y5/6黄褐色粘土塊含、マンガン塊粗含）
5 2.5Y5/6黄褐色粘土（マンガン塊粗含）＜検出面＞
6 5Y4/2灰オリーブ色シルト～極細砂（礫岩）
7 2.5Y6/3鈍い黄色シルト
（2.5Y6/6明黄褐色シルト塊・マンガン塊含）＜SK32009埋土＞
8 2.5Y5/2暗灰褐色シルト（2.5Y6/6明黄褐色シルト塊・マンガン塊含、
炭化物を微含）＜SK32009埋土＞
9 5Y4/1灰色シルト
（2.5Y4/4オリーブ褐色極細粒砂含、炭化物微含）＜SK32009埋土＞
10 10YR4/1褐灰色極細粒砂（10YR4/3鈍い黄褐色シルト含）＜SK32009埋土＞
11 2.5Y5/3黄褐色シルト（礫含）＜SK32010埋土＞
12 2.5Y4/2暗灰黄色シルト（2.5Y5/6黄褐色粘土塊含）＜SK32010埋土＞
13 2.5Y3/1黒褐色シルト～極細粒砂＜SK32010埋土＞
14 10YR4/3鈍い黄褐色シルト～極細粒砂
15 2.5Y5/3黄褐色シルト～極細粒砂
16 2.5Y3/1黒褐色極細粒砂（2.5Y5/6黄褐色粘土塊含）

1 客土＜農道＞
2 2.5Y4/2暗灰色シルト～極細粒砂（礫含）＜耕作土＞
3 2.5Y5/3黄褐色シルト～極細粒砂
（2.5Y4/4オリーブ褐色シルト塊・礫含）＜客土＞
4 10YR4/6褐色シルト～極細粒砂
（2.5Y5/3黄褐色シルト～極細粒砂塊含）＜床土＞
5 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト～極細粒砂（2.5Y3/3暗オリーブ褐色粘土粒含）
6 2.5Y5/4黄褐色シルト～極細粒砂（10YR4/4褐色シルト塊含）
7 2.5Y4/2暗灰褐色シルト～極細粒砂（10YR4/4褐色シルト塊）
8 10YR4/3鈍い黄褐色シルト～極細粒砂＜旧床土＞
9 2.5Y5/6黄褐色シルト～極細粒砂
（2.5Y5/2暗灰黄色シルト塊・2.5Y3/3暗オリーブ褐色粘土粒含）
10 2.5Y4/4オリーブ褐色シルト～極細粒砂
（2.5Y5/2暗灰黄色シルトが縦筋状に上層から入る、
2.5Y3/3暗オリーブ褐色粘土粒含）＜検出面＞
11 2.5Y4/4オリーブ褐色シルト～極細粒砂（10YR4/3鈍い黄褐色シルト塊含）
12 2.5Y4/4オリーブ褐色シルト～極細粒砂
13 2.5Y3/2黒褐色シルト～極細粒砂（近世遺物含）
14 10YR4/2灰黄褐色シルト～極細粒砂＜撹乱層＞
15 2.5Y4/1黄褐色シルト～極細粒砂
16 2.5Y6/2灰黄色シルト（10YR4/3鈍い黄褐色シルト塊含）
17 2.5Y5/1黄灰色シルト～極細粒砂（10Y4/6オリーブ褐色シルト塊含）
18 5Y4/１灰色シルト～極細粒砂

第８図　２区南部東壁・中央部南壁・中央部西壁土層断面図（1：100）



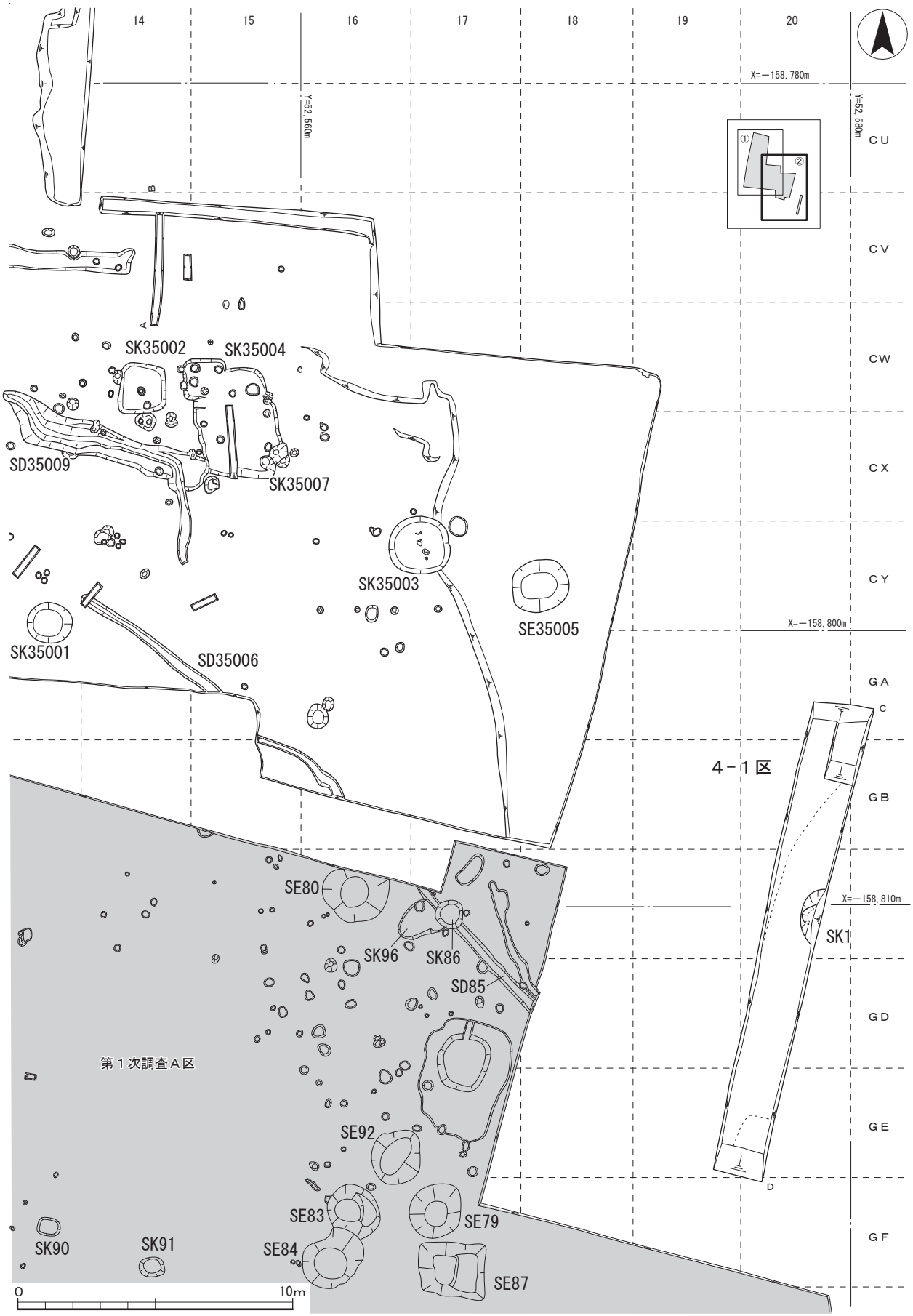
第９図　３区平面図（1：200）



1 2.5Y4/2暗灰黄色シルト（礫含）＜道路敷＞
2 2.5Y5/3黄褐色シルト＜耕作土＞
3 2.5Y5/4黄褐色シルト（マンガン含）＜床土＞
4 2.5Y5/6暗灰黄色シルト（2.5Y5/4黄褐色シルト含）
5 2.5Y5/2暗灰黄色シルト
（10YR3/3暗褐色シルト塊・2.5Y5/4黄褐色シルト塊含）
6 2.5Y5/3黄褐色細砂＜SD33010埋土＞
7 2.5Y5/2暗灰褐色シルト（5Y5/2灰オリーブ色中砂含）＜SD33010埋土＞
8 5Y5/2灰オリーブ色中砂（鉄分含）＜SD33010埋土＞
9 5Y5/3灰オリーブ色細砂＜SD33010埋土＞
10 5Y5/2灰オリーブ色細砂（鉄分含）＜SD33010埋土＞
11 7.5Y5/1灰色細砂＜SD33010埋土＞
12 2.5Y5/2暗灰黄色シルト＜SD33003埋土＞
13 2.5Y5/3黄褐色シルト（2.5Y6/4にぶい黄色シルト塊含）＜SD33003埋土＞
14 2.5Y5/3黄褐色シルト（マンガン含）＜SD33003埋土＞
15 2.5Y6/4鈍い黄色シルト＜床土＞
16 5Y5/2灰オリーブ色細砂（鉄分含）＜SD33003埋土＞
17 5Y5/2灰オリーブ色シルト＜SD33003埋土＞
18 2.5Y5/3黄褐色シルト～細砂（鉄分若干含）＜SD33003埋土＞
19 2.5Y5/3黄褐色シルト（鉄分含）＜SD33005埋土＞
20 2.5Y6/2灰黄色シルト（鉄分若干含）＜SD33005埋土＞
21 2.5Y5/2暗灰黄色シルト＜SD33005埋土＞
22 2.5Y5/2暗灰黄色細砂（鉄分含）＜SD33005埋土＞
23 2.5Y5/2暗灰黄色細砂～シルト（鉄分若干含）＜SD33005埋土＞
24 5Y5/1灰色粘土＜SD33005埋土＞
25 2.5Y5/3黄褐色シルト（2.5Y6/4鈍い黄色シルト塊含）＜SD33003埋土＞
26 2.5Y5/3黄褐色シルト（マンガン含）＜SD33007埋土＞
27 2.5Y4/2暗黄灰色シルト＜SD33007埋土＞
28 2.5Y5/3黄褐色細砂＜SD33007埋土＞
29 2.5Y6/2灰黄色シルト～細砂（鉄分含）＜SD33007埋土＞
30 2.5Y5/2暗黄灰色シルト～粘土（鉄分若干含）＜SD33007埋土＞
31 5Y5/1灰色シルト＜SD33007埋土＞
32 2.5Y6/2灰黄色シルト（マンガン若干含）＜撹乱＞
33 5Y5/2灰オリーブ色細砂（礫含）＜撹乱＞
34 2.5Y5/3黄褐色シルト＜SD33006埋土＞
35 2.5Y5/2暗灰黄色砂（鉄分含）＜SD33006埋土＞
36 2.5Y6/2灰黄色シルト（マンガン含）
37 2.5Y5/2暗灰黄色シルト＜SD33008埋土＞
38 2.5Y5/2暗灰黄色シルト（10YR5/2灰黄色シルト塊含）＜SD33009埋土＞
39 10YR4/2灰黄褐色シルト（マンガン含）＜検出面＞
40 2.5YR6/2灰黄色褐色シルト（マンガン含）＜検出面＞
41 2.5Y5/2暗灰黄色土

第10図　３区土層断面図（1：100）

第11図　５区平面図①（1：200）



第12図　５区平面図②、４－１区平面図（1：200）

可能性を提示するに止めるものである。柱掘形は直径50cmの円形または45～60cmの長方形を呈し、柱痕跡は直径30cmほどである。

柱穴の１基から土師器の粗製椀（20）がほぼ完形で出土した。椀は掘形から正立状態で出土しており、その端は柱痕跡に接している。立柱直後に埋納された可能性がある。

ＳＢ３７０１９（第31図）　７区東部で南側梁行のみを検出した。1.2ｍ等間で、柱掘形は直径60cm未満の円形または楕円形である。深さは検出面から10cm程度の浅いものであるが、直径20cm程度の窪みがあり、柱の太さを表すものと考えられる。出土遺物が無く、時期は不明とせざるを得ないが、近隣に多い室町時代のものとは大きく棟方向を違える。遠く離れた２区ではあるが、ＳＢ32007とは唯一棟方向が合致する。このため、この時期と仮定しておく。

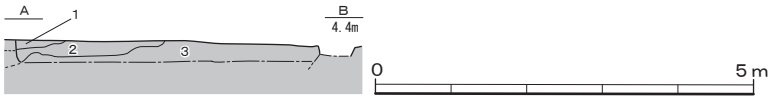
（２）井戸

ＳＤ３１００５（井戸１・２）（第５図）　１区中央部で検出した。当初、幅４ｍほどの溝と想定したが、掘削の結果、重複する２基の井戸である可能性が高くなった。東側のものを「井戸２」、西側のものを「井戸１」と仮称する。土層観察により、井戸１が井戸２より後出であることが分かる。井戸１の掘形は径４ｍを測るが、東側の傾斜は緩やかである。これは先行する井戸２の影響と思われる。中央部は1.3ｍほどに縮小し、垂直に50cmほど落ちて礫層に至り、底に達したものと考えられる。ここから板材が１枚、やや上方にも１枚出土し、井戸枠と推測される。このことから、一辺1.2ｍほどの木製方形井戸枠を備えた井戸で、検出面から1.2ｍの深さを測る。井戸２は、掘形の過半が井戸１により消滅しているが、中心部は残存しており、井戸枠と思われる板片も出土している。これらにより、井戸１と同様な規模・構造であることが分かる。両者とも奈良時代の土師器、須恵器が出土しているが、なかでも井戸２からは奈良時代後半の特徴を示す須恵器蓋が出土している。

なお、井戸１の埋土上層からは、多量の土師器、須恵器が出土しており、井戸廃絶後は廃棄土坑として利用されていたようである。

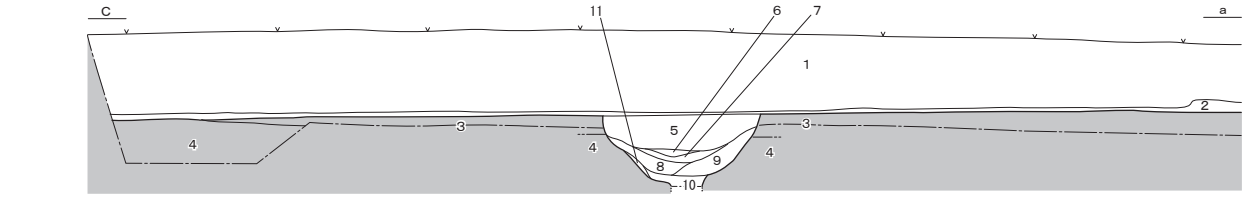
ＳＫ３１００６（第５図）　１区東部で検出した。直径３ｍちかくに及ぶ土坑として掘削したが、その断面形状から井戸と思われる。検出面から１ｍほどは壁の傾斜が緩やかであるが、それ以下は垂直気味となり、さらに１ｍほど下がって礫層に至る。埋土も壁の変換点を境に大きく異なり、上部は黄色系の粘質土、下部は還元気味の灰色粘土となる。井戸枠は検出できなかったが、断面形状から直径80cm程度の曲物が設置されていたものと推測される。

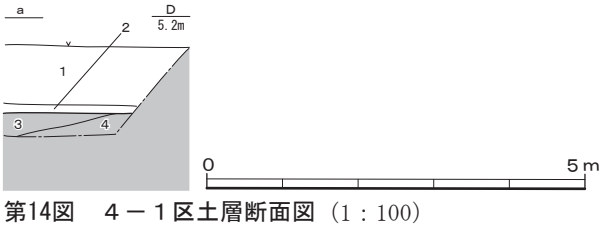
奈良時代の土師器杯の小片が出土しているが、包



1　10YR4/4褐色シルト
2　2.5Y7/3浅黄色シルト（マンガン粒若干含）
3　礫（10YR4/3にぶい黄褐色シルト多含）

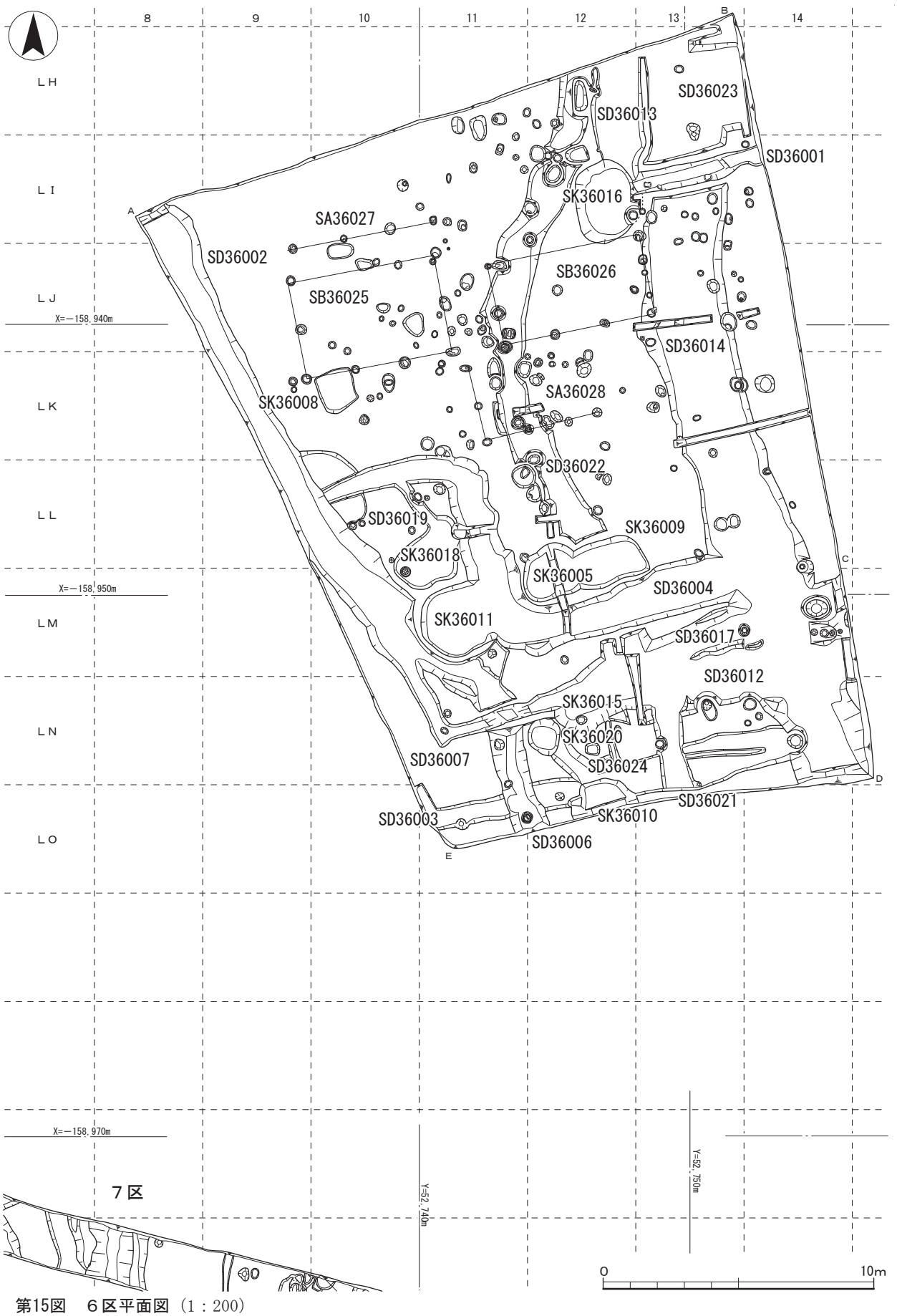
第13図　５区検出面断面図（1：100）



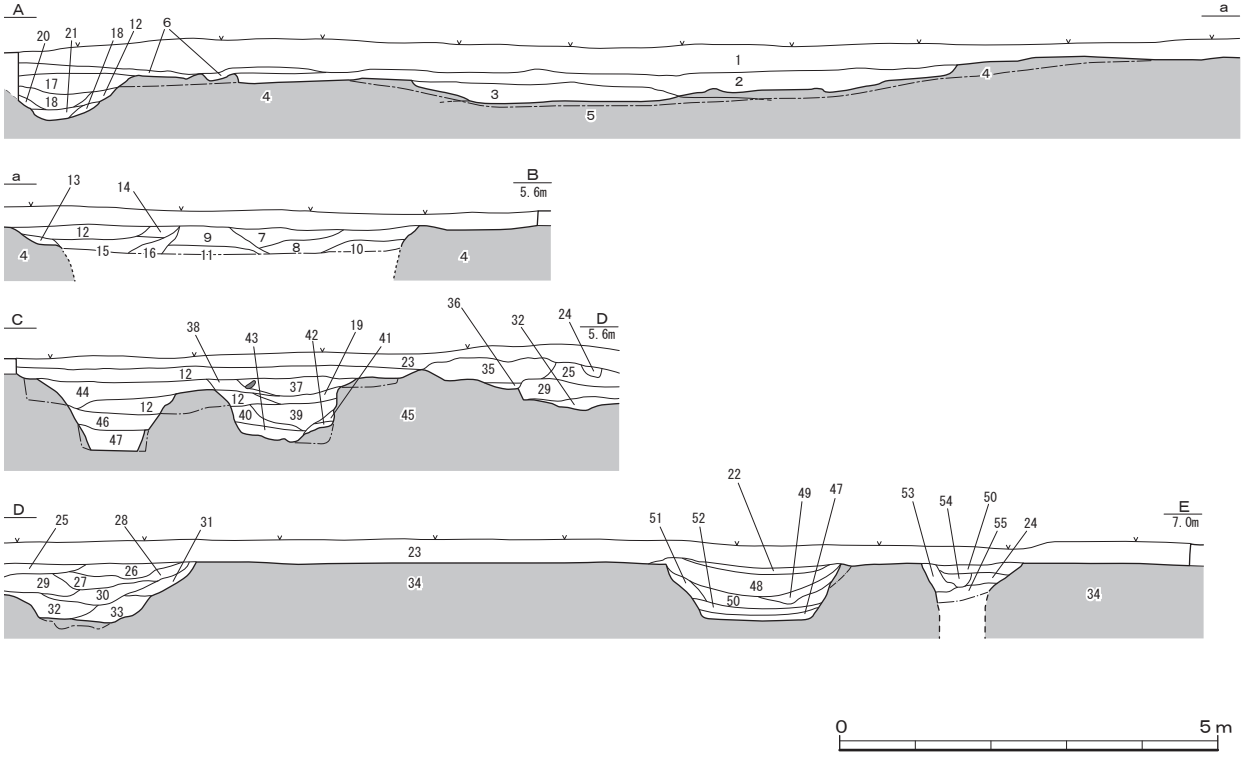


1　客土
2　10YR4/1褐灰色土
3　10YR7/6明黄褐色粘質土＜検出面＞
4　10YR4/2灰黄褐色砂
5　10YR3/2黒褐色土＜SK1埋土＞
6　10YR4/1褐灰色粘質土＜SK1埋土＞
7　10YR4/1褐灰色粘質土（明黄褐色粘土塊含）＜SK1埋土＞
8　10YR5/3にぶい黄褐色土（10YR6/6明黄褐色粘土塊多含）＜SK1埋土＞
9　10YR5/3にぶい黄褐色土（10YR8/6黄橙色粘土塊多含）＜SK1埋土＞
10　10YR6/1褐灰色粘質土（砂含）＜SK1埋土＞
11　10YR6/2灰黄褐色砂質土

第14図　４－１区土層断面図（1：100）

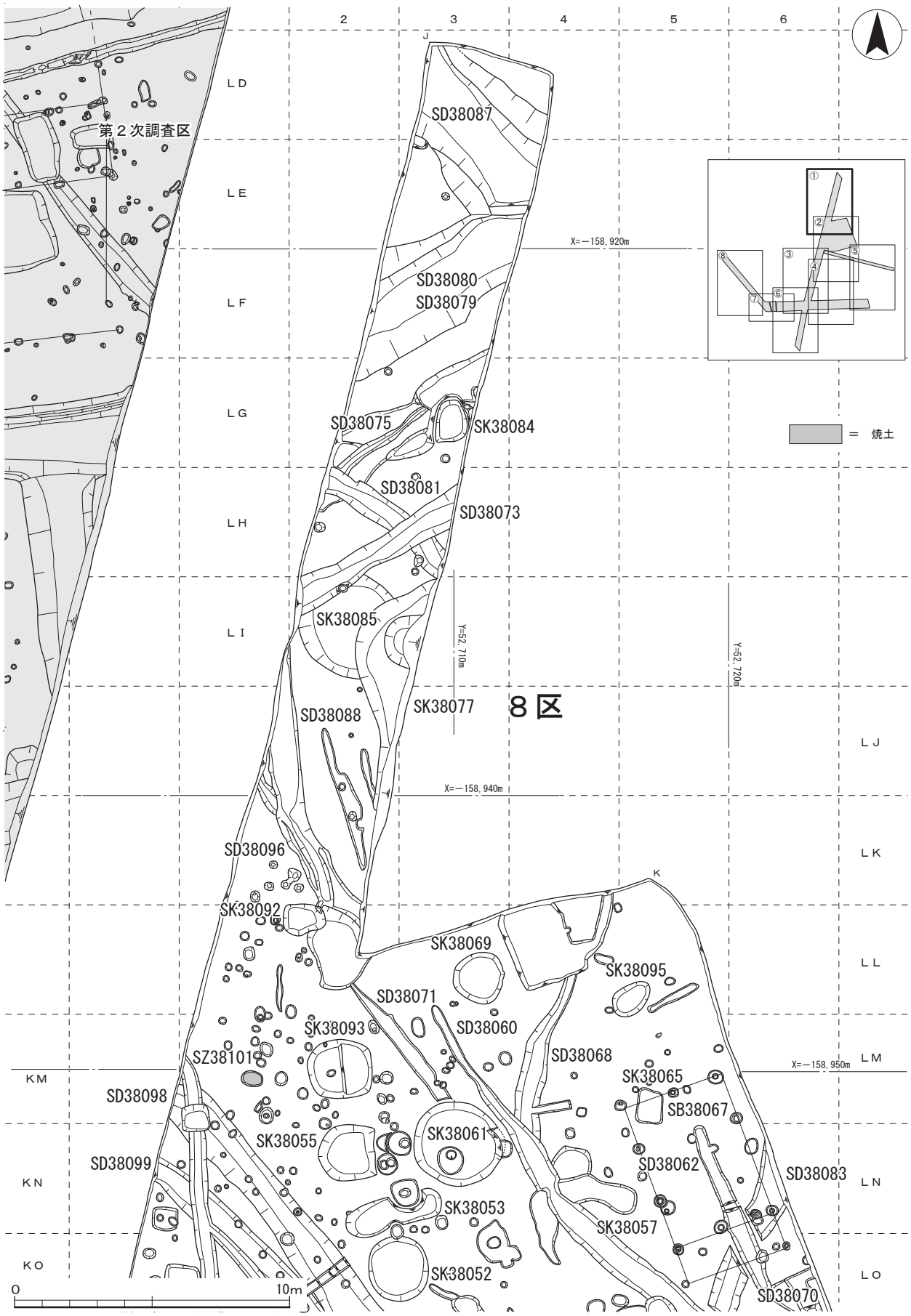


第15図　６区平面図（1：200）

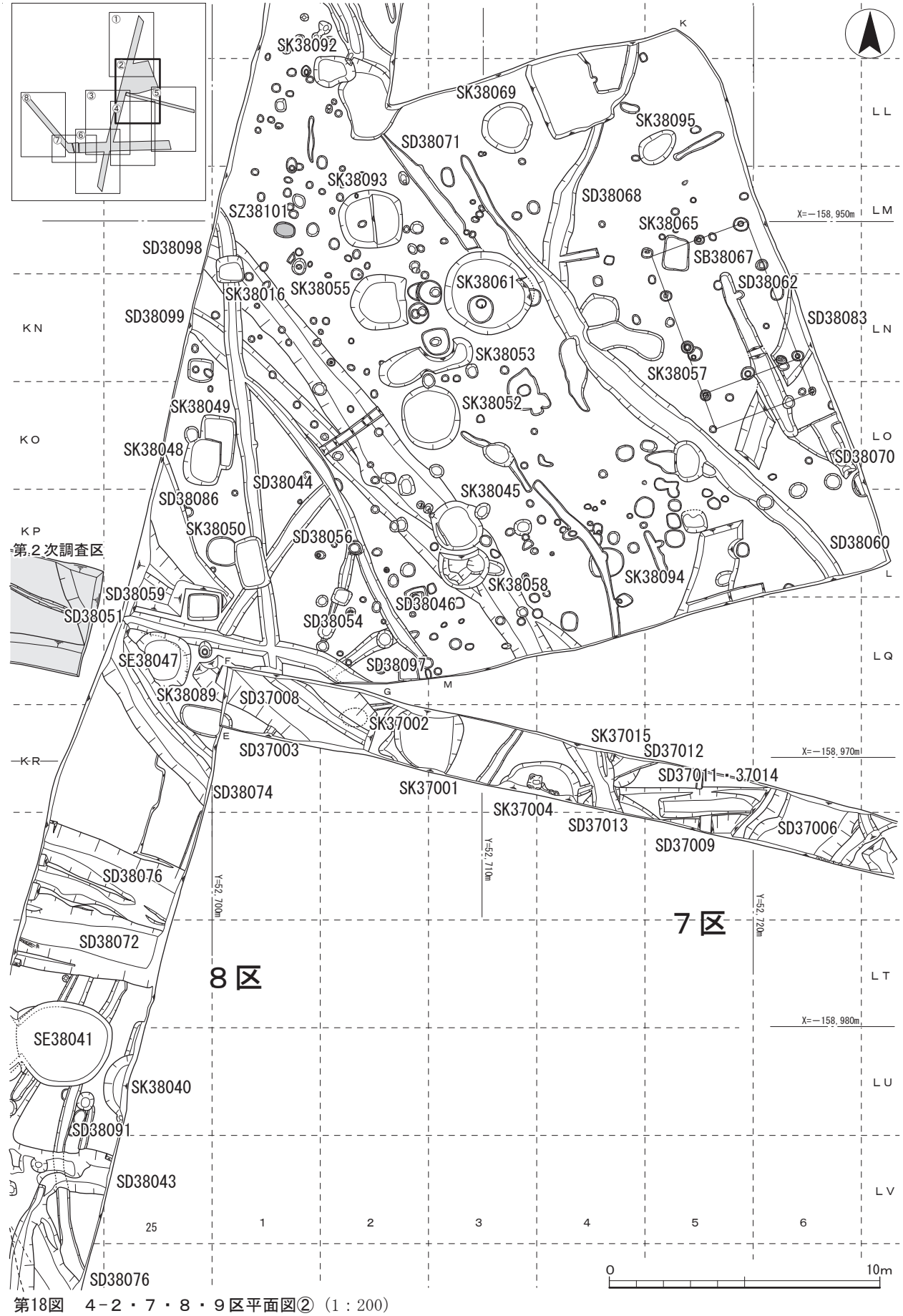


1　10YR4/2灰黄褐色シルト＜表土・耕作土＞
2　2.5Y5/3黄褐色シルト（10YR6/4にぶい黄橙色含む）＜旧耕作土？＞
3　10YR4/4褐色シルト（2.5Y5/3黄褐色シルト含）
4　2.5Y5/2暗灰黄色シルト～粘土（鉄分含）＜検出面＞
5　2.5YR5/4黄褐色シルト～粘土（鉄分多含）
6　10YR4/2灰黄褐色シルト
7　2.5Y6/2灰黄色シルト（10YR5/4にぶい黄褐色シルト含）＜SD36014埋土＞
8　10YR5/4にぶい黄褐色シルト＜SD36014埋土＞
9　10YR4/2灰黄褐色シルト（礫若干含）＜SD36013埋土＞
10　10YR4/4褐色シルト＜SD36014埋土＞
11　2.5Y6/3にぶい黄色シルト（10YR4/4褐色シルト含）＜SD36013埋土＞
12　2.5Y5/3黄褐色シルト＜SD36002・36012・36017・36022埋土等＞
13　2.5Y7/3浅黄色シルト
（10YR6/4にぶい黄橙色シルト若干含）＜SD36022埋土＞
14　10YR6/4にぶい黄橙色シルト（礫若干含）＜SD36022埋土＞
15　10YR5/3にぶい黄褐色シルト（鉄分若干含）＜SD36022埋土＞
16　2.5Y4/3オリーブ褐色シルト～極細砂＜SD36022埋土＞
17　2.5Y5/3黄褐色シルト（礫・鉄分若干10%含）＜SD36002埋土＞
18　2.5Y5/2暗灰黄色粘土～シルト＜SD36002埋土＞
19　2.5Y5/3黄褐色シルト～極細砂（10YR4/4褐色シルト含）＜SD36012埋土＞
20　2.5Y6/4にぶい黄色シルト
（2.5Y5/2暗灰黄色粘土～シルト若干含）＜SD36002埋土＞
21　2.5Y4/2暗灰黄色粘土＜SD36002埋土＞
22　2.5Y5/2暗灰黄色シルト
（10YR5/4にぶい黄褐色シルト・礫若干含）＜SK36010埋土＞
23　10YR4/3にぶい黄褐シルト（礫若干含）＜耕作土＋道路敷＞
24　2.5Y6/2灰黄色シルト＜SD36006埋土＞
25　2.5Y5/2暗灰黄色粗砂＜SD36014埋土＞
26　10YR6/4にぶい黄橙色極細粒砂（礫若干含）＜SD36014埋土＞
27　2.5Y5/4黄褐色シルト～極細砂＜SD36014埋土＞
28　2.5Y5/2暗灰黄色シルト～極細砂
（10YR4/4褐色シルト含）＜SD36014埋土＞
29　10YR4/4褐色粗砂（礫多含）＜SD36014埋土＞
30　10YR5/4にぶい黄褐色極細砂＜SD36014埋土＞
31　2.5Y6/3にぶい黄色極細砂（10YR4/4褐色極細砂含）＜SD36014埋土＞
32　5Y4/1灰色粗砂と10YR4/4褐色極細砂の互層＜SD36014埋土＞
33　2.5Y5/3黄褐色シルト～極細砂＜SD36014埋土＞
34　10YR5/4にぶい黄褐色シルト（鉄分含）＜検出面＞
35　10YR5/3にぶい黄褐色シルト（礫若干含）＜SD36003埋土＞
36　2.5Y6/3にぶい黄色シルト（礫含）＜SD36003埋土＞
37　2.5Y5/4黄褐色シルト（礫含）＜SD36012埋土＞
38　10YR6/3にぶい黄橙色シルト＜SD36012埋土＞
39　2.5Y6/3にぶい黄色シルト（10YR3/3暗褐色シルト含）＜SD36012埋土＞
40　10YR5/3にぶい黄褐色シルト～極細砂＜SD36012埋土＞
41　10YR7/6明黄褐色シルト
（2.5Y6/3にぶい黄色シルト～極細砂含）＜SD36012埋土＞
42　10YR5/2灰黄褐色シルト（鉄分斑状に含）＜SD36012埋土＞
43　10YR5/1褐灰色シルト～極細砂（鉄分斑状含）＜SD36012埋土＞
44　2.5Y6/3にぶい黄色シルト（礫若干含）＜SD36017埋土＞
45　2.5Y5/3黄褐色シルト
（10YR5/4にぶい黄褐色シルト・2.5Y7/4浅黄色シルト若干含）＜検出面＞
46　2.5Y4/3オリーブ褐色シルト
（礫若干含・下部に鉄分沈着）＜SD36017埋土＞
47　2.5Y6/1黄灰色粘土＜SK36010・SD36017埋土＞
48　2.5Y6/4にぶい黄色シルト
（10YR6/4にぶい黄橙色シルト多含）＜SK36010埋土＞
49　2.5Y5/3黄褐色シルト（炭化物若干含）＜SK36010埋土＞
50　2.5Y6/2灰黄色シルト（鉄分を斑状に若干含）＜SD36006・SK36010埋土＞
51　2.5Y6/3にぶい黄色極細砂＜SK36010埋土＞
52　2.5Y5/2暗灰黄色シルト～極細砂
（炭化物若干含・下部に鉄分沈着）＜SK36010埋土＞
53　2.5Y6/1黄灰色シルトと10YR6/4にぶい黄橙色シルト＜SD36006埋土＞
54　2.5Y5/3黄褐色シルト（鉄分斑状に若干含）＜SD36006埋土＞
55　2.5Y6/3にぶい黄色シルト＜SD36006埋土＞

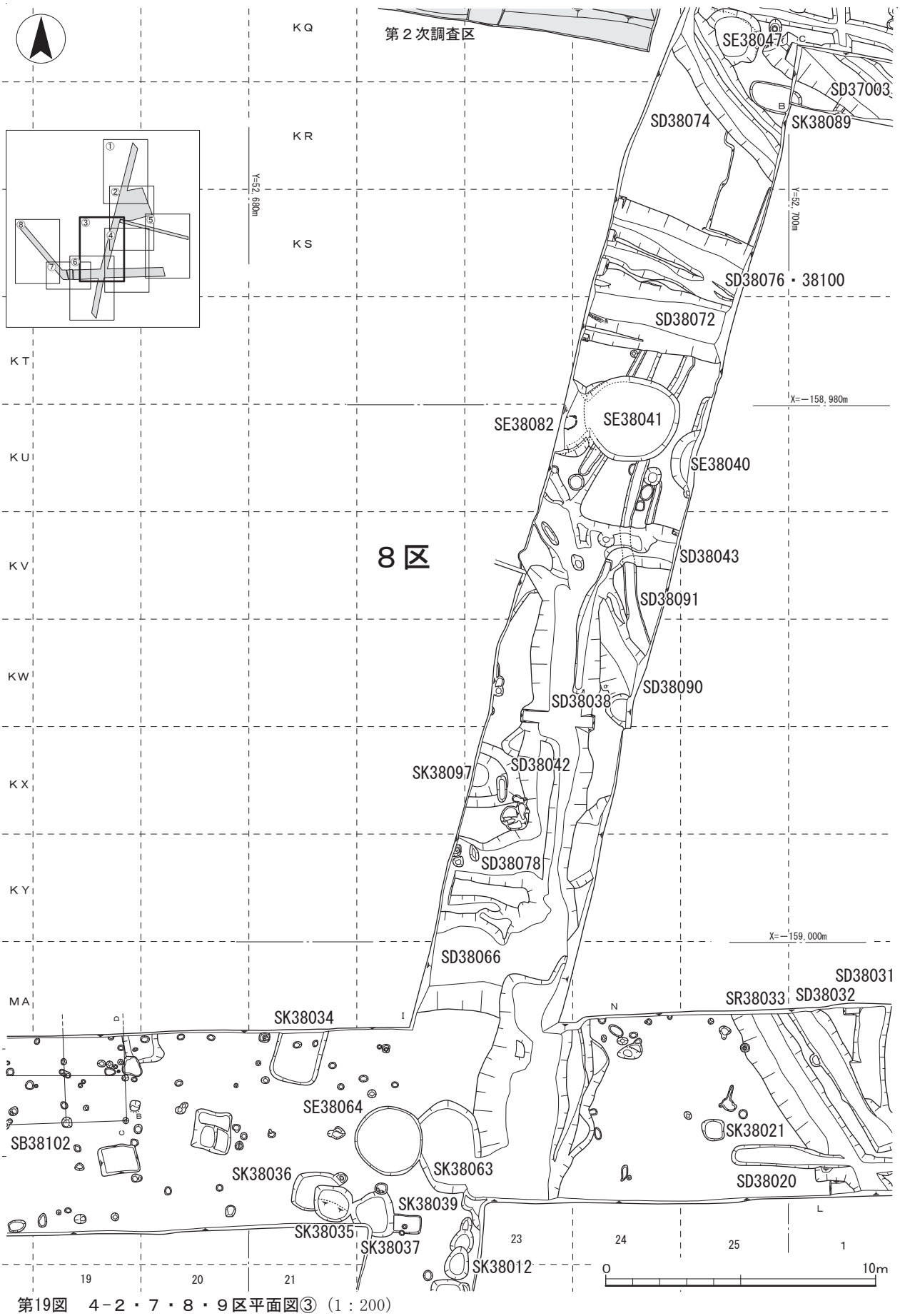
第16図　６区土層断面図（1：100）



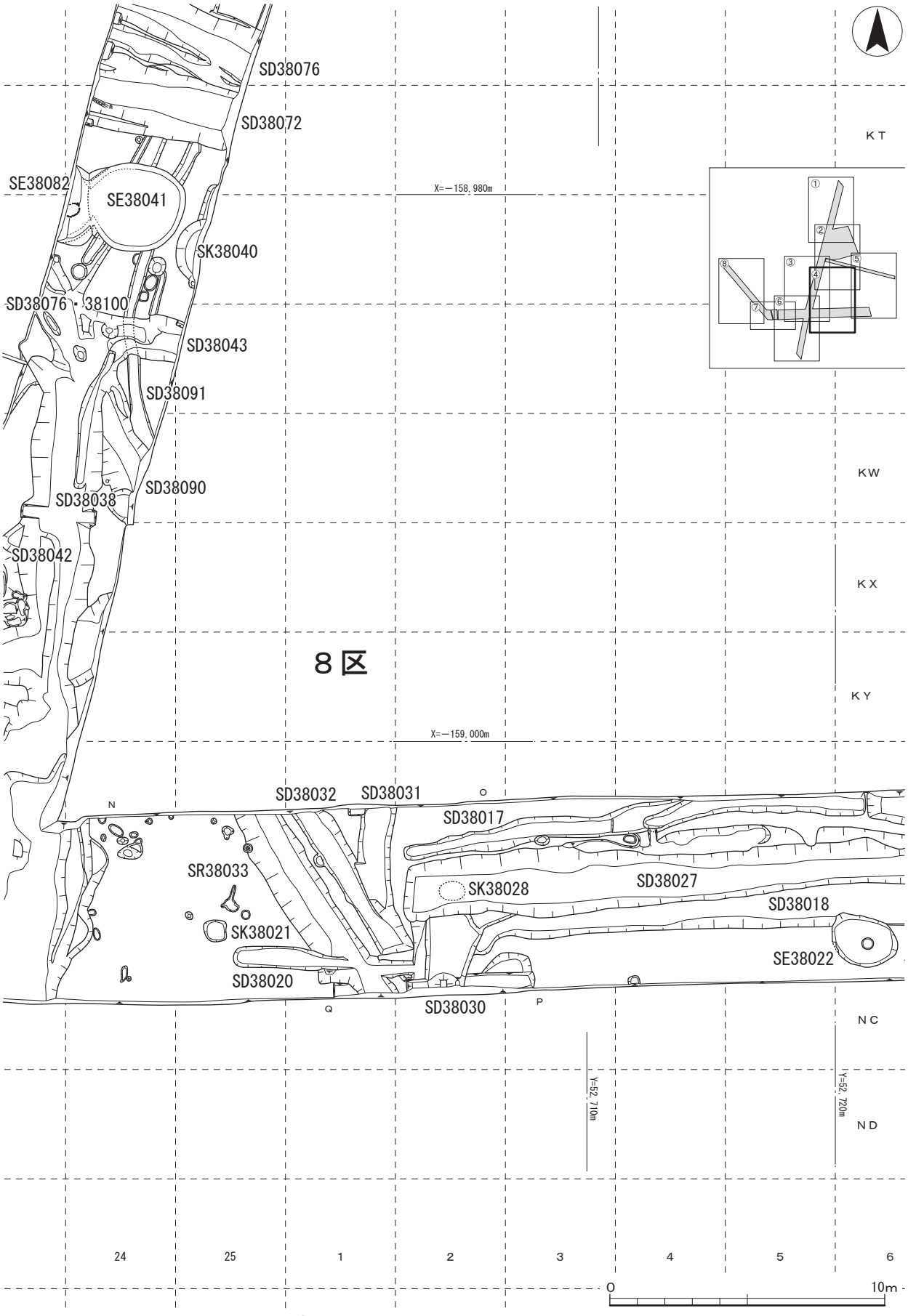
第17図　4−2・7・8・9区平面図①（1：200）



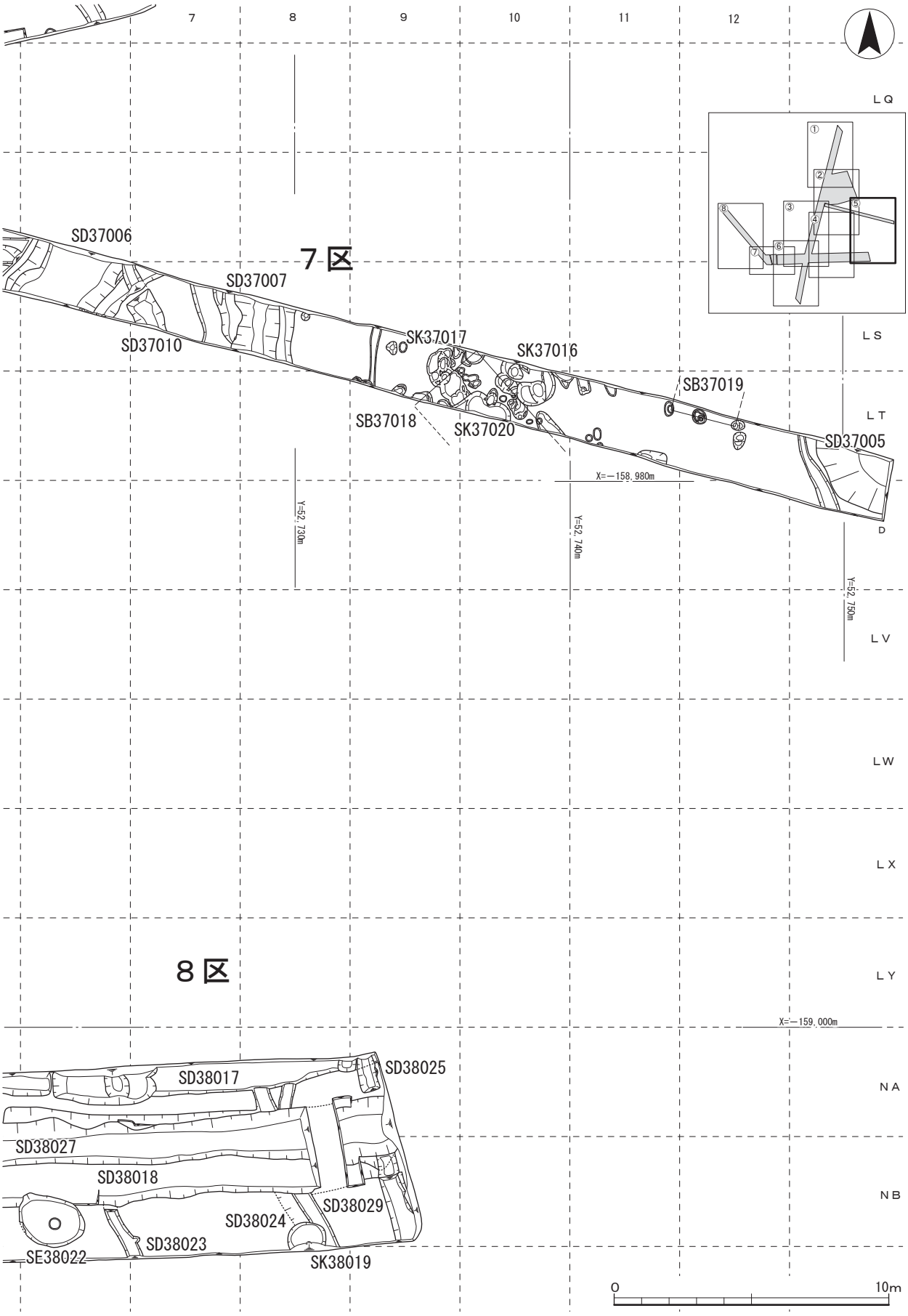
第18図　4−2・7・8・9区平面図②（1：200）



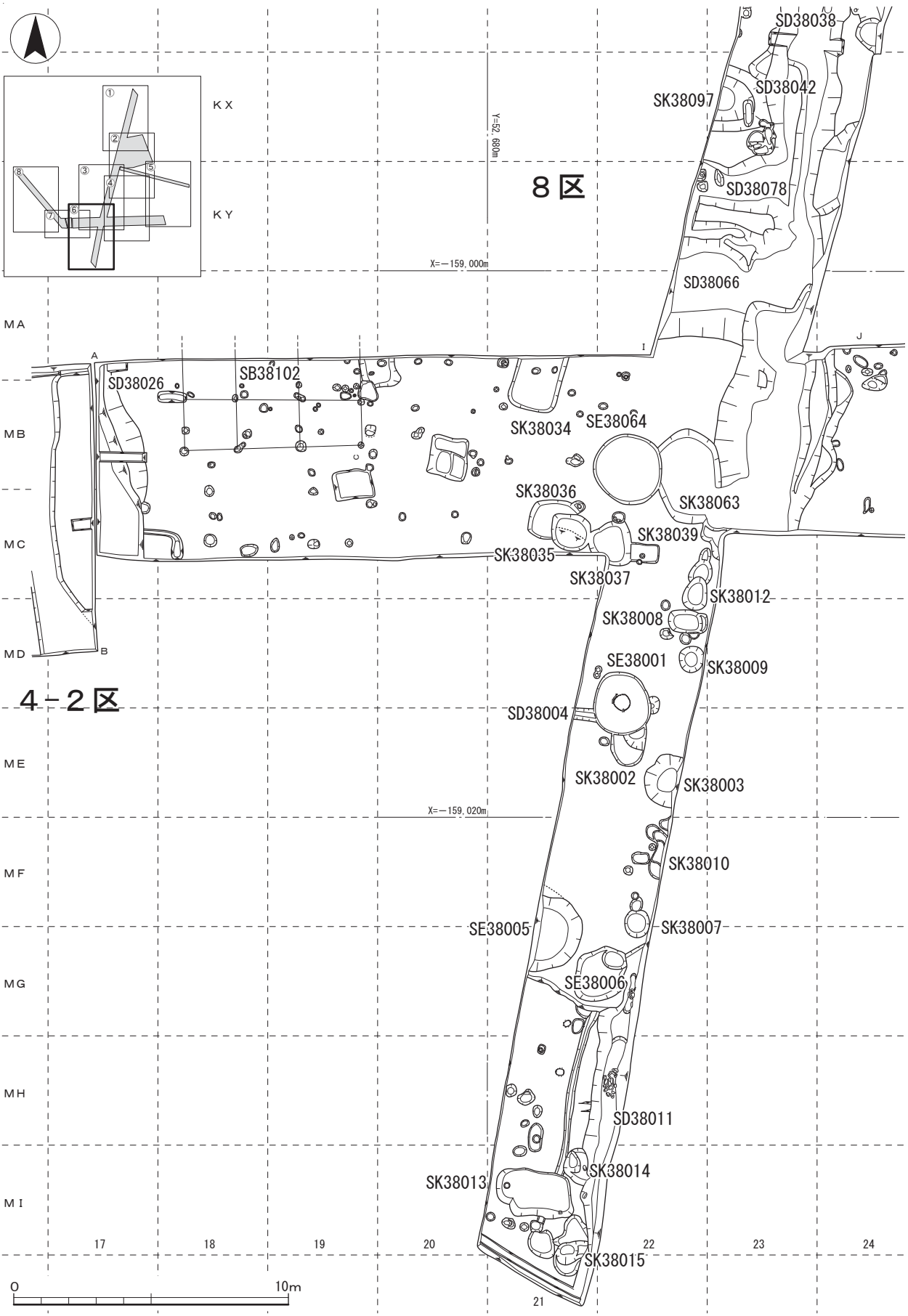
第19図　４−２・７・８・９区平面図③（1：200）



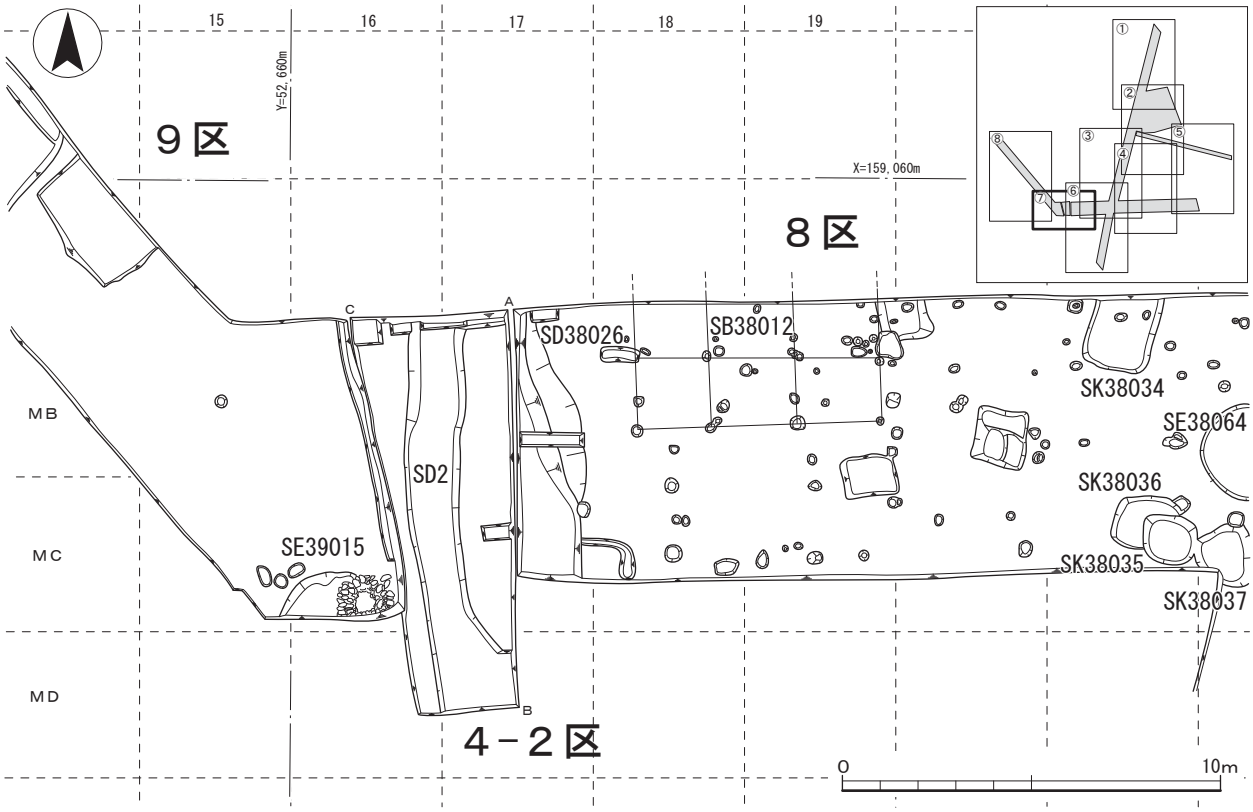
第20図　4−2・7・8・9区平面図④（1：200）



第21図　4－2・7・8・9区平面図⑤（1：200）

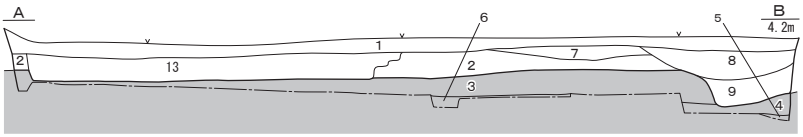


第22図　4−2・7・8・9区平面図⑥（1：200）

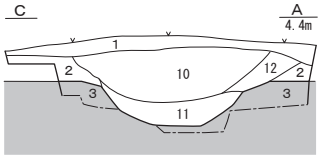


第23図　４－２・７・８・９区平面図⑦（1：200）

東壁

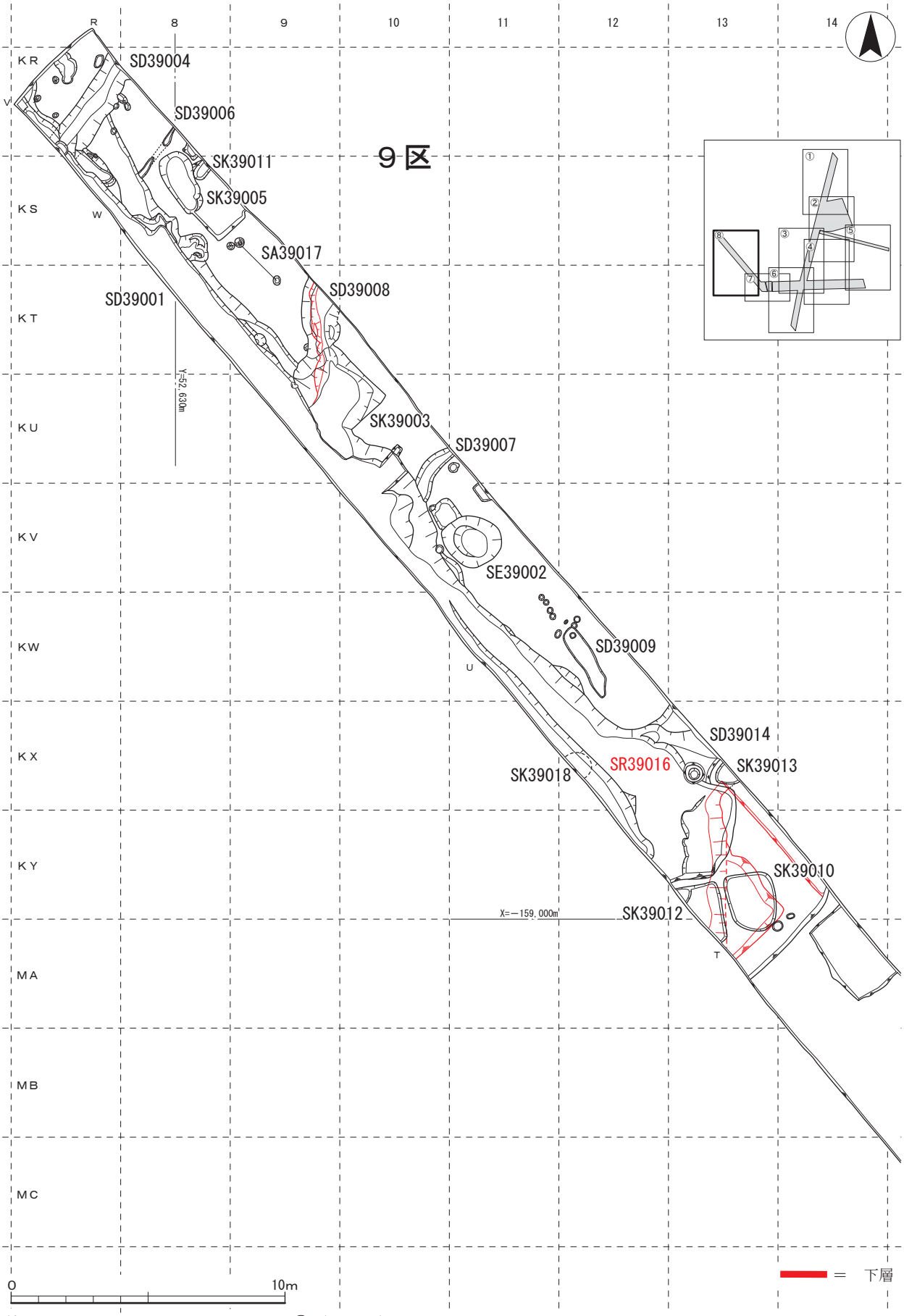


北壁



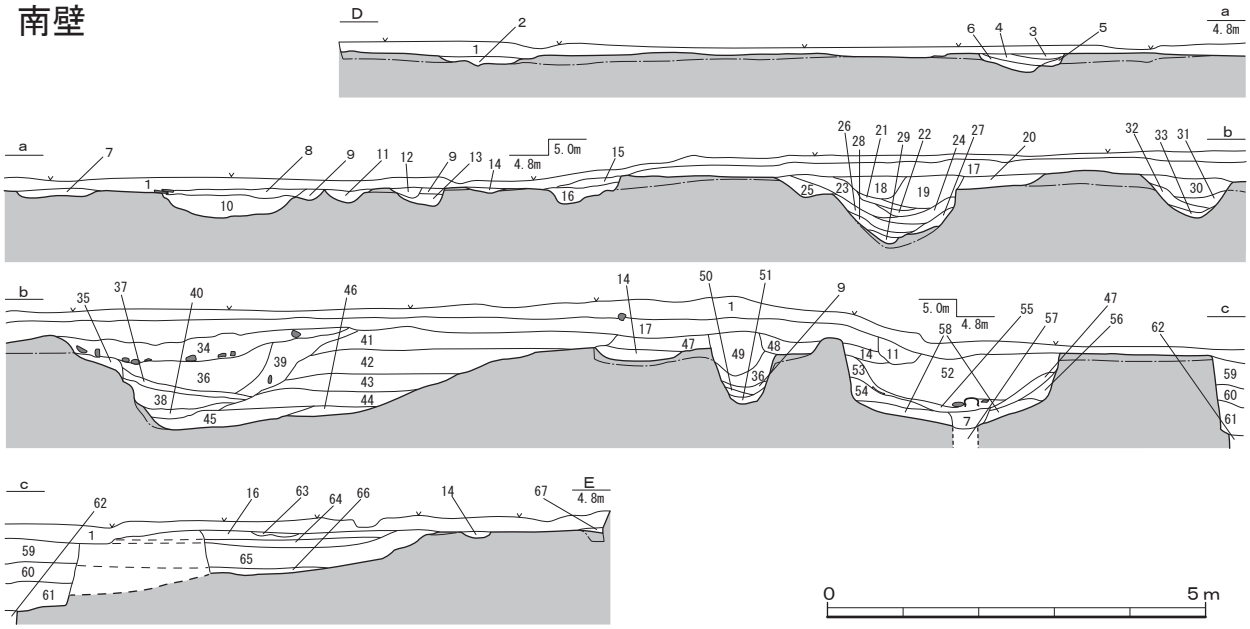
1　10YR3/2黒褐色土＜表土・耕作土＞
2　10YR7/4にぶい黄橙色土
3　10YR5/1褐灰色粘質土＜検出面＞
4　10YR4/1褐灰色粘質土
5　10GY8/1明緑灰色粘質土
6　N6/ 灰色砂
7　10YR5/2灰黄褐色砂質土
8　10YR6/2灰黄褐色土（礫含）＜SD2埋土＞
9　10YR5/1褐灰色砂質土＜SD2埋土＞
10　10YR3/1黒褐色土＜SD2埋土＞
11　N3/ 暗灰色粘質土＜SD2埋土＞
12　10YR6/2灰黄褐色土＜SD2埋土＞
13　既往調査による攪乱

第24図　４－２区土層断面図（1：100）

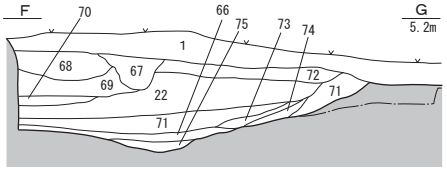


第25図　４−２・７・８・９区平面図⑧（1：200）

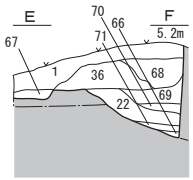
南壁



北壁



西壁



1 2.5Y4/2暗灰黄色シルト＜耕作土＞
2 10YR5/2灰黄褐色シルト（礫多含）
3 2.5Y5/2暗灰黄色シルト（鉄分染斑若干含）
4 2.5Y5/3黄褐色シルト
（極細砂・2.5Y7/4浅黄色シルト塊・10YR5/4にぶい黄褐色シルト若干含）
5 2.5YR5/2暗灰黄色シルト
6 10YR5/4にぶい黄褐色シルト（2.5Y5/2暗灰黄色シルト若干含）
7 2.5Y5/2暗灰黄色シルト（鉄分若干含）＜SB37018・SK37004埋土＞
8 2.5Y6/2灰黄色シルト（鉄分斑状に若干含）＜SK37020埋土＞
9 2.5Y5/2暗灰黄色シルト＜SK37020・SD37013埋土等＞
10 2.5Y5/2暗灰黄色シルト
（2.5Y7/4浅黄色シルト塊・10YR3/4暗褐色シルト塊若干含）＜SK37020埋土＞
11 2.5Y5/2暗灰黄色シルト（2.5Y7/4浅黄色シルト塊若干含）
12 2.5Y6/3にぶい黄色シルト（2.5Y6/4にぶい黄色シルト塊若干含）
13 2.5Y5/3黄褐色シルト（2.5Y7/4浅黄色シルト塊含）
14 2.5Y5/3黄褐色シルト＜SK37004・SD37003埋土等＞
15 2.5Y5/3黄褐色シルト（2.5Y6/2黄灰色シルト若干含）
16 2.5Y5/3黄褐色シルト（マンガン粒若干含）＜SD37008埋土等＞
17 2.5Y5/4黄褐色シルト＜旧耕作土＞
18 2.5Y6/3にぶい黄色シルト＜SD37007埋土＞
19 10YR5/2灰黄褐色シルト（鉄分斑状に含）＜SD37007埋土＞
20 2.5Y5/3黄褐色シルト（2.5Y6/4にぶい黄色シルト塊含）＜SD37007埋土＞
21 2.5Y6/3にぶい黄色シルト～粘土
（2.5Y5/3黄褐色シルト・鉄分含）＜SD37007埋土＞
22 2.5Y5/3黄褐色シルト（鉄分均質に含）＜SD37007・37008埋土＞
23 2.5Y5/4黄褐色シルト
（鉄分含、2.5Y7/4浅黄色シルト塊若干含）＜SD37007埋土＞
24 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト（2.5Y7/4浅黄色シルト塊・マンガン粒含、
2.5Y6/3にぶい黄色シルト若干含）＜SD37007埋土＞
25 2.5Y5/3黄褐色シルト（2.5Y7/4浅黄色シルト塊含）
26 5Y7/1灰白色シルト～極細粒砂
（2.5Y5/3 黄褐色シルト・2.5Y7/4浅黄色シルト・鉄分含）＜SD37007埋土＞
27 2.5Y7/2灰黄色シルト
（2.5Y7/4浅黄色シルト塊・マンガン粒多含）＜SD37007埋土＞
28 2.5Y5/3黄褐色細砂（2.5Y5/3浅褐色シルト・鉄分若干含）＜SD37007埋土＞
29 2.5Y7/1灰白色粘土
（2.5Y7/4浅黄色シルト塊・マンガン粒含）＜SD37007埋土＞
30 2.5Y5/3黄褐色シルト（鉄分均質に若干含）＜SD37010埋土＞
31 2.5Y6/3にぶい黄色シルト（鉄分均質に若干含）＜SD37010埋土＞
32 2.5Y6/2灰黄色シルト（鉄分均質に若干含）＜SD37010埋土＞
33 2.5Y6/1黄灰色シルト（鉄分均質に若干含）＜SD37010埋土＞
34 10YR5/4にぶい黄褐色シルト（下部に礫多含）＜SD37006埋土＞
35 2.5Y5/3黄褐色シルト（炭化物若干含）＜SD37006埋土＞
36 2.5Y4/4オリーブ褐色シルト＜SD37006・37008・37013埋土＞
37 2.5Y5/2暗灰褐色シルト～粘土（炭化物多含）＜SD37006埋土＞
38 N1.5/ 黒色粘土＜SD37006埋土＞
39 10YR4/3鈍い黄褐色シルト（炭化物若干含）＜SD37006埋土＞
40 5Y4/1灰色粘土（炭化物斑状に含）＜SD37006埋土＞
41 2.5Y5/4黄褐色シルト
（2.5Y7/3浅黄色シルト・10YR4/4褐色シルト塊若干含）＜SD37009埋土＞
42 2.5Y5/3黄褐色シルト～細砂
（2.5Y7/3浅黄色シルト塊若干含）＜SD37009埋土＞
43 2.5Y5/2暗灰黄色シルト（下部に鉄分沈着）＜SD37009埋土＞
44 2.5Y6/1黄灰色シルト
（5Y7/2灰白色シルト塊・鉄分斑状に若干含）＜SD37009埋土＞
45 5Y6/1灰色粘土（有機物含）＜SD37009埋土＞
46 5Y4/1灰色粘土（10Y6/1灰色粘土塊含）＜SD37009埋土＞
47 10YR4/3鈍い黄褐色シルト＜SK37004埋土等＞
48 10YR5/3鈍い黄褐色シルト
49 10YR5/3鈍い黄褐色シルト（2.5Y7/4浅黄色シルト塊含）＜SD37013埋土＞
50 10YR5/3鈍い黄褐色シルト
（2.5Y7/4浅黄色シルト塊若干含）＜SD37013埋土＞
51 5Y5/2灰オリーブ色極細粒砂＜SD37013埋土＞
52 2.5Y5/3黄褐色シルト
（2.5Y7/4浅黄色シルト塊・鉄分斑状に含）＜SK37004埋土＞
53 2.5Y6/2灰黄色シルト（2.5Y7/4浅黄色シルト塊若干含）＜SK37004埋土＞
54 2.5Y5/2暗灰黄色シルト～極細粒砂（鉄分斑状に含）＜SK37004埋土＞
55 10YR5/3にぶい黄褐色シルト～極細粒砂＜SK37004埋土＞
56 2.5Y7/4浅黄色シルト
（マンガン粒含・2.5Y5/2暗灰黄色土塊若干含）＜SK37004埋土＞
57 7.5Y5/1灰色粘土＜SK37004埋土＞
58 2.5Y8/6黄色粘質土＜SK37004埋土＞
59 2.5Y4/2暗灰黄色シルト
（2.5Y7/4浅黄色シルト塊含・下部に鉄分沈着）＜SK37001埋土＞
60 2.5Y6/2灰黄色極細粒砂（5GY6/1オリーブ灰色粘土塊含）＜SK37001埋土＞
61 5Y5/1灰色シルト（5GY6/1オリーブ灰色粘土塊含）＜SK37001埋土＞
62 7.5Y4/1灰色シルト（2.5GY6/1オリーブ灰色粘土塊含）＜SK37001埋土＞
63 2.5Y5/3黄褐色細砂（礫若干含）
64 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト～極細粒砂＜SD37008埋土＞
65 2.5Y4/3にぶい黄褐色シルト（鉄分含）＜SD37008埋土＞
66 2.5Y5/3黄褐色細砂＜SD37008埋土＞
67 10YR4/2灰黄褐色シルト＜SK38089・SD37003埋土＞
68 2.5Y5/3黄褐色シルト～極細粒砂（礫若干含）＜SD37008埋土＞
69 2.5Y6/3にぶい黄色シルト（鉄分均等に多含）＜SD37008埋土＞
70 10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂（礫若干含）＜SD37008埋土＞
71 2.5Y5/3暗灰黄色シルト（鉄分均等多含）＜SD37008埋土＞
72 2.5Y5/3黄褐色シルト（小礫含）＜SD37008埋土＞
73 2.5Y5/3黄褐色シルト～極細粒砂＜SD37008埋土＞
74 2.5Y6/3にぶい黄色シルト～極細粒砂＜SD37008埋土＞
75 2.5Y4/2暗灰黄色シルト～極細粒砂＜SD37008埋土＞

第26図　７区土層断面図（1：100）

含層を切り込んで掘削されていることから近現代にちかい時期まで下る可能性がある。しかし、包含層と埋土上層の異差は微妙であり誤認の可能性もある。後世の遺物の出土もないことから、一応、この時期としておく。

（3）土坑

ＳＫ３１００４・３１００７～３１００９　1区に点在する径1ｍ未満の方形または円形の小規模な土坑である。深さは検出面から30㎝程度の浅いものであるが、ＳＫ31008は擂鉢状に40㎝ほど下がる。いずれも奈良時代の土師器や須恵器が出土しているが、土坑の性格を示すものはない。ＳＫ31008からは不確定ではあるが灰釉陶器状の小片が出土しており、土坑の形状もやや異なることから、平安時代に下る可能性も残しておく。また、ＳＫ31007は40×60㎝の長方形を呈し、底部南隅に柱痕跡をおもわせる窪みがある。掘立柱建物の柱穴を想定すべきかもしれない。

ＳＫ３２００５　2区中央部で検出した土坑である。直径60㎝の円形を呈するが、深さは検出面から5㎝未満の痕跡程度のものである。土師器の小片が出土したに止まり、この時期とする根拠に乏しい。

ＳＫ３２００８～３２０１０（第8・32図）　2区南端付近で検出した土坑群である。ＳＫ32008は長径80㎝の不整円形を呈する土坑で、深さは検出面から20㎝に届かない小規模なものである。埋土は上下2層に分かれるが、顕著な違いはない。他も同様な規模のものであるが、整然と並ぶ様子もない。

ＳＫ３２０１５（第7図）　2区北部で検出した直径60㎝の不整円形を呈する土坑である。深さは検出面から50㎝を測り、径に比べ深い柱穴状を呈する。埋土は砂質系で土師器甕の小片が出土したに止まる。

ＳＫ３８０１２　8区南部で検出した。直径0.9～1ｍの楕円形を呈し、検出面からの深さは20cm程度である。若干規模が異なるものの近隣には多数の土坑があり、これと同時期としたいところである。しかし、出土した土師器は古代以前の特徴をしめすことから、根拠は薄弱なもののこの時期とした。

ＳＫ３８０５３（第32図）　8区中央部で検出した長辺3.6ｍ、短辺1ｍ未満の溝状の土坑である。深さは検出面から20㎝程度で、埋土に特筆すべきものはない。土師器小片が若干出土したのみで、時期決定に苦しむが、土師器片が古代に遡ること、近辺の古代の遺構は奈良時代であることから、一応この時期としておく。

（4）溝

ＳＤ３１０１０（第5図）　1区中央部で検出した弯曲気味の溝であるが、調査区内ではその延長部を確認できず、連動するものもないことから、不整形の土坑とすべきかもしれない。深さも検出面から10～30㎝で均一を欠き、人為的なものとするに疑問が多い。しかし、奈良時代の土師器･須恵器の杯･皿・甕が比較的多く出土している。なかには、平安時代に下る疑いのあるものもある。

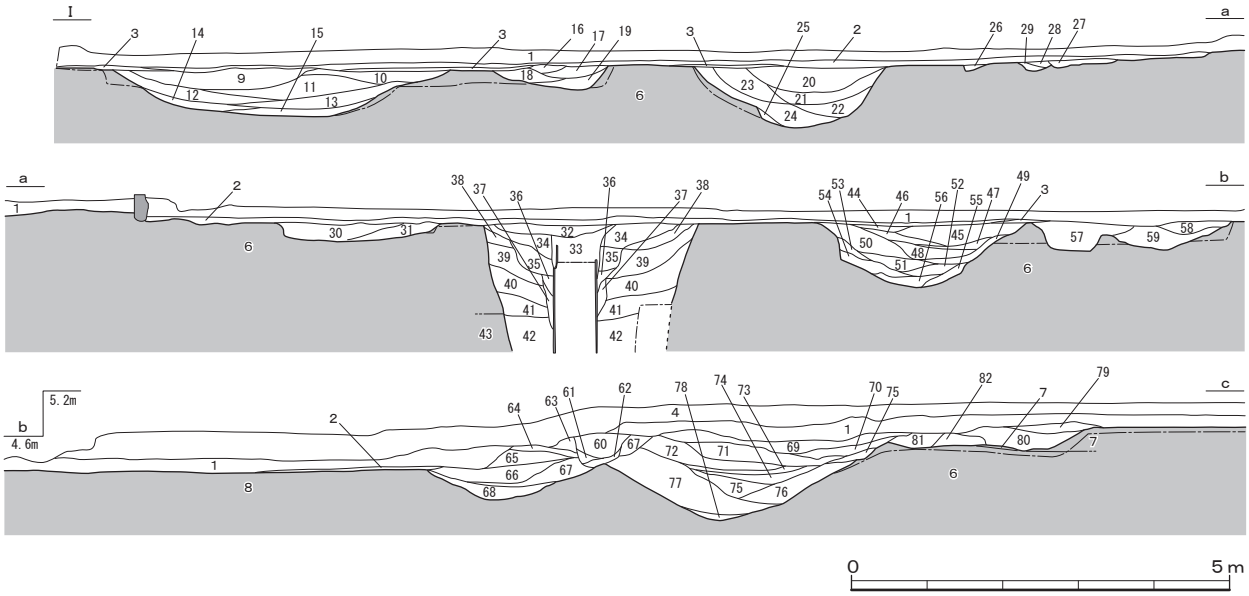
ＳＤ３２００３　2区中央部で検出した溝である。幅60㎝を測るが、深さは検出面から5㎝程度の浅いものである。1.6ｍほど南進して途絶え、土師器甕の小片が少量出土するに止まる。直接の関係は不明であるが、同時期のＳＢ32007と方向が揃い、1.2ｍ東側にはやや幅の狭い溝が並走する。

ＳＤ３２０１１・３２０１２　2区南端で検出した溝である。調査区端のため正確な規模は不明であるが、幅30㎝程度、深さは大半が10㎝未満の浅いものである。両者は縦列に並んでおり、一連のものと思われる。

ＳＤ３２０１３・３２０１７（第7図）　2区北部で検出した溝である。両者とも幅60㎝、検出面からの深さ15㎝程度の小規模なものであるが、両者は調査区外で直交する可能性がある。出土遺物は少なく、時期決定の根拠に乏しいが、近隣の遺構と同様にこの時期とした。

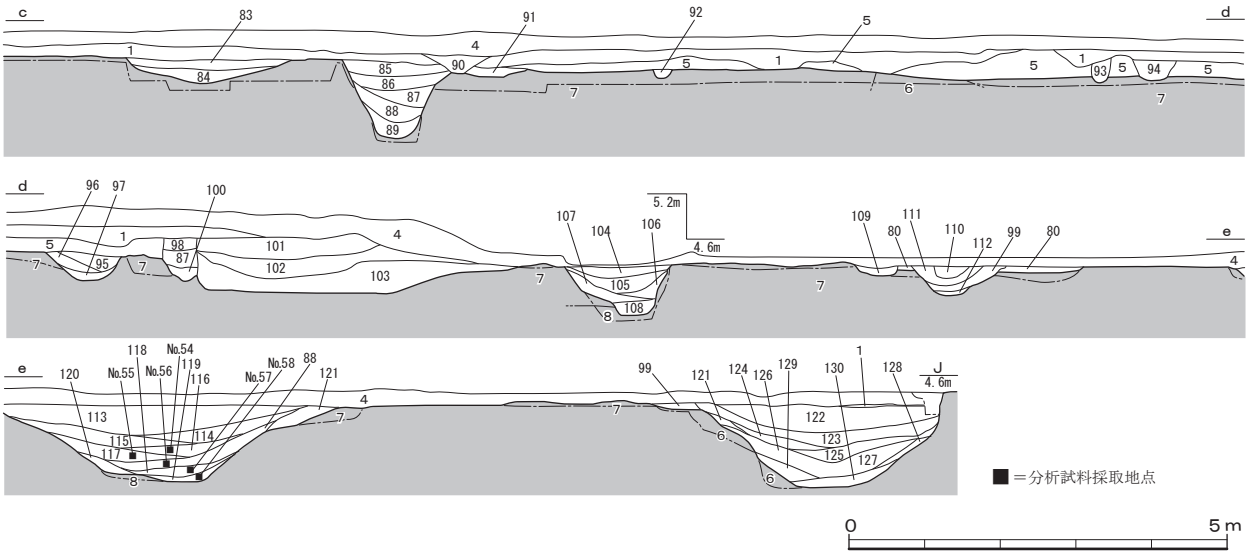
ＳＤ３２０１８・３２０１９　2区北東部で検出した溝である。両者とも幅は1ｍ前後であるが不均一で、深さは検出面から20㎝程度の浅いものである。埋土に砂を含むこともあり、自然流水路の可能性が高い。出土遺物は少なく、ＳＤ32019からは遺物の出土はなかった。このため時期決定の根拠に乏しいが、近隣の遺構と同様にこの時期とした。

ＳＤ３７００７（第26図）　7区中央部を南北に横断する溝である。幅2ｍ、深さ1ｍちかくに及ぶ大規模なもので、断面はＶ字形にちかい。埋土は粘質土であるが、各所に鉄分を含んでいる。溝の規模に比べ、出土遺物は少ない。



1 2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂
（2.5Y4/4オリーブ褐色中粒砂塊含）＜表土・耕土＞
2 2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂と2.5Y/4オリーブ褐色中粒砂の横筋状互層
＜床土・耕土２＞
3 2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂（2.5Y4/3オリーブ褐色細粒砂含）＜旧耕土＞
4 10YR4/2灰黄褐色中粒砂
（2.5Y7/6明黄褐色シルト含・礫若干含）＜表土：耕土＞
5 2.5Y5/3黄褐色シルト（礫若干含）
6 2.5Y7/3浅黄色粘土（マンガン塊若干含）＜検出面＞
7 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト
（10YR5/3鈍い黄褐色シルト塊含）＜縄文包含層＞
8 5B6/1青灰色中粒砂（5Y5/3灰オリーブ色シルト多含）＜検出面＞
9 10YR6/2灰黄褐色極細粒砂
（10YR5/4にぶい黄褐色極細粒含・炭化物若干含）＜SD38066埋土＞
10 10YR7/3にぶい黄橙色シルト～極細粒砂
（10YR5/6黄褐色シルト塊含・マンガン塊上層に堆積）＜SD38066埋土＞
11 10YR6/2灰黄褐色粘土
（2.5Y7/4浅黄橙色細粒砂下層に含）＜SD38066埋土＞
12 2.5Y6/3にぶい黄色極細粒砂と10YR7/2にぶい黄橙色粘土の互層
（10YR5/4にぶい黄褐色極細粒砂塊斑点状に若干含）＜SD38066埋土＞
13 2.5Y8/4浅黄色極細粒砂と10YR7/2にぶい黄橙色粘土の互層
＜SD38066埋土＞
14 2.5Y7/1灰白色極細粒砂と10YR6/1褐灰色粘土の互層
（10YR6/4にぶい黄橙色シルト塊含）＜SD38066埋土＞
15 2.5GY6/1オリーブ灰色粘土
（2.5Y7/2灰黄色粘土塊多含・枝葉沈着）＜SD38066埋土＞
16 10YR6/2灰黄褐色極細粒砂
（10YR5/4にぶい黄褐色極細粒砂塊含）＜SD38078埋土＞
17 2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂
（2.5Y7/3浅黄色粘土塊多含）＜SD38078埋土＞
18 2.5Y5/3黄褐色極細粒砂
（2.5Y7/3浅黄色粘土塊含・マンガン塊若干含）＜SD38078埋土＞
19 10YR5/2灰黄褐色シルト～極細粒砂と2.5Y5/3黄褐色粘土の互層
（マンガン塊若干含）＜SD38078埋土＞
20 10YR6/1褐灰色シルト（2.5Y7/4浅黄色粘土多含）＜SK38097埋土＞
21 10YR5/2灰黄褐色シルト（7.5YR4/3褐色極細粒砂塊含）＜SK38097埋土＞
22 7.5YR5/1褐灰色シルト（7.5YR4/3褐色極細粒砂塊含）＜SK38097埋土＞
23 2.5Y7/3浅黄色粘土塊と10YR5/3にぶい黄褐色粘土塊の混成土
＜SK38097埋土＞
24 7.5YR4/1褐灰色シルト（2.5Y6/3にぶい黄色粘土塊含）＜SK38097埋土＞
25 10YR4/3にぶい黄褐色シルト
（10YR5/6黄褐色粘土塊多含）＜SK38097埋土＞
26 2.5Y5/4黄褐色中粒砂
27 5Y5/2暗灰黄色細粒砂と2.5Y4/4オリーブ褐色シルトの混成
28 2.5Y5/3黄褐色極細粒砂
29 2.5Y5/1黄灰極細粒砂と2.5Y4/3オリーブ褐色シルトの混成
30 7.5YR4/3褐色極細粒砂と5PB6/1青灰色中粒砂の互層
（礫若干含）＜SD38090埋土＞
31 2.5Y4/3オリーブ褐色シルトと5PB5/1青灰色粗砂の互層
（礫含）＜SD38090埋土＞
32 10YR5/1褐灰色シルト～極細粒砂
（2.5Y7/6明黄褐色粘土塊斑状に含）＜SE38082埋土＞
33 10YR4/2灰黄褐色シルト
（2.5Y7/6明黄褐色粘土塊多含）＜SE38082埋土＞
34 2.5Y5/1黄灰色極細粒砂
（2.5Y6/4にぶい黄色粘土塊含）＜SE38082埋土＞
35 2.5Y4/2暗灰黄色シルト
（2.5Y6/4にぶい黄色粘土塊斑状に含）＜SE38082埋土＞
36 10YR4/1褐灰色シルト
（2.5Y6/4にぶい黄色粘土塊多含）＜SE38082埋土＞
37 5PB4/1暗緑灰中粒砂＜SE38082埋土＞
38 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂
（10YR8/3浅黄橙色粘土塊多含、一部青灰色に変色）＜SE38082埋土＞
39 5Y4/1灰色極細粒砂
（10YR8/3浅黄橙色粘土塊斑状に含、一部青灰色に変色）＜SE38082埋土＞
40 5Y4/2灰オリーブ色細粒砂
（2.5Y7/3浅黄色粘土塊斑状に含）＜SE38082埋土＞
41 5GY4/1暗オリーブ灰色中粒砂
（7.5GY6/1緑灰色粘土塊含）＜SE38082埋土＞
42 5GY4/1暗オリーブ灰色細流砂～中粒砂
（5GY6/1オリーブ灰色粘土塊含）＜SE38082埋土＞
43 5Y5/2灰オリーブ極細砂～粗砂
44 2.5Y6/6明黄褐色シルト（マンガン塊若干含）＜SD38072埋土＞
45 2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂と5Y4/2灰オリーブ色中粒砂の互層
＜SD38072埋土＞
46 10YR5/2灰黄褐色極細粒砂（礫若干含）＜SD38072埋土＞
47 10YR5/1褐灰色粘土（一部筋状に鉄分化）＜SD38072埋土＞
48 2.5Y5/1黄灰色粘土
（10YR4/4オリーブ褐色細粒砂塊含）＜SD38072埋土＞
49 2.5Y4/1黄灰色粘土と5PB4/1暗緑灰色細粒砂の互層＜SD38072埋土＞
50 10YR5/2灰黄褐色シルトと10YR6/1褐灰色細粒砂の互層
（2.5Y8/4淡黄色シルト塊若干含）＜SD38072埋土＞
51 2.5Y5/3浅黄色シルトと5PB5/1青灰色細粒砂の互層＜SD38072埋土＞
52 5Y4/2灰オリーブ色極細粒砂（5Y7/3浅黄色粘土含）＜SD38072埋土＞
53 2.5Y5/2暗灰黄色シルトと2.5Y6/4にぶい黄色粘土の混成土
＜SD38072埋土＞
54 2.5Y5/1黄灰色極細粒砂
（2.5Y4/4オリーブ褐色粘土塊多含）＜SD38072埋土＞
55 2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂
（2.5Y4/6オリーブ褐色中粒砂塊含）＜SD38072埋土＞
56 5Y4/2灰オリーブ色粘土＜SD38072埋土＞
57 10YR5/2灰黄褐色細粒砂～粗砂＜SD38100埋土＞
58 10YR6/2灰黄褐色シルトと10YR4/4褐色細粒砂の互層＜SD38076埋土＞
59 10YR5/3にぶい黄褐色細粒砂と2.5Y4/4オリーブ褐色粗砂の互層
＜SD38076埋土＞
60 2.5Y4/1暗灰黄色シルト～細粒砂（礫若干含）＜SD38051埋土＞
61 2.5Y5/3黄褐色極細粒砂～細粒砂＜SD38051埋土＞
62 2.5Y6/2灰黄色細粒砂＜SD38051埋土＞

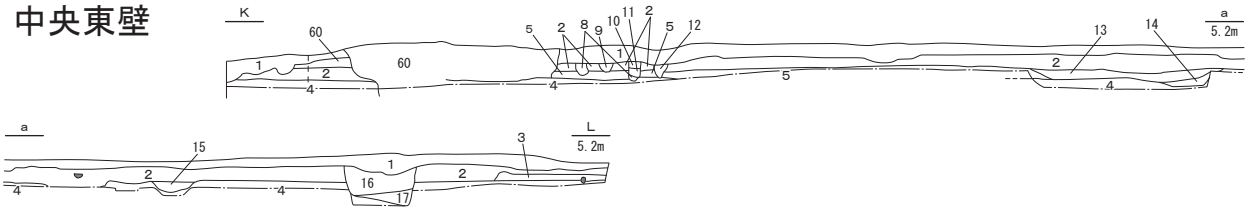
第27-1図　８区西壁土層断面図（1：100）



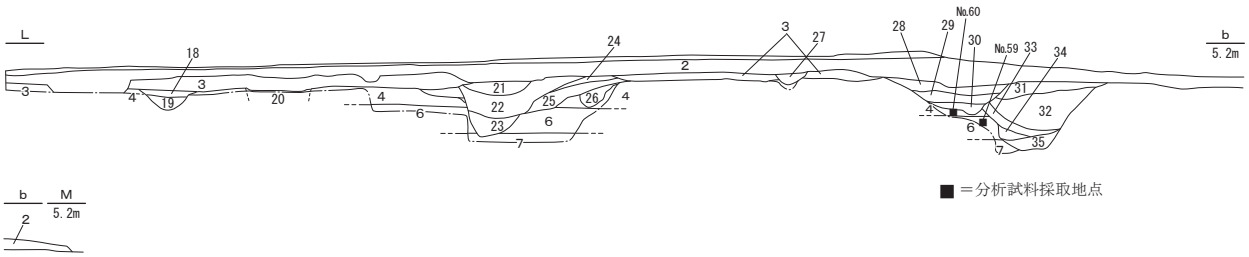
63 2.5Y5/2暗灰黄色中粒砂（礫若干含）
64 2.5Y4/3オリーブ褐色細粒砂（2.5Y5/6黄褐色粘土塊多含）
65 2.5Y4/3オリーブ褐色中粒砂と礫の互層＜SD38074埋土＞
66 2.5Y4/1黄灰色細粒砂と礫の互層＜SD38074埋土＞
67 2.5Y3/3暗オリーブ褐色極細粒砂と5Y4/2灰オリーブ色粗砂の互層
＜SD38074埋土＞
68 5Y4/4暗オリーブ色細粒砂と2.5Y4/2暗灰黄色粗砂の互層
＜SD38074埋土＞
69 2.5Y7/3浅黄色シルト（マンガン塊・礫若干含）＜SD38059埋土＞
70 2.5Y4/3オリーブ褐色極細粒砂
（マンガン塊・礫若干含）＜SD38059埋土＞
71 2.5Y4/2暗灰黄色極細粒砂～細粒砂
（2.5Y7/3浅黄色粘土塊含、マンガン塊・礫若干含）＜SD38059埋土＞
72 2.5Y5/2暗灰黄色中粒砂
（2.5Y7/3浅黄色粘土塊多含、マンガン塊・礫含）＜SD38059埋土＞
73 2.5Y7/3浅黄色シルト（マンガン塊斑状に若干含）
74 2.5Y6/4にぶい黄色シルト（マンガン塊斑状に若干含）＜SD38059埋土＞
75 2.5Y4/2暗灰黄色シルト（マンガン塊斑状に若干含）＜SD38059埋土＞
76 2.5Y6/6明黄褐色シルト～極細粒砂
（マンガン塊斑状に含）＜SD38059埋土＞
77 2.5Y6/3にぶい黄色極細粒砂と2.5Y5/4黄褐色極細粒砂の混成土
＜SD38059埋土＞
78 5Y4/3暗オリーブ色シルト～粘土＜SD38059埋土＞
79 2.5Y4/2暗灰黄色中粒砂と2.5Y6/4にぶい黄色シルトの混成土
（礫若干含）＜SD38086埋土＞
80 2.5Y6/3にぶい黄色シルト＜SD38086埋土等＞
81 2.5Y4/3オリーブ褐色細粒砂
（2.5Y7/3浅黄色粘土塊・礫若干含）＜SD38086埋土＞
82 2.5Y5/3黄褐色極細粒砂
（2.5Y5/6黄褐色粘土塊多含、礫若干含）＜SD38086埋土＞
83 2.5Y6/4にぶい黄色シルト（礫若干含）＜SD38099埋土＞
84 2.5Y6/2灰黄色シルト
（2.5Y6/6明黄褐色粘土塊含、礫若干含）＜SD38099埋土＞
85 2.5Y6/4にぶい黄色極細粒砂（礫若干含）＜SD38098埋土＞
86 2.5Y6/3にぶい黄色シルト
（2.5Y7/6明黄褐色粘土塊含）＜SD38098埋土＞
87 2.5Y5/3黄褐色シルト＜SD38081・38098埋土＞
88 2.5Y4/2暗灰黄色シルト＜SD38080・38098埋土＞
89 2.5Y4/3オリーブ褐色粘土
（2.5Y6/8明黄褐色粘土塊含）＜SD38098埋土＞
90 10YR5/4にぶい黄色シルト（礫若干含）＜撹乱＞
91 10YR4/2暗灰黄色極細粒砂
（10YR6/6明黄褐色粘土塊多含、礫若干含）＜SD38044埋土＞
92 7.5YR4/2灰褐色シルト（小礫若干含）
93 2.5Y6/2灰黄色極細粒砂（小礫若干含）
94 10YR4/3にぶい黄褐色シルト～細粒砂
95 2.5Y5/4黄褐色シルト（鉄分塊若干含）＜SD38096埋土＞
96 2.5Y6/3にぶい黄色シルト（鉄分塊若干含）＜SD38096埋土＞
97 2.5Y5/2暗灰黄色シルト（2.5Y7/3浅黄色粘土若干含）＜SD38096埋土＞
98 2.5Y7/3浅黄色シルト
99 2.5Y5/4黄褐色シルト＜SD38081埋土等＞
100 2.5Y5/2暗灰黄色シルト（2.5Y6/6明黄褐色粘土塊含）
101 2.5Y6/2灰黄色シルト
（2.5Y5/6黄褐色粘土塊斑状に多含）＜SD38088埋土＞
102 2.5Y5/3黄褐色シルト
（2.5Y5/6黄褐色粘土塊斑状に多含）＜SD38088埋土＞
103 10YR5/2灰黄褐色極細粒砂
（2.5Y5/6黄褐色粘土塊斑状に多含）＜SD38088埋土＞
104 10YR6/2灰黄褐色シルト
（10YR7/4にぶい黄橙色粘土塊多含）＜SD38073埋土＞
105 10YR6/3にぶい黄橙色極細粒砂
（10YR7/4にぶい黄橙色粘土塊多含）＜SD38073埋土＞
106 10YR5/3にぶい黄褐色シルト（鉄分塊若干含）＜SD38073埋土＞
107 10YR5/2灰黄褐色シルト
（鉄分塊・7.5YR4/3褐色中粒砂含）＜SD38073埋土＞
108 2.5Y5/1黄灰色粘土（2.5Y7/4浅黄色粘土塊多含）＜SD38073埋土＞
109 10YR5/3にぶい黄褐色シルト
110 10YR6/3にぶい黄橙色シルト（2.5Y5/6黄褐色粘土塊多含）＜SD38075埋土＞
111 10YR4/3にぶい黄褐色シルト＜SD38081埋土＞
112 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト＜SD38081埋土＞
113 2.5Y5/4黄褐色シルトと2.5Y7/4浅黄色シルトの混成
（礫若干含）＜SD38080埋土＞
114 2.5Y5/3黄褐色極細粒砂
（下層に10YR5/4にぶい黄褐色シルトが一部堆積、礫若干含）＜SD38080埋土＞
115 10YR5/2灰黄褐色細粒砂と10YR6/6明黄褐色極細粒砂の混成＜SD38080埋土＞
116 10YR4/1褐灰色粘土
（10YR6/6明黄褐色シルト塊・炭化物若干含）＜SD38080埋土＞
117 2.5Y4/3オリーブ褐色粘土（炭化物若干含）＜SD38080埋土＞
118 5Y4/2灰オリーブ色粘土と2.5Y3/1オリーブ黒色粘土の互層
（炭化物若干含）＜SD38080埋土＞
119 7.5Y3/1オリーブ黒色粘土と2.5Y5/3灰オリーブ色シルトの互層
（炭化物・枝葉類若干含）＜SD38080埋土＞
120 5Y3/2オリーブ黒色粘土（炭化物若干含）＜SD38080埋土＞
121 2.5Y5/2暗灰黄色シルト＜SD38080・38087埋土＞
122 2.5Y6/3にぶい黄色極細粒砂
（2.5Y6/6明黄褐色粘土塊多含）＜SD38087埋土＞
123 5Y5/2灰オリーブ色細粒砂
（10YR5/4にぶい黄褐色シルト塊含）＜SD38087埋土＞
124 10YR4/2灰黄褐色シルト～細粒砂＜SD38087埋土＞
125 2.5Y4/1黄灰色シルト（枝葉類・炭化物含）＜SD38087埋土＞
126 2.5Y4/3オリーブ褐色粘土（枝葉類・炭化物若干含）＜SD38087埋土＞
127 2.5Y3/3暗オリーブ褐色粘土（炭化物若干含）＜SD38087埋土＞
128 8/灰白色粘土＜SD38087埋土＞
129 2.5Y3/1黒褐色粘土（炭化物若干含）＜SD38087埋土＞
130 2.5Y3/2黒褐色粘土（炭化物若干含）＜SD38087埋土＞

第27-2図　８区西壁土層断面図（1：100）

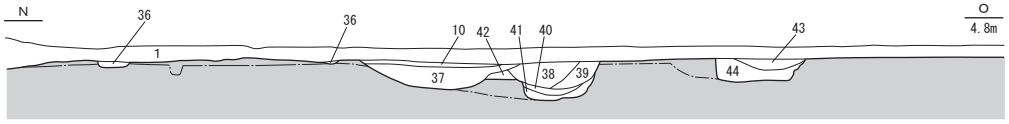
中央東壁



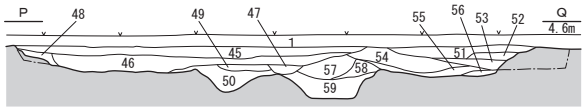
中央南壁



南部北壁

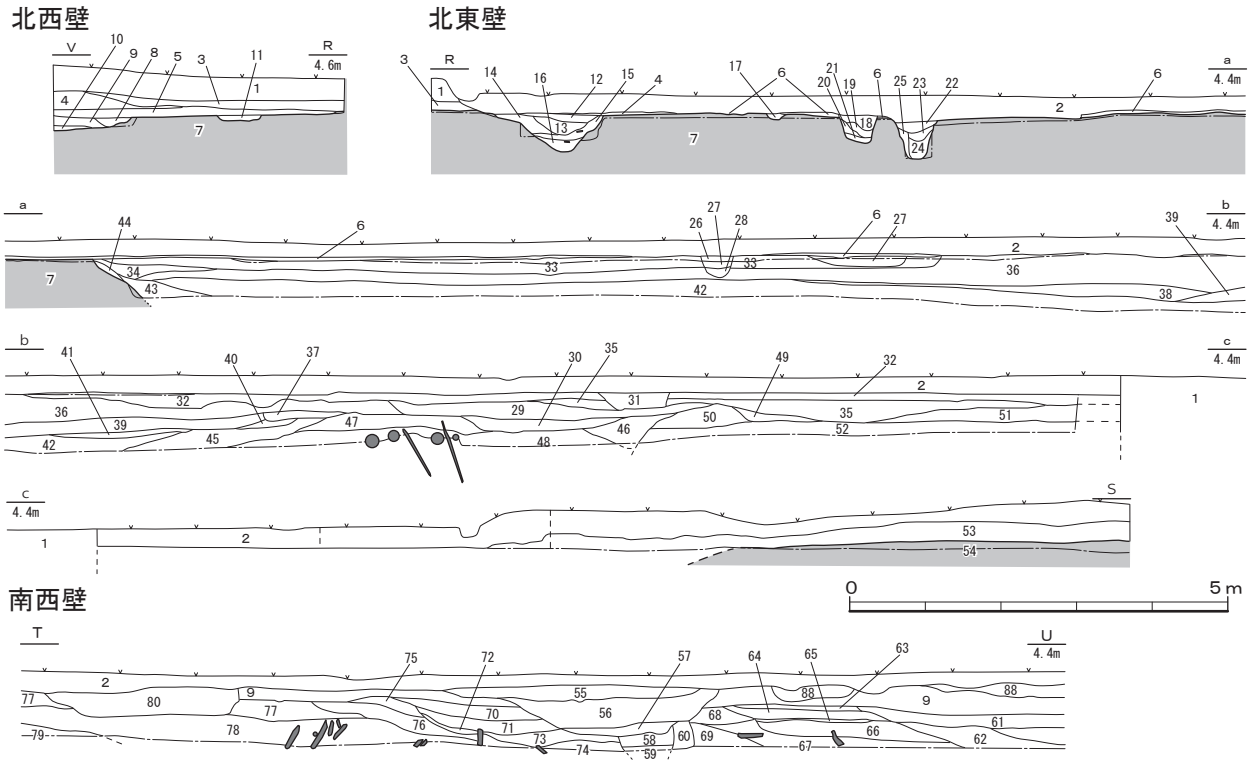


南部南壁



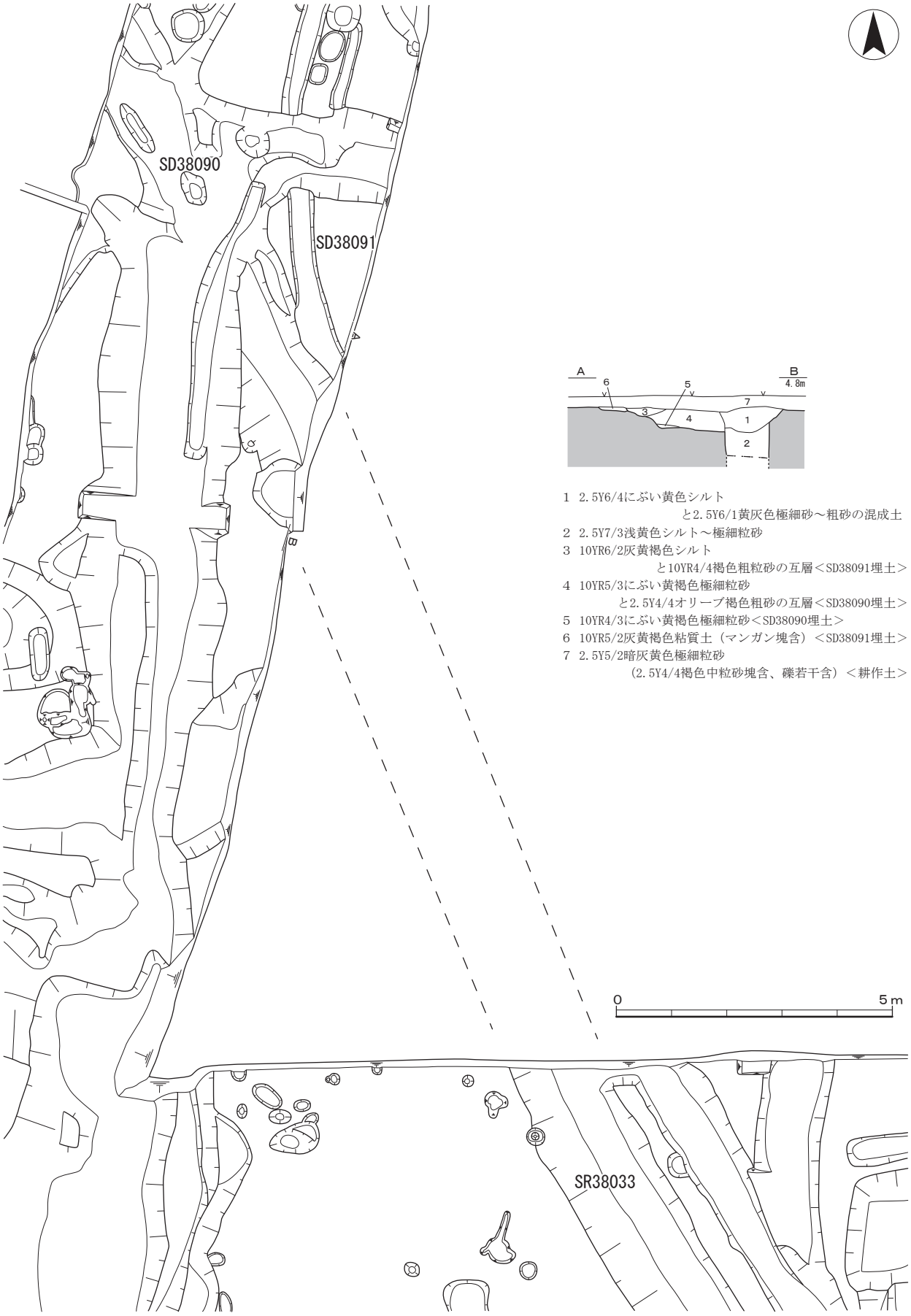
1 2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂と2.5Y4/4オリーブ褐色中粒砂塊＜表土、耕土＞
2 2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂と2.5Y/4オリーブ褐色中粒砂の互層
＜床土、旧耕土＞
3 2.5Y5/3黄褐色シルト（礫含）
4 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルトと10YR5/3にぶい黄褐色シルト塊多含
＜縄文土器包含層＞
5 10YR5/3にぶい黄褐色シルト（2.5Y4/6オリーブ褐色粘土塊含）
6 2.5Y7/3浅黄色粘土（マンガン塊含）
7 2.5Y6/2灰黄色細粒砂
8 2.5Y5/3黄褐色シルト（礫若干含）
9 2.5Y6/2灰黄色シルト（礫若干含）
10 2.5Y6/4にぶい黄色シルト＜SD38033埋土等＞
11 2.5Y5/2暗灰黄色シルト（礫若干含）
12 2.5Y7/4浅黄色シルトと2.5Y6/2灰黄色シルトの混成
13 10YR6/3にぶい黄橙色シルトと10YR4/4褐色極細粒砂の混成＜SD38083埋土＞
14 2.5Y5/6黄褐色シルト＜SD38083埋土＞
15 2.5Y6/4にぶい黄色シルト（2.5Y4/2暗灰黄色粘土塊多含）＜SD38070埋土＞
16 2.5Y6/2灰黄色細粒砂と2.5Y5/4黄褐色シルトの混成（礫若干含）
17 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト
18 2.5Y4/3オリーブ褐色シルトと10YR4/6褐色極細粒砂塊の混成
＜SD38060埋土＞
19 10YR5/4にぶい黄褐色シルト＜SD38060埋土＞
20 10YR4/2灰黄褐色シルト
21 10YR5/4にぶい黄褐色シルト（礫若干含）＜SD38083埋土＞
22 10YR4/2灰黄褐色シルト（礫若干含）＜SD38083埋土＞
23 10YR5/3にぶい黄褐色シルト（2.5Y6/8明黄褐色極細粒砂塊若干含、
下位に5PB6/1青灰色細粒砂堆積＜SD38083埋土＞
24 10YR6/3にぶい黄褐色シルトと10YR4/4褐色極細粒砂の混成（礫若干含）
＜SD38083埋土＞
25 2.5Y5/6黄褐色シルト（10YR4/4褐色極細粒砂塊多含）＜SD38083埋土＞
26 10YR5/2灰黄褐色シルト（2.5Y7/3浅黄色粘土塊多含）
27 10YR4/1褐灰色細粒砂
28 2.5Y6/2灰黄色極細粒砂＜SD38099埋土＞
29 2.5Y6/4にぶい黄色シルト（礫若干含）＜SD38099埋土＞
30 2.5Y6/2灰黄色シルト（2.5Y6/6明黄褐色粘土塊含）＜SD38099埋土＞
31 2.5Y6/4にぶい黄色極細粒砂（礫若干含）＜SD38098埋土＞
32 2.5Y6/3にぶい黄色シルト（2.5Y7/6明黄褐色粘土塊含）＜SD38098埋土＞
33 2.5Y5/3黄褐色シルト＜SD38098埋土＞
34 2.5Y4/2暗灰黄色シルト＜SD38098埋土＞
35 2.5Y4/3オリーブ褐色粘土（2.5Y6/8明黄褐色粘土塊含）＜SD38098埋土＞
36 2.5Y7/2灰黄色粘土
37 2.5Y5/2暗灰黄色細粒砂（2.5Y7/4浅黄色シルト塊若干含）＜SR38033埋土＞
38 2.5Y7/2灰黄色シルト（マンガン塊若干含）＜SD38032埋土＞
39 2.5Y6/3にぶい黄色粘土（マンガン塊若干含）＜SD38032埋土＞
40 2.5Y5/1黄灰色粘土（2.5Y5/6黄褐色シルト塊若干含）＜SD38032埋土＞
41 2.5Y4/1黄灰色粘土（2.5Y5/6黄褐色シルト塊含）＜SD38032埋土＞
42 2.5Y4/3オリーブ褐色粗粒砂～粗砂
43 10YR6/1褐灰色粘土～シルト＜SD38031埋土＞
44 10YR5/2灰黄褐色粘土＜SD38031埋土＞
45 10YR5/2灰黄褐色シルト～極細粒砂
（マンガン粒薄く含、礫・木炭粒散在）＜SD38030埋土＞
46 10YR5/2灰黄褐色シルト
（マンガン粒含、礫若干含、木炭粒点在）＜SD38030埋土＞
47 10YR5/3にぶい黄褐色シルト～極細粒砂
（マンガン粒若干含）＜SD38030埋土＞
48 10YR5/3にぶい黄褐色極細粒砂～シルト
（礫若干含、木炭粒散在）＜SD38030埋土＞
49 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂～シルト
（鉄分滲み薄く含、礫・木炭粒若干含）＜SD38030埋土＞
50 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂
（2.5Y6/2灰黄色シルト塊・鉄分滲み含）＜SD38030埋土＞
51 10YR6/2にぶい黄褐色細粒砂（マンガン鉄分滲含）＜SR38033埋土＞
52 10YR6/2にぶい黄褐色細粒砂（マンガン粒含）＜SR38033埋土＞
53 10YR6/2にぶい黄褐色細粒砂
（2.5Y4/3オリーブ褐色極細粒砂塊若干含）＜SR38033埋土＞
54 2.5Y4/2暗灰黄色中粒砂～極細粒砂＜SR38033埋土＞
55 2.5Y5/2暗灰黄色細粒砂～中粒砂＜SR38033埋土＞
56 2.5Y4/3オリーブ褐色中粒砂～極細粒砂（鉄分滲み多含）＜SR38033埋土＞
57 2.5Y4/2暗灰黄色中粒砂～極細粒砂
（10YR5/2灰黄褐色シルト塊含）＜SD38031埋土＞
58 2.5Y4/3オリーブ褐色極細粒砂～細粒砂＜SD38032埋土＞
59 2.5Y4/1黄灰色シルト
（鉄分滲み散在、2.5Y5/4黄褐シルト塊若干含）＜SD38032埋土＞
60 撹乱

第28図　８区中央東壁・中央南壁・南部北壁・南部南壁土層断面図（1：100）



1 客土
2 灰白色粘質土＜耕作土＞
3 10YR6/2灰黄褐色極細粒砂（10YR3/3暗褐色極細粒砂塊含、小礫若干含）
4 10YR5/2灰黄褐色極細粒砂と10YR3/4暗褐色極細粒砂の混成土（小礫若干含）
5 2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂～シルト（10YR3/1黒褐色シルト塊多含）
6 2.5Y4/3オリーブ褐色極細粒砂と2.5Y5/2暗灰黄色シルトの混成土
7 2.5Y6/6明黄褐色シルト（2.5Y6/2灰黄色粘土粒含）＜検出面＞
8 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂（マンガン粒含、礫若干含）＜SD39001埋土＞
9 10YR5/3にぶい黄褐色極細粒砂～シルト
（鉄分による変色、マンガン粒含）＜SD39001埋土＞
10 10YR4/1褐色極細粒砂～細粒砂（マンガン粒不均一に含）＜SD39001埋土＞
11 10YR4/4褐色シルト～極細粒砂（マンガン粒若干含）
12 10YR4/4褐色極細粒砂～シルト（マンガン粒含、礫若干含）＜SD39004埋土＞
13 10YR4/4褐色極細粒砂と10YR5/4鈍い黄褐色シルト塊
（マンガン粒若干含）の混成＜SD39004埋土＞
14 10YR4/4褐色極細粒砂（10YR4/4褐色シルト塊含）＜SD39004埋土＞
15 10YR4/2灰黄褐色シルト～極細粒砂（マンガン粒若干含）＜SD39004埋土＞
16 5Y4/2灰オリーブ色シルト（鉄分斑・礫が散在）＜SD39004埋土＞
17 10YR5/3にぶい黄褐色シルト～極細粒砂（マンガン粒若干含）＜SD39006埋土＞
18 10YR5/3にぶい黄褐色極細粒砂～シルト（2.5Y6/2灰黄色マンガン粒含シルト塊含）
19 10YR5/3にぶい黄褐色極細粒砂～シルト（10YR5/3にぶい黄褐色シルト塊多含）
20 10YR5/3にぶい黄褐色極細粒砂～シルト（10YR5/3にぶい黄褐色シルト塊含）
21 10YR4/1褐灰色シルト＜小穴埋土＞
22 10YR4/2灰黄褐色シルト～極細粒砂
（マンガン粒・10YR4/4褐色マンガン粒含シルト塊若干含）＜SK39011埋土＞
23 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂～シルト（鉄分斑散在）＜SK39011埋土＞
24 5Y4/2灰オリーブ色シルト（鉄分斑散在）＜SK39011埋土＞
25 2.5Y4/2暗灰黄色シルト（マンガン粒・礫若干含、木炭粒点在）＜SK39011埋土＞
26 2.5Y5/2灰黄褐色シルト～極細粒砂（マンガン粒多含）＜SD39007埋土＞
27 2.5Y5/3黄褐色シルト～極細粒砂（鉄分滲含）＜SD39007埋土等＞
28 2.5Y4/3オリーブ褐色極細粒砂～シルト
（鉄分斑状に含、礫若干含）＜SD39007埋土等＞
29 5B7/1明青灰色粘土＜SD39014埋土＞
30 2.5Y7/2灰黄色極細粒砂～細粒砂（2.5Y4/6オリーブ褐色粗砂含）＜SD39014埋土＞
31 2.5Y6/1黄灰色粘質土（礫多含）＜SK39013埋土＞
32 2.5Y5/6黄褐色極細粒砂（10YR5/4にぶい黄褐色シルト・礫含）
33 10YR5/3にぶい黄褐色シルト～極細粒砂（10YR4/6褐色極細粒砂含）
34 10YR4/2灰黄色シルト～極細粒砂（10YR4/6褐色シルト含）＜SD39008埋土＞
35 2.5Y6/2灰黄色シルト～極細粒砂（鉄分縦筋状に多含）
36 10YR6/2灰黄褐色粘土＜SR39016埋土＞
37 2.5Y7/2灰黄色シルトと10YR4/6褐色シルトの混成（礫含）＜SR39016埋土＞
38 2.5Y4/6オリーブ色シルト～粘土（5Y5/2灰オリーブ色シルト～極細粒砂含、
10YR5/6黄褐色粗砂塊若干含）＜SR39016埋土＞
39 5Y4/2灰オリーブ色シルト～粘土（10YR4/6褐色シルト塊含）＜SR39016埋土＞
40 5PB6/1青灰色シルト～粘土
（2.5Y4/6オリーブ褐色シルト塊含）＜SR39016埋土＞
41 5PB5/1青灰色シルト～粘土＜SR39016埋土＞
42 5PB4/1暗青灰色粘土＜SR39016埋土＞
43 2.5Y4/2灰黄褐色シルト～粘土（2.5Y6/6明黄褐色シルト塊含）＜SR39016埋土＞
44 2.5Y4/1黄灰色シルト～粘土（10YR4/6褐色シルト塊若干含）＜SR39016埋土＞
45 5PB4/1暗青灰色粘土（5PB5/1青灰色細粒砂横筋疎含）＜SR39016埋土＞
46 5Y5/1灰色シルト～粘土（10YR7/2にぶい黄橙色中粒砂筋状含）＜SR39016埋土＞
47 5Y4/2灰オリーブ色極細粒砂～細粒砂＜SR39016埋土＞
48 2.5Y6/3にぶい黄色粘土（2.5Y6/1黄灰色極細粒砂～粗砂塊含）＜SR39016埋土＞
49 5PB7/1明青灰色粘土～極細粒砂（上層の影響で一部変色）
50 2.5Y6/4にぶい黄色極細粒砂
（10YR6/4にぶい黄橙色粗粒砂含、2.5Y5/2暗灰黄色粘土筋状含）
51 5Y6/2灰オリーブ色極細粒砂～粗砂
52 5PB3/1暗青灰色極細粒砂～礫
53 10YR7/2にぶい黄橙色シルトと2.5Y5/3黄褐色シルトの混成（礫含）
54 2.5Y5/3黄褐色粘土（2.5Y6/2灰黄色粘土塊多含）
55 2.5Y4/1黄灰色極細粒砂（2.5Y5/3黄褐色シルト塊・砂礫塊含）＜SK39018埋土＞
56 2.5Y4/2暗灰黄色極細粒砂
（5Y5/3灰オリーブ粘土塊含、下位に礫含）＜SK39018埋土＞
57 5Y3/1オリーブ黒色粘土（5Y4/3暗オリーブ色粘土塊含）＜SK39018埋土＞
58 2.5Y3/1黒褐色粘土＜SK39018埋土＞
59 5Y4/1灰色細粒砂＜SK39018埋土＞
60 5Y3/2黒オリーブ色粘土（5Y6/3オリーブ黄色シルト塊含）＜SK39018埋土＞
61 5Y4/1灰色極細粒砂～中粒砂と5Y5/3灰オリーブ色細粒砂～粗砂の互層
＜SR39016埋土＞
62 5Y4/1灰色中粒砂～粗砂と5Y4/2灰オリーブ色中粒砂の混成＜SR39016埋土＞
63 10YR4/6褐色粗粒砂と2.5Y7/4浅黄色粗粒砂の互層＜SR39016埋土＞
64 2.5Y6/2灰黄色極細粒砂～中粒砂と2.5Y5/2暗灰黄色細粒砂～粗粒砂の互層
＜SR39016埋土＞
65 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト～極細粒砂＜SR39016埋土＞
66 5Y4/2灰オリーブ色シルト～細粒砂と5Y5/1灰色細粒砂の混成＜SR39016埋土＞
67 5Y3/1オリーブ黒色粘土と7.5Y4/1灰色極細粒砂～中粒砂の混成＜SR39016埋土＞
68 2.5Y4/1黄灰色細粒砂～粗粒砂と2.5Y5/3黄褐色極細粒砂～中粒砂の互層
＜SR39016埋土＞
69 2.5Y5/2暗灰黄極細粒砂～中粒砂と2.5Y3/3粘土の混成＜SR39016埋土＞
70 5Y5/2灰オリーブ色極細粒砂～中粒砂と5BP6/1青灰色細粒砂、
2.5Y3/2黒褐色粘土の混成（10YR5/4鈍い黄褐色極細粒砂筋状に含）
＜SR39016埋土＞
71 5PB6/1青灰色細粒砂～中粒砂と2.5Y6/1黄灰色シルト～極細粒砂の混成
＜SR39016埋土＞
72 5Y4/1灰色極細粒砂～粘土＜SR39016埋土＞
73 5Y3/2オリーブ黒色粘土と5Y4/1灰色粘土の混成
（2.5Y4/2暗灰黄色極細粒砂含）＜SR39016埋土＞
74 7.5Y6/2灰オリーブ色粘土と5Y3/2オリーブ黒色粘土の混成＜SR39016埋土＞
75 5Y4/1灰色粘土～シルトと5Y4/4暗オリーブ色粘土の混成＜SR39016埋土＞
76 5Y5/1灰色シルト～極細粒砂と5Y6/2灰オリーブ色細粒砂～中粒砂の互層
＜SR39016埋土＞
77 2.5Y7/2灰黄色極細粒砂～シルト
（10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂が縦筋状に含）＜SR39016埋土＞
78 5PB3/1暗緑灰色粘土（2.5Y6/4にぶい黄色細粒砂～粗粒砂塊含＜SR39016埋土＞
79 10YR5/6黄褐色細粒砂～粗砂（礫微量含）＜SR39016底部＞
80 2.5Y5/2暗灰黄色シルト
（7.5YR4/6褐色焼土・2.5YR7/8黄色シルト若干含、瓦多含）＜SK39012埋土＞
81 5Y3/2オリーブ黒色極細粒砂～シルト（鉄分滲み散在）＜SD39001埋土＞
82 5Y3/2オリーブ黒色細粒砂～極細粒砂＜SD39001埋土＞
83 5Y3/2オリーブ黒色細粒砂～中粒砂（礫若干含、木端散在）
84 2.5Y4/2暗灰黄色シルト～極細粒砂
（鉄分滲み散在、上位に5Y5/3灰オリーブ色シルト塊散在）
85 2.5Y4/2灰黄褐色シルト～極細粒砂
（マンガン粒不均一に多含、礫若干含、木端散在）
86 2.5Y4/2灰黄褐色シルト（鉄分滲み斑状に含、礫若干含）
87 5Y3/2オリーブ黒色極細粒砂～細粒砂（鉄分滲み斑状に散在）
88 撹乱

第29図　９区土層断面図（1：100）



1 2.5Y6/4にぶい黄色シルト
と2.5Y6/1黄灰色極細砂～粗砂の混成土
2 2.5Y7/3浅黄色シルト～極細粒砂
3 10YR6/2灰黄褐色シルト
と10YR4/4褐色粗粒砂の互層＜SD38091埋土＞
4 10YR5/3にぶい黄褐色極細粒砂
と2.5Y4/4オリーブ褐色粗砂の互層＜SD38090埋土＞
5 10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂＜SD38090埋土＞
6 10YR5/2灰黄褐色粘質土（マンガン塊含）＜SD38091埋土＞
7 2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂
（2.5Y4/4褐色中粒砂塊含、礫若干含）＜耕作土＞

第30図　SR38033、SD38090・38091実測図（1：100）

ＳＤ３７００８・３８０５９・３８０８６（第26・27図）　ＳＤ37008とＳＤ38059は、８区中央部を斜行し、７区を掠め調査区外へ続く１条の溝である。幅４ｍ、深さ１ｍに及ぶ大規模なもので、断面形は緩やかなＶ字形を呈する。埋土は、細砂を含む層があるものの粘質土が主体である。土師器の甕や甑片が出土しているが、溝の規模に比べ少量である。

調査区外北西側の延長上に第２次調査で検出されたＳＤ2070がある。これへ続くものとするに、規模や時期に矛盾はなく、延長30ｍを直線状に延びることになる。その先は、現況の溝のため消滅したかたちとなるが、それに沿って検出されたＳＤ2073が同時期であり[②]、直角以上の角度で南へ方向を変えていた可能性がある。

ＳＤ38086は、ＳＤ38059の北側に浅く広がる落ち込みである。埋土の観察ではＳＤ38059に先行し、奈良時代の土師器甕が出土している。室町時代の土師器皿も出土しているが、混入とし、ＳＤ38059と同時期としておく。

ＳＤ３７０１０（第26図）　７区中央部を北西から南東に横断する溝である。３ｍ東側に同時期の溝ＳＤ37007があるが、規模や方向を違える。幅１ｍ、深さ60cm程度で、ＳＤ37007と比べ小規模であるが、断面形や埋土、出土遺物の状況は類似する。

ＳＤ３８０２４　８区南東端ちかくを南北に延びる溝である。幅40cm、検出面からの深さは10cm未満の痕跡程度の溝である。検出時点では調査区を横断する状況で検出されたが、南側はほとんど掘削深度が生じていない。奈良時代と思われる土師器小片が出土したに止まるが、検出時点で鎌倉時代のＳＫ38019に先行することが確認されていることもあり、この時期とした。

ＳＤ３８０５４　８区南部で検出した。幅は40～20cmで安定せず、検出面からの深さも10cm未満の痕跡程度のものである。律令期以前の土師器小片が若干出土したのみで時期決定に苦しむ。検出時点では重複する室町時代の遺構より先行することが確認でき、周囲にこの時代の遺構が分布することから、根拠が薄弱ではあるものの奈良時代とした。

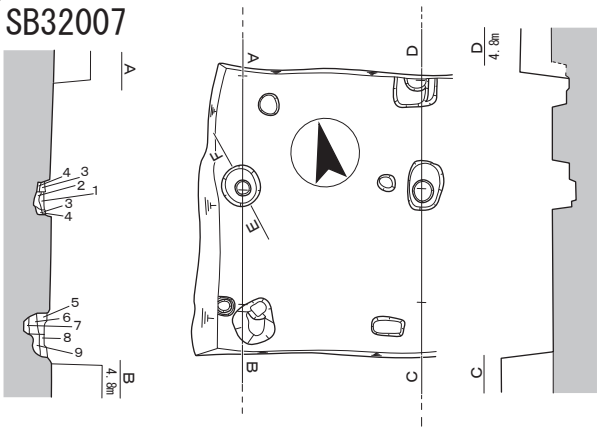
ＳＤ３８０５６　８区南部を南西から北東方向へ延びる溝であるが、延長８ｍで両端共に途切れている。幅60cm、検出面からの深さ10cm程度である。出土遺物は土師器の甕片で、飛鳥時代に遡る可能性がある。

ＳＤ３９００８・ＳＲ３９０１６（第29・33図）　ＳＲ39016は９区中央部を流れる流路で、ＳＤ39014とＳＤ39001の一部に下層として重複する。西岸はＳＤ39008付近、東岸はＳＤ39014とほぼ共有し、幅24ｍを測る大規模な流路である。したがって、同時期のＳＤ39008はＳＲ39016が埋没してゆく最終形態を表すものと思われる。深さは不明確ではあるが、流路東岸付近に木製の水利施設があり、この下端が一時期の底と考えられる。したがって、深さは60cm程である。それ以下は、砂と粘土が互層する様子を一部で確認したが、湧水による崩落が激しく完掘を断念した。

壁は、流路のため非常に緩やかで、埋土は粘質土と粗砂や細粒砂で構成される。水利施設は、両端共調査区外に及んでおり、全体の形状は不明であるが、流路底に寝かせた丸太や枝材と多数の打ち込まれた杭で形成されている。流路の壁に沿うかたちで真直ぐに延び、延長方向に置かれた径４cm程の枝材の両側から杭を打ち込み支える構造である。杭は流路底から１ｍ以上深く打ち込まれているものも多く、２ｍに及ぶ長大な杭を使用し、杭間には角材や枝葉類を挟み込み、目つぶしとしている。流路を堰き止める方向ではなく、ある程度水流に沿うかたちで杭列を配し、東岸との間に幅1.5ｍの分流を形成している。この分流は、調査区北部で140°方向を変え、調査区外へ続いている。鈍角に水流を変化させる最も水圧のかかる部分は、杭列背後に直径20cmの丸太を横に配する頑丈な構造をとる。しかし丸太は、同様なもの３本（丸太Ａ・Ｃ・Ｄ）と細いもの１本（丸太Ｂ）の計４本を背後に平行に配置するとともに杭をやや疎らに打ち込み固定する過剰なもので、背後の３本（丸太Ｂ～Ｄ）は耐水圧に寄与するとは思えない。丸太Ｄの背後に打ち込まれた杭も斜方向に１ｍ以上もの深さに打ち込まれているものの、水圧に対しては順方向となり強度への期待は薄いものである。したがって、丸太Ａ～Ｄを並べた部分は、この部分としての機能があったものかも知れない。

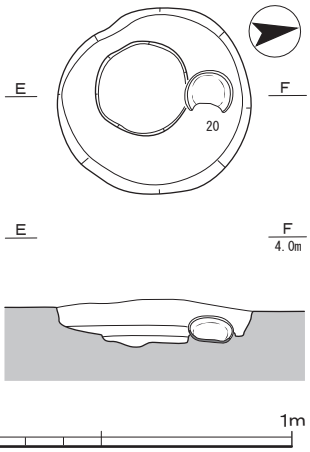
周囲には多数の杭が乱立し、杭列の残骸にみえる

SB32007



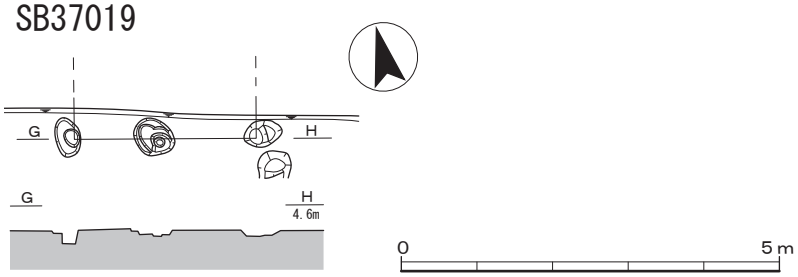
1 2.5Y4/3オリーブ褐色粘土（2.5Y6/3にぶい黄色シルト塊含）＜柱痕跡＞
2 2.5Y5/4黄褐色粘土＜柱痕跡＞
3 2.5Y5/2暗灰黄色粘土と2.5Y5/6黄褐色粘土塊の混成土
4 2.5Y4/2暗灰黄色粘土と2.5Y6/6明黄褐色粘土塊の混成土
5 2.5Y4/2暗灰黄色シルト～極細粒砂＜柱痕跡＞
6 10YR4/1褐灰色シルト～極細粒砂＜柱痕跡＞

SB32007柱穴



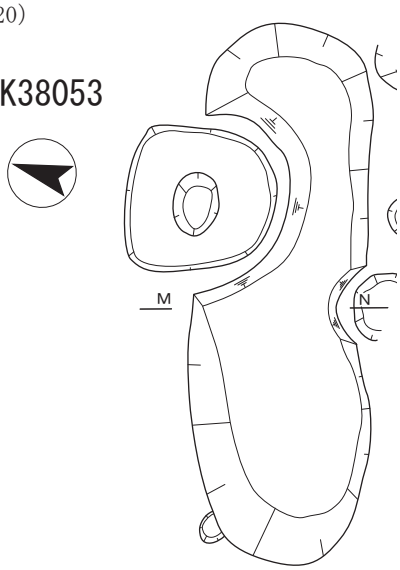
7 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト～粘土＜柱痕跡＞
8 2.5Y4/2暗灰黄色シルト～極細粒砂（2.5Y6/6明黄褐色シルト塊含）
9 2.5Y4/6オリーブ褐色シルト～極細粒砂

SB37019

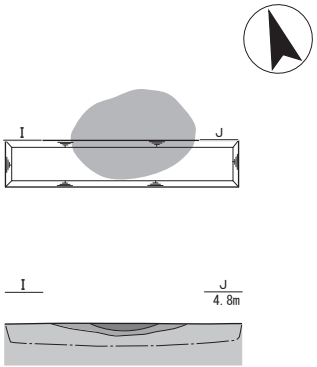


第31図　SB32007・37019実測図（1：100）、**SB32007柱穴遺物出土状況図**（1：20）

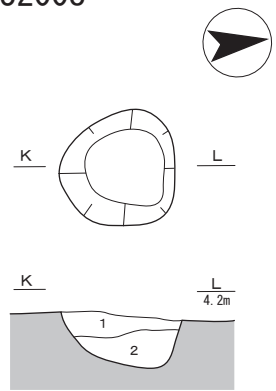
SK38053

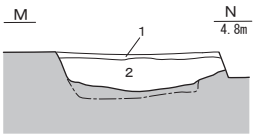


SZ38101



SK32008





焼土

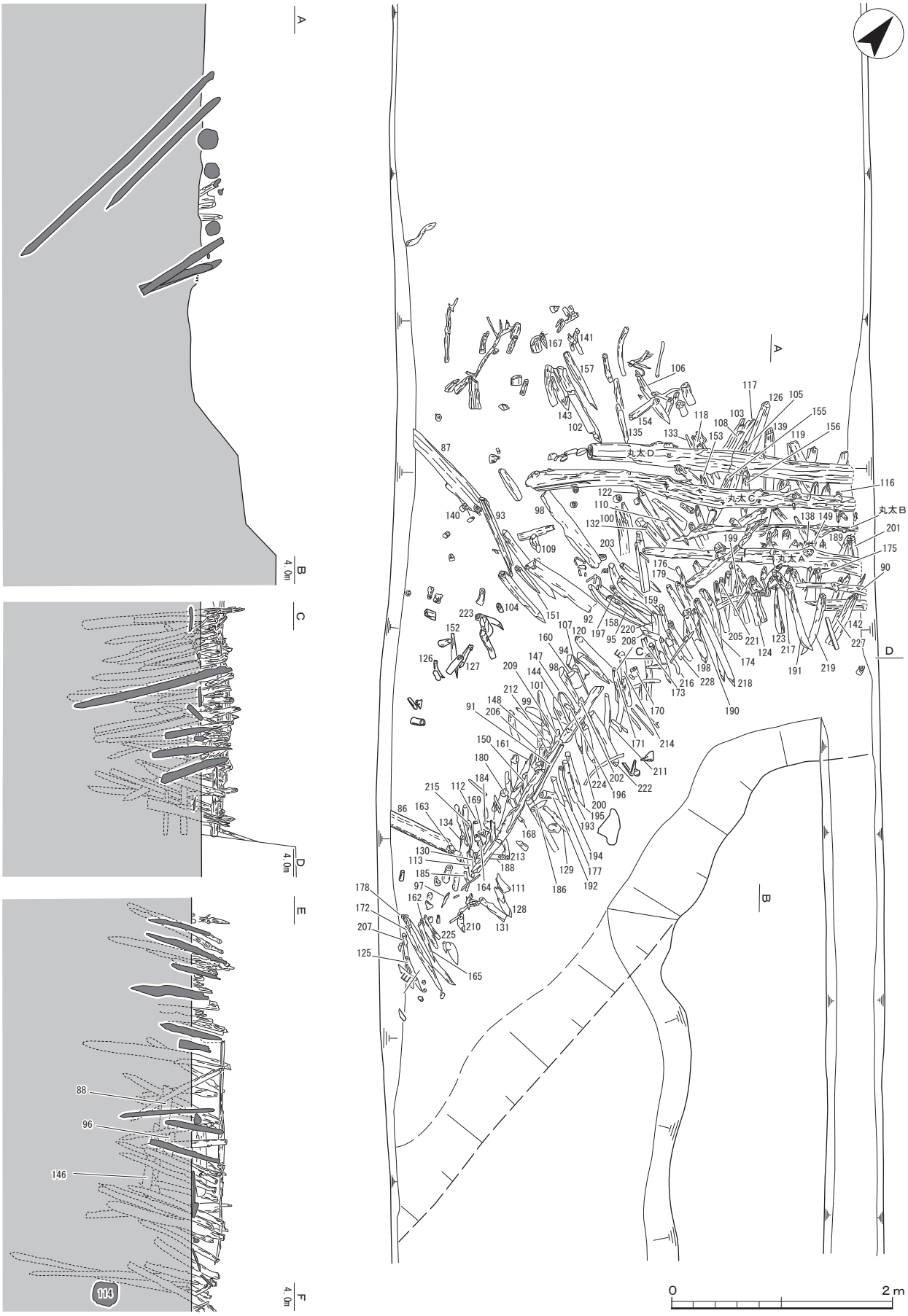
1 2.5Y6/4にぶい黄色シルト
（7.5Y5/6明褐色焼土塊含、炭化物微量含）
2 2.5Y5/3黄褐色シルト（2.5Y4/3オリーブ褐色粘土塊含）

1 2.5Y3/2黒褐色シルト～極細粒砂（小石含）
2 2.5Y3/1黒褐色シルト～極細粒砂
（2.5Y5/6黄褐色シルト～粘土塊多含）

1 10YR6/2灰黄褐色シルト
2 10YR5/3にぶい黄褐色シルト
（マンガン塊含）

0　2m

第32図　SZ38101、SK32008・38053実測図（1：50）



第33図　SR39016実測図（1：50）

ものもある。施設の一部が欠損しているか、何度かの作り替えが行われている可能性もあり、水利施設の目的を探るにおいて混迷を極める。

使用された材には部材を再加工した転用材と自然木の先端を尖らせた杭がある。転用材にはヒノキ、シイ、アカガシ、スギ等の多様な樹種があるのに対し、自然木は大半がマツ属である。

（５）被熱痕

ＳＺ３８１０１（第 32 図）　８区北部で検出した被熱痕である。被熱痕は 50 ～ 80cmの楕円形の焼土の広がりで、一部には炭が分布し、土師器長胴甕片が出土している。このため、浅いレンズ状の土坑を想定したが、土坑壁が焼けるという状況ではなく、被熱による焼土化が深さ５cm 程度に及ぶものである。したがって、部分的な窪みに炭等が堆積したものであろう。長胴甕が出土していることから、この時期のカマドの痕跡としておく。

４．平安時代前半の遺構

この時期の遺構は２区と３区で若干の掘立柱建物、井戸、溝を検出している。前代の奈良時代と識別が困難なものを含むが、前代から継続する可能性を含む。

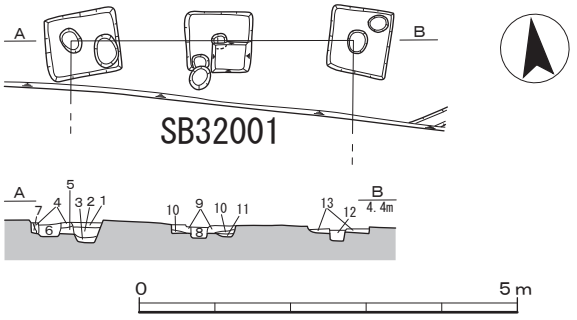
（１）掘立柱建物

ＳＢ３２００１（第 34 図）　２区中央部で３基の柱穴を検出し、南北棟の北側梁行に想定した。柱掘形は一辺 80cmを測る大型のもので、直径 30 ～ 20cmの柱痕跡を検出している。しかし深さは検出面から 15cmほどしかなく、削平が進んでいる。検出段階では、東側にさらに１基、北側にも同様な柱列を検出していたが、掘削深度が無く、遺構と認定できなかった。他の柱穴の削平が進んでいる業況を勘案すれば、３間分の規模があった可能性も残り、総柱の倉庫的建物であったかもしれない。なお、西側に約 1.8 m の間隔をあけて小規模な溝ＳＤ 32002 が並走する。

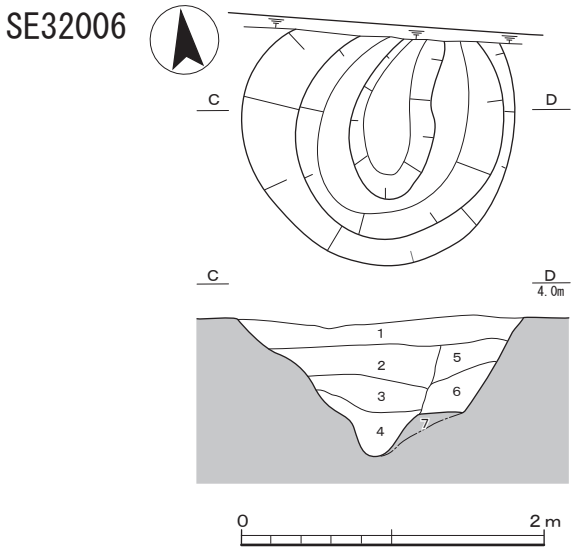
柱痕跡からは平安時代に下る土師器杯が出土している。掘形等からは、奈良時代の遺物も多く出土しているものの平安時代に下るものと判断した。

（２）井戸

ＳＥ３２００６（第 34 図）　２区中央部、ＳＢ 32001 の北東側で検出した土坑であるが、断面形状から井戸枠が抜き取られたものと判断した。深さは検出面から１ｍに届かず、礫層に至らない。したがって、現状では豊富な湧水を得られず、埋土の還元も



1 2.5Y4/2暗灰黄色粘土（2.5Y5/3黄褐色極細粒砂塊含）
2 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト～極細粒砂
3 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト～極細粒砂（2.5Y5/3黄褐色シルト塊含）
4 2.5Y5/6黄褐色シルト～粘土
5 2.5Y6/8明黄褐色シルト～極細粒砂
6 2.5Y4/2暗灰黄色シルト～粘土
7 2.5Y4/6オリーブ褐色シルト～粘土（2.5Y5/6黄褐色粘土塊含）
8 2.5Y4/2暗灰黄色粘土～シルト（2.5Y5/6黄褐色シルト粒含）＜柱痕跡＞
9 2.5Y5/3黄褐色粘土～シルト
10 2.5Y4/1黄灰色粘土～シルト
11 2.5Y4/3オリーブ褐色粘土～シルト
12 2.5Y4/2暗灰黄粘土（2.5Y6/8明黄褐色粘土塊含）
13 2.5Y5/2暗灰黄色シルト（2.5Y7/8黄色シルト塊含）



1 2.5Y8/6黄色シルト～粘土と2.5Y7/１灰白色極細粒砂の混成土
（2.5Y4/6オリーブ褐色土塊若干含）
2 2.5Y8/6黄色シルト～極細粒砂と2.5Y6/１灰白色極細粒砂の混成
3 5Y6/2灰オリーブ細粒砂（2.5Y5/4黄褐色シルトブ塊含）
4 2.5Y4/3オリーブ褐色極細粒砂～細粒砂
（2.5Y5/６黄褐色シルト～細粒砂塊含）
5 5Y4/2灰オリーブ色シルト～極細粒砂
6 5Y4/1灰色シルト～極細粒砂（5Y5/3灰オリーブ色シルト塊含）
7 2.5Y5/2暗灰黄色シルト～極細粒砂
（2.5Y4/4オリーブ褐色極細粒砂塊含）

第34図　SB32001実測図（1：100）、**SE32006実測図**（1：50）

弱い。この様な状況から井戸とするには疑問の多いもので、出土遺物もなく時期も不明とせざるを得ない。周囲には中世の遺構は無く、この時期か奈良時代のものである。ここではＳＢ32001との関連を想定して、この時期と仮定しておく。

ＳＥ３２０１６（第７図）　２区北部で検出した。掘形は直径1.8ｍの円形を呈し、壁は緩やかに傾斜する。検出面から80㎝ほどで細砂層に至るが、それ以下では直径60㎝ほどの規模になり、ほぼ垂直に落ちる。検出面から1.2ｍで、ほぼ完形の曲物(245)が出土した。埋土の観察も加えると井戸本体は直径60㎝程度の円形と考えられる。この曲物が井戸枠か集水桝かの判断に迷うが、掘形に余裕のないことから、曲物を重ねて井戸枠としていた可能性が高い。

（３）溝

ＳＤ３２００２　２区中央部で検出した南北に延びる溝である。幅20㎝、検出面からの深さ15㎝程度の小規模なもので遺物の出土もない。しかし、東側に約1.8ｍの間隔をあけてＳＢ32001があり、方向が揃う。このため、この建物に関連する区画溝の可能性があり、この時期とした。

ＳＤ３３００５（第10図）　３区中央を南北に延びる溝である。幅1.6ｍ、検出面からの深さは60㎝を測り、逆台形の断面形を呈する整然とした溝である。埋土は若干の細砂層を含むものの概ね粘質土である。最下層は湧水点に達するため、還元色となる。溝芯芯間で９ｍの間隔を空けて同様な溝ＳＤ33007が並走する。

ＳＤ３３００７（第10図）　前述のＳＤ33005と同様な規模で、９ｍの間隔を空けて並走する。検出時点では直角にちかい角度で東へ屈曲するものとみえたが、これは後代のＳＤ33012であることが分かった。ＳＤ33007の埋土が南北で大きく異なることや、北半で溝幅に乱れがあることから、ＳＤ33007の北半はＳＤ33012により消滅したものと解釈を変更した。言い換えれば、調査区外から西進するＳＤ33012がＳＤ33007との重複地点で向きを変え、ＳＤ33007と重複して北進したものと判断したい。ただし疑問も残り、両者の深さに違いが無く、一連のＴ字形の溝ともみえることである。

この様に、検出時から掘削時、後日の整理時において、誤認や解釈の変更等が錯綜したため正確を欠く部分があるが、ＳＤ33005と並走する同時期の南北溝としておく。

埋土はＳＤ33005と同様なもので、若干の細砂層を含むものの概ね粘質土である。出土遺物も同様であるが、ＳＤ33005よりやや新相を示す。これは前述の錯綜の影響かもしれない。

５．平安時代中頃の遺構

概ね10世紀から山茶椀が出土する直前までをこの時期としたが、３区で溝を数条検出したに止まっている。

（１）溝

ＳＺ３３００２　３区西部で検出した不定形な落ち込みである。同時期の大溝ＳＤ33010へ流れ込んだ痕跡と思われ、埋土も砂層である。しかし、小片が多いものの土師器杯や黒色土器等の多量の遺物が出土している。単なる流水の痕跡ではないかも知れない。

ＳＤ３３００３・３３００６・３３００８（第10図）

３区を東西に延びる溝である。３状の溝は同方向に延びるものの蛇行し、ＳＤ33008はＳＤ33006により消滅し、そのＳＤ33006はＳＤ33003により消滅している。深さは検出面から20cm程度の浅いもので、幅は概ね60㎝であるが、ＳＤ33003は１ｍ以上に及ぶ。この様な形状と埋土に鉄分等を含むことから、流水の作用により形成されたものと考えられるが、溝の規模に比べて多くの遺物が出土している。

ＳＤ３３００４　３区東部を斜行する溝である。幅20㎝、深さ10㎝未満の小規模なものである。律令期の土師器小片が出土したのみで、詳細な時期は不明とせざるを得ないが、検出時の観察から平安時代前半のＳＤ33007より後出である。他に３区内で斜行する溝は、後述するＳＤ33010のみであり、これと同時期とするに検出時の観察と矛盾はない。

ＳＤ３３０１０（第10図）　３区南西端を斜行する溝である。調査区端のため正確な規模は不明であるが、幅1.5ｍ、検出面からの深さは50㎝を測る比較的規模の大きいものである。近隣の溝と比べ埋土に含む細砂が多いが、自然流路とするほどでもない。

ＳＤ３３０１２　３区東端で検出した溝である。

前代のＳＤ 33007 で既述したように両者で錯綜があるが、西進する溝が調査区内で大きく北に向きを変えている。埋土は上下で大きく異なり、上半が粘質土、下半が礫層にちかい混礫土である。このため、流水があったものと考えられ、若干蛇行気味の形状もそれを裏付ける。混礫土の堆積状況から流水方向は前述とは逆方向の可能性がある。

６．平安時代末～鎌倉時代の遺構

井戸、土坑、溝を検出しているが、全て５区以南の調査区南部に分布する。

（１）井戸

ＳＫ１（第 14 図）　５区東方の 4 - 1 区で検出した井戸である。調査区端での検出のため全体の形状は不明であるが、直径２ｍの円形を呈するものと考えられる。壁は緩やかに傾斜しているが、検出面からの深さ１ｍで直径 40㎝の円筒状の傾向をみせ、深さ 1.3 ｍの湧水点に達している。この部分の埋土は砂が混じるものの、埋土全体的には粘質土系である。井戸とする直接の根拠は無く、土層においても掘形を分離できる様相にないが、井戸枠等が抜き取られたものとして、一応、井戸としておく。

ＳＫ３５００３（第 35 図）　５区東部で検出した直径 2.2 ｍの円形を呈する。掘削できたのは検出面から 40㎝までであるが、埋土の状況から井戸の可能性があり、井戸本体は直径 60㎝の円形と考えられる。山茶椀や土師器羽釜等が出土しているが、土師器皿（435）がほぼ完形で出土している。

ＳＥ３５００５（第 35 図）　５区東部で検出した井戸である。掘形は直径２ｍの不整円形を呈し、検出面から 90㎝で湧水点に達する。埋土は粘質系で各層とも酷似し、井戸本体は直径 60㎝程度とも考えられるが、判然としない。あるいは抜き取られた後、埋め戻されたものかも知れない。ただし、集水桝は直径 40㎝の円形と考えられ、曲物が設置されていたものであろう。土師器皿、山茶椀が出土しているが、埋納と考えられるものはない。

ＳＥ３８０２２（第 35 図）　８区東部で検出した井戸である。掘形は直径 1.8 ～ 2.3 ｍの不整楕円形を呈するが、北側をＳＤ 38018 に削り取られた結果であり、本来は径 2.3 ｍの円形を呈するものと思われる。深さは検出面から１ｍ程で、底には直径 40㎝の２段の曲物が据えられていた。下段は掘形底部より下位に埋設されており、集水桝として機能していたものであろう。その上に曲物を重ね、井戸枠としていたことが埋土の観察からも伺える。したがって、掘形と比べ非常に小さい井戸本体となる。多数の遺物が出土しているが、埋納と思われるものは無い。当該時期でも室町時代にちかい時期のものが散見される。

（２）土坑

ＳＫ３５００２（第 36 図）　５区中央部で検出した２ｍ× 1.7 ｍの正方形にちかい長方形を呈する。深さは検出面から 30㎝程度で、底部は平坦である。土師器鍋の大形破片や山茶椀等が出土しているが、土坑の性格を示すものはない。埋土中層に礫と土器を多く含む層を挟むが、他は粘土質である。中央部に直径 60㎝ほどの不整円形の粘質土がある。土坑底には至らず、別遺構の可能性もあるが、判然としない。

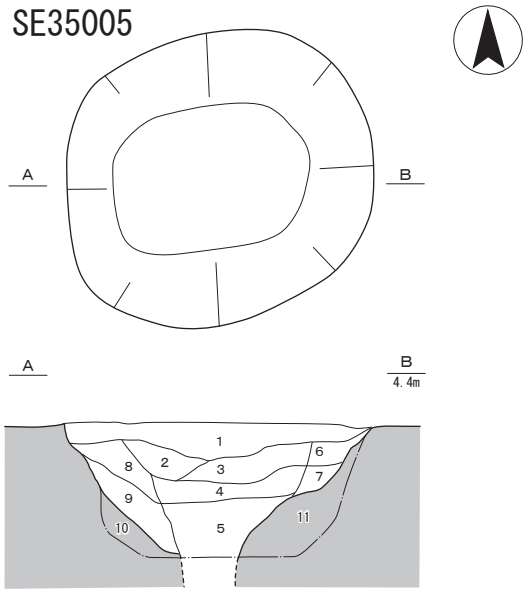
ＳＫ３５００７（第 37 図）　５区中央で検出した 3.8 ｍ× ３ｍの長方形を呈する大型の土坑である。深さは検出面から 20㎝未満の規模に対して非常に浅いものである。形状的には中世の建物に伴う南東隅土坑に似る。周囲には柱穴状の小穴も多数検出されており、根石を伴うものもある。掘立柱建物の存在が疑われるが、建物としてまとまらなかった。後出の土坑ＳＫ 35004 と重複するが、深さの差はなく、掘削の結果、一連の状態を呈している。

ＳＫ３５０１０　５区北部で検出した 40㎝× １ｍの溝状の土坑である。深さは検出面から 20㎝足らずの浅いものであるが、山茶椀や土師器鍋が出土している。

ＳＫ３７００４（第 36 図）　７区西部で検出した。調査区端での検出のため、全体の形状は不明であるが、直径３ｍの円形を呈するものと考えられる。深さは最深部で検出面から１ｍほどである。中央部に直径 80㎝程度の円形に埋土の異なる部分がある。この部分を井戸の集水桝とすることもできるが確証を得ない。また、井戸枠等の痕跡も認められない。

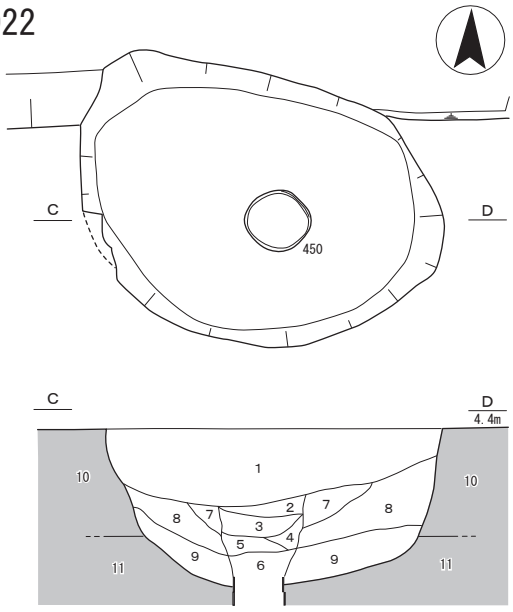
この中央部を中心に多量の土器や石が集中して埋没していた。ほぼ完形の山茶椀や底部のみを欠損する土師器鍋等がある。土師器鍋は並んで出土しており、西から倒立、正立、正立となる。さらに調査区

SE35005



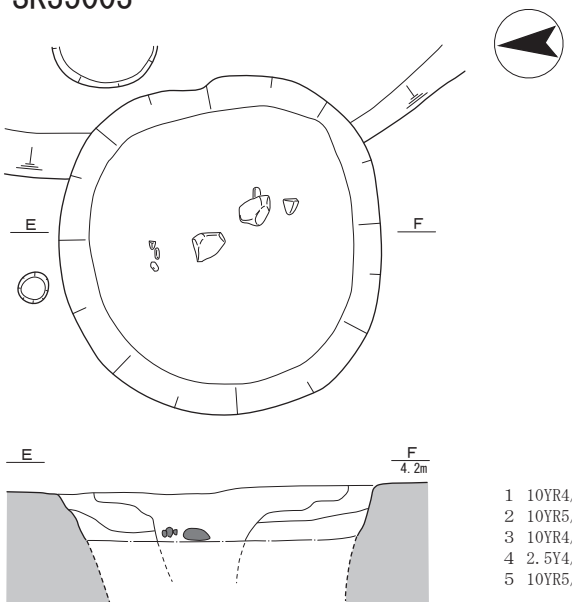
1 10YR4/3にぶい黄褐色シルト（礫含）
2 10YR5/3にぶい黄褐色シルト（10YR4/2灰黄褐色シルト・10YR7/6明黄褐色シルト若干含）
3 10YR4/2灰黄褐色シルト（鉄分斑状に含、礫若干含）
4 10YR5/2灰黄褐色シルト（鉄分斑状に含、礫若干含）
5 10YR5/3にぶい黄褐色シルト
6 10YR4/2灰黄褐色シルト（2.5Y5/3黄褐色シルト若干含）＜掘形埋土＞
7 2.5Y5/2暗灰黄色シルト（10YR6/4にぶい黄橙色シルト含）＜掘形埋土＞
8 10YR5/2黄灰褐色シルト（鉄分斑状に含）＜掘形埋土＞
9 10YR4/3にぶい黄褐色シルト＜掘形埋土＞
10 2.5Y5/2暗灰黄色粗砂（礫多含）＜旧河道＞
11 10YR4/3にぶい黄褐色シルト（礫多含）

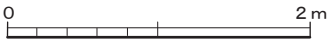
SE38022



1 2.5Y5/4黄褐色シルト（2.5Y5/3黄褐色シルト塊含、
2.5Y7/4浅黄色シルト塊・礫若干含）
2 2.5Y5/2暗灰黄色シルト
3 2.5Y6/2灰黄色粘土（鉄分斑状に含）
4 2.5Y6/3にぶい黄色粘土（鉄分斑状に含）
5 7.5Y5/1灰色シルト
6 2.5GY6/1オリーブ灰色粘土
7 2.5Y6/3にぶい黄色シルト＜掘形埋土＞
8 2.5Y5/3黄褐色シルト
（2.5Y7/4浅黄色シルト塊若干含）＜掘形埋土＞
9 7.5Y5/1灰色粘土
（5Y6/2灰オリーブシルト塊若干含）＜掘形埋土＞
10 2.5Y8/2灰白色粘土＜検出面＞
11 2.5Y6/4にぶい黄色粗粒砂

SK35003

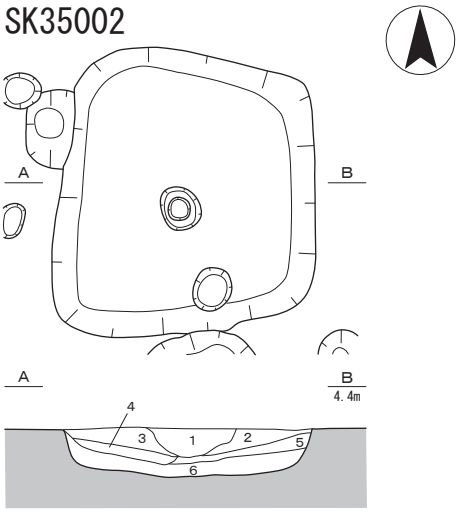




1 10YR4/3にぶい黄褐色シルト（礫若干含）
2 10YR5/4にぶい黄褐色シルト（2.5YR6/4にぶい橙色シルト塊若干含、鉄分含）＜掘形埋土＞
3 10YR4/4褐色シルト（鉄分斑状に若干含）＜掘形埋土＞
4 2.5Y4/2暗灰黄色シルト（2.5Y6/4にぶい黄色シルト塊含、鉄分斑状に含）＜掘形埋土＞
5 10YR5/3にぶい黄褐色シルト（鉄分斑状に若干含）

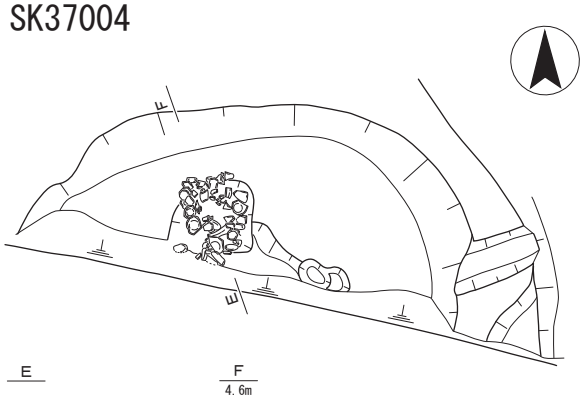
第35図　SE35005・38022、SK35003実測図（1：50）

SK35002

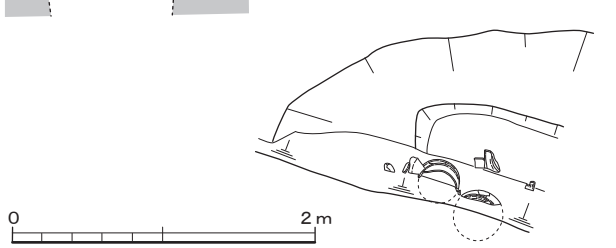


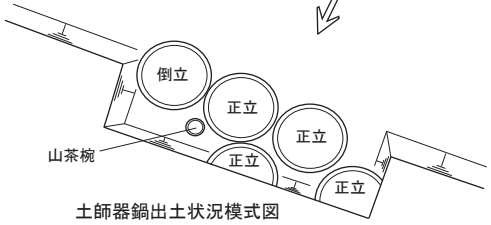
1 2.5Y5/3黄褐色シルト
2 10YR5/4にぶい黄褐色シルト
3 10YR5/3にぶい黄褐色シルト
4 2.5Y5/3黄褐色シルト
5 2.5Y6/3にぶい黄色シルト（礫含）
6 2.5Y5/4黄褐色シルト

SK37004



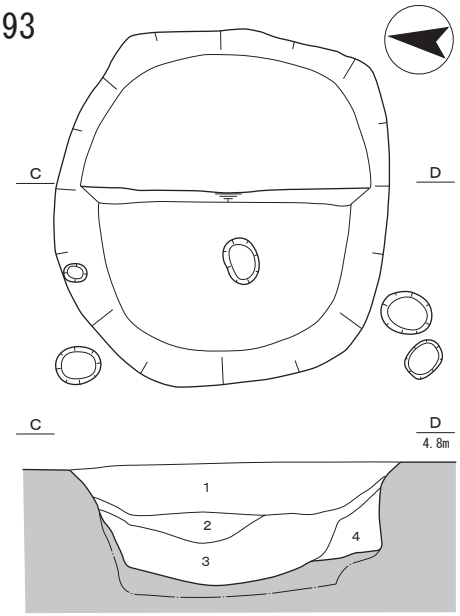
SK37004下位





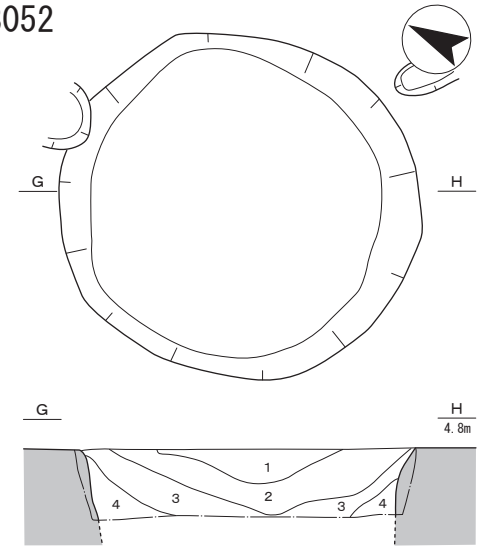
土師器鍋出土状況模式図

SK38093



1 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト
（2.5Y6/8明黄褐色粘土塊・礫若干含）
2 2.5Y4/2暗灰黄色シルト
（2.5Y5/6黄褐色粘土塊・礫若干含）
3 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト（礫若干含）
4 2.5Y5/4黄褐色シルト（礫若干含）

SK38052



1 10YR4/2灰黄褐色シルト
（10YR5/4にぶい黄褐色粘土塊含・小礫若干含）
2 2.5Y7/6明黄褐色シルト～粘土
（2.5Y8/3淡黄色粘土塊多含）
3 10YR5/2灰黄褐色シルト～粘土
（10YR7/2にぶい黄褐色粘土塊多含）
4 2.5Y6/2灰黄色シルト（マンガン塊含）

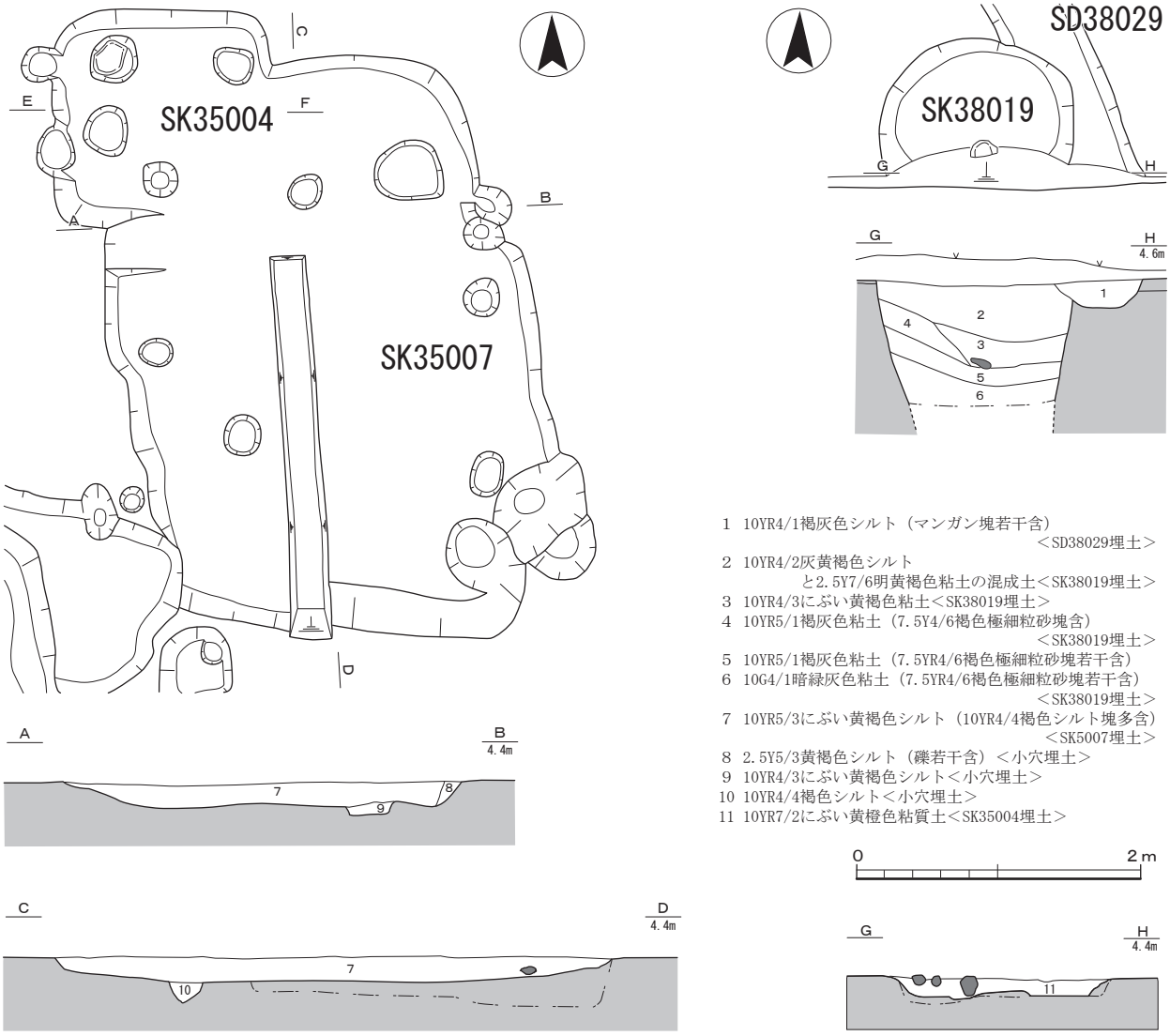
第36図　SK35002・37004・38052・38093実測図（1：50）

外へ向けて鍋列の南側や南東側にも正立の鍋が確認され、ほぼ完形の山茶椀も鍋列のすぐ西側に位置していた。調査区端のこともあり、十分な記録ができなかったが、全貌が不明な現状でも明らかに特異な出土状況を示している。他の遺物や石の出土位置は、これらの土師器鍋列と同位または直上に限られ、一気に投棄された可能性も大きい。この投棄を含め祭祀遺構の可能性が高い。

ＳＫ３８０１９（第37図）　８区東南端で検出した。直径1.4ｍの円形を呈する土坑とした。掘削は検出面から80㎝で止めたが、壁は垂直にちかい。この様な形状から、井戸が想定できそうであるが、直接井戸を示すものは無く、この深度では湧水点に達していない。出土遺物は少ないが、当該時期でも後半のものである。

ＳＫ３８０５２（第36図）　８区中央部で検出した直径2.2ｍの円形を呈する土坑である。検出面から40cmまでしか確認できなかったため、井戸の可能性も残る。山茶椀や土師器鍋が出土し、土師器鍋に室町時代まで下るものが１点あるが、混入として扱う。

ＳＫ３８０９３（第36図）　８区北部で検出した一辺2.4ｍの隅丸方形を呈する土坑である。井戸の掘形を想定させる平面形であるが、検出面から80㎝で底に達し、湧水点には及んでいない。埋土断面にも井戸を想定させるものは無い。壁は緩やかだが、南側は途中から垂直に落ち、別遺構が重複する可能性がある。土師器皿やロクロ土師器椀、白磁、山茶椀等、多様な遺物が出土している。土師器鍋に１点、



第37図　SK35004・35007・38019、SD38029実測図（1：50）

当該時期後半に下るものがあるが、他は平安末期またはそれにちかい時期のものである。

ＳＫ３８０９４　８区中央部で検出した直径1.2ｍの円形土坑であるが、深さが検出面から10cm未満の痕跡程度のものである。土師器皿・鍋、山茶椀等、深さに比べ比較的多くの遺物が出土している。

（３）溝

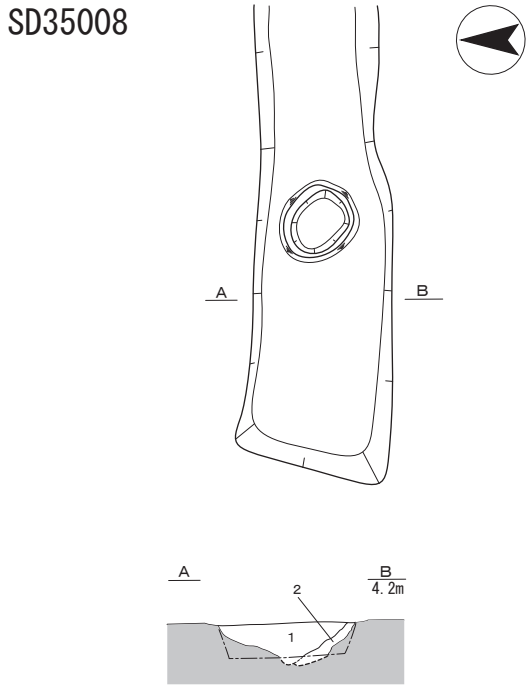
ＳＤ３５００８（第38図）　５区中央部を東西に延びる溝で、その方向は方位に乗る。幅約１ｍ、延長は約10ｍで両端とも止まり、削平による消滅とは思えない。底部は平坦に掘削したが、土層観察の結果、緩やかなＶ字形を呈することが分かった。溝の規模に比べ､比較的多くの遺物が出土しているが、山茶椀と土師器皿に限定される。

ＳＤ３５００９　５区中央で検出した。幅１ｍ、深さ30㎝未満の溝とするが、幅や深さは一様でない。２条の溝が重複するようで、狭いものは屈曲して南に向う。しかし両者とも蛇行傾向にあり、流水の作用によるものとしたい。山茶椀や土師器が多く出土しており、古相の瓦器（404）の出土もある。

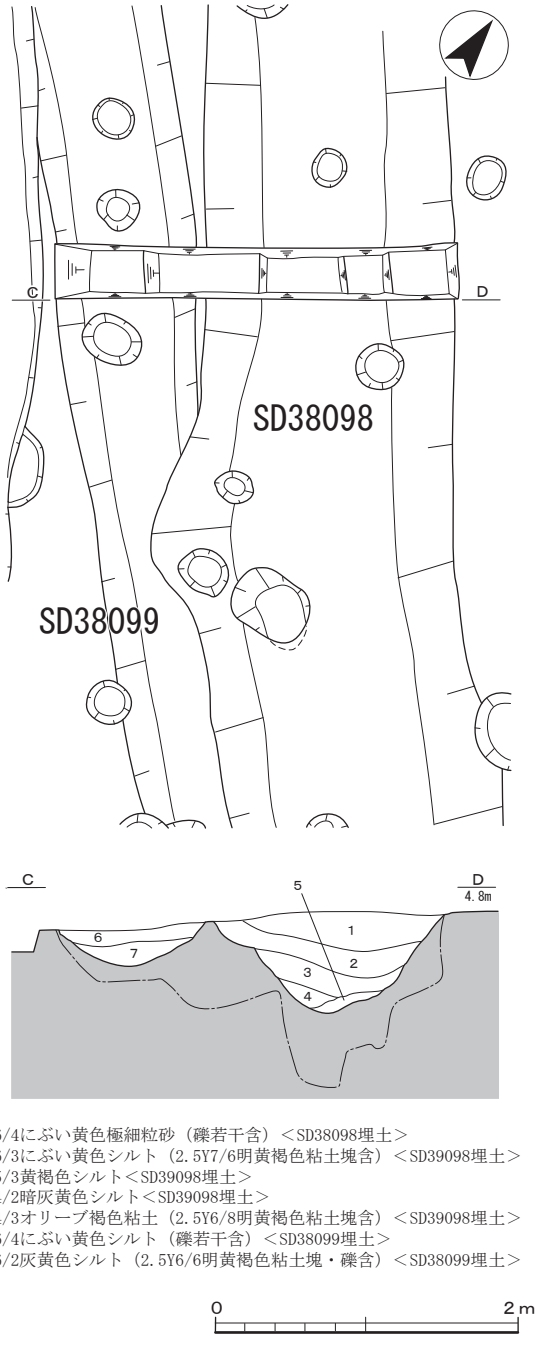
ＳＤ３８０７４（第27図）　８区中央部を斜行する溝で、隣接する第２次調査のＳＤ2068に繋がり、弯曲するように向きを北へ変える傾向をみせる。これにより、第２次調査でのＳＤ2068と古代のＳＤ2059を一連のものとする推測[3]は時期が異なり否定される。

幅２ｍ以上であるが、深さは40cm程度と浅く、壁は非常に緩やかである。埋土も砂礫主体であり、自然流水路と考えて妥当である。

ＳＤ３８０８１（第27図）　８区北部を南東から北西方向に延びる溝である。幅1.2ｍ、深さ40cm、



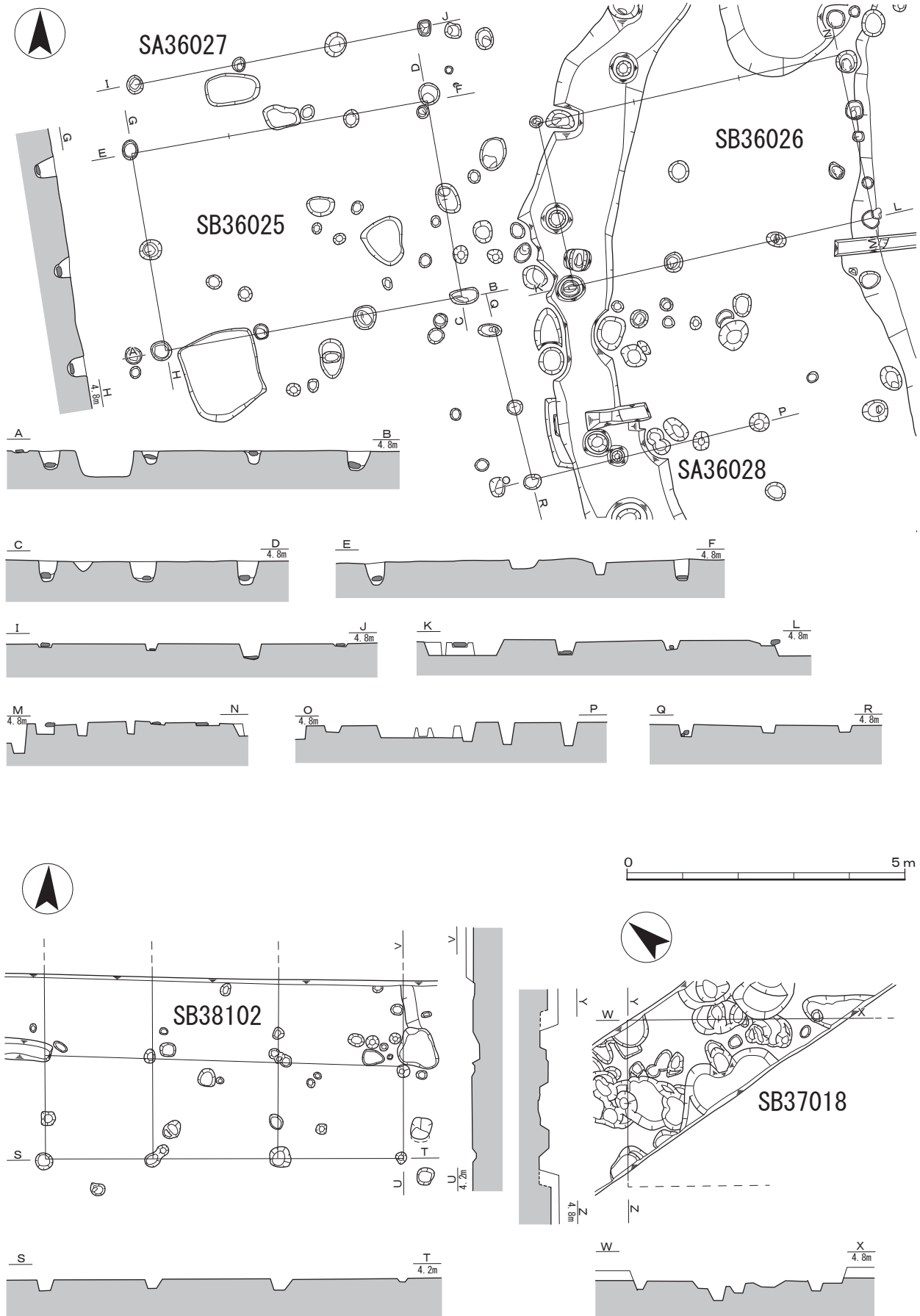
1　10YR6/4にぶい黄橙色シルト（マンガン粒若干含）
2　10YR4/3にぶい黄橙色シルト（マンガン粒若干含）



1　2.5Y6/4にぶい黄色極細粒砂（礫若干含）＜SD38098埋土＞
2　2.5Y6/3にぶい黄色シルト（2.5Y7/6明黄褐色粘土塊含）＜SD38098埋土＞
3　2.5Y5/3黄褐色シルト＜SD39098埋土＞
4　2.5Y4/2暗灰黄色シルト＜SD39098埋土＞
5　2.5Y4/3オリーブ褐色粘土（2.5Y6/8明黄褐色粘土塊含）＜SD38098埋土＞
6　2.5Y6/4にぶい黄色シルト（礫若干含）＜SD38099埋土＞
7　2.5Y6/2灰黄色シルト（2.5Y6/6明黄褐色粘土塊・礫含）＜SD38099埋土＞

0　2m

第38図　SD35008・38098・38099実測図（1：50）



第39図　SB36025・36026・37018・38102、SA36027・36028実測図（1：100）

断面形は緩やかなＶ字形を呈する整った形状である。埋土は３層に分かれるが、いずれも粘質土で特筆すべき特徴はない。土師器の皿や鍋、山茶椀が一定量出土している。

北西方向の延長上には、８ｍの間隔を置いて第２次調査のＳＤ 2074 が延びる。一連のものとしたいところではあるが、ＳＤ 2074 は弥生時代に遡る可能性が報告[4]されている。

ＳＤ３９００９　９区中央部で検出した。幅 70cm で、北西から南東へ延長 2.8 ｍを確認したに止まる。深さが検出面から 10cm 足らずと痕跡程度であるため、本来の形状を示していない。灰釉陶器や須恵器の小片も出土しているが、山茶椀の小片によりこの時期とした結果、９区では、唯一の当該時期となり疑問が残る。

７．室町時代の遺構

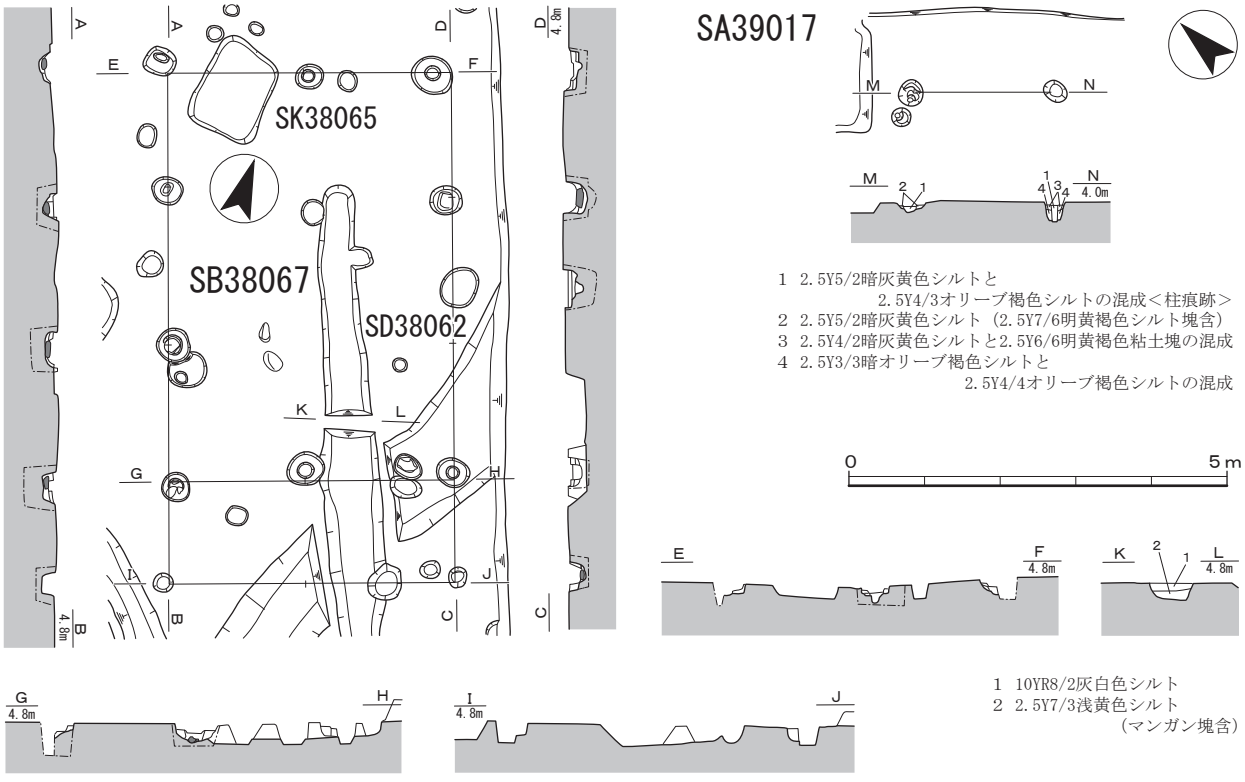
今回の調査の中心的な時期で、掘立柱建物や多くの井戸・土坑・溝を検出している。ただし、山茶椀等が多く混入する遺構が目立つ。

（１）掘立柱建物

ＳＢ３６０２５（第 39 図）　６区北部で検出した。検出できなかった柱穴もあるが、桁行３間、梁行２間の東西棟とした。柱掘形は直径 40㎝の円形を呈する小型のものであるが､その形態は不均一である。深さは検出面から 40㎝前後であるが、底部近くに偏平な石を配置している。柱間は 1.8 ｍを基本とするが、北側桁行は不等間である。東側のＳＢ 36026 と方向をほぼ揃え、特に南側桁行を揃えて建てられている。北側にはＳＡ 36027 が付属する。

ＳＢ３６０２６（第 39 図）　６区北部で検出した。北側桁行が検出できず、柱間も不等間で建物とするに疑問の多いものであるが､その可能性を提示する。柱掘形は直径 40㎝の円形を呈する小型のものである。深さは検出面から 10 ～ 20㎝で浅く均一を欠く。しかし、底部には偏平な石を配置し、柱の沈下を防いでいる。西側のＳＢ 36025 と方向をほぼ揃え、特に南側桁行を揃えて建てられている。南西側にはＬ字状に屈曲するＳＡ 36028 が付属する。

ＳＢ３７０１８（第 39 図）　７区中央部で検出し



第40図　SB38067、SA39017、SK38065、SD38062実測図（1：100）

た。調査区が狭小なため不明な部分も多いが、桁行３間以上、梁行２間の南北棟とした。柱掘形は直径50cmの円形を基本とするものと思われるが、形の乱れたものが多い。深さは検出面から20cm程度である。近辺には小土坑が群集しており、縄文土器が散見され、当該時代の土坑も所在する。柱穴からの出土遺物は少ないが、２基の柱穴から出土したのは縄文土器の小片である。南端の柱穴から陶器甕片が出土しているためこの時代の建物としたが、縄文時代の小土坑群である可能性も残る。

ＳＢ３８０６７（第40図）　８区東部で検出した桁行３間、梁行２間の南北棟で、南側に１間分の庇をもつ。柱間は、桁行・梁行ともに不等間で、庇は1.35ｍで身舎の柱間より狭い。柱掘形は直径40cm程度の円形を呈し、直径20cmの柱痕跡を確認できたものも多い。また、根石と思われる偏平な石を底部に据えるものもある。なお、庇の柱穴は直径20cm程で身舎より小さい。

建物内には、方向を揃えるＳＤ38062が延びるが、建物との関連は不明である。埋土の観察からは建物が後出であるが、出土遺物からの時期差は無い。

ＳＢ３８１０２（第39図）　８区南西部で検出した。棟方向は不明であるが、東西棟に仮定する。その場合、桁行は３間、梁行は調査区外へ延びるため不明となる。ただし、検出できなかった柱穴や、柱通りが多少悪いことによる疑問も残る。柱掘形は直径40cm未満の小型のもので、深さも検出面から20cm未満、なかには極端に浅いものもある。また、埋土に木炭粒を含む柱穴もある。

（２）柱列

ＳＡ３６０２７（第39図）　６区北部で３間分を検出した柱列である。柱掘形は直径20～30cmの円形を呈し、深さは検出面から５cm程度の浅いものから30cmを測る深いものまで多様である。しかし、全ての柱穴に偏平な石が設置されており、掘立柱建物の一部としたいところではあるが、対応する柱列が無い。ＳＢ36025の北側桁行から1.3ｍの間隔で並行する。

ＳＡ３６０２８（第39図）　６区北部で検出したＬ字状に屈曲する柱列である。南北２間、東西３間を検出し、掘立柱建物の可能性も残るが、桁行、梁行ともに対応する柱列が無い。柱掘形は直径30cm前後の小型のもので、深さは検出面から10～40cmで多様である。近隣の建物と異なり、偏平な石が設置されているのは北端の１基のみである。ＳＢ36026の南西側をＬ字状に区切り、建物前庭の形成に寄与している。

ＳＡ３９０１７（第40図）　９区北西部で２基の柱穴を検出した。両者は1.8ｍの間隔をもつ。直径30cmの円形を呈し、直径10cm程度の柱痕跡も両者で検出している。周囲の遺構分布が希薄なこともあり、両者は関連するものと判断し、柱列として報告しておく。

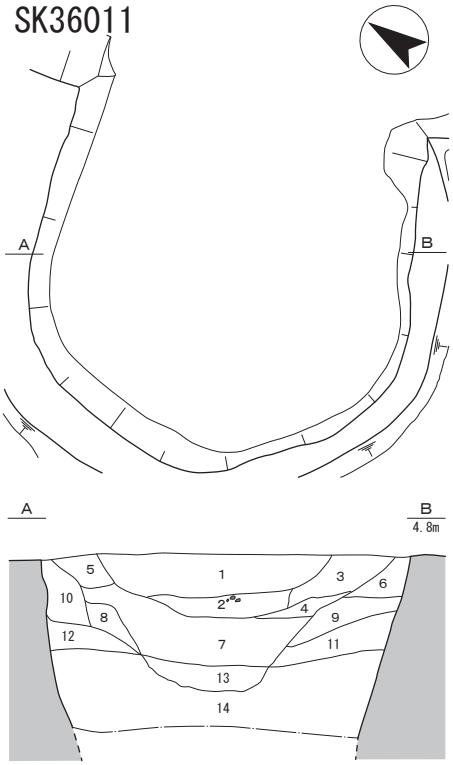
（３）井戸

ＳＫ３６０１１（第41図）　６区南部で検出した。直径2.5～３ｍの楕円形を呈する。完掘できなかったが、深さは検出面から1.2ｍ以上で壁は垂直にちかい。埋土は、中央部に別遺構が重複する可能性を示しているが、井戸本体の埋土の可能性もある。掘形に相当する９層は掘削後まもなく埋め戻された様相を呈する。このことから径約1.2ｍの井戸としたが、井戸本体の埋土に想定した層は14層の途中で止まっており、疑問も残る。土師器皿・鍋、陶器甕、瓦質土器の鉢等が出土しているが、完掘できなかったこともあり、小片が多い。

ＳＫ３７００１（第41図）　７区西部で検出した。両端が調査区外のため全体の形状は不明であるが、掘形は一辺2.5ｍの隅丸方形を呈するものと思われ、深さは検出面から１ｍほどである。掘形の南側寄りに直径60cmの曲げ物が据えられ、井戸枠または集水桝と思われる。土師器の鍋や皿、巻貝が出土しているが、埋納されたものはない。また、山茶椀の混入が一定量ある。

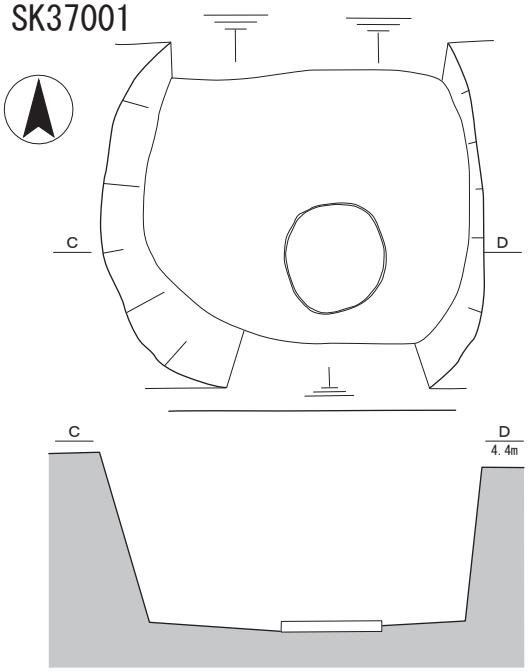
ＳＥ３８００１（第42図）　８区南部で検出した。直径2.5～２ｍの楕円形を呈する掘形で、深さは十分に確認できなかったが、検出面から1.5ｍ程度と思われる。60cmほど掘り進めた地点で、掘形の中央部から直径50cmの桶が出土した。桶の高さは１ｍ以上に及び、２ヶ所で箍を確認できる。桶を構成する板材は先端を杭状に尖らしているため直接井戸底に差し込んだことが分かる。箍があるため桶としたが、立板を円形に差し込み、それを箍で連結し強度を増したもので、結果的に桶の形状を呈することに

SK36011

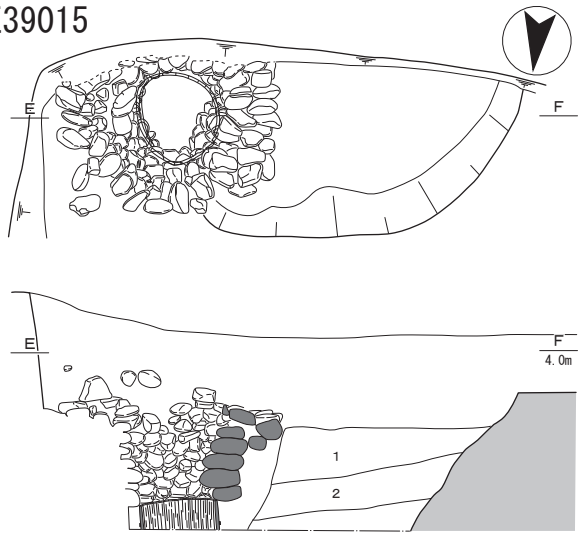


1 2.5Y6/4にぶい黄色シルト
2 2.5Y6/3にぶい黄色シルト
3 10YR5/3にぶい黄橙色シルト～極細砂（礫含）
4 5P4/1暗紫灰色混礫土
5 10YR7/3にぶい黄橙色シルト～極細砂
6 10YR6/3にぶい黄橙色シルト（礫若干含）
7 10YR5/3にぶい黄橙色シルト（礫含）
8 2.5Y6/3にぶい黄色シルト
9 10YR4/3にぶい黄褐シルト（10YR明黄褐色シルト塊含）
10 2.5Y6/3にぶい黄色シルト（礫含）
11 2.5Y5/3黄褐色シルト
12 10YR5/2灰黄褐色シルト～粘土（下方に鉄分沈着）
13 10YR3/1黒褐色粘質土
14 10YR3/2黒褐色粘質土

SK37001



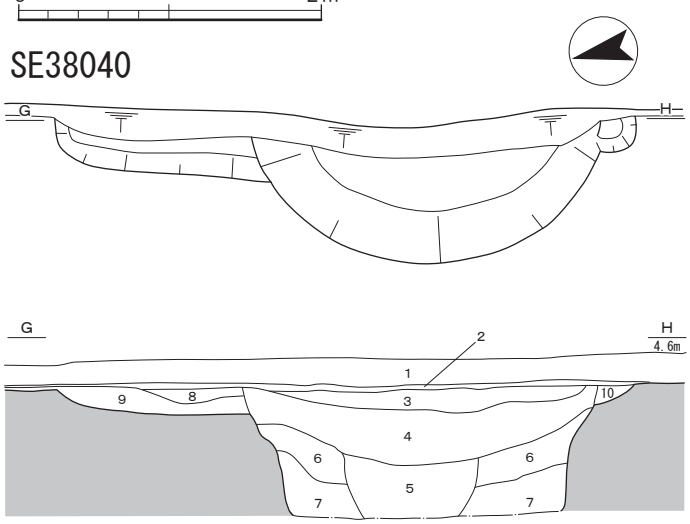
SE39015



1 2.5Y7/1灰白色粘質土
2 5B6/1青灰色粘土

0 2m

SE38040



1 N7/灰白色土＜耕作土＞
2 2.5Y4/3オリーブ褐色極細粒砂～シルト
（マンガン塊・10YR5/4にぶい黄褐色シルト塊・木炭粒含、礫若干含）＜床土＞
3 2.5Y5/2暗灰黄色シルト～極細粒砂
（マンガン粒・10YR5/4にぶい黄褐色粘土塊・礫若干含）＜井戸枠抜取痕跡＞
4 2.5Y4/2暗灰黄色極細粒砂～シルト
（下位に鉄分沈着、10YR5/4にぶい黄褐色シルト塊・木炭粒含、礫若干含）＜井戸枠抜取痕跡＞
5 5G2/1緑黒シルト～極細粒砂
（グライ化層、2.5GY5/1オリーブ灰色シルト塊含、礫若干含）＜井戸埋土＞
6 5Y4/2灰オリーブ色シルト～極細粒砂（鉄分斑状に含、2.5Y7/2灰黄色粘土塊・礫若干含）＜井戸掘形埋土＞
7 5G6/1緑灰色粘質土（2.5Y7/2灰黄色粘土塊含、礫若干含）＜井戸掘形埋土＞
8 5Y5/2灰オリーブ色極細粒砂
（マンガン粒多含、2.5Y5/3黄褐色シルト塊含）＜別遺構埋土＞
9 2.5Y5/2暗灰黄色混マンガン粒極細粒砂～シルト
（2.5Y5/3黄褐色シルト塊含、礫若干含）＜別遺構埋土＞
10 2.5Y4/2暗灰黄色極細粒砂～シルト
（礫・10YR5/4にぶい黄褐色シルト塊多含）＜別遺構埋土＞

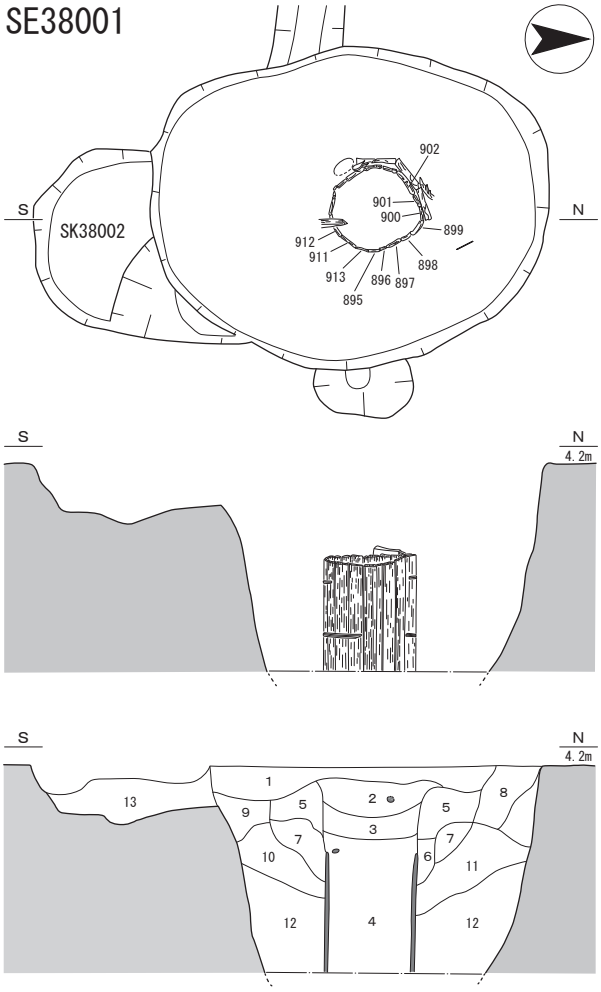
第41図　SK36011・37001、SE38040・39015実測図（1：50）

なったものかも知れない。井戸枠外側の一部に瓦質の磚を井戸枠に沿わして配置している。４枚確認できたが、土圧への補強であろうか。土師器の皿や鍋が出土しているが、小片で、埋納と思われるものはない。

ＳＥ３８００５（第 44 図）　８区南部で検出した。直径 2.8 ｍの円形を呈する掘形をもつ。検出面から 80㎝までしか確認できなかったため、井戸枠等の設備は不明である。ただし、埋土の観察から井戸本体は直径 1.7 ｍほどの円形であったものと考えられる。土師器の皿や鍋が出土しているが、特に皿が多く出土している。

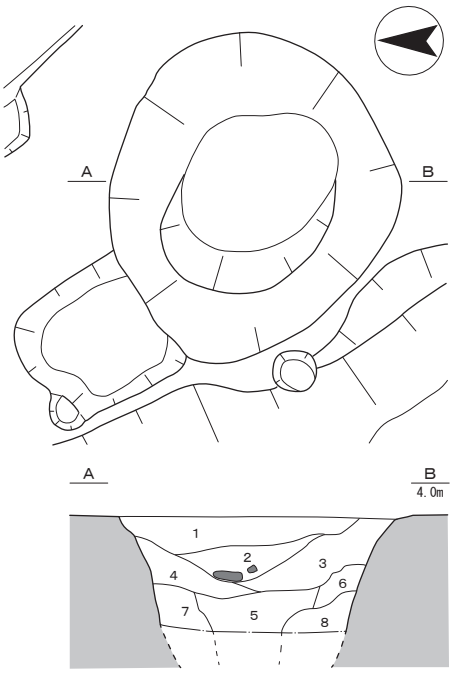
ＳＥ３８０４０（第 41 図）　８区南部で検出した。東半が調査区外となるが、直径 2.3 ｍの円形を呈する。湧水に伴う崩落のため完掘できなかったが、埋土の形状から井戸と考えられる。それによると井戸本体は直径 80㎝程度のものと想定される。検出面から１ｍ程まで確認したが、40㎝以下では還元色を呈している。

SE38001



1　10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂
（マンガン粒・礫若干含、下位にに鉄分沈着硬化）
2　10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂～シルト
（礫含、鉄分の滲みが全体に広がる）
3　10YR4/1褐灰色極細粒砂～シルト（鉄分の滲みが散在）
4　5Y4/1灰色シルト（礫・鉄分の滲み含）
5　10YR5/3にぶい黄褐色極細粒砂～シルト
（5Y6/2灰オリーブ色粘質土塊・鉄分の滲み含）
6　5Y4/2灰オリーブ色シルト
7　7.5Y3/1オリーブ黒色極細粒砂～シルト
（7.5Y5/1灰色シルト塊含）＜５層がグライ化＞
8　2.5Y6/4にぶい黄色シルト
（マンガン粒含、下位は水分の影響により5Y6/3オリーブ黄色に変色）
9　2.5Y4/2暗灰黄色極細粒砂～シルト
（2.5Y5/6黄褐色シルト塊・マンガン粒多含）
10　7.5Y3/1オリーブ黒色極細粒砂～シルト
（7.5Y5/1灰色シルト塊多含＜９層がグライ化＞
11　7.5Y5/1灰色シルト（上位に鉄分の滲みが散在）
12　10YR5/2灰黄褐色極細粒砂（10YR6/4にぶい黄褐色シルト塊多含、
マンガン粒若干含）＜SK38002埋土＞

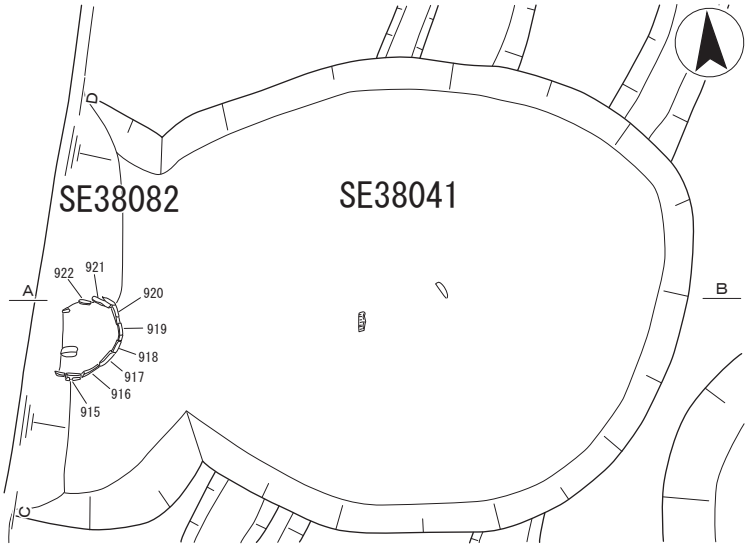
SE39002

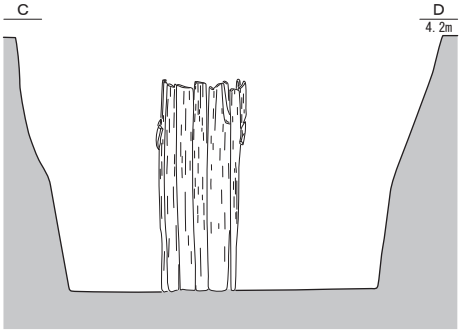


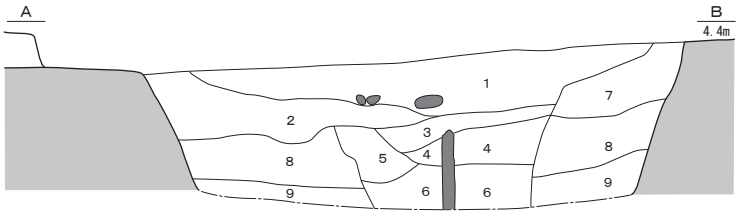
1　10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂
（上位にマンガン粒若干含、下位に鉄分の滲塊含）
2　10YR4/1褐灰色シルト～極細粒砂（鉄分の滲み散在、下位に礫岩散在）
3　2.5Y5/2褐灰黄色シルト～極細粒砂
（下位ほど極細粒砂が強い、鉄分の滲み散在）
4　2.5Y4/2褐灰黄色極細粒砂～シルト（鉄分の滲み点在）
5　2.5Y4/1黄灰色シルト～極細粒砂
（鉄分の滲み散在、上位に10YR4/1褐灰色シルト塊多含）
6　2.5Y4/1灰黄色シルトと2.5Y5/2褐灰黄色シルトの混成土
7　2.5Y4/1黄灰色シルト
8　2.5Y4/1黄灰色シルト

0　2m

第42図　SE38001・39002、SK38002実測図（1：50）

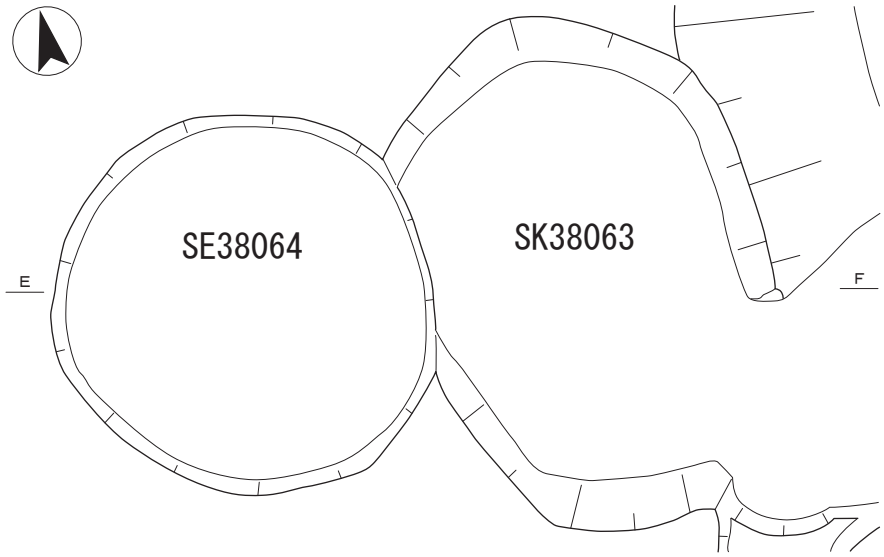


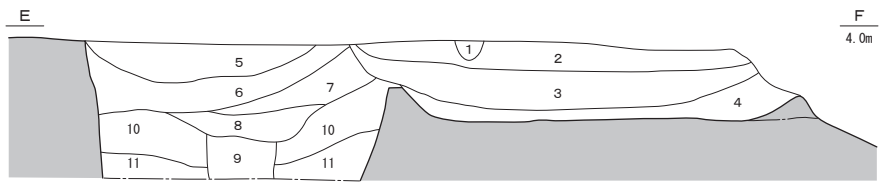




1 2.5Y5/2暗灰黄極細粒砂（10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂・10YR6/6明黄褐色粘土塊含、礫若干含）
2 2.5Y4/3オリーブ褐色極細粒砂（2.5Y8/2灰白粘土含、礫若干含）
3 2.5Y4/1黄灰色中粒砂（2.5Y8/2灰白色粘土塊・礫若干含）
4 2.5Y4/2暗灰黄色中粒砂（2.5Y8/2灰白色粘土塊・7.5YR4/2灰褐色極細粒砂塊若干含）
5 2.5Y4/3オリーブ褐色中粒砂（2.5Y7/4浅黄色粘土塊含、7.5YR4/2灰褐色極細粒砂塊若干含）
6 5Y3/1オリーブ黒色極細粒砂（2.5GY7/1明オリーブ灰色粘土塊多含）
7 2.5Y4/1黄灰色細粒砂（2.5Y6/4にぶい黄色粘土塊含、礫若干含）
8 2.5Y4/2暗灰黄色極細粒砂（2.5Y6/3にぶい黄色粘土塊多含、礫含）
9 2.5Y3/3暗オリーブ褐色細粒砂～シルト（2.5GY6/1オリーブ灰色粘土塊多含）

0 2m





1 2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂（2.5Y8/4淡黄色粘土塊若干含）
2 2.5Y7/3浅黄色シルト～粘土（10YR4/4褐色中粒砂塊含）＜SK38063埋土＞
3 10YR8/3浅黄橙色粘土～シルト（2.5Y7/1灰白色粘土含、7.5YR5/6明黄褐色中粒砂塊若干含）＜SK38063埋土＞
4 2.5GY7/1明オリーブ灰色極粒砂～シルト（5GY8/1灰色粘土塊含）＜SK38063埋土＞
5 2.5Y5/2暗灰黄色シルト～極細粒砂（2.5Y5/6黄褐色粘質土塊含、礫若干含）＜SE38064埋土＞
6 7.5YR4/1褐灰色シルト～極細粒砂（2.5Y5/6黄褐色粘質土塊含、7.5YR4/3褐色極細粒砂塊若干含）＜SE38064埋土＞
7 10YR7/2にぶい黄橙色シルト～極細粒砂（10YR8/3浅黄色粘土塊多含）＜SE38064埋土＞
8 5Y6/1灰色極細粒砂（10YR8/3浅黄色粘質土塊多含）＜SE38064埋土＞
9 2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂（2.5GY6/1オリーブ灰色粘土塊多含）＜SE38064埋土＞
10 2.5Y4/1黄灰色極細粒砂（2.5GY7/1明オリーブ灰色粘土塊多含）＜SE38064埋土＞
11 2.5Y6/1黄灰色極細粒砂（2.5GY7/1明オリーブ灰色粘土塊多含）＜SE38064埋土＞

第43図　SE38041・38064・38082、SK38063実測図（1：50）

ＳＥ３８０４１（第 43 図）　８区南部で検出した。掘形は直径 3.4 ｍを測る大形の円形を呈する。西端をＳＥ 38082 と重複するが、それより後出のものである。完掘できなかったが、中央部に板材が２枚立った状態で検出された。板材の形状から、ＳＥ 38001 と同様に多数の縦板を円形刺し込んで、直径 50㎝程度の円形井戸枠を形成していたようである。比較的多くの土師器の皿・鍋等が出土しているが、混入遺物も多い。

ＳＥ３８０６４・ＳＫ３８０６３（第 43 図）

ＳＥ 38064 は８区南部で検出した。直径 2.4 ｍの円形を呈し、検出面からの深さ 90cm までを確認した。埋土の観察から井戸と判断し、井戸本体の直径は 40cm 程度になる。井戸枠は検出できなかった。土師器の皿・鍋等、多くの遺物が出土しているが、いずれも小片である。

ＳＫ 38063 は、東側に隣接する土坑である。長径 3.5 ｍ、短辺 2.4 ｍの不整楕円形を呈する大型の土坑である。深さは検出面から 50cm、底部は平坦である。埋土の観察からＳＥ 38064 より後出であるが、出土遺物からの時期差は無い。井戸の掘形は、井戸が機能開始までに埋め戻されるため、同時に存在した可能性がある。ＳＥ 38064 に関連する洗い場等の可能性がある。

ＳＥ３８０８２（第 27・43 図）　８区南部で検出した。西半は調査区外のため不明な部分も多いが、直径 2.8 ｍの円形の掘形をもつ。東側でＳＥ 38041 の掘形と重複するが、それより先行するものである。

幅 10 ～ 15cm 程度の板材を直径 50cm の円形に立て並べて井戸枠としている。板材の上部が腐食しているため本来の長さが不明なものも多いが、1.8 ｍを基本とするようである。底部の集水桝が確認できないことを含めＳＥ 38001 と似る。しかし相違点もあり、井戸底への刺し立てを容易にするために先端を尖らせたものは少なく、枠板の傾斜を防ぐための箍も確認できない。しかし、板は 40㎝程しっかり差し込まれていた。井戸の深さは検出面から 1.6 ｍで、土師器皿や鍋が出土しているが、埋納と思われるものはない。

ＳＥ３９００２（第 42 図）　９区中央部で検出した。直径 1.9 ～ 2.2 ｍの楕円形を呈する掘形で、掘形埋土は掘削後時間を経ずに埋め戻された様相を示すものもある。本体の直径は、埋土の観察から 40cm ほどであったものと推測される。湧水による崩落が激しく難渋したが、検出面から１ｍで掘削を断念した。井戸枠等は出土しなかったが、曲物の断片らしき木片の出土があった。他には、完形の土師器皿（456）を含む多量の皿・鍋等が出土している。

ＳＥ３９０１５（第 41 図）　９区南東端で検出した石組の井戸である。掘形の形状は調査区端のため不明な部分も多いが直径３ｍを測る円形または楕円形を呈するものと思われ、井戸本体に対して大規模なものである。井戸本体は、掘形の東隅に長径 20cm ほどの川原石を積み上げて形成されている。検出面から 70㎝で最下段に至るが、その下は板材を桶状に設置する。幅 11㎝、長さ 86㎝程度の板材の先端を尖らせ、直接地面に差し込み、全体として桶状の円形を形成し、箍も設けられている。しかし、板材には転用の痕跡が残るものがあり、大型の桶を井戸枠に転用したものではない。石組の最下段は、この板の上に乗るかたちで組み上げられている。したがって、下半は縦板組、上半は石組の井戸枠となる特異なものである。あるいは、本来桶を重ねたかたちの井戸枠であったものが、上段を石組に改修された可能性がある。井戸本体に対して異常に大きな掘形が、それを示しているのかも知れない。

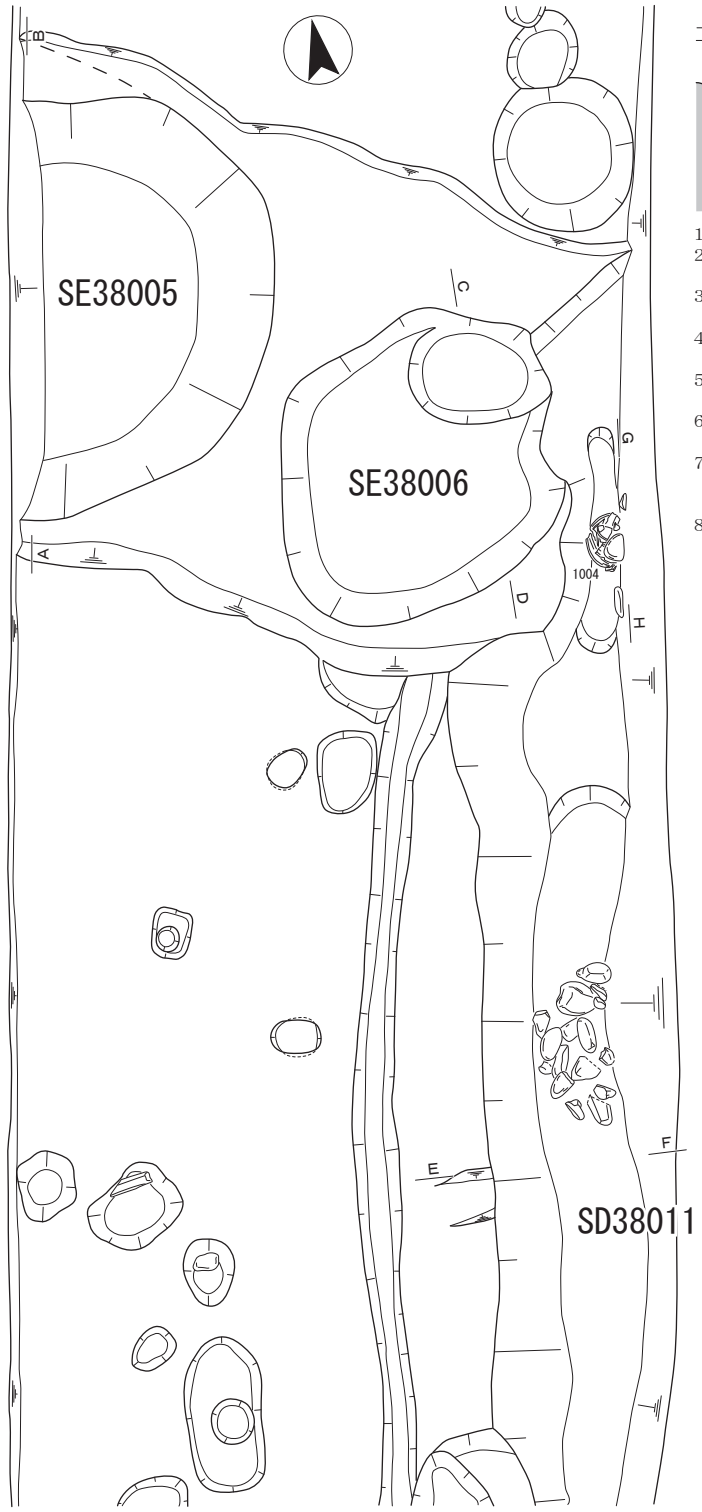
土師器の皿・鍋等が出土しているが、埋納と思われるものはない。

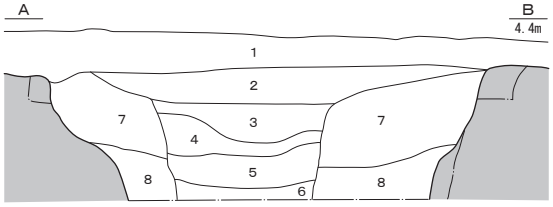
ＳＫ３９０１８（第 29 図）　９区中央部南西側調査区壁において土層観察中に判明したものである。平面形は、ＳＤ 39001 と重複のため確認できなかったが、それより後出のものである。耕作土直下から切り込み、深さ 80cm までを確認した。直径 3.6 ｍを測る大型の土坑と推測され、壁は非常に緩やかであるが、深さ 60㎝以下では直径１ｍとなり垂直に落ちる。この様な形状から枠等が抜き取られた井戸の可能性がある。

遺物は得られなかったが、既述したようにＳＤ 39001 より後出のため、室町時代以降となる。近世に下る井戸は検出されていないことから、この時期としておく。

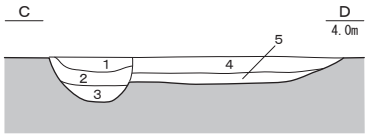
（４）土坑

ＳＫ３５００１（第 45 図）　５区南部で検出した

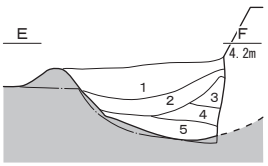




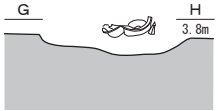
1 N6/灰色土＜耕作土＞
2 2.5Y6/2灰黄色極細粒砂～細粒砂
（10YR6/6明黄褐色粘土塊・石若干含）＜SE38005埋土＞
3 10YR7/2にぶい黄橙色極細粒砂
（10YR6/6明黄褐色～2.5Y8/6黄色粘土若干含）＜SE38005埋土＞
4 10YR6/3にぶい黄橙色シルト～極細粒砂と
2.5Y7/6黄色粘土塊の混成＜SE38005埋土＞
5 2.5GY5/1オリーブ灰色シルト～極細粒砂
（5Y6/3オリーブ黄色粘土塊多含）＜SE38005埋土＞
6 5GY6/1オリーブ灰色極細粒砂～細粒砂
（5Y7/3浅黄色粘土塊多含）＜SE38005埋土＞
7 10YR6/3にぶい黄橙色極細粒砂～細粒砂
（10YR6/6明黄褐色粘土塊と2.5Y8/4にぶい黄色粘土塊若干含、
一部水分由来の鉄分化による赤変）＜SE38005掘形埋土＞
8 5Y6/2灰オリーブ色極細粒砂～シルト
（5Y7/3浅黄色粘土塊多含）＜SE38005埋土＞



1 10YR4/2灰黄褐色シルト～極細粒砂と
10YR4/6褐色シルトの混成＜小穴埋土＞
2 10YR4/1褐灰色シルトと10YR4/6褐色シルトの混成土
（2.5Y6/6明黄褐色粘土塊若干含）＜小穴埋土＞
3 10YR5/1褐灰色極細粒砂
（2.5Y6/6明黄褐色粘土塊若干含）＜小穴埋土＞
4 10YR4/3にぶい黄褐色シルト～極細粒砂
（2.5Y6/6明黄褐色粘土塊若干含）＜SE38006埋土＞
5 2.5Y4/2暗灰黄色シルト～極細粒砂＜SE38006埋土＞



1 7.5YR7/1明黄褐色シルト～極細粒砂と
7.5YR4/3褐色粘土塊の混成土
（2.5Y6/6明黄褐色粘土塊若干含）＜上層＞
2 10YR5/2灰黄褐色シルト
（2.5Y6/6明黄褐色粘土塊若干含）＜上層＞
3 10YR6/2灰黄褐色シルト～粘土と
10YR5/6黄褐色シルトの混成土＜下層＞
4 2.5Y5/2暗灰黄色シルト～極細粒砂＜下層＞
5 2.5Y8/3淡黄色シルト～粘土＜下層＞



第44図　SE38005・38006、SD38011実測図、SD38011遺物出土状況図（1：50）

直径 1.6 ｍの円形土坑である。掘削できたのは検出面から 30㎝までで、埋土や出土遺物に特筆すべき特徴はない。井戸または土壙墓の可能性もあるが、現状では不明である。

ＳＫ３５００４（第 37 図）　５区中央で検出した一辺 1.4 ｍの方形の土坑である。深さは検出面から 20㎝未満の浅いもので底部は平坦である。土師器の鍋・皿が出土しているが、土坑の性格を示すものはない。前代の大型土坑ＳＫ 35007 と重複するが、深さの差はなく、掘削の結果、一連の状態を呈している。

ＳＫ３６００５・３６００９（第 45 図）　６区南部で検出した重複する２基の土坑である。両者とも直径２～ 2.2 ｍの楕円形を呈し、検出時点ではＳＫ 36005 が後出となる。出土遺物でもＳＫ 36009 が古相を示し矛盾はない。完掘できなかったが、ＳＫ 36005 で底部を確認している。深さは検出面から 90㎝を測るが壁は比較的緩やかである。埋土最下層は還元色を呈し、湧水点がちかい様子が伺えるが、埋土の堆積状況に井戸を示すものはなく、土坑としておく。

ＳＫ３６００８（第 45 図）　６区北西部で検出した方形の土坑である。1.4 × 1.5 ｍの長方形を呈し、検出面からの深さは 40㎝、壁は垂直で底部は平坦である。埋土の状況は、南側から短時間に埋まった様にもみえる。土師器皿等が出土しているものの埋納と思われるものはない。

ＳＫ３６０１０（第 16 図）　６区南端での検出のため、全体の形状は不明であるが、直径 2.3 ｍの円形を呈するものと推測できる。深さは検出面から 80㎝を測る深いもので、下層は還元色、鉄分の沈殿もみられる。井戸としたいところではあるが、埋土断面では掘形と本体が分かれる様子はない。井戸枠等の痕跡も確認できなかったことから、土坑としておく。

ＳＫ３６０１５・３６０１８　６区南部の土坑群のうちである。両者とも直径２ｍからそれ以上の楕円形を呈し、井戸の掘形を思わせる。しかし、検出面からの深さは 20 ～ 30㎝の浅いものである。ＳＫ 36015 からは土師器皿、ＳＫ 36018 からは土師器鍋が出土しているが、その数量は比較的少ない。

ＳＫ３６０１６　６区北東部で検出した。長径３ｍ、短径 2.6 ｍの楕円形を呈する。深さは検出面から 80㎝までを確認したが、それ以下に続く。平面形としては井戸の掘形に似るが、掘削範囲では還元色に至っていない。したがって、井戸とする根拠を得られず土坑としておく。土坑東側から小規模な溝ＳＤ 36001 が延びる。検出時点では土坑に先行する溝と判断したが、出土遺物からの時期差は無く、これに付属する溝の可能性が残る。

ＳＫ３６０２０　６区南部の土坑群のひとつであるが、他のものより小さく直径 1.2 ｍの円形を呈する。深さは平面形に対して非常に深いもので、検出面から 70㎝に達する。出土遺物は少なく、土師器の鍋や皿が少量出土したに止まる。

ＳＫ３７００２　７区西部で直径 80㎝の不整円形を呈する土坑を検出した。しかし、ＳＤ 37008 と完全に重複しており、深さ等は確認できていない。土師器皿・鍋が若干出土している。

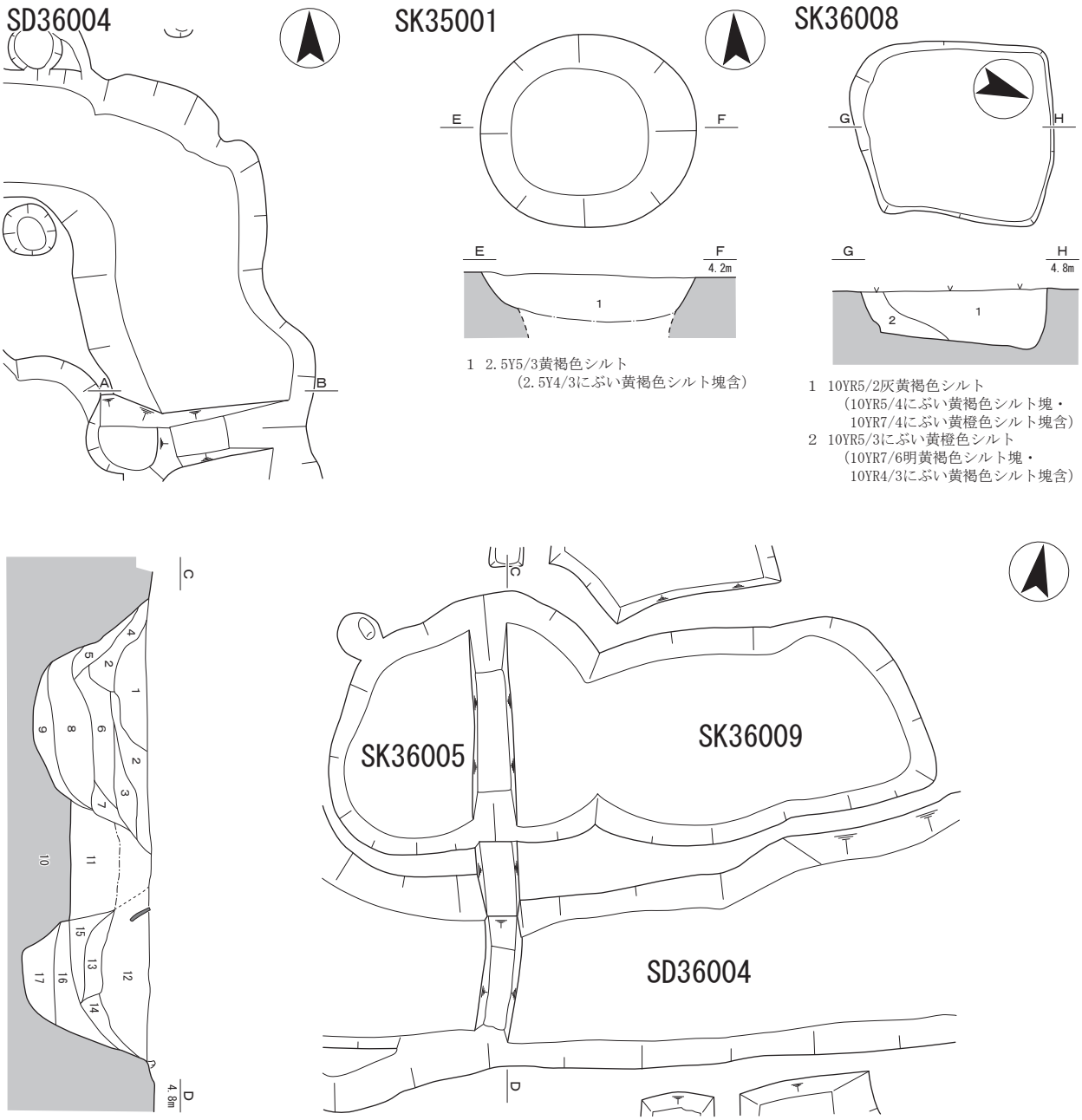
ＳＫ３７０１５　７区中央部で検出した土坑であるが、ＳＤ 37012･37013 により大半が消失している。径２ｍ程度の円形と推測されるが、深さは 15cm 程度の浅いものである。土師器の皿が出土している。

ＳＫ３８００２（第 42 図）　８区南部で検出した。検出面からの深さは 30cm 程であるが、底部の凹凸が目立つ。平面形は直径１ｍ程の円形を呈するものと思われるが、北半はＳＥ 38001 により消滅している。しかし、出土遺物による両者の時期差はなく、ＳＥ 38001 設置に関連する遺構かも知れない。

ＳＥ３８００６（第 44 図）　８区南部のＳＫ 38005 に近接して検出された。当初、ＳＫ 38005 と同様な井戸を想定したが、検出面から 20cm ほどで底に至った。平面形は一辺２ｍ未満の隅丸正方形を呈し、埋土は粘質土であるが、底部ちかくでは細砂を含む。小穴が重複し、埋土からは後出と判断できるが、出土遺物に時期差は無い。

ＳＫ３８００７　８区南部で検出した。直径１ｍの円形を呈する土坑であるが、検出面からの深さは 20cm で、その平面規模に対して浅いものである。非常に薄い土師器片が出土している。

ＳＫ３８００８　８区南部で検出した。長辺 1.2 ｍ、短辺 0.8 ｍの隅丸長方形を呈する土坑である。深さは検出面から 15cm 程度で底部は比較的平坦である。埋土は複数の土色が混在する様相である。土師器の鍋が出土しているが、埋納を思わせるものはない。



1 2.5Y5/3黄褐色シルト
(2.5Y4/3にぶい黄褐色シルト塊含)

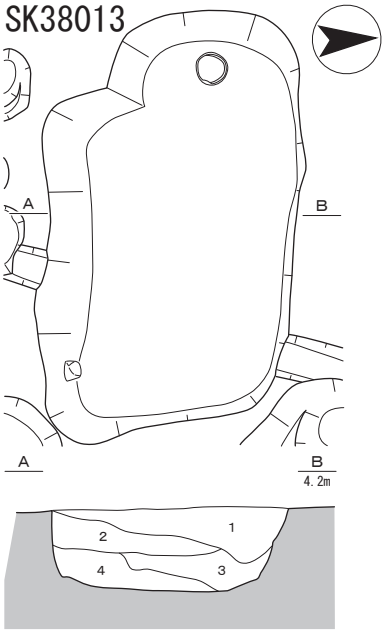
1 10YR5/2灰黄褐色シルト
(10YR5/4にぶい黄褐色シルト塊・
10YR7/4にぶい黄橙色シルト塊含)
2 10YR5/3にぶい黄橙色シルト
(10YR7/6明黄褐色シルト塊・
10YR4/3にぶい黄褐色シルト塊含)

1 2.5Y5/3黄褐色シルト（礫含）＜SK36005埋土＞
2 2.5Y6/3にぶい黄色シルト（礫含）＜SK36005埋土＞
3 2.5Y5/3黄褐色シルト（鉄分斑状に含）＜SK36005埋土＞
4 2.5Y7/3浅黄色シルト＜SK36005埋土＞
5 2.5Y6/2灰黄色シルト（鉄分斑状に含）＜SK36005埋土＞
6 2.5Y7/4浅黄色シルト（鉄分斑状に含）＜SK36005埋土＞
7 10YR5/3にぶい黄褐色粘土＜SK36005埋土＞
8 10YR4/3にぶい黄褐色粘土（鉄分斑状に含）＜SK36005埋土＞
9 2.5Y5/2暗灰黄色粘土＜SK36005埋土＞
10 5Y5/2灰オリーブ色細砂＜検出面＞
11 2.5Y7/4浅黄色シルト
12 10YR5/4にぶい黄褐色シルト（礫含）＜SD36004埋土＞
13 2.5Y5/2暗灰黄色シルト（鉄分斑状に含）＜SD36004埋土＞
14 2.5Y5/3黄褐色シルト＜SD36004埋土＞
15 2.5Y5/3黄褐色粘土（礫若干含）＜SD36004埋土＞
16 2.5Y5/2暗灰黄色粘土（鉄分斑状含）＜SD36004埋土＞
17 2.5Y5/1黄灰色粘土＜SD36004埋土＞
18 2.5Y6/3にぶい黄色シルト＜SD36004埋土＞
19 2.5Y5/3黄褐色粘土～シルト（礫若干含）＜SD36004埋土＞
20 2.5Y5/2暗灰黄色粘土（鉄分斑状に含）＜SD36004埋土＞
21 2.5Y5/2暗灰黄色シルト（10YR4/4褐色シルト含）＜SD36004埋土＞

0 2m

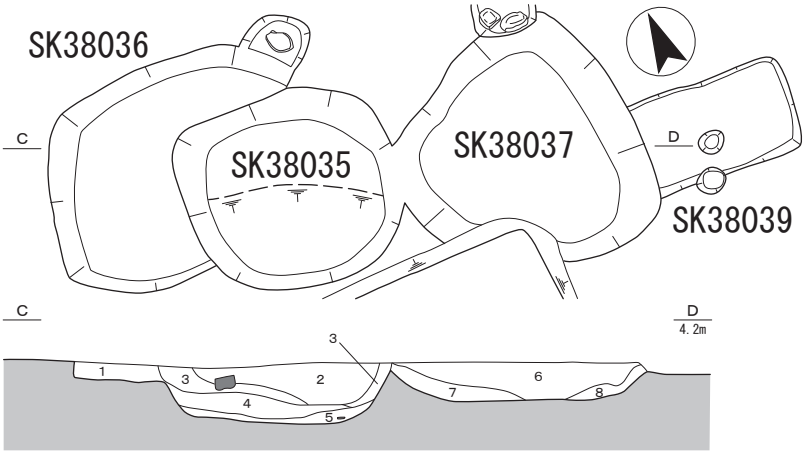
第45図　SK35001・36005・36008・36009、SD36004実測図（1：50）

SK38013



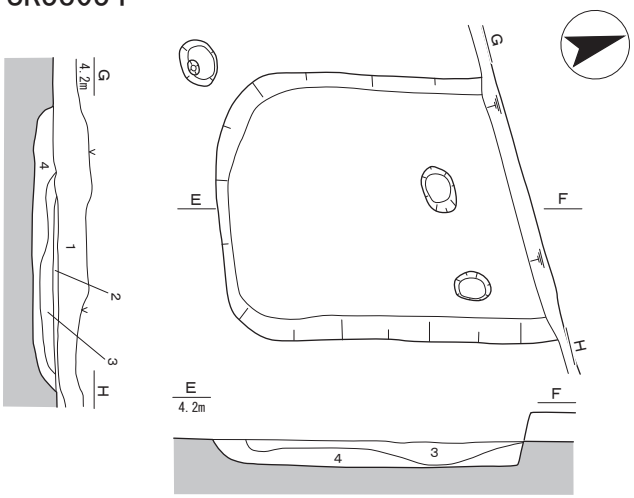
1 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂～シルト
(2.5Y8/6黄褐色粘土塊多含)
2 5Y5/1灰色極細粒砂～シルト
(2.5Y7/6明黄褐色粘土塊多含)
3 5PB6/1青灰色極細粒砂～シルト
(2.5Y6/6明黄褐色粘土塊多含)
4 5B5/1青灰色極細粒砂
(5Y7/2灰白色粘土塊多含)

SK38036



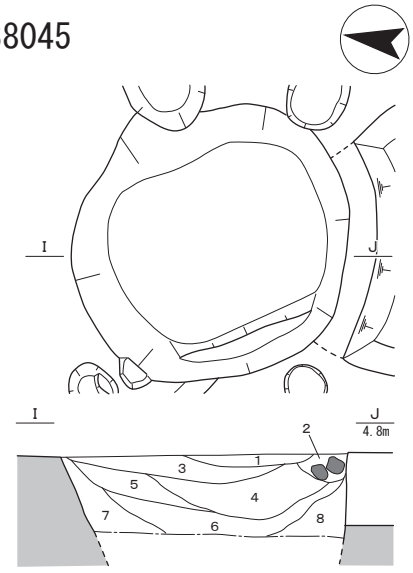
1 2.5Y4/4オリーブ褐色シルト～極細粒砂
(2.5Y5/3黄褐色シルト塊含、マンガン粒若干含) ＜SK38036埋土＞
2 2.5Y4/1黄灰シルト～極細粒砂
(下位ほど鉄分滲み強、2.5Y6/3にぶい黄色～5/3黄褐色シルト塊多含) ＜SK38035埋土＞
3 2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂～シルト
(鉄分滲み斑状に含、2.5Y6/3にぶい黄色シルト塊含) ＜SK38035埋土＞
4 2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂～シルト (鉄分滲み含) ＜SK38035埋土＞
5 2.5Y4/2暗灰黄色極細粒砂 (2.5Y5/3黄褐色シルト塊若干含、木片・木炭粒点在) ＜SK38035埋土＞
6 2.5Y4/3オリーブ褐色極細粒砂
(2.5Y6/3にぶい黄色～5/3黄褐色シルト塊・鉄分滲み多含) ＜SK38037埋土＞
7 2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂～シルト
(鉄分粒散在、2.5Y6/3にぶい黄色～5/3黄褐色シルト塊若干含) ＜SK38037埋土＞
8 2.5Y4/3オリーブ褐色極細粒砂 (鉄分滲み斑状に含) ＜SK38037埋土＞

SK38034



1 2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂 (2.5Y4/4オリーブ褐色中粒砂塊含) ＜耕作土＞
2 2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂と2.5Y4/4オリーブ褐色中粒砂の互層＜床土＞
3 2.5Y4/3オリーブ褐色極細粒砂～シルト
(2.5Y5/4黄褐色マンガン粒含シルト塊含、木炭粒点在) ＜SK38034埋土＞
4 2.5Y4/3オリーブ褐色極細粒砂～シルト (マンガン粒若干含) ＜SK38034埋土＞

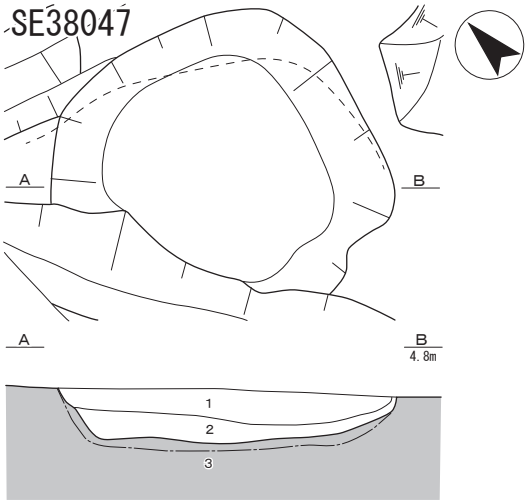
SK38045



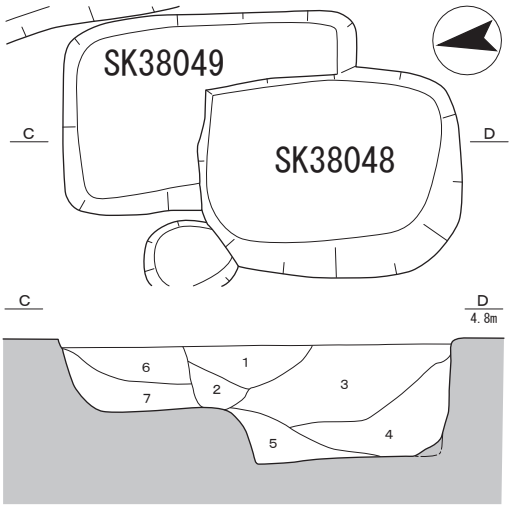
1 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂 (締まり弱) ＜耕作土＞
2 10YR5/6黄褐色シルト～極細粒砂 (締まり弱、大礫含)
3 10YR6/4にぶい黄橙色シルト
(2.5Y5/4黄褐色シルト塊含、礫若干含) ＜SK38045埋土＞
4 2.5Y5/2暗灰黄色シルト
～極細粒砂 (2.5Y6/6明黄褐色シルト塊・
マンガン塊若干含) ＜SK38045埋土＞
5 2.5Y6/2灰黄色シルト～極細粒砂
(2.5Y6/6明黄褐色シルト塊若干含) ＜SK38045埋土＞
6 2.5Y5/3黄褐色シルト～極細粒砂
(2.5Y6/6明黄褐色シルト塊多含) ＜SK38045埋土＞
7 10YR6/1褐灰色シルト～極細粒砂
(10YR5/4にぶい黄褐色シルト塊含) ＜SK38045埋土＞
8 2.5Y5/1黄灰色シルト～粘土
(10YR4/2灰黄褐色シルト塊含) ＜SK38045埋土＞

0 2m

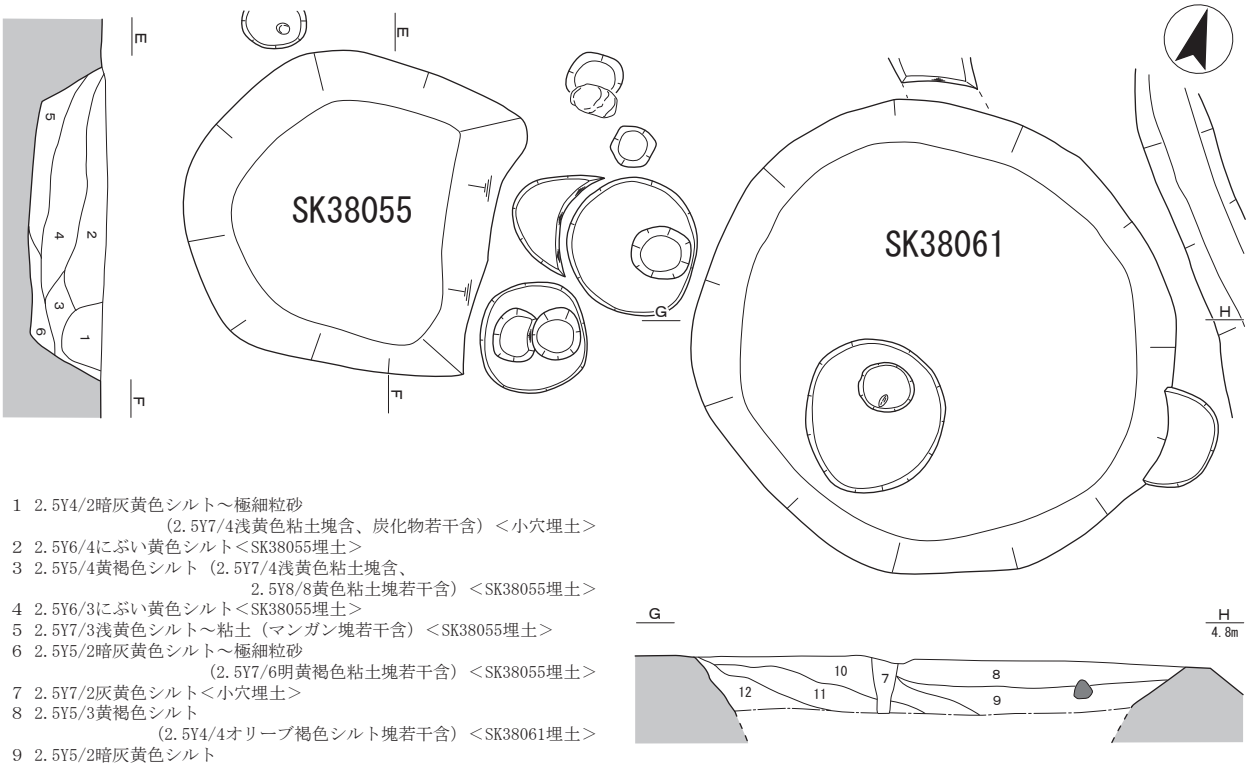
第46図　SK38013・38034～38037・38039・38045実測図 (1：50)



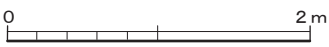
1 2.5Y5/1黄灰色シルト（2.5Y7/3淡黄色粘土塊・細砂若干含）
2 5Y5/1灰色シルト～極細砂粒（2.5Y7/3淡黄色粘土塊若干含）
3 2.5Y7/3淡黄色粘土（マンガン塊含）



1 2.5Y4/2暗灰黄色シルト～極細粒砂（2.5Y8/6黄色粘土塊多含）＜SK38048埋土＞
2 2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂＜SK38048埋土＞
3 2.5Y5/2暗灰黄色シルト（2.5Y8/6黄色粘土塊多含）＜SK38048埋土＞
4 2.5Y4/1黄灰色シルト（2.5Y8/6黄色粘土塊多含）＜SK38048埋土＞
5 2.5Y4/1黄灰色シルト（2.5Y8/6黄色粘土塊多含）＜SK38048埋土＞
6 2.5Y5/1黄灰色シルト～極細粒砂（2.5Y8/3淡黄色粘土塊若干含）＜SK38049埋土＞
7 2.5Y5/2暗灰黄色シルト～極細粒砂
（2.5Y8/4淡黄色粘土塊若干含）＜SK38049埋土＞



1 2.5Y4/2暗灰黄色シルト～極細粒砂
（2.5Y7/4浅黄色粘土塊含、炭化物若干含）＜小穴埋土＞
2 2.5Y6/4にぶい黄色シルト＜SK38055埋土＞
3 2.5Y5/4黄褐色シルト（2.5Y7/4浅黄色粘土塊含、
2.5Y8/8黄色粘土塊若干含）＜SK38055埋土＞
4 2.5Y6/3にぶい黄色シルト＜SK38055埋土＞
5 2.5Y7/3浅黄色シルト～粘土（マンガン塊若干含）＜SK38055埋土＞
6 2.5Y5/2暗灰黄色シルト～極細粒砂
（2.5Y7/6明黄褐色粘土塊若干含）＜SK38055埋土＞
7 2.5Y7/2灰黄色シルト＜小穴埋土＞
8 2.5Y5/3黄褐色シルト
（2.5Y4/4オリーブ褐色シルト塊若干含）＜SK38061埋土＞
9 2.5Y5/2暗灰黄色シルト
（2.5Y7/6明黄褐色粘土塊若干含）＜SK38061埋土＞
10 2.5Y6/2灰黄色シルト（2.5Y7/6明黄褐色粘土塊多含）＜SK38061埋土＞
11 10YR5/2灰黄褐色シルト（2.5Y7/6明黄褐色粘土塊多含）＜SK38061埋土＞
12 10YR4/1褐灰色シルト（2.5Y7/6明黄褐色粘土塊若干含）＜SK38061埋土＞



第47図　SE38047、SK38048・38049・38055・38061実測図（1：50）

ＳＫ３８０１０　８区南部東端で検出した。調査区端での検出のため全体の形状は不明であるが、不整形な方形を呈するものと考えられる。一辺の長さは1.5ｍ程度、深さは検出面から25㎝を測るが一様でない。このため、複数の土坑の重複とも考えられる。土坑の規模に対し土師器の鍋や皿が一定量出土している。

ＳＫ３８０１３（第46図）　８区南端で検出した長辺2.6ｍ、短辺1.6ｍの不整方形を呈する土坑である。深さは検出面から60㎝を測る比較的深いものである。埋土は粘質土であるが、粘土塊を多く含み掘削後時間を経ずに埋め戻された様相を示す。湧水点未満であるものの最下層は若干還元色を呈している。

土坑西端部に若干の突出部があり、径20cmほどの小型の曲物が劣悪な残存ではあるものの正立状態で出土した。この部分は土坑底部もやや窪んでおり、別遺構が重複している可能性もある。土器では土師器の皿や鍋、瓦質土器の火鉢等が出土し、鍋の大きな破片はあるものの、埋納と考えられるものはない。

ＳＫ３８０１４・３８０１５　８区南端で検出した。両者とも不整形な土坑で、深さも10～25㎝で一様ではない。したがって、複数の土坑の重複とすべきであろう。少量ではあるが、土師器の鍋や皿が出土している。

ＳＫ３８０１６　８区中央部で検出した。一辺１ｍの方形を呈し、深さは検出面から50㎝に及ぶ深いものである。中央に直径30㎝ほどの円形に炭の広がりがある。出土遺物は土師器皿や瓦の小片が出土するに止まり、埋納と思われるものは無い。墓とするには根拠が弱く、土坑として報告しておく。

ＳＫ３８０２１　８区南部で検出した。一辺80cmの隅丸正方形を呈するが、深さは検出面から70㎝に及ぶ深いものである。土師器皿が出土しているが、山茶椀の混入もある。

ＳＫ３８０２８　８区南部のＳＤ38018の西端付近に、その埋土と完全に重複して炭の分布がある。炭は直径１ｍ程度の円形に広がり、土師器の鍋や皿も出土している。しかし、土坑の形状は確認できず、ＳＤ38018の埋土の一部であったのかもしれない。

ＳＫ３８０３４（第46図）　８区南部で検出した長方形を呈する土坑である。短辺1.8ｍ、長辺は調査区外に及ぶため不明であるが、1.2ｍ以上である。しかし、深さは極端に浅く、検出面から10cm前後である。埋土上層には木炭粒が点在しているが、埋納と思われる遺物は出土していない。

ＳＫ３８０３５～３８０３７（第46図）　８区南部で検出した重なり合う３基の土坑である。３者とも直径1.4ｍ前後の隅丸不整方形を呈する。しかし深さは異なり、最も深いＳＫ38035が検出面から40cm、ＳＫ38037が30㎝、ＳＫ38036は極端に浅く10cm程度である。３者とも遺物の出土状況に特筆すべきものはないが、最も深いＳＫ38035の埋土最下層は還元色を呈している。また、ＳＫ38035とＳＫ38037は鉄分を多く含んでいる。

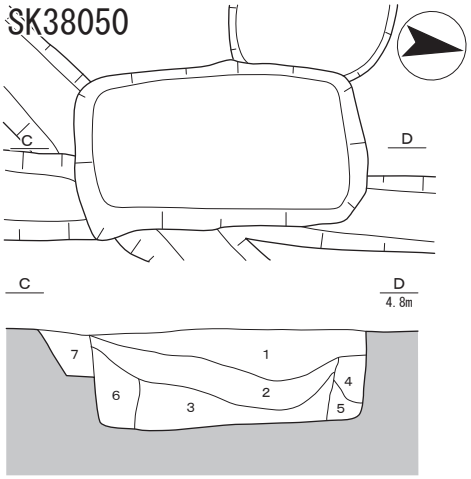
ＳＫ３８０３９（第46図）　８区南部で検出した長方形を呈する土坑である。短辺は60㎝、長辺はＳＫ38037により西側が消滅しており不明であるが、１ｍ以上である。しかし、深さは極端に浅く、検出面から10cm未満である。出土遺物にも特筆すべきものはない。

ＳＫ３８０４５（第46図）　８区中央部で検出した直径1.9～1.8ｍの円形土坑である。深さは検出面から50cmまで確認できたが、底部には至っていない。井戸の可能性もあるが、埋土はレンズ状の自然な堆積である。埋土からは陶器や瓦質土器片が若干出土するのみで、他の遺構で普遍的な土師器は出土していない。

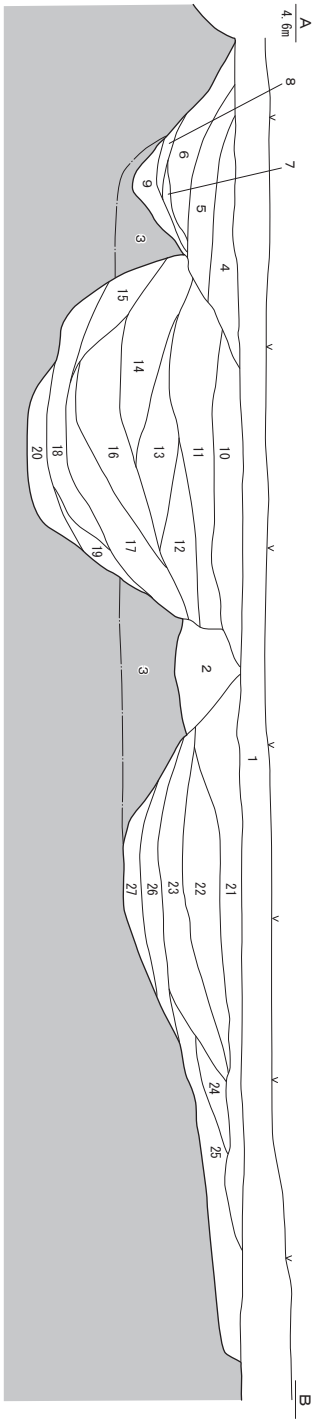
ＳＥ３８０４７（第47図）　８区中央の７区との接合部ちかくで検出した。直径2.2ｍの不整円形を呈し、井戸の掘形が想定された。しかし、検出面から40㎝で底に達する結果となった。埋土には検出面土層の塊が混入しており、掘削後まもなく埋め戻されたようである。

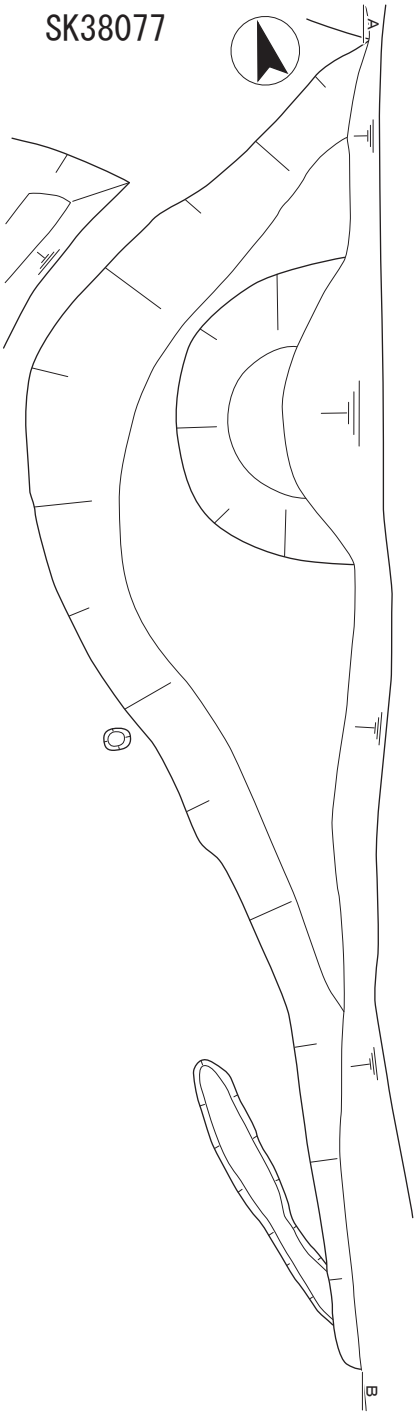
ＳＫ３８０４８・３８０４９（第47図）　８区中央で検出した２基の重複する土坑で、ＳＫ38048が後出である。両者とも短辺1.5ｍ、長辺1.7～２ｍの長方形を呈する。しかし深さは異なり、ＳＫ38048が検出面から80㎝を測る深いものであるのに対し、ＳＫ38049は40㎝である。埋土は両者とも粘土塊を多く含み、掘削後時を経ずして埋め戻されたようである。

ＳＫ３８０５０（第48図）　８区中央部で検出した短辺１ｍ、長辺1.7ｍの長方形を呈する土坑であ



1 2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂～シルト
(2.5Y8/4淡黄粘土塊・10YR7/6黄橙色シルト塊・小礫若干含)
2 2.5Y4/1黄灰色極細粒砂～シルト
(2.5Y6/2灰黄色極細粒砂含、2.5Y7/4淡黄色粘土塊若干含)
3 2.5Y5/3黄褐色シルト～粘土 (2.5Y7/4淡黄色粘土塊若干含)
4 2.5Y6/1黄灰色極細粒砂～シルト
(2.5Y7/3淡黄色粘土塊・10YR6/6明黄褐色シルト塊若干含)
5 10YR5/1褐灰色極細粒砂 (10YR6/2灰黄褐色粘土塊含)
6 2.5Y5/1黄灰色極細粒砂
(10YR6/1褐灰色粘土塊・2.5Y7/4浅黄色粘土塊含)
7 SD38056埋土





1 10YR4/2灰黄褐色中粒砂と2.5Y7/6明黄褐色シルトの混成
(礫若干含) ＜表土・耕作土＞
2 2.5Y7/3浅黄色粘土 (マンガン塊含)
3 5B6/1青灰色中粒砂と5Y5/3灰オリーブシルトの混成
4 10YR5/3にぶい黄褐色シルト (2.5Y5/6黄褐色粘土塊含)
5 10YR6/2灰黄褐色シルト (2.5Y7/3にぶい黄橙色粘土塊含)
6 10YR6/3にぶい黄橙色 (2.5Y7/3にぶい黄橙色粘土塊含)
7 2.5Y6/1黄灰色極細粒砂
8 2.5Y6/2灰黄色極細粒砂 (2.5Y7/3にぶい黄橙色粘土塊含)
9 2.5Y4/2暗灰黄色粘土
10 5Y5/2灰オリーブ色シルト
(2.5Y5/6黄褐色粘土塊含、礫若干含)
11 5Y5/4オリーブ色シルト (2.5Y6/8明黄褐色粘土塊含)
12 2.5Y5/3黄褐色極細粒砂
(2.5Y4/6オリーブ褐色粘土塊若干含、マンガン塊疎らに含)
13 2.5Y4/2暗灰黄色極細粒砂 (2.5Y7/4浅黄色粘土塊斑状に多含)
14 2.5Y5/1黄灰色極細粒砂 (2.5Y7/4浅黄色粘土塊斑状に多含)
15 2.5Y4/3オリーブ褐色細粒砂
(2.5Y7/4浅黄色粘土塊斑状に多含)
16 2.5Y3/3暗オリーブ褐色細粒砂
(2.5Y6/4にぶい黄色粘土塊斑状に多含)
17 2.5Y4/2灰オリーブ色細粒砂
(2.5Y6/2灰黄色粘土塊多含、遺物多量含)
18 5Y3/1オリーブ黒色細粒砂と5PB3/1暗青灰色粘土の混成
(遺物多量含)
19 5Y6/2灰オリーブ色シルト
20 7.5Y5/2灰オリーブ色粘土
21 10YR4/4褐色極細粒砂
(2.5Y6/6明黄褐色粘土塊多含、礫若干含)
22 10YR5/3にぶい黄褐色極細粒砂
(2.5Y6/6明黄褐色粘土塊若干含)
23 10YR4/2灰黄褐色シルト (2.5Y6/6明黄褐色粘土塊若干含)
24 10YR3/2灰黄褐色シルト
25 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト (2.5Y5/6黄褐色粘土塊若干含)
26 5Y4/2灰オリーブ色シルト (2.5Y6/4にぶい黄色粘土塊含)
27 2.5Y3/1黒褐色極細粒砂

第48図　SK38050・38077実測図 (1：50)

る。深さは検出面から60㎝を測る比較的深いものである。埋土の形状は、棺を埋設した土壙墓の可能性を示しているが、遺構の深さに対して出土遺物は皆無にちかい。青磁の小片が出土したのみで、他は前代の混入遺物である。

ＳＫ３８０５５（第47図）　８区中央部で検出した直径２ｍの円形または方形を呈する大型の土坑であるが、深さは検出面から50cm足らずである。埋土は最下層に細砂を含むものの、基本的に粘質土である。土師器皿が一定量出土しているが、比較的多くの山茶椀の混入がある。

ＳＫ３８０５８　８区中央部で検出した直径２ｍ足らずの円形の土坑である。重複して同様な規模のＳＫ38045があり、それに先行するものである。深さは検出面から50cm程度で、底部は凹凸が激しい。土師器壺の体部片が出土しており、弥生時代終末～古墳時代初頭としたいところではあるが、周囲に同時期の遺構は無く、鎌倉時代の溝ＳＤ38098に対し明らかに後出である。このため、根拠に乏しいもののＳＫ38058の掘削が途中で中断され、改めてＳＫ38045が掘削されたものとして、この時代とした。

ＳＫ３８０６１（第47図）　８区中央部で検出した直径３ｍの円形を呈する大型の土坑である。完掘できなかったため、不明確な部分も多いが、その形状から井戸の可能性も残る。平安～鎌倉時代の遺物の混入も多い。

ＳＫ３８０６５（第40図）　８区中央東部で検出した長辺1.2ｍ、短辺80㎝の長方形を呈する。深さは検出面から15cm程度の浅いもので、遺物は全く出土していない。したがって、時期決定の根拠を持たないが、周囲の遺構は室町時代に限られるため、この時期としておく。

ＳＫ３８０６９　８区中央部で検出した直径1.8ｍの円形を呈する土坑で、深さは検出面から50cmである。土師器皿・鍋等が出土しているが、時期差がある。最も新相を示す遺物から室町時代後半とした場合、前半に遡る土師器や山茶椀まで多くが混入遺物となり、重複遺構が無いなかで疑問である。

ＳＫ３８０７７（第48図）　８区北部で検出した。検出時点では一辺約６ｍの大型の土坑を想定したが、埋土断面の観察の結果、４基の土坑が重複していることが分かった。土坑の直径は２～４ｍと４者４様である。深さは検出面から80㎝ほどであるが、浅いものは40㎝、深いものは1.4ｍに及び下位に多量の遺物を含む。埋土は４者とも同様で、細砂が多いものである。

ＳＫ３８０８４　８区北部で検出した。長径1.5ｍ、短径1.2ｍの不整楕円形を呈し、深さは検出面から30cm足らずのものである。土師器の皿・鍋が出土しているが、特筆すべき事項はない。

ＳＫ３８０８５　８区北部で検出した。直径3.6ｍを測る大型の円形土坑で、深さは検出面から80㎝を測る。井戸とするには浅く、その痕跡もない。土師器の皿が多量に出土し、完形またはほぼ完形のものが８個体（495・496・500・518・521・523・534・542）あるが、埋納を思わせる状態ではない。

ＳＫ３８０８９　８区から７区にかけて検出した土坑である。長辺２ｍ、短辺1.2ｍの長方形を呈するが、深さは検出面から10cm程度の浅いものである。土師器の皿や鍋等が出土しているが、埋納と思われるものは無い。

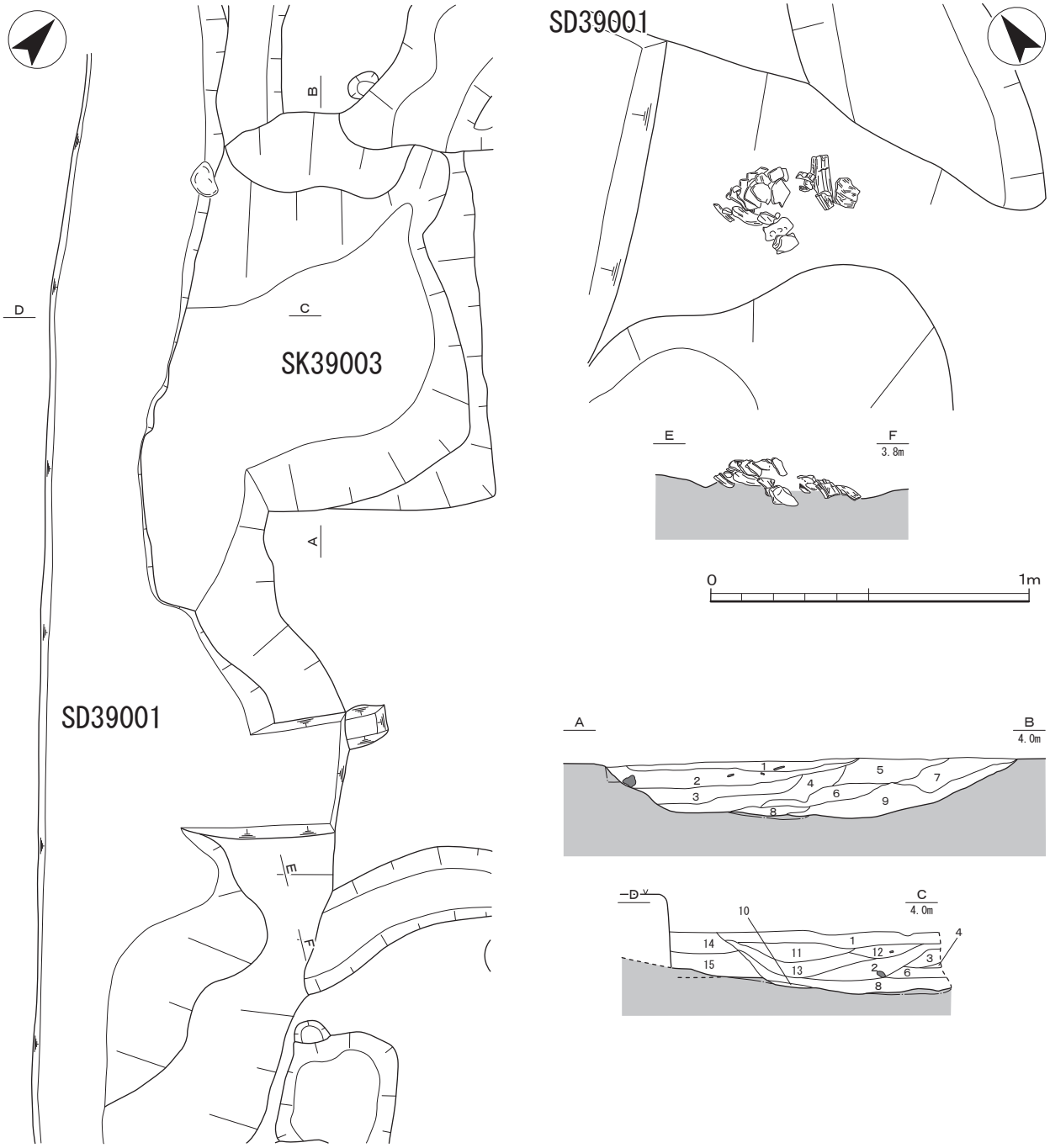
ＳＫ３８０９２　８区北部で検出した長辺1.5ｍ、短辺1.2ｍの不整長方形を呈するが、深さが検出面から90cmを測る深いものである。出土遺物の大半は土師器皿で、大形の破片３個体（715～717）の他は多数の小片が出土している。しかし、偏平な形態の小型皿と思われるものはない。

ＳＫ３８０９５　８区中央東部で検出した長径1.6ｍ、短径１ｍの楕円形土坑であるが、深さが検出面から15cm程度の浅いものである。土師器の皿・鍋等が出土しているが、特筆すべきものは無い。

ＳＫ３８０９７（第27図）　８区南部で検出した直径2.1ｍの円形を呈する土坑である。深さは1.2ｍで、壁は緩やかである。この深さで湧水点に到達しており、井戸枠が抜き取られた井戸としたいところであるが、埋土が素直な堆積のため、土坑に止めておく。

ＳＫ３９００３（第49図）　９区北西部で検出した一辺２ｍ未満の方形土坑である。深さは検出面から40㎝程度を測り、緩やかな船底状を呈する。土師器鍋や茶釜が出土している。

ＳＫ３９００５（第50図）　９区北西部で検出し



1 10YR5/2灰黄褐色極細粒砂（鉄分滲み全体に含、マンガン粒多含、礫若干含）＜SK39003埋土＞
2 10YR4/2灰黄褐色シルト～極細粒砂（鉄分滲み柱状に含、礫若干含、礫岩点在）＜SK39003埋土＞
3 2.5Y4/2暗灰黄色細粒砂～粗砂（鉄分滲み部分的に斑状に含、礫若干含＜SK39003埋土＞
4 10YR4/2灰黄褐色中粒砂～粘質土（鉄分滲み全体に含、10YR5/4にぶい黄褐色シルト塊散在、礫若干含＜SK39003埋土＞
5 10YR5/2灰黄褐色シルト～粘土（マンガン粒・礫若干含）＜SK39003埋土＞
6 10YR5/3にぶい黄褐色粘土（鉄分滲み斑状に散在、マンガン粒含、2.5Y5/4赤褐色シルト塊散在）＜SK39003埋土＞
7 10YR4/2灰黄褐色シルト～粘土（鉄分・マンガン粒含、礫若干含、2.5Y6/2灰黄色シルト塊散在）＜SK39003埋土＞
8 10YR4/4褐色シルト～粘土（鉄分滲み斑状に散在、2.5Y4/3オリーブ褐色シルト・木炭粒散在）＜SK39003埋土＞
9 10YR4/2灰黄褐色粘土～シルト（鉄分滲み斑状に散在）＜SK39003埋土＞
10 10YR4/2灰黄褐色シルト～極細粒砂（鉄分斑点在）＜SK39003埋土＞
11 2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂～中粒砂（鉄分による変色、マンガン粒多含、礫含）＜SK39003埋土＞
12 2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂～シルト（マンガン粒・礫若干含）＜SK39003埋土＞
13 2.5Y4/2暗灰黄色極細粒砂～中粒砂（2.5Y5/3黄褐色シルト塊・鉄分・マンガン粒含）＜SK39003埋土＞
14 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト～極細粒砂（鉄分滲み斑状に含、マンガン粒若干含）＜SD39001埋土＞
15 2.5Y4/2暗灰黄色シルト（鉄分滲み斑状に多含、礫若干含）＜SD39001埋土＞

第49図　SK39003、SD39001実測図（1：50）**、SD39001遺物出土状況図**（1：20）

た長辺2.3ｍ、短辺1.2ｍの不整方形を呈する土坑である。深さは検出面から40cmで、底部は平坦である。埋土の下層は還元色を呈し、最下層には木炭粒が散在する。埋納を想定できる遺物の出土は無く、全て小片である。

ＳＫ３９０１１（第29図）　９区北西部で検出したが、調査区端のため全体の形状は不明である。短径50cm、長径60cm以上の長円形を呈するものと推測される。深さは平面形に比べ50㎝を測る深いもので底部は狭く、断面形はＶ字にちかいＵ字形を呈する。土師器皿が出土しているが、土坑規模に比べて出土遺物は少ない。

ＳＫ３９０１３（第29図）　９区中央部で検出した直径90㎝の不整円形を呈し、深さは20cm程度である。埋土は粘質土であるが、拳またはそれ以上の石を多量に含んでいる。土師器鍋が出土しているが、埋納と思われる状態ではない。

（５）溝

ＳＤ３１００１　１区西端部で検出した溝である。幅約２ｍ、検出面からの深さは50㎝程度であるが、幅や壁の傾斜は不均一である。このため自然流水路に想定したいところではあるが、埋土は全て粘質土で流水の痕跡は認められない。当該時期の遺物の他に、山茶椀や土師器甕等、平安時代から鎌倉時代の遺物も混じる。

ＳＤ３３００９・３３０１１（第10図）　ＳＤ33009は３区北西端で検出した小規模な溝である。また、ＳＤ33011は平安時代中頃のＳＤ33003とＳＤ33006の重複地点で確認したものである。形状や深さは前述のＳＤ33006やＳＤ33008に似るため一群のものとしたいところではあるが、出土遺物が大きく時期を違える。

ＳＤ３５００６　５区南部を斜行する溝である。幅40㎝、検出面からの深さは10㎝程度の浅いものである。直線状に南東へ延び、調査区外へ続く。調査区形状の事情から調査区南端で再び調査区内へ現れるが、やや深さを増し20㎝を測る。幅も一様でなく蛇行傾向を示し、一連の溝とするに疑問もある。しかし、その延長上の第１次調査Ａ区では方向を同じくするＳＤ85が検出されており、これに繋がるものと考えるのが妥当である。ＳＤ85からは遺物の出土が無く、時期が不明と報告されており[5]、一連のものとするに時期的な矛盾はない。北西端は同時期のＳＫ35001の北側に位置する。これが井戸であれば、それに伴う排水溝と考えることもできる。

ＳＤ３６００１　６区北部で検出した。幅80㎝、検出面からの深さ10㎝程度の小規模なものである。調査区外から西へ直線状に延びるが、西端は後出のＳＫ36016により消滅している。しかし、出土遺物からは両者に時期差は無く、ＳＫ36016に付属する施設の可能性も残る。

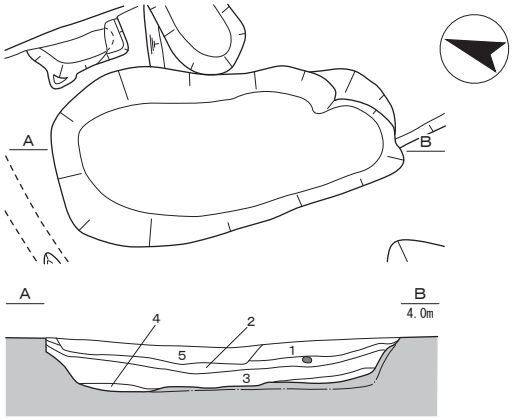
ＳＤ３６００２・３６００６・３６００７（第16図）　ＳＤ36002は、６区西端を南北に延びる溝である。調査区端での検出のため正確な幅は不明であるが、1.8ｍに及ぶものと推測される。深さは検出面から70㎝を測り、壁は比較的緩やかである。南端では方向をやや東に振り、ＳＤ36007とＳＤ36006に分かれる。ＳＤ36002とＳＤ36007は同時期であるが、規模が著しく異なり、繋がるとするに疑問が残る。

ＳＤ36007は幅50㎝、検出面からの深さ20㎝程度の小規模なものである。しかし、Ｌ字状に屈曲し、東端が同時期のＳＤ36012に繋がる様にも見え、３者で区画の南西隅を形成する可能性も残る。ＳＤ36006とは規模の格差は少ないが、ＳＤ36006の時期がやや先行し、一連のものとするに疑問が残る。

３者とも規模を問わず、土師器皿・鍋等の多量の遺物が出土している。なかでもＳＤ36002とＳＤ36006からは残存度が良好な鎌倉時代に遡る土師器鍋の破片があり、３者の性格や時期の検討を複雑にしている。

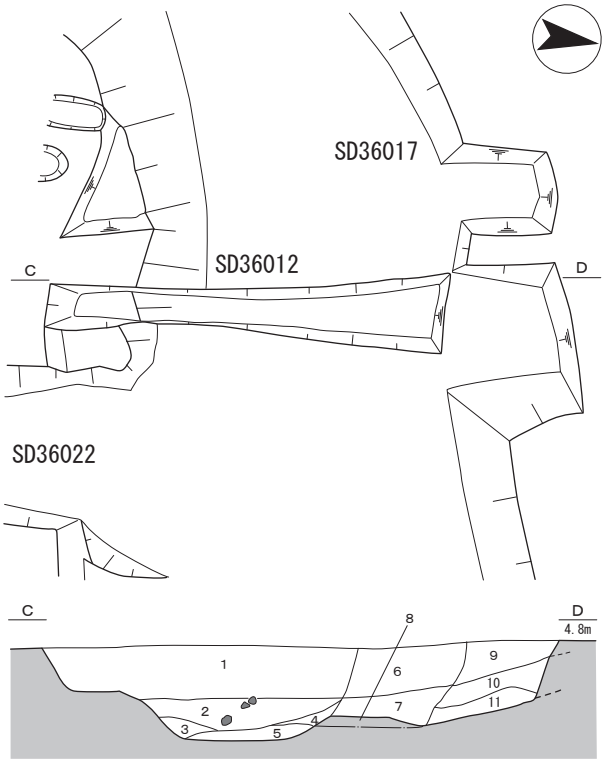
ＳＤ３６００３　６区南端を東西に延びる溝である。１ｍの間隔をおいて同時期のＳＤ36012が北側を並走する。両者の幅は約1.6ｍで類似するが、深さが大きく異なり、検出面から60～80㎝を測るＳＤ36012に対し、30㎝程度の浅いものである。調査区西端ちかくで北側に屈曲する状況を見せつつ消滅するが、この屈曲はＳＤ36007と並走するものである。屈曲部付近では溝幅を減じており、結果的に両者は幅、深さ共に類似する。後述するようにＳＤ36012等がＬ字状の区画を形成するのであれば、平面形的には極めて類似する状況である。埋土は粘質

SK39005



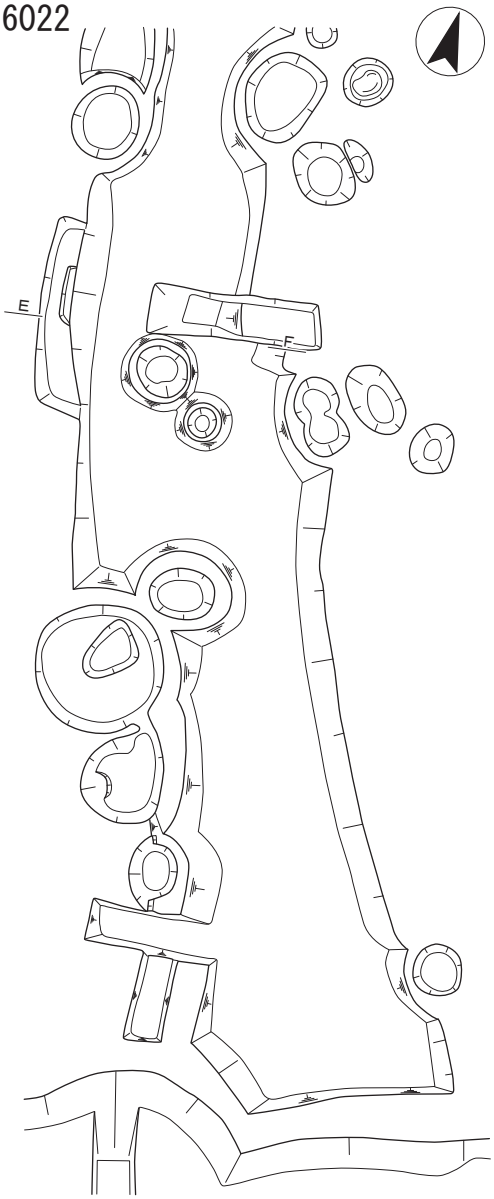
1 10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂～シルト（マンガン粒含、礫若干含）
2 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂～シルト（マンガン粒含、礫石点在）
3 10YR5/1褐灰色シルト～極細粒砂
（上位ほど極細粒砂の割合高・マンガン粒多含）
4 10YR4/1褐色シルト（木炭粒散在）
5 撹乱

SD36012・36017・36022



1 10YR6/3にぶい黄橙色シルト
（砂礫含、2.5Y6/4にぶい黄シルト塊若干含）＜SD36012埋土＞
2 2.5Y5/3黄褐色混礫シルト＜SD36012埋土＞
3 2.5Y5/4黄褐色シルト～極細砂＜SD36012埋土＞
4 10YR5/4にぶい黄褐色シルト＜SD36012埋土＞
5 2.5Y4/3オリーブ褐色粘土（鉄分斑状に含）＜SD36012埋土＞
6 2.5Y6/4にぶい黄色シルト（砂礫・マンガン粒若干含）＜SD36017埋土＞
7 2.5Y5/3黄褐色シルト（マンガン粒若干含）＜SD36017埋土＞
8 2.5Y6/4にぶい黄色シルト（鉄分多含）＜SD36017埋土＞
9 2.5Y6/3にぶい黄シルト（礫若干含）＜SD36022埋土＞
10 10YR6/3にぶい黄橙色シルト～極細砂（鉄分斑状に若干含）＜SD36022埋土＞
11 10YR5/4にぶい黄褐シルト（鉄分若干斑状に含）＜SD36022埋土＞

SD36022



1 10YR4/3にぶい黄褐色シルト
2 10YR6/3にぶい黄橙色シルト
3 10YR5/3にぶい黄橙色中砂～粗砂
4 10YR5/4にぶい黄褐シルト～極細砂
5 10YR4/4褐色シルト～粘土（マンガン粒含、
10YR6/3にぶい黄橙色極細砂若干含）
6 10R5/4にぶい黄褐シルト

第50図　SK39005、SD36012・36017・36022実測図（1：50）

土であるが、多少の礫を含んでいる。

ＳＤ３６００４（第45図） ６区南部を鍵状に屈曲して東西に延びる溝である。西端はＳＤ36002と直交し､それより西へ延びるかどうかは不明である。６ｍほど東進し直角に南へ屈曲、７ｍ南進し再び直角に屈曲して東へ向かう。８ｍ東進し、ＳＤ36014と直交するが、それより東進することはない。検出時点では､再び直角に屈曲し南進すると判断したが、掘削の結果、ＳＤ36014に接続し、Ｔ字路を形成するする可能性も生じた。

幅1.5ｍであるが、東端は60㎝ほどに細くなっている。深さは検出面から１ｍを測る幅に比べ深いもので、断面Ｖ字形を呈する。これらから、東端が細くなる形状に疑問が残るが、人為的に掘削された可能性が高い｡油煙の付着する土師器皿が多く出土し、人面墨書土器（1421）もある。

ＳＤ３６０１２・３６０１７（第16・50図） ６区南部を東西に延びる溝群のひとつである。ＳＤ36012は幅1.6ｍ、検出面からの深さは60～80㎝を測る大規模なもので､調査区外東側から西進する。調査区西側外まで延びていないことは確実で、調査区西部の多数の溝や土坑と重複した位置で止まるようである。ただし、同時期のＳＤ36002・36007と連動してＬ字状の区画を形成する可能性もあるが、溝の規模が異なり確証を得られない。なお、南側には１ｍの間隔をおいてＳＤ36003が並走する。

ＳＤ36017は大半を後出のＳＤ36012と重複するため全様は不明確であるが、ＳＤ36012と同様な溝のようである。

ＳＤ３６０１３・３６０１４（第16・50図）
ＳＤ36014は、６区東端を東西に延びる溝である。幅３ｍ、検出面からの深さ80㎝を測る大規模なものである。埋土には砂を含む部分層が散見され、流路であったようである。溝の規模に対して出土遺物量は比較的少ない。

ＳＤ36013はＳＤ36014に接して南下し、ＳＫ36016により消滅するが、この部分でＳＤ36014に合流するものと推測される。検出時点ではＳＤ36014より先行し、出土遺物もやや古相を示し矛盾はない。しかし、埋土断面観察ではＳＤ36014より後出となり、齟齬を生じた結果となった。前述した溝の南下方向や埋土が酷似することから、ＳＤ36014の一時的な流路とし、両者は一体のもとしたい。

ＳＤ３６０１９・３６０２４ 両者とも検出面からの深さ30cm未満の浅いもので、幅はＳＤ36019が30㎝、ＳＤ36024がやや広く80㎝を測る。両者は８ｍほど離れるが、同方向に斜行する。検出できた延長は２ｍ程度しかなく、両端とも他の消滅または不明瞭となる。このため、遺構の性格は不明であるが、ＳＤ36019はＳＤ36002と並走し、ＳＤ36024はＳＤ36002の延長状に位置することから、それに関連するものかもしれない。ＳＤ36024からの出土遺物はないが、これらと同時期としておく。

ＳＤ３６０２１・３６０２２（第16・50図）
ＳＤ36022は、６区中央部で検出された。弯曲気味に方向を変えつつ南北に延びる。幅1.5～1.8ｍでやや均一を欠く。深さは最深部で検出面から50㎝を測るが、断面形は緩やかなＶ字形を呈する。埋土は砂を含む部分もあるが、基本的に粘質土で、流路状の平面形ではあるが、流水の痕跡は乏しい。

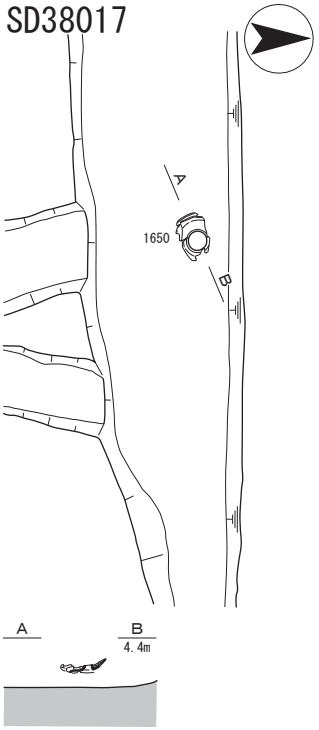
なお、ＳＤ36013との前後関係は、平面観察と土層観察では逆となり、錯綜した結果となった。出土遺物からはＳＤ36013がやや新相を示し、平面観察と整合している。

ＳＤ36021は、東西溝群に寸断されたＳＤ36022の南側延長上に位置するため、それと一連のものとして良いであろう。しかし深さは検出面から10㎝未満となり、調査区南端で消滅するようである。

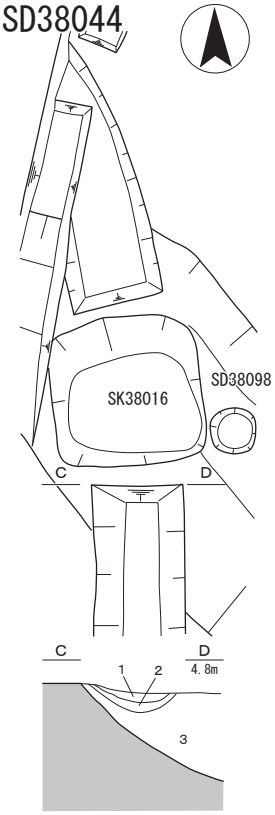
ＳＤ３６０２３ ６区北東隅で検出した。幅３ｍで東西に延びる溝としたが、調査区外から４ｍ西進してＳＤ36014により消滅している。深さも検出面から30㎝未満の浅いもので、溝とするに疑問も多い。土師器皿等が少量出土したに止まる。

ＳＤ３７００３・３８０４４（第26・27・51図）
ＳＤ38044は、８区中央を南北に延びる溝である。幅は均一な50cmで、深さは検出面から20cm未満の浅いものである。両端とも調査区外へ続くが南端は７区のＳＤ37003となり調査区外へ至る。さらに36ｍ離れた延長上にＳＤ38031が位置するが、時期的な矛盾がないものの確証が持てない。北端はやや西に振る傾向を見せ調査区外へ続いている。埋土に砂粒を含む部分もあるが、直線的で整った形状から

SD38017

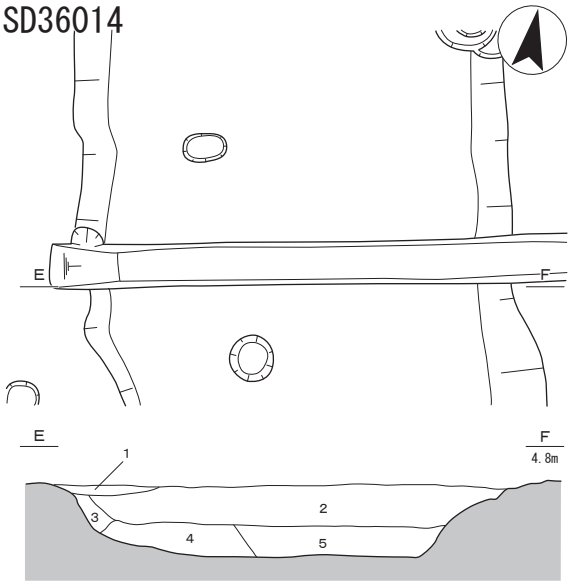


SD38044



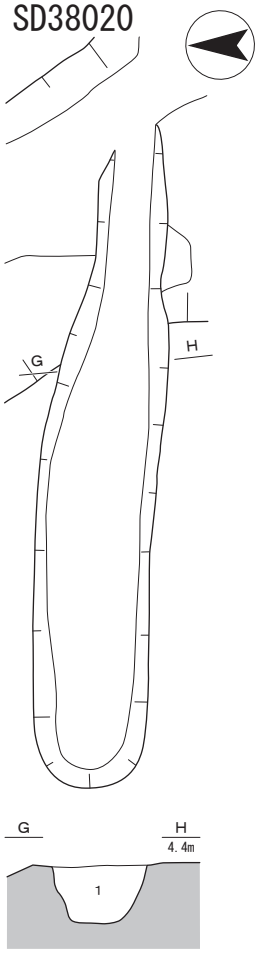
1 2.5Y7/2灰黄色シルト（小礫若干含）
2 2.5Y6/3にぶい黄色シルト（炭化物若干含）
3 SD38098埋土

SD36014



1 2.5Y7/3浅黄色粘質土
2 2.5Y7/2浅黄色粘質土（小礫含）
3 2.5Y7/1灰白色粘質土
4 N4/灰色混礫土
5 N5/灰色粘質土

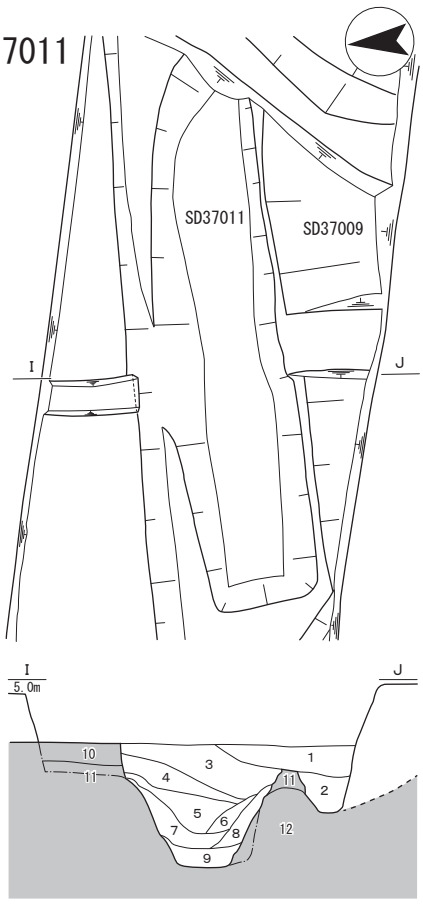
SD38020



1 2.5Y4/4オリーブ褐色極細粒砂～細粒砂
（鉄分マンガン滲みが薄く広がる）

0 2m

SD37009・37011



1 10YR5/4にぶい黄褐色シルト＜SD37009埋土＞
2 2.5Y5/3黄褐色シルトと
2.5Y6/4にぶい黄色極細粒砂と
2.5Y7/4浅黄色シルトの混成＜SD37009埋土＞
3 10YR5/3にぶい黄褐色シルト＜SD37011埋土＞
4 10YR4/4褐色シルト＜SD37011埋土＞
5 10YR5/4にぶい黄褐色シルト～粘土
（マンガン若干含）＜SD37011埋土＞
6 10YR5/3にぶい黄褐色シルト＜SD37011埋土＞
7 10YR5/3にぶい黄褐色粘土＜SD37011埋土＞
8 10YR6/3にぶい黄橙粘土～シルト
（2.5Y7/4浅黄色シルト・マンガン若干含）
＜SD37011埋土＞
9 10YR5/2灰黄褐色粘土＜SD37011埋土＞
10 2.5Y5/4黄褐色シルト（マンガン含）
＜検出面＞
11 2.5Y７/4浅黄色シルト（マンガン含）
12 5Y6/2灰オリーブ色細砂

第51図　SD36014・37009・37011・38020・38044実測図、SD38017遺物出土状況図（1：50）

何らかの意図をもって掘削されたものと考えられる。

ＳＤ３７００５（第52図）　７区東端で検出した大規模な溝で、深さは検出面から1.2ｍを測る。大半は調査区外であり、大型の土坑の可能性も残る。流路としたいところではあるが、埋土は粘質土で、礫を含む層はあるものの砂層等は包含しない。土師器皿･鍋等多くの遺物が出土し､山茶椀の混入もある。

ＳＤ３７００６（第26図）　７区中央部を南北に横切る溝である。幅４ｍ、深さ1.2ｍに及ぶ大規模な堀状の溝であるが、壁は比較的緩やかである。埋土上層は多くの礫を包含しており、下層は、炭化物を多く含む層が多い。ＳＤ37009と重複するが、それより後出のものである。土師器皿･鍋、瓦質土器、青磁等、多様な遺物が出土しているが、特に土師器皿が多く､層序による明確な時期差は認められない。

ＳＤ３７００９（第26・51図）　７区中央部で検出した東西に延びる溝としたが、南半は調査区外、東端も調査区外へ延び、西端はＳＤ37006により消滅しているが、それを超えて東へは延びていない。このため土坑の可能性もある。土師器皿や鍋が出土しているが、残存度が良好なものはない。

ＳＤ３７０１１・３７０１４（第51図）　両者は７区中央部で検出された。ＳＤ37011は､幅１ｍ程度、検出面からの深さは80㎝を測る深いものである。断面形はＶ字形であるが底部に平坦面を残している。西端は突然止まり、３ｍほど東進して終息の傾向をみせるが、ＳＤ37006により消滅するため詳細は不明である。この形状から、明らかに何らかの目的をもって掘削されたものと考えられ、埋土は粘質土系である。瓦質の火舎や土師器の鍋等が出土している。

ＳＤ37014は、ＳＤ37011と大半が重複するため不明な部分も多いが、検出時点では直線的に東西の調査区外へ延びるものと判断された。深さは20㎝未満の浅いものである。しかし、出土遺物に時期差はなく、ＳＤ37011や東部で重複するＳＤ37006との埋土断面の観察ではＳＤ37014の先行を示している。

ＳＤ３７０１２　７区中央部を斜行する溝である。幅30cm、検出面からの深さも30㎝程度の小規模なものである。出土遺物は無く時期は不明であるが、重複する全ての遺構に対し、後出である。近現代にまで下る要素もないため､この時期としておく。

ＳＤ３７０１３・３８０９８（第26・27・28図）　ＳＤ37013は７区中央部を南東から北西に延びる溝である。幅１ｍ、深さは１ｍに及び、幅に対して深いものである。埋土は粘質土であるが、最下層は極細砂となり、流水もあったようである。

北西側の延長上には、４ｍの間隔を空けて８区のＳＤ38098がある。遺構検出終了の精査で発見されたもので、他の遺構より先行する可能性が高い。しかも出土遺物が山茶椀であり､矛盾はない。しかし、幅に比べ非常に深い形状がＳＤ37013と酷似し、別遺構とは思えず､一連のものとした方が自然である。

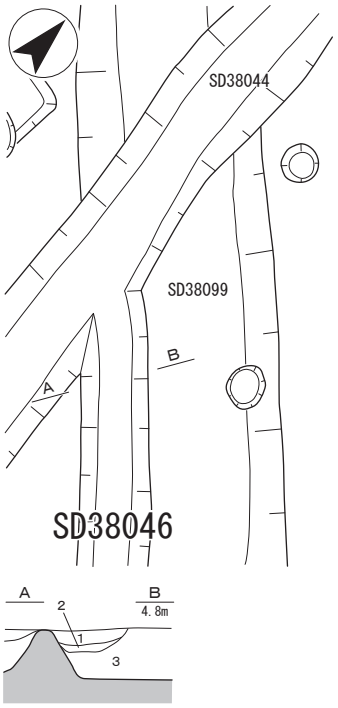
なお、北方に離れたＳＤ38073と直交する方向であることも留意しておく。

ＳＤ３８００４　８区南部で検出した幅40cm、検出面からの深さ20cm程度の小規模なものである。西端は調査区外、東側はSE38001の掘形によって消滅しているが、それを超えて東方に延びることはない。ＳＥ38001に伴う排水溝としたいところではあるが、出土遺物が古相を示し、出土遺物からの時期が合致しない。

ＳＤ３８０１１（第44図）　８区最南端で検出した。調査区外南東側から若干弯曲し、調査区を掠めるかたちで北東側調査区外へ延びている。幅は２ｍに及ぶものと思われ、深さは検出面から60㎝を測る。壁は比較的急で、緩やかなＶ字の断面形を呈する。埋土の堆積状況は２条の溝が重複する様相を示すが、両者で土質の差異は少ない。

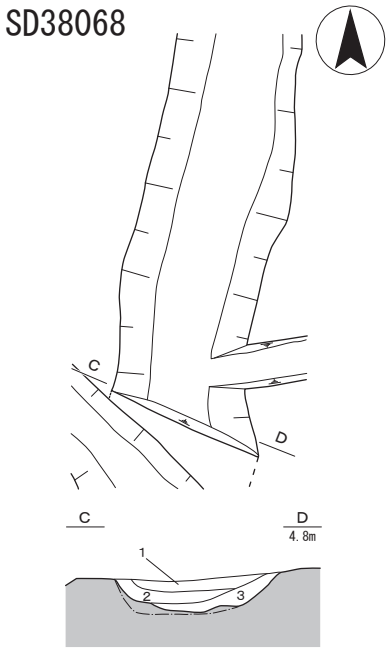
溝内の一部で、20cmほどの石の集中がみられる。また、そこから３ｍほど北側で、半分以上の残存で正立した土師器鍋（1004）が検出されている。鍋内にも20cmほどの石が１個あり、この土器の付近は溝底が一段深くなっている。この部分は別の土坑とすべきかも知れない。

ＳＤ３８０１７（第51図）　８区南東部を東西に延びる溝である。幅１ｍ程度であるが一定せず、調査区外東側から若干蛇行しながら28ｍ西進し､徐々に幅を減じつつ消滅している。深さも浅く、検出面から20cmである。これらの形状から自然流水路と考えられるが、他の同様な流路と大きく方向が異なり疑問である。溝東部で土師器の茶釜（1650）が正立状態のまま潰れたかの様な状況で出土した。底部



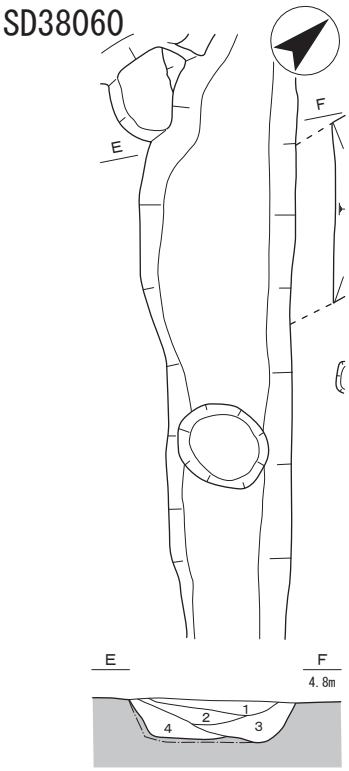
1 2.5Y7/2灰黄色シルト～極細粒砂
＜SD38046埋土＞
2 2.5Y7/4浅黄色シルト
(2.5Y5/6黄褐色シルト塊若干含)
＜SD38046埋土＞
3 2.5Y6/2灰黄色シルト＜SD38099埋土＞

SD38068



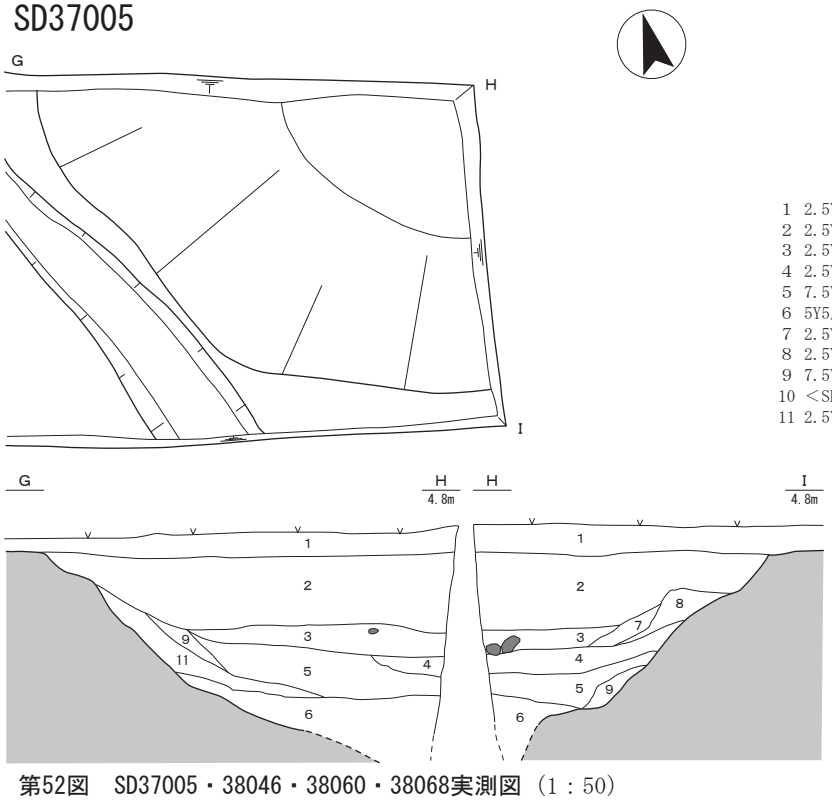
1 2.5Y6/4にぶい黄色極細粒砂（礫・マンガン塊若干含）
2 2.5Y6/2灰黄色シルト～極細粒砂（マンガン塊若干含）
3 2.5Y5/1黄灰色極細粒砂～シルト

SD38060

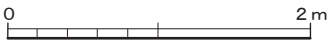


1 2.5Y7/2灰黄色シルト（マンガン塊若干含）
2 2.5Y6/3にぶい黄色シルト～極細粒砂
（マンガン塊若干含）
3 10YR7/1灰白色シルト～極細粒砂
4 2.5Y5/2暗灰黄色シルト
（マンガン塊若干含）

SD37005



1 2.5Y4/2暗灰黄色シルト＜表土＞
2 2.5Y5/3黄褐色シルト＜SD37005埋土＞
3 2.5Y4/1黄灰色粘土（礫含）＜SD37005埋土＞
4 2.5Y4/2暗黄灰色シルト（鉄分含）＜SD37005埋土＞
5 7.5Y5/1灰色粘土＜SD37005埋土＞
6 5Y5/1灰色シルト（有機物多含）＜SD37005埋土＞
7 2.5Y5/4黄褐色シルト＜SD37005埋土＞
8 2.5Y5/2暗灰黄色シルト＜SD37005埋土＞
9 7.5Y7/2灰白色粘土＜SD37005埋土＞
10 ＜SD37005埋土＞
11 2.5Y5/2暗灰黄色シルトと細砂の互層＜SD37005埋土＞



第52図　SD37005・38046・38060・38068実測図（1：50）

は欠損しており、故意か偶然の埋没状況下かは明確でない。その他、ほぼ完形の天目茶椀（1655）をはじめ多くの遺物が出土している。

ＳＤ３８０１８・３８０２７・３８０３０（第28・54図）　８区南東部で検出した。ＳＤ38018とＳＤ38030は直角に連結し、幅は東西に延びるＳＤ38018が３ｍ、南北に延びるＳＤ38030が２ｍ未満で、やや規模を縮小する。深さは検出面から60㎝程であるが、ＳＤ38030が幅に反してやや深い。ＳＤ38018の埋土は上下２層に分かれ、規模を縮小した溝が重複する様相を示す。しかし出土遺物に明確な時期差はない。ＳＤ38027はＳＤ38018の最下層でＳＤ38018の下層からさらに20cm下がる。

３者の溝を一体としてみれば、深さ１ｍの方形に巡る堀状の遺構の一部と推測することが可能である。後述する土壌分析の結果から、溝内は湿潤状態であったようで、空堀が想定される。一方、一時的な水流も想定でき、完全に閉鎖されたものではなかったようである。完形の土師器鍋をはじめとする多量の遺物が出土している。

ＳＤ３８０２０（第51図）　８区南部で検出した幅80㎝、検出面からの深さ40㎝の小規模な溝である。ほぼ方位に沿って東西に延びるが、東端はＳＤ38030と直角に連結する。両者は溝の規模が異なり、出土遺物もＳＤ38020がやや古相を示すことから、これとともに区画の一翼を担うものと即断できない要素がある。西端は調査区内で止まり、埋土は粘質土、土器の細片が点在する。

ＳＤ３８０２５　８区南東端で検出した南北に延びる溝である。幅80cm、検出面からの深さは35cmである。規模が大きく異なるＳＤ38018・38027と直交するが、それらに先行するものである。

ＳＤ３８０３１（第28図）　８区南部で検出した幅1.2ｍ、深さ30cmの溝である。検出延長が４ｍ足らずのため詳細は不明であるが、弧状を描くように延びる。埋土は粘質土で土師器皿が出土しているが、その量は比較的少ない。

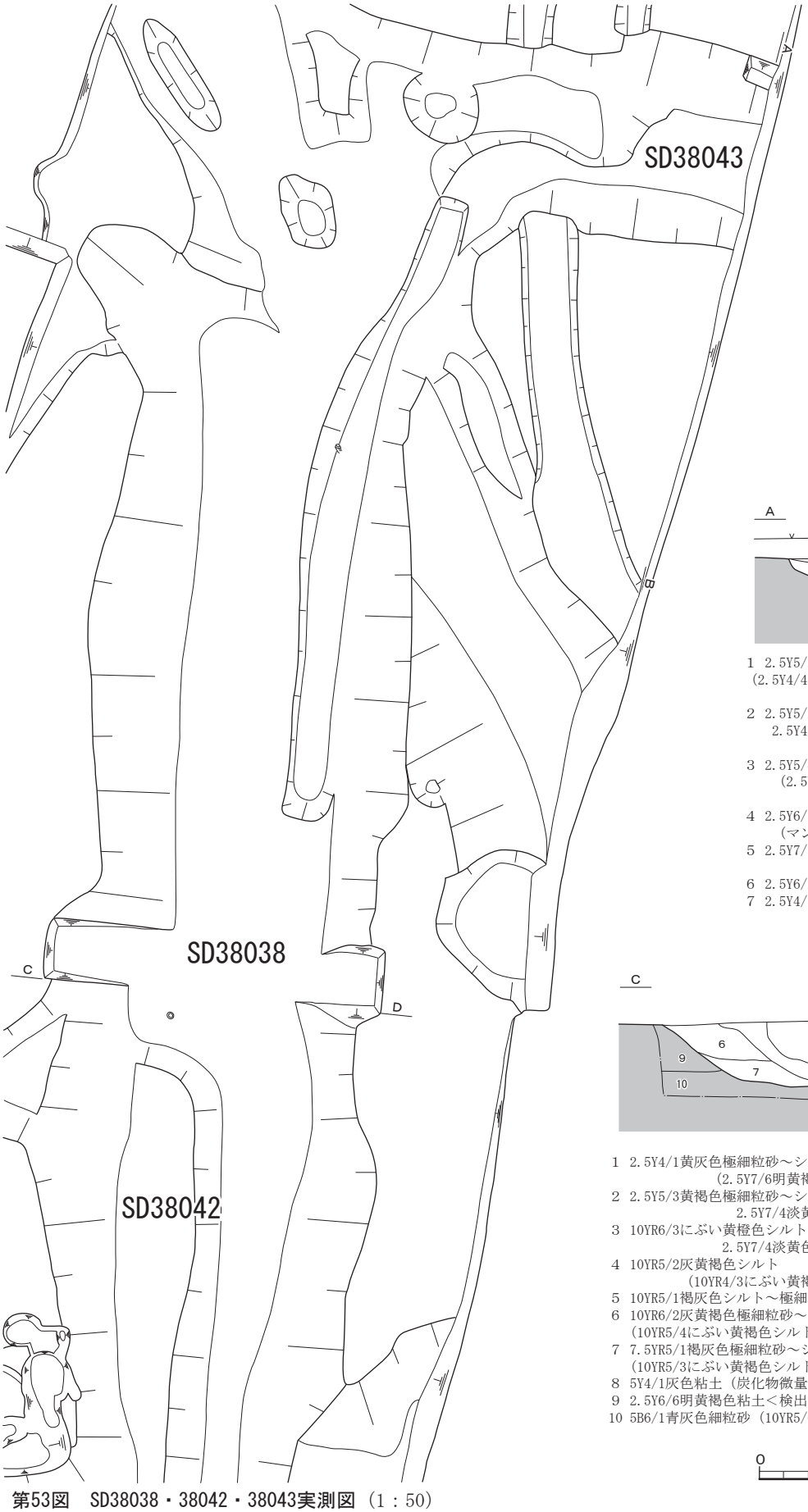
ＳＤ３８０３２（第28図）　８区南部で検出した調査区を斜行する溝で、幅1.2ｍ、深さ40㎝を測る比較的規模の大きなものである。ＳＲ38033と近接して並走するが、弥生時代終末～古墳時代初頭としたＳＲ38033とは大きな時期差がある。ＳＲ38033は北西延長部にＳＤ38090があるが、ＳＤ38032は対応する溝が無い。埋土断面の観察ではＳＤ38032がＳＲ38033に先行する結果となっており、錯誤が生じている。出土遺物は溝の規模に対して少ないが、終末期にちかい山茶椀が複数個体出土している。

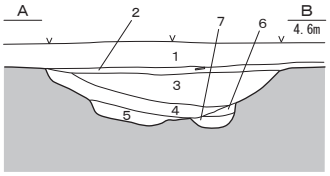
ＳＤ３８０３８・３８０４２・３８０４３（第53図）　ＳＤ38042とＳＤ38043は８区南部で検出した。ＳＤ38042は近世以降の溝ＳＤ38038が重複するため不明確な部分もあるが、幅2.5ｍ、検出面からの深さ60㎝を測る大規模な溝である。調査区外から30ｍ以上北上し、東から延びるＳＤ38043と直角に繋がる。両者を一連のものとしてＬ字状に屈曲するものとした。しかし、ＳＤ36043は幅1.6ｍ、検出面からの深さは30㎝程度で規模が揃わず疑問もある。埋土は両者とも粘質土と細砂で構成され、多量の土師器皿や鍋が出土している。ほぼ完形の土師器鍋（1782）をはじめ土師器皿にも残存度が高いものが多い。

なお、近世以降の桟瓦や陶磁器が出土するＳＤ38038からも多量の室町時代の遺物が出土している。これらは本来、ＳＤ38042の遺物と考えて相違ない。あるいは、ＳＤ38042の最終埋没が近世以降に及ぶことを示唆するものかもしれない。

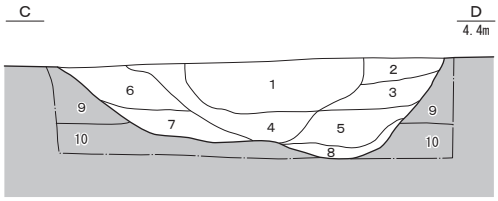
ＳＤ３８０４６（第52図）　８区中央部を南北に延びる溝である。幅50cm、検出面からの深さ10cm程度の小規模なものである。調査区外から若干蛇行気味に北上するが、ＳＤ38044と交差した先は不明確となる。延長上の調査区西壁の土層にも表れていない。ＳＤ38044からの分岐とするには、両者に若干の時期差が認められ、直線状に延びるＳＤ38044とは形状も異なる。したがって、この付近で消滅したものと思われ、埋土にも多少砂粒を含むことから、流水の痕跡としておく。

ＳＤ３８０５１（第27図）　８区中央部を東西に延びる溝である。幅70㎝、深さ40cmで、埋土は細流砂が主体である。このため、流水があったようであるが、東西の西側延長上に位置する第２次調査区や７区では、これに相当する溝が検出されておらず、疑問である。土師器の鍋・皿等の遺物が出土している。





1 2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂
(2.5Y4/4オリーブ褐色中粒砂塊斑状に含)
＜表土：耕土１＞
2 2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂と
2.5Y4/4オリーブ褐色中粒砂の互層
＜床土：耕土２＞
3 2.5Y5/4黄褐色シルト～極細粒砂
(2.5Y7/6明黄褐色粘土塊・礫若干含)
＜SD38043埋土＞
4 2.5Y6/3にぶい黄色シルト
(マンガン塊若干含) ＜SD38043埋土＞
5 2.5Y7/3浅黄色シルト
(マンガン塊含) ＜SD38043埋土＞
6 2.5Y6/2灰黄色極細粒砂＜SD38043埋土＞
7 2.5Y4/3オリーブ褐色極細粒砂
＜SD38043埋土＞



1 2.5Y4/1黄灰色極細粒砂～シルト
(2.5Y7/6明黄褐色粘土塊多含) ＜SD38038埋土＞
2 2.5Y5/3黄褐色極細粒砂～シルトと
2.5Y7/4淡黄色シルトの混成＜SD38038埋土＞
3 10YR6/3にぶい黄橙色シルトと
2.5Y7/4淡黄色シルトの混成土＜SD38038埋土＞
4 10YR5/2灰黄褐色シルト
(10YR4/3にぶい黄褐色シルト塊含) ＜SD38042埋土＞
5 10YR5/1褐灰色シルト～極細粒砂＜SD38042埋土＞
6 10YR6/2灰黄褐色極細粒砂～シルト
(10YR5/4にぶい黄褐色シルト塊斑状に多含) ＜SD38042埋土＞
7 7.5YR5/1褐灰色極細粒砂～シルト
(10YR5/3にぶい黄褐色シルト塊斑状に多含) ＜SD38042埋土＞
8 5Y4/1灰色粘土（炭化物微量含）＜SD38042埋土＞
9 2.5Y6/6明黄褐色粘土＜検出面＞
10 5B6/1青灰色細粒砂（10YR5/6黄褐色シルト塊含）

第53図　SD38038・38042・38043実測図（1：50）

ＳＤ３８０６０・３８０６８・３８０７１・３８０８８・３８０９６（第 27・28・52 図）

ＳＤ 38060・38071・38088・38090 は、８区東部から北部を南東から北西へ断続的に延びる溝群である。幅が不定形のものや若干蛇行するものがあり、検出面からの深さは 30㎝程度で比較的浅いものである。流路を想定したいところではあるが、埋土は粘質土である。該当時期の土師器の皿や鍋が出土しているが、飛鳥から奈良時代の遺物が一定量混入しており、大形の破片もある。また、ＳＤ 38071 やＳＤ 38096 からは、該当時期の遺物は出土していない。

ＳＤ 38068 はＳＤ 38060 から分流するかたちで北東方向へ延び、調査区外へ至っている。規模はＳＤ 38060 と同様であるが、埋土は砂質系で、流水の痕跡とするに疑問はない。

この様な状況で、疑問は残るもののこの一群を流水の痕跡としておく。

ＳＤ３８０６２（第 40 図）　８区東部のＳＢ 38067 内を建物と方向を揃え、南北に延びる溝である。幅 80㎝、検出面からの深さは 30㎝程度である。両端とも調査区内で途切れており、埋土は粘質土である。建物との関係は不明であるが、埋土の観察では建物に先行するものの出土遺物に時期差は無い。

ＳＤ３８０６６（第 27 図）　８区南部を東西に延びる溝である。幅 4.4 ｍを測る大規模なものであるが、深さは 50cm 程度の浅いものである。埋土に細砂粒を含むが、砂は硬く締まっている。最下層には枝葉の沈着もみられ、流路とすべきであるが、硬く締まった状態に疑問が残る。土師器皿・鍋に加え瓦質の鉢も出土している。

ＳＤ３８０７０（第 28 図）　８区東端で検出した。幅 60cm、深さ 20cm 足らずの小規模なものである。調査区外から西進し間もなく直角に南へ方向を変え、弯曲しながら再び調査区東側外へ去っている。進路の形状から意図的に掘削されたものと思われるが、この他に特筆すべき事項はない。

ＳＤ３８０７２（第 27 図）　８区中央部を東西に延びる堀状の溝である。幅 2.6 ｍ、深さ１ｍを測り、断面は緩やかなＶ字状を呈する整った形状である。埋土は粘質土系であるが、多くの粗砂や細流砂を含み流水の痕跡もある。埋土下半は湧水点に達するためか還元色を呈している。陶器の鉢や土師器皿等が出土しているが、溝の規模に比べ出土量は少ない。

ＳＤ３８０７３（第 27 図）　８区北部を南西から北東に延びる溝である。溝の内々で６ｍの間隔を空け、同時期の溝ＳＤ 38080 が並走する。規模はＳＤ 38080 より小規模で、幅 1.2 ｍ、深さ 60cm であるが整った形状である。

ＳＤ３８０７５（第 27 図）　８区北部を斜行する溝である。検出面の変色を誤認して掘削した結果、乱れた平面図になっているが、本来は幅 40cm、深さ 20cm 程度の小規模なものである。南西側調査区外から北東へ５ｍで途切れている。埋土は粘質土で、規模に比べ多くの土師器鍋が出土し、山茶椀の混入も目立つ。これらの一部は交差するＳＤ 38081 に由来する可能性が高い。

ＳＤ３８０７８（第 27 図）　８区南部を東西に延びる溝である。幅 1.5 ｍほどであるが、均一を欠く。深さは 30cm と浅く、壁は緩やかである。これらの形状から流路としたいところではあるが、埋土に含まれる砂粒は少なく、粘質土主体である。なお、埋土４層に分かれるが、３層目までは一時期に埋め戻されたようである。溝の規模に比べ多くの遺物が出土しているが、各時期の遺物の小片が混在する。

ＳＤ３８０７９・３８０８０・３８０８７（第 27 図）　８区北端部で検出した。ＳＤ 38080 は幅４ｍ程度、ＳＤ 38087 はやや狭く３ｍで、深さは両者とも 1.2 ～ 1.3 ｍを測る堀状の溝である。埋土は全て粘質土であるが、湧水点以下は還元色を呈している。両者は直交または直角に繋がるものである。ＳＤ 38080 の西側延長上には８ｍの間隔を置いて第２次調査区のＳＤ 2041 がある。両者は方向を違えるが、ＳＤ 2041 が若干北側に弯曲する傾向をみせること、溝の規模や時期が類似する[⑥]ことから一連の可能性が高い。このように、区画を目的とする溝の可能性が高いが、規模が大きく堀とすることも可能である。後述する土壌分析の結果からは、常時滞水していたものではなく、一時的な流水はあるものの湿地にちかい状態であったことが導き出されている。このことから、空堀にちかい状態であったことが分かる。また、周辺には栗、柿、柑橘類等の有用植物の存在が想定されており、区画溝または堀を伴

う屋敷地の一端を示しているものであろう。

なお、ＳＤ 38079 は、検出時点でＳＤ 38080 の南側を並走する溝としたが、掘削の結果ＳＤ 38080 と一体のものとなった。埋土断面の観察においても２条の溝は認められず、ＳＤ 38080 と同一のものと確定した。

ＳＤ３８０８３（第 28 図）　８区東端を南西から北東に延びる溝である。調査区南端で完掘した結果、幅 1.2 ～２ｍ、深さは 80cm を測る深いものであった。埋土断面の観察から断面Ｖ字状の深い溝と緩やかな断面形の溝が重複していることが分かり、幅が一定を欠く要因となる。深さが60cm程度に止まるものは、壁が非常に緩やかで埋土に含まれる砂粒も多い。おそらく流路とおもわれる。これを利用して幅 1.6 ｍ、深さ 80㎝の断面Ｖ字状の溝が掘削されたものと考えられる。ただし、この深い部分は調査区東端には及んでいない。土師器皿等多くの遺物が出土しているが、灰釉陶器や山茶椀、須恵器等の混入遺物も多い。

ＳＤ３８０９１　８区南部を南北に延びる溝である。幅 40cm、検出面からの深さ 10cm 程度の小規模なものである。調査区外からやや弯曲気味に６ｍ北上して途絶えている。古代の須恵器や土師器の小片が出土したに止まるが、埋土の観察によりＳＥ 38041 等より後出のためこの時期とした。

ＳＤ３８０９９（第 27・28・38 図）　ＳＤ 38098 と同様に遺構検出終了後の精査で検出された溝である。幅 1.2 ｍを測るが、深さは 40cm 未満の浅いもので、壁は非常に緩やかである。遺物の出土もなく、人工的な溝とするには疑問である。検出時の埋土観察の結果、ＳＤ 38098 より後出、ＳＤ 38044 より先行することが分かったのでこの時期とした。

ＳＤ３９００１・３９０１４（第 29・49 図）
ＳＤ 39001 は、９区西端を調査区に沿って南東から北西に延びる溝である。北西端は調査区外へ続くが、南東へ 40 ｍ延びた地点で止まるか、南方へ進路を変えるものと思われる。幅は少なくとも２ｍを超えるが、深さは検出面から 50 ～ 30㎝程度と浅い。埋土は粘質土が主体で土師器や施釉陶器等を含む。

ＳＤ 39014 はＳＤ 39001 が北西へ方向を変える地点から北方へ向かうもので、両者でＹ字形を形成する。したがって、ＳＤ 39001 の分流と考えられ、両者は一体のものであろう。当初、幅４ｍ、深さ 30cm としたが、土層観察では、北岸が認められず、平面検出時点と矛盾が生じている。下層にはＳＲ 39016 も存在し、９区の南東側過半は流路帯の不安定な土質であることから、何らかの誤認があるものと思われる。したがって、幅は４ｍ以上とするに止める。

ＳＤ３９００４（第 29 図）　９区北西端ちかくを南北に延びる溝で、両端共に調査区外へ続く。幅１ｍ、検出面からの深さは 50㎝程度で、断面はＶ字状を呈する。埋土は粘質土であるが、下半はやや還元色を呈している。

ＳＤ３９００６（第 29 図）　９区北西部で検出した幅 20cm、深さ 10cm 程度の小規模な溝であるが、幅は均一を欠き、若干蛇行気味である。埋土は粘質土であるものの流水の痕跡の可能性が高い。出土遺物はないが、16 ｍ南東側のＳＤ 39007 と特徴が似ることや周囲は当該時期の遺構が大半であることから、この時期としておく。

ＳＤ３９００７（第 29 図）　９区中央部で検出した溝である。幅 40cm、深さ 30㎝を測るが、壁は緩やかな部分が多い。南北に延びるが蛇行しており、流水の痕跡と考えられるが、埋土は粘質土である。土師器の鍋・皿が出土しているが、埋土の観察では同時期のＳＤ 39001 より後出である。

８．近世以降及び時期不明の遺構

ＳＫ３８００３　８区南部で検出した直径２ｍ、深さ 30cm を測る大型の土坑であるが、多数の桟瓦が出土しており、明らかに近世以降に下るものである。

ＳＫ３８０５７　８区中央部で検出した不定形な土坑である。室町時代等の遺物が一定量出土しているが、近現代の耕作痕である。

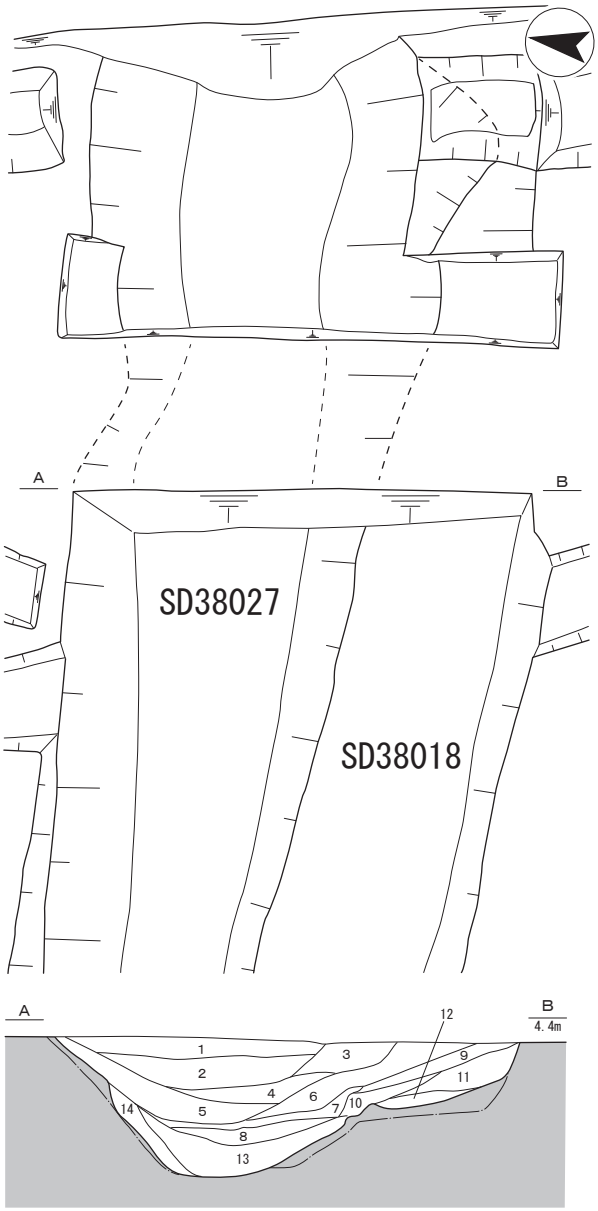
ＳＫ３９０１０　９区南東部で検出した土坑である。一辺 1.9 ～２ｍの不整方形を呈するが、深さは検出面から 15cm 程度の浅いものである。近世陶器が出土しているが、土師器鍋等室町時代以前のものの混入も多い。

ＳＫ３９０１２（第 29・54 図）　９区南部で検出した。調査区端での検出のため全体の形状は不明であるが、一辺 2.1 ｍの方形を呈するものと推測される。深さは検出面から 20cm 程度の浅いものであるが、埋土が特異である。焼土塊や木質片、炭等を多

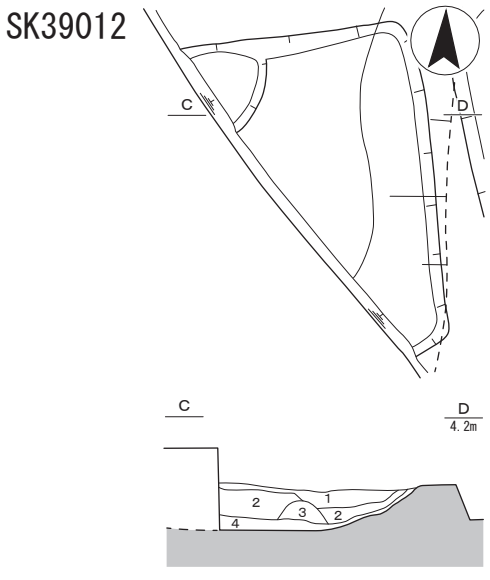
量に含む埋土であるが、土坑壁は焼けていない。遺物は、近世陶器や土師器皿の他に多量の瓦が出土している。この様な状況から、焼失家屋の廃棄土坑として良いであろう。時期は近世に下る。

ＳＤ２・３８０２６（第24図）　ＳＤ２は４－２区を南北に延びる溝であるが、表土直下から切り込んでおり、埋土にガラス片等を含む近現代のものである。１次調査Ｂ区と第２次調査区を分ける谷地形を現況に沿って遡ると当地に至る。このため、東接する８区で東岸を検出したＳＤ 38026 は、本来ＳＤ２と一体のものとすることができる。室町時代の土師器等が出土しているものの近世陶器や桟瓦も多く、ＳＤ 38026 も近世以降に下るものと判断できる。

ＳＤ３１００３（第５図）　１区西部で検出した幅約２ｍの溝である。深さは検出面から 50㎝を測り、比較的整った断面形を呈する。この付近は耕作土直下が検出面であり、削平が進んでいる。これを勘案すれば、本来はもっと深かったものと推測できる。埋土には若干の砂粒を含むが、全体的に流水の痕跡は乏しい。狭小な調査区での観察ではあるが、方位に沿って南北に延びる様子が伺える。これらか



1　10YR5/2灰黄褐色シルト～極細粒砂
（マンガン粒薄く含）＜SD38018上層埋土＞
2　10YR5/2灰黄褐色シルト
（マンガン粒薄く含、礫若干含）＜SD38018上層埋土＞
3　10YR5/2灰黄褐色極細粒砂～シルト（礫若干含）＜SD38018上層埋土＞
4　10YR5/2灰黄褐色シルト～極細粒砂
（鉄分粒若干含）＜SD38018上層埋土＞
5　10YR5/2灰黄褐色シルト～細粒砂
（鉄分粒若干含、木炭粒散在）＜SD38018上層埋土＞
6　10YR4/2灰黄褐色極細粒砂～細粒砂
（礫若干含、木炭粒散在）＜SD38018下層埋土＞
7　2.5Y4/4オリーブ褐色極細粒砂
（鉄分滲み薄く含、木炭粒点在）＜SD38018下層埋土＞
8　2.5Y4/2暗灰黄色シルト～極細粒砂＜SD38018下層埋土＞
9　10YR4/4灰黄褐色シルト～極細粒砂
（礫・木炭粒点在）＜SD38018下層埋土＞
10　10YR4/4灰黄褐色極細粒砂～シルト
（2.5Y5/2暗灰黄色シルト塊含、鉄分粒散在）＜SD38018下層埋土＞
11　10YR4/4灰黄褐色シルト～細粒砂
（2.5Y5/2暗灰黄色シルト塊レンズ状に散在）＜SD38018下層埋土＞
12　2.5Y6/2灰黄色シルト
（上位に鉄分滲み強、下位グライ化の影響）＜SD38018下層埋土＞
13　2.5Y5/1黄灰色シルト（礫・鉄分粒散在）＜SD38027埋土＞
14　2.5Y5/1黄灰色シルト
（2.5Y5/2暗灰黄シルト塊含、鉄分粒散在）＜SD38027埋土＞



1　10YR5/2灰黄褐色シルト
（10YR3/2黒褐色木質土・木質片多含）
2　2.5Y5/2暗灰黄色シルト
（7.5YR4/6褐色焼土・2.5YR7/8黄色シルト若干含、瓦多含）
3　2.5Y5/2暗灰黄色シルト塊
4　7.5Y2/1黒色木質土

第54図　SD38018・38027、SK39012実測図（1：50）

ら、区画を目的として人工的に掘削された可能性が高い。しかし、遺物の出土は皆無で時期は不明とせざるを得ない。

ＳＤ３２００４　２区中央部を斜行する溝である。幅10cm程度、検出面からの深さは５cm未満の痕跡程度のものである。出土遺物はなく、近隣の溝とも大きく方向を違えるため、時期不明とせざるを得ない。

ＳＤ３３００１（第10図）　３区を東西に貫く溝であるが、現代の撹乱である。

ＳＤ３８０２３　８区南東端ちかくで検出した南北に延びる溝である。幅20cm、検出面からの深さ15cm程度の小規模なものである。重複する遺構には先行するものの、出土遺物は無く、時期は不明とせざるを得ない。

［註］

① 三重県埋蔵文化財センター『中坪遺跡（第２次）発掘調査報告』2018年３月

② 前掲①に同じ

③ 前掲①に同じ

④ 前掲①に同じ

⑤ 前掲①に同じ

⑥ 前掲①に同じ

遺構名	規模			棟方向	柱間寸法		時期	備　　考
	桁×梁	桁行（m）	梁行（m）		桁行（m）	梁行（m）		
ＳＢ 32001	－×２	—	3.75	Ｎ 8° Ｅ	—	1.95 + 1.8	平安前	
ＳＢ 32007	－×（２）	—	2.4	Ｎ 13° Ｅ	—+ 1.5 +—	—	奈良	
ＳＢ 36025	３×２	5.4	3.6	Ｅ 10° Ｎ	（1.8）+（2.25）+ 1.35 1.8	1.8	室町	根石。SB36026と揃える。 SA36027が付属。
ＳＢ 36026	３×２	5.55	3	Ｅ 13° Ｎ	—+—+— 1.8 + 1.95 + 1.8	1.35 + 1.65 1.5	室町	根石。SB36025と揃える。 SA36028が付属。
ＳＡ 36027	３	5.25	—	Ｅ 11° Ｎ	1.95 + 1.8 + 1.35	—	室町	根石。SB36025と揃える。
ＳＡ 36028	2 3	2.85 4.2	—	Ｅ 14° Ｎ	1.5 + 1.35 1.65 + 1.5 + 1.05	—	室町	Ｌ字状に屈曲。SB36026と揃える。
ＳＢ 37018	（２）×２	—	3	Ｎ 41° Ｗ	1.65 + 1.8 +—	1.5	室町	
ＳＢ 37019	－×２	—	2.4	Ｎ 13° Ｅ	—	1.2	奈良	時期は仮定。
ＳＢ 38102	３×－	6.45	—	Ｎ 3° Ｅ	1.95 + 2.25 + 2.25	—	室町	総柱。
ＳＢ 38067	３×２	5.4	3.75	Ｎ 20° Ｗ	1.5 + 2.1 + 1.8 1.65 + 1.95 + 1.8	1.8 + 1.95	室町	南面庇。根石。
ＳＡ 39017	1	1.8	—	Ｎ 45° Ｗ	1.8	—	室町	

第１表　掘立柱建物一覧

遺構番号	調査区	地区	時代	前後関係（古→新）	挿図番号	備　考
SD 31001	1	AG4・5、AH4・5	室町		82	15世紀中頃。
SD 31002	1	AH4・5、AI5	弥生終末～古墳時代初頭		55	
SD 31003	1	AJ5	不明			出土遺物なし。
SK 31004	1	AJ5、AK5	奈良			
SD 31005	1	AL5・6、AM6	奈良		57	8世紀末頃。井戸１・井戸2。
SK 31006	1	AP6・7、AQ7	奈良		56	井戸。
SK 31007	1	AI5	奈良			
SK 31008	1	AN6	奈良		56	8世紀後半。
SK 31009	1	AN6	奈良	SD31010→	56	
SD 31010	1	AN6	奈良	→SK31009	56	8世紀後半。
SB 32001	2-2	EV17P1、EW17P1・P2	平安前		34・68	8世紀末～9世紀前半。
SD 32002	2-2	EV16・17	平安前			
SD 32003	2-2	EY17	奈良		56	
SD 32004	2-2	EW～EY17	不明			
SK 32005	2-2	EX17	奈良			
SE 32006	2-2	EX17	平安前		34	遺物なし。SB32001に関連。時期決定根拠薄。
SB 32007	2-2	ET10P1・P3、EU16P2・P3	奈良		31・56	8世紀末頃。
SK 32008	2-3		奈良		32・56	8世紀後半。
SK 32009	2-3		奈良		56	
SK 32010	2-3		奈良			
SD 32011	2-3		奈良			
SD 32012	2-3		奈良			
SD 32013	2-1		奈良			
SD 32014	2-1		弥生終末～古墳時代初頭			
SK 32015	2-1		奈良			
SE 32016	2-1		平安前		68	8世紀末～9世紀前半。
SD 32017	2-1		奈良			
SD 32018	2-1		奈良			
SD 32019	2-1		奈良			遺物なし。SD32017・32018との関係。
SD 32020	2-1		弥生終末～古墳時代初頭			
SD 33001	3	DG10～12、DH12～14		SD33004→　SD33006→　SD33008→		攪乱。
SZ 33002	3	DG7	平安中	→SD33010	69	9世紀後葉～10世紀前半。
SD 33003	3	DG9・10、DH9～13	平安中	SD33007→　SD33006→　SD33011→		
SD 33004	3	DG12・13、DH13	平安中	→SD33001　SD33007→		SD33010と揃う。
SD 33005	3	DG11、DH11	平安前	→SD33001　→SD33006	68	9世紀前半～中頃。
SD 33006	3	DF7・8、DG8～10、DH11・12	平安中	→SD33001　→SD33003　SD33005→ SD33011→	69	
SD 33007	3	DH13・14	平安前～中	→SD33004　→SD33001　→SD33003 SD33012→	69	
SD 33008	3	DF7・8	平安中	→SD33001		
SD 33009	3	DF7・8	室町			14世紀中葉～15世紀前半頃。
SD 33010	3	DF・DG7	平安中	SZ33002→	69	10世紀前半。
SD 33011	3	DH11	室町	→SD33003　→SD33006	84	14世紀中葉～15世紀前半頃。
SD 33012	3	DH13	平安中	→SD33007	69	10世紀前半。
SK 1	4-1		平安末～鎌倉		75	12世紀。井戸。
SD 2	4-2					撹乱。
SK 35001	5	CY13、GA13	室町		45	14世紀中葉～15世紀前半頃。
SK 35002	5	CW14	平安末～鎌倉		36・71	12世紀末頃。
SK 35003	5	CX16・17、CY16・17	平安末～鎌倉		35・76	13世紀。井戸。
SK 35004	5	CW14・15	室町	SK35007→	37・82	14世紀中葉～15世紀前半頃。
SE 35005	5	CY17・18	平安末～鎌倉		35・70	12世紀。
SD 35006	5	CY14、GA14・15、GB15・16	室町		84	14世紀中葉～15世紀前半頃。
SK 35007	5	CW15、CX15	平安末～鎌倉	→SK35004　→SD35009	37・75	14世紀初頭。
SD 35008	5	CV12～14	平安末～鎌倉		38・75	13世紀。
SD 35009	5	CW13、CX13・14、CY14	平安末～鎌倉	SK35007→	75	13世紀。
SK 35010	5	CQ13	平安末～鎌倉			
SD 36001	6	LI13・14	室町	SD36014→　→SK36016	84	14世紀中葉～15世紀前半頃。
SD 36002	6	LI8、LJ8・9、LK8・9 LL9・10、LM9・10	室町	SD36004→	96・97	15世紀後半～16世紀末頃。
SD 36003	6	LN13～15、LO11～14	室町	SD36006→　→SK36010　SD36024→ SD36022→　SD36014→	117	15世紀後半～16世紀末頃。
SD 36004	6	LL10・11、LM11～14	室町	→SD36002　SD36019→　SK36018→ SK36011→　→SK36005　SK36023→ SD36021→　SD36022→　SD36017→ SD36014→	45 109～112	15世紀後半～16世紀末頃。
SK 36005	6	LM12	室町	SD36004→　SK36009→　SD36002→	45	15世紀後半～16世紀末頃。

第２－１表　遺構一覧

遺構番号	調査区	地区	時代	前後関係（古→新）	挿図番号	備　考
SD　36006	6	LN11、LO11	室町	→SD36007　→SD36003	80・81	15世紀中頃。
SD　36007	6	LN10～12	室町	SD36006→　→SD36017　→SK36015	117	15世紀後半～16世紀末頃。
SK　36008	6	LK10	室町		45・94	15世紀後半～16世紀末頃。
SK　36009	6	LM12	室町	→SK36005　→SD36004	45・82	14世紀中葉～15世紀前半頃。
SK　36010	6	LO12	室町	SD36003→	94	15世紀後半～16世紀末頃。
SK　36011	6	LM12	室町	→SK36004　SD36002→　SK36023→ SD36006→	41・93	井戸。15世紀後半～16世紀末頃。
SD　36012	6	LM13・14、LN12～15	室町	SD36017→　SD36022→　SD36014→	50・107	15世紀後半～16世紀末頃。
SD　36013	6	LH12・13、LI12・13	室町	SD36022→　→SK36016　SD36014→	84	15世紀後半～16世紀末頃。
SD　36014	6	LH～LL13、LM13・14、LN14 LO14・15	室町	→SD36001　→SD36013　→SK36016 →SD36004　→SD36012　→SD36003 SD36017→　SD36023→	51	15世紀後半～16世紀末頃。
SK　36015	6	LN12	室町	SD36007→　SD36012→	94	15世紀後半～16世紀末頃。
SK　36016	6	LI12・13、LJ12・13	室町	SD36013→　SD36001→　SD36014→	84	15世紀後半～16世紀末頃。
SD　36017	6	LM13・14	室町	→SD36014　SD36022→	50・83	15世紀中頃。
SK　36018	6	LL11、LM10・11	室町	SD36019→　→SD36004	94	15世紀後半～16世紀末頃。
SD　36019	6	LL10・11	室町	→SD36004　→SK36018		15世紀後半～16世紀末頃。
SK　36020	6	LN12	室町	SD36024→	84	14世紀中葉～15世紀前半頃。
SD　36021	6	LM12・13、LN12	室町	→SD36004　→SD36022		SD36022の延長上。
SD　36022	6	LH12、LI12、LJ11・12 LK11・12、LL11・12 LM12・13、LN12・13	室町	→SD36013　→SK36005　→SK36009 →SD36004　SD36021→　→SD36017 →SD36012　→SD36003	50・77	14世紀中葉～15世紀前半頃。
SD　36023	6	LH13、LI13・14	室町	→SD36014		15世紀後半～16世紀末頃。
SD　36024	6	LN12、LO12	室町	→SK36020　→SD36003		
SB　36025	6	LJ9・LJ10P1、LJ11P4・P5 LK9P1・P2、LK10P4・P5 LK11P2	室町		39・82	15世紀中頃。
SB　36026	6	LJ11P13・P11 LJ3P1・P10・P13、LK11P7 LK12P1・P5	室町		39	15世紀中頃。
SA　36027	6	LJ10P4・P6、LJ11P10	室町		39	15世紀中頃。
SA　36028	6	LK11P2・P5 LK12P4・P14	室町		39	15世紀中頃。
SK　37001	7	LR2・3	室町	SD37008→	41	15世紀後半～16世紀末頃。井戸。
SK　37002	7	LQ2、LR2	室町	SD37008→	82	14世紀中葉～15世紀前半頃。SD37008の掘削で消滅。
SD　37003	7	LQ1、LR1	室町	SD37008→		15世紀後半～16世紀末頃。SD38044と同一。 SD37008の掘削で消滅。
SK　37004	7	LR3・4	平安末～鎌倉	→SD37012	36 72～74	13世紀。
SD　37005	7	LT13、LU13	室町		52・84	15世紀後半～16世紀末頃。
SD　37006	7	LR6、LS6	室町	SD37009→	108	15世紀後半～16世紀末頃。
SD　37007	7	LS7・8	奈良		56	
SD　37008	7	LQ・LR1・2	奈良	→SD37003　→SK37002		SD38059・SD38086と同一。
SD　37009	7	LR・LS5	室町	→SD37006　→SD37011	51・82	14世紀中葉～15世紀前半頃。
SD　37010	7	LS6・7	奈良	SD37006→	56	
SD　37011	7	LR5	室町	SD37009→	51・117	15世紀後半～16世紀末頃。
SD　37012	7	LR4	室町	SK37004→　SD37013→　SK37015→		
SK　37013	7	LR4	室町	→SD37012　SK37015→	82	14世紀中葉～15世紀前半頃。SD38098と同一。
SD　37014	7	LR3・4	室町	→SD37012	94	15世紀後半～16世紀末頃。
SK　37015	7	LR4	室町	→SD37013　→SD37012	82	14世紀中葉～15世紀前半頃。
SK　37016	7	LS・LT10	縄文	→SB37018		
SK　37017	7	LS9、LT9	縄文		55	
SB　37018	7	LT9P2、LT10P1・P8	室町	SK37016→	39	
SB　37019	7	LT12P1	奈良		31	遺物なし。棟方向から決定。
SK　37020	7	LT10P9	縄文			
SE　38001	8	MD22、ME22	室町	SD38004→　SK38002→	42 86～90	15世紀後半～16世紀末頃。
SK　38002	8	ME22	室町	→SE38002	94	15世紀後半～16世紀末頃。
SK　38003	8	ME22	近世		128	
SD　38004	8	ME21・22	室町	→SE38001	82	14世紀中葉～15世紀前半頃。
SE　38005	8	MF21、MG21	室町		44・85	15世紀後半～16世紀末頃。
SE　38006	8	MG21・22	室町	SD38011→	44・93	15世紀後半～16世紀末頃。土坑。
SK　38007	8	MF・MG22	室町			
SK　38008	8	MD22	室町		94	15世紀後半～16世紀末頃。
SK　38009	8	MD22	弥生終末～古墳時代初頭			
SK　38010	8	MF22	室町		94	15世紀後半～16世紀末頃。
SD　38011	8	MG・MH22、 MI21・22	室町	→SE38006　SK38014→　→SK38015	44・95	15世紀後半～16世紀末頃。
SK　38012	8	MC22・23、MD22・23	奈良		39	
SK　38013	8	MI21	室町		46・93	15世紀後半～16世紀末頃。

第２－２表　遺構一覧

遺構番号	調査区	地区	時代	前後関係（古→新）	挿図番号	備　考
SK　38014	8	MI21	室町			15世紀後半～16世紀末頃。
SK　38015	8	MI21・22、MJ21	室町		94	15世紀後半～16世紀末頃。
SK　38016	8	LM1P6	室町	SD38044→		15世紀後半～16世紀末頃。
SD　38017	8	NA2～9、NB2	室町	SD38030→　SD38018→　SD38027→ SD38024→　SD38025→	51 113・114	15世紀後半～16世紀末頃。
SD　38018	8	NB2～9	室町	→SD38017　SD38024→　SD38025→ SE38022→　SD38023→　SD38024→ SD38029→	54 98～104	15世紀後半～16世紀末頃。 最下層＝SD38027。
SK　38019	8	NB8、NC8	平安末～鎌倉	SD38024→　SD38029→	37・76	13世紀。
SD　38020	8	MB・MC25、NB・NC1	室町	SD38033→　→SD38031	51・82	14世紀中葉～15世紀前半頃。
SK　38021	8	MB25	室町			14世紀中葉～15世紀前半頃。
SE　38022	8	NB6、NC6	平安末～鎌倉	→SD38018	35・76	13世紀。
SD　38023	8	NB6、NC6	不明	→SD38018		
SD　38024	8	NA8	奈良	→SD38024　→SD38018		
SD　38025	8	NA9	室町	→SD38024　→SD38018	82	14世紀中葉～15世紀前半頃。
SD　38026	8	MB17、MC17	近世		125～127	
SD　38027	8	NB2～9	室町	→SD38018	54・79	15世紀中頃。SD38018の下層。
SK　38028	8	NB2	室町		94	15世紀後半～16世紀末頃。
SD　38029	8	NA8	縄文	→SK38019　→SD38018	37	前後関係は、平面と土層断面で不整合。
SD　38030	8	NB2・3、NC2・3	室町		84	15世紀中頃。SD38027と一連でL字に曲がる。
SD　38031	8	NA1、NB1・2、NC1・2	室町	SD38032→　→SD38033　SD38020→ →SD38018　→SD38030	82	14世紀中葉～15世紀前半頃。
SD　38032	8	NA1、NB1	室町	→SD38031　→SD38033	84	14世紀中葉～15世紀前半頃。
SR　38033	8	MA・MB25、NA～NC1	弥生終末～古墳時代初頭	SD38032→　SD38031→　→SD38020		
SK　38034	8	MA・MB21	室町		46・94	15世紀後半～16世紀末頃。
SK　38035	8	MC21	室町	SK38036→	46・94	15世紀後半～16世紀末頃。出土遺物の一部がSD38038出土遺物が接合。
SK　38036	8	MC21	室町	→SK38035	46・82	15世紀後半～16世紀末頃。
SK　38037	8	MC22	室町	→SK38035	46	15世紀後半～16世紀末頃。
SD　38038	8	KV23・24、KW23・24 KX23・24、KY23、MA～MC23	室町	SD38042→　SD38076・38090→	53 122～124	15世紀後半～16世紀末頃。出土遺物の一部がSK38035出土遺物が接合。
SK　38039	8	MC21・22	室町	→SK38037	46・94	15世紀後半～16世紀末頃。
SE　38040	8	KU25	室町		41・84	15世紀後半～16世紀末頃。
SE　38041	8	KT・KU24	室町	SE38082→　SD38091→	43・93	15世紀後半～16世紀末頃。
SD　38042	8	KV23・24、KW23・24 KX23・24、KY23・24 MA～MC23	室町	→SD38038　SD38078→　SD38066→ →SD38076・38090　→SD38043	53 115・116	15世紀後半～16世紀末頃。SD38043と一連でＬ字に曲がる。
SD　38043	8	KU23、KV23～25	室町	→SD38091　SD38042→ →SD38076・38090	53・118	15世紀後半～16世紀末頃。SD38042と一連でＬ字に曲がる。
SD　38044	8	LM～LQ1	室町	→SK38016　SD38046→　SK38050→ SD38051→　SD38056→　SD38098→ SD38099→	51・94	15世紀後半～16世紀末頃。
SK　38045	8	LP3	室町	SK38058→　SD38098→　SD38099→	46	
SD　38046	8	KO1・2、KP・KQ2	室町	SD38097→　SD38054→　→SD38056 SD38099→　→SD38044	52・82	14世紀中葉～15世紀前半頃。
SE　38047	8	KQ25	室町	SD38051→　→SD38074	47・84	15世紀後半～16世紀末頃。井戸。
SK　38048	8	KO25、LO1	室町	SK38049→	47	15世紀後半～16世紀末頃。
SK　38049	8	KO25、LO1	室町	→SK38048	47	
SK　38050	8	LP1	室町	→SD38044　SD38056→	48・94	
SD　38051	8	KQ25、LQ1・2	室町	→SE38047　→SD38044　SD38056→ SD38059→　SD38074→　→SE38047 SD38056→　SD38059→　SD38074→	121	15世紀後半～16世紀末頃。
SK　38052	8	LO2・3	平安末～鎌倉		36・75	13世紀。
SK　38053	8	LN2・3	奈良		32	時期決定根拠薄弱。
SD　38054	8	LP2、LQ2	奈良	→SD38046　→SD38051		時期決定根拠薄弱。
SK　38055	8	LN2	室町		47・94	15世紀後半～16世紀末頃。
SD　38056	8	LO2、LP・LQ1	奈良	SD38046→　→SD38044　→SK38050 →SD38051	58	
SK　38057	8	LN・LO4	—	SD38060→		耕作痕、攪乱。
SK　38058	8	LP3	室町	→SK38045　SD38099→　SD38098→		
SD　38059	8	KP・KQ25、LQ1	奈良	→SD38051　SD38086→	56	SD37008・SD38086と同一。
SD　38060	8	LL・LM3、LN4、LO4・5、LP6	室町	SD38068→　→SK38057　SD38070→	52	
SK　38061	8	LM3、LN3	室町	SD38071→	47	15世紀後半～16世紀末頃。
SD　38062	8	LN5、LO6	室町	→SB38067　SD38083→	40・83	15世紀後半～16世紀末頃。
SK　38063	8	MB22・23、MC22・23	室町	SE38064→　→SD38042	43・94	15世紀後半～16世紀末頃。
SE　38064	8	MB22	室町	→SK38063	43・93	15世紀後半～16世紀末頃。
SK　38065	8	LM5	室町		40	時期決定根拠薄弱。
SD　38066	8	KY23・24、MA23・24	室町	→SD38042	120	15世紀後半～16世紀末頃。
SB　38067	8	LM5P1・P2・P4、LM6P1 LN5P2・P3・P5・P7 LN6P2・P3 LO5P1・P8、LO6P2	室町	SD38062→　→SD38062	40・84	15世紀後半～16世紀末頃。根石あり。
SD　38068	8	LK～LM4	室町	→SD38060	52	

第２－３表　遺構一覧

遺構番号	調査区	地区	時代	前後関係（古→新）	挿図番号	備　考
SK　38069	8	LL3	室町		93	15世紀後半～16世紀末頃。
SD　38070	8	LO6	室町	→SD38062		15世紀後半～16世紀末頃。
SD　38071	8	LL2、LM2・3	室町	→SK38061		
SD　38072	8	KS24・25、KT24・25	室町	SD38076→	84	
SD　38073	8	LH2・3、LI2	室町	SD38081→　SK38085→	120	15世紀後半～16世紀末頃。
SD　38074	8	KQ24・25、KR25	平安末～鎌倉	SE38047→		
SD　38075	8	LG2・3、LH2	室町	SD38081→　→SK38084	83	14世紀中葉～15世紀前半頃。
SD　38076	8	KS24・25	弥生終末～古墳時代初頭	→SD38072	55	SD38090と同一。
SK　38077	8	LI2・3、LJ2	室町	SK38085→	48・77	14世紀中葉～15世紀前半頃。
SD　38078	8	KY23	室町	→SD38042	120	15世紀後半～16世紀末頃。
SD　38079	8	LG2、LF3	室町		119	15世紀後半～16世紀末頃。SD38080と同一。
SD　38080	8	LF2・3	室町			15世紀後半～16世紀末頃。SD38079と同一。
SD　38081	8	LH2・3	平安末～鎌倉	→SD38073　→SD38075	76	13世紀。
SE　38082	8	KT24、KU23・24	室町	→SE38041	43 91・92	15世紀後半～16世紀末頃。
SD　38083	8	LN6、LO5・6、LP・LQ5	室町	→SD38060　→SD38062	82	14世紀中葉～15世紀前半頃。
SK　38084	8	LG3	室町	SD38075→	94	15世紀後半～16世紀末頃。
SK　38085	8	LI2	室町	→SD38073　→SK38077	78	14世紀中葉～15世紀前半頃。
SD　38086	8	KO・KP25	奈良		56	SD37008・SD38059と同一。
SD　38087	8	LD3、LE3・4	室町		119	15世紀後半～16世紀末頃。
SD　38088	8	LI1、LJ1・2、LK1・2、LL2	室町	SK38092→　→SD38096		
SK　38089	8	KQ25、LQ1、KR25、LR1	室町	→SD38074	94	15世紀後半～16世紀末頃。
SD　38090	8	L16	弥生終末～古墳時代初頭	KW24、KV24		SR38076と同一。
SD　38091	8	KU24・25、KV24、KW24	室町	SE38041→　SD38043→　SD38090→		
SK　38092	8	LL2	室町	→SD38088	82	14世紀中葉～15世紀前半頃。
SK　38093	8	LM2	平安末～鎌倉		36・70	12世紀中頃。
SK　38094	8	LP4	平安末～鎌倉		75	12世紀。
SK　38095	8	LL5	室町			
SD　38096	8	LJ1	室町	SD38088→		
SD　38097	8	LQ2	室町	→SD38046　→SD38051		15世紀後半～16世紀末頃。
SD　38098	8	LM・LN1、LO2、LP2・3 LQ3・4	室町	→SD38044　→SK38045　→SK38058 →SD38099	38	SD37013と同一。
SD　38099	8	KN25、LN1、LO1・2 LP2・3、LQ3	室町	→SD38044　→SK38045　→SK38058 SD38098→	38	
SD　38100	8	KS24・25	弥生終末～古墳時代初頭			遺物なし。SD38076と同一か。
SZ　38101	8	LM1	奈良		32	炭。
SB　38102	8	MB18P2・P4・P7・P9・P10 MB19P2・P4・P6・P8・P11	室町			15世紀後半～16世紀末頃。中心に木炭粒。
SD　39001	9	KR7、KS・KT8・9、KU9・10 KV10・11、KW11・12 KX11・12・13、KY12・13	室町	→SD39004　→SK39003　→SK39007 →SK39012	49・105	15世紀後半～16世紀末頃。
SE　39002	9	KV11	室町		42・77	14世紀中葉～15世紀前半頃。
SK　39003	9	KT9・10、KU9・10	室町	SD39003→	49・84	15世紀後半～16世紀末頃。
SD　39004	9	KR7	室町	SD39001→	121	15世紀後半～16世紀末頃。
SK　39005	9	KS8	室町	SK39011→	50・82	15世紀後半～16世紀末頃。
SD　39006	9	KR・KS8	室町			時期決定根拠薄弱。
SD　39007	9	KU・KV10	室町	SD39001→	94	15世紀後半～16世紀末頃。
SD　39008	9	KT9	奈良	→SK39003	56	
SD　39009	9	KW12	平安末～鎌倉			
SK　39010	9	KY13	近世		128	
SK　39011	9	KS8	室町	→SK39005		15世紀後半～16世紀末頃。
SK　39012	9	KY13、MA13	近世	SD39001→	54・129	焼土塊あり。
SK　39013	9	KX13	室町			15世紀後半～16世紀末頃。
SD　39014	9	KX12・13、KY13	室町		106	15世紀後半～16世紀末頃。SD39001と同一遺構の可能性あり。
SE　39015	9	MC16	室町		41・85	15世紀後半～16世紀末頃。石組。
SR　39016	9	KX12	奈良		33 58～67	SD39014の下層。水利施設あり。
SA　39017	9	KS9P1、KT9P2	室町		40	15世紀後半～16世紀末頃。
SK　39018	9	KX12	室町	SR39016→		土層のみで確認。井戸。

第２－４表　遺構一覧

Ⅳ. 遺　物

縄文土器から近世磁器まで各時代の遺物が出土しているが、その大半は室町時代の土師器皿や鍋である。土師器皿のなかには、この地域で出土例の少ない京都系のものや、この時期としては珍しい人面墨書土器がある。他には瓦質の磚や瓦器も若干出土している。

１．縄文時代の遺構出土遺物

この時期の遺構出土遺物は極めて少なく、７区に限定され､中期から後期の小片が出土するに止まる。他に１・２・８区で後世の遺構に混入して出土しているが、２～３片の小片である。

１はＳＫ 37017 出土遺物で図示できた（第 55 図）唯一のものである。波状口縁の深鉢片と思われ、数条の沈線で装飾される。

２．弥生終末～古墳時代初頭の遺構出土遺物

この時期の遺物も少なく、当該時期の遺構であっても若干の小片が出土するに止まる。

（１）ＳＤ３１００２出土遺物（第 55 図）

図示できたものは高杯（２）と甕（３）であるが、他に瓢壺の体部片と思われるものもある。３の脚台内面には工具の角が明瞭に残るが、ハケメは不明瞭でナデにちかい。

（２）ＳＤ３８０７６出土遺物（第 55 図）

図示できたものは高杯（４）で、他には縄文土器片が混入するのみである。４は比較的小型のものであるが、杯部は一定の深さを保っている。

３．奈良時代の遺構出土遺物

１区と９区を中心に一定量の出土があったが、一括性の高いものはない。しかし、ＳＲ 39016 からは水利施設を構成する多量の杭が出土している。

（１）ＳＫ３１００８出土遺物（第 56 図）

図示できたものは土師器の皿（５･６）であるが、須恵器蓋の小片も出土している。６の口縁部は内弯傾向を残すが、底部外面のヘラケズリは不明瞭で、一応ナデとしておく。対して５は比較的厚い器壁で底部外面のヘラケズリは明瞭である。

（２）ＳＤ３１０１０出土遺物（第 56 図）

土師器の皿や須恵器の蓋が出土の中心であるが、図示したものの他に土師器の長胴甕片も出土している。

７は土師器の皿で、比較的器壁が厚く底部外面のヘラケズリも明瞭であるが、内面の暗文は確認できない。８は粗製の土師器椀、９・10 は須恵器の蓋である。10 は宝珠摘みをもつものと思われ、９は小片のため不明確な部分も多いが、前代からの混入または皿の可能性が残る。

（３）ＳＤ３２００８出土遺物（第 56 図）

出土したものは全て土師器の甕で、11・12 を図示した。両者とも体部の大半を欠損しており、全体

第55図　縄文時代､弥生終末～古墳時代初頭の遺構出土遺物（１：４）

の形状は不明であるが、球形の底部をもつものと思われる。12は口縁部が肥厚し、端部外面に面をもつが、11は緩慢である。

（４）ＳＤ３７０１０出土遺物（第56図）

13は土師器の椀、14は甕、15は須恵器の長頸壺である。13は器壁の剥離が著しく調整が不明瞭、15は焼成不良である。16は陶器の鉢と思われるが、重複するＳＤ37006からの混入であろう。焼成不良で瓦質に焼け白化している。

（５）ＳＤ３８０５９出土遺物（第56図）

土師器の甕・甑、須恵器の甕が出土しているが、杯皿類はない。

17は土師器の甕、18は甑である。17は口縁部がやや肥厚し、端部外面には凹線状の強い面をもつ。19は須恵器の甕であるが、口縁部外面に装飾的なハケメを施し、その上から２条１組の沈線を上下に巡らしている。

（６）ＳＢ３２００７出土遺物（第56図）

掘立柱建物の柱穴から土師器杯・甕、須恵器杯等が出土しているが、いずれも小片である。ただし、20は掘形に埋納されていたもので、ほぼ完形の土師器粗製椀である。口縁端部内面に沈線を巡らし、煤の付着がみられる。口縁部と底部の境には指頭圧痕が整然と並び、強く押さえ込まれている。21は土師器の杯で底部外面をヘラケズリで調整する。22は土師器の甕で、厚い器壁である。23は須恵器の杯であるが、底部外面にロクロケズリは認められない。

（７）ＳＤ３２００３出土遺物（第56図）

図示できたものは、土師器の甕（24）と石匙（25）で、25は混入と考えられる。24は頸部の肥厚が残り、口縁端部の面も明瞭で、口唇部を摘まみ上げる。

（８）ＳＫ３２００９出土遺物（第56図）

図示できたものは両者とも土師器の甕であるが、他に粗製椀の小片も出土している。26の頸部内面には強い工具痕が残り、27の口縁部内面には煤が付着する。

（９）ＳＤ３９００８出土遺物（第56図）

28が唯一の出土遺物である。土師器の皿であるが、小片からの復元のため口径がもう少し大きくなる可能性がある。口縁部に内弯傾向はみられないが、器壁は比較的厚い。

（10）ＳＫ３１００６出土遺物（第56図）

図示できたものは土師器の高杯（29）のみであるが、他に土師器の杯小片も出土している。29は比較的雑な仕上げで、内面には粘土紐接合痕が明瞭である。

（11）ＳＤ３８０５６出土遺物（第56図）

30が唯一の出土遺物である。土師器の甕で口縁部が肥厚し、端部外面に明瞭な面をもつ。頸部外面に強い工具痕が残るが、おそらくハケメの一環と思われる。

（12）ＳＤ３８０８６出土遺物（第56図）

図示できたものは31の土師器甕のみである。口縁端部外面は丸みをもつ。他に弥生時代終末～古墳時代初頭の壺片や中世の土師器皿片も混じる。

（13）ＳＫ３１００９出土遺物（第56図）

図示できたものは須恵器の杯（32）のみで、高台部分を欠損している。他に土師器の粗製椀や長胴甕の小片が出土している。

（14）ＳＤ３７００７出土遺物（第56図）

図示できたものは土師器甕の底部片（33）のみである。長胴甕と思われ、外面のハケメは底部まで及んでいる。他には、須恵器甕や土師器の小片が出土するに止まる。

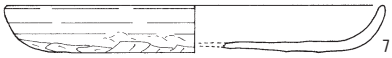
（15）ＳＤ３１００５（井戸１・井戸２）出土遺物（第57図）

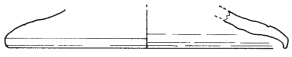
土師器や須恵器が比較的まとまって出土しているが、２基の井戸が重複しているため、井戸１は42・47・51・52、井戸２は41であるが、他のものは帰属が不明確である。しかし、両者に大きな時期差はない。なお、48は陶器の皿、49は鉢であるが、後世からの混入と考える。48は窯での焼成と考えられるが、その大半は酸化焼成となっている。ロクロナデは、ロクロの使用が疑われる程度の弱いものである。

土師器　杯（34）・皿（35～37）・椀（38）・甕（39～43）があるが、椀は粗製である。皿の口縁部は外反して端部が再び内傾し丸く収めるものと内弯して立ち上がるものがあり、杯は前者を呈する。いずれも底部外面のヘラケズリは認められない。甕は外面を縦方向のハケメ、内面を横方向のハケメで調整するが、底部の状況が分かるものはない。41のみ内面下半のヘラケズリを垣間見せている。なお、

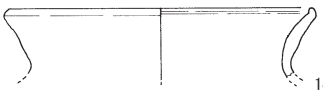
SK31008

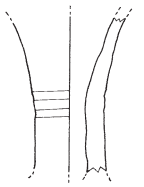
SK31010

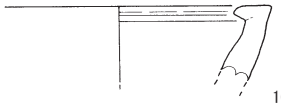




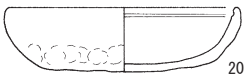
SD37010

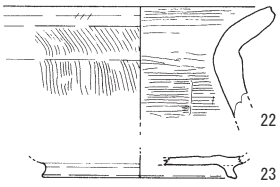




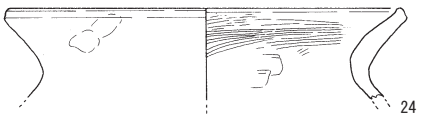


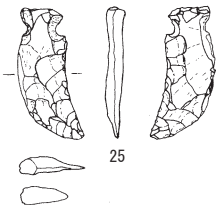
SB32007



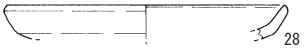


SD32003



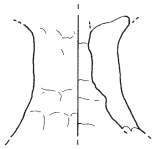


SD39008

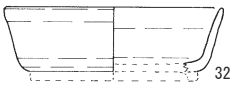


SD38056

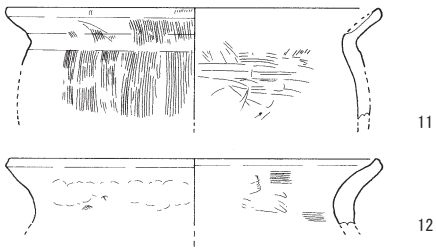
SK31006



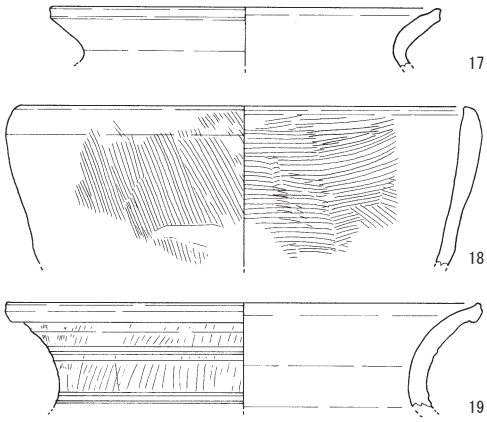
SK31009



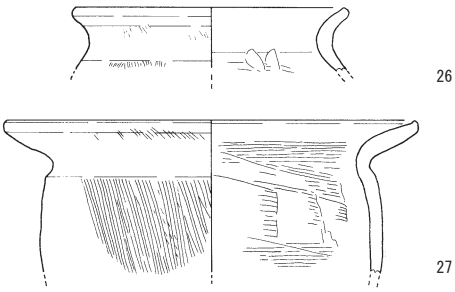
SD32008



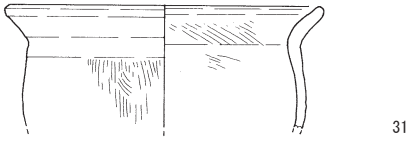
SD38059



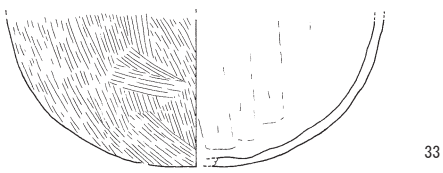
SK32009



SD38086



SD37007



第56図　奈良時代の遺構出土遺物（１：４）

41・43には内外面に炭化物が付着している。

須恵器　蓋（44～46）・杯（47）があるが、蓋の口縁端部の屈曲は弱い。杯は高台をもたないもので底部外面は未調整のままである。

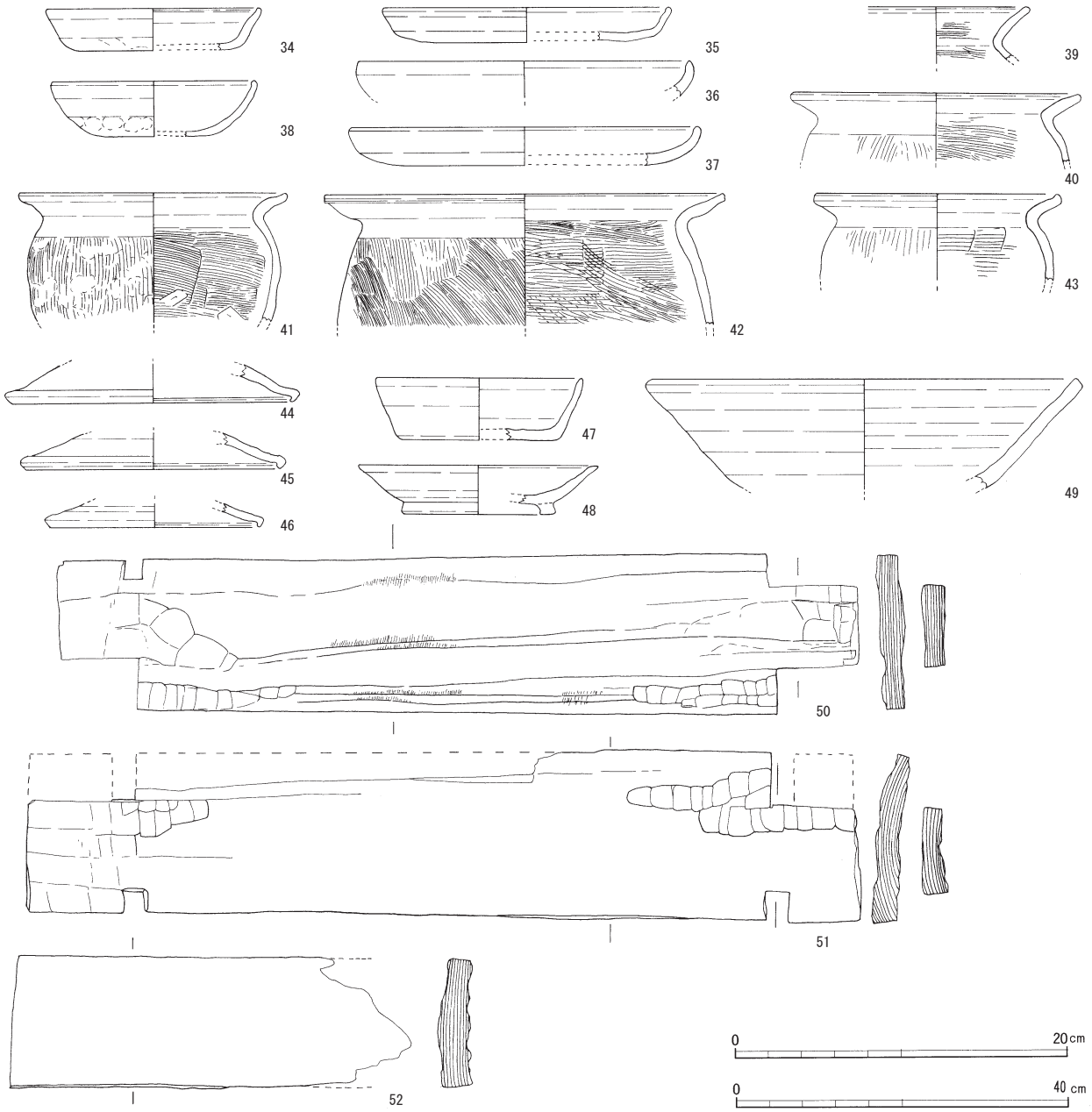
木製品　50・51は欠損により不明確な部分もあるが、両端に切欠きを設け蒸籠状に組み合わせる井戸枠である。両者とも材質はスギである。50は井戸枠状の板材で、寸法的にも前者と矛盾はないが、端部に切欠きがなく板材とするに止める。

(16) ＳＲ３９０１６出土遺物（第58～67図）

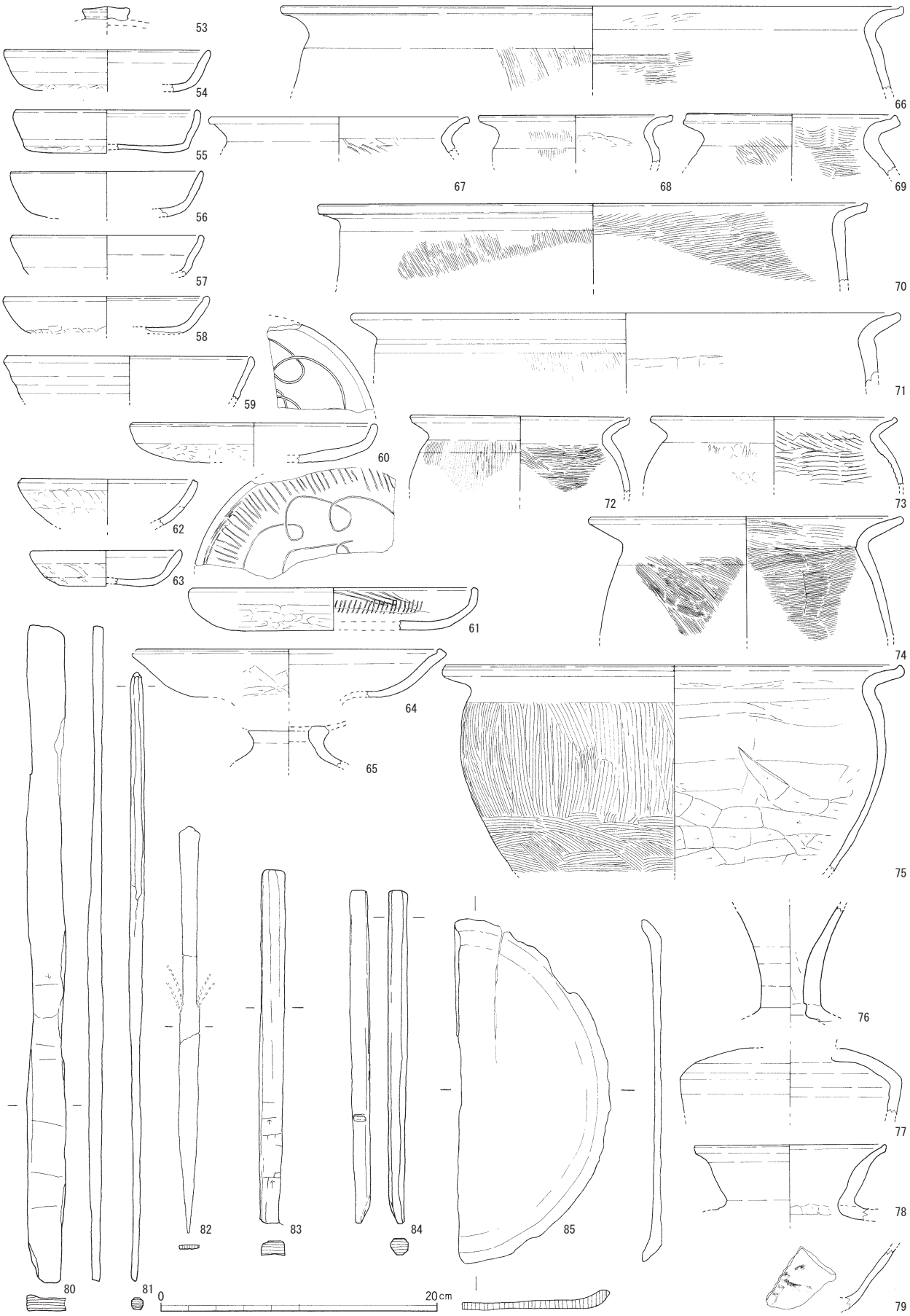
土師器の杯・皿・甕をはじめ須恵器や木製品が出土している。木製品では水利施設に使用された多量の杭があり、転用材も多い。79は山茶椀で後世からの混入であるが、体部外面に墨書がある。残存部からは「大」と書かれているように見える。

土師器　蓋（53）・杯（54～59）・皿（60・61）・椀（62・63）・高杯（64・65）・甕（66～75）がある。

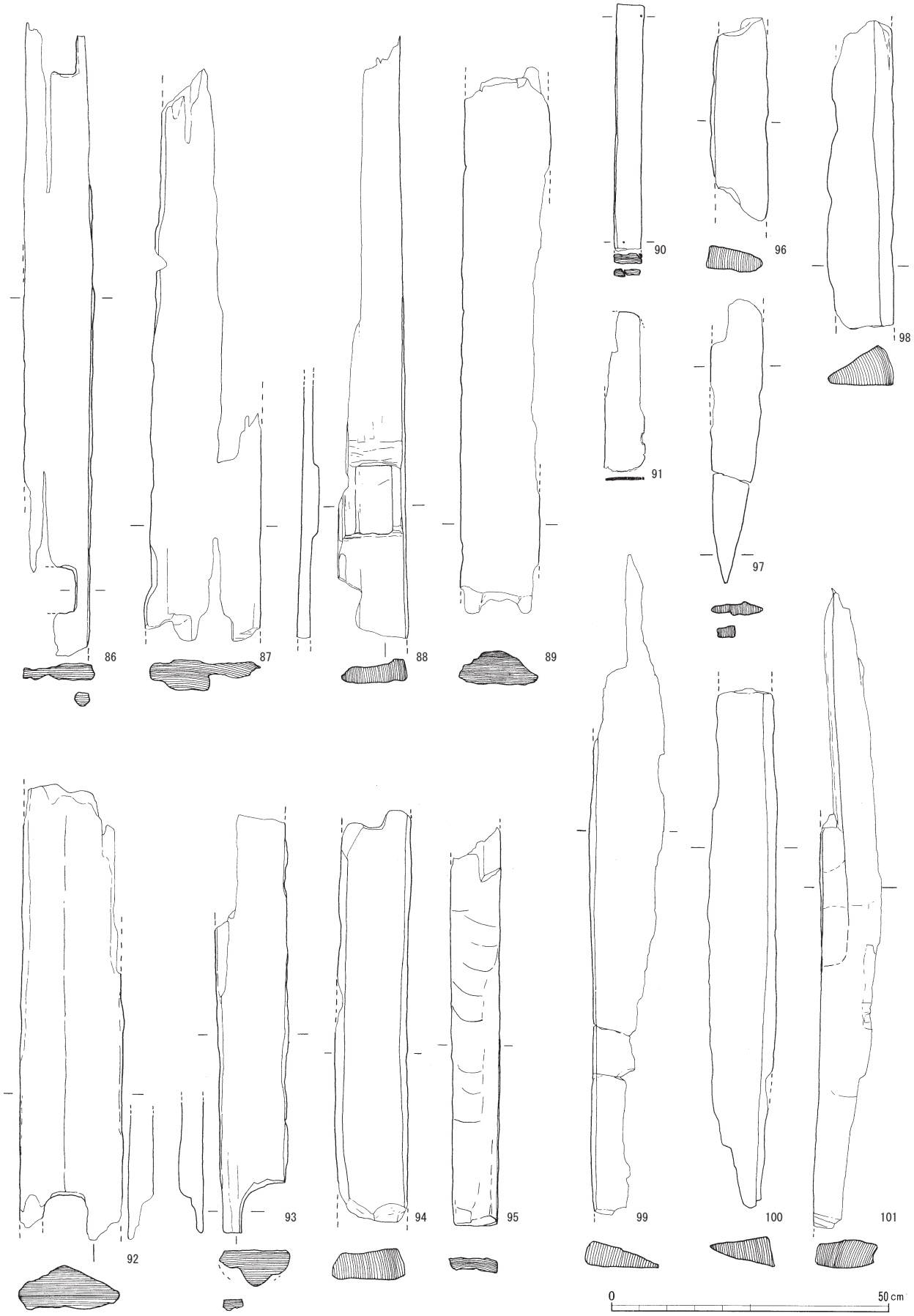
杯の口縁部は、やや外反するが端部で再び内傾し、内に肥厚する。底部外面をヘラケズリするものが多い。ただし、59は口縁部形態が異なり、他のものより大型で器壁もやや薄い。



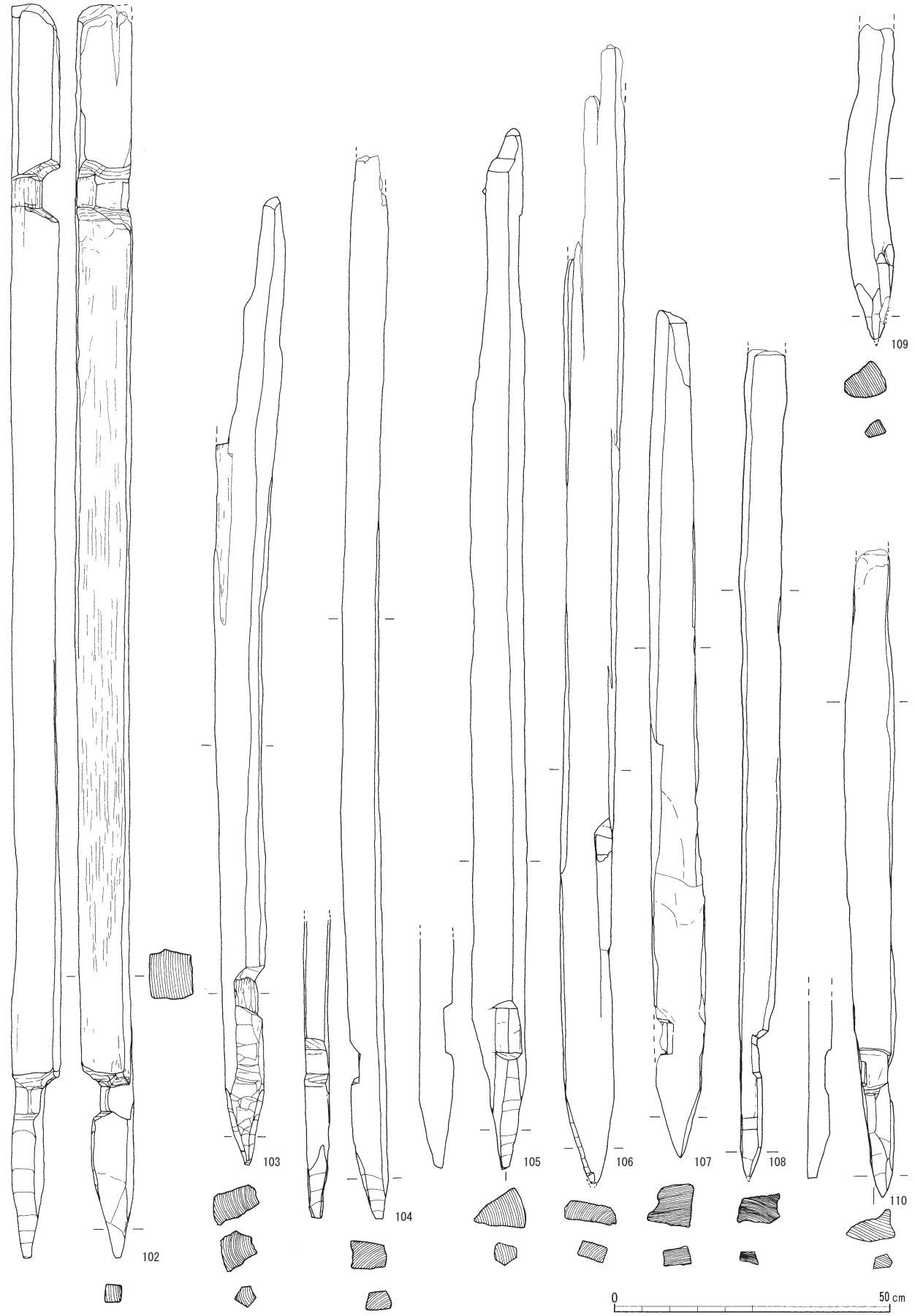
第57図　SD31005（井戸１・井戸２）出土遺物（34～49＝１：４、50～52＝１：８）



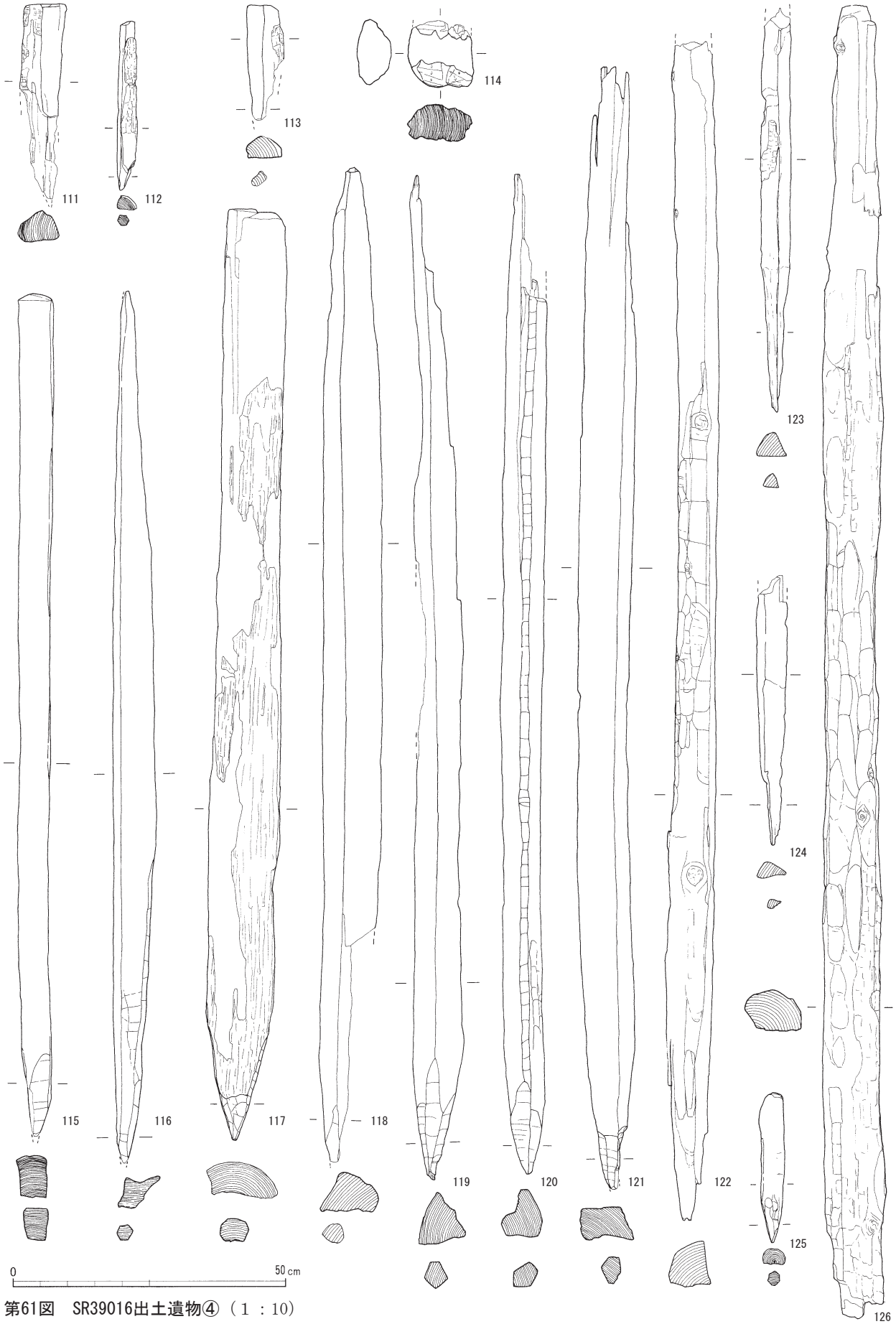
第58図　SR39016出土遺物①（１：４）



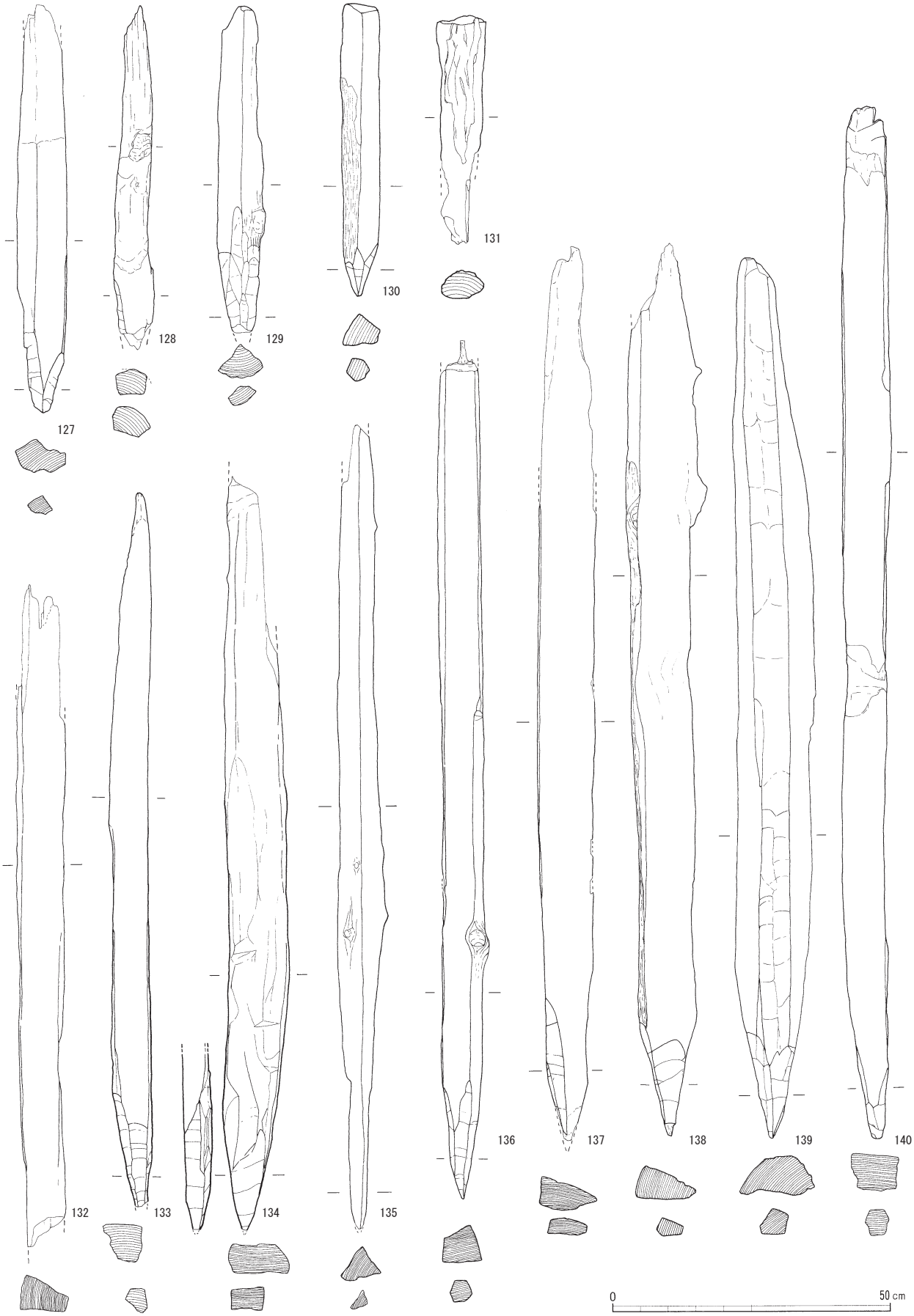
第59図　SR39016出土遺物②（1：10）



第60図　SR39016出土遺物③（１：10）



第61図　SR39016出土遺物④（１：10）



第62図　SR39016出土遺物⑤（１：10）

第63図　SR39016出土遺物⑥（１：10）

皿も底部外面をヘラケズリするが、60は指頭圧痕を残す。内面にラセン暗文を施すが、61は放射暗文も確認できる。

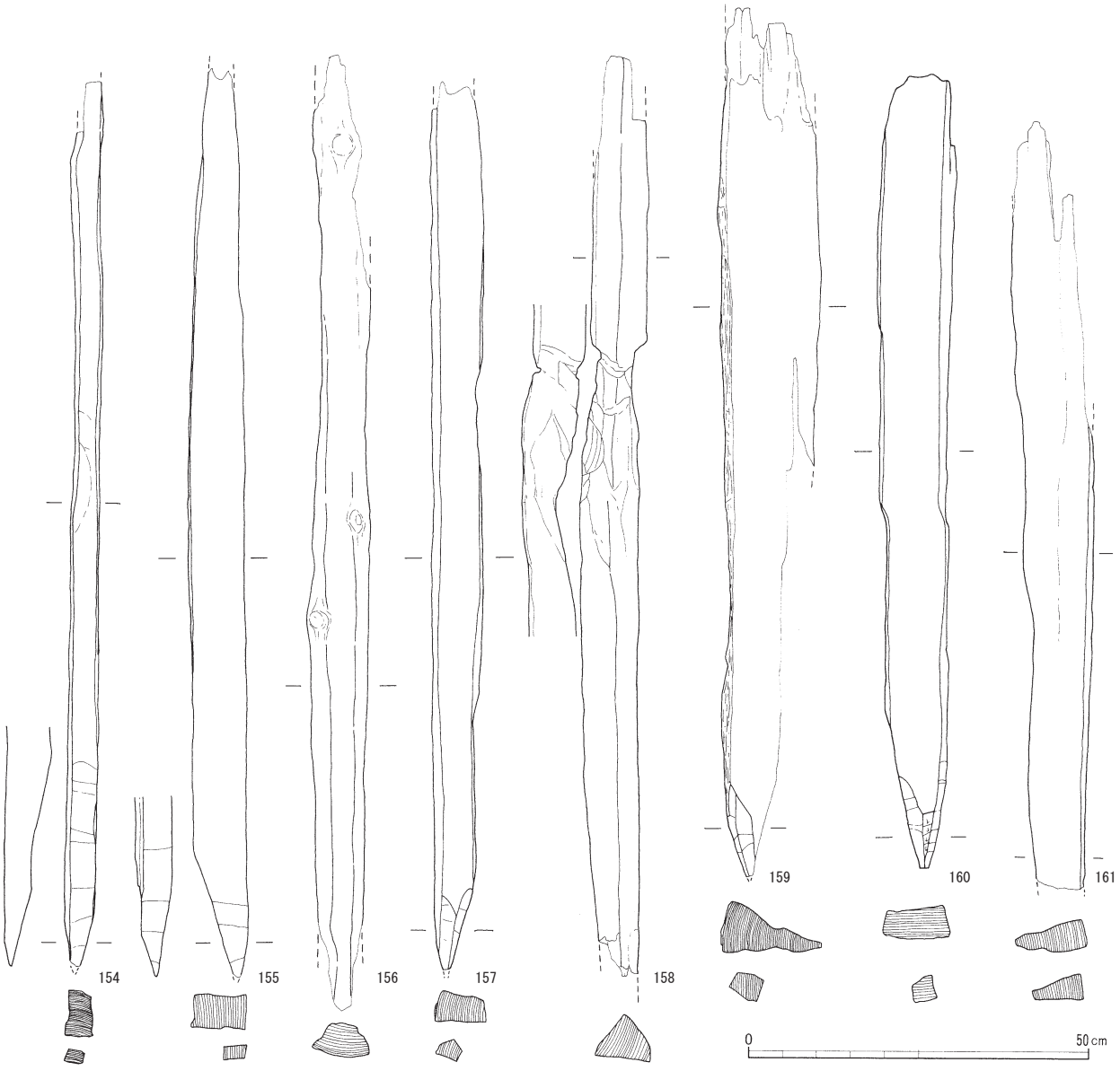
椀は両者とも粗製であるが、63は器高が低く口縁部形態も杯に似る。

甕は口径15cm程度のものから40cmを測る大型のものまで多様である。多くは長胴甕と思われるが、70・71は体部の張りがみられず、頸部から直線的に下方に延び、75は鍋または鉢にちかい形態である。いずれのものも調整はハケメで行われているが、75の内面は工具ナデ、73の外面は未調整にちかい状態である。また、煤の付着するものが散見される。

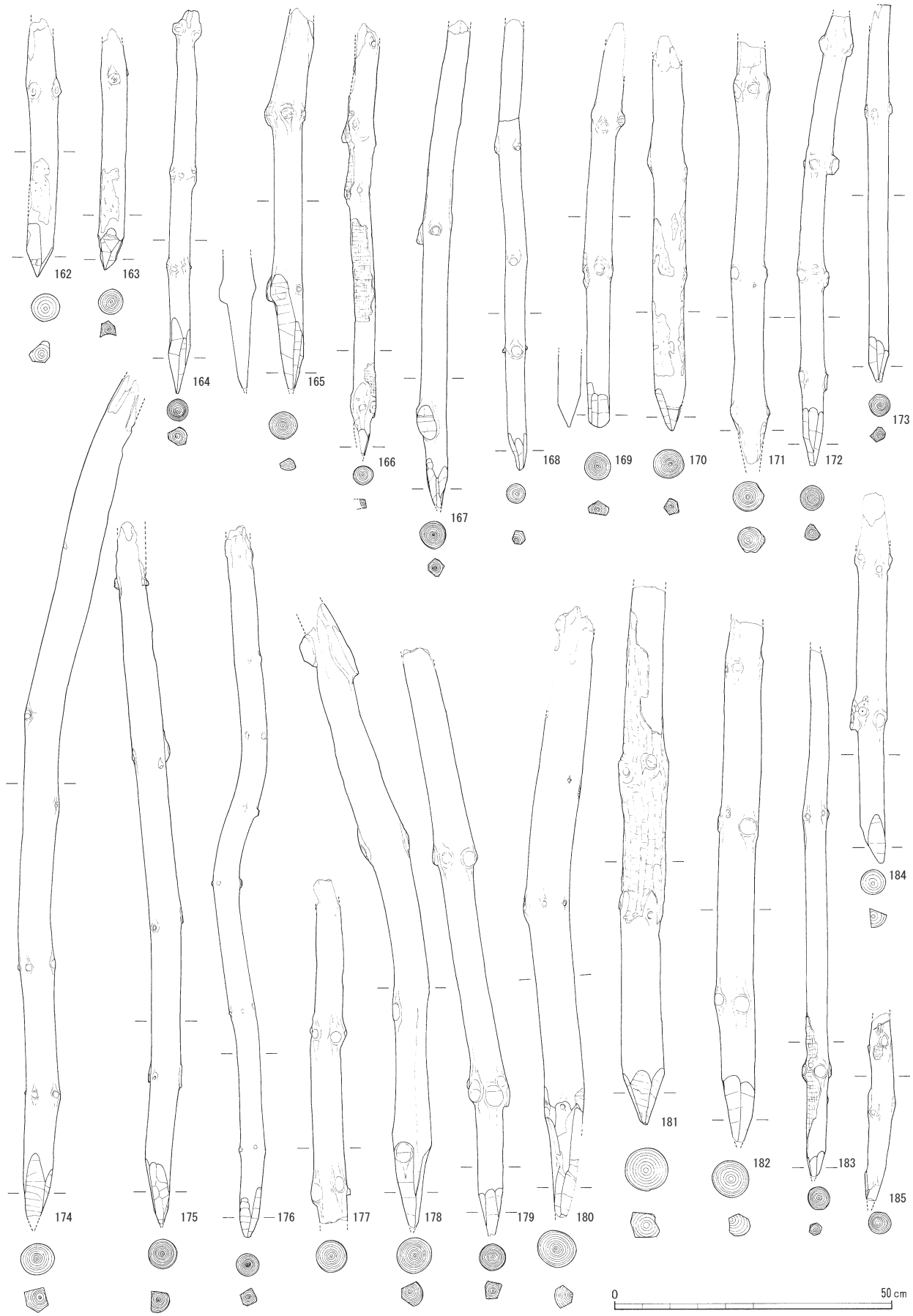
須恵器　図示した76～78は壺である。76・77は長頸壺であるが、凹線等の装飾は認められない。

木製品　82は斎串、85は盤である。82は上端を圭頭状に下端を剣先状に加工したものである。80・81・83・84は用途不明の加工材である。棒状加工材は多面体に削り出すことにより、棒状を確保している。

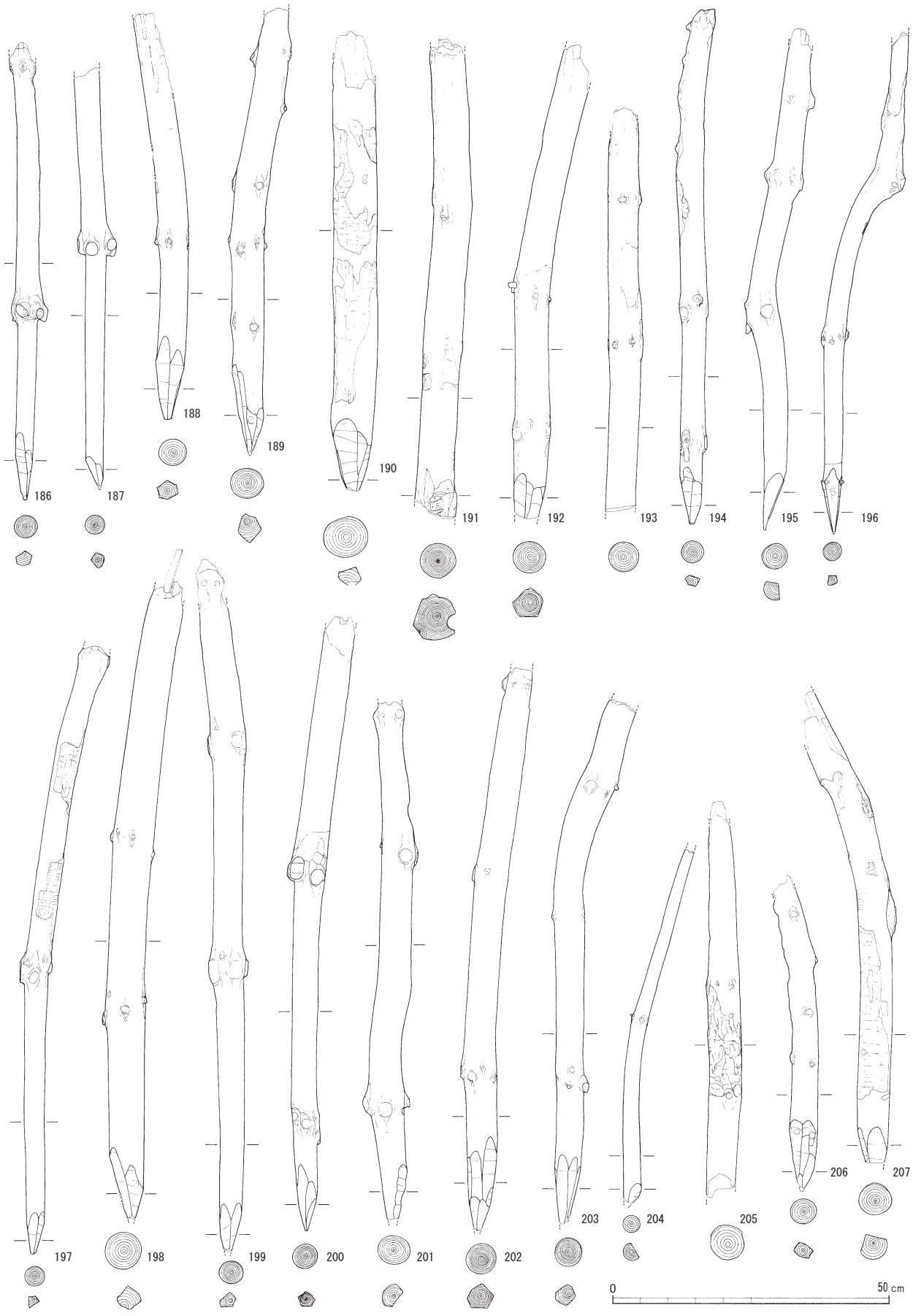
86～228は水利施設の構造材としての杭である。腐食のため全長等詳細が不明なものが多いが、一方の端を尖らせた簡単な造作であるが、長いものは2mを超え、短いものは50cm未満と多様である。用いる材も多様で、板状の部材を用いたもの（95他）、割材のもの（138他）、自然の枝材を用いたもの（162



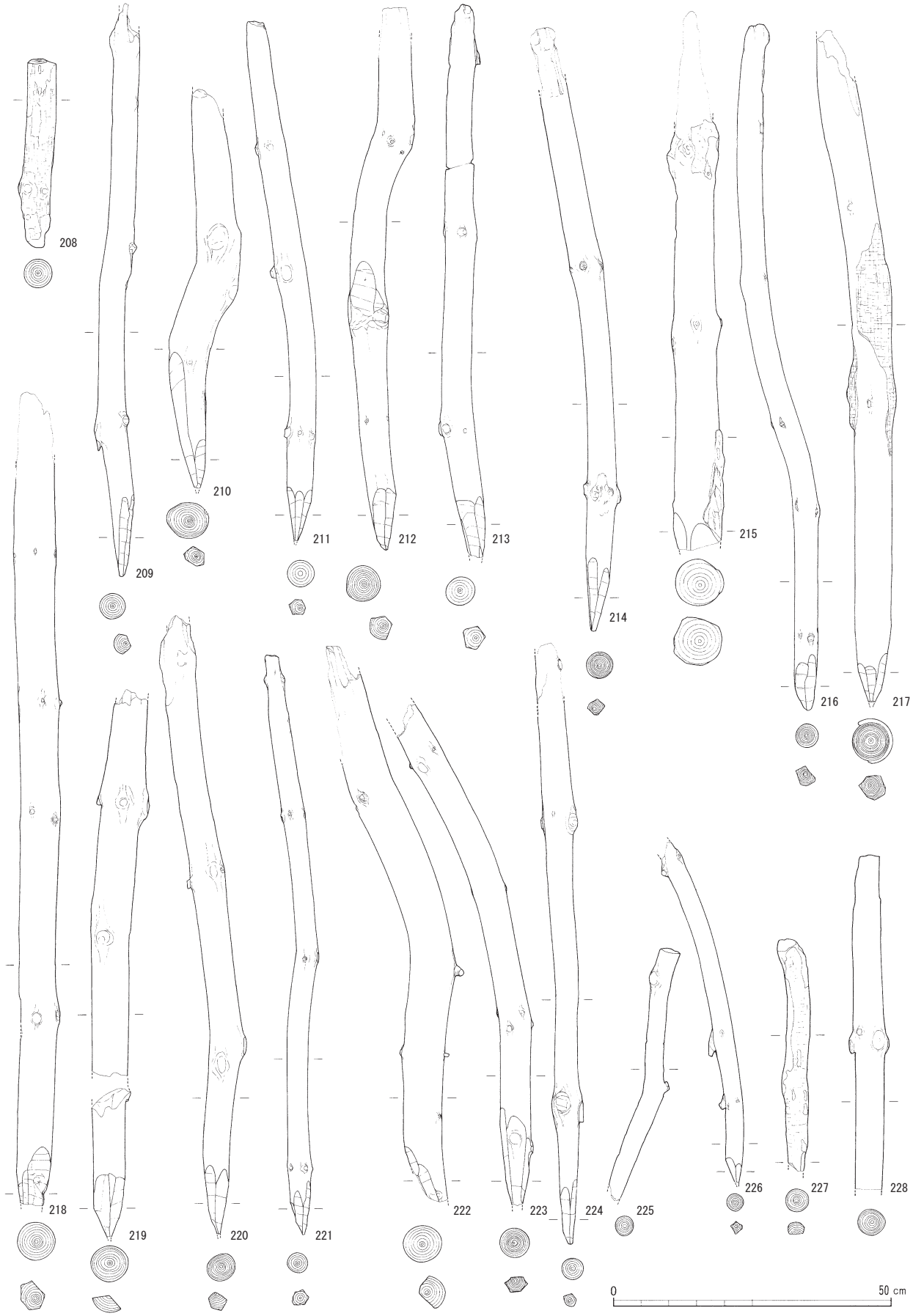
第64図　SR39016出土遺物⑦（1：10）



第65図　SR39016出土遺物⑧（１：10）

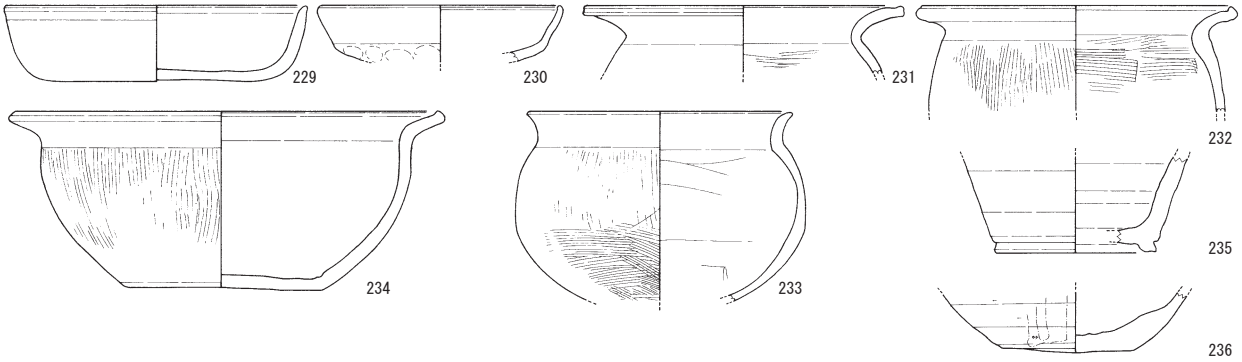


第66図　SR39016出土遺物⑨（１：10）

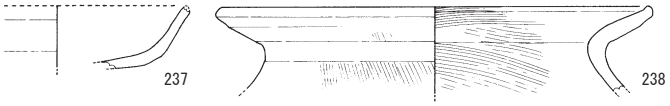


第67図　SR39016出土遺物⑩（１：10）

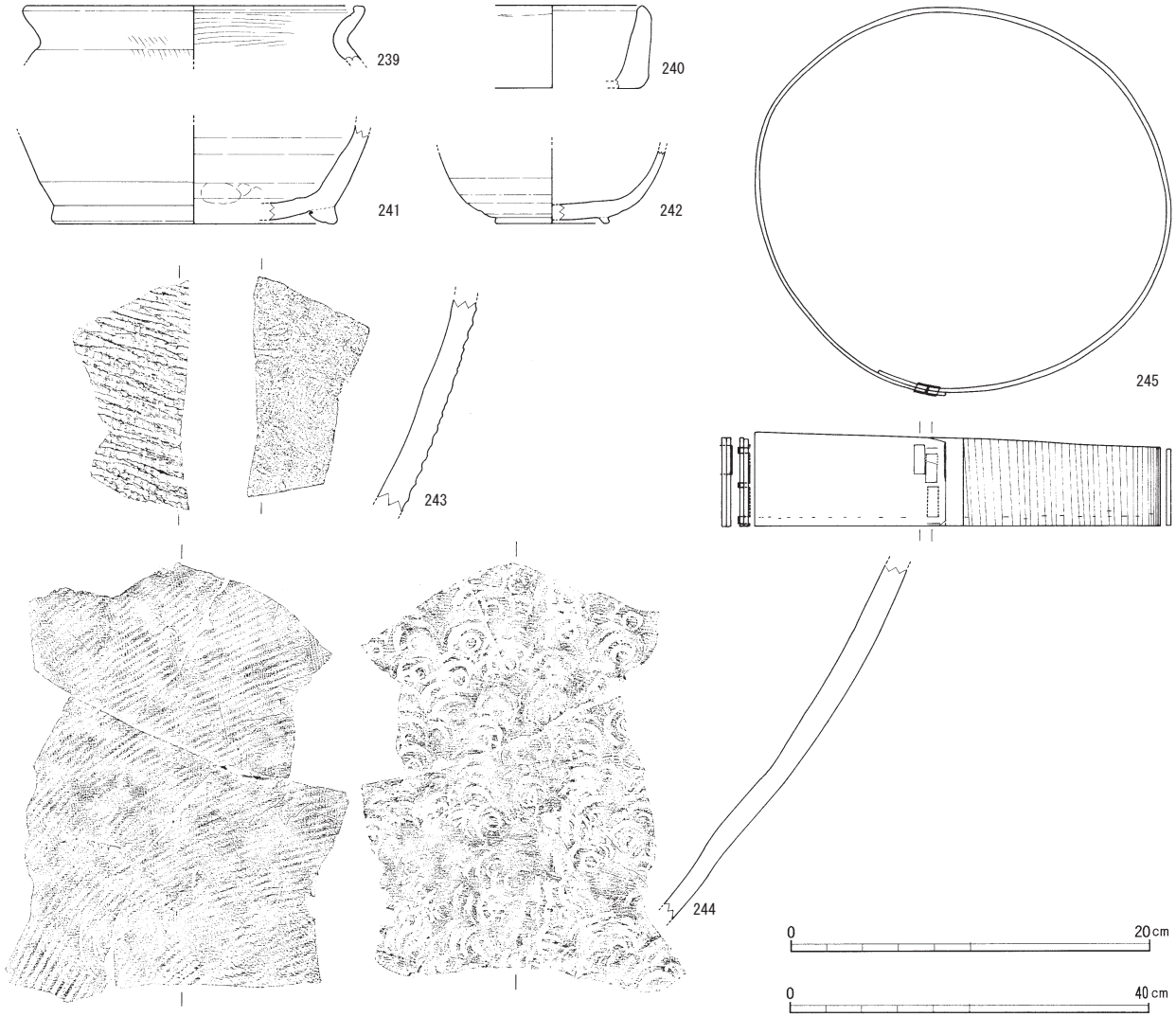
SD33005



SB32001



SE32016



第68図　SD33005、SB32001、SE32016出土遺物（229 ～ 244 ＝ 1 ： 4、245 ＝ 1 ： 8）

他）がある。

板状部材を用いたものには、86・92 にホゾ穴、88 には突起状の削り出し、90・91 には小孔が穿孔されており、明らかに他の部材を転用したものである。樹種はスギまたはヒノキ属で大半が占められる。

割材を用いたものには、樹皮を残す明確なみかん割のもの（159 他）やそれにちかいものと四角柱状に割り出したもの（107 他）がある。両者とも 102 や 105 のように切欠きが設けられているものがあり、158 は杭としての用途では生じにくい圧迫痕がある。これらは明らかに他の部材からの転用とすることができるが、他のものにおいても板材からの割り出しと考えられるものも多く、122 は一部が炭化している。これらから焼失家屋等の廃材からの転用が多くを占めるものと推測される。樹種はスギがやや多いが、クリ、アカガシ亜属、イヌマキ等多様である。

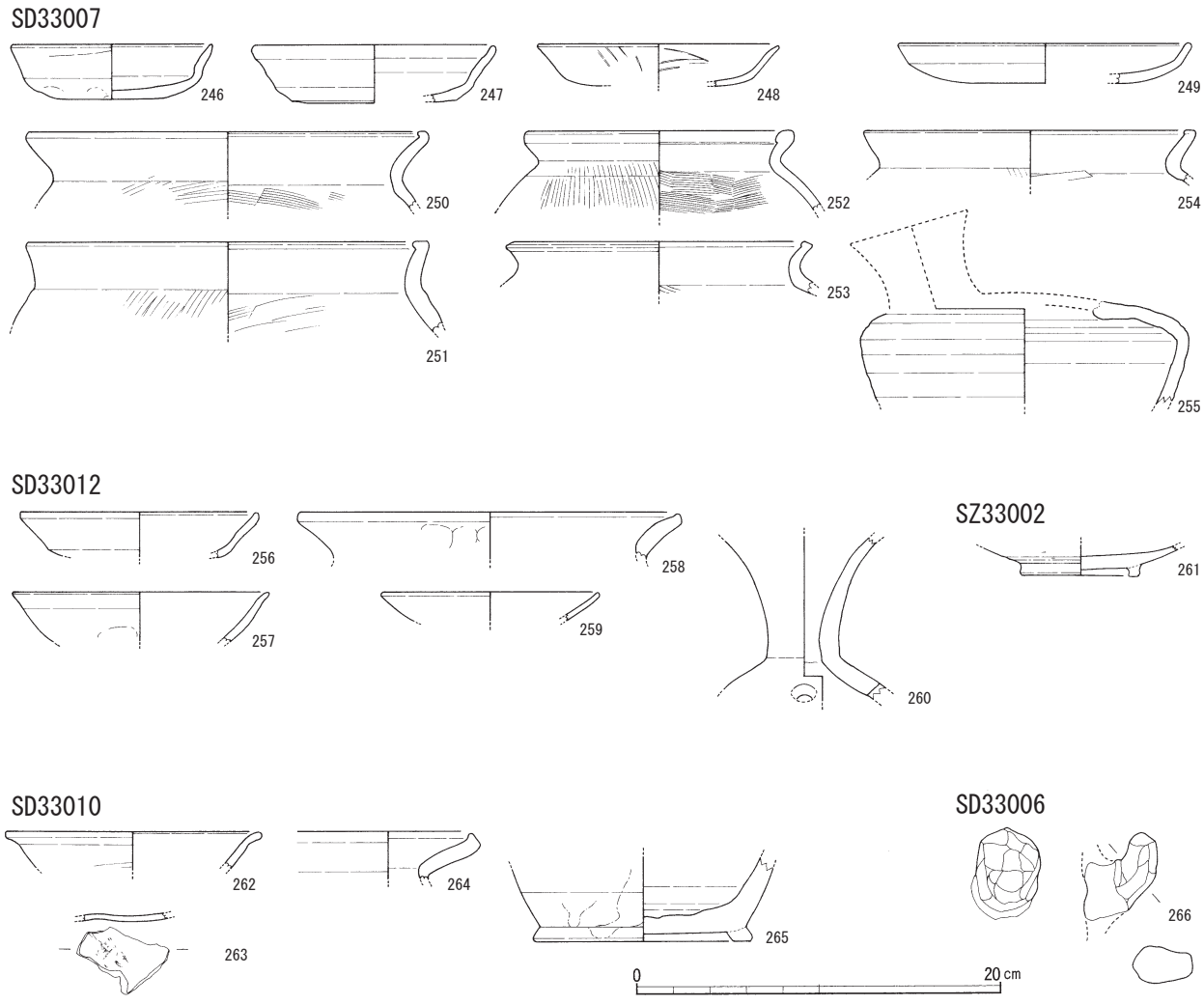
162 ～ 228 は自然の枝材の前端を尖らしたもので、弯曲した状態のまま杭としているものも多い。樹種は圧倒的にマツ属で占められおり、転用材と大きく異なる。

４．平安時代前半の遺構出土遺物

この時期の遺物は２区と３区を中心に出土しているが、総量は少なく混入遺物も多い。したがって、一括性の高いものはない。

（１）ＳＤ３３００５出土遺物（第 68 図）

土師器杯（229・230）、甕（231 ～ 234）、須恵器壺（235）、施釉陶器（236）を図示したが、236 は明らかに後世の混入である。232 は頸部が肥厚し、ハケメも細かく古相を示すが、230 の底部外面は未調整であり器壁も薄くなっている。このため、これらは奈良時代から平安時代初期の時期幅をもった一



第69図　平安時代の遺構出土遺物（１：４）

群とせざるを得ない。

234は鉢とすべき形態で、内面はハケメとならずに工具ナデの状態である。同様にハケメの作用が浅く、ナデ状になるものが231・233にもみられる。

（２）ＳＢ３２００１出土遺物（第68図）

図示できたものは土師器杯（237）と甕（238）である。237の底部外面のヘラケズリは認められないが、器壁はやや厚い。238のハケメも細かいもので、両者ともこの時期まで下げる根拠が薄いが、図示できなかったものに器壁の薄い杯やハケメの粗い甕片がある。

（３）ＳＥ３２０１６出土遺物（第68図）

土師器甕（239）、製塩土器（240）、須恵器甕（244）、灰釉陶器（241～243）、木製品（245）がある。241は後世の陶器と迷うが、一応、灰釉陶器の壺としておく。内面の灰釉は自然釉であろう。242は壺と迷うが、内面に灰釉が施されており、椀とした。245はスギの曲物である。

（４）ＳＤ３３００７出土遺物（第69図）

土師器杯（246～248）、皿（249）、甕（250～254）、須恵器平瓶（255）があるが、255は前代からの混入の可能性が高い。

土師器杯247の口縁端部が内に傾斜するが、246は傾斜が緩慢、248は外反したままで器壁も他のものより薄い。いずれも底部外面は未調整またはナデでヘラケズリのものはない。248には工具の痕跡が内外面にみられ、ナデ調整を工具で行ったものかも知れない。

土師器甕は全て口縁部片で、全体の形態が明確なものはない。口縁端部の面は外面ではなく上方にあり、器壁は内に肥厚する。端部を内に折り返す傾向の結果と思われ、252は顕著で、外面のハケメも荒い。

５．平安時代中頃の遺構出土遺物

この時期の遺物は３区を中心に出土しているが、総量は少なく混入遺物も多い。したがって、一括性の高いものはない。

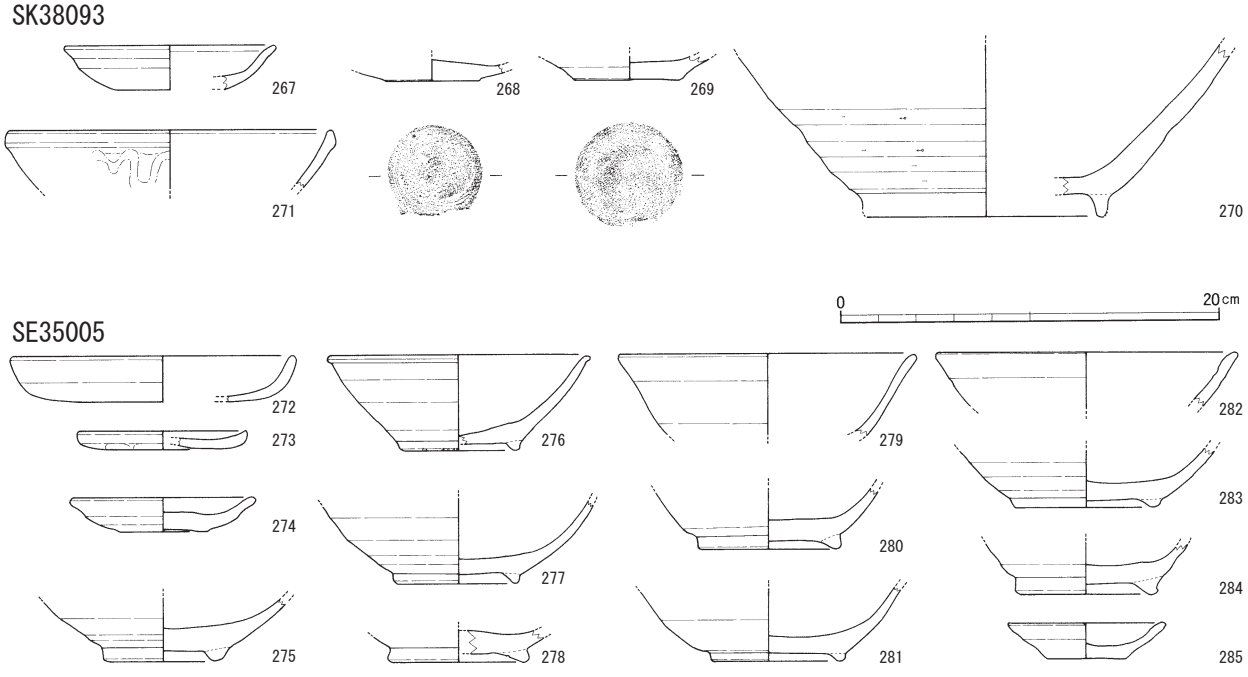
（１）ＳＤ３３０１２出土遺物（第69図）

土師器杯（256･257）、甕（258）、須恵器瑞（260）、灰釉陶器皿（259）があるが、258は口縁端部外面に面をもち口唇部を摘み上げるもので古相を示す。260とともに前代からの混入の可能性が高い。259は灰釉陶器としたが、施釉は不明確である。

土師器杯の口縁部は外反して端部が内傾する256と端部がさらに外反する257がある。

（２）ＳＺ３３００２出土遺物（第69図）

図示できたものは灰釉陶器の皿（261）のみであるが、同時期と思われる土師器甕の小片も出土して



第70図　SK38093、SE35005出土遺物（１：４）

いる。261は方形の高台を貼り付けるが、底部外面はロクロケズリである。

（３）ＳＤ３３０１０出土遺物（第69図）

262は土師器の杯、263は皿、264は甕、265は灰釉陶器の壺であるが、残存が劣悪で全体の形状が明確なものはない。264は口縁端部外面に明瞭な面をもち、前代からの混入の可能性がある。263の底部外面には墨書があるが、判読できない。

（４）ＳＤ３３００６出土遺物（第69図）

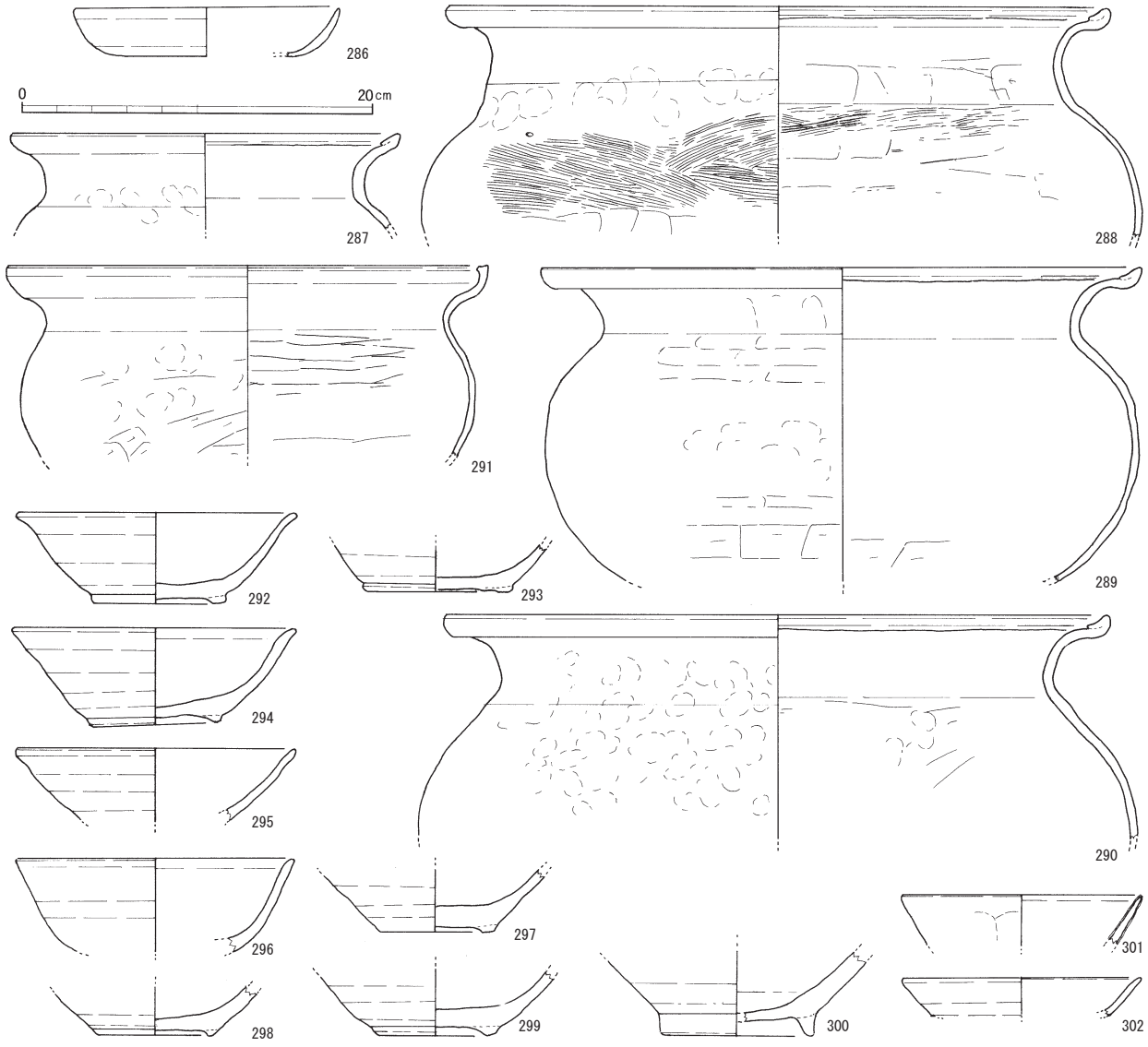
図示できたものは甑の把手と考えられる266のみである。他にこの時期の土師器甕小片が出土しているためここで扱うが、この時期に限定できるものではない。

６．平安時代末～鎌倉時代の遺構出土遺物

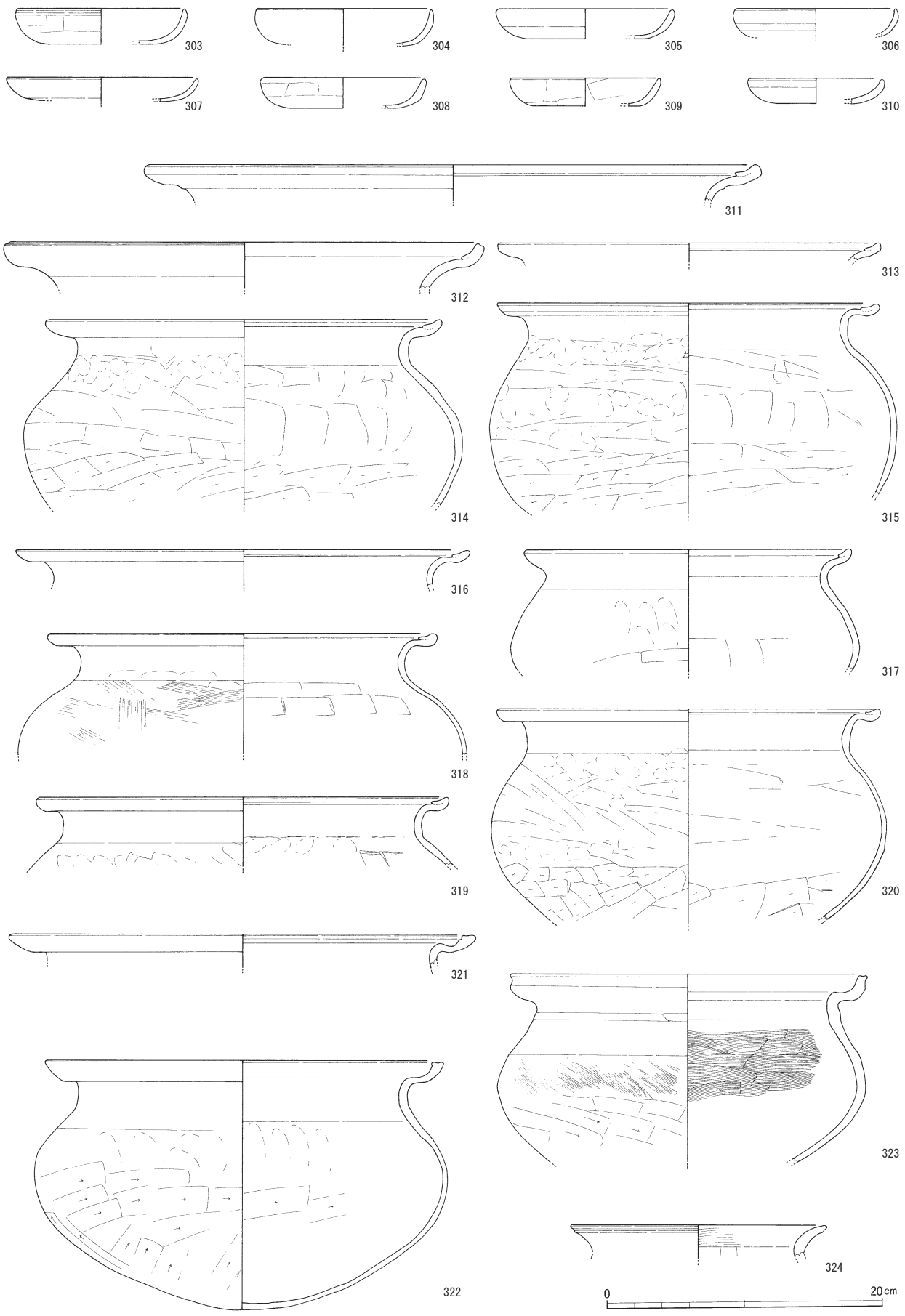
出土の中心は山茶椀や土師器鍋である。特にＳＫ35002やＳＫ37004からは一括性の高い状態で出土している。また、この地域では出土例の少ない瓦器椀の出土もある。

（１）ＳＫ３８０９３出土遺物（第70図）

267は土師器の皿としたが、ロクロ土師器に似る。268・269はロクロ土師器の椀か皿の底部、270は陶器の鉢、271は白磁の椀である。270は片口が付くものと思われ、271の外面には釉垂れが顕著である。他に土師器の台付皿、ロクロ未使用の椀、山茶椀の小片が出土している。



第71図　SK35002出土遺物（１：４）



第72図　SK37004出土遺物①（１：４）

（２）ＳＥ３５００５出土遺物（第 70 図）

山茶椀を中心にまとまった出土があった。特に 273・275・279・284 は井戸枠内の下層から共伴している。

272 は土師器の皿である。口径 14.8cmを測り器壁も厚いが、口縁部の内弯は弱い。273 も土師器の皿、274 はロクロ土師器の皿である。273 は底部からの立ち上がりが皆無にちかい特異な形態を呈する。

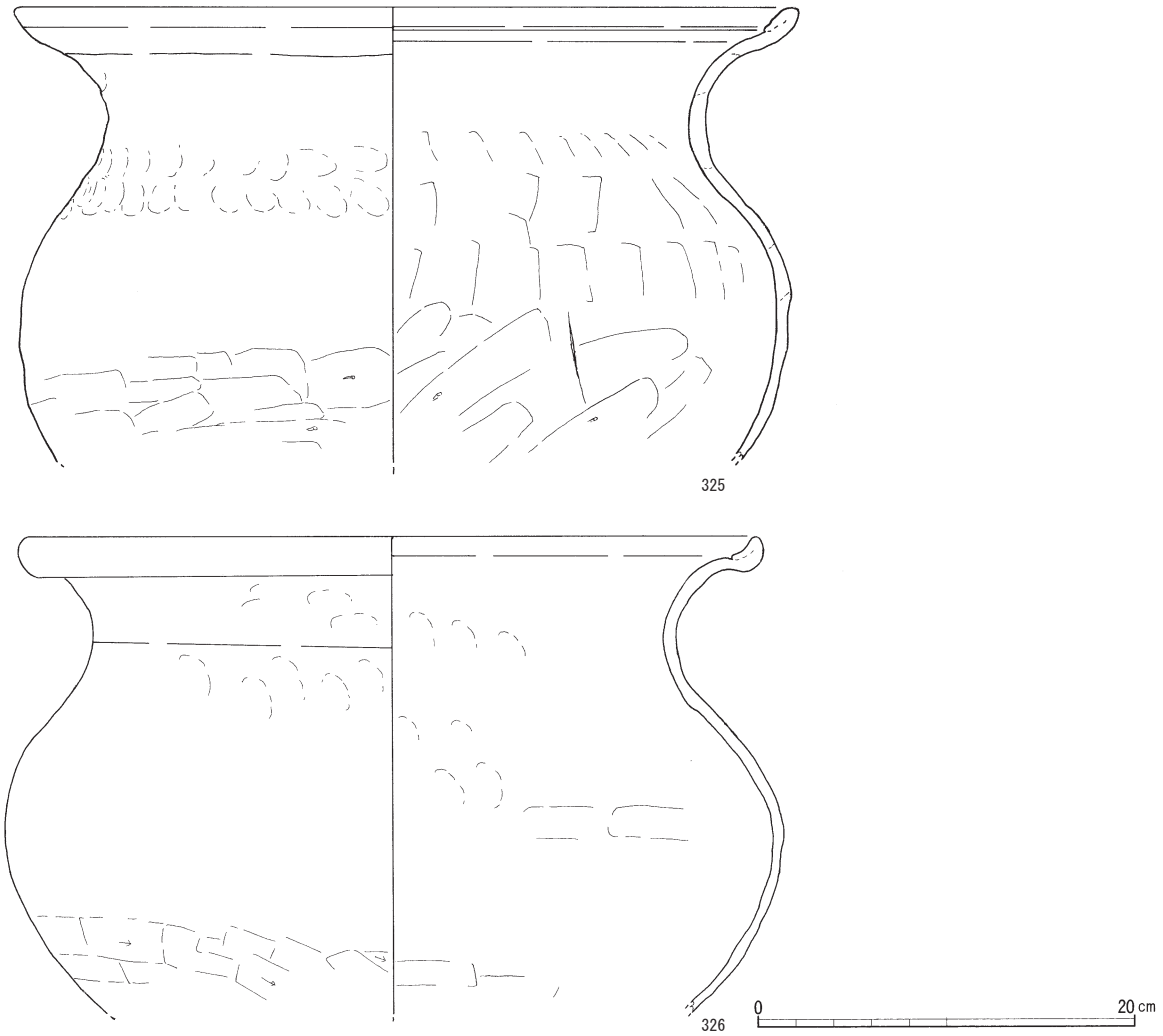
275 ～ 285 は山茶椀で、285 は皿で高台は消滅している。口縁部が残るものは、口径は 16cm足らず、小さいもので 14cm足らずで、端部は外反傾向を残している。底部片のものでは、比較的高く整った高台が貼り付けられている。なお、大半の山茶椀には底部に煤が付着する。硯に転用された可能性もあるが、282 は口縁端部に付着する。これらの煤は埋蔵時の環境に起因する可能性もある。281 の内面には円形に直接重ね焼きの痕跡があり、278 の底部外面中央部には砂の付着がある。

（３）ＳＫ３５００２出土遺物（第 71 図）

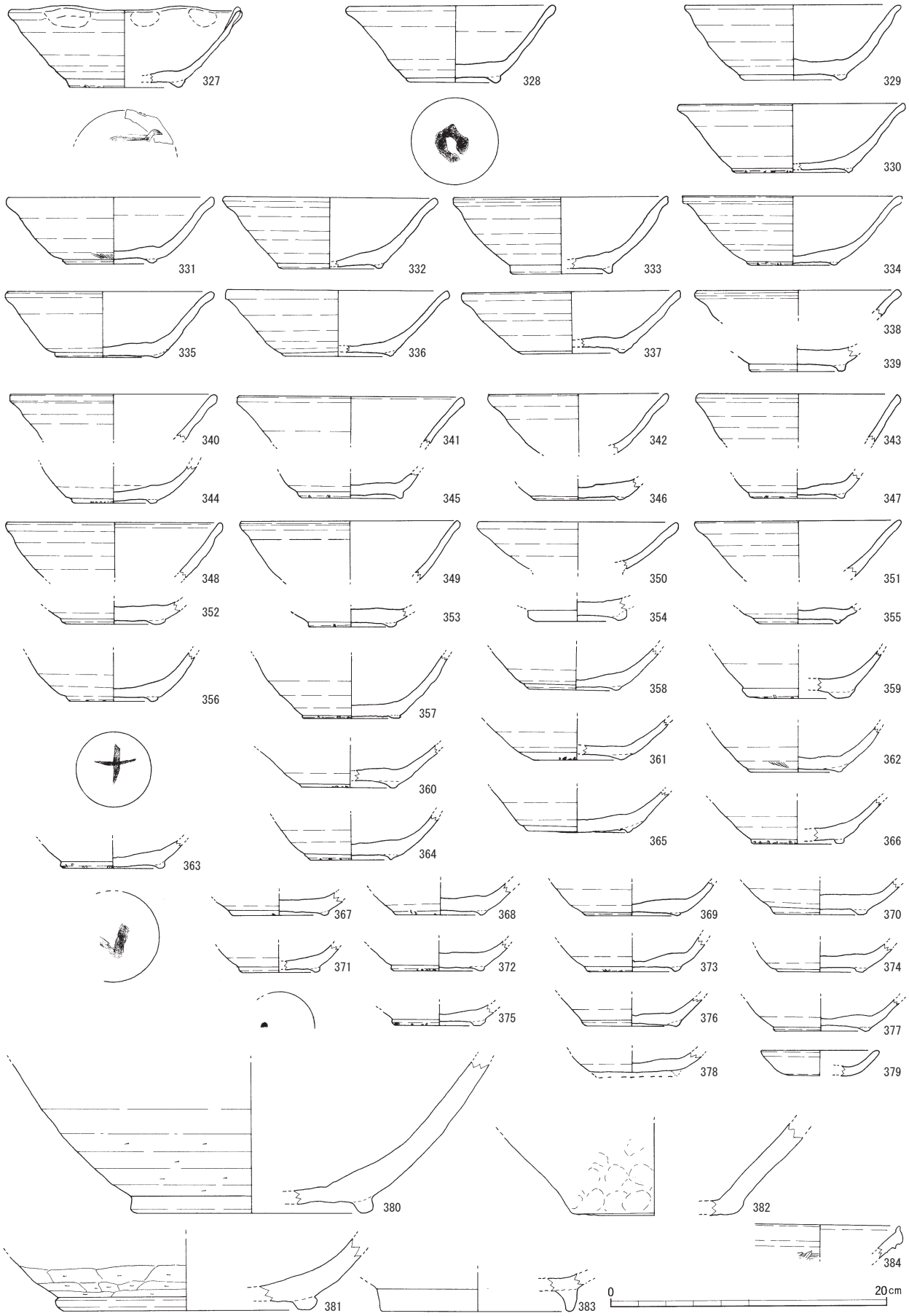
小規模な土坑から土師器鍋や山茶椀を中心にまとまった出土があった。しかし、完形またはそれにちかいものはない。

286 は土師器の皿、287 ～ 291 は鍋で、289 は体部と口縁部が接合できず、図上による合成である。鍋の口縁端部は内に折り返すが、291 は垂直に立て、受口状を呈する。288 を除き、ハケメ調整は行わず未調整のままである。288 の肩部には小さな穿孔がある。焼成後に鋭利な工具で外から内へ先行されたものである。

292 ～ 299 は山茶椀、300 は大型の底部片で、鉢であろうか。口縁端部は外反するが 296 は直線的である。高台も整ったものが多いが、293 は偏平に崩



第73図　SK37004出土遺物②（１：４）



第74図　SK37004出土遺物③（１：４）

れている。294 の内面には炭化物が付着している。

301・302 は青磁であるが、302 は焼成不良のためか白色にちかい発色である。

（４）ＳＫ３７００４出土遺物（第 72 ～ 74 図）

井戸状の土坑から、土師器鍋や山茶椀が多量に出土している。完形のものはないものの残存度の高いものが多い。

303 ～ 310 は土師器の皿である。口径 13㎝前後、器高２㎝程度ものが多く、内弯する比較的厚い器壁の口縁部である。外面は未調整のものとナデのものがあるが、後者は工具によるものである。

311 ～ 323・325・326 は土師器の鍋、324 は甕で、324 は明らかに混入である。鍋の口縁部は大きく外反し、端部を内に折り返し、折り返した上面を強くヨコナデするものであるが、321 ～ 323 は垂直に立ちあがり受口状を呈する。体部内外面下半にヘラケズリを施すが、上半は工具によるナデまたは未調整である。ただし、323 は工具の当たりが強くハケメを呈する。

327 ～ 379 は山茶椀であるが、379 は高台の消失した皿である。高台は低く潰れ気味のものを含むが、体部の丸味や口縁端部の外反傾向を残すものもあり、327 には輪花も設けられる。口縁部や内面に炭化物の付着するものが散見されるが、使用の痕跡を示すものかどうかは不明である。331・362 は高台の付け根に工具痕を残す。高台の接合に際し、一部工具を使用したためであろうか。底部外面に墨書のあるものがみられるが、判読できるものは 328 の「○」、356 の「十」の記号である。

380 ～ 383 は陶器の鉢で 382 を除き高台をもつ。381 の体部外面下半はヘラケズリでロクロを使用していない。

384 は須恵器甕の小片で、先代からの混入である。

（５）ＳＫ３８０９４出土遺物（第 75 図）

土師器の椀・皿・鍋、山茶椀が出土しているが、図示できたものは土師器皿（385）と鍋（386）である。385 は小型の皿と考えられるが、口径が 10.3㎝を測る大きなものである。386 は小片のため詳細は不明であるが、折り返した口縁端部を強くヨコナデする。

（６）ＳＫ１出土遺物（第 75 図）

井戸からの出土であるが、遺物は少量で残存度の高いものはない。

387 は土師器の皿であるが、口縁部の内弯は弱い。388 は緑釉陶器の小片であるが、内面の文様は印刻花文の一部であろう。389 は小片のため口径は不明であるが、椀とするには大型であることが想定される。外面に自然釉が厚くかかり、一応陶器の鉢としておく。390 は山茶椀の小片で、口縁端部は直線的におわる。

（７）ＳＫ３８０５２出土遺物（第 75 図）

完掘できていないため良好な出土遺物はないが、391 は土師器の鍋、392 は山茶椀、394 は丸瓦である。393 は灰釉陶器甕の小片であるが、混入である。他にも室町時代に下る土師器鍋片があるが、混入として扱っている。

391 は折り返す口縁端部に強いヨコナデを施すものであるが、口唇部を丸く収めず外に弱い面を有している。392 の高台は低く潰れたものである。

（８）ＳＤ３５００８出土遺物（第 75 図）

出土遺物は土師器皿と山茶椀に限定される。395 は土師器皿であるが、口縁部の内弯は弱い。396 ～ 399 は山茶椀であるが、低く幅の広い高台が多いなかで、399 は比較的整ったものである。397 の内面には煤が付着している。

（９）ＳＤ３５００９出土遺物（第 75 図）

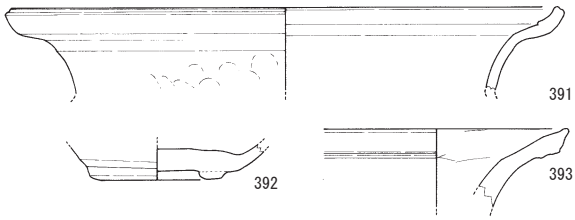
小規模な溝であるが、比較的多くの遺物が出土している。なかには小片ではあるが、当地域で出土例の少ない瓦器（404）もある。

400 は土師器の皿で、口縁部の内弯は弱い。401 ～ 403 は土師器の鍋であるが、401 は屈曲する口縁部の端部を若干内に折り返す程度で、古相を示す。調整もハケメであり、前代からの混入の可能性が高い。402・403 は受口状の口縁部で、端部は折り返さずに上方に面をもつ。調整のハケメはなく、未調整のままである。404 は瓦器椀の小片で、内外面に密なヘラミガキを施す古相のものである。

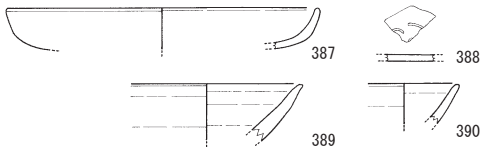
405 ～ 412 は山茶椀、413 は陶器の壺、414 は青磁椀である。411 は高台の消失した小椀、412 は器高が低く偏平な皿である。椀の口縁端部は若干外反傾向を残し、409 を除き整った高いものである。413 の底部外面には、焼成後に鋭利な工具で描かれた弯曲する線がある。

SK38094

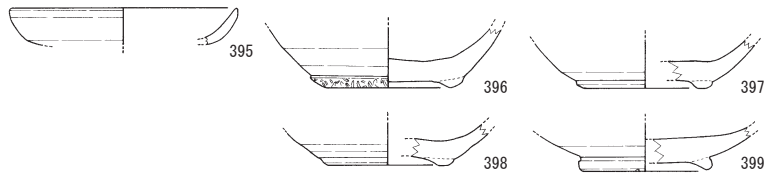
SK38052



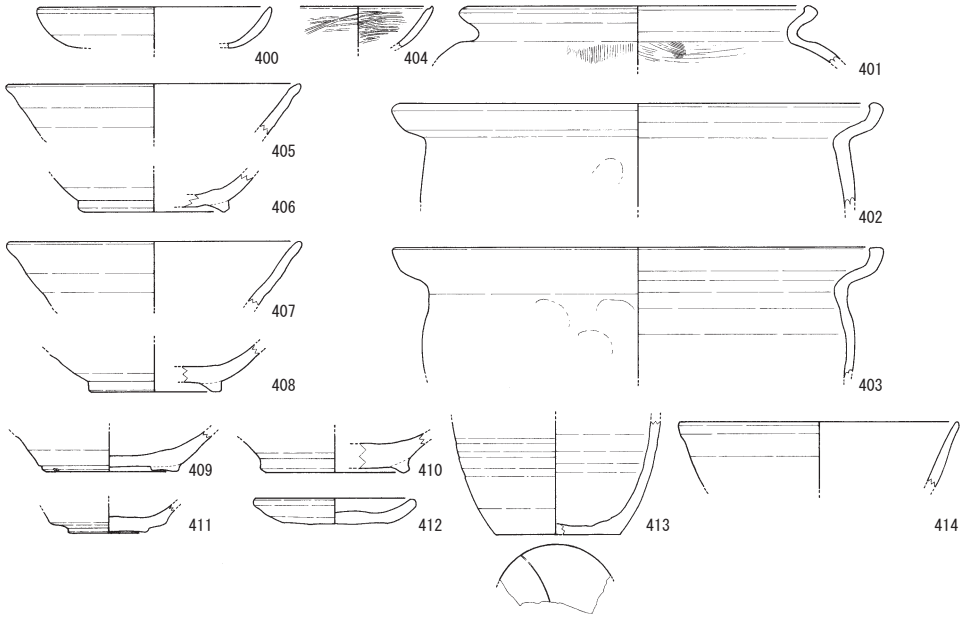
SK1

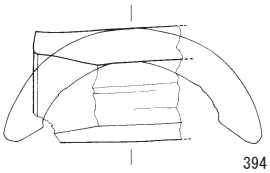


SD35008

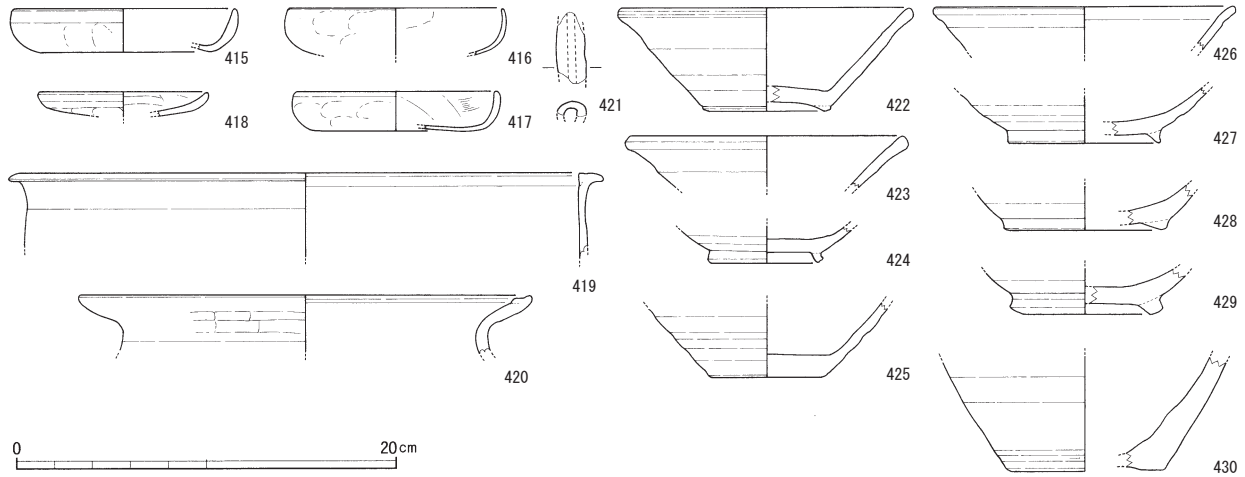


SD35009

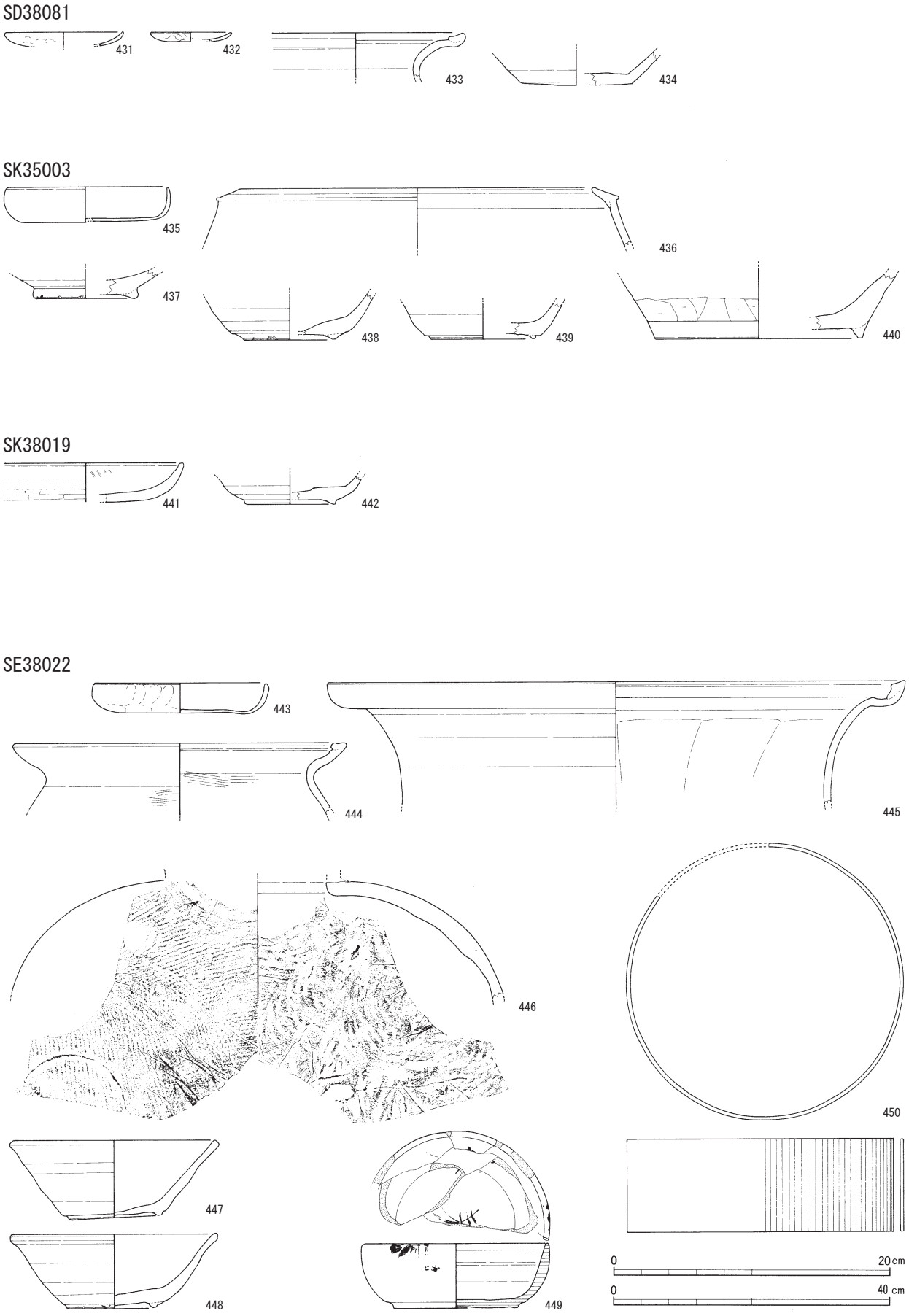




SK35007



第75図　鎌倉時代の遺構出土遺物①（１：４）



第76図　鎌倉時代の遺構出土遺物②（431 ～ 449 ＝ 1 ： 4、450 ＝ 1 ： 8）

（10）ＳＫ３５００７出土遺物（第 75 図）

415 ～ 417 は大型の土師器皿、418 は小型の皿である。前者の口縁部は内弯して立ち上がり、端部を尖り気味に収める。416・417 は器壁が薄く、重複するＳＫ 35004 からの混入の可能性がある。419 は土師器の羽釜、420 は鍋、421 は土錘である。420 のナデは工具による。

422 ～ 429 は山茶椀、430 は陶器の壺であろうか。422・423 の口縁部は外反せず、底部から直線的に立ち上がる体部であるが、426 は外反傾向を残している。425 の高台は消失しているが、424・427 は高く整った高台を有し、形態的差異のあるものが共存する。

（11）ＳＤ３８０８１出土遺物（第 76 図）

431・432 は土師器皿、433 は鍋、434 は山茶椀である。土師器皿の器壁は薄く、山茶椀の高台は消失している。しかし鍋の口縁端部は内に折り返し、折り返した上面に強いヨコナデを施している。器壁も厚い。

（12）ＳＫ３５００３出土遺物（第 76 図）

435 は土師器の皿、436 は羽釜である。435 は比較的薄い器壁で、口縁部が内弯して立ち上がり端部を尖り気味に収めている。437 ～ 439 は山茶椀、440 は陶器の鉢である。437 の高台は比較的整っているが、他のものは低く潰れたものである。440 の体部外面下半のヘラケズリはロクロを使用していない。

（13）ＳＫ３８０１９出土遺物（第 76 図）

図示できたものは土師器杯 441 と山茶椀 442 である。441 は底部外面をヘラケズリで調整し、内面に不明確ながら放射暗文を施しているようである。これらの特徴から明らかに混入と考えられる。442 は低く形骸化した高台をもつものである。他に図示できなかったが、442 と同時期と思われる土師器皿の小片が出土している。

（14）ＳＥ３８０２２出土遺物（第 76 図）

443 は土師器の皿で口縁部は内弯し、端部を尖り気味に収める。他にも図示できなかったが、２個体以上の小片がある。444・445 は土師器の鍋である。両者とも口縁端部を内に折り返すが、上端に面をもつ。446 は須恵器の横瓶と思われ、明らかに混入である。447・448 は山茶椀、449 は漆器の椀、450 は集水枡として設置されていた曲物である。山茶椀は両者とも低く潰れた高台をもつが、448 は体部の丸味と口縁端部の外反傾向は残る。449 は透明漆に赤色漆で文様を描いている。

７．室町時代の遺構出土遺物

この時期の遺物は今回の出土遺物の大半を占める中心的なものである。多量の遺物を出土した遺構もあるが、大規模な溝からのもので、一括性は高いとは言えない。なお、多くの遺構出土遺物に山茶椀等が混入するものが多い。

（１）ＳＥ３９００２出土遺物（第 77 図）

完掘できなかったものの土師器皿を中心にまとまった出土があり、土師器皿は完形を含む残存度の高いものが多い。451 ～ 458 は土師器の皿で 451 ～ 454 は大型、457・458 は小型のものである。前者は口径 11 ～ 12㎝、器高 2.6㎝前後のもので口縁部は大きく内弯する。

459 は土師器の鍋、460 は羽釜で両者とも煤等の付着がみられる。付着の様子から使用時のものと思われる。

461 は板状の部材で、２ヶ所に２個１組の小孔が空けられ、カバ皮が通されている。おそらく他の部材と連結されていたものと思われる。なお、端ちかくに３条の弯曲した平行線が墨で描かれている。

（２）ＳＫ３８０７７出土遺物（第 77 図）

462 ～ 469 は土師器の皿で、大型のもの（462 ～ 465）と小型のもの（466 ～ 469）がある。大型のものは内弯する口縁部であるが、内弯が強いものと弱いものがあり、器高も一様でない。470 は土師器鍋で、使用のためか煤等の付着がある。471 は天目茶椀、472 は青磁椀、473 は陶器甕、474 は山茶椀である。472 は幅の広い連弁文を施し、474 とともに前代からの混入であろう。

（３）ＳＤ３６０２２出土遺物（第 77 図）

475 ～ 482 は土師器の皿、484 は天目茶椀、485 は古瀬戸の壺、486 は加工円盤、487 は弥生土器の甕である。483 は土師器甕の口縁部片であるが、487 と共に混入遺物と考えられる。487 は内外面を工具ナデで調整するが、外面は強く、面取り状になり、壺の可能性もある。加工円盤は陶器甕の体部を円形に加工したもので、天目茶椀の高台は内反りである。

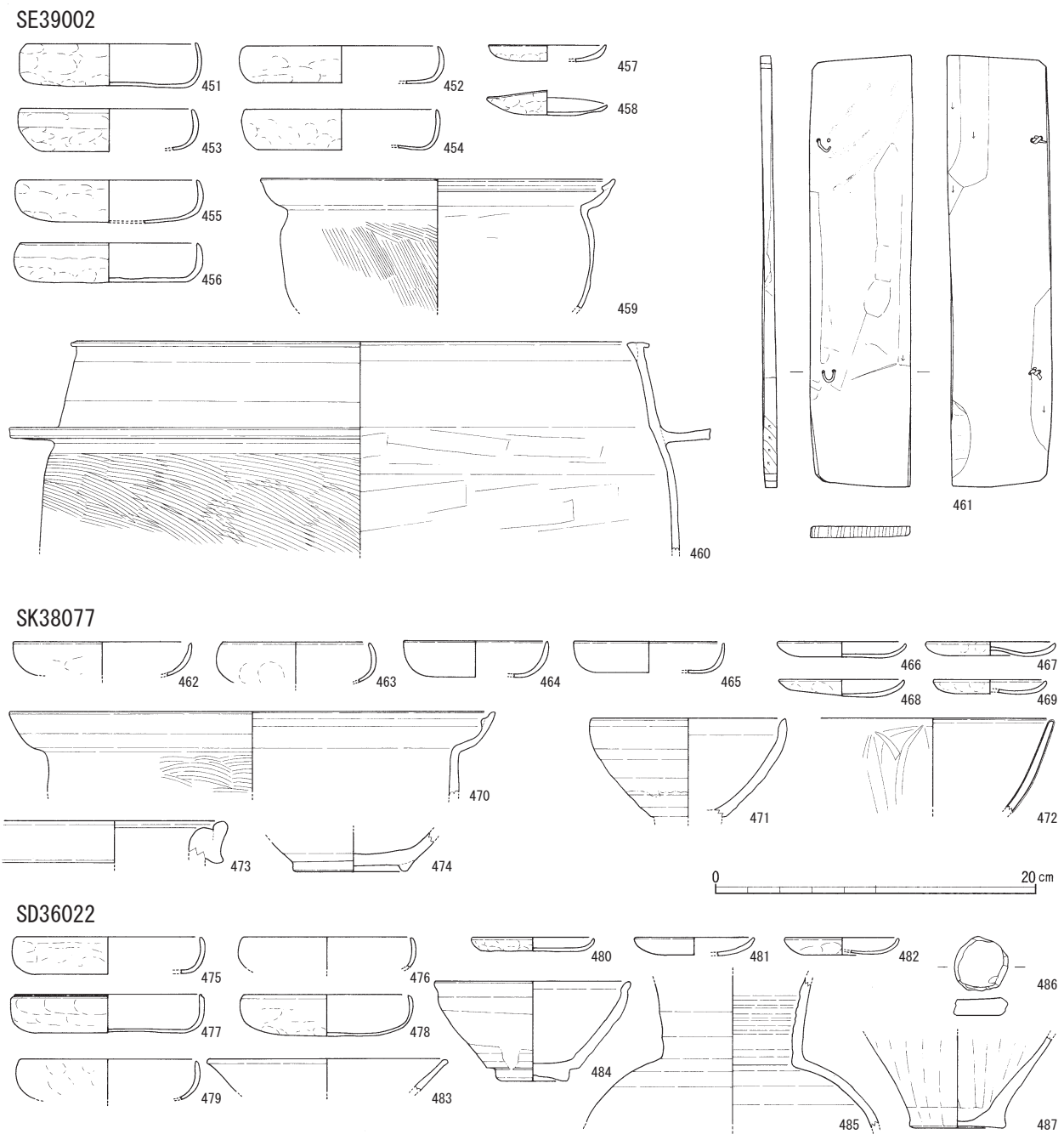
土師器皿には大型のもの（475 ～ 479）と小型の

もの（480 ～ 482）がある。大型のものは内弯する口縁部で、口径 10 ～ 11cm、器高 2.5cm前後に収まる。

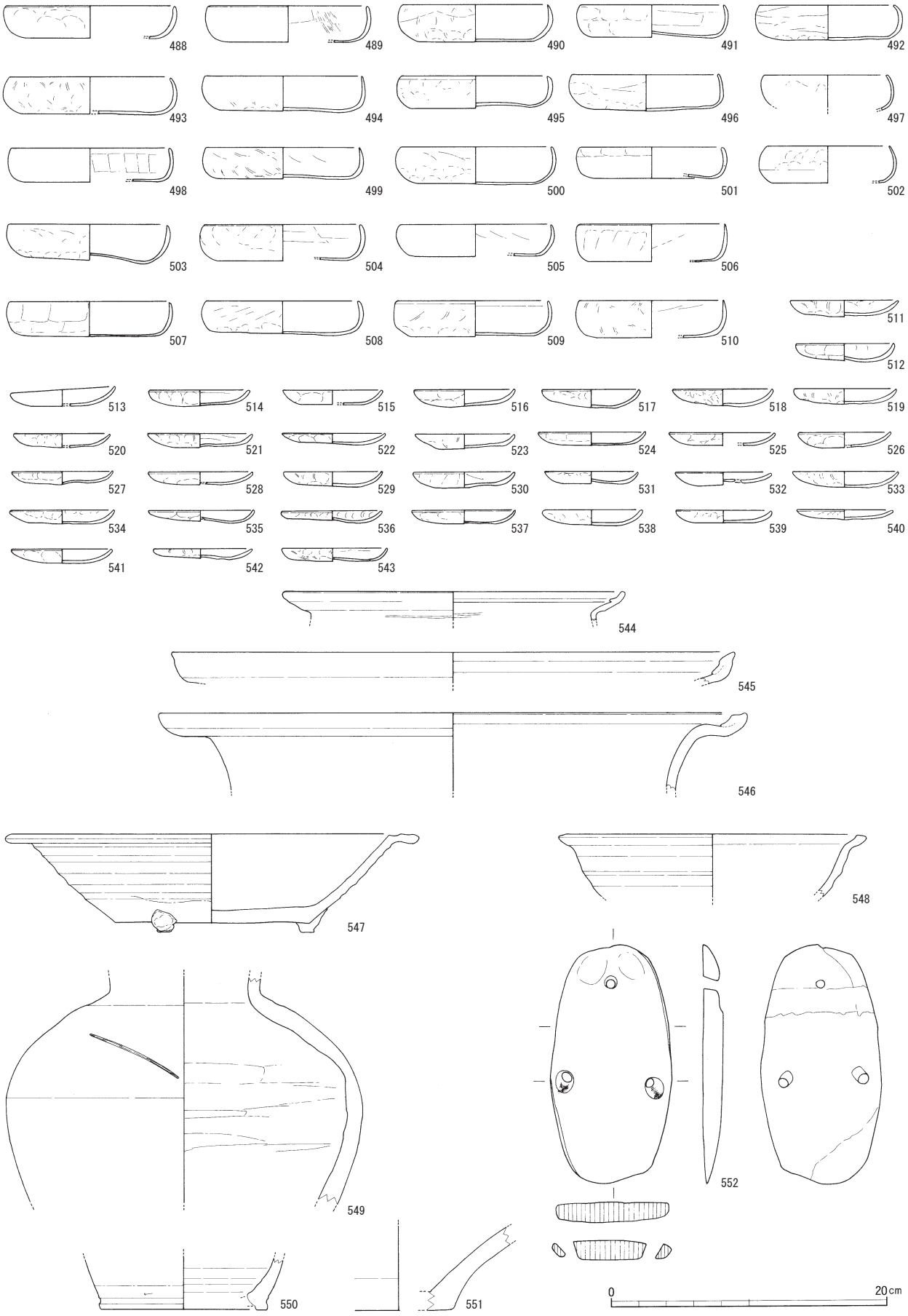
（４）ＳＫ３８０８５出土遺物（第 78 図）

土師器皿を中心にまとまった出土があった。特に土師器皿は完形のものを含み、残存度の高いものが多い。埋納と考えられるものは無いものの一括性の高い一群である。

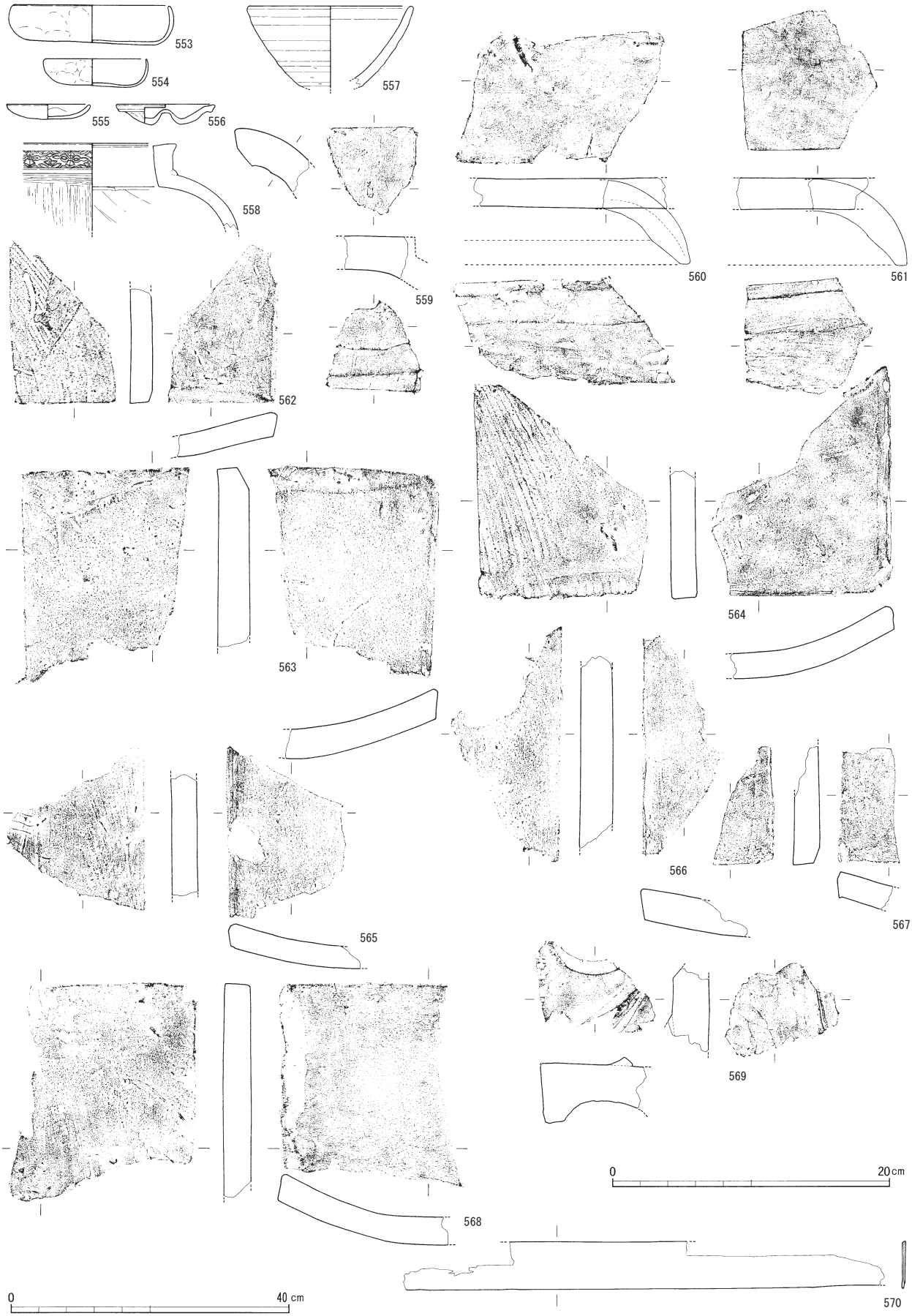
土師器皿には大型のもの（488 ～ 510）と小型のもの（511 ～ 543）がある。大型のものは口径 11cm 程度、器高 2.5cm程度で内弯する口縁部の端部を尖り気味に収めるものである。底外面は未調整であるが、工具によりナデを施すものや未調整であるものの工具痕を残すものが散見される。小型のものは口径 7 cm程度、器高 1 cm程度の偏平な形態で、内面のみをナデ、口縁部の立ち上がりがほとんどない簡単な仕上げである。そのため歪みの激しいものも多い。532 は底部中央に小孔を空ける。小孔は焼成後に内から外へ向けて空けられている。また、507 の底部



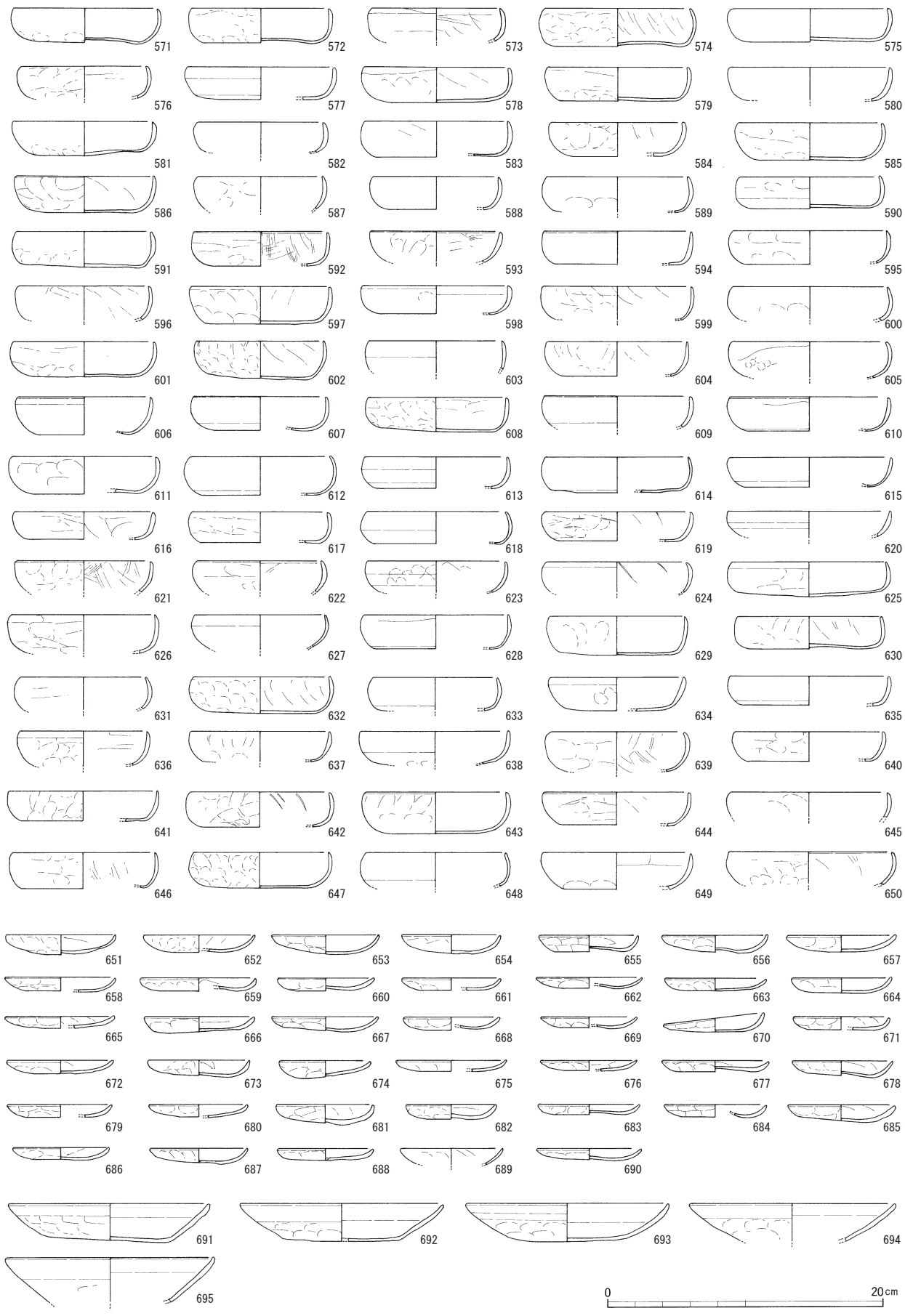
第77図　SE39002、SK38007、SD36022出土遺物（１：４）



第78図　SK38085出土遺物（１：４）



第79図　SD38027出土遺物（570 ＝ 1 ： 8、他は 1 ： 4）



第80図　SD36006出土遺物①（１：４）

外面には板状圧痕がある（写真図版 22）。

544 ～ 546 は土師器の鍋、547・548 は施釉陶器の鉢で、547 には脚が付く。小片のため脚数は不明であるが、３脚に仮定して図化している。549・550 は陶器の壺、551 は甕の底部、552 は木製品の下駄である。552 は腐食が激しく、歯の状況は不明である。549 の肩部には焼成前にヘラによる直線が刻まれている。

（５）ＳＤ３８０２７出土遺物（第 79 図）

重複する遺構ＳＤ 38018 の最下層はＳＤ 38027 の埋土であるため、ＳＤ 38018 最下層として取り上げられたものもここで扱う。出土土器は少量であるが、瓦類が目立つ。

553 ～ 556 は土師器の皿、557 は天目茶椀である。553・554 は内弯する口縁部の大型の皿であるが、口径が大きく異なる。555･556 は小型の皿であるが、556 は底部中央が盛り上がる特異な形態である。

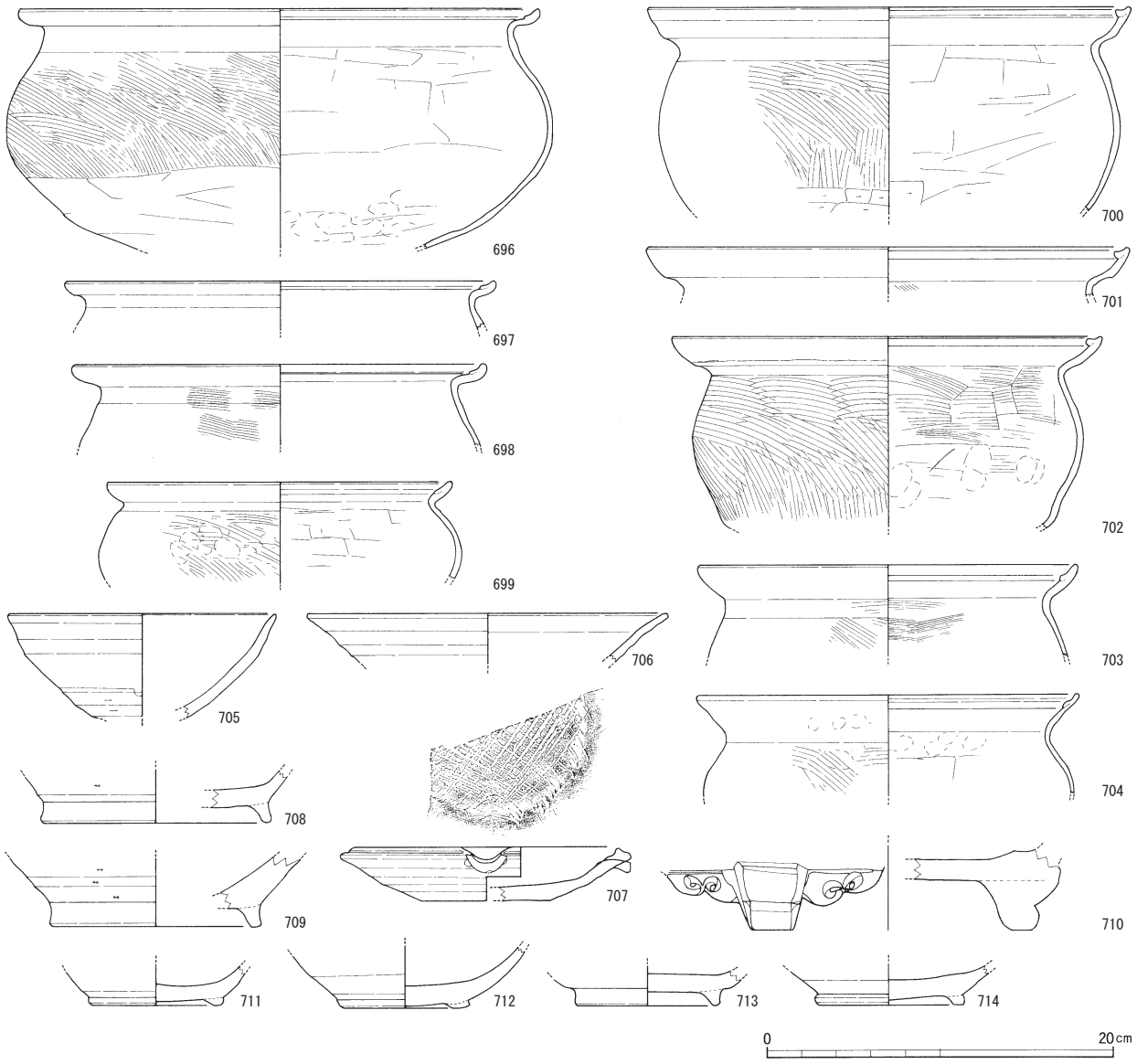
558 は瓦質土器の風炉と考えられる。口縁部外面には幅 2.9㎝のスタンプにより花菱文が刻印される。

559 ～ 569 は瓦であるが、いずれも小片で全体の形状は不明である。559 ～ 561 は丸瓦、562 ～ 568 は平瓦、569 は鬼瓦としておく。562・564 の凸面には棒状工具による掻き取り痕がある。

570 は薄い板状の部材である。目釘穴のような小孔があるため曲物の側板と思われるが､確証はない。

（６）ＳＤ３６００６出土遺物（第 80・81 図）

多量の遺物が出土しているが、土師器皿が大半を



第81図　SD36006出土遺物②（１：４）

占める。溝からの出土ではあるが、完形を含む残存度の良好なものが比較的多数ある。

571 ～ 695 は土師器の皿である。571 ～ 650 は口径 10cm前後、器高 2.6cm程度の大型の皿で、口縁部は内弯し、端部を尖らせておわるものである。内面ナデ、外面は未調整であるが、稀に外面にもナデを施すものがみられる。571・574・601 の底部外面には板目状の圧痕がある。内面のナデについては、592・622 に顕著なように布状のもので行った痕跡のあるもの、642 等にみられるように板状の工具痕を残すものがある。691 ～ 695 も大型の皿であるが、形態は大きく異なり、底部から屈曲して外方へ直線的に延びる口縁部をもつものである。651 ～ 690 は口径 7 ㎝、器高 1 ㎝程度の小型のものであるが、歪みが激しいものが多い。調整は大型のものと同じであるが、673 をはじめとして、内面のナデに工具痕を残すものが散見される。

696 ～ 704 は土師器の鍋であるが、口縁端部の形態は多様である。いずれも内に折り返した上面に強いヨコナデを施すことにより窪ませるが、その強弱により形態が異なっている。696 ～ 699 はその形態からは古相を示すが､器壁は他のものと同様に薄い。煤等の炭化物が付着するものが多くあり、使用の後に廃棄されたものであろう。

705 ～ 707 は施釉陶器、710 は瓦質土器である。707 は片口をもつ卸皿、710 は脚のみの残存の不明確なもので、鉢としたが風炉の可能性も大きい。

708・709 は陶器の鉢、711 ～ 714 は山茶椀で、前代からの混入である。

（7）ＳＫ３８０９２出土遺物（第 82 図）

出土遺物の大半が土師器皿である。図示した 715 ～ 717 は残存度の良好なもので、他に小片が多数出土している。内弯する口縁部の端部を尖らせておわるもので、口径 10.5cm、器高 2.3cm程度の大型のものである。718 は陶器の椀とした。高台はなく糸切により粘土塊から切り離されたままである。

（8）ＳＫ３８０３６出土遺物（第 82 図）

出土したものは図示した土師器皿（719）のみである。内弯する口縁部の端部を尖らせておわる大型のものである。口径 8.8cm、器高 2.5cm程度で口径ややや小さく器高がやや高いが、歪みが影響するものかも知れない。

（9）ＳＫ３７０１５出土遺物（第 82 図）

出土したものは土師器の皿のみである。内弯する口縁端部を尖らせておわる大型のものであるが、722 は内弯が弱く口径・器高ともに小さい。

(10) ＳＤ３８０２０出土遺物（第 82 図）

図示したものは土師器の皿（723）と甕（724）であるが、724 は明らかに混入である。723 は偏平な形態の小型皿であるが、図示できなかったものに内弯する口縁部をもつ大型皿の小片も出土している。

(11) ＳＤ３７０１３出土遺物（第 82 図）

混入遺物である須恵器甕（732）を除き、出土したものは全て土師器の皿である。内弯する口縁部をもつ大型のもの（725 ～ 730）と偏平な形態の小型のもの（731）がある。前者は口径・器高ともに均一を欠くが、口縁部内弯の程度は同じである。

(12) ＳＤ３８０８３出土遺物（第 82 図）

733 は土師器の皿で、内弯する口縁部を呈するものである。734 は土師器の椀と思われ、比較的高い高台が付くものと思われる。

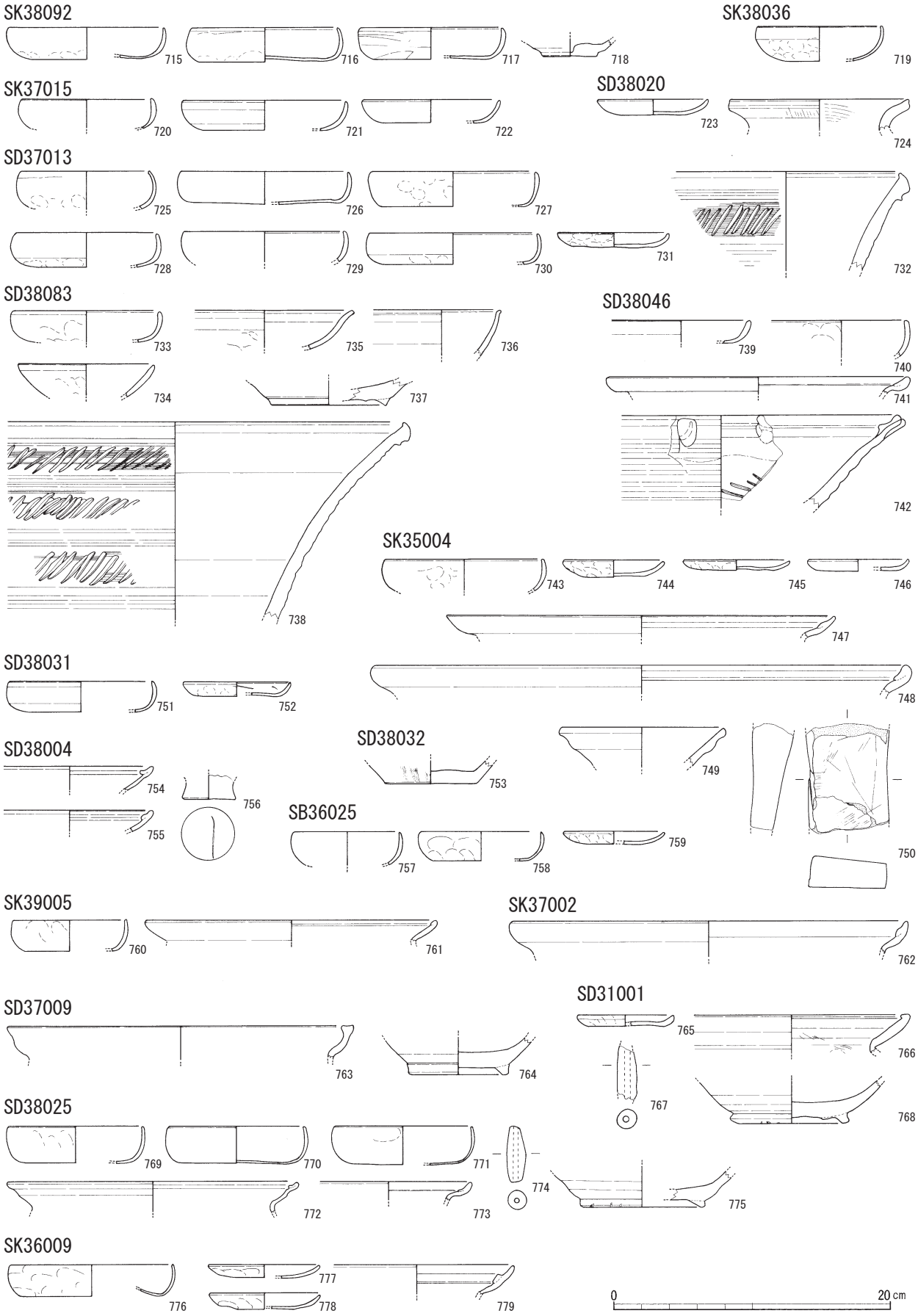
735 ～ 738 は平安時代末期以前のもので混入遺物とせざるを得ない。735 は土師器の杯、736 は刷毛塗の灰釉陶器椀、737 は山茶椀、738 は須恵器の甕である。738 の外面はカキメを施した後、鋭利な工具による斜行沈線を巡らしている。

(13) ＳＤ３８０４６出土遺物（第 82 図）

739・740 は土師器の皿で、両者とも内弯する口縁部をもつものである。しかし、739 は内弯が弱く、そのために器高を減じている。742 は小片のため不明確な部分も多いが、鉢状の形態で片口が付く。内面には卸目が刻まれ、口縁部に灰釉が施される。古瀬戸の卸目付大皿としておく。741 は土師器の鍋であるが、前代からの混入である。他に体部下半に錆釉を施した天目茶椀の小片も出土している。

(14) ＳＫ３５００４出土遺物（第 82 図）

743 ～ 746 は土師器の皿で、内弯する口縁部の大型のものと、偏平な形態の小型のものがある。747･748 は土師器の鍋で、口縁端部を内に折り返す。折り返した内上面を強くヨコナデし、凹面を形成しているが、747 のヨコナデは強く端部が上方に尖り気味に伸び上がる。748 の端部は丸く収まっており



第82図　室町時代の遺構出土遺物①（１：４）

器壁も厚い。前代からの混入であろう。749は山茶椀、750は砥石である。749の口縁部に外反はみられず、端部は外に面をもつ。

(15) ＳＤ３８０３１出土遺物（第82図）

出土したものは土師器の皿のみである。751は内弯する口縁部をもつ大型のもの、752は偏平な形態の小型のものである。752の内面には工具痕が残る。

(16) ＳＤ３８０３２出土遺物（第82図）

出土したものは山茶椀のみで、図示できたものは753のみである。高台は消失しており、外面に墨書があるが、文字の可能性は低い。また、底部外面に板の角で圧迫したような線状圧痕（写真図版33）がある。

(17) ＳＤ３８００４出土遺物（第82図）

754・755は土師器鍋の小片である。両者とも口縁端部を内に折り返すが器壁が薄くなり、外面に煤の付着が認められる。756はロクロ土師器の皿で、明らかに混入遺物である。高台を意識した粘土塊からの切り離し部分で、底部外面にヘラ描きの沈線が１条ある。

(18) ＳＢ３６０２５出土遺物（第82図）

柱穴出土遺物で、主に土師器皿が出土している。図示できたものは757～759で、大型のもの（757・758）と小型のもの（759）がある。大型のものは内弯する口縁部を呈し、小型のものは器高が低い偏平な形態を呈する。

(19) ＳＫ３９００５出土遺物（第82図）

土師器の皿や鍋が出土しているが、図示できたものは760の皿、761の鍋である。760は内弯する口縁部をもつもので、器高を保つ。

(20) ＳＫ３７００２出土遺物（第82図）

土師器の皿や鍋が出土しているが、図示できたものは762の鍋のみである。口縁端部を内に折り返している。

(21) ＳＤ３７００９出土遺物（第82図）

土師器の皿や鍋が出土しているが、図示できるものは763の鍋のみである。口縁端部は内に折り返すものの上端面を強くヨコナデし、全体的に端部が肥厚した受口状の口縁部形態を呈している。764は山茶椀で、明らかな混入遺物である。

(22) ＳＤ３１００１出土遺物（第82図）

765は土師器の皿、766は鍋、767は土錘である。765は口径6.8㎝の小型のもので、766の口縁端部は僅かに内に折り返す。768は山茶椀で、明らかに混入遺物である。

(23) ＳＤ３８０２５出土遺物（第82図）

769～771は土師器の皿で、内弯する口縁部をもつものである。器高は2.7㎝前後で深さを保っている。772・773は土師器鍋の小片、774は土錘、775は山茶椀である。775は明らかな混入遺物である。

(24) ＳＫ３６００９出土遺物（第82図）

土師器の皿と鍋が出土している。土師器皿は口縁部が内弯する大型のもの（776）と偏平な形態の小型のもの（777・778）がある。779の鍋は口縁端部を内に折り返し、その上面を強くヨコナデするもので、このために端部が上方に伸び上がる。

(25) ＳＤ３６０１７出土遺物（第83図）

780～785は土師器の皿で、内弯する口縁部をもつ大型のもの（780～783）と偏平な形態の小型のもの（784・785）がある。前者は口径が９㎝程度のもので､10㎝を超えるものはなく縮小が進んでいる。783の口縁部内面には圧痕が２ヶ所あり、乾燥時のものであろうか。787は土師器の鍋、788は羽釜である。両者とも使用の痕跡と思われる炭化物が付着するが、788の内面は摩滅が進んでおり、これも使用の痕跡かも知れない。

789は鉄釉の皿、790は灰釉の椀、791は丸瓦、792は平瓦である。瓦は両者とも小片のため不明な部分が多いが、燻不良で酸化焼成となっている。791は玉縁部分の可能性もある。

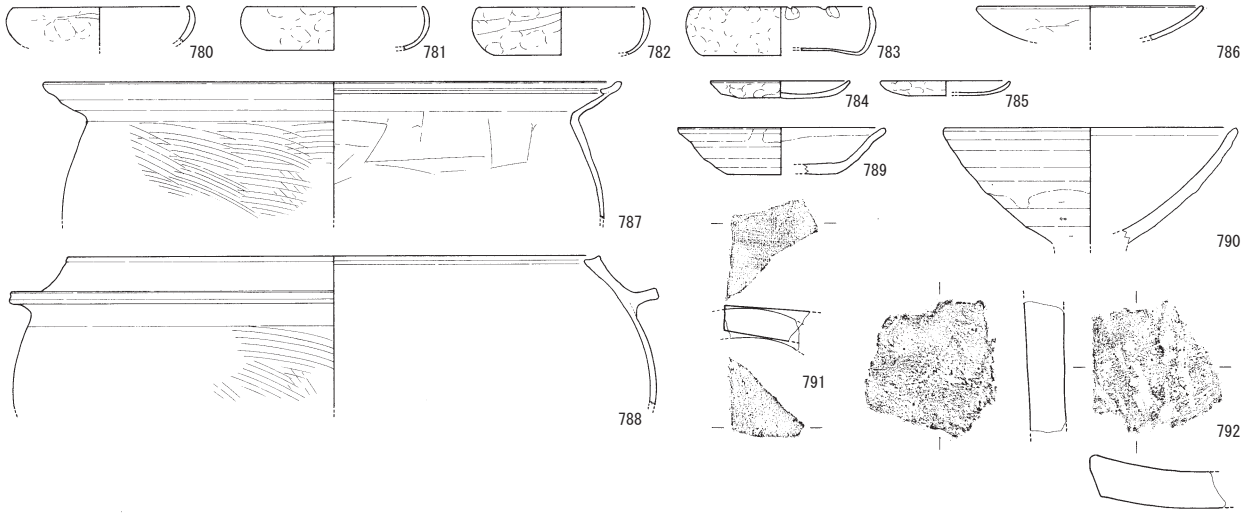
(26) ＳＤ３８０７５出土遺物（第83図）

土師器の鍋（793～797)、羽釜（798)、天目茶椀(799)、山茶椀（780～803）があるが、当時期の遺構から多数出土している土師器皿の出土がない。

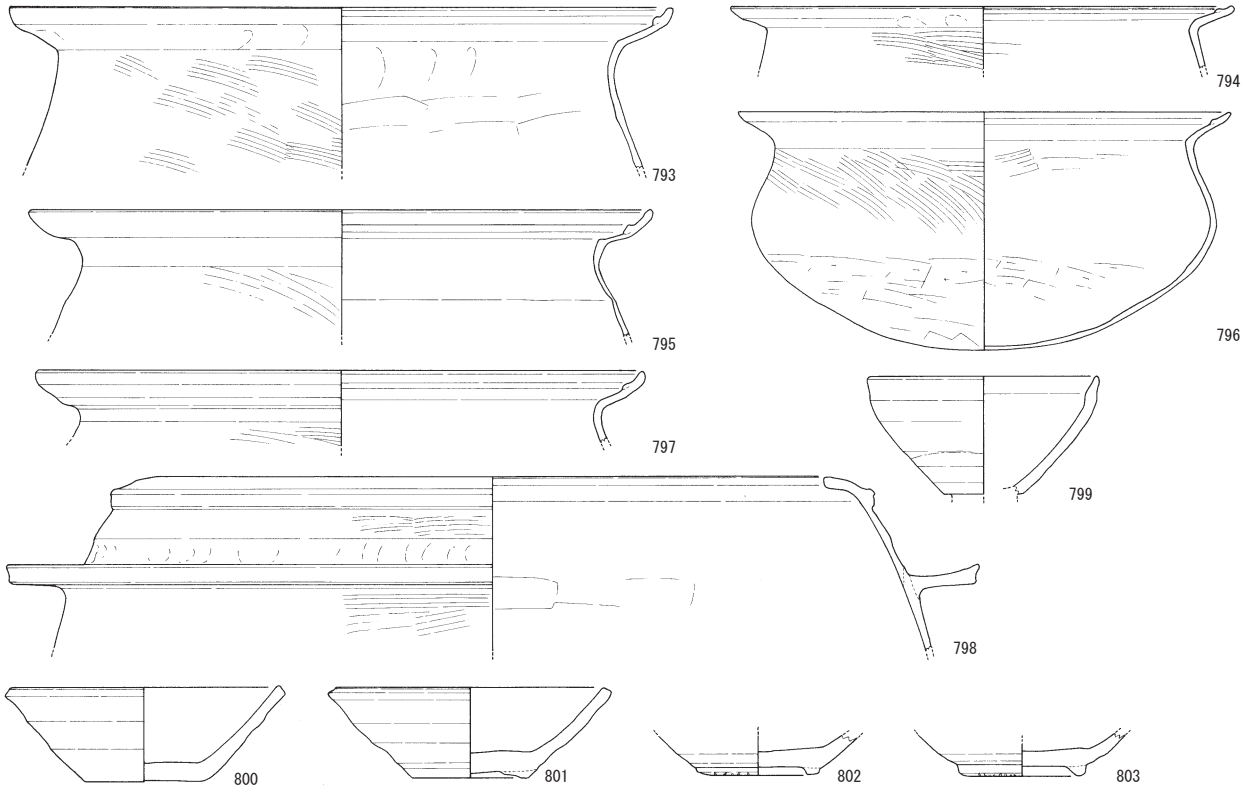
土師器鍋の口縁端部は内に折り返し、その内上面を強くヨコナデすることにより口唇部が伸び上がるものである｡羽釜を含め煤等が付着するものが多く、使用の痕跡が認められる。795のハケメは一部ヘラケズリ状となっている。また、796の外面のヘラケズリは弱く、一部ナデ状となる。

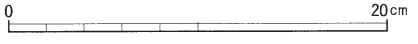
山茶椀では、800・801の残存度が高い。高台の

SD36017

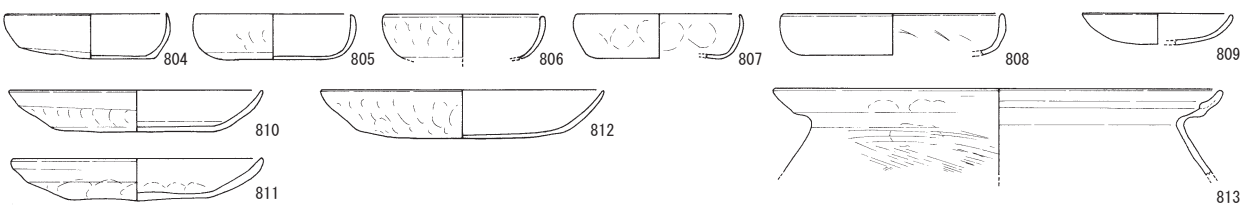


SD38075





SD38062



第83図　SD36017・38062・38075出土遺物（１：４）

有無にかかわらず、直線状の体部で口縁端部は外に面をもつ。802・803は底部片であり、交差するＳＤ38081に由来するものと考えられる。

(27) ＳＤ３８０６２出土遺物（第83図）

出土遺物の大半が土師器皿で、陶器類の出土はない。813は土師器鍋で、他に羽釜の小片も出土している。

大型の土師器皿は、内弯する口縁部をもつもの(804～808)、底部から屈曲し直線的に外方へ立ち上がる口縁部のもの（810・811）がある。前者の口径は９㎝に満たないものが大半で、口径の縮小が進んでいる。801は小型の皿であるが、器高が1.6㎝を測る深いものである。前代からの混入とも考えられるが、器壁が薄く、個体差として、大型のものと同時期としておく。

(28) ＳＤ３７００５出土遺物（第84図）

土師器皿（814～818)、山茶椀（819～823)、砥石（824)、木製の箸（825・826)、鉄の鏨（827）と多様な遺物が出土しているなかで、土師器の鍋の出土がない。

土師器の皿は大型のものと小型のもの（816）があり、大型のものには内弯する口縁部をもつもの(814・815）と直線的に外方に延びる口縁部のもの(817・818）がある。818の内面には工具痕が残り、内面のナデは工具による。

山茶椀では819・820が皿で高台はなく、器高も２㎝未満の偏平な形態である。椀（821～823）は高台をもち、体部に丸味を残す古相のものである。混入遺物とすべきか。823の底部外面には墨書があり、「八十八」と読めなくもない。

(29) ＳＤ３５００６出土遺物（第84図）

出土遺物は少なく土師器の皿のみで、828は唯一図示できるものである。内弯する口縁部をもつ大型の皿である。

(30) ＳＥ３８０４０出土遺物（第84図）

完掘できなかったこともあり､出土遺物は少ない。土師器の皿・鍋、青磁、施釉陶器の小片があるが、図示できたものは土師器鍋（829）のみである。

(31) ＳＤ３６０１３出土遺物（第84図）

土師器の皿（830～832)・鍋（833)、須恵器の杯(834)、山茶椀（835・836）がある。832～836のうち、836は明らかに混入遺物、他のものも前代からの混入としたが、混入遺物の方が多い結果となった。831は内弯する口縁部をもつ土師器皿であるが、口径は８㎝未満まで縮小している。830は内弯が緩慢なものであるが、口径に対する器高は低い。。

(32) ＳＤ３６０２０出土遺物（第84図）

図示できるものは施釉陶器（837）のみであるが、他に土師器の皿や鍋の小片が出土している。837は鉄釉を施す壺としたが、内面にも施釉があり、鉢とすべきかも知れない。

(33) ＳＢ３８０６７出土遺物（第84図）

掘立柱建物の柱穴出土遺物で図示できたものである。838・839は土師器の皿であるが形態は異なり、838が内弯、839は弱い屈曲を伴い外方へ延びる口縁部である。840は鍋、841は羽釜の小片、842は山茶椀で前代からの混入である。

(34) ＳＫ３９００３出土遺物（第84図）

土師器の鍋や茶釜が出土しているが、図示できたものは843の茶釜である。844は土師器の甕でＳＲ39016からの混入であろう。

(35) ＳＤ３６００１出土遺物（第84図）

845は土師器の皿、846は鍋、847・848は山茶椀である。山茶椀の口縁部は両者で異なり、848は端部の外反傾向を残している。846とともに前代からの混入と思われる。

(36) ＳＤ３８０７２出土遺物（第84図）

土師器皿の小片も出土しているが、図示できたものは陶器の鉢である。いずれも常滑と考えられ、849には片口が付く。

(37) ＳＥ３８０４７出土遺物（第84図）

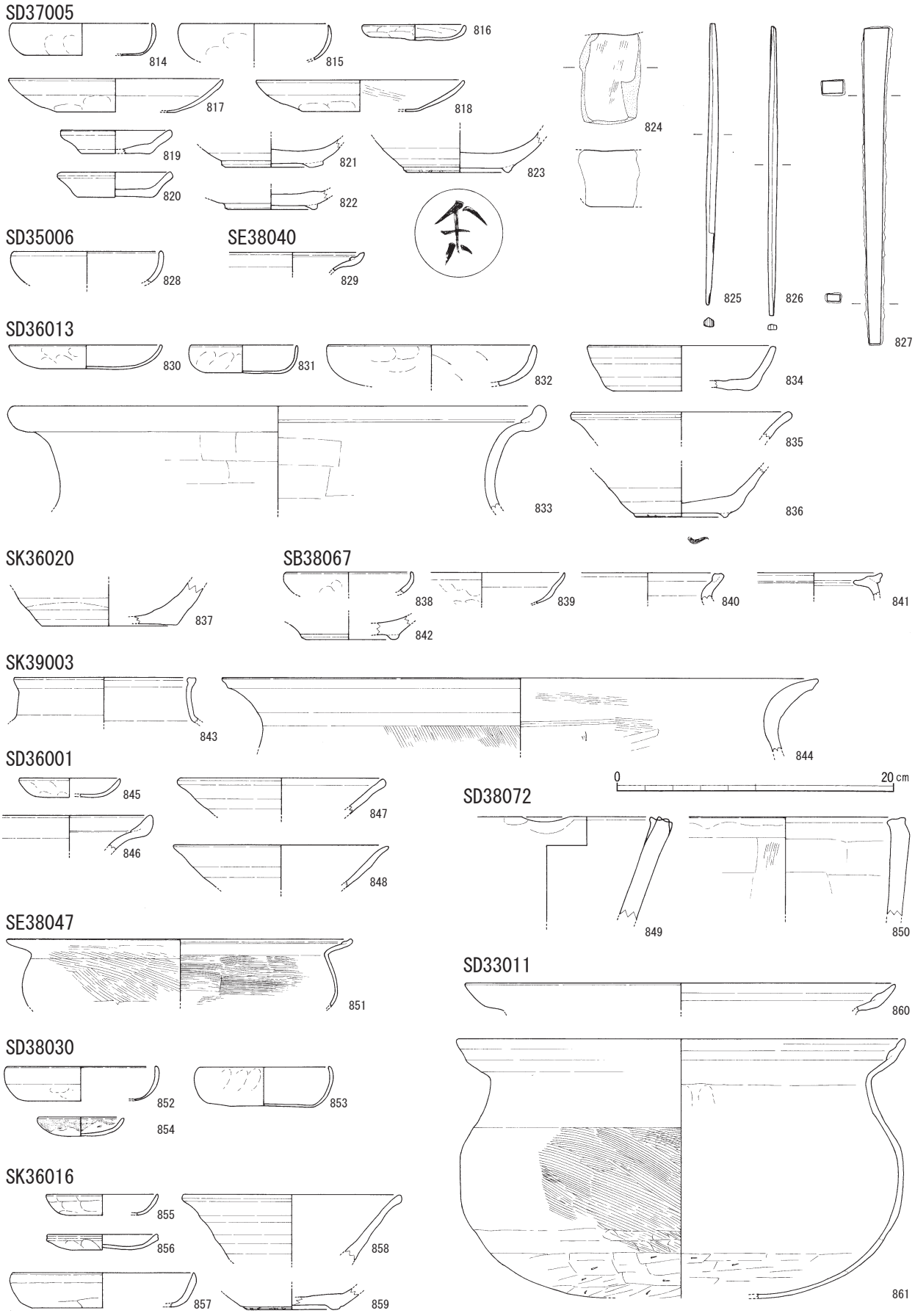
土師器の皿も出土しているが、図示できたものは土師器の鍋(851)のみである。内面のハケメは浅く、ナデにちかい。

(38) ＳＤ３８０３０出土遺物（第84図）

出土した遺物は全て土師器の皿である。852・853は内弯する口縁部をもつ大型のもの、854は小型のものであるが、器高は比較的高い。854には内外面に油煙が厚く付着し、灯明皿として長く使用されていたようである。

(39) ＳＫ３６０１６出土遺物（第84図）

855～857は土師器の皿、858・859は山茶椀であ



第84図　室町時代の遺構出土遺物②（１：４）

る。他に土師器鍋の小片も出土している。

855 は内弯する口縁部をもつものであるが、内弯は緩慢で口径も８cmにまで縮小している。857 も同様なものであるが、口径が大きく器壁も厚い。859 は高台をもち、858 の体部は直線的であるものの口縁端部に外反傾向を残している。これらは 857 とともに前代からの混入と考えられる。

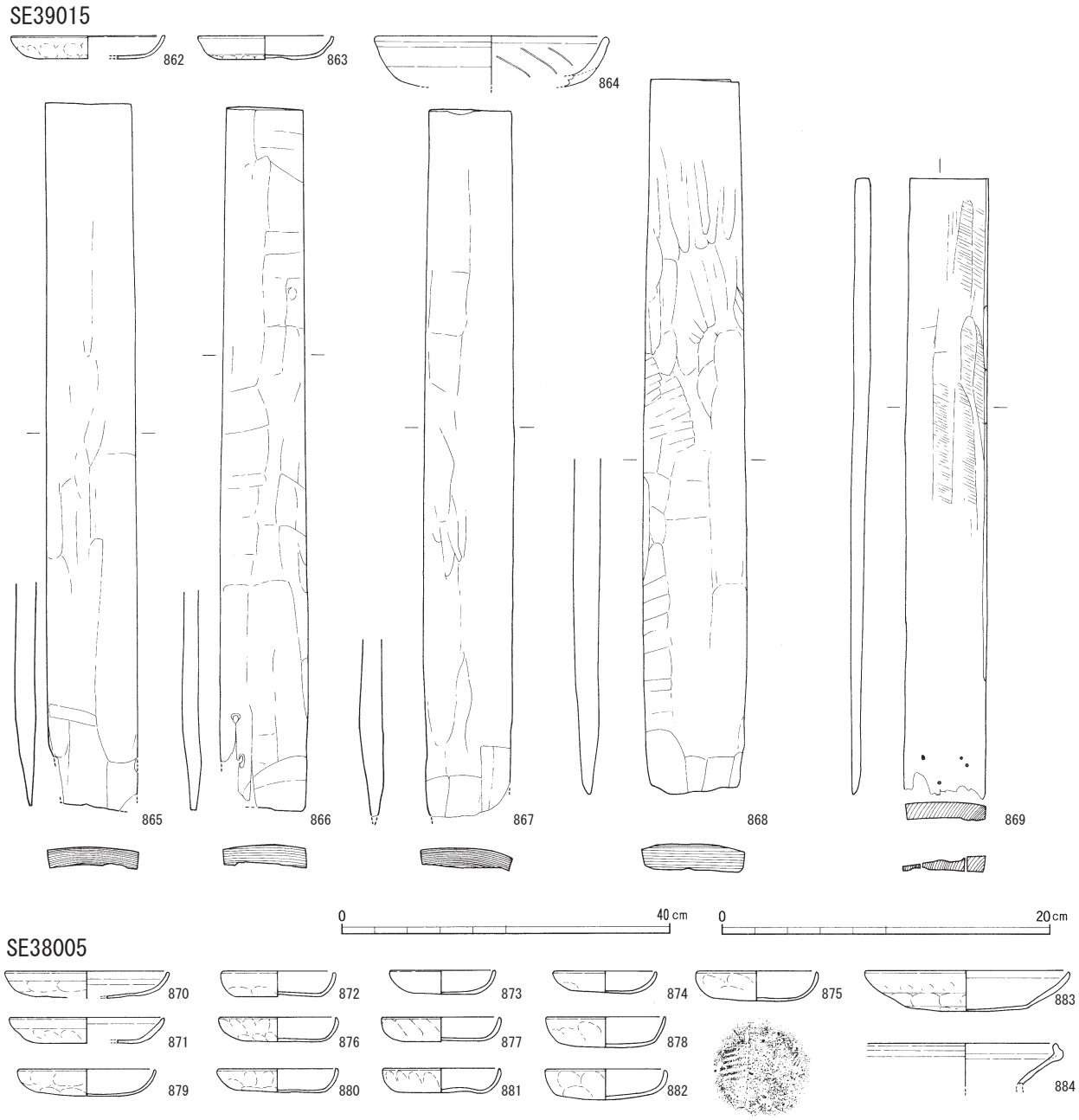
(40) ＳＤ３３０１１出土遺物（第 84 図）

出土遺物は土師器の鍋（860・861）のみである。861 は残存度が比較的高いものであるが、口縁部と体部は接合できなかった。このため図示したものは合成図である。内外面に煤が付着し、使用の痕跡を示している。

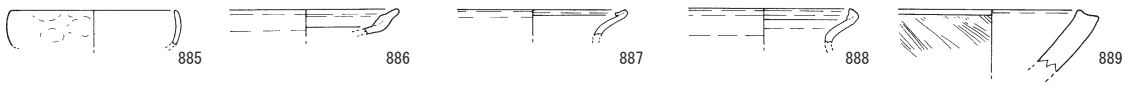
(41) ＳＥ３９０１５出土遺物（第 85 図）

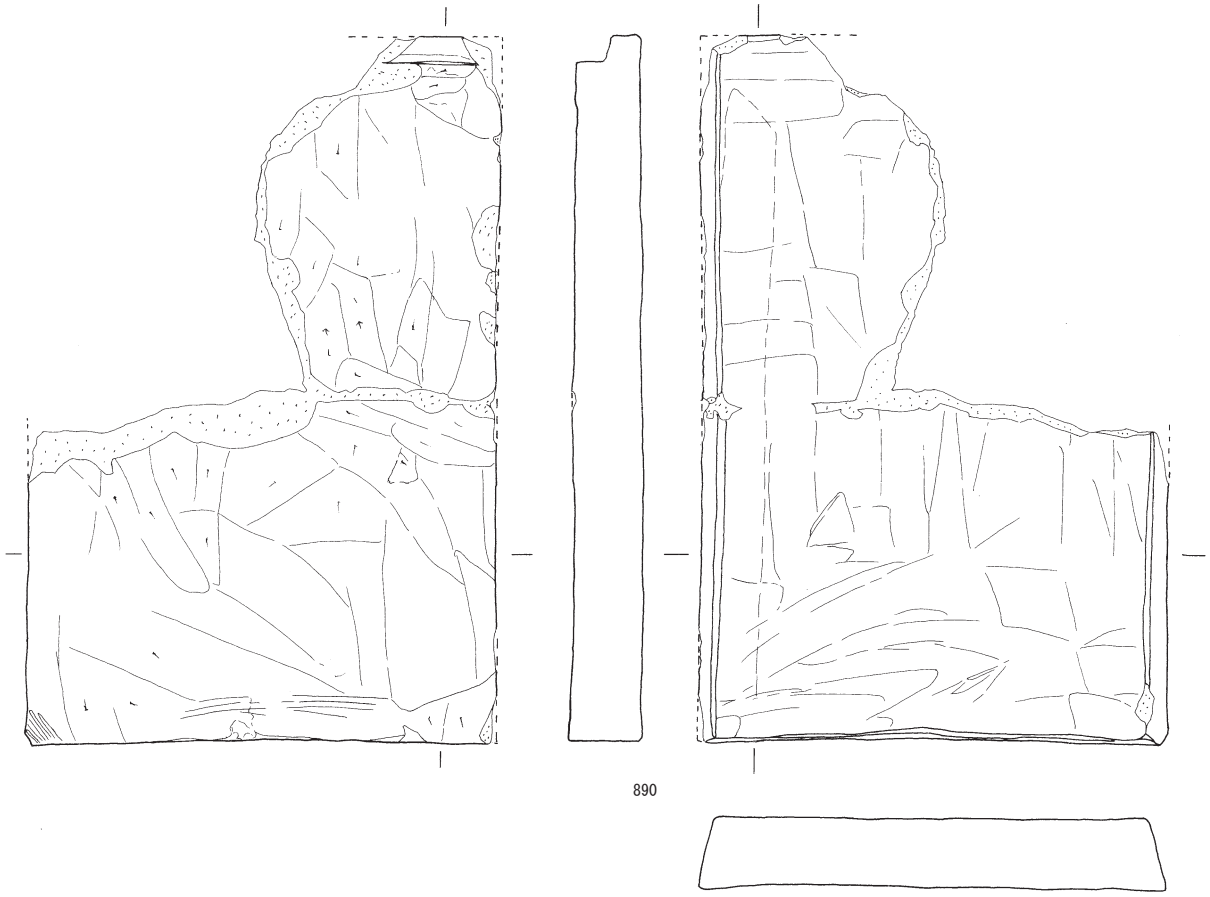
井戸からの出土ではあるが、小片が多い。図示できたものは土師器の杯・皿である。他に土師器鍋や陶器の小片が出土している。864 は暗文を施す土師器杯で、明らかに混入遺物である。

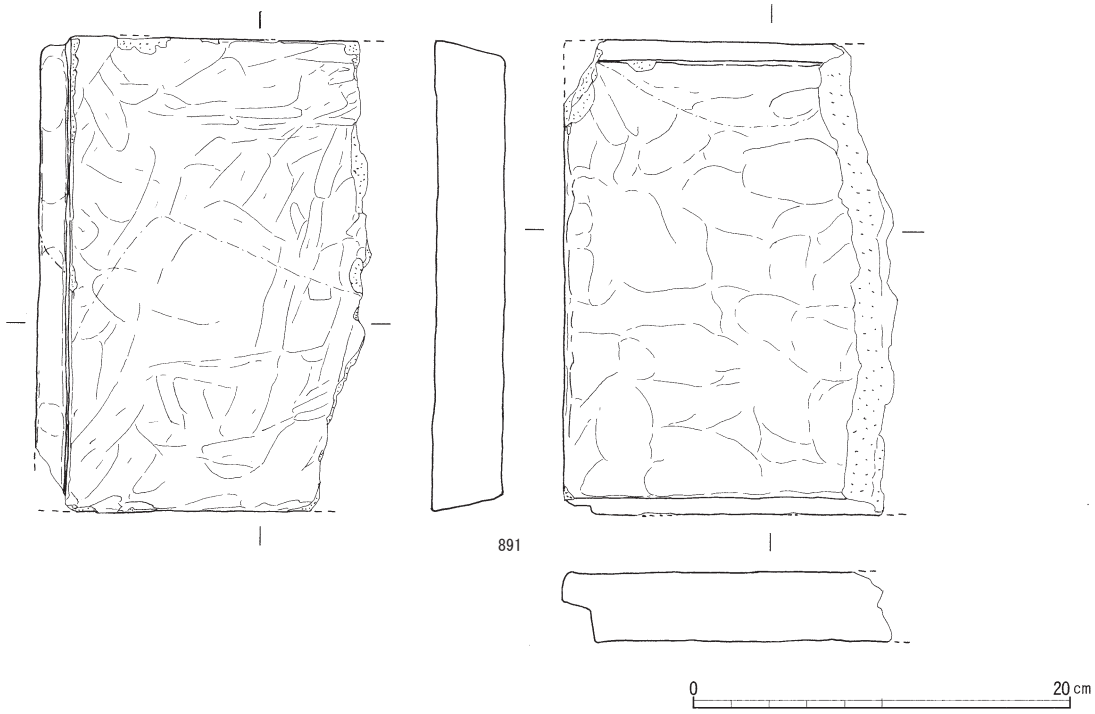
862・863 は土師器の皿で、内弯する口縁部をもつものであるが、内弯は緩慢となり、口径・器高と



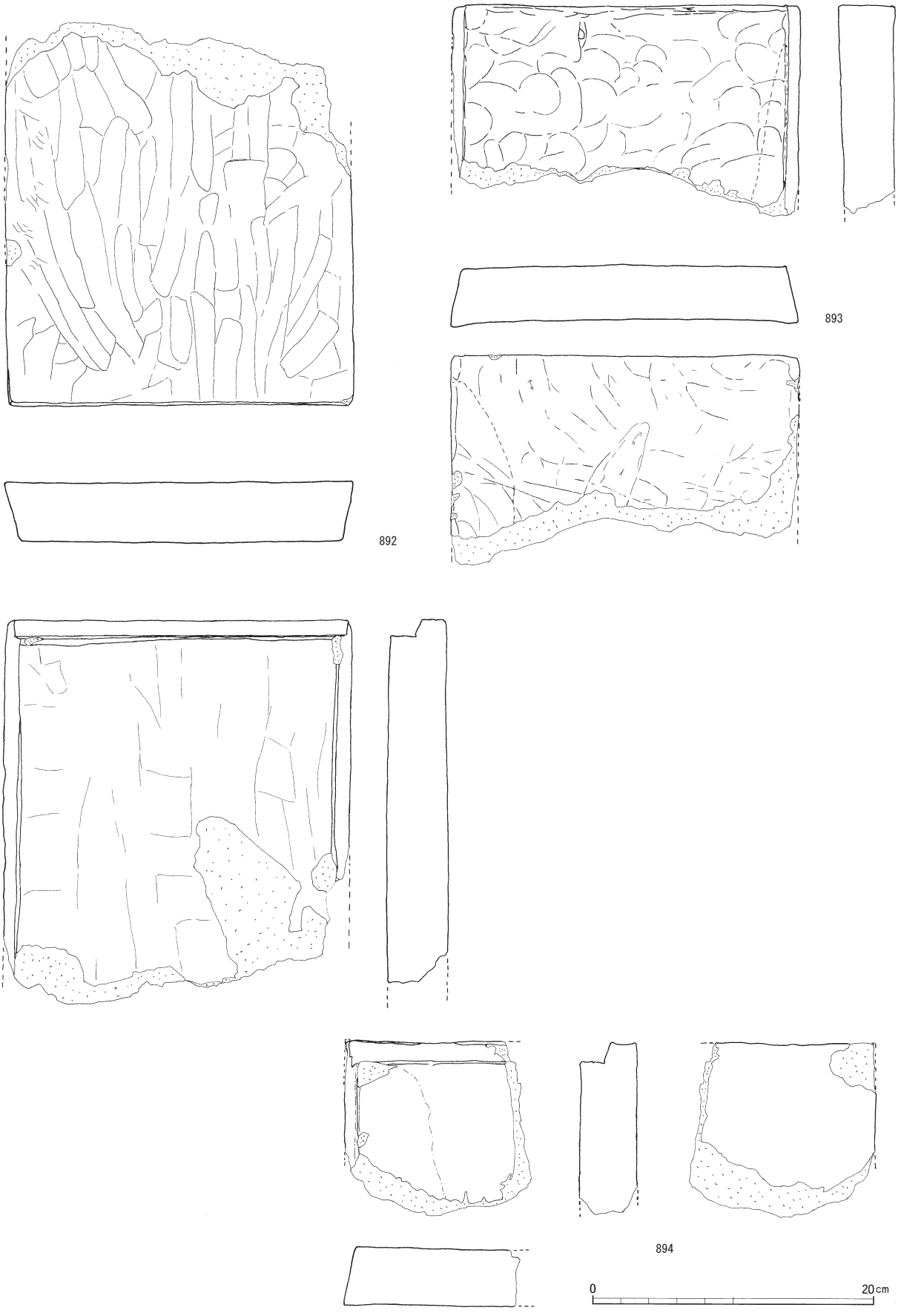
第85図　SE38005･39015出土遺物（865 ～ 869 ＝１：８、他は１：４）



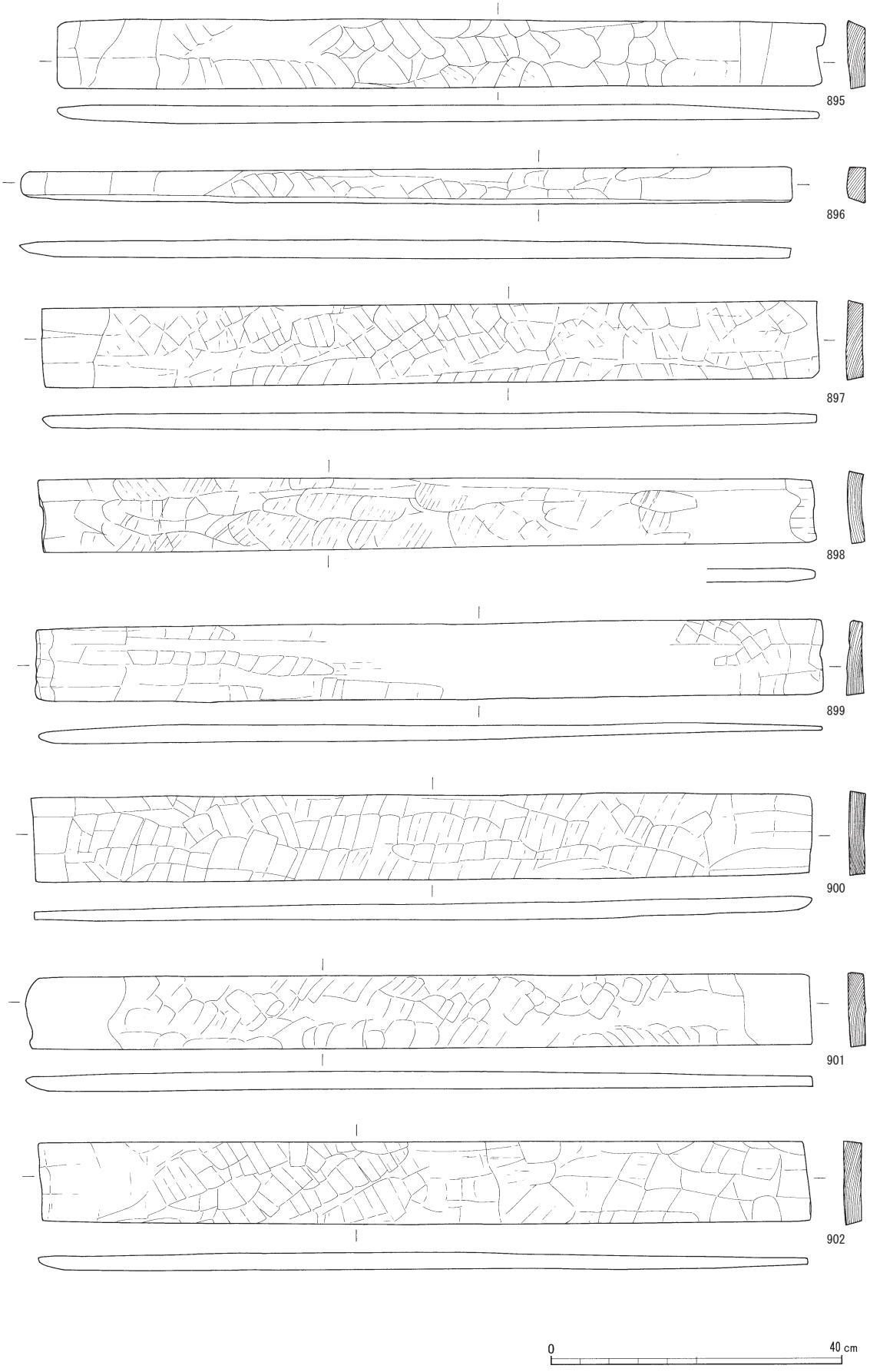




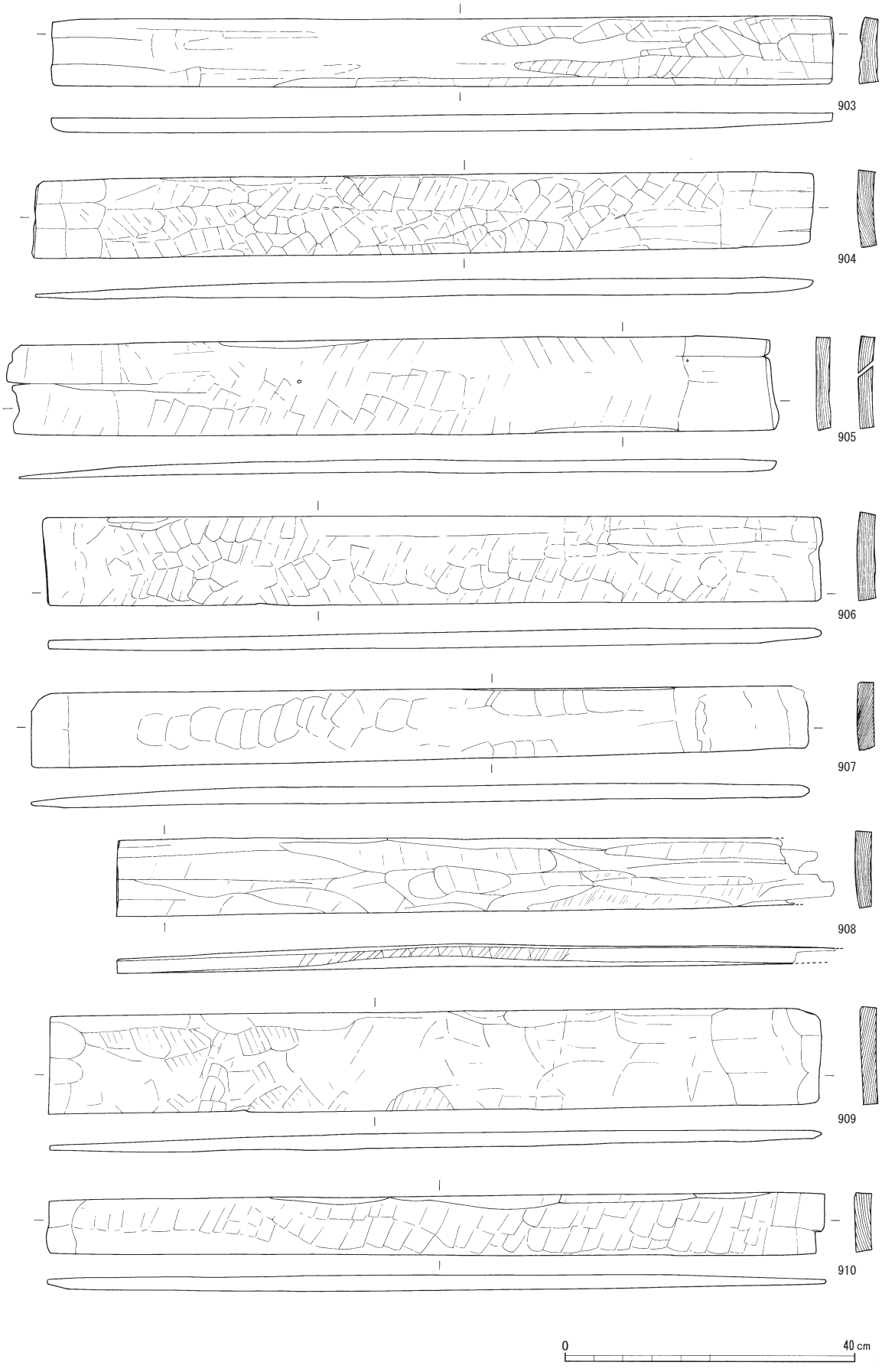
第86図　SE38001出土遺物①（１：４）



第87図　SE38001出土遺物②（１：４）



第88図　SE38001出土遺物③（１：８）



第89図　SE38001出土遺物④（１：８）

もに縮小している。865 ～ 869 は井戸枠として使用されていた板材で、全てアスナロ属である。表面に槍鉋や手斧の痕跡を残すものもあり、全てのものが先端を杭状に尖らせている。869 は転用材であることが明らかで、先端付近に木釘穴と思われる孔が多数あり、未貫通のものを含む。

(42) ＳＥ３８００５出土遺物（第 85 図）

出土遺物の大半が土師器の皿で、しかも残存度の良好なものが多い。870 ～ 882 は内弯する口縁部をもつものであるが、870・871 は内弯が緩慢で口径も大きい。872 ～ 882 は口径が 7 ㎝前後にまで縮小している。このためか、偏平な形態の小型皿の出土はない。883 は底部から屈曲して蛇行を伴いながら外方へ伸びる口縁部をもつ大型の皿である。884 は土師器鍋の小片であるが、口縁端部を内に折り返し断面三角形状を呈するものである。875 の底部外面には巻き簾状の圧痕（写真図版 24）がある。巻き簾状のものに乗せて製作または乾燥させた結果であろう。

(43) ＳＥ３８００１出土遺物（第 86 ～ 90 図）

土師器の皿（885）、鍋（886 ～ 888）、陶器の鉢（889）があるが、いずれも小片である。ただし、磚（890 ～ 894）が多く出土している。

土師器皿は内弯する口縁部をもつものである。鍋の口縁端部はいずれも内に折り返すが、端部の形状は３者３様である。

磚は瓦質であるが、一部に燻不良のものがみられる。左右両側面はやや斜行に切り落とし、残る２面のうち少なくとも１面には切り欠きを設け、連結面の重ね代としている。

895 ～ 913 は井戸枠を構成した板材で、全てコウヤマキである。表面には手斧痕が残り、先端を杭状に尖らしている。

(44) ＳＥ３８０８２出土遺物（第 91・92 図）

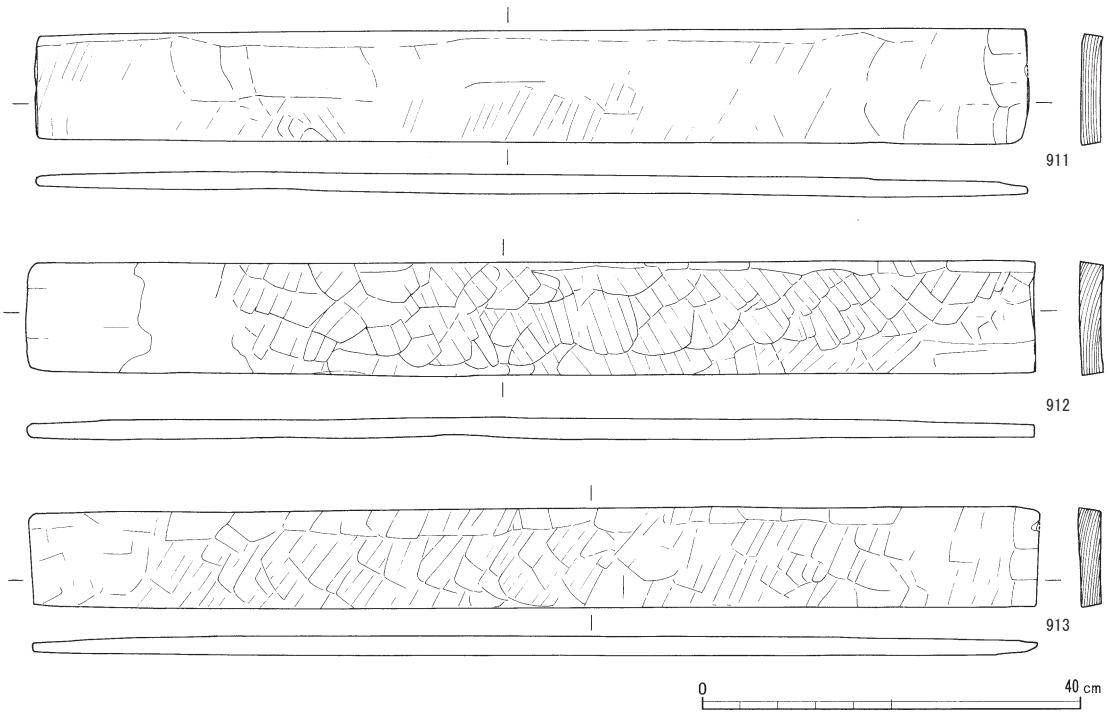
土師器皿や鍋が出土しているが、小片のため図化できたものは鍋の 924 のみである。しかし、土師器皿とは時期差があり、掘形出土も考慮に加え、混入遺物とした。

914 ～ 923 は井戸枠を構成していた板材である。腐食のため不明確なものも多いが、厚さ３㎝前後、長さ 180㎝程度のしっかりした材であるが、幅は 15 ㎝以下と細い。表面には手斧や槍鉋痕があり、樹種はコウヤマキである。

(45) ＳＥ３８００６出土遺物（第 93 図）

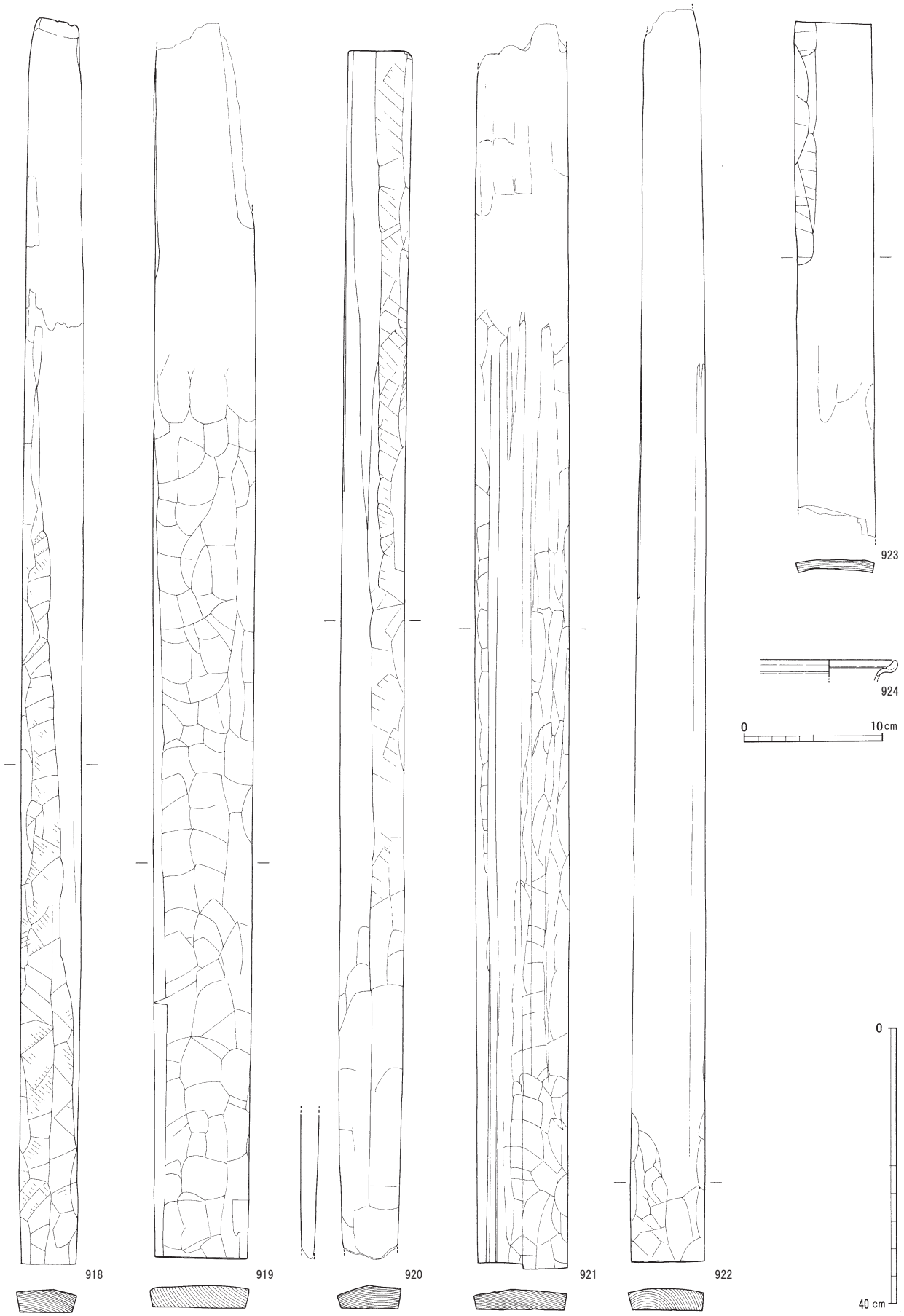
土師器皿（925・926）・鍋（927・928）、陶器の甕（929）があり、他に陶器鉢の小片もある。

土師器皿は両者とも内弯する口縁部をもつもので



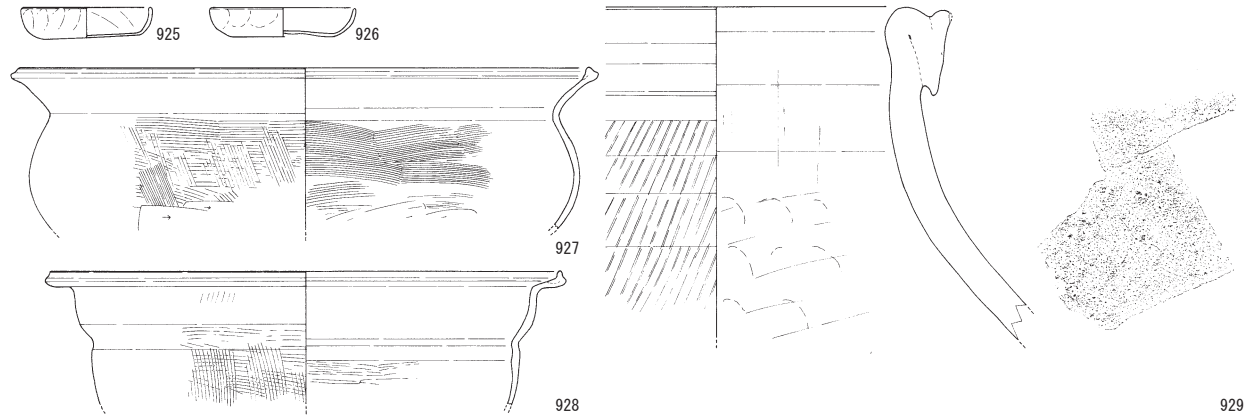
第90図　SE38001出土遺物⑤（１：８）

第91図　SE38082出土遺物①（１：８）

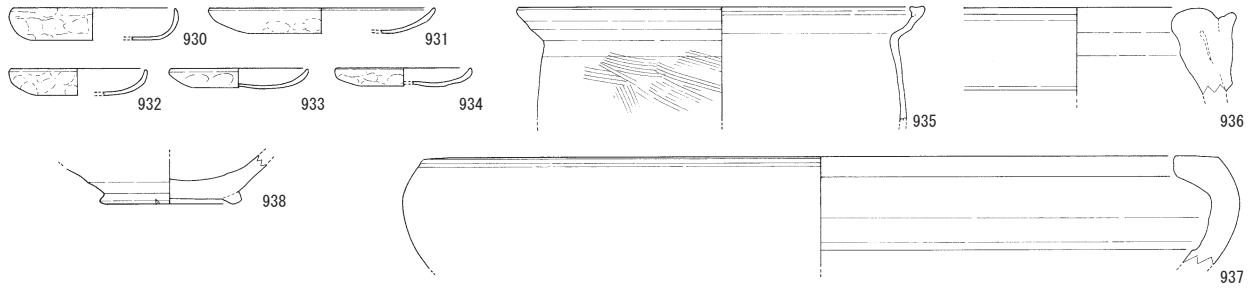


第92図　SE38082出土遺物②（918 ～ 923 ＝ 1 ： 8、924 ＝ 1 ： 4）

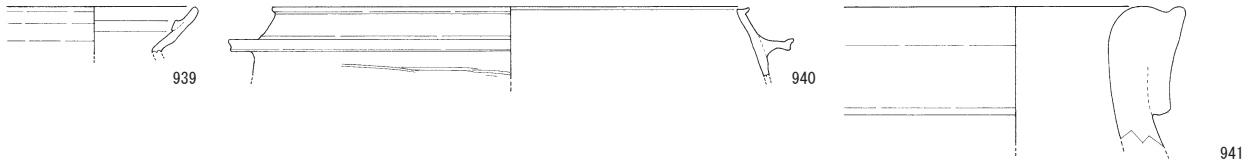
SE38006



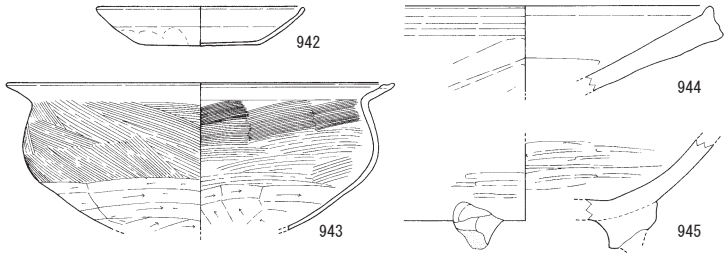
SK36011



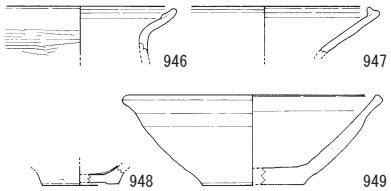
SE38064



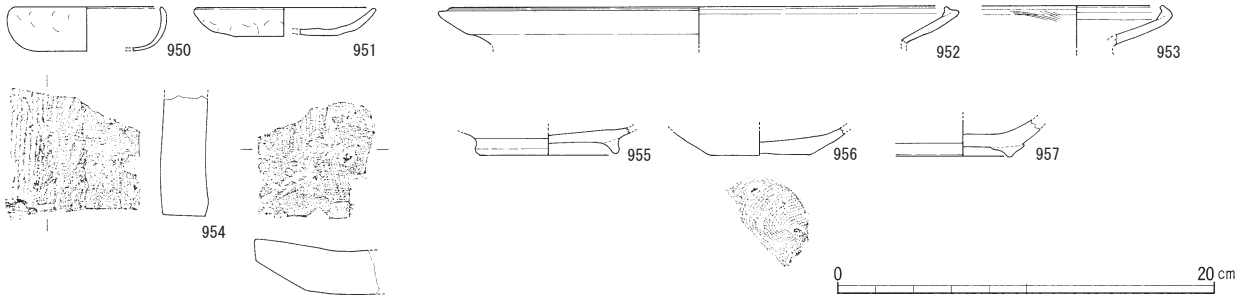
SK38013



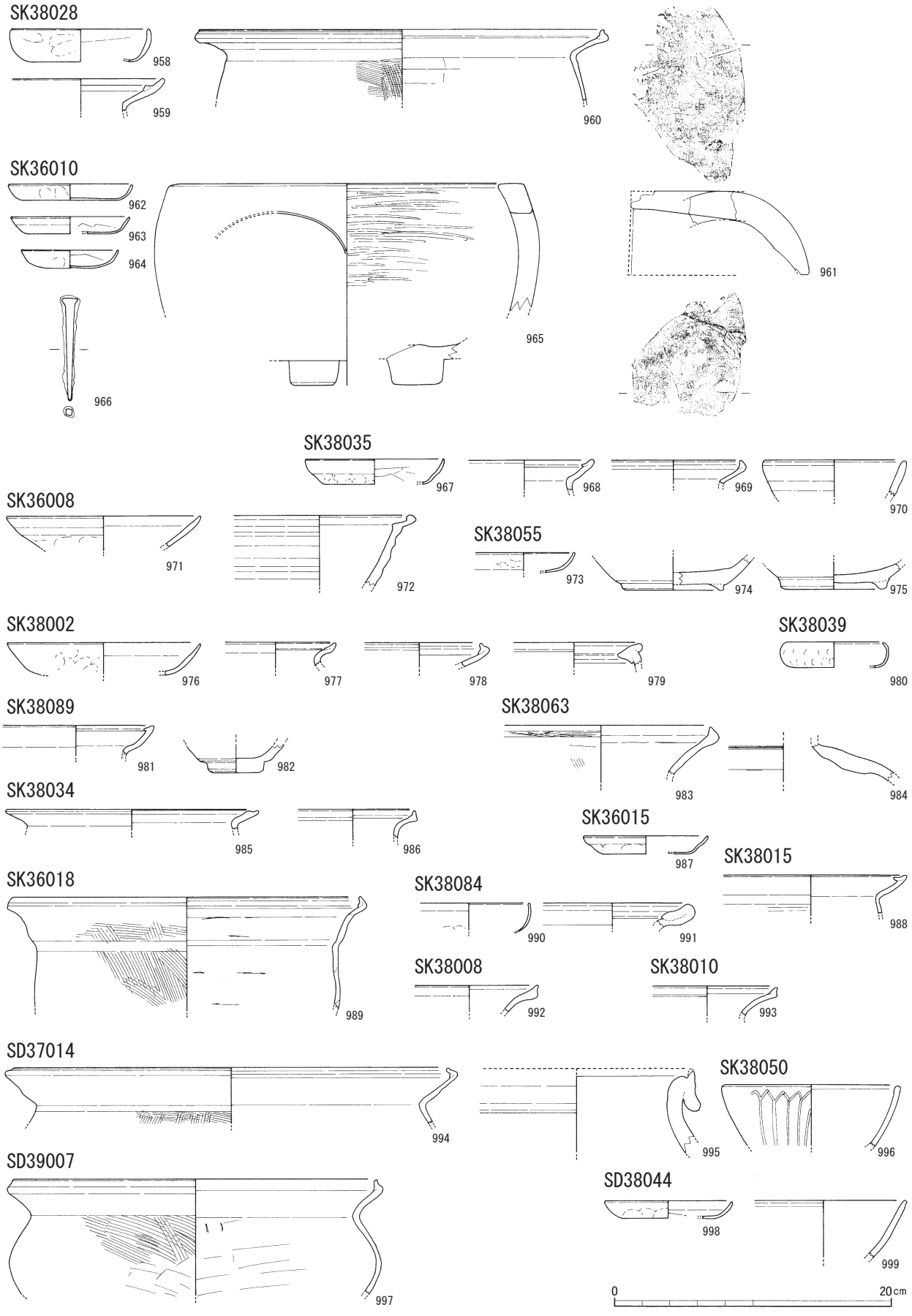
SK38069



SE38041



第93図　室町時代の遺構出土遺物③（１：４）



第94図　室町時代の遺構出土遺物④（１：４）

あるが、口径は８㎝未満に縮小している。内面のナデには工具痕を残す。鍋は、両者で形態が異なるが、口縁端部は両者とも断面三角形を呈する。陶器甕は小片のため全体の形状は不明であるが、頸部外面には弱いタタキの痕跡を残す。内面には記号のようにも見える「×」の浅い線刻がある。

(46) ＳＫ３６０１１出土遺物（第 93 図）

930 ～ 934 は土師器の皿である。930 は内弯する口縁をもつものであるが、口径は８㎝程度まで縮小している。932も同様な口縁部をもつものと思われるが、内弯が緩慢で、後述するものとの形態差が小さい。931 ～ 934 は偏平な形態の小型の皿である。口径は７㎝程度であるが、931 は口径 11.8㎝を測る。しかし、小片からの復元のため疑問も残るものである。

935 は口縁端部が断面三角形を呈する土師器の鍋、936 は陶器の甕、928 は瓦質土器の鉢の口縁部片で、脚が付く浅鉢と考えられる。

(47) ＳＥ３８０６４出土遺物（第 93 図）

土師器の皿・鍋・羽釜、陶器の甕が出土しているが、いずれも小片で、土師器の皿は図示できるものがない。

939 は土師器の鍋、940 は羽釜、941 は陶器の甕である。939 は口縁端部を内に折り返すが、内端面を強くヨコナデするため口唇部が伸び上がる。羽釜とともに使用による煤の付着が認められる。

(48) ＳＫ３８０１３出土遺物（第 93 図）

942 は底部から屈曲して外方に立ち上がる口縁部を呈する土師器の皿、943 は鍋、944 は陶器の捏鉢、945 は瓦質土器の小片である。945 はおそらく３脚になるものと思われ、奈良火鉢とされる浅鉢である。

(49) ＳＫ３８０６９出土遺物（第 93 図）

土師器の皿・鍋、山茶椀等が出土しているが、小片が多く、時期差がある。

946・947 は土師器鍋の小片であるが、口縁端部の形態は両者で異なり、947 は断面三角形を呈する。948 は天目茶椀の底部片であるが錆釉は施されず、露胎である。949 は山茶椀であるが、高台を貼り付けていない。最も残存度の高い遺物である。

(50) ＳＥ３８０４１出土遺物（第 93 図）

比較的多くの遺物が出土しているが、図示できるものは少なく、混入遺物も多い。

950・951 は土師器の皿、952・953 は鍋である。鍋の口縁端部は断面三角形を呈し、950 の土師器皿は内弯する口縁部を呈するが、口径は８㎝未満に縮小している。951 は偏平な形態の小型皿であるが、口径が大きく器壁も厚く、古相を示す。

954 は平瓦片で燻は掛けられていない。955 は山茶椀と迷うが灰釉陶器としておく。956 はロクロ土師器、957 は山茶椀で、これらは混入遺物である。

(51) ＳＫ３８０２８出土遺物（第 94 図）

958 は土師器の皿で、内弯する口縁部を呈する。口径は 9.8㎝を測るが器壁は薄い。959・960 は土師器の鍋、961 は丸瓦の小片である。鍋の口縁端部形態は両者で異なるが、960 は断面三角形を呈する。

(52) ＳＫ３６０１０出土遺物（第 94 図）

962 ～ 964 は土師器の皿である。964 は内弯する口縁部を呈するものであるが、口径は 7.0㎝しかない。963 は内弯とするより外傾にちかい形態である。底部外面に板状の圧痕がある（写真図版 27）。962 は橙色を呈し、近代に下るかも知れない。965 は瓦質土器、966 は鉄製品の釘である。965 は楕円形の窓が設けられていることから風炉であろう。脚の小片は接合できなかったものの同一個体と考えられるものである。

(53) ＳＫ３８０３５出土遺物（第 94 図）

967 は土師器の皿で、底部から屈曲して蛇行気味に立ち上がる口縁部を呈するものである。968・969 は土師器の鍋、970 は天目茶椀である。969 の口縁端部は断面三角形を呈する。970 の口縁部には屈曲がなく、そのまま丸く収まり、天目茶椀とするに疑問も残る。

(54) ＳＫ３６００８出土遺物（第 94 図）

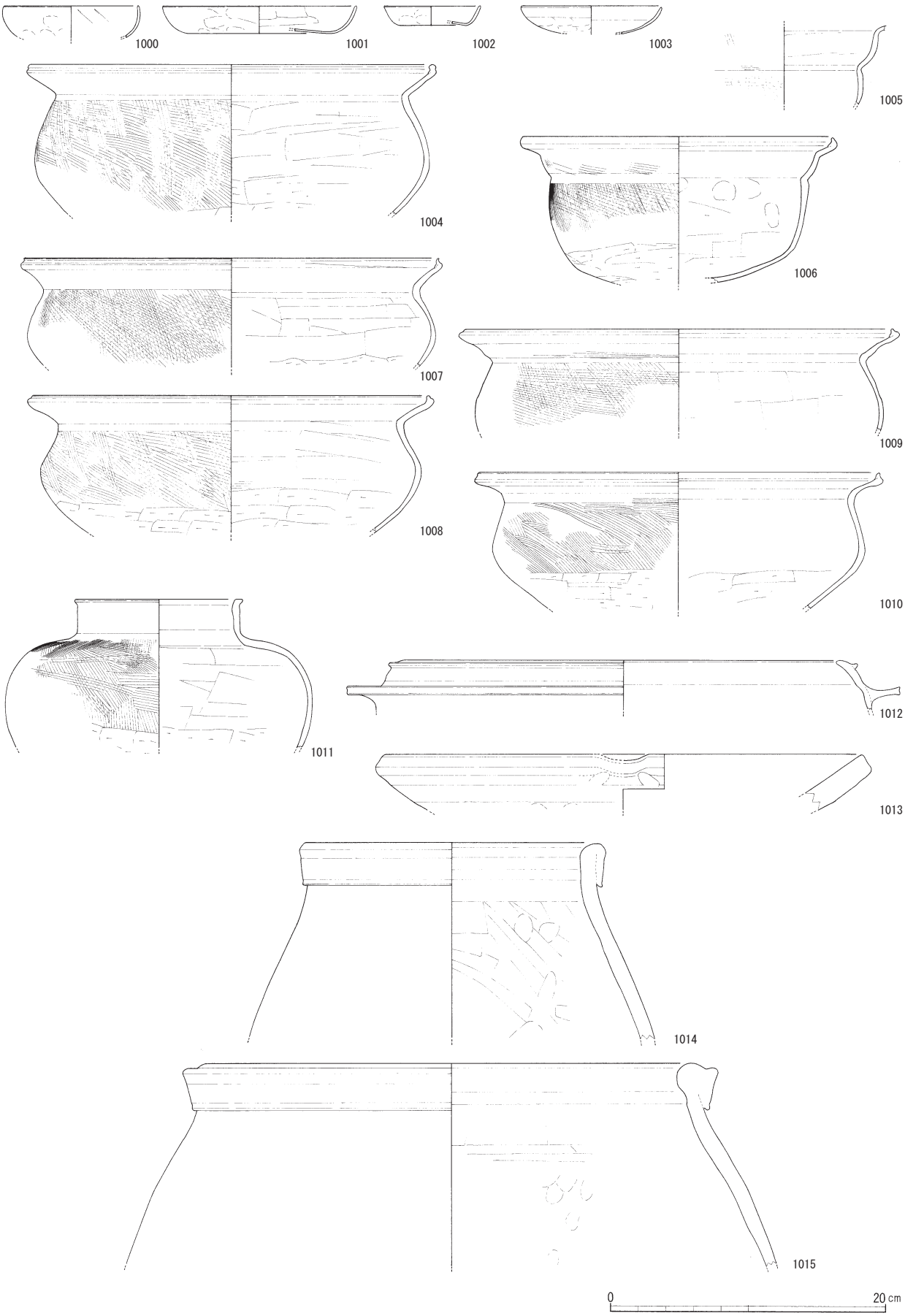
土師器の皿や施釉陶器が出土しているが、図示できたものは土師器の皿（971）、古瀬戸の鉢（972）である。971 は底部から直線的に外方へ立ち上がる口縁部を呈し、972 には片口が付くものと考えられる。

(55) ＳＫ３８０５５出土遺物（第 94 図）

土師器の皿が一定量出土しているが、図示できるものは 973 のみである。内弯する口縁部であるが、内弯は緩慢である。974・975 は山茶椀で、混入遺物である。

(56) ＳＫ３８００２出土遺物（第 94 図）

976 は土師器の皿で、底部から屈曲して外方に直線的に開く口縁部を呈する。口径 13.7㎝を測る大型



第95図　SD38011出土遺物（１：４）

のものである。977・978は土師器鍋、979は羽釜の小片である。978は口縁端部が断面三角形を呈し、977と異なる。しかし器壁は両者とも薄い。

(57) ＳＫ３８０３９出土遺物（第94図）

土師器の皿・鍋・羽釜、陶器片が出土しているが、図示できるものは980の土師器皿のみである。内弯する口縁部を呈するもので、口径は7㎝まで縮小している。

(58) ＳＫ３８０８９出土遺物（第94図）

土師器の皿・鍋・羽釜、天目茶椀が出土しているが、図示できたものは土師器の鍋(981)と天目茶椀(982)である。981の口縁端部は断面三角形を呈するが、内に傾斜している。982の体部下半外面は露胎となる。

(59) ＳＫ３８０６３出土遺物（第94図）

983は土師器の鍋、984は灰釉陶器で、両者とも小片である。他に土師器皿の小片も出土している。983は断面三角形を呈する口縁端部である。984は小片のため不明確であるが、肩部に4本の平行沈線を施す壺とした。混入遺物となるが、古瀬戸の可能性も残る。

(60) ＳＫ３８０３４出土遺物（第94図）

土師器の皿・鍋、青磁が出土しているが、いずれも小片であり、図示できたものは985と986に止まる。両者とも土師器の鍋であるが、986が断面三角形を呈するのに対し、985は異形である。小片からの図化のため不正確な部分もあると思われるが、口縁部の傾斜によっては茶釜の可能性もある。

(61) ＳＫ３６０１５出土遺物（第94図）

土師器の皿や鍋が出土しているが、図示できるものは987のみである。978は土師器の皿で、底部から屈曲して蛇行気味に立ち上がる口縁部を呈するが、器高や口径は縮小している。

(62) ＳＫ３８０１５出土遺物（第94図）

図示できたものは988の土師器鍋のみである。口縁端部を内に折り返すが、その断面形は三角形を呈するに至らない。他に土師器皿の小片も出土している。

(63) ＳＫ３６０１８出土遺物（第94図）

土師器鍋のみが少量出土しているため、図示できるものは989のみである。頸部の屈曲が皆無にちかい形態であるが、口縁端部は断面三角形を呈している。

(64) ＳＫ３８０８４出土遺物（第94図）

990は土師器の皿、991は鍋であるが、991は器壁も厚く、前代からの混入遺物である。981は内弯する口縁部を呈するが、器壁は限界的に薄い。

(65) ＳＫ３８００８出土遺物（第94図）

出土遺物は土師器鍋小片のみで、図示できたものは992である。口縁端部は断面三角形を呈する。

(66) ＳＫ３８０１０出土遺物（第94図）

土師器の皿・鍋、陶器が出土しているが、図示できたものは土師器鍋の993のみである。口縁端部は断面三角形を呈する。

(67) ＳＤ３７０１４出土遺物（第94図）

994は土師器の鍋、995は陶器の甕である。994の口縁端部は断面三角形を呈するが、995の縁帯は口縁部から離れている。後者は小片でもあり、混入遺物として扱う。

(68) ＳＫ３８０５０出土遺物（第94図）

出土したものは996の青磁椀のみで、他は前代からの混入遺物の小片である。996の外面は連弁文で装飾されるが、連弁は細弁である。

(69) ＳＤ３９００７出土遺物（第94図）

土師器の皿・鍋が出土しているが、図示できたものは997の土師器鍋のみである。口縁端部は断面三角形を呈し、体部内面のナデは工具痕を残す。

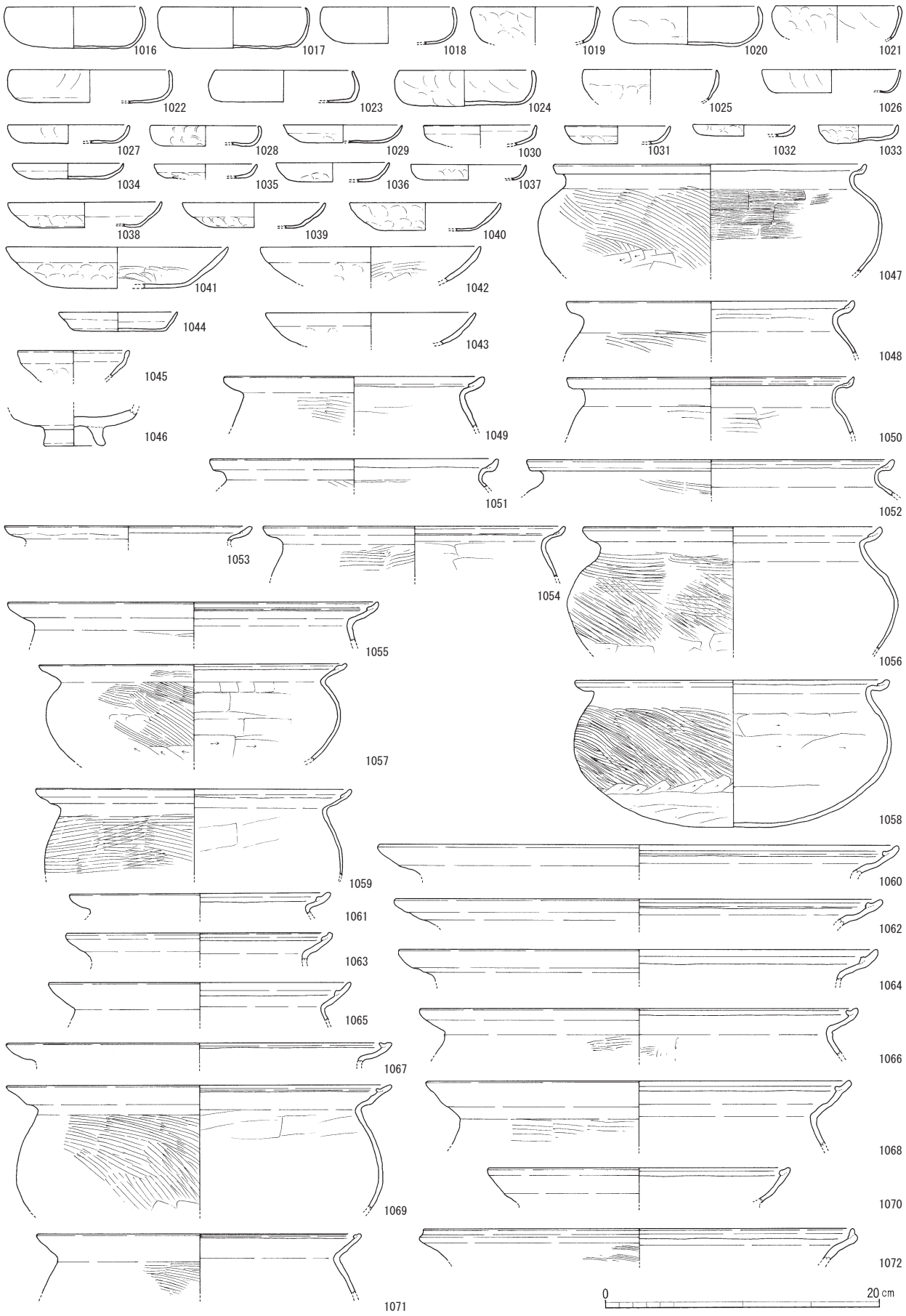
(70) ＳＤ３８０４４出土遺物（第94図）

比較的多くの土師器皿が出土しているが、小片が多く、図示できたものは998のみである。内弯する口縁部をもつものであるが、内弯は緩慢で器高を減じている。内面のナデに工具痕を残す。他に青磁椀(999)が出土している。

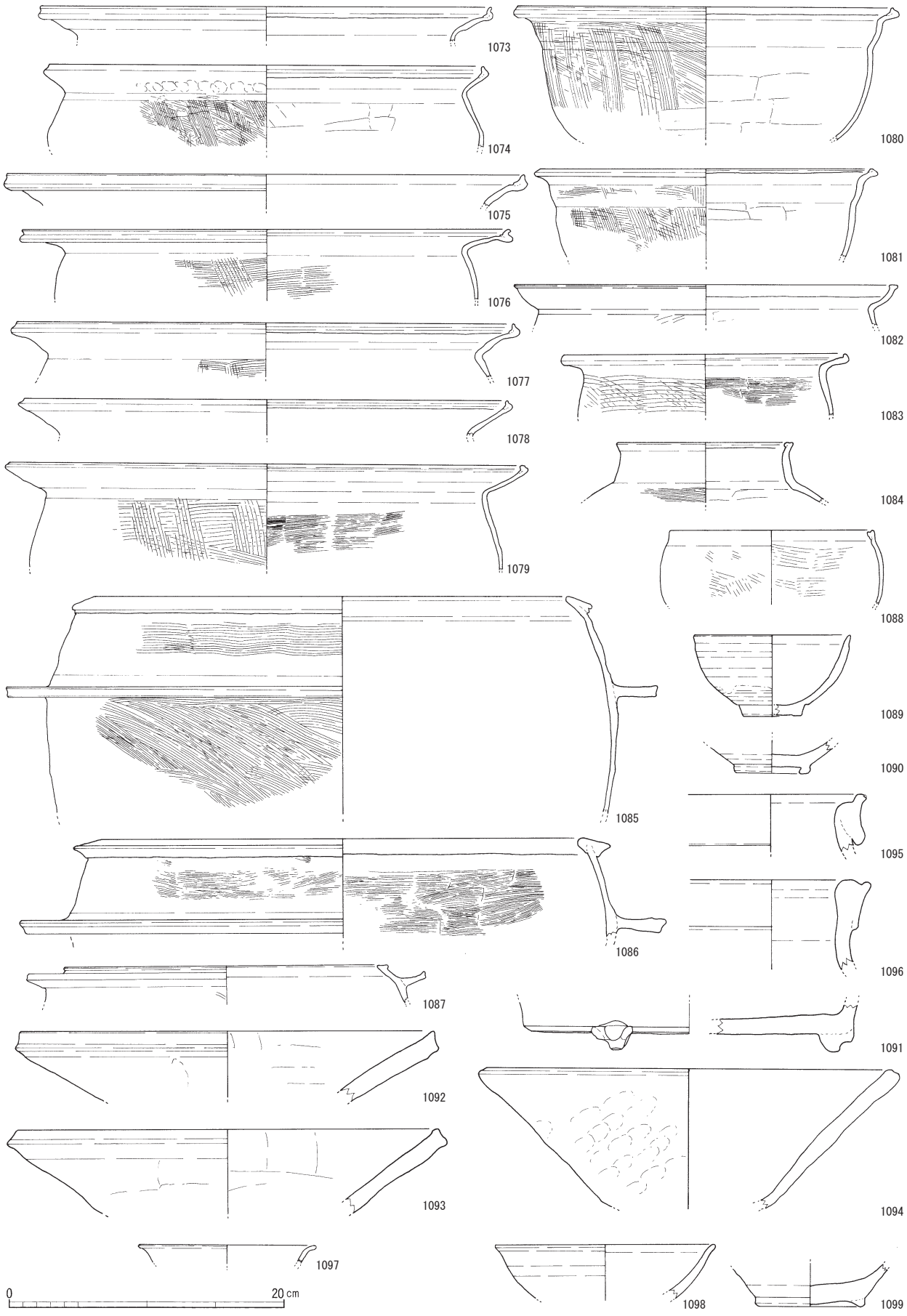
(71) ＳＤ３８０１１出土遺物（第95図）

土師器の皿（1000～1003）・鍋（1004～1010）・茶釜(1011)・羽釜(1012)、陶器の鉢(1013)・甕(1014・1015）と多様な遺物が出土し、土師器鍋に残存度の良好なものがある。

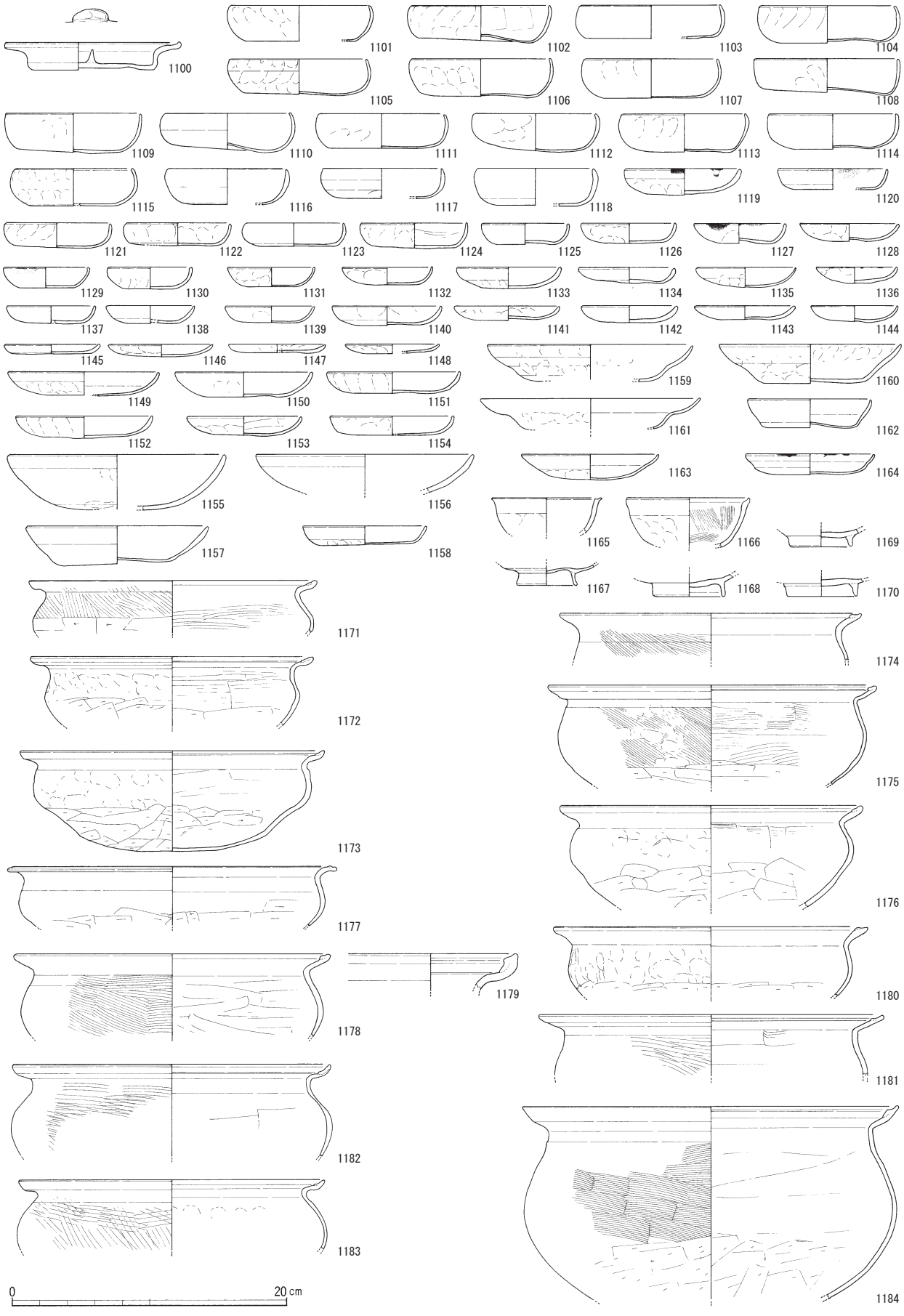
土師器皿は、内弯する口縁を呈するものであるが、内弯が緩慢なものが多く、口径も多様である。土師器鍋の口縁端部は断面三角形を呈するが、体部から鋭角に屈曲する口縁部のもの（1004・1007～1010）と屈曲が緩慢なもの（1005・1006）がある。両者とも煤の付着するものが多く、使用の痕跡を残している。



第96図　SD36002出土遺物①（１：４）



第97図　SD36002出土遺物②（１：４）



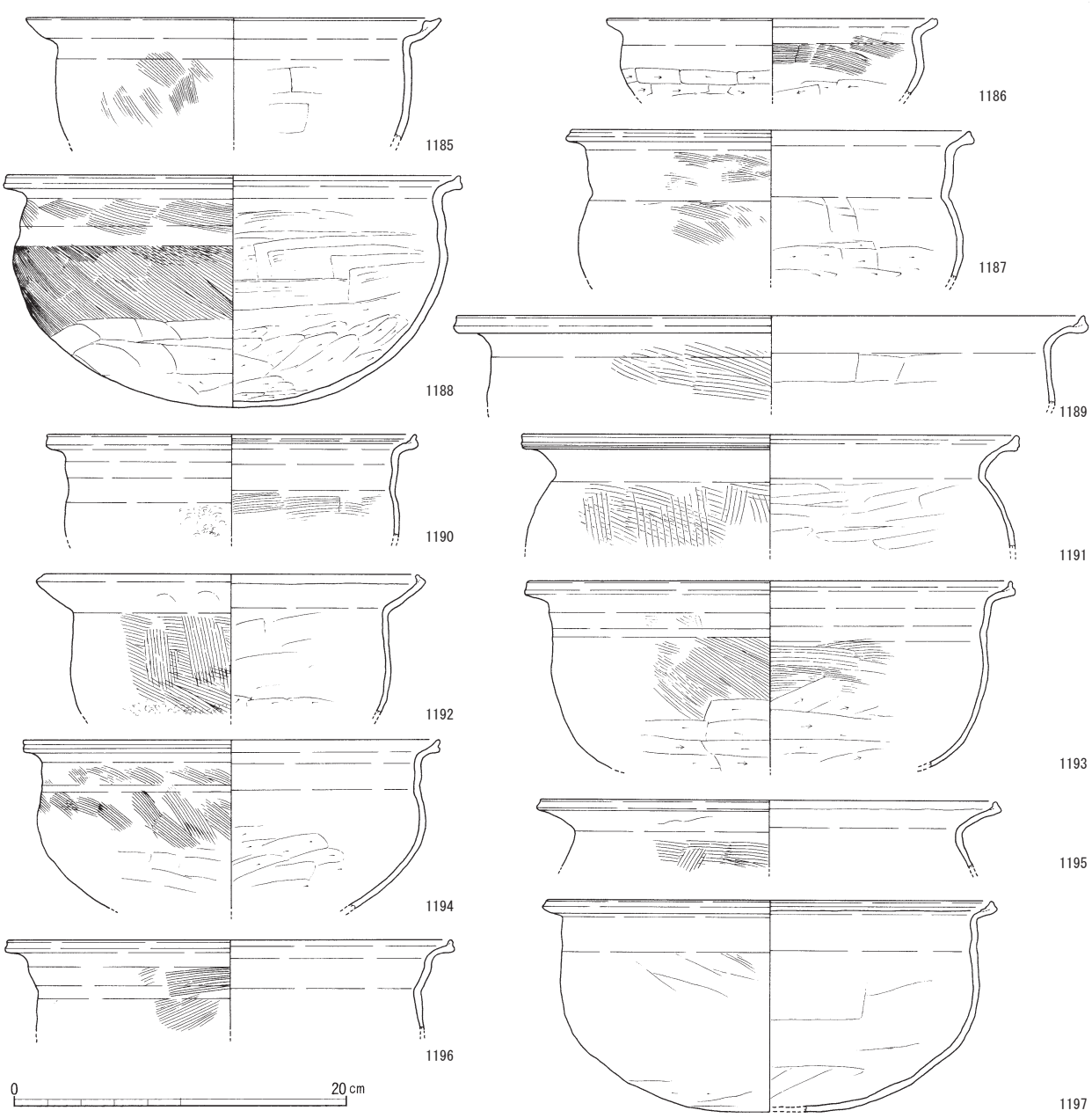
第98図　SD38018出土遺物①（１：４）

陶器では、1013には片口が付き、1014の体部は張りが弱く、壺にちかい形態を呈している。

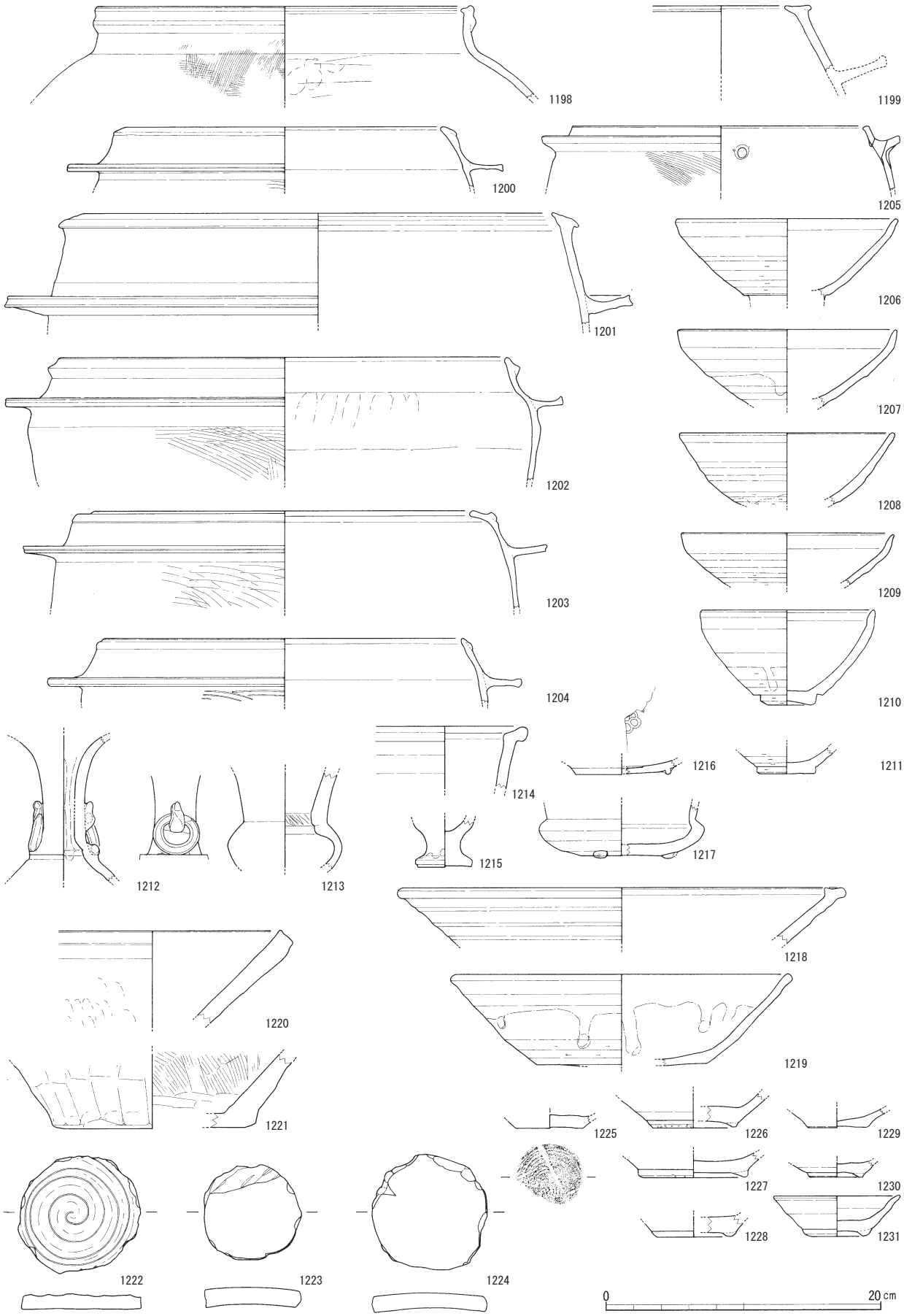
(72) ＳＤ３６００２出土遺物（第96・97図）

土師器の鍋を中心に多量の遺物が出土している。

1016～1026は内弯する口縁部をもつ土師器皿である。口径は9～10cmであるが、1026は内弯が緩慢で器高も1.7cmの偏平な形態である。1027～1037は口径7～8cm、器高1.3cm程度の小型の皿であるが、口縁部は内弯傾向を示しながら立ち上がり、前述した1026をさらに縮小した形態にちかい。1038～1043は底部から屈曲して外方へやや蛇行しながら立ち上がる口縁部をもつ皿である。1041～1043は口径16cmを測る大型のもので、器壁も厚い。口縁部の蛇行も弱く直線的である。別種のものとすべきかも知れない。なお､1041と1042は接合しなかったが、同一個体である可能性が高い。また、1039は近世の土師器と類似する高温で焼かれた赤黄色を呈するが、形態は1038等と同じである。1044は前述のものを小型にした形態であるが、口縁部の蛇行は弱く、むしろ直線的である。1045は椀で比較的高い高台が付くものと思われる。1046は全体的にはロクロの使用は認め難いが、高台のみをみればロ



第99図　SD38018出土遺物②（１：４）



第100図　SD38018出土遺物③（１：４）

クロ使用の可能性が生じる。いずれにしても前代からの混入遺物である。

1047 ～ 1083 は土師器の鍋、1084 は茶釜、1085 ～ 1087 は羽釜である。鍋の口縁端部形態は多様で、端部を折り返しその上面をヨコナデにより窪めるもの（1047 ～ 1063）、そのために端部が上方に伸び上がるもの（1064・1065・1068・1069）、断面三角形状を呈するもの（1072 ～ 1081）があり、その３者に属さないものもある。そのなかで 1083 は、前代からの混入遺物として良いであろう。形態的には 1080・1081 は口縁部の屈曲が弱く、鉢にちかい形状、1082 は受口状の形態を示している。1088 は無頸の形態で、鉢とすべきかも知れないが、質感は甕を想定させる。

1089･1090 は施釉陶器の椀、1091 は香炉と思われ、1091 の脚は３脚に仮定して図化している。1092 ～ 1094 は陶器の鉢で、常滑の捏鉢か。1095・1096 は陶器の甕、1097 は白磁の椀であるが、磁器としては素地の色調が灰色にちかい。

(73) ＳＤ３８０１８出土遺物（第 98 ～ 104 図）

土師器皿や鍋、施釉陶器、瓦質土器、瓦等、多量の遺物が出土している。しかし、型式差があるものが共伴しており、一定の時期幅をもつ。

土師器　蓋（1100）、皿（1101 ～ 1164）、椀（1165 ～ 1170）、鍋（1171 ～ 1197）、茶釜（1198）、羽釜（1199 ～ 1205）がある。

皿は残存度が良好なものが多く、完形のものも散見される。口縁部等に油煙の付着するものもあり、灯明皿として使用されていたものを含む。形態的には、1101 等の内弯する口縁部をもつもの、1145 等の偏平な形態の小型のもの、1159 等の底部から屈曲して蛇行気味に立ち上がる口縁部の大型のものがある。内弯する口縁部をもつものは、1101 等の口径 10㎝程度、器高 2.7㎝程度のものから、1129 等の口径６㎝、器高 1.5㎝にまで縮小したものまである。また、1142 等のように内弯が緩慢となり、さらに器高が減少し、偏平なものとの区別が困難なものもある。一方、1149 等のように内弯が緩慢であるものの口径や器高を大型状態に保つ一群もある。1157・1158 は底部から屈曲する口縁部であるが、蛇行が弱く直線的に外方に立ち上がる口縁部である。調整は、外面未調整、内面ナデが一般的であるが、内面のナデに工具痕を残すものがある。1155・1156 は器壁が厚く、前代からの混入であろう。1140 の底部外面縁辺には棒状工具の角による押圧痕と思われる痕跡が巡る（写真図版 26）。

椀は、接合できたものは無かったが、小型の椀に比較的高い高台を有する。皿と同様に、内面のナデに工具痕を残すものがあり、一部ハケメ状を呈している。

鍋には 1173 等の口径 23㎝程度の小型のものが多いが、1188 等の口径 26㎝以上の大型のものもある。体部形態としては、半球形にちかいもの（1173 等）、頸部の屈曲が弱く半球状の体部形態となるもの（1197 等）がある。口縁端部は 1171 等のように内に折り返すが、折り返した上面の強いヨコナデにより 1184 のような変形を呈するもの、1194 等のように断面三角形状を呈するものがある。断面三角形状のものは両方の体部形態に認められるが、他のものは球形にちかい体部形態のもののみにみられる。全体形態が明確なものは少ないが、体部下半の内外をヘラケズリ、他をハケメで調整するものを基本とする。しかし、1173 のようにハケメを施さないものも一定量出土している。また、内面のハケメは弱く、工具ナデとしたものが多い。なお、1188 は接合の結果、完形に復元できた。

羽釜のなかで 1205 は、鍔の付け根に穿孔を設ける南伊勢系[1]とは異なる形態である。

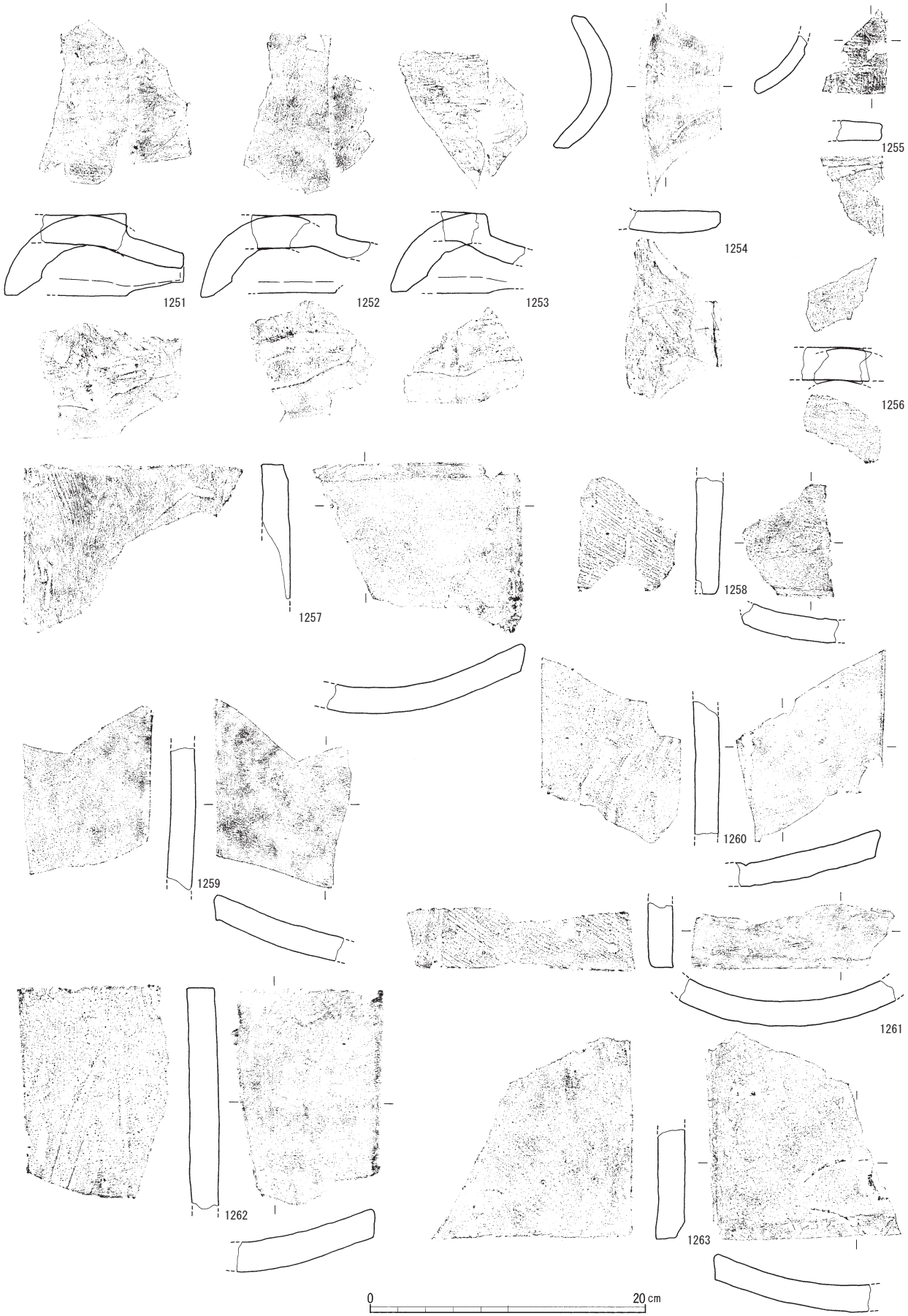
ロクロ土師器　1225 のみであるが、明らかに混入遺物である。

陶器　1206 ～ 1219 は施釉陶器であるが、一部に焼成不良のためか、釉の一部が沸騰したものがある。1206 ～ 1209 は椀、1210・1211 は天目茶椀、1212・1213 は花瓶、1214・1218・1219 は鉢、1215 は秉燭、1216 は皿、1217 は香炉である。天目茶椀の体部下半は両者とも露胎、香炉の脚数は小片のため不明であるが、３足と仮定して図化している。

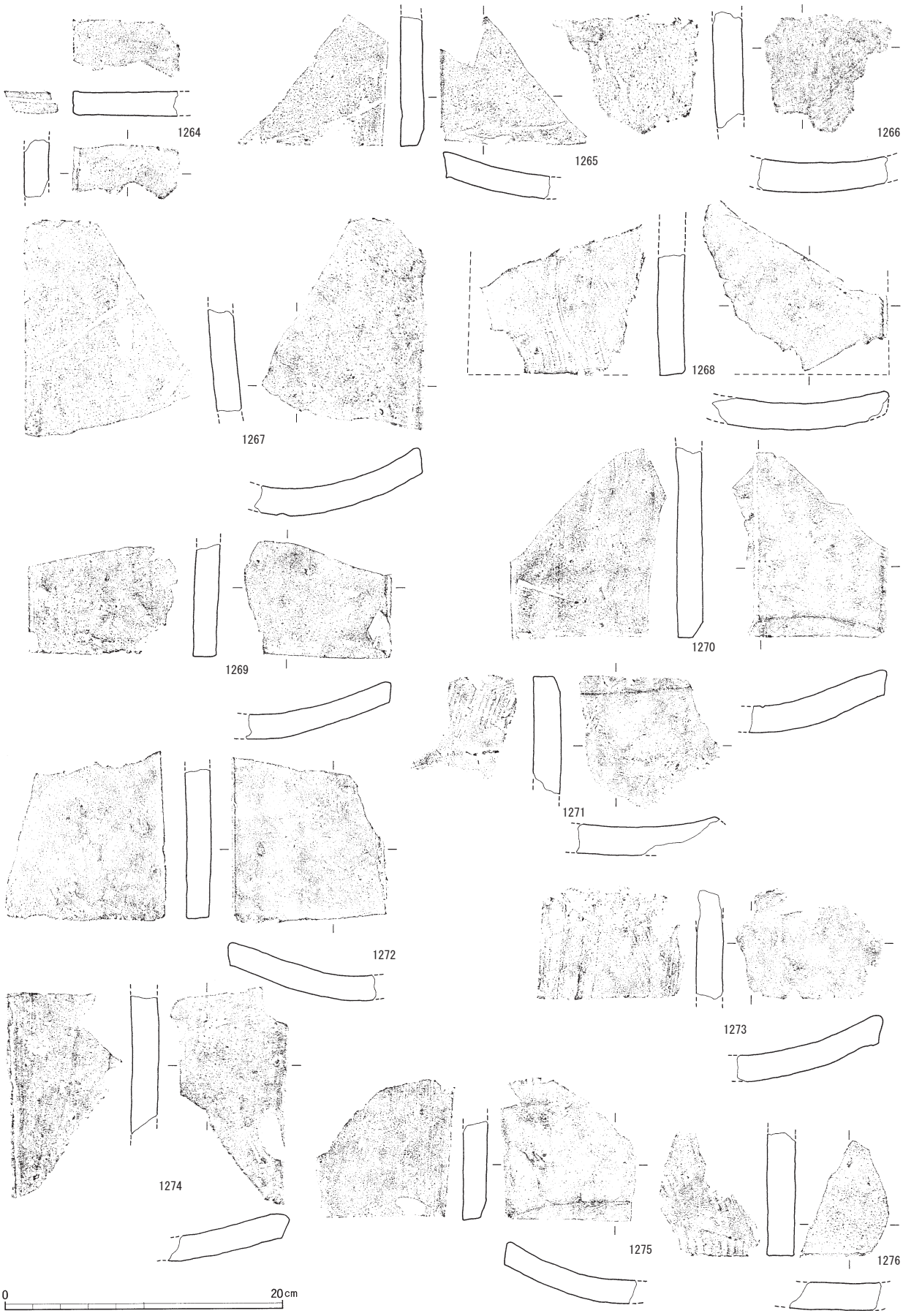
1220・1221 は陶器の鉢である。1221 は内外面を工具によるナデで調整するが、内面はハケメ状を呈する。

1222 ～ 1224 は加工円盤である。1222 は施釉陶器鉢の底部を、1223・1224 は陶器甕の体部を加工している。

第101図　SD38018出土遺物④（１：４）



第102図　SD38018出土遺物⑤（１：４）



第103図　SD38018出土遺物⑥（１：４）

1226～1231は山茶椀で、明らかに混入遺物である。

瓦質製品　1232～1234は瓦質土器の口縁部片である。全体の形状は不明であるが、口縁部形態から壺としておく。1232は無文であるが、1233・1234は口縁端部ちかくに渦巻の列を一条巡らせている。渦巻はスタンプにより押印される。1235～1238も瓦質土器の小片で火舎と思われる。1235は残存部分のみで言えば酸化焼成しており、燻は掛かっていない。器形も他のものと異なり、方形を呈するものと思われる。これらの火舎も口縁端部ちかくに施文する。いずれも突帯を２条巡らし、その間に1235は雷文、1236は巴文、1237・1238は花菱文をスタンプにより施す。

1239・1240も瓦質製品であるが、小片のため器種は不明である。両者とも円孔を施し、1239は方形容器の底部に円孔を設けているようである。1240も底部片とすれば、両者は同一個体の可能性も大きい。焜炉等の火に関する用具の一部としておく。

瓦　1241～1243は軒丸瓦であるが、1242・1243は瓦当部が剥離している。1241は巴文であるが、内圏線も確認できる。

1244～1256は丸瓦であるが、いずれも小片である。1250は燻が掛からない部分がみられる焼成やや不良のもの、1256は須恵質に焼成されている。

1257～1276は平瓦であるが、丸瓦と同様に小片である。1264・1267は焼成不良のためか、燻が不十分であり、1266・1271は酸化焼成となっている。また、1261は須恵質に焼成されている。工具ナデまたはヘラケズリで調整するものが多いが、1258・1263・1268等のように凸面にコビキ状の縞模様を残すものもある。

1277は小片のため不明であるが、熨斗瓦としておく。1278・1279も小片であるが、1279は鬼瓦、1278もその一部と思われる。1278は燻が不十分である。

石製品　1280の砥石のみである。砂岩の自然石を転用したような不整形な形態であるが、４面とも使用している。

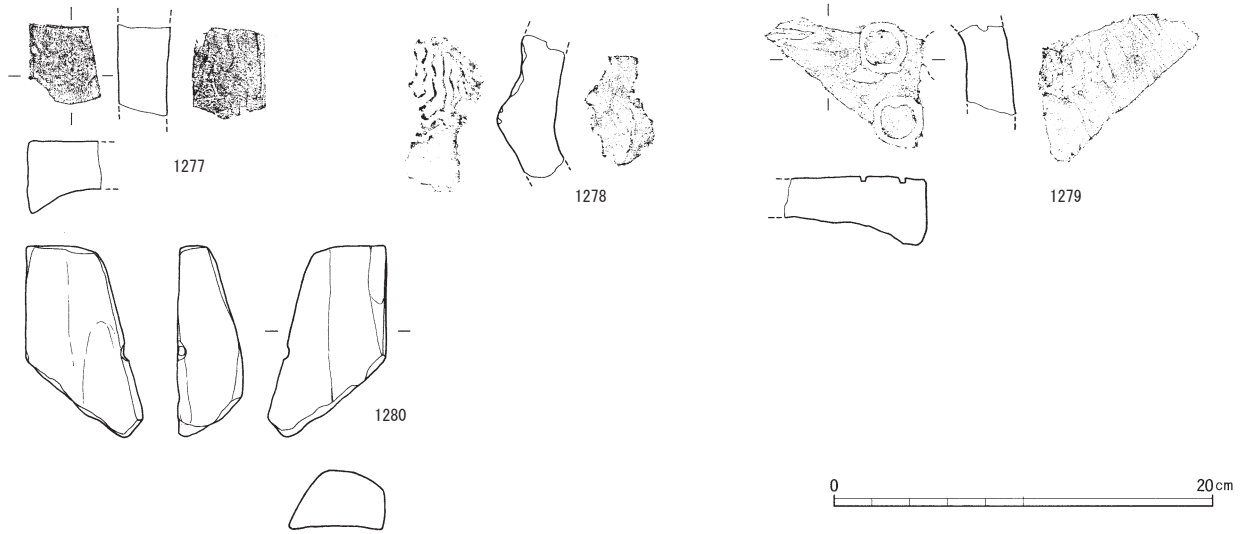
(74)　ＳＤ３９００１出土遺物（第105図）

土師器、施釉陶器、瓦等多様な遺物が出土しているが、残存度が劣悪なものが多い。

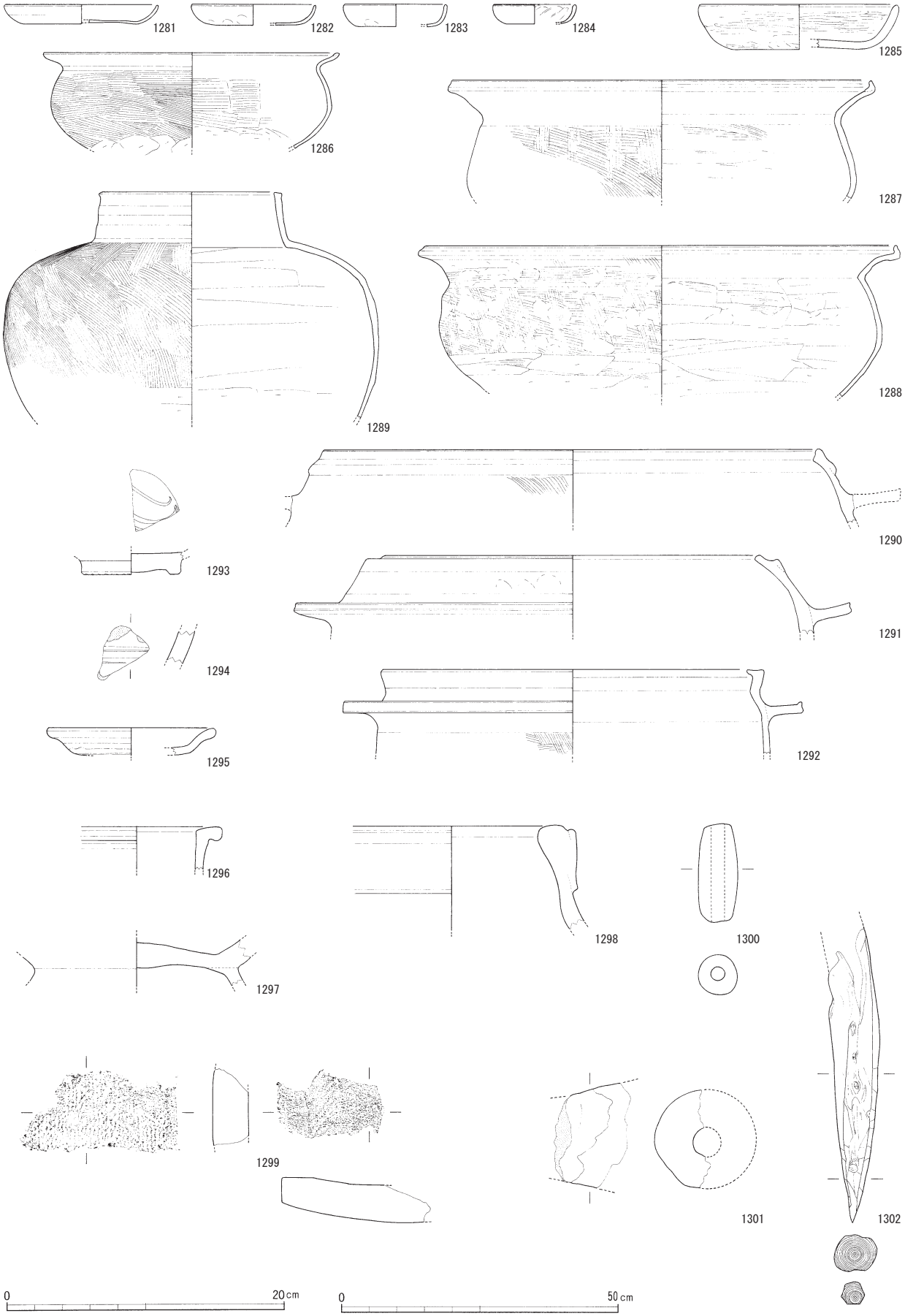
1281～1284は土師器の皿で、内弯する口縁部を呈するものであるが、内弯は緩慢で器高を減じている。口径も1283・1284では６～７㎝まで縮小している。1285は器壁が厚く、粗製椀的なものであるが、底部外面にヘラケズリ、内外面にヘラミガキをを施す。いずれにしても前代からの混入と考えられる。

1286～1288は土師器の鍋、1289は茶釜、1290・1291は羽釜である。器種を問わず煤が付着し、使用の痕跡を残す。鍋は口径30㎝以上の大型のものと20㎝程度の小型のものがある。大型のものの口縁端部は断面三角形を呈する。外面をハケメ、内面を工具によるナデを施すが、一部ハケメ状を呈している。

1293は青磁の椀、1294は緑釉陶器の小片、1295・



第104図　SD38018出土遺物⑦（１：４）



第105図　SD39001出土遺物（1281 ～ 1301 ＝ 1 ： 4、1302 ＝ 1 ：10）

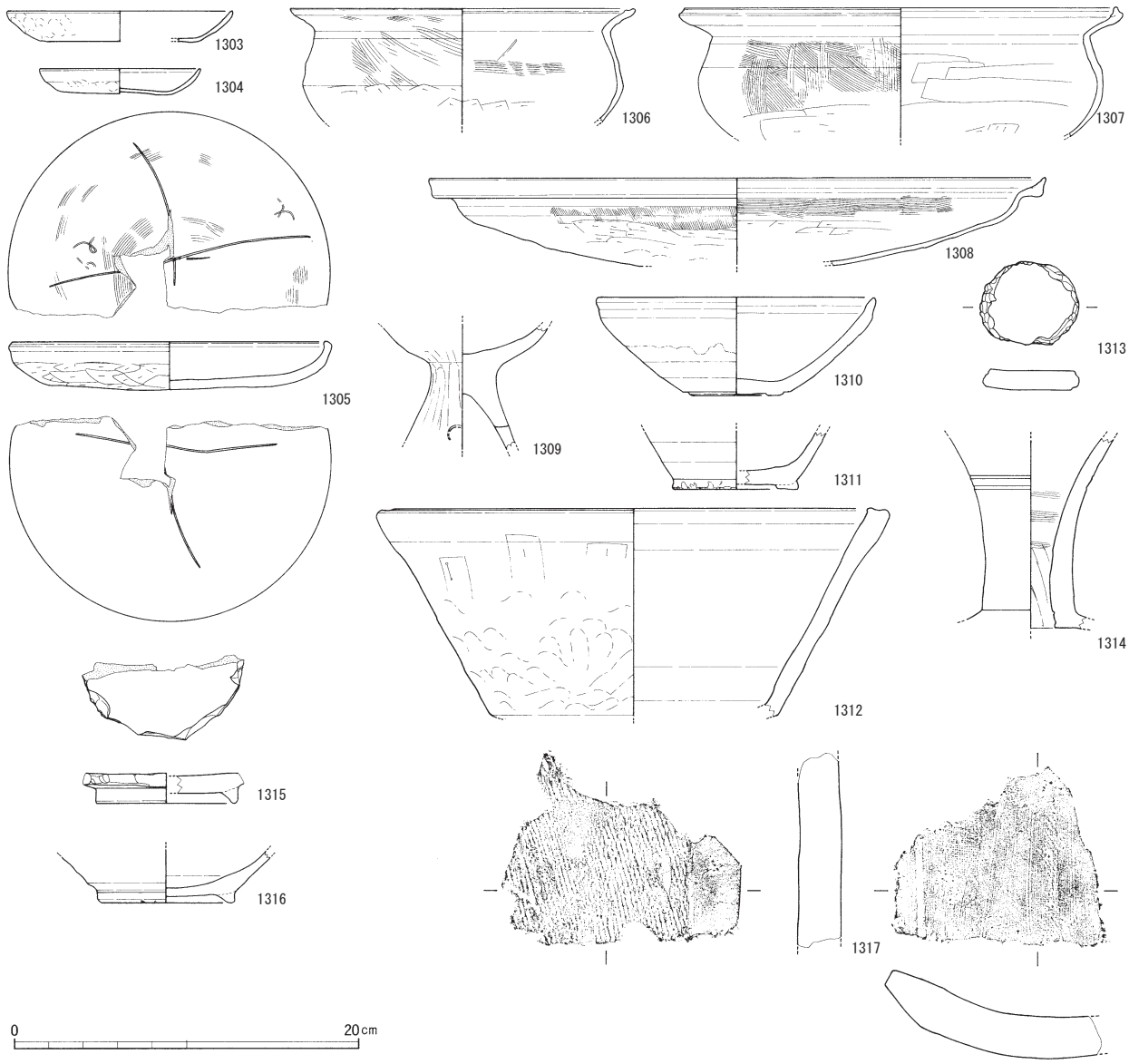
1296は施釉陶器、1297・1298は陶器、1299は平瓦、1300は土錘、1301は鞴の羽口、1302は自然木を加工した杭であるが、完形の1300を除きいずれも小片である。1299は燻が掛けられておらず、縄タタキ痕が明瞭で、1294とともに前代からの混入である。

(75) ＳＤ３９０１４出土遺物（第106図）

土師器の皿・鍋、施釉陶器等が出土しているが、重複するＳＲ39016からの混入遺物も多い。

1303・1304は土師器の皿で、底部から屈曲して直線状に外方へ伸びる口縁部を呈する。1306は小型の土師器鍋、1307は大型の鍋である。1308は焙烙の形態を呈している。全てのものに煤が付着し、使用の痕跡を残す。外面をハケメ、内面を工具によるナデで調整するが、1306はハケメ状に、1307は明確なハケメとなっている。1310は施釉陶器の椀、1311は陶器の壺、1312は鉢、1313は陶器甕の体部片を加工した加工円盤である。

1305は器壁が厚く底部外面にヘラケズリを施すもので、ＳＲ39016からの混入と思われる。内面に僅かにラセン暗文を残し、内外面にはヘラにより大きく「×」が刻まれる。他に須恵器壺の1314、平瓦の1317も同様と考えられる。1309は弥生末～土師器の高杯、1315・1316も比較的高い高台をもつ山茶椀で、混入遺物と考えられる。1315は内面が



第106図　SD39014出土遺物（１：４）

平滑となり、底部片を故意に打ち欠いた様子がみられる。硯に転用したものか、あるいは別用途に使用するためか明確ではない。

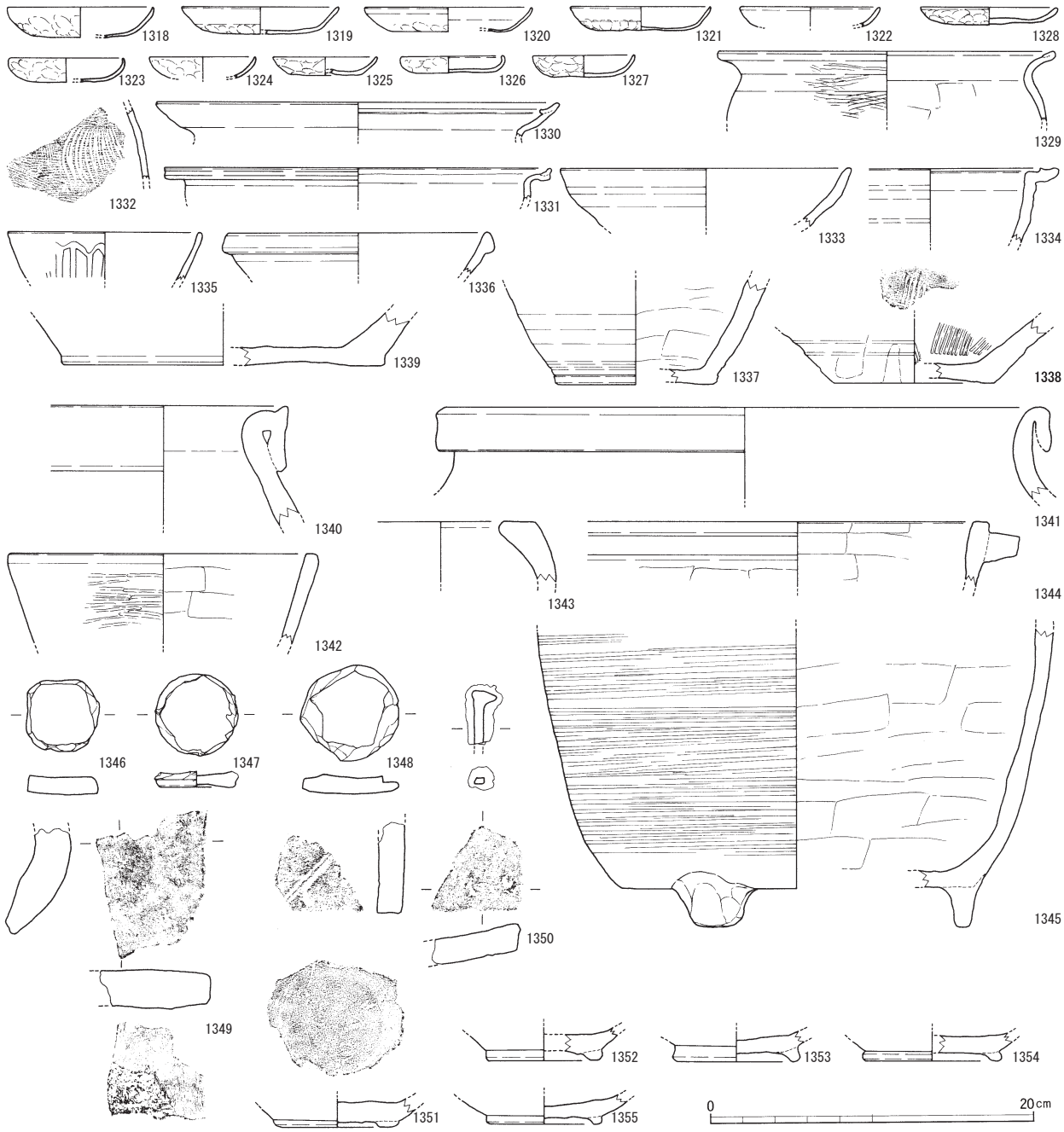
(76) ＳＤ３６０１２出土遺物（第 107 図）

土師器、陶器、瓦質土器等多様な遺物が出土しているが、残存度の低いものが多い。

1318 ～ 1328 は土師器の皿であるが、1318 ～ 1327 は内弯する口縁部を呈するもの、1328 は偏平な形態のものである。前者は、器壁が薄く内弯は緩慢なものとなっている。1323 等口径が 7 ㎝未満にまで縮小したものも多い。1322 はやや器壁が厚く、別種の皿かも知れない。

1329 ～ 1332 は土師器の鍋である。口縁端部の形態は様々で、全てのものに煤が付着する。1332 は小片のため不明確であるが、鍋の肩部としておく。ハケメの後、多条の沈線を施している。何かの意図をもって刻まれたものか、調整の一環なのか定かでない。

1333 は施釉陶器の椀、1334 は鉢で両者とも灰釉



第107図　SD36012出土遺物（１：４）

を施す。1335は青磁椀、1336は白磁椀で、1336は混入遺物、1335もその可能性が高い。1337・1339～1341は陶器の甕、1338は擂鉢、1342～1344は瓦質土器である。1342は鉢としたが、口径が小さく内面に炭化物の付着がある。1343は浅鉢、1344は鍔をもち羽釜とせざるを得ない。1345は燻が掛からず陶器としたが、小さい脚をもち、瓦質土器の深鉢に似た形態で、外面にはカキメを施す特異な調整である。小片のため脚数は不明であるが、3脚として図化している。

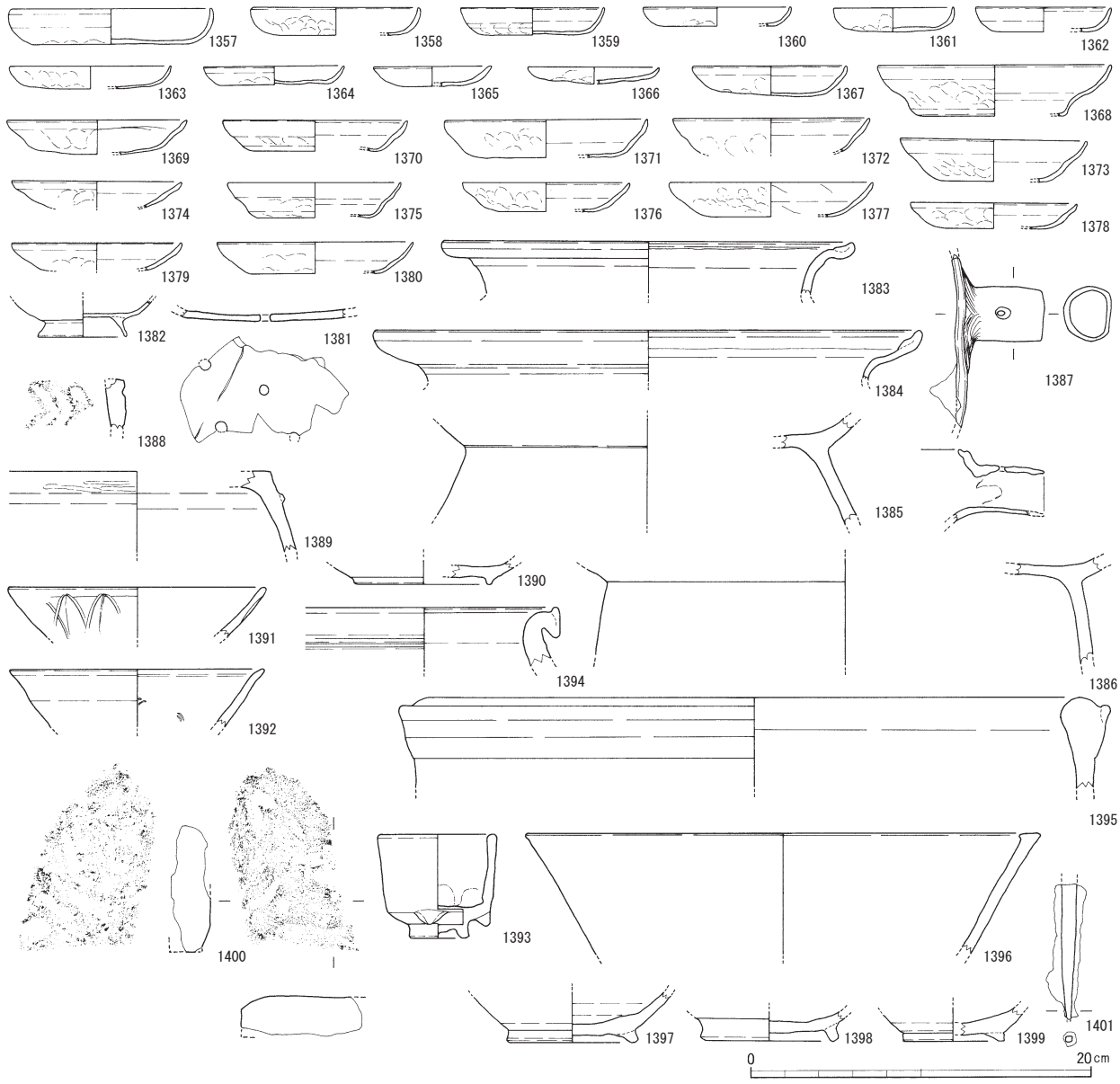
1346～1348は加工円盤、1349は丸瓦の玉縁片、1350は平瓦の小片、1356は鉄製品の釘である。1346・1348は陶器甕の体部、1347は天目茶椀の底部を円形に加工している。

1351～1355は山茶椀の底部片である。比較的高い高台をもち、前代からの混入である。1351は内面には葉脈痕（写真図版33）、高台に板状圧痕があり、乾燥時の手法を示すものでろう。

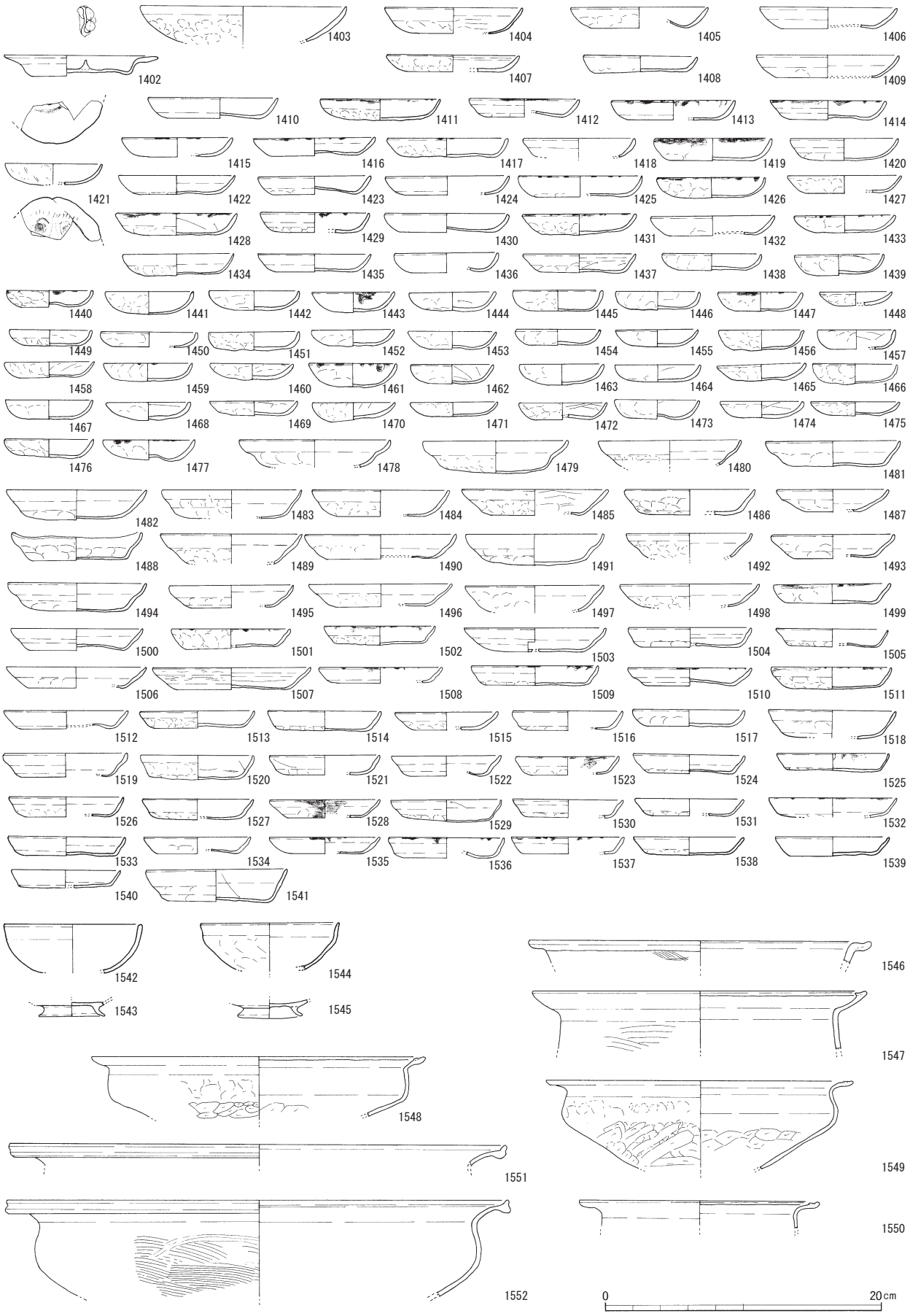
(77) ＳＤ３７００６出土遺物（第108図）

土師器の皿を中心に鍋や瓦質土器、陶器、青磁等が出土している。

1357～1365は内弯する口縁部をもつ土師器の皿、1366は偏平な形態の皿であるが、前者は口径・器高とも個体差が大きく、1365においては後者との区別が困難なものである。前者全体として、1357・



第108図　SD37006出土遺物（１：４）



第109図　SD36004出土遺物①（１：４）

1358 を除き口縁部の内弯は緩慢で器高を減じている。1368 ～ 1380 は底部から屈曲して蛇行気味に外方へ立ち上がる口縁部をもつものであるが、前述したものと同様に口径・器高の個体差が大きい。1381 も土師器皿の底部と思われる。器壁が厚く口径も大きいことが想定され、前代からの混入の可能性もある。焼成不良で、全面黒斑化しており、小孔が多数空けられている。小孔は焼成後に外から内に向けて空けられており、確認できる範囲では３個ある。

1382 は土師器の椀、1383・1384 は土師器の鍋、1385・1386 は体部下端から脚台部片である。脚台は薄く高いもので、一応壺としておく。1387 は土師器の十能の把手であるが、上部に小孔が穿孔されている。1389 は瓦質土器の口縁部片、1390 は施釉陶器の皿、1391 ～ 1393 は青磁、1394 ～ 1396 は陶器、1401 は鉄製品の釘で、混入の可能性があるものを含む。

1388 は縄文土器片で明らかな混入遺物、1400 は瓦片である。摩滅が激しく詳細は不明であるが、比較的厚く酸化焼成で、燻の痕跡がない。これも混入遺物と考えられ、弯曲がないため熨斗瓦としておく。1397 ～ 1399 は山茶椀で比較的高い整った高台をもち、これらも混入遺物である。

(78) ＳＤ３６００４出土遺物（第 109 ～ 112 図）

土師器、陶器等多様な多数の遺物が出土しているが、土師器皿は多量に出土し、油煙の付着したものが多い。さらに、人面墨書土器や多数出土した磚の小片も注目される。

1402 は土師器の蓋、1403 は半球形を呈する大型の皿である。1404 ～ 1477 は内弯する口縁部をもつものとしたが、内弯は緩慢で器高を減じている。1408 のように殆ど内弯が認められないものもある。口径も多様で６㎝程度まで縮小しているものも多い。1478 ～ 1539 は底部から屈曲して蛇行気味に外方へ立ち上がる口縁部をもつものであるが、前述したものと同様に口径・器高の個体差が大きい。1540・1541 は口縁部の蛇行が認められず、直線的に立ち上がるものとしたが、1541 は個体差の範囲内か。

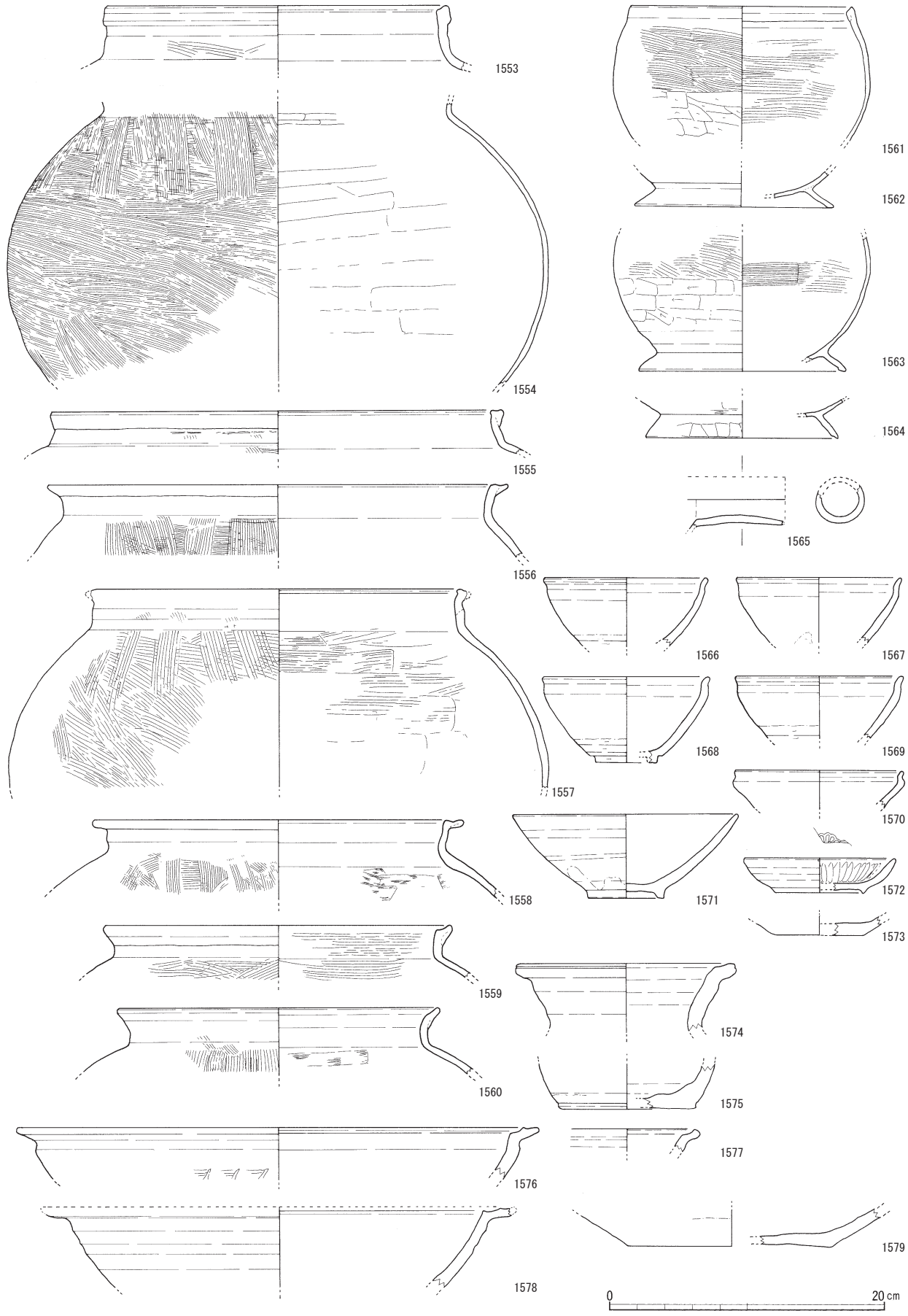
既述したように、これらの土師器皿は口縁部に油煙の付着するものが多く、1421 には油煙はないが、人面が墨書される。確認できる範囲内では、両目、鼻、眉、前髪が皿の底部外面に描かれる。内面にも円弧等の幾何学的な表現がある。1503 の底部には穿孔があり、焼成後内から外へ空けられている。

調整は内面ナデ、外面未調整を基本としているが、内面に工具痕を残すものが散見され、1404 は鋭利な工具痕を残す。1430 は外面に工具によるナデを、1502 は一部に弱いヘラケズリを施している。1507 はヘラミガキを施すが、簡易なもので、指頭圧痕の凹凸を残す。また、外面には様々な痕跡を残すものがあり、1411 には布の圧痕状の痕跡（写真図版 24）、1488 にも布の圧痕ではるが、布を棒状工具の角で押圧したような痕跡がある。1420 には爪形の圧痕が多数、1529 にも爪を立てて押したような痕跡（写真図版 27）、1451 には筒状圧痕が円形に並ぶ（写真図版 24）。また、1404 は強い当たりにより口縁部が窪み変形している。成形または乾燥時の事故であろうか。

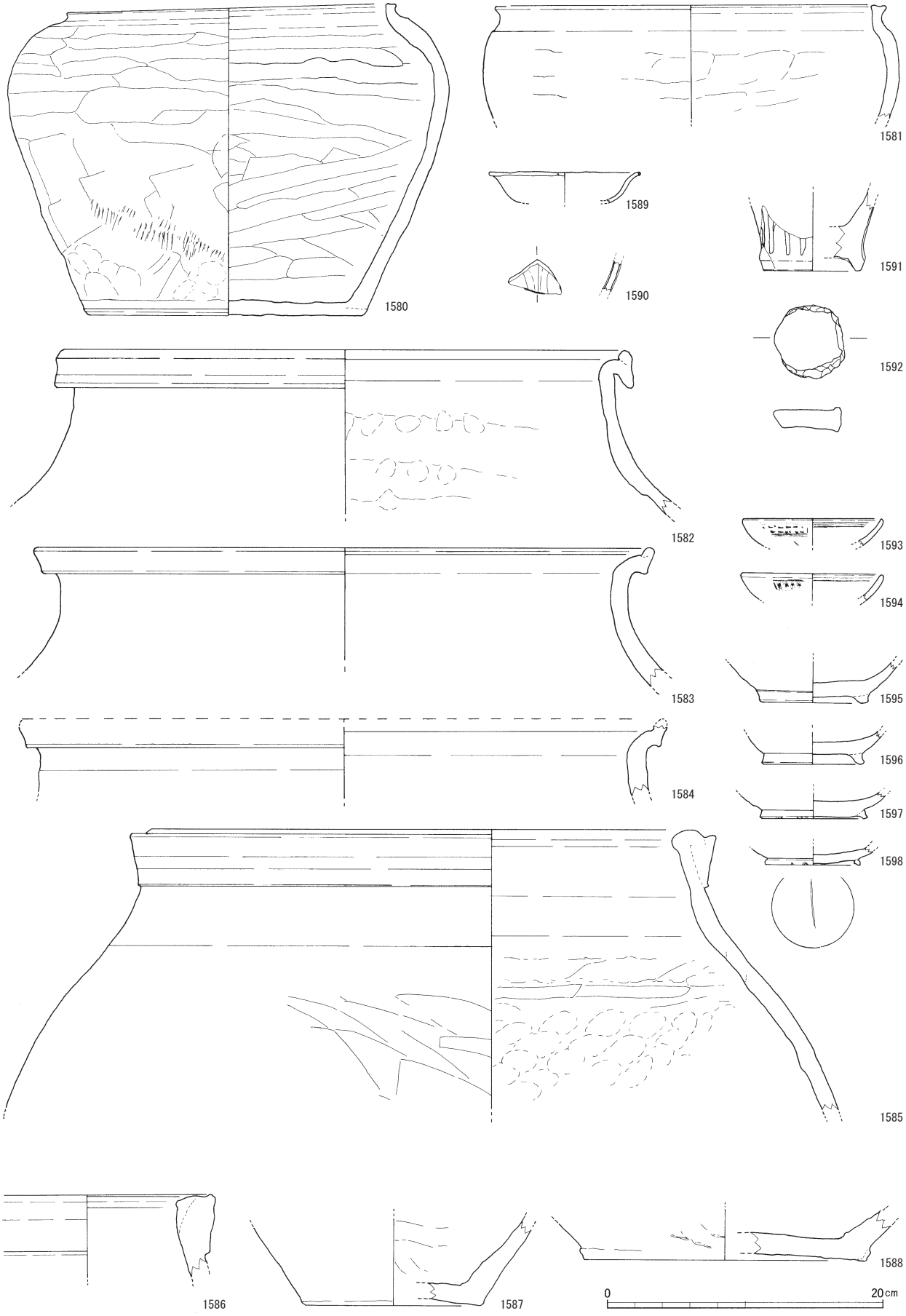
1542 ～ 1545 は土師器の椀とした。1546 ～ 1552 は土師器の鍋で、口径の大きいものは口縁端部が断面三角形を呈する。1553 ～ 1560 は土師器の茶釜であるが、いずれも大型のものである。1554 は、体部に小片の頸部片を図上で接合したものである。調整はいずれも外面をハケメ、内面を工具によるナデで調整するが、1558・1560 のナデは、ハケメ状となる。

1561 ～ 1565 は無頸の球形体部に外に大きく開く高台を付けたもので、一応鉢としておくが、調整等の共通から鍋や茶釜の一種とすべきかも知れない。1562 と 1563 は同一個体の可能性が大きく、1564 の高台外面には板状工具の強い圧痕が明瞭に残る。1565 は土師器十能の把手片である。

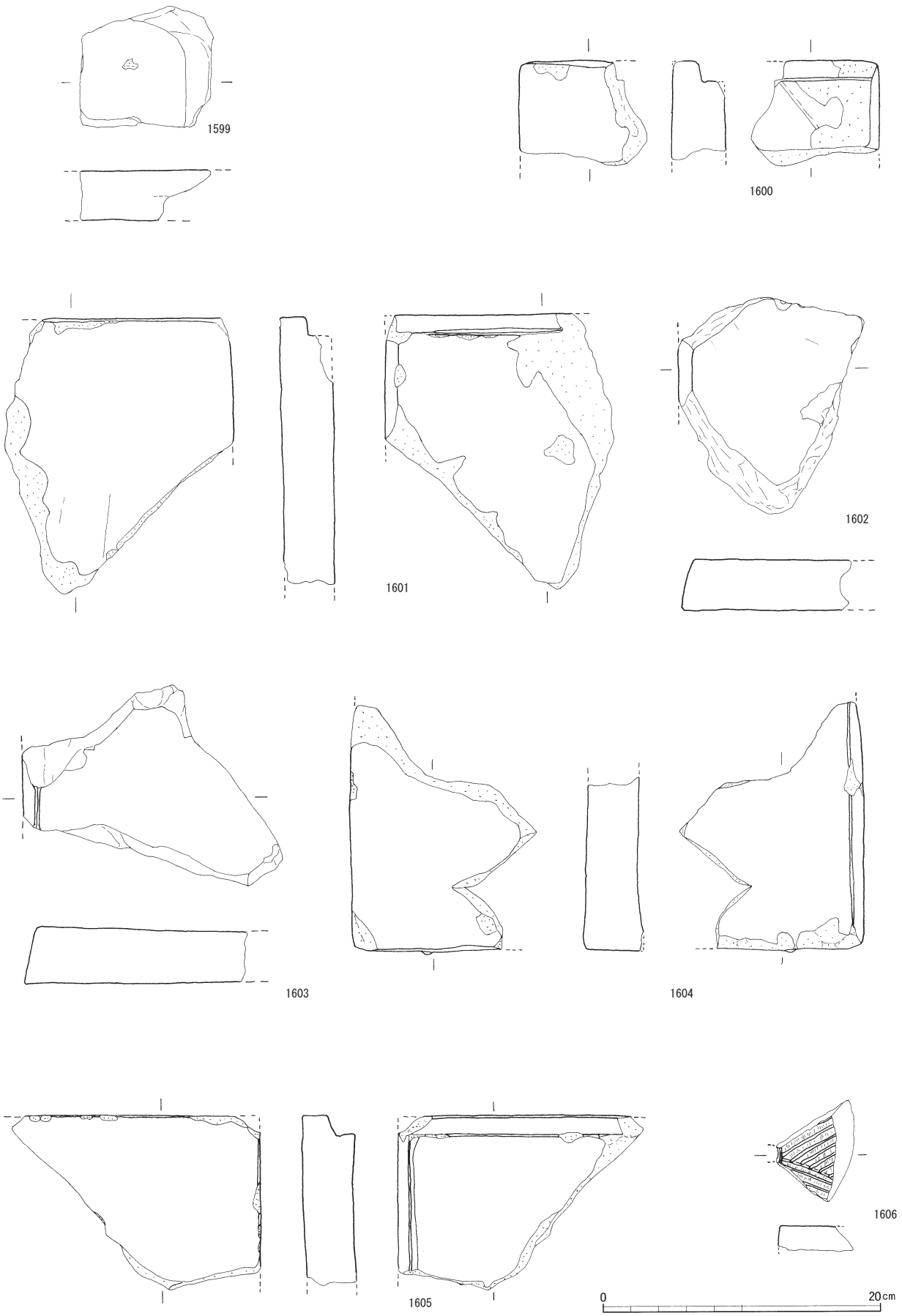
1566 ～ 1573 は施釉陶器である。1566 ～ 1569 は天目茶椀で、全てのものに体部下半の錆釉が施される。他は鉄釉であるが、1568 は淡茶色、1569 は茶色に発色している。1570 は天目茶椀に似る形態であるが、灰釉を施す。1572 は菊花文で装飾される皿である。1574・1575 は陶器の壺、1576 ～ 1579 も施釉陶器の鉢または大型の皿である。1574 の口縁端部外面には１条の沈線を巡らす。1578 は焼成不良のためか、一部釉が沸騰している。1580 ～ 1588 は陶器である。1580・1581 は壺で、調整に用いた板状工具痕が明瞭に残る。1581 の内面は指によるが、やはり指跡を残す荒いものである。1582 ～ 1588 は常滑の甕であるが、口縁部縁帯の形状は多様である。



第110図　SD36004出土遺物②（１：４）



第111図　SD36004出土遺物③（１：４）



第112図　SD36004出土遺物④（１：４）

1589 は白磁、1590・1591 は青磁、1592 は陶器甕の底部を加工した円盤である。1589 は、口縁部を８弁に変形させている。1590 は龍泉窯と思われ、混入遺物と思われる。

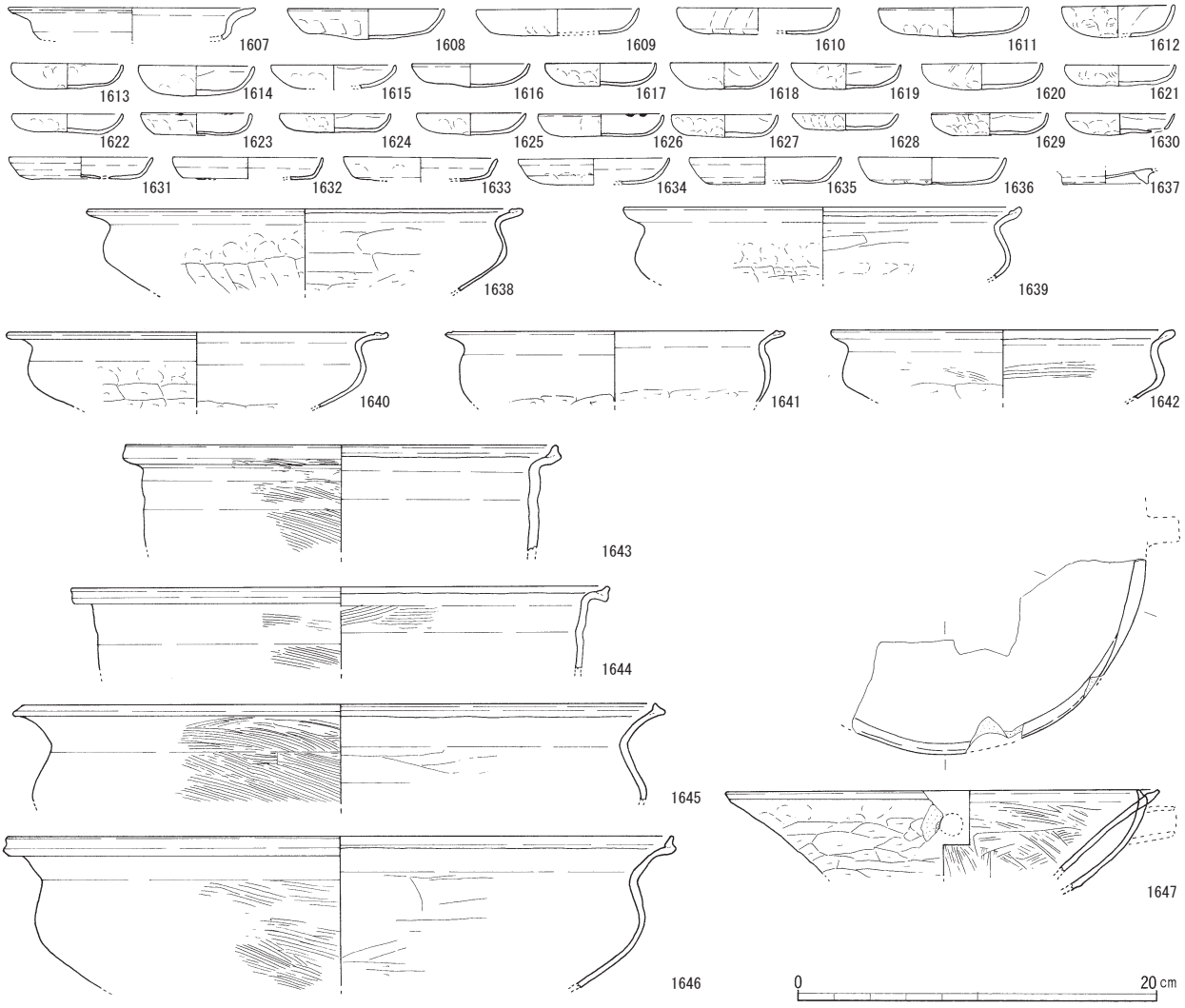
1593 ～ 1598 は混入遺物と思われるものである。1593 と 1594 は同様な形態及び絵柄であるが、1594 は染付、1593 は陶体染付と思われる。1598 は灰釉陶器で、灰釉を刷毛塗するが、底部外面にロクロケズリによる調整は認められない。底部外面「｜」の記号が施される。1595 ～ 1597 は山茶椀であるが、1597 は灰釉陶器としても良いほど均質なものである。いずれも内面は平滑で墨痕のあるものも多く、硯に転用されていたものである。

1599 ～ 1605 は磚の小片、1606 は石臼の小片である。磚はヘラケズリと工具によるナデで調整されているが、1603 のように両者の区別が困難なものもある。焼成はいずれも弱い瓦質である。厚さ４cm程度であるが、1599 は２枚の粘土板を合わせて厚さを確保している。また、噛み合わせのため一辺を薄くし､段を設けていることが確認できるものもある。

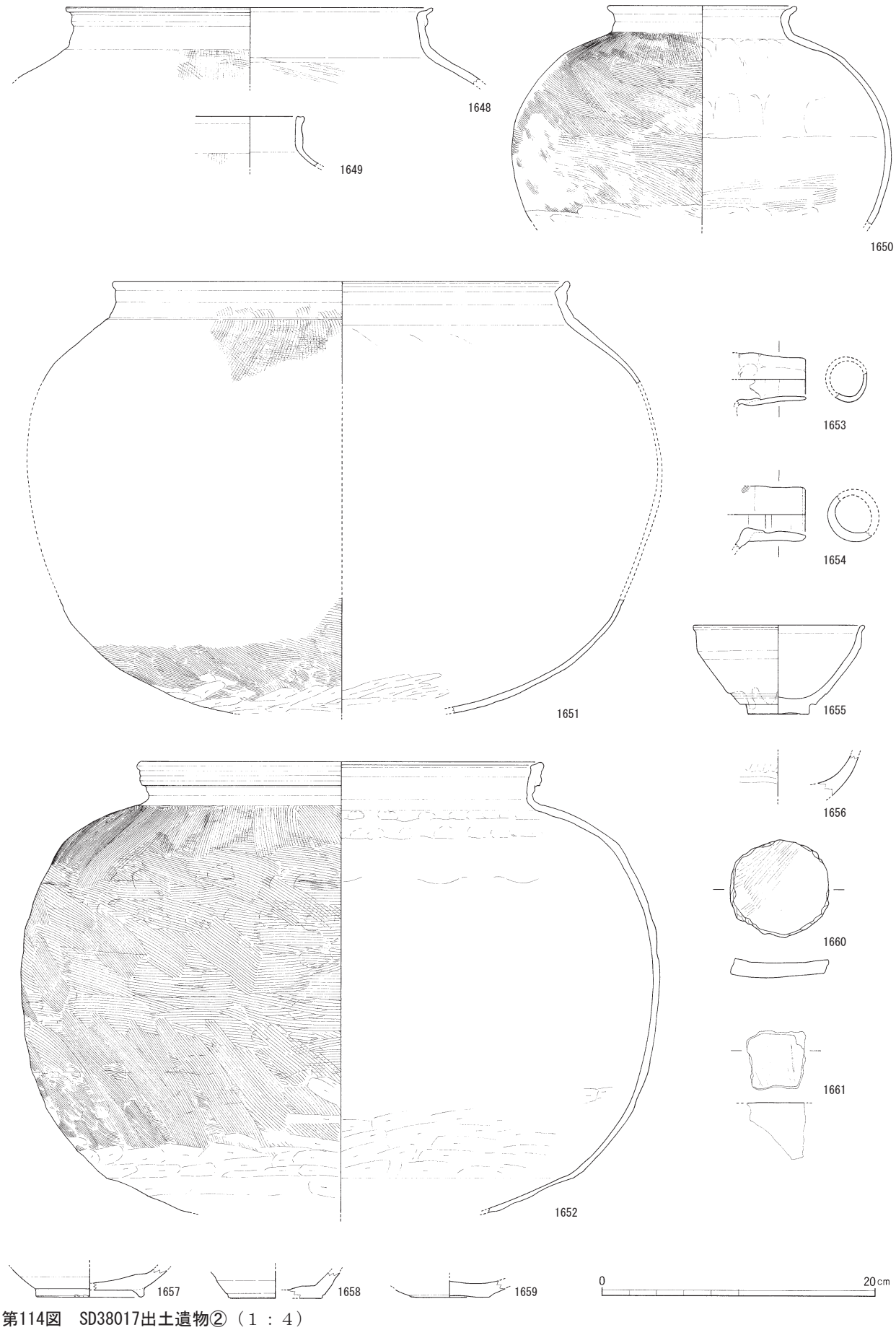
(79) ＳＤ３８０１７出土遺物（第 113・114 図）

比較的多くの遺物が出土しているが、その大半を土師器皿・鍋・茶釜が占める。

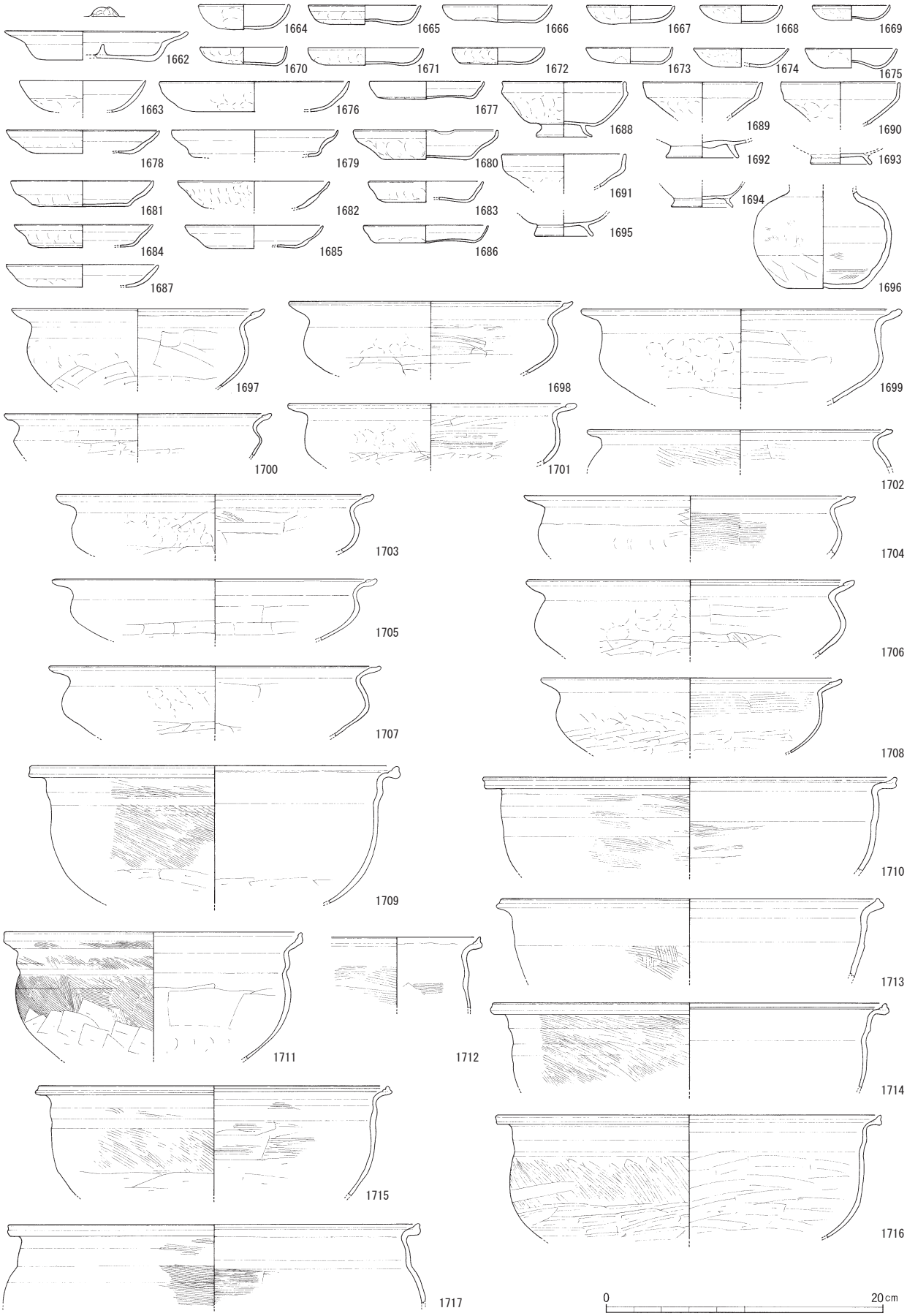
1607 は土師器の蓋、1608 ～ 1636 は皿、1637 は椀である。1608 ～ 1630 は内弯する口縁部をもつものであるが、内弯は緩慢で器高を減じている。口径も８cm程度のものより６cm程度まで縮小したものが圧倒する。1631 ～ 1638 は底部から屈曲して蛇行気味に外方へ立ち上がる口縁部をもつものとしたが、器高が 1.5 cm以下に縮小しており、口縁部の蛇行も微妙なもの



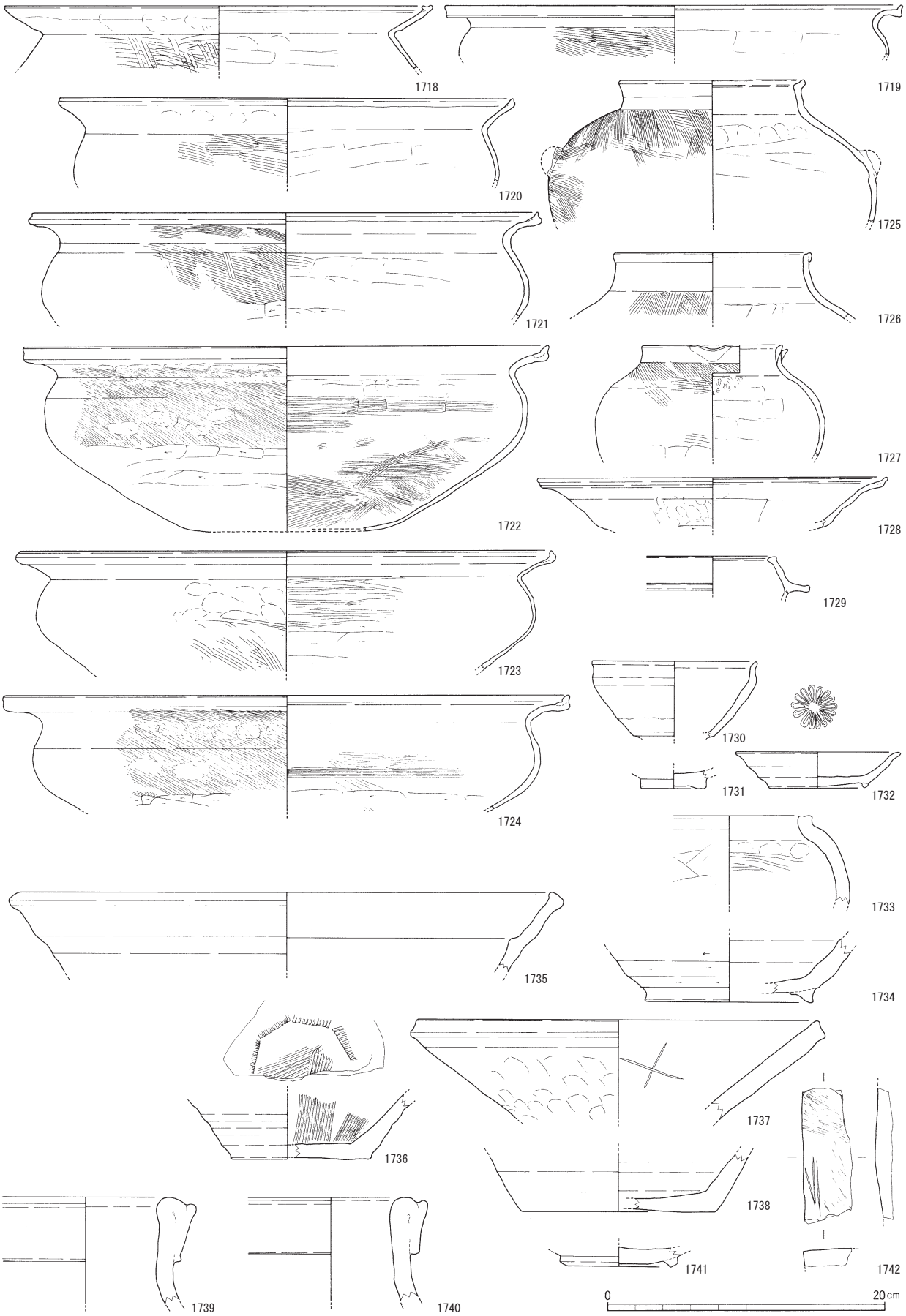
第113図　SD38017出土遺物①（１：４）



第114図　SD38017出土遺物②（１：４）



第115図　SD38042出土遺物①（１：４）



第116図　SD38042出土遺物②（１：４）

が多い。1635・1636では、殆ど直線状を呈している。これらの皿の外面は未調整であるが、1608は工具痕を残している。1630の底部外面には板状圧痕があり、焼成後に外から内へ穿孔された小孔がある。小孔は同様なものが1631（写真図版27）にも確認できる。

1638～1646は土師器の鍋で、口径20㎝程度の小型のもの（1638～1642）と大型のもの（1643～1646）があり、両者で口縁端部の形状が異なる。また、調整も前者にはハケメがみられず、体部外面上半は未調整のままである。大型のものは頸部の屈曲がない1643･1644と屈曲する1645･1646に分かれる。

1647は土師器で、鉢状の形態を呈するが、形態、調整ともに特異なものである。口縁部上端付近に筒状の注口を設けるものと推測され、この部分の器形を大きく変形させている。外面にヘラケズリ痕を明瞭に残すが、質感は鍋類である。外面に煤が付着することもあり焙烙としておく。

1648～1652は土師器の茶釜、1653・1654は十能の把手である。茶釜は口径30㎝程度の大型品が主体である。1655は天目茶椀で底部ちかくには錆釉が施される。1656は青磁の小片、1657～1659は山茶椀、1660は陶器甕の体部を加工した円盤、1661は砥石の破片である。比較的高い整った高台をもつ1657は明らかに混入遺物である。高台には棒状の圧痕があり、乾燥時の痕跡と考えられる。

(80) ＳＤ３８０４２出土遺物（第115・116図）

土師器、陶器の各機種が出土しているが、その大半を土師器皿・鍋が占める。

1662は土師器の蓋で中央部に偏平な摘みを貼り付ける。1663～1687は土師器の皿であるが、1664～1675は内弯する口縁部を呈するものである。しかし、内弯は緩慢となり器高を減じている。口径は８～６㎝までのものが混在するが、1663・1664は器高を保っており、半球状にちかい形態である。別分類とすべきかも知れない。1676～1687は底部から屈曲して蛇行気味に外方に立ち上がる口縁部を呈するものであるが、蛇行の程度は個体差があり、1686・1687はほぼ直線状となる。1680の口縁端部には圧痕がある。乾燥時のものであろうか。

1688～1695は、比較的高い高台を付けるもので、土師器椀とした。1696は土師器で壺の形態を呈する。器壁が厚く、前代からの混入の可能性もある。内部に漆の可能性のある赤茶色を呈する凝結物が付着している。

1697～1724は土師器の鍋である。1697～1708の小型のものと1709～1724の大型のものがある。両者は口縁端部の形態が異なり、大型のものは断面三角形を呈する。両者とも体部下半から底部の内外面をヘラケズリするが、小型のものには体部外面上半のハケメが認められず、未調整のままである。1700は体部下半のヘラケズリが口縁部近くまで及び、1704の内面のナデはハケメ状になる。大型のものには、1709のように頸部の屈曲のないものと1718のように「く」字に屈曲するものがある。1722のように内面の工具ナデがハケメ状となるものもある。

1725～1727は土師器の茶釜で、1725では両耳が確認でき、1727には片口が設けられている。1728は偏平な形態で土師器の焙烙としておく。1729は唯一図示できた羽釜である。

1730～1740は陶器、1742は頁岩の砥石である。1741は灰釉陶器で、明らかな混入遺物である。1730・1731は天目茶椀で、1730の底部ちかくには錆釉が施される。1732は見込みに菊花文を印刻した皿で、内外面に直接重ね焼きの痕跡を残す。1737は陶器の鉢であるが､内面に「×」の記号が記されている。

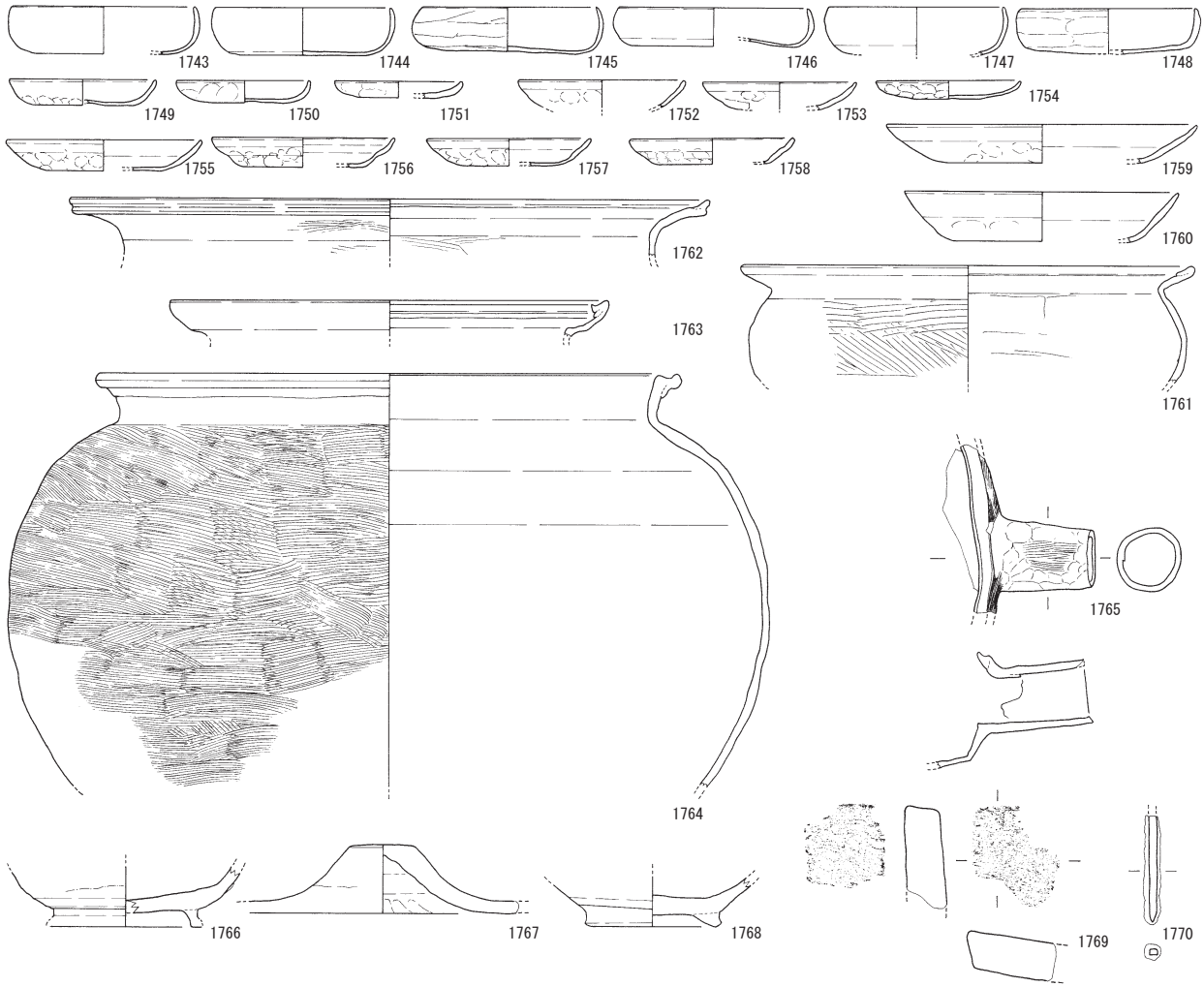
(81) ＳＤ３６００７出土遺物（第117図）

1743～1760は土師器の皿、1761～1763は鍋、1764は大型の茶釜、1765は十能の把手、1766は施釉陶器の皿で見込みには多重圏線を印刻する。残存部が少なく、何を描いたかは不明である。

1743～1748は、内弯する口縁部をもつ大型の皿、1749・1750も同様なものであるが、口径・器高とも縮小している。1756～1758は底部から屈曲して蛇行気味に外方へ立ち上がる口縁部を呈する皿である。1755や大型の1759・1760も同様と思われるが、口縁部の蛇行は殆どなく直線的である。1751は器高が低く偏平な形態の小型皿、1752～1754はこれまでの分類のいずれにも属するような曖昧な形態を呈している。

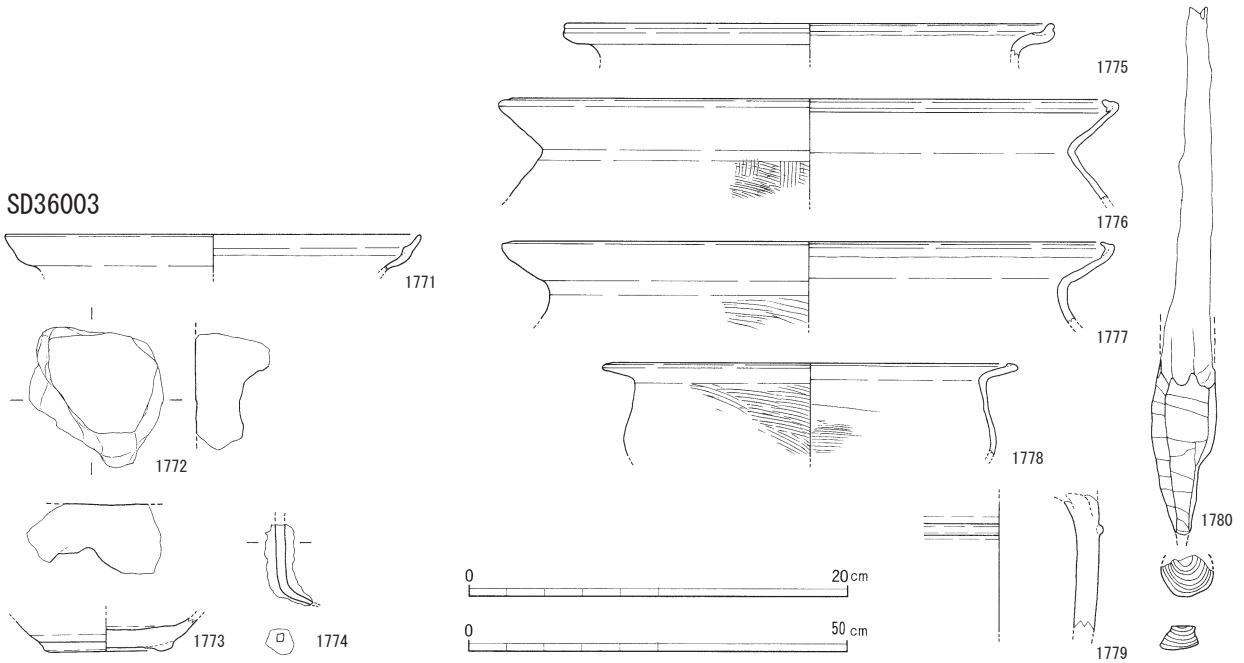
1767は弥生末～古式土師器の蓋、1768は山茶椀、1769は酸化焼成の平瓦、1770は鉄釘である。1770を除き、混入遺物と考えられるものである。

SD36007



SD37011

SD36003



第117図　SD36003・36007・37011出土遺物（1780 ＝ 1 ：10、他は 1 ： 4）

(82) ＳＤ３６００３出土遺物（第 117 図）

1771 は土師器の鍋で、口縁端部を内に折り返し強いヨコナデを施す。1772 は土製品の小片である。酸化焼成されており、剥離面は疑口縁を呈する。質感は瓦と異なることもあり、磚としておく。1773 は山茶椀で混入遺物と考えられ、1774 は鉄釘である。先端が曲がるが、使用の結果であろう。他に土師器皿や口縁端部が断面三角形を呈する土師器鍋の小片が出土している。

(83) ＳＤ３７０１１出土遺物（第 117 図）

図示できたものは土師器の鍋（1775 ～ 1778）、瓦質土器の火舎（1779）、木製の杭（1780）であるが、他に土師器皿の小片も出土している。土師器鍋は大型のものと小型のものがあるが、大型のものの口縁端部は断面三角形を呈している。瓦質土器の火舎は小片のため不明な部分も多いが、体部の屈曲部に突線を１条巡らす。風炉か浅鉢の一部であろう。

(84) ＳＤ３８０４３出土遺物（第 118 図）

出土遺物の大半を土師器の皿・鍋が占める。ほぼ完形の土師器鍋（1791）をはじめ、土師器皿にも残存度が良好なものが多い。

土師器皿には内弯する口縁部をもつものと底部から屈曲し蛇行気味に外方へ立ち上がる口縁部をもつものがある。前者には大型のもの（1781・1782）と小型のもの（1783・1784）がある。後者（1785 ～ 1787）は口径・器高とも多様である。調整は両者とも外面未調整、内面ナデを基本とするが、外面にナデを施すもの（1781・1782）や内面のナデに工具痕を残すもの（1783・1785）がある。

1788 ～ 1794 は土師器の鍋、1795 は羽釜である。鍋には口径 30㎝を超える大型のもの（1792 ～ 1794）と 25㎝程度の小型のもの（1788 ～ 1791）がある。小型のものは頸部の屈曲がなく、半球状の形態を呈する。外面をハケメ、内面を工具によるナデで調整するが、内面のナデがハケメ状を呈するものがある。

1796 は瓦質土器の風炉、1797 は天目茶椀、1798 は施釉陶器の鉢、1799 は陶器の鉢、1800・1801 は陶器の壺である。1797 の底部外面は露胎となる。

(85) ＳＤ３８０７９・３８０８０出土遺物（第 119 図）

土師器や陶器が出土しているが、土師器皿が圧倒する。各遺構で出土している土師器鍋は出土していない。

1802 ～ 1805 は内弯する口縁部をもつ土師器皿のなかで、口径が９㎝前後の大型のものである。ただし内弯は緩慢で器高を減じ、全体的に偏平な形態を呈するものである。

1806 ～ 1844 は前述のものと比べ、口径が５～７㎝程度に縮小した小型のものである。しかし、器高の縮小はなく、前述のものより深い印象を与える。口縁部の内弯も明瞭な様相を呈している。ただし、1840 のように器高を減じたものもある。外面を未調整、内面をナデで調整することを基本とするが、1846 のように内面に工具痕を残すものや 1808 のようにハケメ状になるものもある。1830 の見込みには２条の圏線が巡るが、意図は不明である。また、1840 の外面の一部には板状の圧痕が残る。

1845 ～ 1849 は底部から直線的に外方へ伸びる口縁部で端部をやや尖り気味に収める大型の皿である。北勢方面で出土例のある京都系土師器とされる[2]ものに似る。

1850 ～ 1854 は陶器で、全て常滑のものである。1851 は底部内面に重ね焼きの痕跡があるため、鉢としておく。1855 は山茶椀で混入遺物である。

(86) ＳＤ３８０８７出土遺物（第 119 図）

図示できたものは土師器皿（1856）のみであるが、その他でも混入と思われる小片が出土するのみである。内弯する口縁部をもつものであるが、口径は６㎝未満まで縮小しているが、器高は保っている。

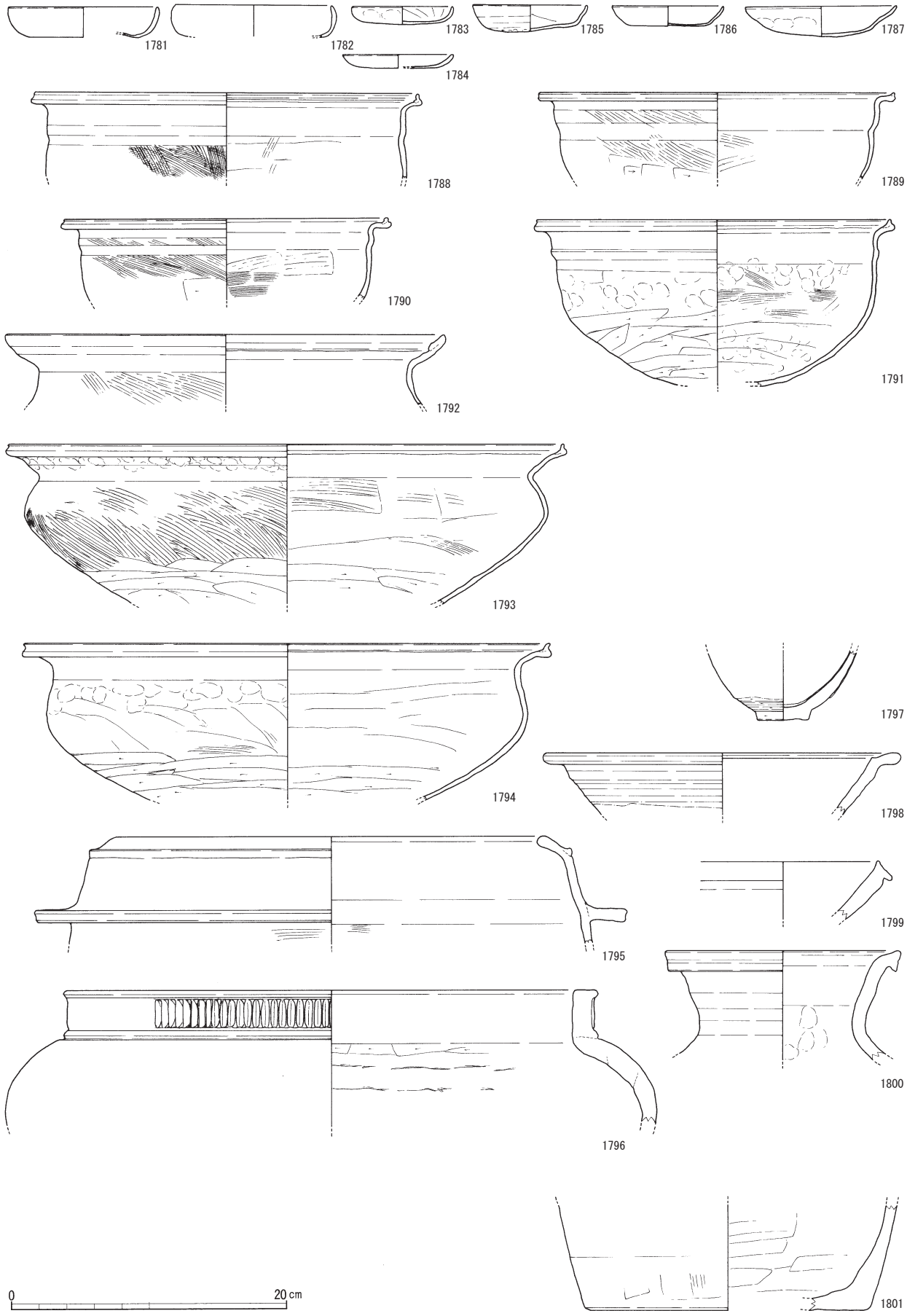
(87) ＳＤ３８０７３出土遺物（第 120 図）

1857 は内弯する口縁部をもつ土師器皿の小片であるが､器高を保っている。1858 は小型の土師器鍋、1859 は大型の鍋で口縁端部の断面は三角形状を呈する。1860 は陶器の鉢、1861 は施釉陶器の椀としたが、雑な刷毛塗で見込みに灰釉を施したものである。質感は灰釉陶器に似るが、底部外面は糸切未調整のままで高台は付かない。

1862・1863 は山茶椀で混入遺物である。1864 は棒状の片麻岩であるが、残存部分に加工痕はない。両端が折れて欠損しているが、自然石の可能性も高い。

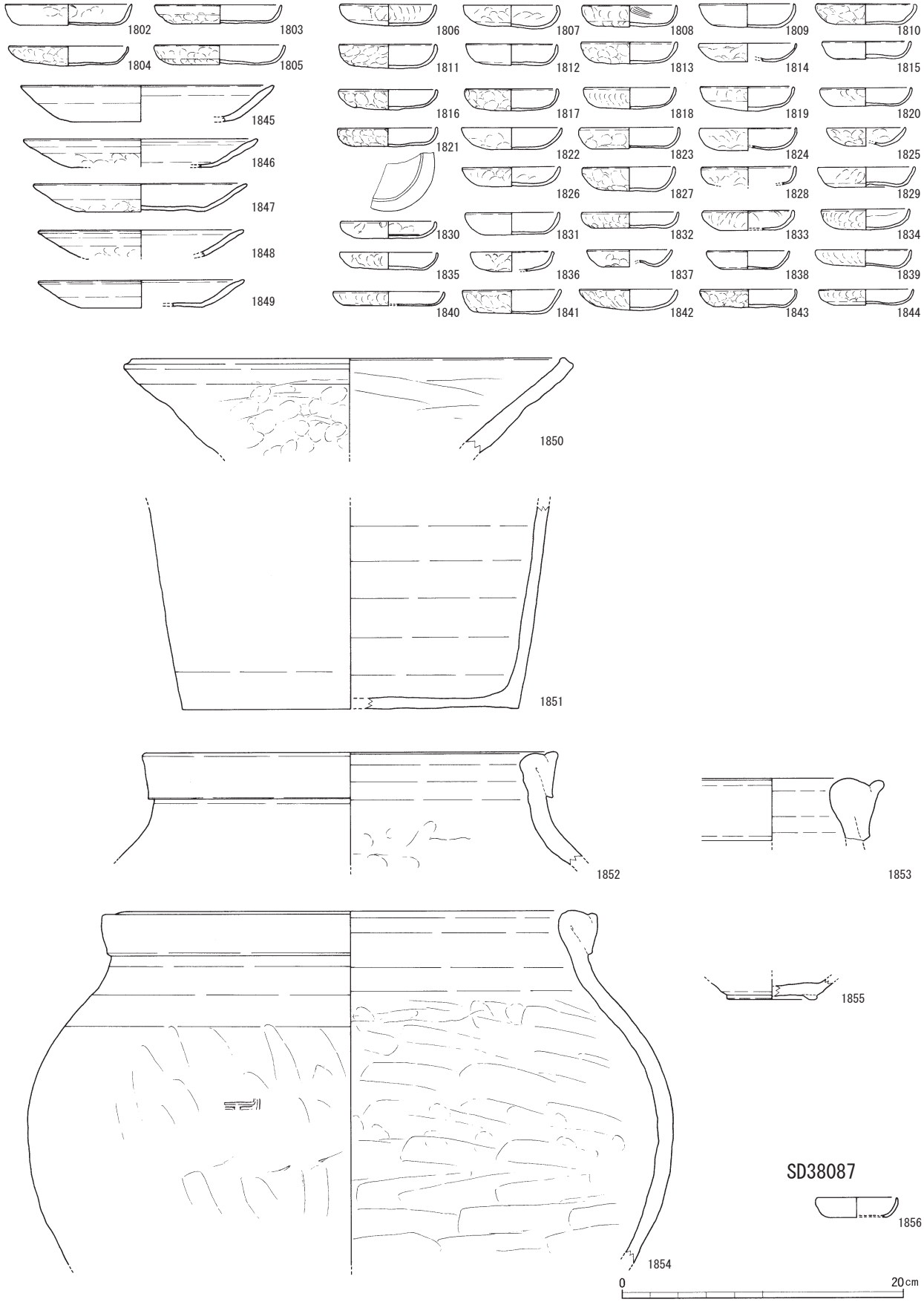
(88) ＳＤ３８０７８出土遺物（第 120 図）

この時期を示す遺物として図化できたのは 1867



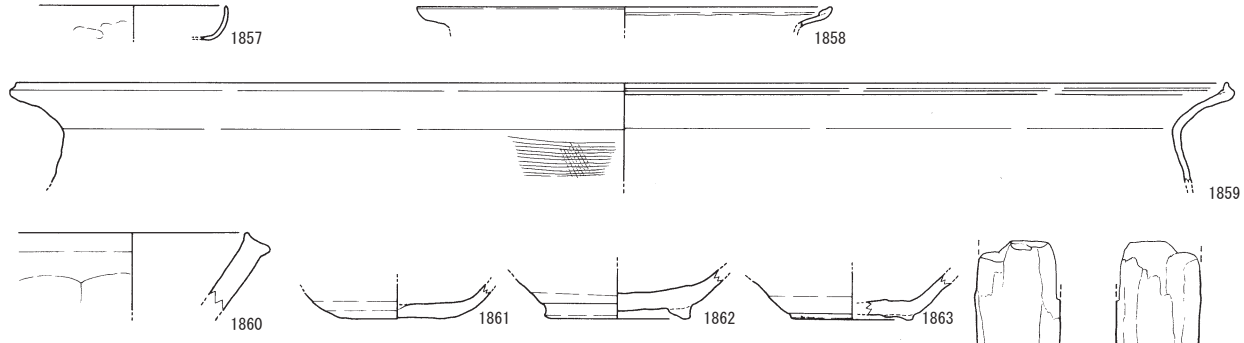
第118図　SD38043出土遺物（１：４）

SD38079・38080

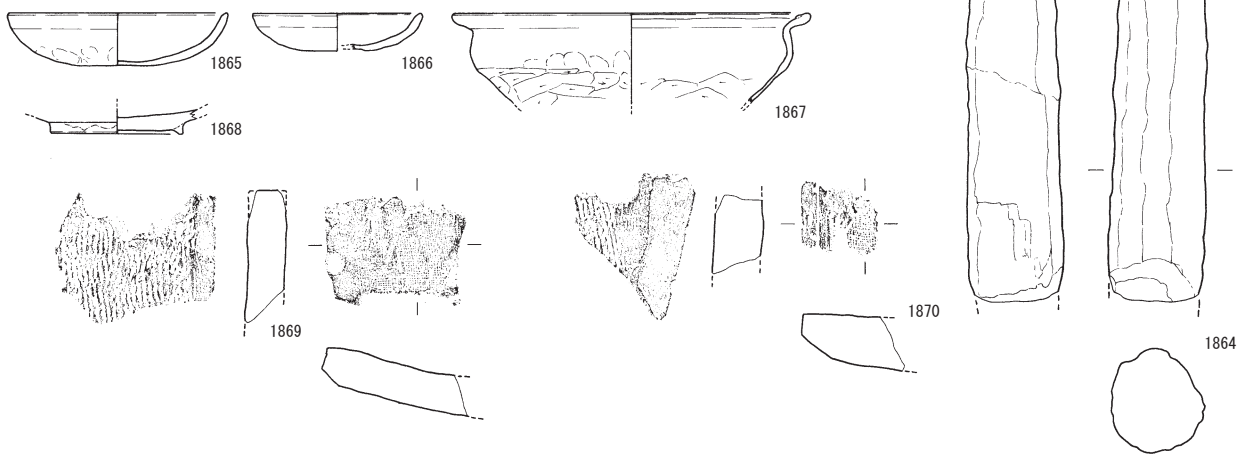


第119図　SD38079･38080･38087出土遺物（１：４）

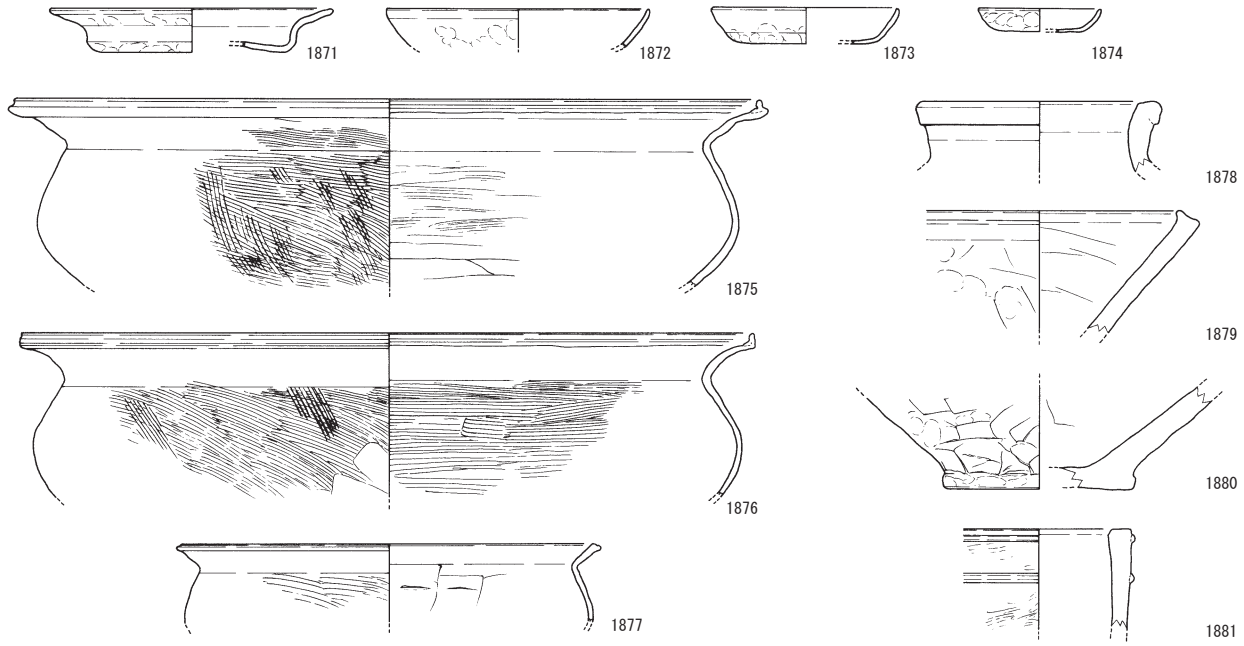
SD38073



SD38078



SD38066



第120図　SD38066・38073・38078出土遺物（１：４）

の土師器鍋のみである。小型の鍋で、他遺構から出土したものと同様に調整にハケメを用いていない。

1865は粗製椀で、平瓦（1869・1870）とともに奈良時代からの混入、土師器皿（1866）と灰釉陶器（1868）は平安時代からの混入遺物となる。

(89) ＳＤ３８０６６出土遺物（第120図）

1871は土師器の蓋、1872は内弯する口縁部をもつ皿であるが、内弯は緩慢でほぼ直線状になっている。1874は同様の小型のものである。1873は底部から屈曲して蛇行気味に外方へ立ち上がる口縁部をもつ皿である。1875・1876は大型の土師器鍋、1877は小型の鍋で、大型のものは口縁端部が断面三角形を呈する。1878～1880は陶器であるが、いずれも小片である。1881も小片であるが、瓦質土器の鉢で火舎と思われる。口縁部付近に２条の突線を巡らせるが、突線間は無文である。

(90) ＳＤ３８０５１出土遺物（第121図）

1882・1883は土師器の皿で、内弯する口縁部を呈する。1884は小型の土師器鍋、1885は土師器で皿状の形態を呈する。器壁は厚いが、外面に煤が付着することから火に掛けて使用されたものであるため、その形態から焙烙としておく。1886は施釉陶器の皿、1887は山茶椀、1888は陶器の壺で、1887は混入遺物である。

(91) ＳＤ３９００４出土遺物（第121図）

1889・1890は土師器の鍋、1891は茶釜、1892は施釉陶器の椀、1893は陶器の擂鉢の小片、1894は捏鉢の小片である。他遺構から多く出土している土師器皿の出土はない。土師器鍋は、頸部が屈曲するもの（1889）と屈曲のないもの（1890）がある。1892は加工円盤状に破断しているが、意図した可能性は低い。

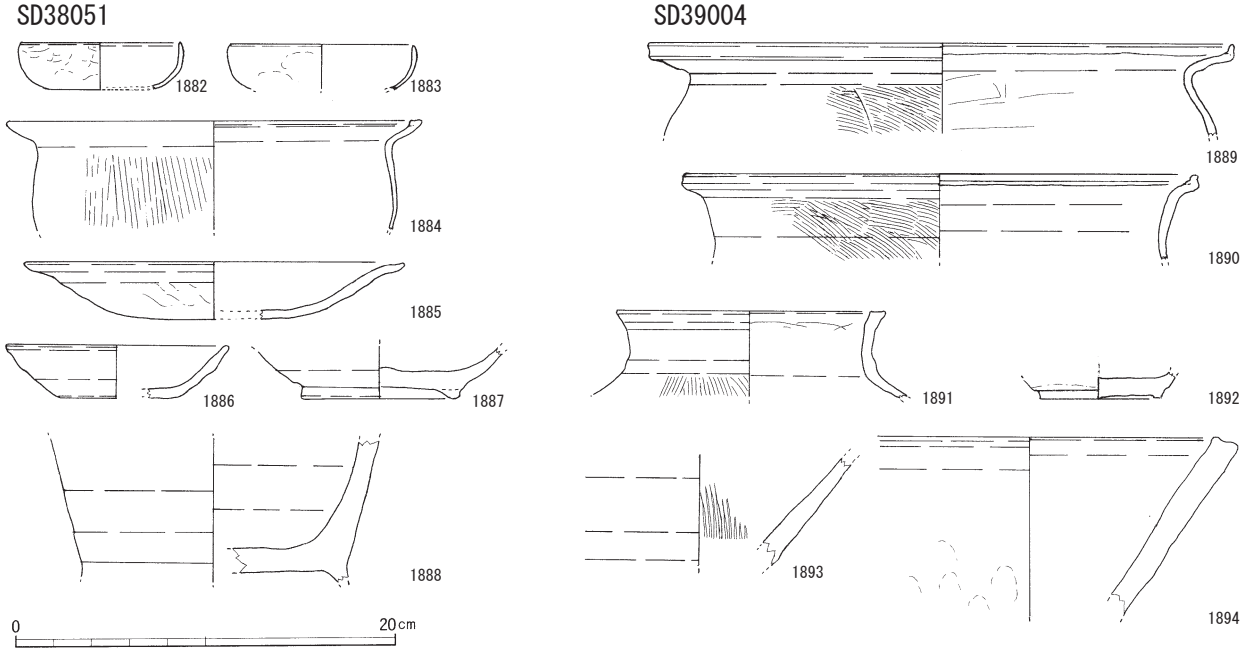
８．江戸時代の遺構出土遺物

江戸時代に限定できる遺構は少なく、出土の中心は８区と９区であるが、総量は少ない。当該時期とした遺構出土遺物においても室町時代の遺物が多量に混入するもの、近代以降に下る陶磁器類を含むものがある。

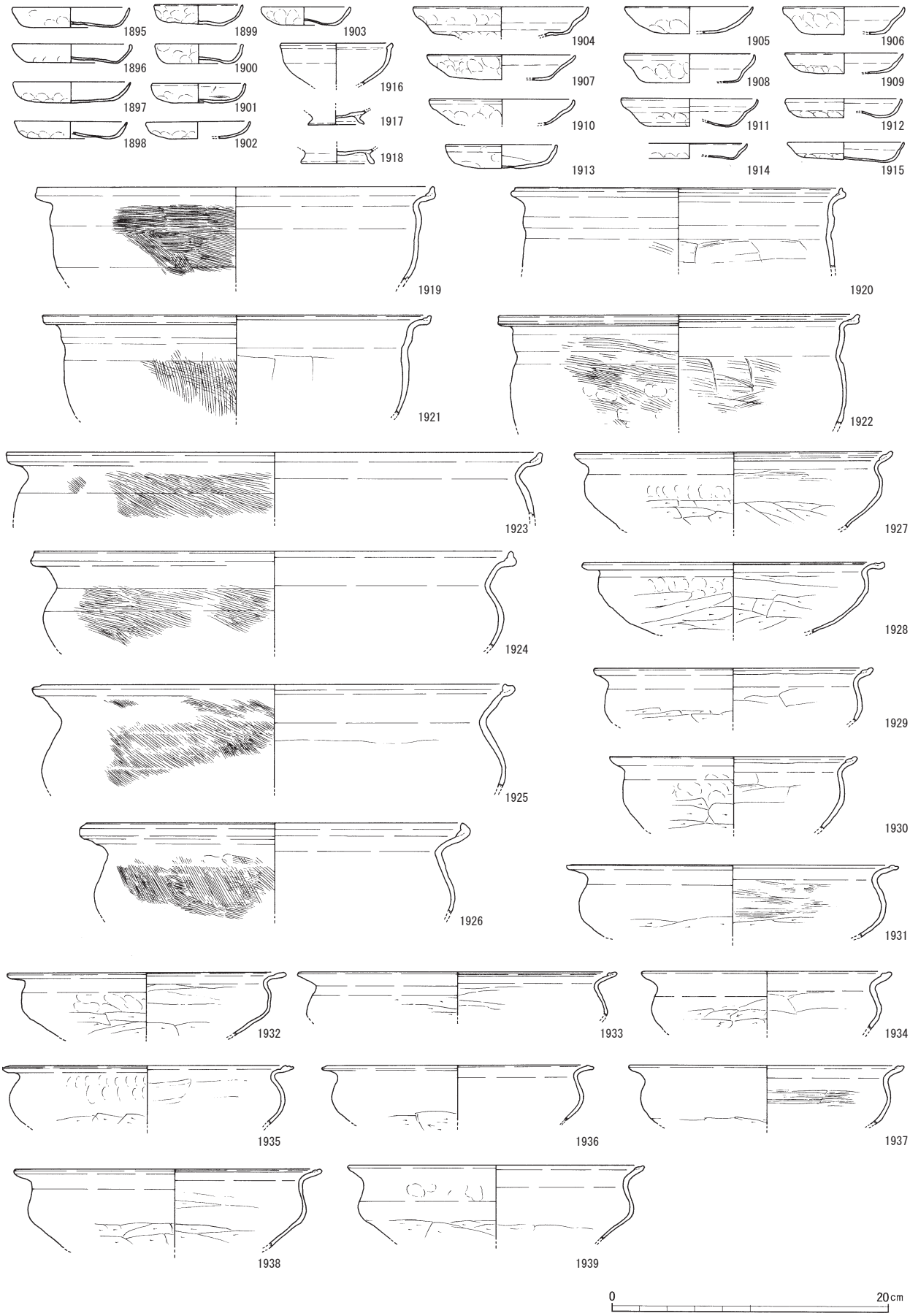
（１）ＳＤ３８０３８出土遺物（第122～124図）

重複する遺構ＳＤ38042からの混入と思われる室町時代の遺物が多量に混入し、江戸時代のものを圧倒している出土状況である。また、陶磁器類のなかには近代以降に下るものも見られる。

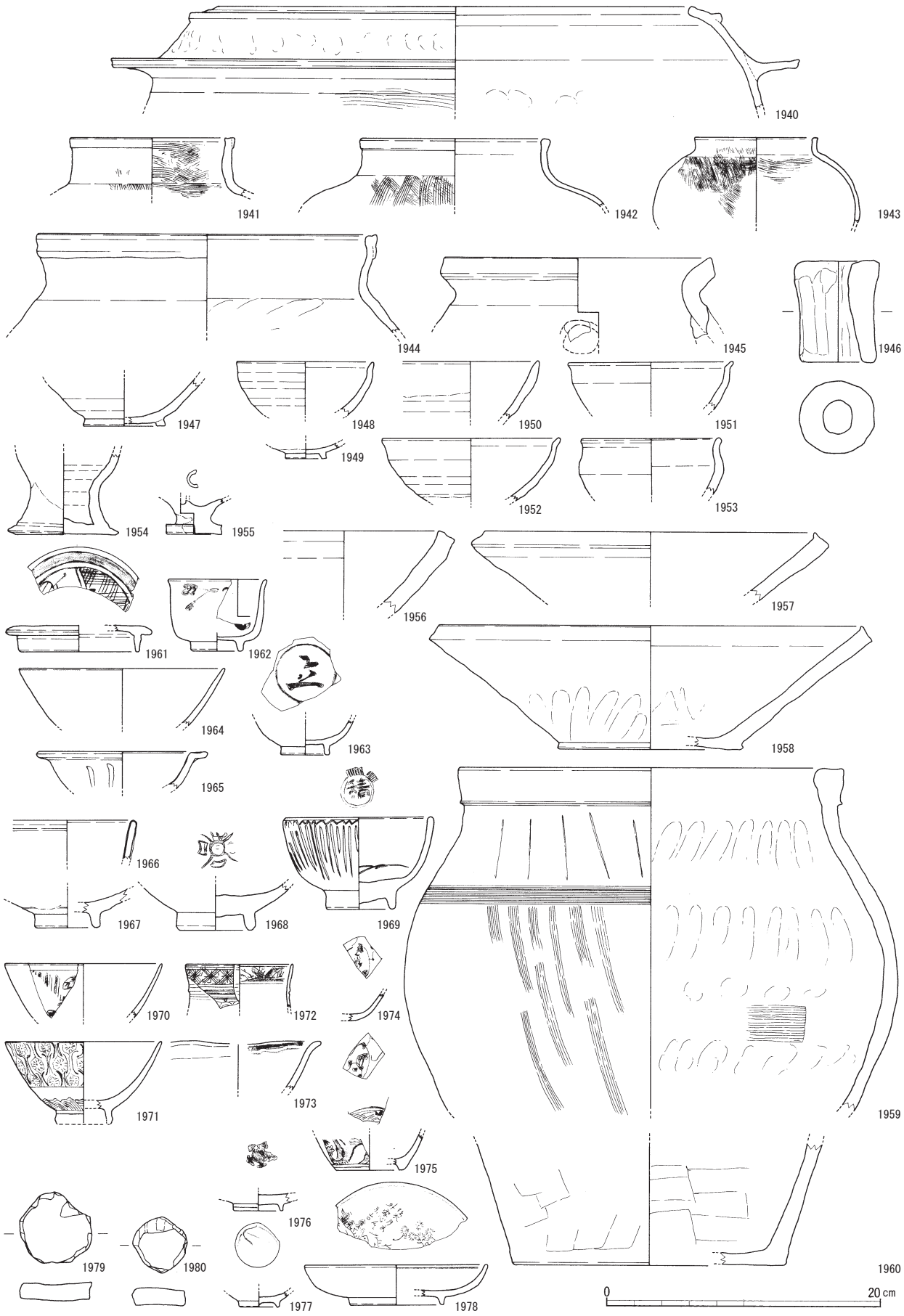
1895～1915は土師器の皿、1916～1918は椀で、全て室町時代のものと思われる。皿では、1895～1903は内弯する口縁部を呈するものである。器高を減じ内弯が緩慢なもので、後述するものとの識別



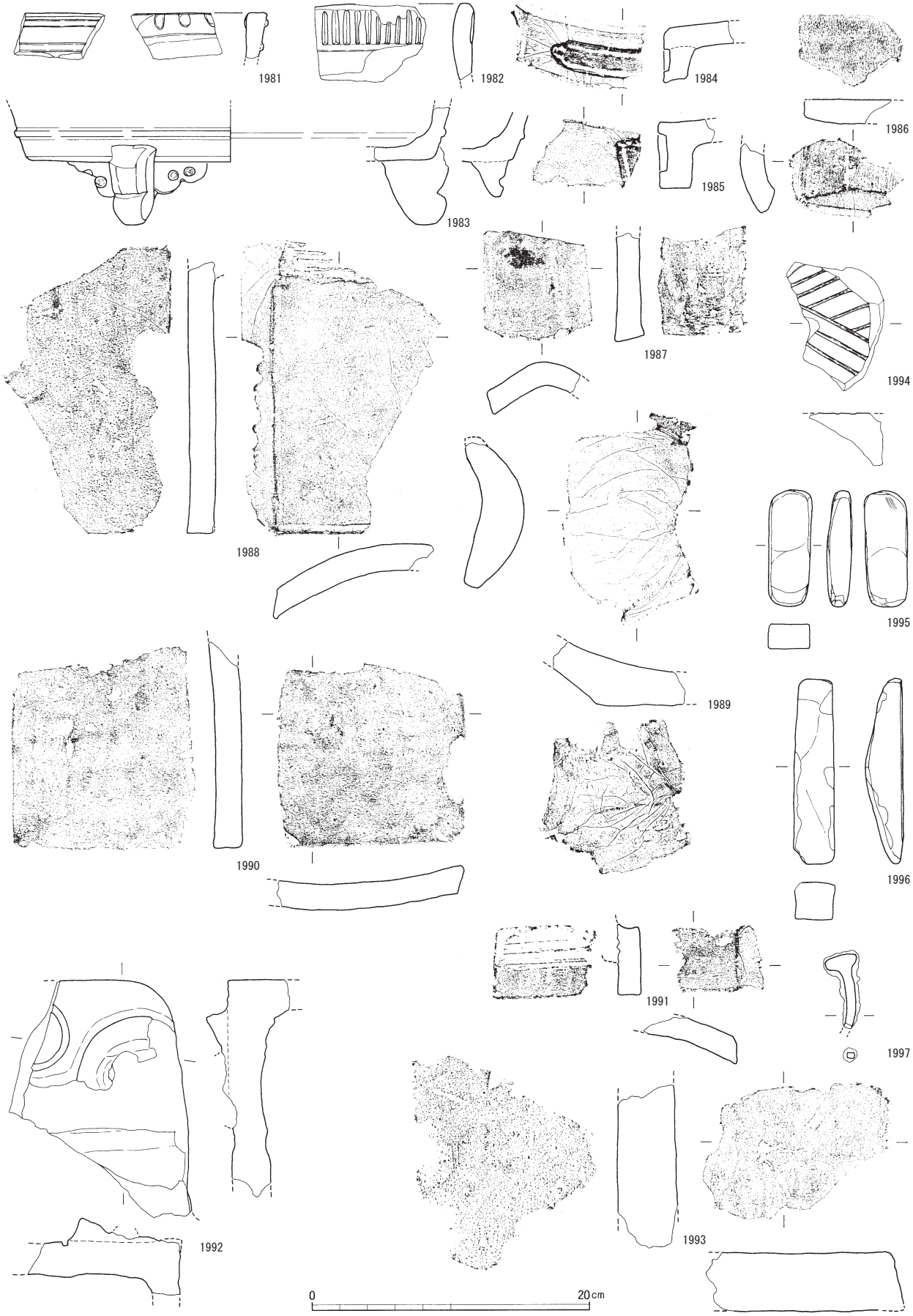
第121図　SD38051・39004出土遺物（１：４）



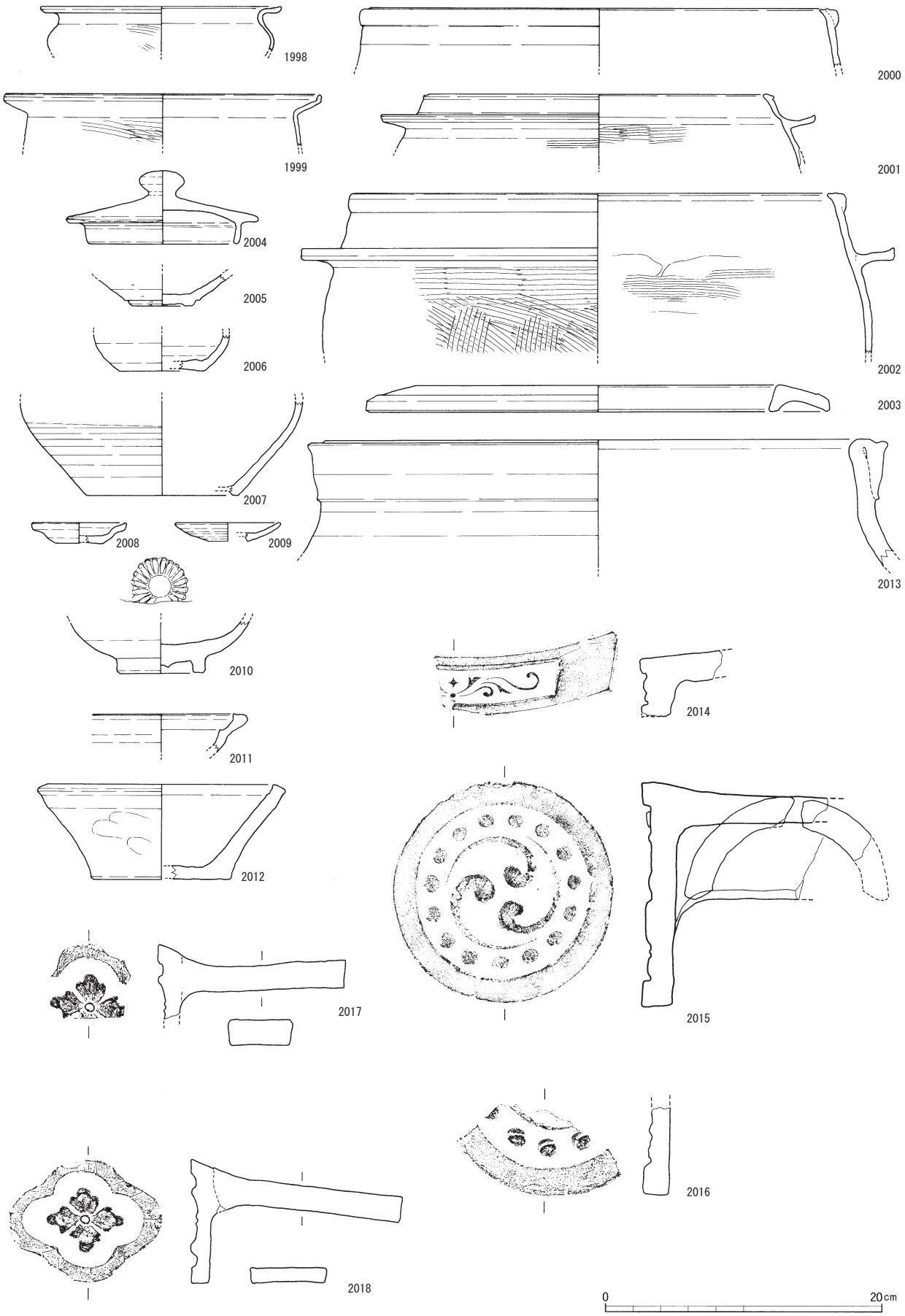
第122図　SD38038出土遺物①（１：４）



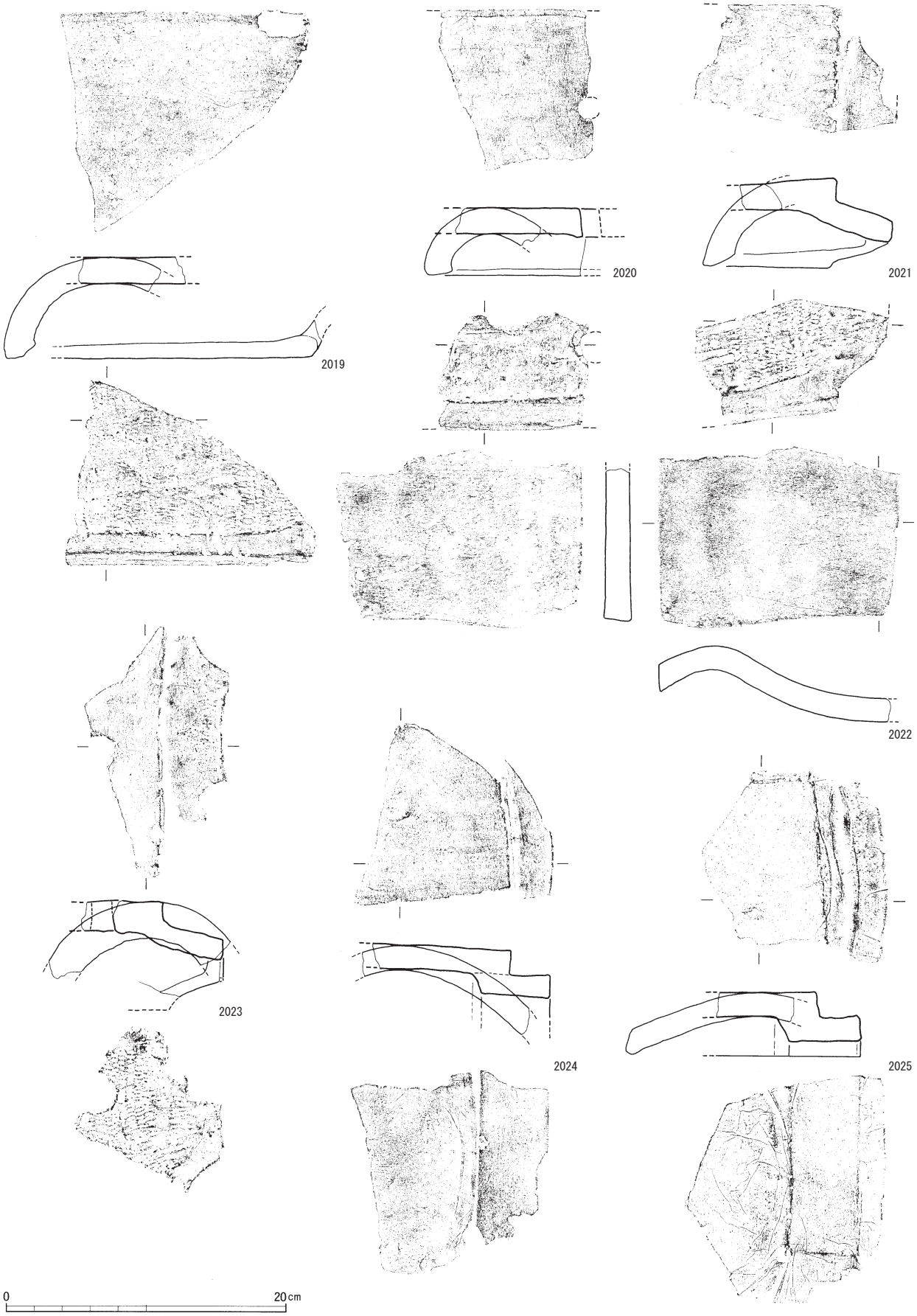
第123図　SD38038出土遺物②（１：４）



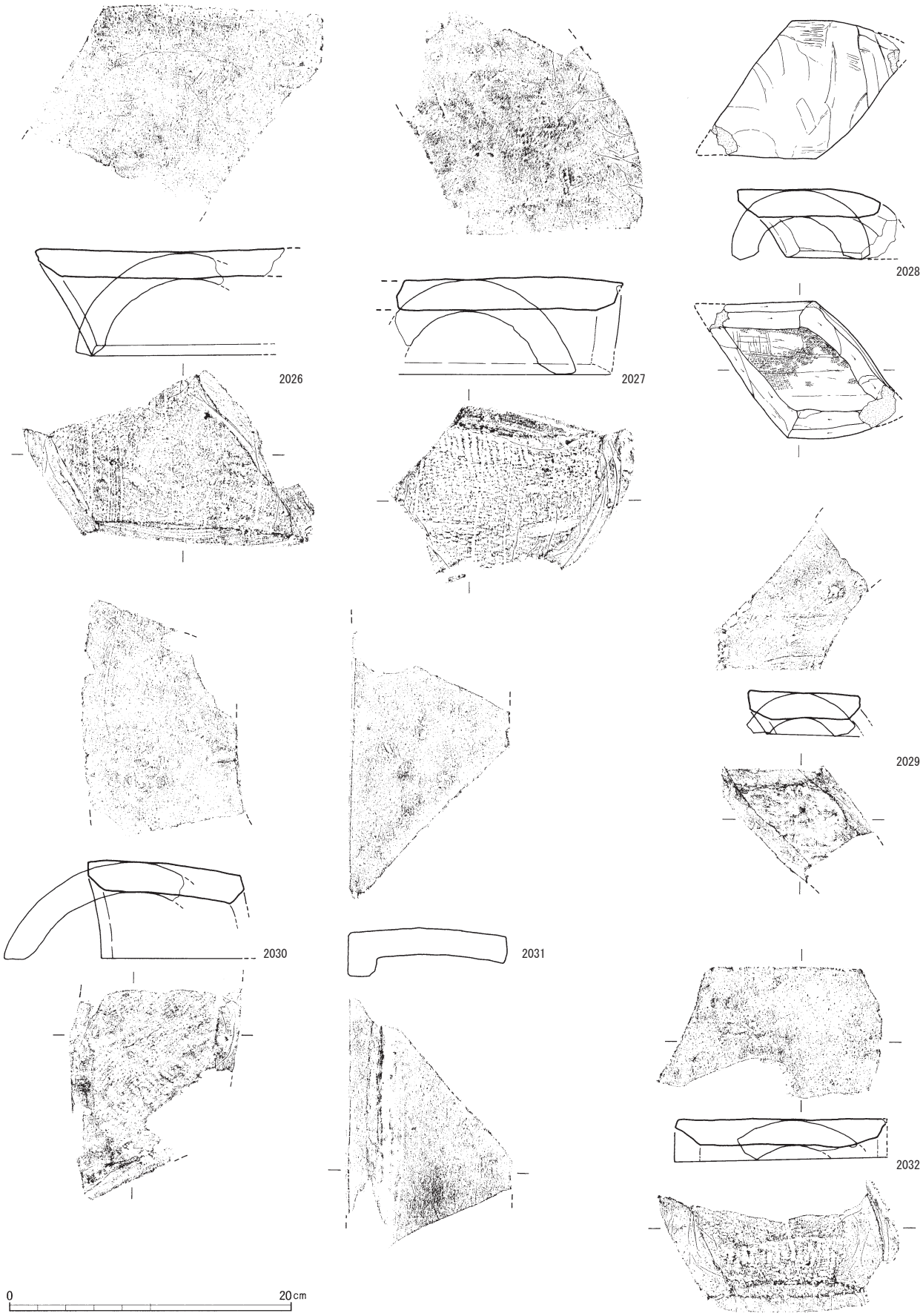
第124図　SD38038出土遺物③（１：４）



第125図　SD38026出土遺物①（１：４）



第126図　SD38026出土遺物②（１：４）



第127図　SD38026出土遺物③（１：４）

が困難なものもある。1904 ～ 1915 は底部から屈曲して蛇行気味に外方へ伸びる口縁部を呈するものであるが、口径・器高ともに多様である。

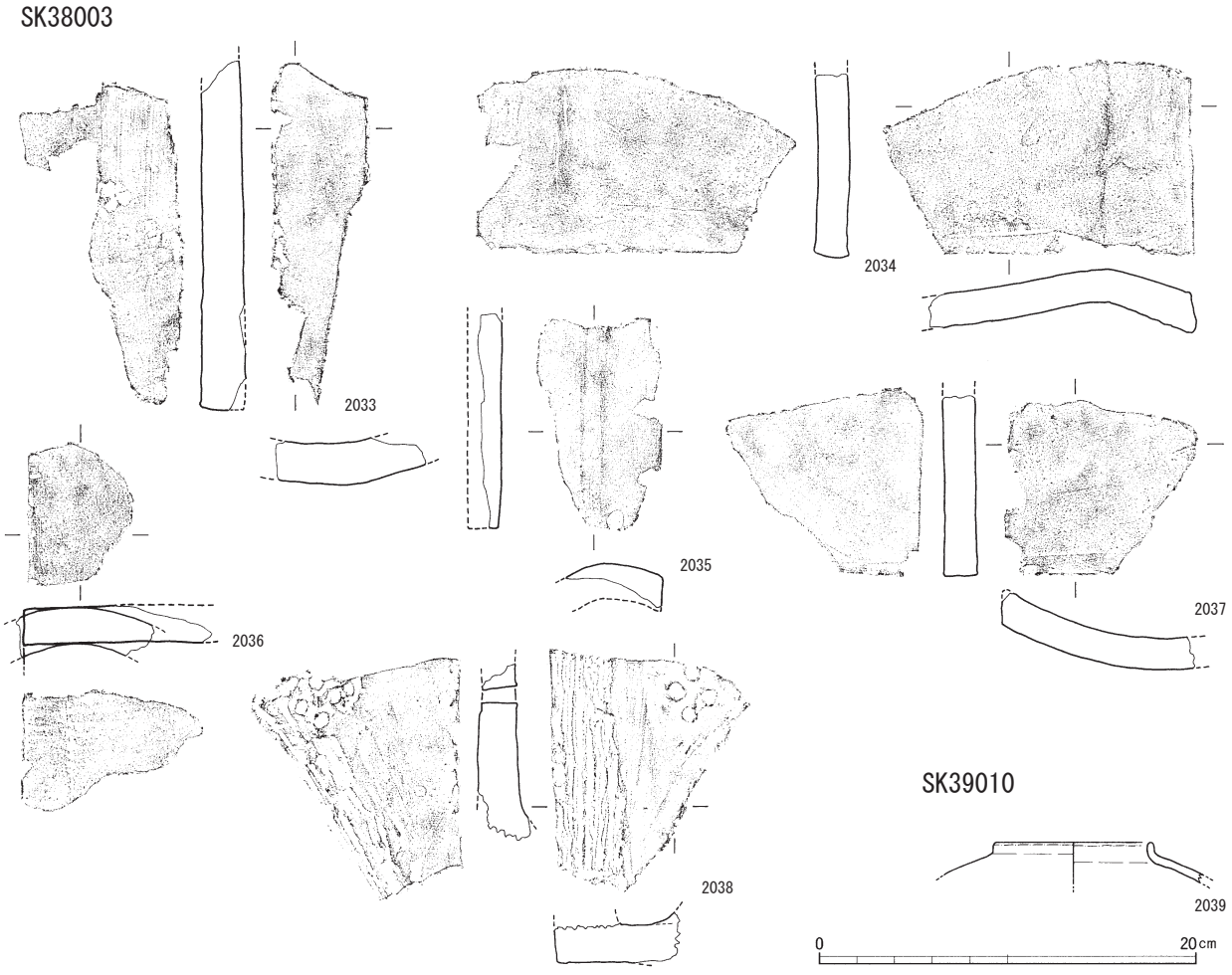
1919 ～ 1939 は土師器の鍋で、これらも室町時代のものと思われる。頸部が屈曲するもの（1923 ～ 1939）と直立気味のもの（1919 ～ 1922）があり、前者は大型のもの(1923 ～ 1926)と小型のもの(1927 ～ 1939）に明確に分かれる。外面の調整も大型のものはハケメ、小型のものは未調整となり両者で異なるが、小型のものは 1933 のように底部外面のヘラケズリが頸部付近まで及ぶものがある。

1940 は土師器の羽釜、1941 ～ 1944 は茶釜であるが、1944 は確認できる範囲内ではハケメの調整はない。これらも土師器皿・鍋と同様な時期のものであろう。

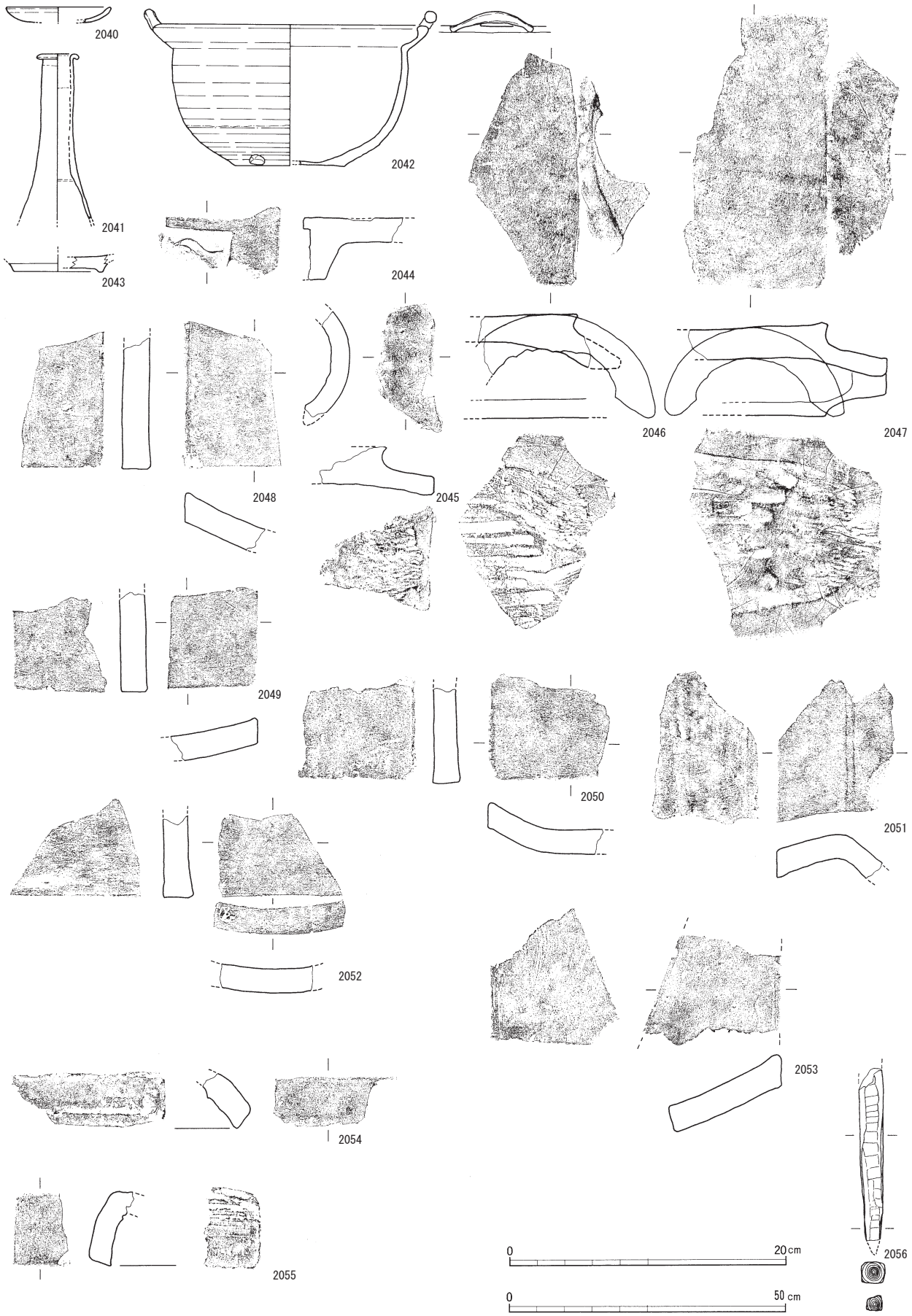
1945 は奈良時代の土師器甕に類似した形態であるが、器壁が異常に厚く質感は全く異なる。さらに肩部には円孔が空けられているようである。内面には煤またはスラグ状の物質が付着している。1946 は、側面が面取りされ多角柱を呈する。これも奈良時代の土師器高杯に類似する形態であるが、歪であり質感的には高杯脚とは全く異なる。両端も欠損とは考えられず、これで完形と思われる。支脚としたが、1945 が製鉄または鍛冶関係の容器とすれば、鞴の羽口の可能性もある。

1947 ～ 1963 は陶器で、施釉されるものもある。1947・1950 には灰釉が施され、1948 も同様と思われるが、焼成不良のためか、釉が沸騰している。1951 ～ 1953 は天目茶椀であるが、1952 の底部近辺には錆釉が施されている。1961 ～ 1963 は陶体染付であるが、1962 は近代以降に下る。四方襷や草花文で装飾されるが、1963 は見込みに「立」を記す。陶器甕 1959 の肩部にはカキメを一周施している。

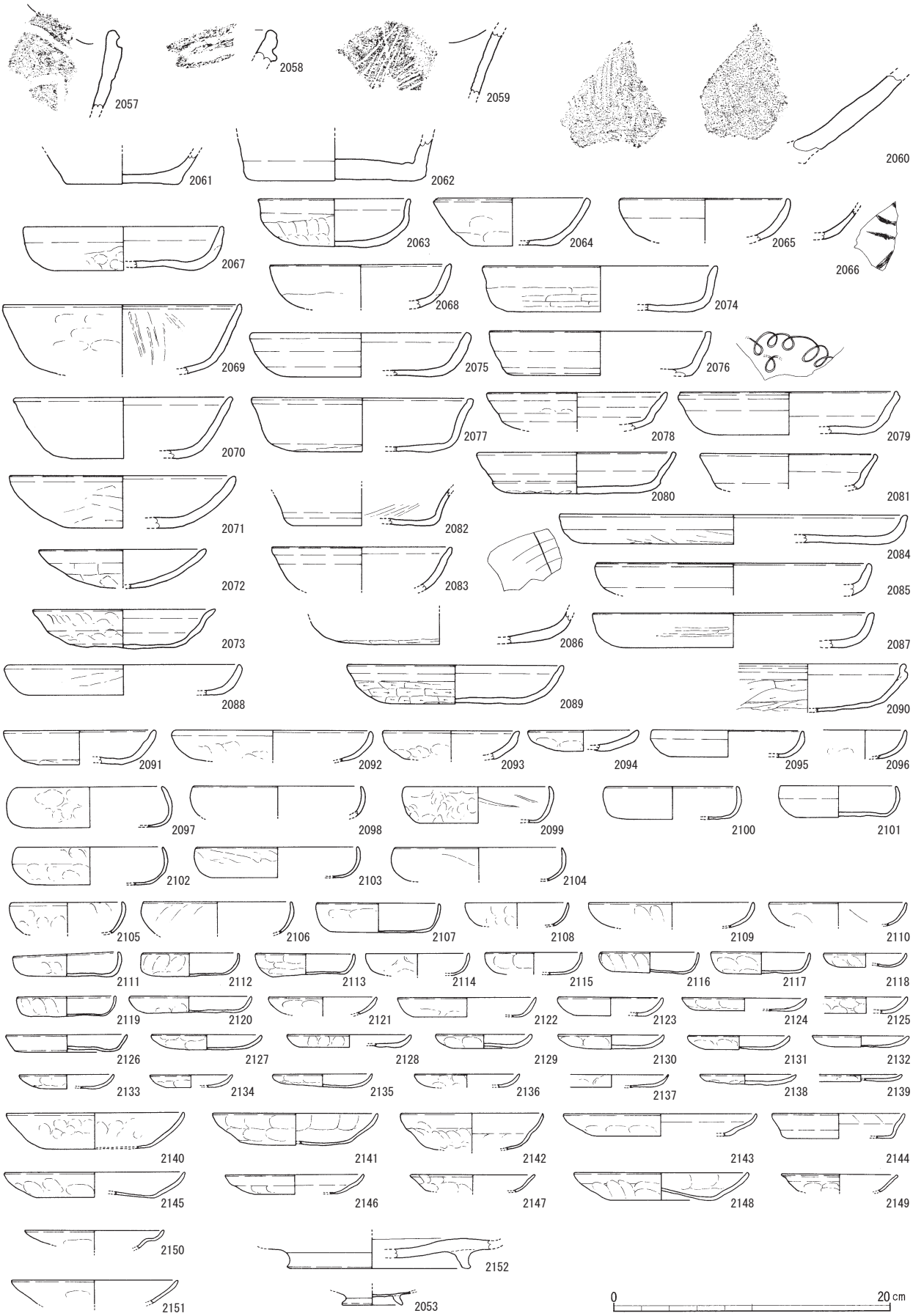
1964 ～ 1978 は磁器である。1965 ～ 1969 は青磁、



第128図　SK38003・39010出土遺物（１：４）



第129図　SK39012出土遺物（2056 ＝ 1 ：10、他は 1 ： 4 ）



第130図　包含層等出土遺物①（１：４）

1964 は透明釉であるが、口縁端部に僅かに呉須釉が認められる。これを含め他は染付である。1975 は見込みに絵柄を配置することから瓶ではなく猪口とした。なお、1971 の絵柄はプリントで近代以降、1978 もその可能性がある。

1979・1980 は陶器甕の体部を加工した円盤、1981 ～ 1983 は瓦質土器である。瓦質土器は小片のため詳細は不明であるが、1981 は火鉢、1982・1983 は風炉と思われる。1983 は３脚に仮定して図化している。

1984 ～ 1992 は瓦である。いずれも小片のため詳細は不明であるが、表面には燻が掛かる。1984・1985 は軒桟瓦、1986 は丸瓦、1987 は桟瓦、1990 は平瓦、1992 は鬼瓦で、1989 は鳥伏間瓦、1988・1991 は角桟伏間瓦の一部に仮定しておく。1993 の表面にも薄く燻が掛かり、磚の一部であろう。1994 は石臼、1995・1996 は砥石、1997 は先端を欠損しているが、鉄製の角釘である。

（２）ＳＤ３８０２６出土遺物（第 125 ～ 127 図）

近世の瓦が多く出土し、各種の道具瓦もある。土師器鍋や羽釜、陶器類に室町時代に遡るものも多いが、土師器皿の出土はない。

1998・1999 は土師器の鍋、2000 ～ 2002 は羽釜で、室町時代に遡るものである。2003 はロクロ成形されているが土師質である。形態的には竈の天板に似る。

2004 ～ 2009・2011・2012 は陶器、2010 は青磁である。陶器類には灰釉を施すものが多いが、2004 は銅緑釉、2006 鉄釉または泥漿である。2007 は壺としたが、外面に煤の付着がある。2009 は底部を削り込むことにより底部外縁を高台状に仕上げた小皿である。灰釉を施すが、口錆状になる。

2014 ～ 2032 は瓦で、表面には燻が掛かる。2014 は軒桟瓦で均整唐草文、2015・2016 は軒丸瓦で瓦当は巴文である。巴文には圏線がなく、三巴と珠文で構成されている。2015 の頂部には釘穴があり、通された針金が残存する。2017・2018 は差し込み部が長いが、棟込瓦と思われ、花菱で装飾される。2019 ～ 2021・2023 は丸瓦、2022 は桟瓦で、2023 は頂部に釘穴が確認できる。2024・2025 は伏間瓦、2026 ～ 2032 は平行四辺形にちかい斜方向に切断されている形状から谷瓦類と判断したが､確証はない。また、図化方向の修正が必要なものもあるが、確証がないため現状のままとする。これらの瓦類にはゴザ状圧痕やコビキ痕がみられるものが多くある。

（３）ＳＫ３８００３出土遺物（第 128 図）

出土したものは全て瓦で燻が施されるが、小片のため不明確なものも多い。2033 ～ 2035 は桟瓦、2036 は丸瓦、2037 は平瓦である。2038 は小片で剥離部分も多く不明確なものであるが、一応、拝本軒瓦の小片としておく。固定のため針金等を通すためであろうか、小孔が４ヶ所空けられている。しかし、空けられた場所が集中しており、その目的に疑問が残る。

（４）ＳＫ３９０１０出土遺物（第 128 図）

中世の土師器皿や鍋の小片も出土しているが、図示できるものは土瓶の口縁部（2039）のみである。口縁部内外面に灰釉にちかい透明釉が施されるが、口唇部は口錆状になる。

（５）ＳＫ３９０１２出土遺物（第 129 図）

出土遺物の大半は瓦であるが、若干の土器類も出土している。2040 は土師器皿であるが、器壁が厚く混入遺物の可能性がある。2041 ～ 2043 は陶器で 2041・2042 は鉄釉、2043 には灰釉が施される。2043 には豆粒状の脚が付くが、脚は残存範囲で１ヶ所確認できたに止まる。

2044 ～ 2055 は瓦で全てに燻が掛かかる。2044 は軒平瓦としたが軒桟瓦の可能性もあり、平瓦とした 2048 ～ 2050・2052 も同様に桟瓦の可能性がある。2054・2055 は小片であるが、冠瓦の側面とした。

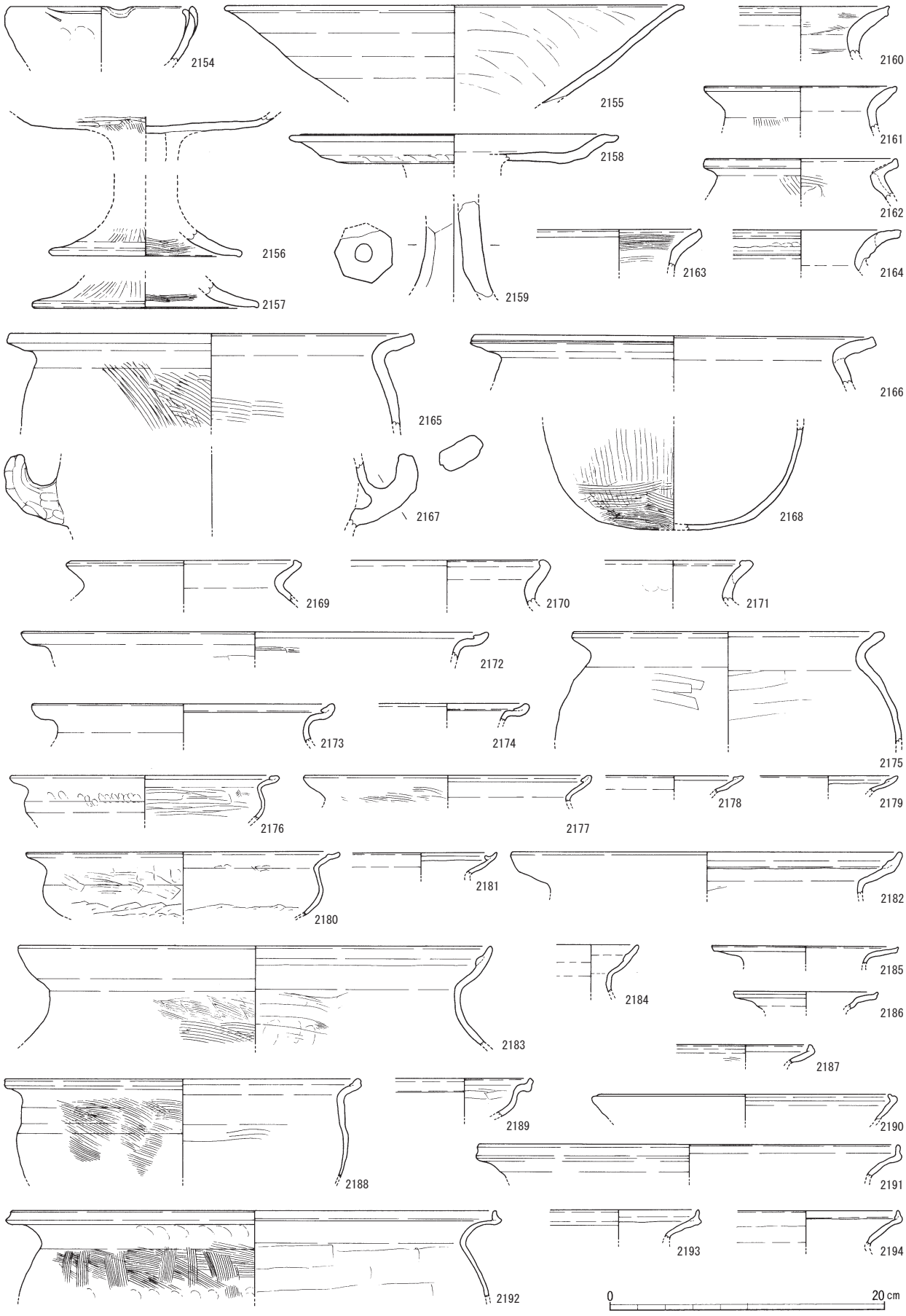
2056 は木製の杭で、おそらく角材を転用したものであろう。

９．包含層等出土遺物（第 130 ～ 135 図）

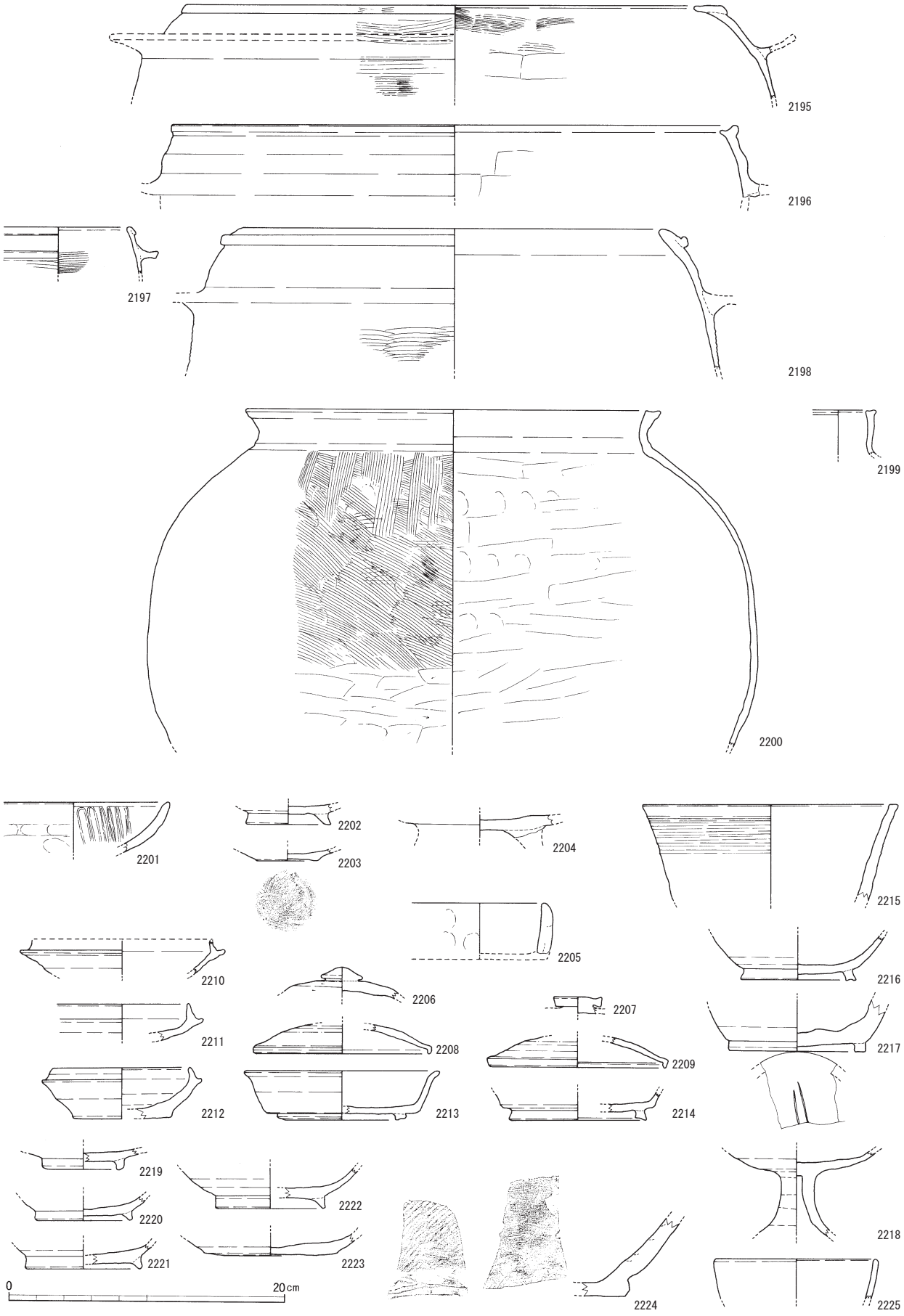
包含層等の遺構に伴わない遺物や攪乱坑、遺構混入遺物の一部もここで扱う。

縄文土器　2057 ～ 2062 があるが、いずれも小片である。2057・2058 は口縁部片であるが、両者とも波状口縁、2059 も波状口縁を呈するものと思われる。2057・2058 は太く深い沈線が刻まれ、2059 は条線を施している。

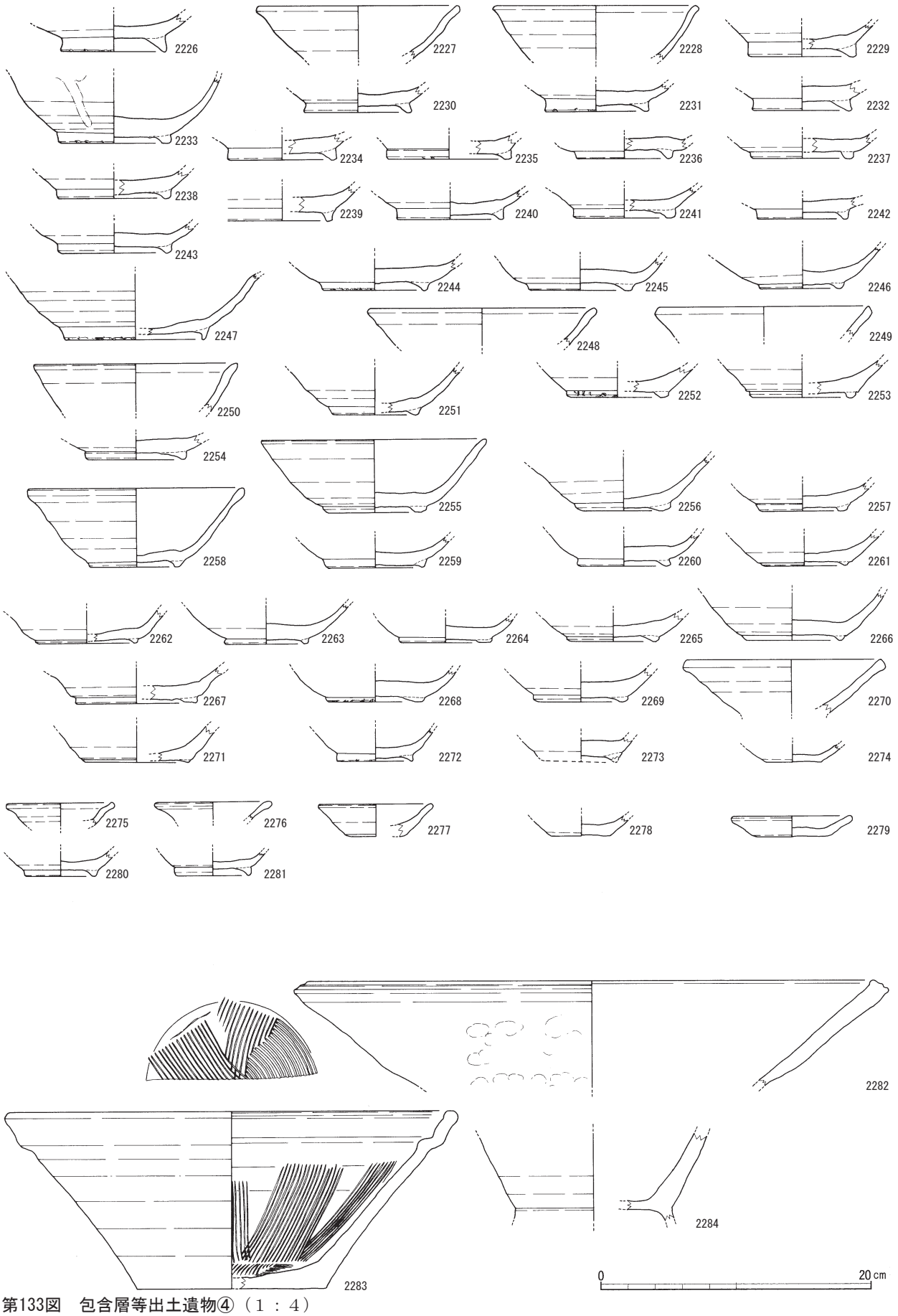
土師器　2063 ～ 2072 は粗製の椀であるが、器高が高く半球形にちかい形態のもの（2063 等）から器高を減じ杯にちかい形態を呈するもの（2067 等）まで多様である。口縁部は内弯もしくは直線状を呈



第131図　包含層等出土遺物②（１：４）



第132図　包含層等出土遺物③（１：４）



第133図　包含層等出土遺物④（１：４）

するが、2063は口縁端部が外反する。調整は内面をナデ、外面を未調整とするが、2064・2067の内面には工具痕が残る。2069・2072の内面にはヘラミガキが施されている。2063の内面には炭化物が付着し、2066の底部外面には墨画があるが、小片のため何を表しているかは不明である。

2073～2083は杯で、底部外面をヘラケズリで調整するものが多いが、2073・2082は未調整のままである。2079の内面には螺旋暗文が確認できる。

2084～2089は、器壁が厚く口径15cmを超える大型の皿である。底部外面をヘラケズリで調整するものが多いが、2087の外面はヘラミガキで調整される。2086の内面には線刻が刻まれる。

2090も大型の皿としたが、器壁が薄く口縁端部の形状も既述したものと異なる。外面のヘラケズリは強く、口縁部付近まで及ぶ特異なものである。

2091も同様な皿であるが、口径は縮小しており、2092は器壁が薄く口縁部は内弯気味である。2093・2094はさらに口径が小さく、小型の皿であるが、器壁は厚い。これらの底部外面は未調整のままである。

2095～2123は内弯する口縁部を呈する皿で、器壁は非常に薄い。口径10cm以上、器高２cm以上を測るものから、口径・器高ともに縮小したものまである。内面をナデで調整し、外面は未調整のままである。2110の内面には工具痕を残し、2120は非常に強いナデとなる。

2124～2139も前述のものと同様な口縁部形態を呈する皿であるが、器高が極限まで縮小したものが多く、偏平な形態となっている。調整も同様であるが、2129の内面には工具痕を残し、2138の外面には植物圧痕がある。2125は焼成不良のためか、内面全面が黒斑状になっている。

2140～2151は底部から屈曲し蛇行気味に外方へ伸びる口縁部をもつ皿であるが、調整等の特徴は既述したものと同様である。

2152は高台をもつ皿で、器壁は厚い。2153は小型の高台で、器壁も薄いものである。欠損する上部は小椀状のものが付き、椀としてきたものである。

2154は椀または鉢とすべき形態であるが、口縁端部の一部を指で内側に倒している。注口とは逆向きで、雑なものであることから意図したものかどうかは不明である。口縁端部外面に無造作な沈線を施すが、一周巡らず、沈線というよりは工具痕にちかい。

2155は大型の盤、2156～2159は高杯で、2159は７面に面取りされる。

2160～2171は甕である。2160は頸部が肥厚し、口縁端部外面に鋭利な面をもつ古相のもので、2169～2171は口縁端部を内に折り返す傾向を示す。2164の口縁部外面には工具痕があり、ヨコナデを工具で行った可能性がある。

2172～2194は土師器の鍋であるが、2175は甕とすべき異質なものである。調整も内面は基本的に工具ナデ、外面は未調整であるが、一部に棒状工具によりナデを雑に施す。2185・2186は口径が小さく、頸部はさらに細くなる。小片のためどの様な体部となるかは不明であるが、壺とすべきものである。

2195～2198は羽釜、2199は茶釜、2200も茶釜としたが、鍔や耳は確認できていない。

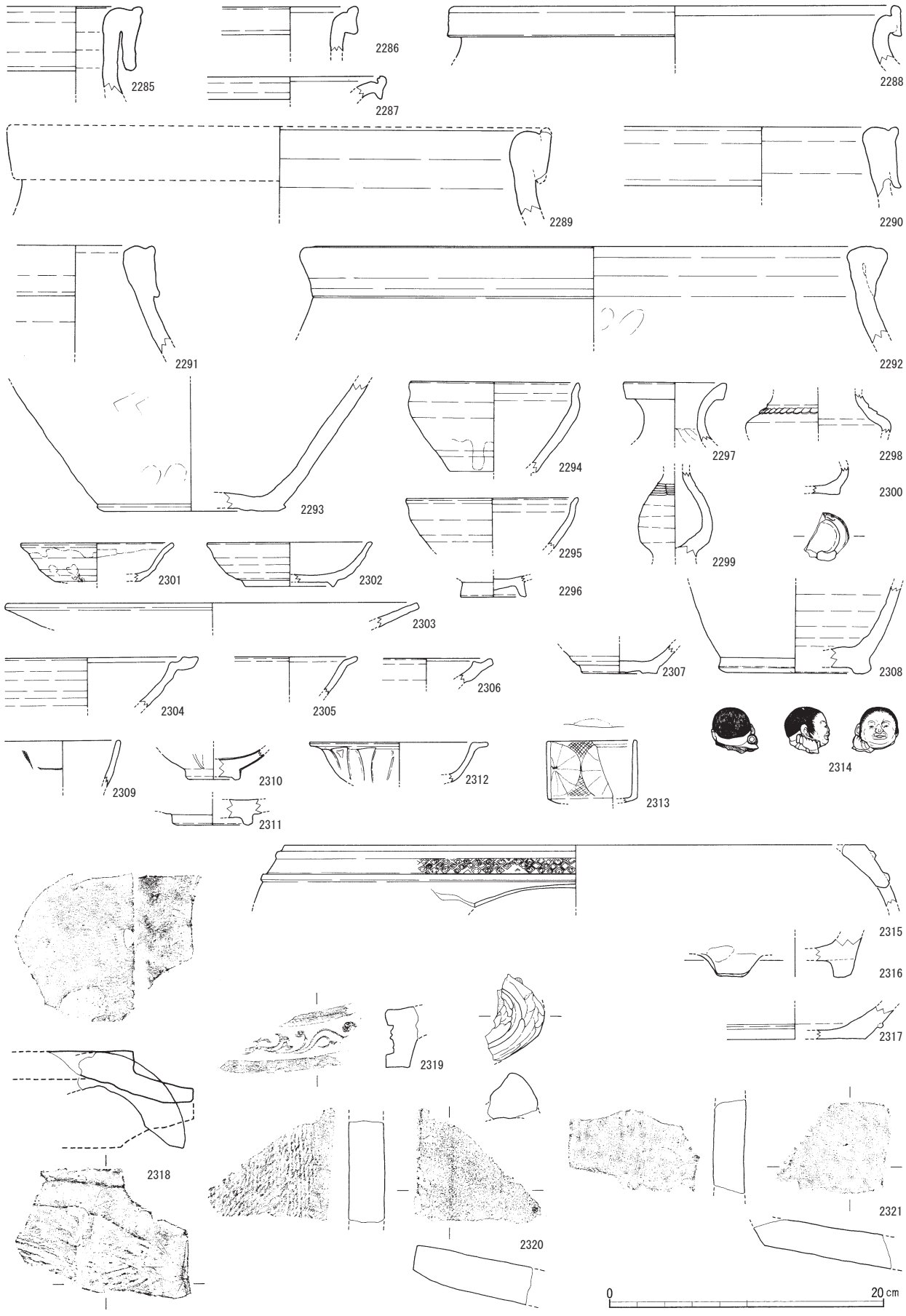
黒色土器　今回の調査全般をみても出土例の希少な器種である。2201は図示できた唯一のもので、Ａ類の杯である。

ロクロ土師器　いずれも底部片のため詳細は不明であるが、2202は椀、2203は皿としておく。2204は器壁が非常に厚い大型のもので高台は欠損している。鉢とすべきのものであるが、不均一な部分もありロクロ成形とするに疑問もあるが、底部には糸切痕が残る。

製塩土器　図示したものは2205のみであるが、小片のため口径は不明である。

須恵器　2206～2209は蓋で、2208・2209共に口縁端部の屈曲はみられない。2210～2212は受部をもつ杯、2213・2214は高台をもつ杯である。2212は焼成不良のためか、酸化焼成となる。2213の口縁端部は外反し、底部外面をロクロケズリで調整している。2215は壺としたが、平瓶等の口縁部かも知れない。その場合は大型の平瓶となる。口縁部外面にカキメを施す。2216・2217は壺の底部、2218は高杯である。2217の底部外面には焼成前にヘラにより平行線が刻まれている。

灰釉陶器　2219～2222は椀の底部片である。灰釉の状況は確認できないが、2219のみ底部外面をロクロケズリで調整する。2223も椀としたが、高台は



第134図　包含層等出土遺物⑤（１：４）

なく壺の可能性もある。2224は甕の底部片である。

緑釉陶器　2225のみで、椀の小片である。

山茶椀　2226～2274は椀、2275～2279は皿、2280・2281は皿または小椀であるが、大半は底部片で全体の形状が明確なものは少ない。口縁部形態が明確なものの内、2227のように端部が外反傾向を示すもの、2255のようにほぼ直線的なもの、2270のように直線的で外面に面をもつものがある。2227は僅かに輪花が設けられているようにも見える。底部では2226のように高く整った高台をもつもの、2267のように低く偏平なもの、2274のように高台のないものがある。2242・2247は山茶椀としては比較的均質なものである。2266・2273の高台は雑な貼り付けのためか、その大半が剥離している。全体をとおして内面が平滑なものや炭化物が付着するものが散見される。埋蔵環境によるものもあるが、硯に転用されたものもあるものと思われる。

皿にも高台をもつものと、高台をもたないものがある。比較的器高を保つ小椀にちかいものから2279のように器高を減じ偏平な形態のものまである。2275の口縁部には故意に灰釉が施されている。

陶器　2282は捏鉢と思われ、2283は擂鉢、2284は壺の底部としておく。2285～2293は甕で、2285のように縁帯が口縁部から離れるものと2291のように密着したものがある。

2294～2296は天目茶椀、2297は鉄釉を施す壺である。2298・2299も壺であるが、残存範囲では釉が確認できない。2299には灰釉が掛かるが、自然釉である。2298の肩部には波板状の突帯が巡る。2300の底部は円形、頸部は楕円形の特異な形態である。上半には鉄釉が施され、底部側面には豆粒状の粘土塊が付着する。脚を意識したものの可能性もあるが、偶然の付着としておきたい。2301～2308は施釉されたもので、2301～2303は皿、2304～2306は鉢、2307は椀、2308は壺である。

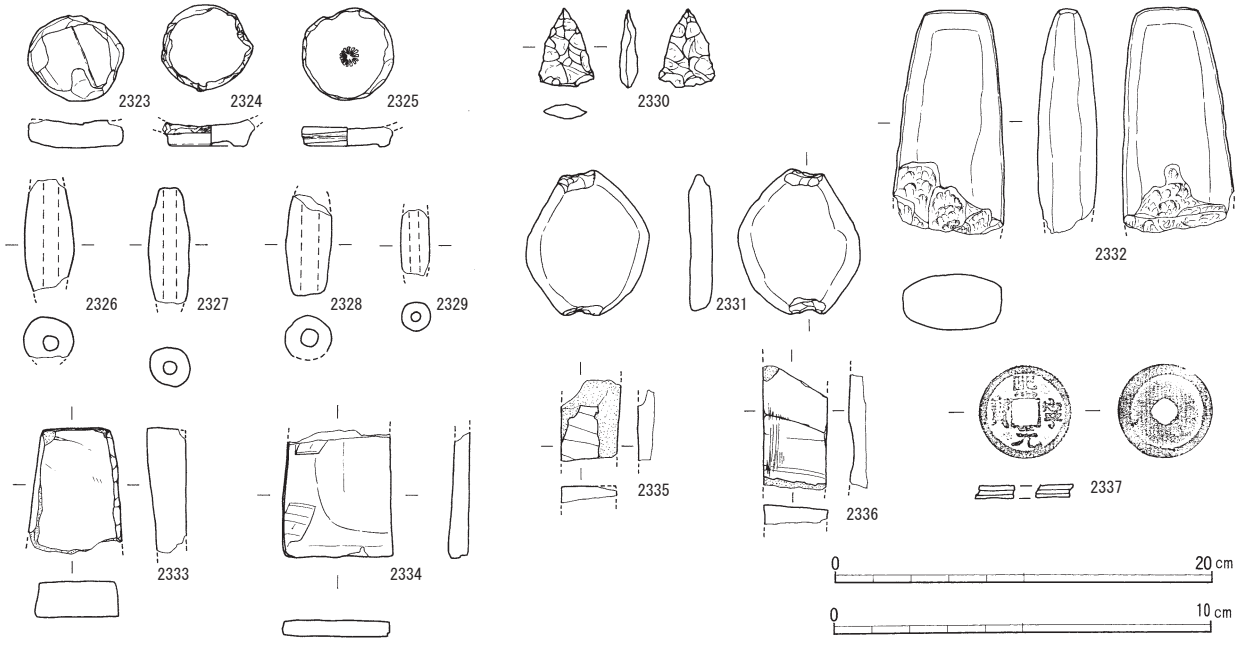
2314は陶質の人形で、たたら造と思われる。首まで持ち上げた右手には棒状のものを持っていたようである。

青磁　図示した2309～2312は椀である。ただし、2309は施釉陶器かどうか迷う。

磁器　筒形の染付椀（2313）のみである。外面に菊花文、見込みに圏線を描く。

瓦質土器　2315は体部に窓が設けられていることから風炉と思われる。口縁部に花菱文をスタンプにより施文する。2316は浅鉢の脚、2317は残存部に脚は認められないが、おそらく2316のような短い脚が付くものと思われる。

瓦　2318は丸瓦、2319は軒桟瓦で燻が掛かる。



第135図　包含層等出土遺物⑥（2330・2337＝1：2、他は1：4）

2320・2321は平瓦片で、2320は酸化焼成、2320も燻は掛けられていないものと思われる。2322は小片であるが、鬼瓦の一部と思われる。

加工円盤　2323は陶器甕の体部、2325は施釉陶器の底部を加工している。2324も施釉陶器の底部を加工したものである。天目茶椀と思われるが、釉の発色が不十分である。

土錘　2326～2329があるが、完形にちかいものは2327のみである。

石製品　2320は石鏃、2321は石錘、2332は石斧、2333～2336は砥石である。2332は定角式の磨製石斧であるが、刃部が欠損している。しかし、欠損部も刃状を呈する。

金属製品　2337の銭貨のみである。３枚が癒着しており、分離できない。最上部のものは「熙寧元宝」である。

［註］

① 伊藤裕偉「南伊勢・志摩地域の中世土器」『三重県史資料編 考古２』三重県　平成20年３月31日

② 新田洋「三重県における古代末～中世にかけての土器様相」『マージナル№９』愛知考古学談話会　1988.10

番号	実測番号	遺構	調査区	出土位置	器種 器形	法量 (cm) 口径	器高	その他	調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
1	268-5	SK37017	７区	LT9	縄文土器 深鉢	—	—	—	—	明赤褐5YR5/8	0.5mm以下の砂粒含	小片	波状口縁。沈線数条。
2	243-1	SD31002	１区	AH5	弥生～土師器 高杯	26.6	—	—	ヘラミガキ	浅黄橙10YR8/3	0.2mm以下の微砂粒含	口縁部1/12	
3	243-4	SD31002	１区	AH5	弥生～土師器 甕	—	—	脚台 6.1	ハケメ	橙7.5YR7/6	0.2mm以下の微砂粒含	脚台完存	
4	177-4	SD38076	８区	KS24	弥生～土師器 高杯	16.4	—	—	ヘラミガキ	にぶい橙7.5YR7/4	精良	口縁部1/12	
5	243-6	SK31008	１区	AN6	土師器 皿	19.7	—	—	底部外面ヘラケズリ	橙5YR6/6	精良	口縁部1/12	
6	244-1	SK31008	１区	AN6	土師器 皿	—	—	—	底部外面ナデ	浅黄橙7.5YR8/3	精良	口縁部小片	
7	243-2	SD31010	１区	AN6	土師器 皿	20.0	2.5	—	底部外面ヘラケズリ	浅黄橙7.5YR8/4	0.2mm以下の微砂粒含	口縁部2/12	
8	243-5	SD31010	１区	AN6	土師器 椀	11.4	3.1	—	底部外面未調整	浅黄橙10YR8/3	0.3mmの微砂粒含	口縁部2/12	
9	244-4	SD31010	１区	—	須恵器 蓋	—	—	—	天井部外面ロクロケズリ	灰N6/	0.2mm以下の微砂粒含	口縁部小片	
10	244-5	SD31010	１区	AN6	須恵器 蓋	14.7	—	—	—	灰N6/	0.4mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
11	1-4	SD32008	２区 ③	—	土師器 甕	19.6	—	—	ハケメ、内面下半ヘラケズリ	橙2.5Y7/6	精良	口縁部1/12	
12	1-5	SD32008	２区 ③	—	土師器 甕	19.9	—	—	—	浅黄橙10YR8/3	0.45mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
13	265-3	SD37010	７区	—	土師器 椀	11.4	—	—	—	橙7.5YR7/6	1.0mm以下の砂粒含	口縁部3/12	内外面剥離多い。
14	263-3	SD37010	７区	—	土師器 甕	16.0	—	—	—	浅黄橙10YR8/3	3.0mm以下の砂粒多含	口縁部2/12	
15	265-8	SD37010	７区	—	須恵器 長頸壺	—	—	頸部 3.5	—	灰白7.5Y8/1	2.0mm以下の砂粒含	頸部6/12	凹線２条。焼成不良。
16	411-3	SD37010	７区	—	陶器 鉢	—	—	—	—	灰白2.5Y8/1	精良	口縁部小片	焼成不良。
17	161-3	SD38059	８区	KP25	土師器 甕	20.4	—	—	—	浅黄橙10YR8/4	精良	口縁部1/12	

第３－１表　出土遺物観察表

番号	実測番号	遺構	調査区	出土位置	器種 器形	法量 (cm) 口径	器高	その他	調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
18	161-2	SD38059	8区③	—	土師器 甕	23.4	—	—	ハケメ、体部外面下半ヘラケズリ	橙7.5YR7/6	精良	口縁部1/12	
19	161-1	SD38059	8区③	KP25	須恵器 甕	24.8	—	—	口縁部外面装飾的ハケメ	灰N4/	精良	口縁部4/12	口縁部外面に２条１組の沈線を上下に巡らす。
20	1-1	SB32007	2区②	ET16 P1掘形	土師器 椀	12.0	3.4	—	底部外面未調整	灰白10YR8/2	精良	ほぼ完形	口縁端部内面に沈線。口縁端部に煤付着。
21	5-6	SB32007	2区②	EU16 P2	土師器 皿	—	—	—	底部外面ヘラケズリ	浅黄橙7.5YR8/6	精良	小片	
22	1-2	SB32007	2区②	ET16 P3柱痕	土師器 甕	—	—	—	ハケメ	にぶい黄橙10YR7/4	精良	口縁部小片	
23	6-6	SB32007	2区	EU16 P2柱痕	須恵器 杯	—	—	高台径10.2	底部外面ナデ	灰N6/	精良	底部1/12	
24	2-1	SD32003	2区②	EY17	土師器 甕	20.6	—	—	—	灰白10YR8/2	5.0mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
25	396-3	SD32003	2区②	EY17	石器 石匙	幅3.4	長7.0	重181g	—	灰N6/	サヌカイト	完形	
26	1-3	SK32009	2区③	—	土師器 甕	14.3	—	—	—	橙5YR7/6	精良	口縁部1/12	
27	2-4	SK32009	2区③	—	土師器 甕	21.6	—	—	ハケメ	浅黄橙10YR8/3	精良	口縁部2/12	口縁部内面に煤付着。
28	226-6	SD39008	9区	—	土師器 皿	14.5	—	—	底部外面ナデ	橙5YR7/6	微砂粒含	口縁部1/12	
29	408-4	SK31006	1区	—	土師器 高杯	—	—	脚基部4.7	ナデ	灰白10YR8/2	精良	脚基部完存	
30	161-5	SD38056	8区④	—	土師器 甕	—	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/3	精良	口縁部小片	内面に煤付着。
31	196-3	SD38086	8区③	KQ25	土師器 甕	16.4	—	—	ハケメ	橙5YR6/6	精良	口縁部1/12以下	
32	244-3	SK31009	1区	AN6	須恵器 杯	11.4	3.9	—	ロクロナデ	灰N6/	精良	口縁部1/12 高台欠損	
33	407-2	SD37007	7区	—	土師器 甕	—	—	—	内面ヘラケズリ	浅黄橙7.5YR8/3	3.0mm以下の砂粒含	底部6/12	
34	412-3	SD31005	1区	—	土師器 杯	12.7	2.5	—	底部外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	微砂粒含	口縁部1/12	
35	246-6	SD31005	1区	AM6	土師器 皿	17.0	2.1	—	底部外面ナデ	橙5YR6/8	1.5mm以下の砂粒含	口縁部3/12	
36	246-8	SD31005	1区	AM6	土師器 皿	20.0	—	—	—	橙7.5YR6/6	1.0mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
37	246-7	SD31005	1区	AM6	土師器 皿	20.8	2.3	—	底部外面ナデ	にぶい橙7.5YR6/4	微砂粒含	口縁部1/12	
38	246-5	SD31005	1区	AM6	土師器 椀	12.2	3.3	—	底部外面未調整	浅黄橙10YR8/3	2.0mm以下の砂粒含	3/12	
39	245-5	SD31005	1区	AM6	土師器 甕	—	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/3	1.5mm以下の砂粒含	口縁部小片	
40	245-3	SD31005	1区	AM6	土師器 甕	17.2	—	—	ハケメ	にぶい褐7.5YR5/3	1.5mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
41	245-1	SD31005 井戸2	1区	—	土師器 甕	16.0	—	—	体部内面下半ヘラケズリ	灰黄褐10YR5/2	1.0mm以下の砂粒含	口縁部3/12	内外面に炭化物付着。
42	245-2	SD31005 井戸1	1区	—	土師器 甕	24.0	—	—	ハケメ	にぶい赤褐5YR5/4	1.0mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
43	245-4	SD31005	1区	AM6	土師器 甕	14.6	—	—	ハケメ	にぶい赤褐5YR5/4	1.5mm以下の砂粒含	口縁部2/12	内外面に炭化物付着。
44	246-1	SD31005	1区	AM6	須恵器 蓋	16.6	—	—	ロクロナデ	灰5Y6/1	微砂粒含	口縁部1/12	
45	412-5	SD31005	1区	AM6	須恵器 蓋	15.4	—	—	ロクロナデ	灰白N7/	精良	口縁部1/12	
46	246-2	SD31005	1区	AM6	須恵器 蓋	12.6	—	—	ロクロナデ	灰N6/	微砂粒含	口縁部1/12	
47	246-3	SD31005 井戸1	1区	—	須恵器 杯	12.2	3.8	底径9.2	底部外面未調整	灰10Y5/1	2.0mm以下の砂粒含	底部5/12	
48	246-4	SD31005	1区	AM6	陶器 皿	14.3	3.0	高台径8.9	ロクロナデ	褐灰2.5YR5/1	2.0mm以下の砂粒含	高台部2/12	大部分酸化焼成。
49	402-1	SD31005	1区	AM6	陶器 鉢	25.6	—	—	ロクロナデ	灰白2.5Y8/1	2.0mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
50	1065-2	SD31005	1区	—	木製品 井戸枠	幅19.7	長96.9	厚2.6	—	—	スギ	ほぼ完形	
51	1067-1	SD31005 井戸1	1区	—	木製品 井戸枠	幅20.6	長100.9	厚2.7	—	—	スギ	ほぼ完形	
52	1064-2	SD31005 井戸1	1区	—	木製品 板材	幅16.0	残長43.5	厚4.0	—	—	—	5/12以下	
53	240-5	SR39016 砂層下砂利層	9区	—	土師器 蓋	—	—	—	—	にぶい橙7.5YR6/4	微砂粒含	摘み完存	
54	236-1	SR39016 砂層	9区	—	土師器 杯	14.6	3.0	—	底部外面ヘラケズリ	にぶい黄橙10YR6/3	1.0mmの砂粒含	2/12	
55	236-2	SR39016 砂層	9区	杭№20横	土師器 杯	13.2	3.1	—	底部外面ヘラケズリ	にぶい赤褐5YR5/4	1.0mmの砂粒含	5/12	
56	399-5	SR39016 砂層	9区	—	土師器 杯	13.8	—	—	底部外面ナデ	にぶい橙7.5YR6/4	精良	1/12	
57	400-3	SR39016 砂層18層	9区	—	土師器 杯	13.6	—	—	—	橙5YR7/6	精良	1/12	
58	235-2	SR39016 砂層	9区	—	土師器 杯	14.5	—	—	底部外面ヘラケズリ	灰黄褐10YR5/2	1.0mm以下の砂粒含	4/12	
59	400-2	SR39016 上層砂層	9区	—	土師器 杯	17.6	—	—	—	橙5YR7/6	精良	1/12	摩滅が激しい。
60	235-3	SR39016 砂層	9区	—	土師器 皿	17.4	2.9	—	底部外面ヘラケズリ	黄灰2.5Y6/1	1.0mm以下の砂粒含	2/12	内面にラセン暗文。
61	240-2	SR39016 砂層	9区	—	土師器 皿	20.4	3.1	—	底部外面ヘラケズリ	にぶい黄橙10YR7/3	精良	口縁部1/12	内面に放射＋ラセン暗文。
62	238-4	SR39016 下層	9区	—	土師器 椀	12.4	—	—	底部外面未調整	灰黄褐10YR6/2	精良	2/12	
63	414-1	SR39016 上層砂層	9区	—	土師器 椀	10.6	2.6	—	底部外面未調整	にぶい黄橙10YR7/2	3.5mm以下の砂粒含	2/12	
64	240-6	SR39016 砂層18層	9区	—	土師器 高杯	22.0	—	—	杯部外面ヘラケズリ	橙5YR6/6	微砂粒含	杯部2/12	
65	239-7	SR39016 上層砂層	9区	—	土師器 高杯	—	—	脚基部5.0	ナデ	橙7.5YR6/6	微砂粒含	脚基部5/12	
66	401-1	SR39016 砂層	9区	—	土師器 甕	45.0	—	—	ハケメ	にぶい黄橙10YR7/2	精良	口縁部1/12	
67	239-5	SR39016 砂層	9区	—	土師器 甕	18.6	—	—	ハケメ	にぶい橙7.5YR7/4	微砂粒含	口縁部2/12	
68	239-3	SR39016 砂層	9区	—	土師器 甕	13.8	—	—	内面工具ナデ	にぶい黄2.5Y6/3	精良	口縁部3/12	外面に煤付着。
69	239-2	SR39016 上層	9区	—	土師器 甕	15.0	—	—	ハケメ	灰黄2.5Y7/2	精良	口縁部1/12	
70	239-1	SR39016 砂層	9区	—	土師器 甕	39.6	—	—	ハケメ	にぶい黄橙10YR7/3	精良	口縁部1/12	内外面に煤付着。
71	401-2	SR39016 上層	9区	—	土師器 甕	39.4	—	—	内面ヘラケズリ	灰白7.5YR8/2	精良	口縁部1/12	
72	240-3	SR39016 砂層	9区	杭No.1裏	土師器 甕	15.8	—	—	ハケメ	にぶい黄橙10YR6/3	精良	口縁部2/12	外面に煤付着。
73	238-1	SR39016 砂層	9区	杭付近	土師器 甕	17.6	—	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR6/3	3mm以下の砂粒含	口縁部1/12	内外面に煤付着。
74	240-1	SR39016 砂層	9区	—	土師器 甕	22.4	—	—	ハケメ	黄褐2.5Y5/3	精良	口縁部2/12	
75	235-1	SR39016 砂層	9区	—	土師器 甕	33.0	—	—	内面工具ナデ＋ヘラケズリ	にぶい黄橙10YR7/2	2mm以下の砂粒含	頸部4/12	

第３−２表　出土遺物観察表

番号	実測番号	遺構	調査区	出土位置	器種 器形	法量 (cm) 口径	器高	その他	調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
76	400-4	SR39016 砂層	9区	杭付近	須恵器 壺	—	—	頸基部 4.4	ロクロナデ	灰N6/	精良	頸基部5/12	
77	238-2	SR39016 砂層	9区	—	須恵器 壺	—	—	体部最大 16.1	ロクロナデ	灰N6/	3㎜以下の砂粒含	体部3/12	
78	238-3	SR39016 下層	9区	—	須恵器 壺	13.8	—	—	ロクロナデ	灰白N7/	精良	口縁部5/12	
79	237-2	SR39016 下層	9区	—	山茶椀 椀	—	—	—	ロクロナデ	灰5Y6/1	1.5㎜以下の砂粒含	小片	外面に墨書。
80	1003-1	SR39016	9区	—	木製品 板状加工材	幅 2.8	長 47.8	厚 1.0	—	—	スギ	完形	
81	1003-2	SR39016 下層	9区	—	木製品 棒状加工材	1.0	長 44.3	—	—	—	スギ	完形	
82	1004-2	SR39016	9区	—	木製品 斎串	幅 1.5	長 29.5	厚 0.3	—	—	ヒノキ属	ほぼ完形	腐食が激しい。
83	1004-3	SR39016	9区	—	木製品 板状加工材	幅 1.8	長 25.7	厚 1.0	—	—	—	完形	
84	1003-3	SR39016 砂層	9区	—	木製品 棒状加工材	1.3	長 24.2	—	—	—	アスナロ属	完形	
85	1004-1	SR39016	9区	№309	木製品 盤	25.0	1.4	厚 0.6	—	—	スギ	5/12	
86	1021-1	SR39016	9区	№153	木製品 杭	幅 13.0	残長 114.5	厚 3.6	—	—	ヒノキ属	11/12以下	転用材。両端にホゾ穴。
87	1051-2	SR39016	9区	№204	木製品 杭	幅 21.0	残長 103.9	厚 7.8	—	—	スギ	—	転用材
88	1051-1	SR39016	9区	№314	木製品 杭	幅 12.7	残長 109.2	厚 5.5	—	—	ヒノキ属	—	転用材。造出突起。
89	1010-1	SR39016	9区	№317	木製品 杭	幅 15.8	残長 99.2	厚 6.5	—	—	スギ	—	転用材
90	1016-3	SR39016	9区	№5	木製品 杭	幅 5.2	残長 44.8	厚 1.7	—	—	スギ	11/12以下	転用材。小孔。
91	1018-1	SR39016	9区	№303	木製品 杭	幅 14.5	残長 58.0	厚 0.8	—	—	ヒノキ属	—	転用材。小孔。
92	1009-1	SR39016	9区	№321	木製品 杭	幅 18.7	残長 82.5	厚 7.8	—	—	スギ	—	転用材。ホゾ穴。
93	1030-1	SR39016	9区	№196	木製品 杭	幅 13.4	残長 75.6	厚 6.6	—	—	—	—	転用材。
94	1032-1	SR39016	9区	№121	木製品 杭	幅 13.0	残長 74.6	厚 5.7	—	—	シイ属	—	転用材。
95	1058-1	SR39016	9区	№315	木製品 杭	幅 9.0	残長 72.1	厚 2.5	—	—	ヒノキ属	—	転用材。
96	1062-2	SR39016	9区	№312	木製品 杭	幅 10.7	残長 36.8	厚 4.1	—	—	—	—	転用材。
97	1020-2	SR39016	9区	№101	木製品 杭	幅 9.5	残長 52.3	厚 2.6	—	—	アカガシ亜属	—	転用材。
98	1032-2	SR39016	9区	№122	木製品 杭	幅 12.0	残長 56.0	厚 7.4	—	—	シイ属	—	みかん割。
99	1029-2	SR39016	9区	№128	木製品 杭	幅 13.5	残長 119.5	厚 4.7	—	—	アカガシ亜属	—	転用材。
100	1047-1	SR39016	9区	№213	木製品 杭	幅 12.5	残長 94.3	厚 5.6	—	—	アカガシ亜属	—	転用材。
101	1029-3	SR39016	9区	№123	木製品 杭	幅 10.5	残長 116.0	厚 5.0	—	—	クヌギ節	—	転用材。
102	1063-3	SR39016	9区	№226	木製品 杭	幅 10.0	長 227.9	厚 8.5	—	—	スギ	完形	転用材。切欠き２ヶ所。
103	1052-2	SR39016	9区	№326	木製品 杭	幅 8.6	長 175.8	厚 8.6	—	—	イヌマキ	ほぼ完形	転用材。切欠き１ヶ所。
104	1070-3	SR39016	9区	№192	木製品 杭	幅 7.0	長 193.6	厚 5.0	—	—	スギ	ほぼ完形	転用材。切欠き１ヶ所。
105	1056-4	SR39016	9区	№85	木製品 杭	幅 9.8	長 188.8	厚 7.0	—	—	スギ	ほぼ完形	転用材。切欠き１ヶ所。
106	1056-2	SR39016	9区	№95	木製品 杭	幅 9.5	長 207.2	厚 3.3	—	—	ヒノキ属	ほぼ完形	転用材。
107	1040-4	SR39016	9区	№118	木製品 杭	幅 9.6	長 153.8	厚 7.6	—	—	ヒノキ属	完形	転用材。
108	1061-2	SR39016	9区	№327	木製品 杭	幅 7.7	残長 151.2	厚 6.8	—	—	ヒノキ属	—	転用材。切欠き１ヶ所。
109	1062-1	SR39016	9区	№194	木製品 杭	幅 9.2	残長 57.2	厚 7.6	—	—	クヌギ節	—	
110	1047-2	SR39016	9区	№60	木製品 杭	幅 9.2	残長 117.6	厚 6.2	—	—	スギ	—	転用材。切欠き１ヶ所。
111	1016-2	SR39016	9区	№140	木製品 杭	7.4	残長 36.0	—	—	—	シイ属	ほぼ完形	みかん割。
112	1018-3	SR39016	9区	№304	木製品 杭	幅 7.5	残長 62.8	厚 5.2	—	—	アカガシ亜属	完形	みかん割。
113	1019-1	SR39016	9区	№302	木製品 杭	幅 6.7	残長 21.3	厚 4.0	—	—	アカガシ亜属	ほぼ完形	みかん割。
114	1055-1	SR39016	9区	№318	木製品 杭	幅 24.3	残長 24.2	厚 13.9	—	—	イヌマキ	小片	転用材。
115	1057-2	SR39016	9区	№323	木製品 杭	幅 6.5	長 155.5	厚 7.3	—	—	ヒノキ属	完形	転用材。
116	1057-1	SR39016	9区	№73	木製品 杭	幅 8.0	長 160.8	厚 6.0	—	—	スギ	ほぼ完形	転用材。
117	1052-1	SR39016	9区	№325	木製品 杭	幅 13.0	長 172.0	厚 6.7	—	—	イヌマキ	完形	みかん割。
118	1040-3	SR39016	9区	№87	木製品 杭	幅 11.0	長 183.4	厚 8.2	—	—	スギ	ほぼ完形	みかん割。
119	1052-4	SR39016	9区	№82	木製品 杭	幅 9.0	長 185.0	厚 9.5	—	—	スギ	ほぼ完形	みかん割。
120	1070-1	SR39016	9区	№120	木製品 杭	幅 8.0	残長 184.7	厚 8.5	—	—	イヌマキ	—	みかん割。
121	1056-1	SR39016	9区	№324	木製品 杭	幅 10.0	残長 209.3	厚 6.2	—	—	—	—	転用材。
122	1056-3	SR39016	9区	№72	木製品 杭	幅 8.8	残長 217.5	厚 8.5	—	—	スギ	—	みかん割。一部炭化。
123	1015-3	SR39016	9区	№4	木製品 杭	幅 5.4	残長 74.7	厚 4.5	—	—	クリ	—	みかん割。
124	1013-4	SR39016	9区	№18	木製品 杭	幅 5.6	残長 49.7	厚 3.0	—	—	クリ	—	みかん割。
125	1018-2	SR39016	9区	№169	木製品 杭	8.4	長 55.5	—	—	—	クヌギ節	完形	みかん割。
126	1063-2	SR39016	9区	№84	木製品 杭	幅 11.0	残長 243.4	厚 7.6	—	—	スギ	—	みかん割。
127	1058-2	SR39016	9区	№174	木製品 杭	幅 9.0	残長 73.8	厚 5.9	—	—	スギ	—	みかん割。
128	1015-4	SR39016	9区	№141	木製品 杭	幅 6.9	残長 62.2	厚 5.0	—	—	クリ	—	みかん割。
129	1023-1	SR39016	9区	№108	木製品 杭	幅 8.6	残長 59.2	厚 6.4	—	—	クヌギ節	11/12以下	みかん割。
130	1020-1	SR39016	9区	№302	木製品 杭	幅 7.2	長 52.9	厚 6.0	—	—	アカガシ亜属	完形	
131	1008-2	SR39016	9区	№142	木製品 杭	幅 9.0	長 41.3	厚 5.6	—	—	—	完形	
132	1057-4	SR39016	9区	№62	木製品 杭	幅 9.8	残長 119.5	厚 6.4	—	—	ヒノキ属	—	
133	1007-1	SR39016	9区	№88	木製品 杭	幅 7.1	残長 129.1	厚 7.8	—	—	スギ	—	

第３−３表　出土遺物観察表

番号	実測番号	遺構	調査区	出土位置	器種 器形	法量 (cm) 口径	器高	その他	調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
134	1069-2	SR39016	9区	№151	木製品 杭	幅 11.6	残長 136.0	厚 6.1	—	—	アカガシ亜属	—	
135	1057-3	SR39016	9区	№221	木製品 杭	幅 9.0	残長 145.2	厚 6.9	—	—	ヒノキ属	—	みかん割。
136	1042-1	SR39016	9区	—	木製品 杭	幅 7.9	残長 155.1	厚 7.0	—	—	ヒノキ属	—	
137	1069-1	SR39016	9区	№311	木製品 杭	幅 10.4	残長 161.3	厚 6.0	—	—	スギ	—	
138	1042-2	SR39016	9区	№51	木製品 杭	幅 11.0	残長 101.5	厚 6.0	—	—	スギ	—	みかん割。
139	1052-3	SR39016	9区	№83	木製品 杭	幅 13.5	長 159.1	厚 7.0	—	—	スギ	完形	みかん割。
140	1070-2	SR39016	9区	№203	木製品 杭	幅 8.4	長 187.7	厚 6.5	—	—	スギ	ほぼ完形	
141	1008-1	SR39016	9区	№231	木製品 杭	幅 11.9	残長 57.3	厚 8.0	—	—	アカガシ亜属	—	みかん割。
142	1028-1	SR39016	9区	№1	木製品 杭	幅 7.9	残長 77.7	厚 6.6	—	—	クリ	—	
143	1048-2	SR39016	9区	№227	木製品 杭	幅 7.7	残長 80.6	厚 6.3	—	—	スギ	—	
144	1006-3	SR39016	9区	№116	木製品 杭	幅 7.2	長 79.8	厚 4.2	—	—	アカガシ亜属	ほぼ完形	
145	1064-1	SR39016	9区	№322	木製品 杭	幅 10.8	残長 88.8	厚 4.0	—	—	アカガシ亜属	—	
146	1050-3	SR39016	9区	№315	木製品 杭	幅 7.4	残長 106.9	厚 8.3	—	—	スギ	—	
147	1007-3	SR39016	9区	№115	木製品 杭	幅 11.1	残長 108.5	厚 5.3	—	—	ヒノキ属	—	
148	1033-2	SR39016	9区	№127	木製品 杭	幅 8.5	残長 107.7	厚 5.8	—	—	アカガシ亜属	—	
149	1006-2	SR39016	9区	№50	木製品 杭	幅 8.3	長 113.5	厚 5.0	—	—	スギ	完形	
150	1027-2	SR39016	9区	№133	木製品 杭	幅 7.7	長 95.7	厚 7.3	—	—	アカガシ亜属	完形	
151	1050-1	SR39016	9区	№191	木製品 杭	幅 7.2	長 93.0	厚 4.7	—	—	スギ	完形	
152	1054-3	SR39016	9区	№176	木製品 杭	幅 10.3	残長 157.9	厚 4.3	—	—	スギ	—	
153	1061-3	SR39016	9区	№79	木製品 杭	幅 13.7	残長 144.6	厚 6.7	—	—	スギ	—	
154	1060-2	SR39016	9区	№96	木製品 杭	幅 5.0	残長 130.7	厚 4.7	—	—	ヒノキ属	—	
155	1054-1	SR39016	9区	№78	木製品 杭	幅 8.5	残長 134.3	厚 5.7	—	—	スギ	—	
156	1054-2	SR39016	9区	№77	木製品 杭	幅 9.0	残長 141.0	厚 3.5	—	—	スギ	—	
157	1053-4	SR39016	9区	№225	木製品 杭	幅 7.4	残長 131.0	厚 4.9	—	—	スギ	—	
158	1061-1	SR39016	9区	№208	木製品 杭	幅 8.7	残長 136.1	厚 9.2	—	—	アカガシ亜属	—	転用材。中央部に圧迫痕。
159	1060-3	SR39016	9区	№205	木製品 杭	幅 15.2	残長 128.4	厚 8.0	—	—	スギ	—	みかん割。
160	1006-1	SR39016	9区	№117	木製品 杭	幅 11.3	長 117.4	厚 4.9	—	—	ヒノキ属	完形	
161	1033-1	SR39016	9区	№132	木製品 杭	幅 10.5	残長 113.2	厚 4.5	—	—	クヌギ節	—	
162	1013-3	SR39016	9区	№163	木製品 杭	5.4	残長 46.8	—	—	—	マツ属［二葉松類］	—	自然木。
163	1013-2	SR39016	9区	№152	木製品 杭	4.5	残長 43.6	—	—	—	マツ属［二葉松類］	—	自然木。
164	1012-3	SR39016	9区	№147	木製品 杭	4.1	長 69.3	—	—	—	マツ属［二葉松類］	完形	自然木。
165	1015-1	SR39016	9区	№164	木製品 杭	5.0	残長 69.1	—	—	—	マツ属［二葉松類］	—	自然木。
166	1046-2	SR39016	9区	№310	木製品 杭	6.0	残長 78.4	—	—	—	マツ属［二葉松類］	—	自然木。
167	1050-2	SR39016	9区	№237	木製品 杭	6.5	残長 88.4	—	—	—	マツ属［二葉松類］	—	自然木。
168	1058-3	SR39016	9区	№110	木製品 杭	4.7	残長 81.8	—	—	—	マツ属［二葉松類］	—	自然木。
169	1014-4	SR39016	9区	№146	木製品 杭	4.8	残長 73.2	—	—	—	マツ属［二葉松類］	—	自然木。
170	1014-2	SR39016	9区	№35	木製品 杭	5.8	残長 71.5	—	—	—	ツバキ属	—	自然木。
171	1014-3	SR39016	9区	№97	木製品 杭	5.6	残長 76.4	—	—	—	マツ属［二葉松類］	—	自然木。
172	1014-1	SR39016	9区	№167	木製品 杭	4.5	残長 81.4	—	—	—	マツ属［二葉松類］	—	自然木。
173	1012-2	SR39016	9区	№306	木製品 杭	4.0	長 68.6	—	—	—	マツ属［二葉松類］	完形	自然木。
174	1069-3	SR39016	9区	№25	木製品 杭	6.8	残長 152.0	—	—	—	マツ属［二葉松類］	—	自然木。
175	1048-3	SR39016	9区	№8	木製品 杭	6.4	残長 126.0	—	—	—	マツ属［二葉松類］	—	自然木。
176	1007-2	SR39016	9区	№38	木製品 杭	4.5	長 128.8	—	—	—	マツ属［二葉松類］	完形	自然木。
177	1023-2	SR39016	9区	№106	木製品 杭	5.6	残長 62.4	—	—	—	マツ属［二葉松類］	—	自然木。
178	1065-1	SR39016	9区	№165	木製品 杭	9.0	残長 113.0	—	—	—	マツ属［二葉松類］	—	自然木。
179	1028-3	SR39016	9区	№39	木製品 杭	5.7	長 106.7	—	—	—	マツ属［二葉松類］	完形	自然木。
180	1026-3	SR39016	9区	№136	木製品 杭	8.7	残長 111.0	—	—	—	マツ属［二葉松類］	—	自然木。
181	1011-1	SR39016	9区	№308	木製品 杭	7.6	残長 96.8	—	—	—	マツ属［二葉松類］	—	自然木。
182	1021-2	SR39016	9区	—	木製品 杭	7.0	残長 94.7	—	—	—	マツ属［二葉松類］	—	自然木。
183	1049-2	SR39016	9区	№312	木製品 杭	5.4	残長 95.5	—	—	—	マツ属［二葉松類］	—	自然木。
184	1012-4	SR39016	9区	№144	木製品 杭	5.3	長 67.0	—	—	—	マツ属［二葉松類］	完形	自然木。
185	1016-1	SR39016	9区	№150	木製品 杭	4.2	残長 34.0	—	—	—	クヌギ節	11/12以下	自然木。
186	1022-1	SR39016	9区	№109	木製品 杭	4.1	長 83.1	—	—	—	マツ属［二葉松類］	完形	自然木。
187	1048-1	SR39016	9区	№319	木製品 杭	4.3	残長 75.0	—	—	—	—	—	自然木。
188	1017-3	SR39016	9区	№139	木製品 杭	5.1	残長 73.6	—	—	—	マツ属［二葉松類］	—	自然木。
189	1049-1	SR39016	9区	№48	木製品 杭	7.0	残長 80.7	—	—	—	マツ属［二葉松類］	—	自然木。
190	1028-2	SR39016	9区	№27	木製品 杭	8.0	残長 84.0	—	—	—	ツバキ属	—	自然木。
191	1017-1	SR39016	9区	№3	木製品 杭	6.3	残長 87.7	—	—	—	マツ属［二葉松類］	—	自然木。

第３－４表　出土遺物観察表

番号	実測番号	遺構	調査区	出土位置	器種器形	法量(cm) 口径	器高	その他	調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
192	1021-3	SR39016	9区	No.107	木製品 杭	6.0	残長 86.2	—	—	—	マツ属〔二葉松類〕	—	自然木。
193	1022-3	SR39016	9区	No.104	木製品 杭	5.7	残長 73.4	—	—	—	マツ属〔二葉松類〕	—	自然木。
194	1022-2	SR39016	9区	No.105	木製品 杭	4.3	長 93.5	—	—	—	マツ属〔二葉松類〕	完形	自然木。
195	1025-2	SR39016	9区	No.103	木製品 杭	5.4	長 91.0	—	—	—	マツ属〔二葉松類〕	完形	自然木。
196	1046-3	SR39016	9区	No.114	木製品 杭	4.8	残長 91.0	—	—	—	マツ属〔二葉松類〕	—	自然木。
197	1053-2	SR39016	9区	No.206	木製品 杭	5.8	残長 110.2	—	—	—	マツ属〔二葉松類〕	—	自然木。
198	1029-1	SR39016	9区	No.28	木製品 杭	7.0	残長 121.0	—	—	—	マツ属〔二葉松類〕	—	自然木。
199	1053-1	SR39016	9区	No.320	木製品 杭	7.2	残長 125.6	—	—	—	マツ属〔二葉松類〕	—	自然木。
200	1047-3	SR39016	9区	No.113	木製品 杭	6.8	残長 111.3	—	—	—	マツ属〔二葉松類〕	—	自然木。
201	1045-1	SR39016	9区	No.46	木製品 杭	6.2	残長 94.0	—	—	—	マツ属〔二葉松類〕	—	自然木。
202	1045-2	SR39016	9区	No.112	木製品 杭	6.8	残長 102.2	—	—	—	マツ属〔二葉松類〕	—	自然木。
203	1045-3	SR39016	9区	No.209	木製品 杭	6.8	残長 95.5	—	—	—	マツ属〔二葉松類〕	—	自然木。
204	1053-3	SR39016	9区	No.307	木製品 杭	3.7	残長 64.3	—	—	—	マツ属〔二葉松類〕	—	自然木。
205	1027-3	SR39016	9区	No.24	木製品 杭	7.0	残長 71.9	—	—	—	マツ属〔二葉松類〕	—	自然木。
206	1013-1	SR39016	9区	No.131	木製品 杭	5.0	残長 56.9	—	—	—	マツ属〔二葉松類〕	—	自然木。
207	1017-2	SR39016	9区	No.168	木製品 杭	6.3	残長 85.5	—	—	—	クリ	—	自然木。
208	1019-2	SR39016	9区	No.43	木製品 杭	5.1	長 34.3	—	—	—	マツ属〔二葉松類〕	完形	自然木。
209	1031-2	SR39016	9区	No.124	木製品 杭	5.5	残長 103.6	—	—	—	マツ属〔二葉松類〕	—	自然木。
210	1067-2	SR39016	9区	No.154	木製品 杭	7.6	残長 72.2	—	—	—	クヌギ節	—	自然木。
211	1025-3	SR39016	9区	No.99	木製品 杭	5.5	長 93.9	—	—	—	マツ属〔二葉松類〕	完形	自然木。
212	1031-1	SR39016	9区	No.125	木製品 杭	6.0	長 98.0	—	—	—	マツ属〔二葉松類〕	完形	自然木。
213	1031-3	SR39016	9区	No.138	木製品 杭	6.0	長 99.0	—	—	—	マツ属〔二葉松類〕	完形	自然木。
214	1024-3	SR39016	9区	No.98	木製品 杭	5.0	長 109.3	—	—	—	マツ属〔二葉松類〕	完形	自然木。
215	1027-1	SR39016	9区	No.149	木製品 杭	8.0	残長 97.6	—	—	—	マツ属〔二葉松類〕	—	自然木。
216	1024-2	SR39016	9区	No.32	木製品 杭	4.2	長 124.1	—	—	—	マツ属〔二葉松類〕	完形	自然木。
217	1060-1	SR39016	9区	No.13	木製品 杭	9.1	残長 121.7	—	—	—	マツ属〔二葉松類〕	—	自然木。
218	1026-2	SR39016	9区	No.26	木製品 杭	6.8	残長 147.0	—	—	—	マツ属〔二葉松類〕	—	自然木。
219	1030-2 1030-3	SR39016	9区	No.2	木製品 杭	7.0	残長 96.9	—	—	—	マツ属〔二葉松類〕	—	自然木。
220	1025-1	SR39016	9区	No.42	木製品 杭	5.9	長 111.8	—	—	—	マツ属〔二葉松類〕	完形	自然木。
221	1026-4	SR39016	9区	No.23	木製品 杭	4.0	長 104.8	—	—	—	マツ属〔二葉松類〕	完形	自然木。
222	1024-1	SR39016	9区	No.100	木製品 杭	8.2	残長 100.4	—	—	—	マツ属〔二葉松類〕	—	自然木。
223	1046-1	SR39016	9区	No.173	木製品 杭	6.7	残長 90.7	—	—	—	マツ属〔二葉松類〕	—	自然木。
224	1026-1	SR39016	9区	No.102	木製品 杭	4.5	残長 109.2	—	—	—	マツ属〔二葉松類〕	—	自然木。
225	1008-3	SR39016	9区	No.162	木製品 杭	3.3	残長 46.4	—	—	—	クヌギ節	—	自然木。
226	1049-3	SR39016	9区	No.178	木製品 杭	3.7	残長 61.6	—	—	—	マツ属〔二葉松類〕	—	自然木。
227	1023-4	SR39016	9区	No.301	木製品 杭	4.2	残長 42.3	—	—	—	シイ属	—	自然木。
228	1023-3	SR39016	9区	No.31	木製品 杭	5.4	残長 60.5	—	—	—	マツ属〔二葉松類〕	—	自然木。
229	252-2	SD33005	3区	DG11	土師器 杯	15.8	4.0	—	—	橙5YR7/6	1.5mm以下の砂粒含	3/12	摩滅のため調整不明。
230	252-3	SD33005	3区	DG11	土師器 杯	12.6	—	—	底部外面未調整	にぶい黄橙10YR7/4	1.5mm以下の砂粒含	2/12	
231	252-5	SD33005 灰色層	3区	—	土師器 甕	16.6	—	—	外面ナデ、内面工具ナデ	灰白10YR8/2	2.0mm以下の砂粒含	1/12	
232	413-1	SD33005	3区	DG11	土師器 甕	16.4	—	—	ハケメ	にぶい橙7.5YR7/3	1.5mm以下の砂粒含	3/12	
233	253-1	SD33005	3区	北壁	土師器 甕	13.8	—	—	外面浅いハケメ、内面工具ナデ	灰白10YR8/2	2.0mm以下の砂粒含	3/12	
234	252-1	SD33005	3区	北壁	土師器 甕	21.8	9.5	底径 10.0	内面工具ナデ	橙5YR6/6	1.5mm以下の砂粒含	底部9/12	
235	412-4	SD33005	3区	—	須恵器 壺	—	—	高台径 8.4	ロクロナデ	灰N5/	2.5mm以下の砂粒含	底部2/12	
236	253-2	SD33005	3区	DG11	施釉陶器 壺	—	—	底径 7.0	外面ロクロケズリ	灰白2.5Y7/1	2.0mm以下の砂粒含	底部完存	
237	5-5	SB32001	2区	EV17P1 掘形	土師器 杯	—	—	—	底部外面ナデ	橙5YR7/8	精良	小片	
238	5-1	SB32001	2区	EW17P2	土師器 甕	22.6	—	—	ハケメ	浅黄橙7.5YR8/3	精良	1/12以下	
239	2-5	SE32016	2区①	—	土師器 甕	18.8	—	—	ハケメ	にぶい黄橙10YR7/2	精良	口縁部2/12	
240	2-2	SE32016	2区①	—	製塩土器 鉢	—	4.6	—	ナデ	橙5YR6/6	0.45mm以下の砂粒含	小片	
241	2-3	SE32016	2区①	—	灰釉陶器 壺	—	—	高台径 15.6	ロクロナデ	灰白N8/	精良	底部1/12	
242	3-3	SE32016	2区①	—	灰釉陶器 椀	—	—	高台径 6.3	底部外面ロクロケズリ	灰白5Y8/1	精良	底部1/12	
243	3-2	SE32016	2区①	—	灰釉陶器 甕	—	—	—	外面タタキ	灰白8/	精良	1/12以下	
244	4-1	SE32016	2区①	—	須恵器 甕	—	—	—	外面タタキ	灰N4/	精良	1/12以下	
245	1066-1	SE32016	2区①	—	木製品 曲物	43.0	15.0	厚 0.5	—	—	スギ	ほぼ完形	
246	250-5	SD33007	3区	DH13	土師器 杯	11.0	3.0	—	底部外面未調整	にぶい黄橙10YR7/3	精良	1/12	
247	413-3	SD33007	3区	—	土師器 杯	13.1	3.1	—	底部外面ナデ	橙2.5YR7/6	1mm以下の砂粒・赤色粒含	1/12	
248	249-6	SD33007	3区	—	土師器 杯	13.0	—	—	—	にぶい橙7.5YR7/4	微砂粒含	1/12	摩滅のため調整不明。
249	250-6	SD33007	3区	—	土師器 皿	16.0	2.2	—	底部外面ナデ	橙5YR6/6	精良	2/12	

第3-5表　出土遺物観察表

番号	実測番号	遺構	調査区	出土位置	器種 器形	法量 (cm) 口径	器高	その他	調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
250	249-2	SD33007	3区	—	土師器 甕	21.6	—	—	ハケメ	浅黄橙10YR8/3	微砂粒含	口縁部3/12	
251	249-3	SD33007	3区	—	土師器 甕	21.9	—	—	内面工具ナデ	浅黄橙10YR8/3	精良	口縁部1/12	
252	250-1	SD33007	3区	DH13	土師器 甕	14.1	—	—	ハケメ	灰黄褐10YR6/2	微砂粒含	口縁部6/12	
253	250-3	SD33007	3区	—	土師器 甕	16.0	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/2	微砂粒含	口縁部1/12	
254	250-2	SD33007	3区	—	土師器 甕	18.0	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/2	微砂粒含	口縁部1/12	
255	413-2	SD33007	3区	—	須恵器 平瓶	—	—	体部径 18.0	ロクロナデ	灰白7/	1mm以下の砂粒含	体部3/12	
256	249-5	SD33012	3区	—	土師器 杯	12.8	—	—	底部外面ナデ	橙5YR6/6	精良	口縁部2/12	
257	398-2	SD33012	3区	—	土師器 杯	14.0	—	—	底部外面未調整	淡橙5YR8/4	やや精良	口縁部1/12	
258	249-4	SD33012	3区	—	土師器 甕	20.8	—	—	—	灰白10YR8/2	微砂粒含	口縁部1/12	
259	251-5	SD33012	3区	—	灰釉陶器 皿	11.8	—	—	ロクロナデ	灰白5Y7/1	精良	口縁部1/12	
260	402-4	SD33012	3区	—	須恵器 鉢	—	—	頸基部径 8.0	ロクロナデ	灰N6/	1.5mm以下の砂粒含	頸部完存	
261	253-3	SZ33002	3区	DG7	灰釉陶器 皿	—	—	高台径 6.3	底部外面ロクロケズリ	褐灰10YR6/1	1mm以下の砂粒含	底部6/12	
262	250-4	SD33010	3区	—	土師器 杯	13.8	—	—	—	橙5YR7/6	精良	口縁部2/12	
263	413-4	SD33010 砂層	3区	—	土師器 皿	—	—	—	底部外面ナデ	橙5YR7/6	赤色粒・微砂粒含	底部小片	底部外面に墨書。
264	249-7	SD33010	3区	—	土師器 甕	—	—	—	—	灰白10YR8/2	精良	口縁部小片	
265	251-3	SD33010	3区	—	灰釉陶器 壺	—	—	高台径 11.8	底部外面ロクロケズリ	灰白2.5Y8/1	精良	底部3/12	
266	252-4	SD33006	3区	DH11	土師器 甑	—	—	—	—	灰白2.5Y8/2	1mm以下の砂粒含	把手完存	
267	197-5	SK38093	8区④	LM2	土師器 皿	11.0	2.4	—	—	にぶい黄橙10YR7/4	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
268	197-7	SK38093	8区③	LM2	ロクロ土師器 椀	—	—	底径 4.9	底部外面糸切	にぶい橙7.5YR7/4	3mm以下の砂粒含	底部9/12	
269	197-6	SK38093	8区③	LM2	ロクロ土師器 椀	—	—	底径 5.6	底部外面糸切	淡黄5YR8/4	1.5mm以下の砂粒含	底部10/12	
270	198-1	SK38093	8区④	LM2	陶器 鉢	—	—	高台径 12.5	体部外面下半ロクロケズリ	褐灰7.5YR6/1	3mm以下の砂粒多含	底部4/12	常滑。
271	198-2	SK38093	8区③	LM2	白磁 椀	16.8	—	—	—	灰白5Y8/1	微砂粒含	口縁部1/12	
272	291-4	SE35005	5区	—	土師器 皿	14.8	2.4	—	底部外面ナデ	浅黄橙10YR8/3	2mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
273	398-5	SE35005 枠内下層	5区	—	土師器 皿	8.8	0.95	—	底部外面未調整	灰白10YR8/2	やや精良	2/12	焼成やや不良。
274	398-3	SE35005	5区	—	ロクロ土師器 皿	9.4	1.8	底径 4.6	底部外面糸切	灰白10YR8/2	2mm以下の砂粒含	底部完存	
275	291-1	SE35005 枠内下層	5区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径 5.6	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	精良	底部完存	内面に煤付着。
276	291-3	SE35005	5区	—	山茶椀 椀	13.6	5.0	高台径 5.8	ロクロナデ	灰白5Y7/1	5mm以下の砂粒含	底部5/12	
277	298-4	SE35005 掘形	5区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径 6.6	ロクロナデ	灰白N9/	精良	底部完存	
278	291-5	SE35005	5区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径 7.0	ロクロナデ	灰白5Y7/1	0.15mm以下の砂粒含	底部5/12	底部に砂付着。
279	291-2	SE35005 枠内下層	5区	—	山茶椀 椀	15.6	—	—	ロクロナデ	灰白5Y7/1	精良	口縁部2/12	内面に煤付着。
280	291-7	SE35005	5区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径 7.1	ロクロナデ	灰白5Y7/1	2mm以下の砂粒含	底部6/12	内面に煤付着。
281	292-1	SE35005	5区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径 6.6	ロクロナデ	にぶい黄橙10YR7/2	6mm以下の砂粒含	底部完存	内面に煤付着。内面に直接重焼痕。
282	291-6	SE35005	5区	—	山茶椀 椀	15.7	—	—	ロクロナデ	灰白5Y7/1	精良	口縁部1/12	口縁部に煤付着。
283	292-3	SE35005	5区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径 7.3	ロクロナデ	灰白7/	微砂粒含	底部11/12	内面に煤付着。
284	292-7	SE35005 枠内下層	5区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径 7.0	ロクロナデ	灰白7/	精良	底部7/12	内面に煤付着。
285	292-5	SE35005 最上層	5区	CY18	山茶椀 皿	8.2	1.8	底径 4.1	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	精良	底部完存	
286	343-9	SK35002	5区	—	土師器 皿	15.0	2.7	—	—	橙5YR7/6	微砂粒含	口縁部2/12	
287	302-2	SK35002	5区	—	土師器 鍋	22.0	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/3	1.5mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
288	301-1	SK35002	5区	—	土師器 鍋	37.8	—	—	ハケメ	にぶい黄橙10YR7/3	2mm以下の砂粒含	口縁部3/12	体部に焼成後穿孔。
289	407-1	SK35002	5区	—	土師器 鍋	34.2	—	—	体部外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	2mm以下の微砂粒含	体部4/12	外面に煤付着。
290	302-1	SK35002	5区	—	土師器 鍋	37.8	—	—	体部外面未調整	にぶい黄橙10YR7/3	2mm以下の砂粒含	口縁部3/12	
291	301-2	SK35002	5区	—	土師器 鍋	27.4	—	—	体部外面未調整	にぶい橙7.5YR7/3	2mm以下の砂粒含	口縁部3/12	外面に煤付着。
292	343-4	SK35002	5区	—	山茶椀 椀	15.8	5.2	高台径 7.2	ロクロナデ	灰白10YR7/1	1mm以下の細砂粒含	底部完存	
293	343-1	SK35002	5区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径 7.7	ロクロナデ	灰黄2.5Y7/2	精良	底部完存	
294	343-5	SK35002	5区	—	山茶椀 椀	15.8	5.4	高台径 7.0	ロクロナデ	灰白10YR7/1	微砂粒含	底部6/12	内面炭化物付着。
295	343-7	SK35002	5区	—	山茶椀 椀	15.8	—	—	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	精良	口縁部2/12	口縁部に自然釉。
296	343-6	SK35002	5区	—	山茶椀 椀	15.8	—	—	ロクロナデ	灰黄2.5Y7/2	精良	口縁部2/12	口縁部に自然釉。
297	343-3	SK35002	5区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径 6.0	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	精良	底部完存	
298	343-8	SK35002	5区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径 6.4	ロクロナデ	灰黄2.5Y7/2	2mm以下の砂粒含	底部4/12	
299	343-2	SK35002	5区	—	山茶椀 椀	—	—	高台 6.1	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	精良	底部完存	
300	409-2	SK35002	5区	—	陶器 鉢	—	—	高台 8.3	ロクロナデ	黄灰2.5Y6/1	微砂粒含	底部1/12	
301	302-3	SK35002	5区	—	青磁 椀	13.7	—	—	—	灰オリーブ2.5Y6/2	微砂粒含	口縁部1/12	外面に連弁文。竜泉。
302	302-4	SK35002	5区	—	青磁 皿	13.6	—	—	—	灰白5Y8/1	微砂粒含	口縁部1/12	焼成不良。
303	277-4	SK37004	7区	—	土師器 皿	12.0	2.6	—	外面工具ナデ	浅黄橙7.5YR8/3	やや精良	口縁部2/12	
304	277-3	SK37004	7区	④	土師器 皿	12.6	—	—	外面工具ナデ	にぶい黄橙10YR7/4	やや精良	口縁部2/12	
305	267-3	SK37004	7区	LR3	土師器 皿	12.6	2.1	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	口縁部1/12	
306	266-6	SK37004	7区	LR4	土師器 皿	11.6	—	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	精良	口縁部1/12	
307	267-4	SK37004	7区	—	土師器 皿	13.8	1.5	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/6	微砂粒含	口縁部1/12	

第３−６表　出土遺物観察表

番号	実測番号	遺構	調査区	出土位置	器種 器形	法量 (cm) 口径	器高	その他	調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
308	277-5	SK37004	7区	—	土師器 皿	11.6	2.1	—	外面工具ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	やや精良	口縁部2/12	
309	277-6	SK37004	7区	—	土師器 皿	10.8	2.0	—	外面工具ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	やや精良	口縁部2/12	
310	268-3	SK37004	7区	LR4	土師器 皿	9.6	1.7	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	6mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
311	278-1	SK37004	7区	—	土師器 鍋	44.0	—	—	—	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
312	278-2	SK37004	7区	—	土師器 鍋	34.0	—	—	—	浅黄橙10YR8/3	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	口縁部外面に煤付着。
313	278-5	SK37004	7区	LR4	土師器 鍋	27.6	—	—	—	浅黄橙10YR8/3	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
314	279-2	SK37004	7区	⑥	土師器 鍋	28.4	—	—	上半工具ナデ、下半ヘラケズリ	灰白2.5Y8/2	2mm以下の砂粒含	口縁部3/12	内面に炭化物付着。
315	281-1	SK37004	7区	③	土師器 鍋	27.5	—	—	上半工具ナデ、下半ヘラケズリ	にぶい黄橙10YR7/3	3mm以下の砂粒含	口縁部2/12	内面に炭化物付着。
316	278-4	SK37004	7区	—	土師器 鍋	32.8	—	—	—	浅黄橙10YR8/3	3mm以下の砂粒含	口縁部1/12	口縁部に煤付着。
317	277-1	SK37004	7区	③	土師器 鍋	23.5	—	—	工具ナデ、外面下半ヘラケズリ	浅黄橙10YR8/3	2mm以下の砂粒含	口縁部11/12	口縁部に煤付着。
318	284-1	SK37004	7区	④	土師器 鍋	27.8	—	—	工具ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	3mm以下の砂粒含	口縁部5/12	口縁部に煤付着。
319	281-2	SK37004	7区	④	土師器 鍋	29.6	—	—	工具ナデ	にぶい黄2.5Y6/4	2.5mm以下の砂粒含	口縁部3/12	
320	282-1	SK37004	7区	⑤	土師器 鍋	27.8	—	—	上半工具ナデ、下半ヘラケズリ	にぶい黄橙10YR7/3	2.5mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
321	278-3	SK37004	7区	LR4	土師器 鍋	33.4	—	—	—	浅黄橙10YR8/3	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	口縁部外面に煤付着。
322	283-1	SK37004	7区	②	土師器 鍋	28.7	18.1	—	上半ナデ、下半ヘラケズリ	にぶい橙7.5YR7/4	2mm以下の砂粒含	10/12	外面に煤付着。
323	280-1	SK37004	7区	①	土師器 鍋	25.8	—	—	上半ハケメ、下半ヘラケズリ	淡黄2.5Y8/3	3mm以下の砂粒含	2/12	口縁部に煤付着。
324	277-2	SK37004	7区	LR3	土師器 甕	18.4	—	—	—	浅黄橙7.5YR8/3	やや精良	口縁部1/12	
325	394-1	SK37004	7区	⑦	土師器 鍋	41.0	—	—	上半未調整・工具ナデ、下半ヘラケズリ	浅黄橙10YR8/3	2mm以下の砂粒含	口縁部完存	外面に煤付着。
326	395-1	SK37004	7区	④	土師器 鍋	38.5	—	—	上半未調整、下半ヘラケズリ	浅黄橙10YR8/3	精良	10/12	外面に煤付着。
327	271-3	SK37004	7区	—	山茶椀 椀	16.6	5.6	高台径8.0	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	5mm以下の砂粒含	3/12	輪花。底部外面に墨書。
328	280-3	SK37004	7区	—	山茶椀 椀	14.8	5.7	高台径6.2	ロクロナデ	灰白5Y7/1	3mm以下の砂粒含	底部6/12	底部外面に墨書「○」。
329	280-2	SK37004	7区	②	山茶椀 椀	15.4	5.5	高台径7.0	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	6mm以下の砂粒含	底部完存	
330	272-3	SK37004	7区	LR4	山茶椀 椀	16.2	5.0	高台径8.2	ロクロナデ	灰白5Y7/1	精良	底部4/12	内面に煤付着。
331	276-6	SK37004	7区	LR4	山茶椀 椀	14.6	4.8	高台径6.3	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	3mm以下の砂粒含	底部6/12	内外面に薄く煤付着。
332	272-2	SK37004	7区	LR4	山茶椀 椀	15.2	4.6	高台径7.0	ロクロナデ	灰白N8/	やや精良	底部4/12	
333	272-1	SK37004	7区	LR3	山茶椀 椀	15.4	5.6	高台径6.9	ロクロナデ	灰白N8/	やや精良	口縁部2/12	内面に炭化物付着。
334	272-4	SK37004	7区	LR4	山茶椀 椀	15.8	5.0	高台径6.0	ロクロナデ	灰白7.5Y7/1	精良	底部5/12	
335	276-1	SK37004	7区	—	山茶椀 椀	14.7	4.8	高台径7.3	ロクロナデ	灰白10Y8/1	精良	底部8/12	口縁部に薄く煤付着。
336	275-1	SK37004	7区	LR4	山茶椀 椀	15.9	4.8	高台径7.5	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	2mm以下の砂粒含	口縁部6/12	口縁部に煤付着。
337	270-3	SK37004	7区	—	山茶椀 椀	15.6	4.5	高台径7.4	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	1.5mm以下の砂粒含	2/12	
338	274-4	SK37004	7区	—	山茶椀 椀	14.6	—	—	ロクロナデ	灰白5Y7/1	精良	口縁部1/12	
339	274-2	SK37004	7区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径6.6	ロクロナデ	灰白N8/	精良	底部1/12	
340	274-3	SK37004	7区	—	山茶椀 椀	14.6	—	—	ロクロナデ	灰白5Y7/1	3mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
341	270-1	SK37004	7区	—	山茶椀 椀	16.2	—	—	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	3mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
342	274-6	SK37004	7区	—	山茶椀 椀	12.8	—	—	ロクロナデ	灰白N8/	やや精良	口縁部1/12	
343	275-8	SK37004	7区	LR3	山茶椀 椀	14.4	—	—	ロクロナデ	灰白5Y7/2	3.5mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
344	275-3	SK37004	7区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径5.5	ロクロナデ	灰白10Y8/1	3.5mm以下の砂粒含	底部完存	
345	272-6	SK37004	7区	LR4	山茶椀 椀	—	—	高台径7.1	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	やや精良	底部6/12	
346	274-1	SK37004	7区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径6.0	ロクロナデ	灰白2.5Y8/1	やや精良	底部5/12	内面に炭化物付着。
347	273-5	SK37004	7区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径6.2	ロクロナデ	灰白N8/	やや精良	底部5/12	内面に煤付着。
348	270-2	SK37004	7区	LR3	山茶椀 椀	15.4	—	—	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	2.5mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
349	274-7	SK37004	7区	—	山茶椀 椀	15.6	—	—	ロクロナデ	灰白5Y8/1	5mmの小石含	口縁部1/12	
350	275-6	SK37004	7区	—	山茶椀 椀	14.4	—	—	ロクロナデ	灰白5Y7/1	2mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
351	274-5	SK37004	7区	—	山茶椀 椀	14.8	—	—	ロクロナデ	灰白N7/	やや精良	口縁部1/12	
352	273-1	SK37004	7区	LR4	山茶椀 椀	—	—	高台径6.5	ロクロナデ	灰白N8/	やや精良	底部8/12	
353	273-2	SK37004	7区	LR4	山茶椀 椀	—	—	高台径6.0	ロクロナデ	灰白2.5Y8/1	やや精良	底部8/12	
354	269-5	SK37004	7区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径5.8	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	やや精良	底部3/12	
355	273-4	SK37004	7区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径5.6	ロクロナデ	灰白N8/	やや精良	底部完存	
356	271-4	SK37004	7区	LR4	山茶椀 椀	—	—	高台径6.2	ロクロナデ	灰白5Y7/1	2mm以下の砂粒含	底部完存	底部外面に墨書「＋」。
357	269-6	SK37004	7区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径7.0	ロクロナデ	灰白5Y7/1	1.5mm以下の砂粒含	底部4/12	
358	275-2	SK37004	7区	LR3	山茶椀 椀	—	—	高台径6.3	ロクロナデ	灰白7.5Y8/1	4mm以下の砂粒含	底部完存	
359	269-7	SK37004	7区	LR3	山茶椀 椀	—	—	高台径7.0	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	1mm以下の砂粒含	底部4/12	
360	276-5	SK37004	7区	②	山茶椀 椀	—	—	高台径6.7	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	2mm以下の砂粒含	底部6/12	
361	276-8	SK37004	7区	LR4	山茶椀 椀	—	—	高台径6.4	ロクロナデ	灰白5Y7/1	5mm以下の砂粒含	底部2/12	
362	275-5	SK37004	7区	LR4	山茶椀 椀	—	—	高台径6.5	ロクロナデ	灰白5Y7/1	2mm以下の砂粒含	底部完存	
363	271-2	SK37004	7区	LR4	山茶椀 椀	—	—	高台径7.2	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	2mm以下の砂粒含	底部4/12	
364	270-5	SK37004	7区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径6.0	ロクロナデ	灰白2.5Y8/1	3mm以下の砂粒含	底部完存	
365	275-4	SK37004	7区	LR4	山茶椀 椀	—	—	高台径7.1	ロクロナデ	灰白5Y7/1	6.5mmの砂粒含	底部11/12	内外面に煤付着。

第３－７表　出土遺物観察表

番号	実測番号	遺構	調査区	出土位置	器種 器形	法量 (cm) 口径	器高	その他	調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
366	270-6	SK37004	7区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径 6.4	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	3mm以下の砂粒含	底部4/12	
367	276-2	SK37004	7区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径 6.6	ロクロナデ	灰白7.5Y7/1	精良	底部5/12	
368	270-7	SK37004	7区	LR3	山茶椀 椀	—	—	高台径 6.3	ロクロナデ	灰白5Y8/1	2.5mm以下の砂粒含	底部7/12	
369	273-3	SK37004	7区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径 6.6	ロクロナデ	灰白N7/	やや精良	底部6/12	
370	272-5	SK37004	7区	LR4	山茶椀 椀	—	—	高台径 6.3	ロクロナデ	灰白N7/	精良	底部9/12	内面平滑。
371	273-6	SK37004	7区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径 5.2	ロクロナデ	灰白N8/	やや精良	底部3/12	底部外面に墨書。
372	276-3	SK37004	7区	LR4	山茶椀 椀	—	—	高台径 6.3	ロクロナデ	灰白7.5Y7/1	3mm以下の砂粒含	底部9/12	
373	270-8	SK37004	7区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径 6.3	ロクロナデ	灰白7.5Y7/1	3mm以下の砂粒含	底部3/12	内面平滑。内面に炭化物付着。
374	275-7	SK37004	7区	LR3	山茶椀 椀	—	—	高台径 6.0	ロクロナデ	灰白10Y8/1	2mm以下の砂粒含	底部10/12	
375	270-4	SK37004	7区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径 6.3	ロクロナデ	灰白5Y7/1	2.5mm以下の砂粒含	底部9/12	
376	276-4	SK37004	7区	LR4	山茶椀 椀	—	—	高台径 6.4	ロクロナデ	灰白5Y8/1	3mm以下の砂粒含	底部1/12	
377	271-1	SK37004	7区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径 6.4	ロクロナデ	灰白5Y7/1	3mm以下の砂粒含	底部9/12	
378	276-7	SK37004	7区	LR4	山茶椀 椀	—	—	高台径 6.0	ロクロナデ	灰白5Y7/1	4mm以下の砂粒含	底部完存 高台剥離	
379	269-4	SK37004	7区	LR3	山茶椀 皿	8.4	2.3	—	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	1mm以下の砂粒含	3/12	
380	279-1	SK37004	7区	—	陶器 鉢	—	—	高台径 16.6	ロクロナデ	灰白5Y7/1	2mm以下の砂粒含	底部3/12	
381	269-1	SK37004	7区	LR4	陶器 鉢	—	—	高台径 17.8	外面下半ヘラケズリ	灰白5Y7/1	2mm以下の砂粒含	底部2/12	
382	269-3	SK37004	7区	—	陶器 鉢	—	—	底径 12.0	外面下半未調整	にぶい赤褐2.5Y5/4	2mm以下の砂粒含	底部1/12	
383	269-2	SK37004	7区	LR4	陶器 鉢	—	—	底径 13.8	—	灰白5Y7/1	3mm以下の砂粒多含	底部1/12	
384	268-7	SK37004	7区	LR3	須恵器 甕	—	—	—	口縁部外面カキメ	灰N4/	精良	口縁部小片	
385	198-3	SK38094	8区④	LP4	土師器 皿	10.3	1.5	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
386	198-4	SK38094	8区④	LP4	土師器 鍋	—	—	—	—	にぶい黄橙10YR6/4	1.5mm以下の砂粒含	口縁部小片	
387	1-3	SK1 上層	4-1区	—	土師器 皿	16.4	—	—	—	にぶい橙7.5Y7/4	精良	口縁部1/12	摩滅のため調整不明。
388	1-4	SK1	4-1区	—	緑釉陶器 皿	—	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/4	精良	小片	軟質。
389	1-1	SK1 上層	4-1区	—	陶器 鉢	—	—	—	ロクロナデ	灰白2.5Y8/1	精良	小片	
390	1-2	SK1	4-1区	—	山茶椀 椀	—	—	—	ロクロナデ	灰白5Y8/1	精良	小片	
391	162-1	SK38052	8区④	LO2	土師器 鍋	28.8	—	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の微砂粒含	口縁部1/12	
392	162-5	SK38052	8区④	LO2	山茶椀 椀	—	—	高台径 5.7	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	精良	底部6/12	
393	162-4	SK38052	8区④	LO2	灰釉陶器 甕	—	—	—	ロクロナデ	灰白5Y8/1	精良	口縁部小片	
394	163-1	SK38052	8区④	—	丸瓦	幅 13.6	6.0	—	内面タタキ	暗灰N3/	精良	3/12以下	
395	293-5	SD35008	5区	CV13	土師器 皿	11.8	—	—	—	灰白2.5Y8/2	精良	口縁部1/12	
396	292-6	SD35008	5区	CV13	山茶椀 椀	—	—	高台径 6.5	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	精良	底部7/12	
397	293-3	SD35008	5区	CV12	山茶椀 椀	—	—	高台径 6.4	ロクロナデ	灰白5Y7/2	精良	底部3/12	内面に煤付着。
398	292-4	SD35008	5区	CV12	山茶椀 椀	—	—	高台径 6.4	ロクロナデ	灰白5Y7/1	精良	底部4/12	
399	293-7	SD35008	5区	CV12	山茶椀 椀	—	—	高台径 6.7	ロクロナデ	灰白5Y7/1	精良	底部5/12	
400	293-4	SD35009	5区	CX13	土師器 皿	12.2	—	—	—	浅黄橙10YR8/3	微砂粒含	口縁部1/12	
401	293-6	SD35009	5区	CX13	土師器 鍋	17.9	—	—	ハケメ	橙5YR7/6	3mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
402	409-3	SD35009	5区	CX14	土師器 鍋	25.2	—	—	外面未調整	明褐灰7.5YR7/2	微砂粒含	口縁部1/12	
403	294-1	SD35009	5区	CX14	土師器 鍋	25.8	—	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/3	2mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
404	294-7	SD35009	5区	CX14	瓦器 椀	—	—	—	ヘラミガキ	灰N4/	精良	口縁部小片	
405	295-5	SD35009	5区	CX14	山茶椀 椀	15.4	—	—	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	精良	口縁部1/12	
406	295-2	SD35009	5区	CX14	山茶椀 椀	—	—	高台径 7.4	ロクロナデ	灰白5Y7/1	やや精良	底部3/12	
407	295-4	SD35009	5区	CX14	山茶椀 椀	15.4	—	—	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	やや精良	口縁部1/12	内外面黒変。
408	295-3	SD35009	5区	CX14	山茶椀 椀	—	—	高台径 6.7	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	精良	底部1/12	
409	295-1	SD35009	5区	CX13	山茶椀 椀	—	—	高台径 6.8	ロクロナデ	灰黄2.5Y7/2	3mm以下の砂粒含	底部7/12	内面黒変。
410	293-1	SD35009	5区	CX13	山茶椀 椀	—	—	高台径 7.4	ロクロナデ	灰黄2.5Y7/2	精良	底部3/12	
411	295-6	SD35009	5区	—	山茶椀 小椀	—	—	底径 3.9	ロクロナデ	灰白5Y8/1	精良	底部8/12	
412	292-2	SD35009	5区	CX13	山茶椀 皿	8.2	1.4	—	ロクロナデ	灰白5Y8/1	微砂粒含	6/12	
413	295-7	SD35009	5区	CX14	陶器 壺	—	—	底径 6.6	ロクロナデ	灰白N8/	やや精良	底部4/12	底部外面にヘラ描記号。
414	293-2	SD35009	5区	CX13	青磁 椀	14.8	—	—	—	灰白5Y7/2	精良	口縁部1/12	
415	299-3	SK35007	5区	—	土師器 皿	11.6	2.2	—	外面未調整	灰白10YR8/2	やや精良	3/12	
416	299-4	SK35007	5区	—	土師器 皿	11.3	—	—	外面未調整	灰白10YR8/2	やや精良	5/12	
417	299-5	SK35007	5区	—	土師器 皿	10.4	2.1	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	精良	2/12	
418	299-6	SK35007	5区	—	土師器 皿	8.8	—	—	外面未調整	淡橙5YR8/4	やや精良	3/12	
419	299-1	SK35007	5区	—	土師器 羽釜	30.2	—	—	—	浅黄橙10YR8/3	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
420	299-2	SK35007	5区	—	土師器 鍋	23.8	—	—	外面工具ナデ	灰白10YR8/2	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
421	299-7	SK35007	5区	—	土製品 土錘	1.6	残長 3.8	—	ナデ	浅黄橙10YR8/3	やや精良	3/12	
422	300-1	SK35007	5区	—	山茶椀 椀	15.2	5.4	高台径 6.0	ロクロナデ	灰白5Y7/1	やや精良	口縁部5/12	
423	300-7	SK35007	5区	—	山茶椀 椀	14.4	—	—	ロクロナデ	灰白5Y7/1	精良	口縁部1/12	

第３-８表　出土遺物観察表

番号	実測番号	遺構	調査区	出土位置	器種器形	法量(cm) 口径	器高	その他	調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
424	300-5	SK35007	5区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径 5.6	ロクロナデ	灰黄2.5Y7/2	やや精良	底部7/12	
425	300-2	SK35007	5区	—	山茶椀 椀	—	—	底径 5.8	ロクロナデ	灰黄2.5Y7/2	4mm以下の砂粒含	底部完存	内面黒変。
426	298-7	SK35007	5区	—	山茶椀 椀	15.8	—	—	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
427	300-6	SK35007	5区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径 8.0	ロクロナデ	灰白2.5Y8/1	やや精良	底部2/12	
428	300-4	SK35007	5区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径 8.0	ロクロナデ	灰黄2.5Y7/2	3mm以下の砂粒含	底部1/12	内面平滑。
429	300-3	SK35007	5区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径 6.6	ロクロナデ	灰白2.5Y8/1	やや精良	底部5/12	
430	298-6	SK35007	5区	—	陶器 壺	—	—	底径 8.0	ロクロナデ	褐灰10YR6/1	1mmの砂粒含	底部2/12	
431	185-3	SD38081	8区③	LH3	土師器 皿	8.4	—	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	口縁部2/12	
432	185-2	SD38081	8区③	LH3	土師器 皿	5.6	0.6	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	口縁部3/12	
433	186-2	SD38081	8区③	LH2	土師器 鍋	—	—	—	—	浅黄橙10YR8/3	2.5mm以下の砂粒含	口縁部小片	
434	187-2	SD38081	8区③	LH2	山茶椀 椀	—	—	底径 7.9	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	精良	底部1/12	内面煤付着。
435	297-1	SK35003	5区	—	土師器 皿	11.6	2.5	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1.5mm以下の砂粒含	口縁部9/12	
436	297-5	SK35003	5区	—	土師器 羽釜	25.8	—	—	—	淡黄2.5Y8/3	3mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
437	297-4	SK35003	5区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径 7.2	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	1mm以下の砂粒含	底部4/12	
438	297-2	SK35003	5区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径 6.6	ロクロナデ	黄灰2.5Y6/1	1.5mm以下の砂粒含	底部2/12	
439	297-3	SK35003	5区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径 7.6	ロクロナデ	灰白5Y7/1	1.5mm以下の砂粒含	底部3/12	
440	298-3	SK35003	5区	—	陶器 鉢	—	—	高台径 15.0	体部外面下半ヘラケズリ	灰白10YR7/1	6mm以下の砂粒含	底部2/12	
441	84-2	SK38019	8区②	NC8	土師器 皿	—	2.8	—	底部外面ヘラケズリ	淡橙5YR8/4	精良	小片	内面に放射暗文。
442	84-3	SK38019	8区②	NC8	山茶椀 椀	—	—	高台径 6.2	ロクロナデ	灰白N8/	精良	底部3/12	
443	84-7	SE38022 枠内	8区②	NB6	土師器 皿	12.4	2.2	—	底部外面未調整	灰白10YR8/2	精良	口縁部6/12	
444	85-2	SE38022 枠内	8区②	NB6	土師器 鍋	24.0	—	—	ハケメ	にぶい黄橙10YR7/2	精良	口縁部3/12	外面に煤付着。
445	85-1	SE38022 掘形	8区②	NB6	土師器 鍋	41.8	—	—	—	灰白2.5Y8/2	精良	口縁部1/12	
446	87-1	SE38022	8区②	NB6	須恵器 横瓶	—	—	—	外面タタキ	灰N6/	精良	頸部3/12	
447	86-2	SE38022	8区②	NB6	山茶椀 椀	14.6	5.4	高台径 6.2	ロクロナデ	灰N8/	精良	口縁部8/12	歪み大きい。
448	86-1	SE38022	8区②	—	山茶椀 椀	14.8	5.3	高台径 5.9	ロクロナデ	灰白5Y7/1	精良	底部5/12	内面煤付着。
449	1005-1	SE38022 枠内	8区②	NB6	漆器 椀	13.2	4.7	高台 5.9	—	—	ケヤキ	5/12	
450	1068-1	SE38022	8区②	—	木製品 曲物	40.1	13.4	厚 0.5	—	—	—	ほぼ完形	
451	223-2	SE39002	9区	半裁西側第2層	土師器 皿	10.5	2.6	—	外面未調整	灰白2.5Y8/1	1.5mm以下の砂粒含	7/12	歪み大きい。
452	222-6	SE39002	9区	半裁西側第1層	土師器 皿	12.0	2.3	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1.5mm以下の砂粒含	3/12	
453	223-4	SE39002	9区	北半裁	土師器 皿	10.6	2.7	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	1mm以下の砂粒含	9/12	
454	222-4	SE39002	9区	第3層	土師器 皿	11.8	2.5	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	4/12	
455	223-3	SE39002	9区	KV11 北半裁	土師器 皿	11.0	2.7	—	外面未調整	灰白2.5Y8/1	1.5mm以下の砂粒含	9/12	
456	223-5	SE39002	9区	KV11 北半裁	土師器 皿	11.0	2.5	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	完形	
457	222-7	SE39002	9区	半裁西側第2層	土師器 皿	7.2	1.0	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	3/12	
458	222-5	SE39002	9区	半裁西側第1層	土師器 皿	7.5	1.2	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1.5mm以下の砂粒含	9/12	歪みが大きい。
459	223-1	SE39002	9区	半裁西側第2層	土師器 鍋	21.8	—	—	外面ハケメ	にぶい黄褐10YR5/3	1mm以下の砂粒含	5/12	外面と内面下部に煤・炭化物付着。
460	224-1	SE39002	9区	KV11 北半裁	土師器 羽釜	35.4	—	鍔径 43.6	外面ハケメ	にぶい黄橙10YR7/3	微砂粒含	5/12	鍔以下に煤付着。
461	1002-2	SE39002	9区	—	木製品 板状加工材	幅 6.4	長 25.9	厚 0.8	—	—	ヒノキ属	完形	墨線３条、小孔２個１組２ヶ所。
462	175-5	SK38077	8区③	LI2	土師器 皿	11.0	—	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	2/12	
463	175-8	SK38077	8区③	LI3	土師器 皿	9.1	—	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	2/12	
464	175-6	SK38077	8区③	LI2	土師器 皿	9.0	2.2	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	精良	3/12	
465	175-7	SK38077	8区③	LI2	土師器 皿	9.4	2.0	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/3	精良	2/12	
466	175-1	SK38077	8区③	LI2	土師器 皿	8.0	0.9	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	4/12	
467	175-4	SK38077	8区③	LI3	土師器 皿	8.0	0.8	—	外面未調整	灰白5Y8/1	精良	3/12	
468	175-2	SK38077	8区③	LI2	土師器 皿	7.8	1.0	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	2mmの砂粒含	4/12	
469	175-3	SK38077	8区③	LI2	土師器 皿	7.0	0.8	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	精良	2/12	
470	176-2	SK38077	8区③	LI2	土師器 鍋	30.2	—	—	ハケメ	浅黄2.5Y7/3	精良	口縁部1/12	外面に煤付着。内面黒変。
471	177-2	SK38077	8区③	LI3	施釉陶器 天目茶椀	12.0	—	—	体部外面下半ロクロケズリ	灰白5Y8/1	精良	口縁部4/12	
472	177-5	SK38077	8区③	LI3	青磁 椀	—	—	—	—	灰白5Y7/1	精良	口縁部小片	龍泉。
473	178-1	SK38077	8区③	LI3	陶器 甕	—	—	—	—	黒褐7.5YR3/1	精良	口縁部小片	常滑。
474	177-3	SK38077	8区③	LI3	山茶椀 椀	—	—	高台径 7.0	ロクロナデ	灰N6/	精良	底部7/12	付着物による変色あり。
475	308-8	SD36022	6区	LN11	土師器 皿	10.4	2.3	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	3/12	
476	308-9	SD36022	6区	LN11	土師器 皿	10.4	—	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	3/12	
477	359-3	SD36022	6区	LL12	土師器 皿	11.4	2.4	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	3mm以下の砂粒含	4/12	
478	308-7	SD36022	6区	LN11	土師器 皿	10.2	2.6	—	外面未調整	灰白10YR8/2	3mm以下の砂粒含	7/12	
479	308-10	SD36022	6区	LN11	土師器 皿	10.8	—	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	2/12	
480	308-6	SD36022	6区	LN11	土師器 皿	7.5	0.8	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	3/12	
481	308-5	SD36022	6区	LN11	土師器 皿	7.2	1.1	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	1mm以下の砂粒含	2/12	

第３－９表　出土遺物観察表

番号	実測番号	遺構	調査区	出土位置	器種 器形	法量 (cm) 口径	器高	その他	調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
482	359-4	SD36022	6区	LI12	土師器 皿	7.0	1.0	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/2	やや精良	5/12	
483	359-5	SD36022	6区	LI12	土師器 甕	14.8	—	—	—	灰白2.5Y8/2	やや精良	口縁部1/12	
484	358-6	SD36022	6区	LK11	施釉陶器 天目茶椀	12.0	6.2	高台径 4.0	外面下半ロクロケズリ	にぶい褐7.5YR6/3	精良	底部11/12	
485	358-5	SD36022	6区	LI12	施釉陶器 壺	—	—	頸部径 9.0	ロクロナデ	灰白N7/	やや精良	頸部5/12	
486	359-2	SD36022	6区	LM13	加工円盤	3.4	厚 1.2	重 13.5g	—	浅黄橙7.5YR8/6	2mm以下の砂粒含	完形	陶器甕体部を加工。
487	359-1	SD36022	6区	LM12	弥生土器 甕	—	—	底部径 5.6	工具ナデ	暗灰N3/	3mm以下の砂粒含	底部9/12	
488	191-3	SK38085	8区③	—	土師器 皿	12.2	2.3	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	精良	3/12	
489	191-5	SK38085	8区③	—	土師器 皿	11.4	2.6	—	工具ナデ	灰白10YR8/2	やや精良	2/12	
490	189-5	SK38085	8区③	—	土師器 皿	10.6	2.7	—	外面未調整	灰白10YR8/2	6mmの小石含	4/12	
491	191-1	SK38085	8区③	—	土師器 皿	10.4	2.4	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	4/12	
492	188-6	SK38085	8区③	—	土師器 皿	9.8	2.6	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	6/12	
493	189-2	SK38085	8区③	—	土師器 皿	11.6	2.7	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	精良	3/12	
494	189-1	SK38085	8区③	—	土師器 皿	10.5	2.6	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	11/12	
495	188-1	SK38085	8区③	—	土師器 皿	10.5	2.4	—	外面未調整	灰白2.5Y8/1	3mm以下の砂粒含	ほぼ完形	
496	188-2	SK38085	8区③	—	土師器 皿	10.6	2.3	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の砂粒含	ほぼ完形	
497	193-8	SK38085	8区③	—	土師器 皿	8.9	—	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	1.5mm以下の砂粒含	5/12	
498	191-4	SK38085	8区③	—	土師器 皿	11.4	2.4	—	工具ナデ	灰白10YR8/2	やや精良	3/12	
499	189-4	SK38085	8区③	—	土師器 皿	11.2	2.3	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	精良	5/12	
500	188-4	SK38085	8区③	—	土師器 皿	10.8	2.8	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/3	1.5mm以下の砂粒含	完形	
501	191-8	SK38085	8区③	—	土師器 皿	10.2	2.3	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	精良	3/12	
502	193-2	SK38085	8区③	—	土師器 皿	9.0	2.7	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	精良	2/12	
503	188-5	SK38085	8区③	—	土師器 皿	11.4	2.8	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	1mm以下の砂粒含	6/12	
504	191-7	SK38085	8区③	—	土師器 皿	11.3	2.6	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	精良	3/12	
505	189-7	SK38085	8区③	—	土師器 皿	11.0	2.3	—	—	灰白10YR8/2	精良	3/12	外面調整不明瞭。
506	191-6	SK38085	8区③	—	土師器 皿	10.6	2.7	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	やや精良	3/12	一部に工具痕あり。
507	191-2	SK38085	8区③	—	土師器 皿	11.6	2.5	—	工具ナデ	灰白2.5Y8/2	精良	3/12	底部外面に板目状圧痕。
508	188-3	SK38085	8区③	—	土師器 皿	11.0	2.5	—	外面未調整	灰黄2.5Y6/2	1mm以下の砂粒含	8/12	底部外面に板目状圧痕。
509	189-3	SK38085	8区③	—	土師器 皿	11.0	2.6	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	3/12	
510	189-6	SK38085	8区③	—	土師器 皿	10.5	2.8	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	精良	5/12	
511	190-6	SK38085	8区③	—	土師器 皿	7.7	1.2	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/2	精良	7/12	
512	192-2	SK38085	8区③	—	土師器 皿	7.0	1.3	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	やや精良	8/12	
513	194-4	SK38085	8区③	—	土師器 皿	7.5	1.2	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	6/12	
514	192-1	SK38085	8区③	—	土師器 皿	7.1	1.2	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	9/12	
515	192-12	SK38085	8区③	—	土師器 皿	7.2	1.1	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/3	精良	5/12	
516	192-7	SK38085	8区③	—	土師器 皿	7.2	1.3	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	やや精良	6/12	
517	195-6	SK38085	8区③	—	土師器 皿	7.0	1.3	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/3	精良	8/12	
518	196-2	SK38085	8区③	—	土師器 皿	7.2	1.2	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/3	精良	完形	
519	190-2	SK38085	8区③	—	土師器 皿	7.3	1.1	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/2	精良	6/12	
520	193-6	SK38085	8区③	—	土師器 皿	7.0	1.0	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	5/12	
521	190-4	SK38085	8区③	—	土師器 皿	7.4	1.1	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	精良	完形	
522	191-10	SK38085	8区③	—	土師器 皿	7.4	0.9	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	5/12	一部に工具痕あり。
523	190-1	SK38085	8区③	—	土師器 皿	6.8	1.2	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	精良	完形	歪みが大きい。
524	192-6	SK38085	8区③	—	土師器 皿	7.7	1.0	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	7/12	
525	192-11	SK38085	8区③	—	土師器 皿	7.6	0.9	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	2mm以下の砂粒含	5/12	
526	192-5	SK38085	8区③	—	土師器 皿	6.6	1.1	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	やや精良	6/12	歪みが大きい。
527	192-8	SK38085	8区③	—	土師器 皿	7.3	1.0	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	やや精良	6/12	
528	192-9	SK38085	8区③	—	土師器 皿	7.6	0.9	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/2	やや精良	2/12	口縁部に油煙付着。
529	190-7	SK38085	8区③	—	土師器 皿	7.0	1.1	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	6/12	
530	192-4	SK38085	8区③	—	土師器 皿	7.3	1.1	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	やや精良	10/12	
531	193-5	SK38085	8区③	—	土師器 皿	6.7	0.9	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	精良	5/12	
532	193-4	SK38085	8区③	—	土師器 皿	6.9	0.9	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	5/12	底部に穿孔。歪みが大きい。
533	190-3	SK38085	8区③	—	土師器 皿	7.6	1.2	—	外面未調整	灰白10YR8/2	3mmの小石含	10/12	
534	194-5	SK38085	8区③	—	土師器 皿	7.5	1.0	—	外面未調整	灰黄2.5Y6/2	精良	完形	
535	192-10	SK38085	8区③	—	土師器 皿	6.7	0.9	—	外面未調整	灰黄2.5Y8/2	やや精良	6/12	歪みが大きい。
536	195-4	SK38085	8区③	—	土師器 皿	7.0	0.7	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	7mm以下の砂粒含	10/12	
537	191-9	SK38085	8区③	—	土師器 皿	7.5	1.0	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	7/12	
538	193-1	SK38085	8区③	—	土師器 皿	7.1	1.2	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	1.5mm以下の砂粒含	6/12	
539	193-3	SK38085	8区③	—	土師器 皿	6.8	0.9	—	外面未調整	灰白7.5YR7/4	精良	4/12	

第３-10表　出土遺物観察表

番号	実測番号	遺構	調査区	出土位置	器種 器形	法量 (cm) 口径	器高	その他	調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
540	193-7	SK38085	8区③	—	土師器 皿	6.8	0.7	—	外面未調整	灰黄2.5Y7/2	精良	3/12	
541	192-3	SK38085	8区③	—	土師器 皿	7.2	1.0	—	外面未調整	灰白10YR8/2	やや精良	6/12	
542	190-8	SK38085	8区③	—	土師器 皿	7.1	0.8	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/3	精良	ほぼ完形	
543	190-5	SK38085	8区③	—	土師器 皿	7.1	0.9	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/3	精良	9/12	口縁部内面に工具痕。
544	195-1	SK38085	8区③	—	土師器 鍋	24.6	—	—	ハケメ	灰白2.5Y8/2	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
545	195-2	SK38085	8区③	—	土師器 鍋	40.8	—	—	—	浅黄橙10YR8/3	精良	口縁部1/12以下	
546	194-1	SK38085	8区③	—	土師器 鍋	42.5	—	—	—	浅黄橙10YR8/4	2mm以下の砂粒含	口縁部2/12	外面に煤付着。
547	196-1	SK38085	8区③	—	施釉陶器 鉢	29.1	7.1	底径14.0	体部外面下半ロクロケズリ	灰白5Y8/2	2.5mm以下の砂粒含	口縁部1/12	灰釉。3足に仮定。
548	194-2	SK38085	8区③	—	施釉陶器 鉢	21.2	—	—	—	灰白7.5Y7/1	精良	口縁部1/12	灰釉。
549	406-1	SK38085	8区③	LI2	陶器 壺	—	—	体部径25.6	ロクロナデ	にぶい赤褐2.5YR5/4	4mm以下の砂粒含	体部6/12	体部外面にヘラ描記号。
550	194-3	SK38085	8区③	—	施釉陶器 壺	—	—	高台径12.0	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	精良	底部1/12	灰釉。
551	193-9	SK38085	8区③	—	陶器 甕	—	—	—	ロクロナデ	灰黄褐10YR6/2	2mm以下の砂粒含	底部小片	常滑。
552	1002-1	SK38085	8区③	—	木製品 下駄	幅8.8	長17.4	厚1.5	—	—	ヒノキ属	ほぼ完形	腐食が激しい。
553	103-4	SD38027	8区②	NB8	土師器 皿	11.5	2.8	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	精良	11/12	
554	36-2	SD38018 最下層	8区②	NB8	土師器 皿	7.3	1.9	—	外面未調整	灰白10YR8/2	2.5mm以下の砂粒含	6/12	
555	103-5	SD38027	8区②	NB9	土師器 皿	6.0	1.1	—	外面ナデ	灰白10YR8/2	精良	4/12	
556	41-3	SD38018 最下層	8区②	NB4	土師器 皿	7.0	1.5	—	外面ナデ	浅黄橙10YR8/3	精良	6/12	
557	74-2	SD38018 最下層	8区②	NB4	施釉陶器 天目茶椀	11.8	—	—	外面下半ロクロケズリ	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	2/12	
558	76-5	SD38018 最下層	8区②	NB4	瓦質土器 風炉	—	—	—	外面ヘラミガキ	灰白N7/	1mm以下の砂粒含	口縁部小片	口縁部に花菱文。
559	61-3	SD38018 最下層	8区②	NB4	丸瓦	—	—	—	内面布目痕	暗灰N3/	1mm以下の砂粒含	1/12以下	
560	62-2	SD38018 最下層	8区②	NB3	丸瓦	—	6.0	—	内面布目痕	暗灰N3/	1.5mm以下の砂粒含	4/12以下	
561	63-1	SD38018 最下層	8区②	NB4	丸瓦	—	6.3	—	内面布目痕	暗灰N3/	1mm以下の砂粒含	2/12以下	
562	66-3	SD38018 最下層	8区②	NB5	平瓦	—	—	—	凸面工具痕	灰N4/	精良	2/12以下	
563	55-1	SD38018 最下層	8区②	NB5	平瓦	—	谷深2.7	—	ナデ	灰Y5/1	1.2mm以下の砂粒含	3/12以下	
564	61-1	SD38018 最下層	8区②	NB3	平瓦	—	谷深3.2	—	凸面工具痕	暗灰N3/	2mm以下の砂粒含	3/12以下	
565	59-2	SD38018 最下層	8区②	NB4	平瓦	—	谷深1.4	—	ヘラケズリ	灰N5/	微砂粒含	2/12以下	
566	55-2	SD38018 最下層	8区②	NB6	平瓦	—	—	—	ナデ	灰白5Y7/1	3mm以下の小石含	1/12以下	
567	68-2	SD38018 最下層	8区②	NB5	平瓦	—	—	—	凸面ヘラケズリ	灰4/	微砂粒含	1/12以下	
568	57-1	SD38018 最下層	8区②	NB5	平瓦	—	谷深3.1	—	凸面ヘラケズリ	灰白7/	3mm以下の砂粒含	3/12以下	
569	64-3	SD38018 最下層	8区②	NB8	鬼瓦	—	—	—	内面ヘラケズリ	暗灰N3/	1.5mm以下の砂粒含	1/12以下	
570	1020-3	SD38018 最下層	8区②	NB2	木製品 曲物	幅7.0	残長69.5	厚0.4	—	—	—	—	
571	379-3	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	10.4	2.7	—	底部外面に板目状圧痕	浅黄2.5Y7/3	3mm以下の砂粒含	9/12	
572	379-5	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	10.0	2.5	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	4/12	
573	334-11	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	9.3	—	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
574	330-5	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	10.4	2.8	—	底部外面に板目状圧痕	灰白10YR8/2	精良	9/12	
575	380-5	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	11.2	2.4	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	2/12	
576	334-12	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	9.0	—	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	2mm以下の砂粒含	口縁部3/12	
577	332-6	SD36006	6区	LO11	土師器 皿	10.6	2.3	—	底部ナデ	灰白2.5Y8/2	2mm以下の砂粒含	2/12	
578	335-4	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	10.6	2.6	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	1mm以下の砂粒含	11/12	歪みが大きい。
579	379-6	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	10.2	2.5	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	1.5mm以下の砂粒含	5/12	
580	381-7	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	11.6	2.4	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	精良	2/12	
581	379-2	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	10.0	2.5	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の砂粒含	10/12	
582	334-6	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	9.1	—	—	—	灰白2.5Y8/2	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
583	380-6	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	10.4	2.6	—	底部外面に工具痕	灰白10YR8/2	精良	3/12	
584	334-7	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	9.6	2.5	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	2mm以下の砂粒含	2/12	
585	379-7	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	10.4	2.7	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	1.5mm以下の砂粒含	3/12	
586	335-2	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	9.8	2.7	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	やや精良	11/12	
587	334-3	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	9.0	—	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1.5mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
588	334-2	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	9.0	2.4	—	底部ナデ	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	1/12	
589	381-6	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	10.2	2.6	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	精良	2/12	
590	379-8	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	10.2	2.3	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1.5mm以下の砂粒含	3/12	
591	379-1	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	9.8	2.6	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	1mm以下の砂粒含	9/12	
592	334-9	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	9.6	2.5	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	1.5mm以下の砂粒含	3/12	
593	334-4	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	9.4	—	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
594	381-4	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	10.6	2.4	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	精良	2/12	
595	381-5	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	11.2	2.4	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	精良	2/12	
596	334-8	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	9.4	—	—	—	灰白10YR8/1	1.5mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
597	335-3	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	10.2	1.8	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	2mm以下の砂粒含	口縁部完存	

第３-11表　出土遺物観察表

番号	実測番号	遺構	調査区	出土位置	器種 器形	法量 (cm) 口径	器高	その他	調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
598	382-2	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	10.5	2.1	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	2/12	
599	330-9	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	10.8	—	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	口縁部2/12	
600	381-3	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	11.5	2.6	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	2/12	
601	379-4	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	10.2	2.6	—	底部外面に板目状圧痕	淡黄2.5Y8/3	1mm以下の砂粒含	7/12	
602	330-1	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	9.4	2.5	—	外面未調整	淡黄2.5Y8/3	精良	完形	歪みが大きい。
603	331-10	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	9.2	—	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	精良	口縁部2/12	
604	330-7	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	10.2	2.5	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	精良	3/12	
605	331-6	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	11.0	—	—	外面未調整、一部工具ナデ	灰白2.5Y8/2	精良	口縁部3/12	
606	331-4	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	9.4	2.3	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	2.5mm以下の砂粒含	2/12	
607	332-5	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	9.5	2.5	—	ナデ	灰白2.5Y8/2	精良	4/12	
608	330-4	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	10.0	2.5	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	6/12	
609	332-1	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	10.6	—	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	微砂粒含	口縁部2/12	
610	331-11	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	11.5	2.4	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	微砂粒含	1/12	
611	381-1	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	10.4	2.7	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	3/12	
612	332-8	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	10.1	2.8	—	ナデ	灰白2.5Y8/2	1.5mmの砂粒含	4/12	
613	332-7	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	10.4	2.2	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	精良	2/12	
614	332-2	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	10.4	2.6	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	2.5mmの砂粒含	2/12	
615	332-3	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	11.8	2.1	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	微砂粒含	1/12	
616	333-4	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	10.0	2.0	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	1mm以下の砂粒含	1/12	
617	333-2	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	9.8	2.2	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	微砂粒含	2/12	
618	332-9	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	10.1	2.3	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	微砂粒含	2/12	
619	333-10	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	10.5	2.1	—	外面未調整	灰白2.5Y8/1	1.5mm以下の砂粒含	3/12	
620	332-12	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	11.8	—	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	微砂粒含	口縁部1/12	
621	333-1	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	9.6	—	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
622	334-5	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	9.0	—	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
623	331-3	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	10.0	—	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	微砂粒含	口縁部3/12	
624	332-10	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	10.1	—	—	ナデ	灰白2.5Y8/2	精良	口縁部1/12	
625	335-5	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	11.2	2.5	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	5/12	
626	333-9	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	10.4	—	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1.5mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
627	331-2	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	9.4	—	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	微砂粒含	口縁部1/12	
628	332-4	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	10.5	2.5	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	精良	1/12	
629	335-1	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	9.8	2.8	—	外面未調整	灰白10YR8/2	2mm以下の砂粒含	7/12	
630	330-6	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	10.4	2.3	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	4/12	
631	334-10	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	9.0	—	—	外面未調整	灰黄2.5Y7/2	微砂粒含	口縁部2/12	
632	330-3	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	9.8	2.7	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	精良	7/12	
633	331-5	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	9.0	—	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	微砂粒含	口縁部4/12	
634	331-1	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	9.6	2.5	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	微砂粒含	4/12	
635	332-11	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	11.6	2.1	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	精良	1/12	
636	334-1	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	9.2	—	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	1mm以下の砂粒含	2/12	
637	330-8	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	10.2	—	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	精良	口縁部2/12	
638	331-12	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	10.8	—	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	2mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
639	333-3	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	9.7	—	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
640	333-11	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	10.8	2.2	—	外面未調整	黄灰2.5Y8/2	微砂粒含	2/12	
641	333-8	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	10.8	2.2	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	1.5mm以下の砂粒含	1/12	
642	333-6	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	10.0	2.5	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	1mm以下の砂粒含	2/12	
643	335-6	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	10.2	3.0	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	1mm以下の砂粒含	5/12	歪みが大きい。
644	333-7	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	10.4	2.4	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	2/12	
645	382-1	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	11.4	—	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	精良	3/12	
646	333-5	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	10.4	2.6	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	2/12	
647	330-2	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	9.8	2.6	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	精良	完形	
648	331-9	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	10.2	—	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	微砂粒含	口縁部2/12	
649	381-2	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	10.7	2.6	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	2/12	
650	333-12	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	11.8	—	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
651	330-10	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	8.0	1.4	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	2/12	歪みが大きい。
652	330-11	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	8.0	1.2	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	3/12	歪みが大きい。
653	328-8	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	7.7	1.4	—	外面未調整	灰白10YR8/2	やや精良	8/12	歪みが大きい。
654	329-7	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	7.3	1.4	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	1mm以下の砂粒含	11/12	歪みが大きい。
655	328-12	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	7.2	1.2	—	外面未調整	灰白10YR8/2	やや精良	11/12	

第３-12表　出土遺物観察表

番号	実測番号	遺構	調査区	出土位置	器種器形	法量(cm) 口径	器高	その他	調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
656	328-2	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	7.8	1.3	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	2mm以下の砂粒含	完形	歪みが大きい。
657	382-6	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	7.8	1.2	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	4/12	
658	325-1	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	7.9	1.0	—	外面未調整	灰白10YR8/2	2mm以下の砂粒含	3/12	
659	325-3	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	8.2	0.9	—	外面未調整	灰白10YR8/2	やや精良	2/12	
660	325-7	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	6.9	0.9	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	やや精良	3/12	
661	328-11	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	7.0	0.8	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	やや精良	2/12	
662	329-11	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	7.6	0.8	—	外面未調整	灰白10YR8/2	2mm以下の砂粒含	3/12	
663	382-5	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	7.3	0.9	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	9/12	
664	328-7	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	7.1	1.2	—	外面未調整	灰白10YR8/2	やや精良	6/12	
665	325-6	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	7.8	0.9	—	外面未調整	灰白10YR8/2	やや精良	2/12	
666	382-3	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	7.8	1.2	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	完形	歪みが大きい。
667	328-1	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	7.6	1.1	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	2mm以下の砂粒含	9/12	
668	329-4	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	6.8	0.9	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	やや精良	3/12	
669	329-3	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	6.9	0.8	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	1mm以下の砂粒含	2/12	
670	328-9	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	7.3	1.2	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	4mmの砂粒含	6/12	歪みが大きい。
671	325-4	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	6.8	0.9	—	外面未調整	灰白10YR8/2	やや精良	2/12	
672	329-8	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	7.6	1.0	—	外面未調整	灰白10YR8/2	やや精良	8/12	
673	329-1	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	7.4	1.2	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	2mm以下の砂粒含	完形	歪みが大きい。
674	329-6	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	6.6	1.0	—	外面未調整	灰白10YR8/2	2mm以下の砂粒含	5/12	歪みが大きい。
675	329-5	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	8.0	0.8	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	3mm以下の砂粒含	2/12	
676	325-8	SD36006	6区	LO11	土師器 皿	7.0	0.7	—	外面未調整	灰白10YR8/2	やや精良	3/12	
677	328-6	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	7.6	0.8	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	1mm以下の砂粒含	5/12	
678	328-3	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	7.4	1.2	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	やや精良	完形	
679	328-10	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	7.6	0.9	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	3/12	
680	325-5	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	7.1	0.9	—	外面未調整	灰白10YR8/2	2mm以下の砂粒含	2/12	
681	328-4	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	7.1	1.4	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	やや精良	9/12	
682	382-7	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	6.4	1.1	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	精良	3/12	
683	329-10	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	7.2	0.7	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	1mm以下の砂粒含	3/12	
684	325-2	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	7.4	0.9	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	2mm以下の砂粒含	2/12	
685	382-4	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	7.6	1.2	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	完形	
686	329-2	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	6.8	0.9	—	外面未調整	灰白10YR8/2	やや精良	3/12	
687	328-5	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	7.2	1.1	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	1mm以下の砂粒含	10/12	
688	382-8	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	6.8	0.8	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	2/12	
689	330-12	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	7.4	—	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	口縁部2/12	
690	329-9	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	7.6	0.8	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	6/12	
691	324-1	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	14.5	2.8	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	2mm以下の砂粒含	8/12	
692	324-5	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	14.8	2.7	—	外面未調整	灰白10YR8/2	2mm以下の砂粒含	4/12	
693	324-2	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	14.7	2.8	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	2mm以下の砂粒含	7/12	
694	324-3	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	14.8	—	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
695	324-4	SD36006	6区	LN11	土師器 皿	15.0	—	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	やや精良	口縁部3/12	
696	320-1	SD36006	6区	LN11	土師器 鍋	30.0	—	—	外面下半ヘラケズリ	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	体部4/12	内外面に炭化物付着。
697	380-2	SD36006	6区	LN11	土師器 鍋	24.6	—	—	—	灰白2.5Y8/2	精良	口縁部1/12	
698	380-3	SD36006	6区	LN11	土師器 鍋	23.6	—	—	外面ハケメ	灰白10YR8/2	精良	口縁部1/12	
699	320-2	SD36006	6区	LN11	土師器 鍋	19.8	—	—	外面ハケメ	にぶい黄橙10YR7/3	1.5mm以下の砂粒含	口縁部4/12	
700	319-1	SD36006	6区	LN11	土師器 鍋	27.8	—	—	外面下半ヘラケズリ	灰白2.5Y7/2	1.5mm以下の砂粒含	口縁部3/12	
701	380-1	SD36006	6区	LN11	土師器 鍋	27.8	—	—	—	灰白10YR8/2	精良	口縁部1/12	
702	360-1	SD36006	6区	LN11	土師器 鍋	24.8	—	—	外面ハケメ	にぶい黄橙10YR7/3	1.5mm以下の砂粒含	体部3/12	内外面に炭化物付着。
703	380-4	SD36006	6区	LN11	土師器 鍋	21.8	—	—	外面ハケメ	浅黄橙7.5YR8/3	精良	口縁部4/12	外面に炭化物付着。
704	319-2	SD36006	6区	LM11	土師器 鍋	22.0	—	—	外面ハケメ	にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に炭化物付着。
705	319-3	SD36006	6区	—	施釉陶器 椀	15.4	—	—	外面下半ロクロケズリ	灰白10YR8/2	1.5mm以下の砂粒含	口縁部3/12	古瀬戸。灰釉。
706	321-2	SD36006	6区	LN11	施釉陶器 鉢	20.7	—	—	ロクロナデ	灰黄2.5Y7/2	微砂粒含	口縁部1/12	古瀬戸。灰釉。
707	362-3	SD36006	6区	LN11	施釉陶器 卸皿	15.2	—	—	ロクロナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2mm以下の砂粒含	4/12	古瀬戸。灰釉。
708	326-4	SD36006	6区	LN11	陶器 鉢	—	—	高台径13.0	外面下半ロクロケズリ	灰白5Y7/1	2.5mm以下の砂粒含	底部2/12	
709	326-2	SD36006	6区	—	陶器 鉢	—	—	高台径12.0	外面下半ロクロケズリ	黄灰2.5Y6/1	5mm以下の砂粒含	底部1/12	
710	321-3	SD36006	6区	LN11	瓦質土器 鉢	—	—	—	ナデ	黄灰2.5Y7/2	2.5mm以下の砂粒含	脚部完存	
711	326-5	SD36006	6区	LN11	山茶椀 椀	—	—	高台径7.6	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	1.5mm以下の砂粒含	底部6/12	
712	326-3	SD36006	6区	LO11	山茶椀 椀	—	—	高台径7.0	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	2.5mm以下の砂粒含	底部8/12	
713	326-6	SD36006	6区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径8.0	ロクロナデ	灰白5Y7/1	1mm以下の砂粒含	底部3/12	

第３-13表　出土遺物観察表

番号	実測番号	遺構	調査区	出土位置	器種 器形	法量 (cm) 口径	器高	その他	調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
714	326-7	SD36006	6区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径 8.3	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	1.5mm以下の砂粒含	底部5/12	
715	197-1	SK38092	8区 ③	LL2	土師器 皿	11.0	2.3	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	8/12	
716	197-2	SK38092	8区 ③	LL2	土師器 皿	10.5	2.4	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/2	1.5mm以下の砂粒含	4/12	
717	197-3	SK38092	8区 ③	LL2	土師器 皿	10.2	2.3	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	1.5mm以下の砂粒含	4/12	
718	197-4	SK38092	8区 ③	LL2	陶器 椀	—	—	底径 4.0	ロクロナデ	灰白2.5Y8/1	1.5mm以下の砂粒含	底部完存	
719	106-6	SK38036	8区 ②	MC21	土師器 皿	8.8	2.5	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	4/12	
720	267-7	SK37015	7区	—	土師器 皿	9.3	—	—	ナデ	浅黄橙10YR8/3	精良	口縁部3/12	
721	268-2	SK37015	7区	—	土師器 皿	11.6	2.1	—	ナデ	にぶい黄橙10YR7/4	精良	3/12	内外面に煤付着。
722	268-4	SK37015	7区	—	土師器 皿	9.8	1.6	—	—	浅黄橙10YR8/3	微砂粒含	2/12	摩滅のため調整不明。
723	84-6	SD38020	8区 ②	—	土師器 皿	7.9	1.1	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	3mm以下の砂粒含	5/12	
724	84-5	SD38020	8区 ②	NC1	土師器 甕	12.8	—	—	—	灰白10YR8/2	精良	口縁部1/12	
725	265-6	SD37013	7区	—	土師器 皿	9.2	—	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	口縁部7/12	
726	263-5	SD37013	7区	—	土師器 皿	12.0	2.4	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	6/12	摩滅のため調整不明確。
727	265-5	SD37013	7区	—	土師器 皿	11.8	2.5	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	3/12	
728	265-1	SD37013	7区	—	土師器 皿	10.0	2.4	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の砂粒含	3/12	
729	265-4	SD37013	7区	—	土師器 皿	11.4	—	—	ナデ	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	2/12	
730	265-2	SD37013	7区	—	土師器 皿	12.0	2.2	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	2/12	
731	265-7	SD37013	7区	—	土師器 皿	7.9	1.1	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	5/12	
732	264-4	SD37013	7区	—	須恵器 甕	—	—	—	外面カキメ	灰5Y6/1	1.5mm以下の砂粒含	小片	口縁部外面に連続斜行沈線。
733	187-8	SD38083	8区 ④	LN6	土師器 皿	10.5	—	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	口縁部1/12	
734	187-6	SD38083	8区 ④	LP5	土師器 椀	9.6	—	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/4	3mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
735	187-3	SD38083	8区 ④	LP5	土師器 皿	—	—	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	精良	小片	
736	187-7	SD38083	8区 ④	LP5	灰釉陶器 椀	—	—	—	ロクロナデ	灰黄2.5Y7/2	精良	小片	刷毛塗。
737	187-1	SD38083	8区 ④	LP5	山茶椀 椀	—	—	高台径 8.0	ロクロナデ	灰白2.5Y8/2	精良	底部3/12	
738	186-1	SD38083	8区 ④	LP5	須恵器 甕	—	—	—	外面カキメ	灰N4/	5mmの小石含	小片	
739	157-5	SD38046	8区 ③	LN1	土師器 皿	—	—	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	小片	
740	157-6	SD38046	8区 ④	LP2	土師器 皿	—	—	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	小片	内面に油煙。
741	158-3	SD38046	8区 ④	LP2	土師器 鍋	21.6	—	—	—	灰白10YR8/2	精良	口縁部1/12	外面に煤付着。
742	160-1	SD38046	8区 ③	LN1	施釉陶器 卸目付大皿	—	—	—	ロクロナデ	浅黄橙10YR8/3	精良	1/12以下	口縁部に灰釉。
743	297-8	SK35004	5区	—	土師器 皿	11.2	—	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
744	297-6	SK35004	5区	—	土師器 皿	7.1	1.0	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1.5mm以下の砂粒含	9/12	歪みが大きい。
745	297-7	SK35004	5区	—	土師器 皿	7.5	0.7	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	4/12	
746	297-9	SK35004	5区	—	土師器 皿	7.0	0.8	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	4/12	歪みが大きい。
747	298-2	SK35004	5区	—	土師器 鍋	27.8	—	—	—	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
748	298-1	SK35004	5区	—	土師器 鍋	38.2	—	—	—	にぶい橙2.5YR7/4	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
749	398-4	SK35004	5区	—	山茶椀 椀	11.6	—	—	ロクロナデ	灰白2.5Y8/2	精良	口縁部1/12	
750	297-10	SK35004	5区	—	砥石	幅 6.0	残長 7.9	厚 3.0	—	にぶい橙7.5YR7/3	泥岩	—	
751	106-2	SD38031	8区 ②	—	土師器 皿	10.1	2.2	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	1mm以下の砂粒含	5/12	
752	106-3	SD38031	8区 ②	—	土師器 皿	7.6	0.9	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	6/12	歪みが大きい。
753	106-5	SD38032	8区 ②	MB26	山茶椀 椀	—	—	底径 6.6	ロクロナデ	灰白2.5Y8/1	精良	底部4/12	外面に墨書。底部外面に線状圧痕。
754	15-4	SD38004	8区	—	土師器 鍋	—	—	—	—	にぶい黄橙10YR6/3	精良	小片	外面に煤付着。
755	15-5	SD38004	8区	—	土師器 鍋	—	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/3	精良	小片	外面に煤付着。
756	16-1	SD38004	8区	—	ロクロ土師器 皿	—	—	底径 3.7	—	灰白10YR8/2	精良	底部11/12	底部外面にヘラ描き沈線。
757	313-1	SB36025	6区	LK9 P1	土師器 皿	7.5	—	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
758	316-6	SB36025	6区	LK9 P1	土師器 皿	8.6	2.1	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	2mm以下の砂粒含	2/12	
759	313-2	SB36025	6区	LK10 P4	土師器 皿	7.1	0.9	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の砂粒含	3/12	
760	226-7	SK39005	9区	—	土師器 皿	8.0	2.2	—	外面未調整	灰白10YR8/2	微砂粒含	2/12	
761	225-2	SK39005	9区	—	土師器 鍋	20.6	—	—	—	灰黄褐10YR5/2	精良	口縁部5/12	
762	266-5	SK37002	7区	LR2	土師器 鍋	28.4	—	—	—	浅黄橙10YR8/3	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
763	262-1	SD37009	7区	—	土師器 鍋	24.6	—	—	—	灰白10YR8/2	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	内面に煤付着。
764	260-10	SD37009	7区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径 6.8	ロクロナデ	灰白N7/	精良	底部3/12	内面平滑。
765	412-2	SD31001	1区	AG4	土師器 皿	6.8	0.8	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	微砂粒含	3/12	
766	244-2	SD31001	1区	AG4	土師器 鍋	—	—	—	—	浅黄橙10YR8/3	精良	小片	
767	244-6	SD31001	1区	AG4	土錘	1.4	残長 3.8	残重 7.0g	ナデ	灰白2.5Y8/2	精良	8/12	
768	243-3	SD31001	1区	AG4	山茶椀 椀	—	—	高台径 7.4	ロクロナデ	灰白N8/	精良	底部完存	
769	85-4	SD38025	8区 ②	NC9	土師器 皿	9.6	2.6	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	2/12	
770	85-3	SD38025	8区 ②	NC9	土師器 皿	9.7	2.7	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	9/12	
771	85-5	SD38025	8区 ②	NC9	土師器 皿	9.8	2.8	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	4/12	

第３-14表　出土遺物観察表

番号	実測番号	遺構	調査区	出土位置	器種器形	法量(cm) 口径	器高	その他	調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
772	86-6	SD38025	8区②	NC9	土師器鍋	20.8	—	—	—	灰白10YR8/2	精良	口縁部1/12	
773	86-4	SD38025	8区②	NC9	土師器鍋	—	—	—	—	灰白10YR8/2	精良	小片	
774	86-5	SD38025	8区②	NC9	土錘	1.4	長4.0	重6.3g	ナデ	灰白5Y8/1	精良	完形	
775	86-3	SD38025	8区②	NC9	山茶椀椀	—	—	高台径8.4	ロクロナデ	灰白N8/	精良	底部1/12以下	
776	311-3	SK36009	6区	LM12	土師器皿	11.6	2.2	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	やや精良	1/12	
777	310-3	SK36009	6区	LM14	土師器皿	7.9	0.9	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	やや精良	2/12	
778	310-4	SK36009	6区	LM14	土師器皿	7.8	1.1	—	外面未調整	灰白10YR8/2	やや精良	4/12	
779	311-4	SK36009	6区	LM14	土師器鍋	—	—	—	—	灰白10YR8/2	やや精良	小片	外面に煤付着。
780	361-5	SD36017	6区	LM13	土師器皿	9.3	—	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	微砂粒含	口縁部3/12	
781	362-1	SD36017	6区	LM13	土師器皿	9.2	2.2	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/2	1mm以下の砂粒含	2/12	
782	360-4	SD36017	6区	LN12	土師器皿	8.6	2.4	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/3	1.5mm以下の砂粒含	3/12	
783	360-3	SD36017	6区	LN12	土師器皿	9.2	2.4	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	1.5mm以下の砂粒含	4/12	口縁部内面に圧痕。
784	362-2	SD36017	6区	LM13	土師器皿	7.3	0.9	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	微砂粒含	4/12	
785	361-6	SD36017	6区	LM13	土師器皿	6.8	0.8	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	4/12	
786	361-4	SD36017	6区	LM13	土師器皿	11.8	—	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
787	361-1	SD36017	6区	LN12	土師器鍋	30.2	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2mm以下の砂粒含	頸部2/12	内外面に炭化物付着。
788	360-2	SD36017	6区	LN12	土師器羽釜	28.1	—	鍔径34.0	外面ハケメ	浅黄橙10YR8/3	2.5mm以下の砂粒含	口縁部2/12	鍔以下に煤付着。内面摩滅。
789	362-5	SD36017	6区	LM13	施釉陶器皿	10.8	2.5	底径6.0	ロクロナデ	灰黄2.5Y7/2	1mm以下の砂粒含	4/12	鉄釉。
790	362-4	SD36017	6区	LM13	施釉陶器椀	15.5	—	—	外面下半ロクロケズリ	灰白2.5Y7/1	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	灰釉。古瀬戸。
791	361-3	SD36017	6区	LM13	丸瓦	—	—	—	工具ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	1.5mm以下の砂粒含	1/12以下	酸化焼成。
792	361-2	SD36017	6区	LM13	平瓦	—	—	—	—	にぶい橙7.5YR7/4	3mm以下の砂粒含	1/12以下	酸化焼成。
793	173-2	SD38075	8区③	LH2	土師器鍋	35.0	—	—	外面ハケメ、内面ヘラケズリ	にぶい黄橙10YR7/3	微砂粒含	口縁部9/12	
794	176-3	SD38075	8区③	LG3	土師器鍋	26.6	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	淡黄2.5Y8/3	精良	口縁部1/12	
795	171-1	SD38075	8区③	LG3	土師器鍋	32.8	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	淡黄橙10YR8/3	精良	口縁部2/12	
796	173-1	SD38075	8区③	LH2	土師器鍋	26.0	12.6	—	体部下半ヘラケズリ	灰白10YR8/2	微砂粒含	体部4/12	内外面に炭化物付着。
797	176-1	SD38075	8区③	LG3	土師器鍋	32.0	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に炭化物付着。
798	170-1	SD38075	8区③	LH2	土師器羽釜	35.4	—	鍔径51.2	外面ハケメ、内面工具ナデ	淡黄橙10YR8/3	精良	鍔2/12	外面に煤付着。
799	177-1	SD38075	8区③	LG3	施釉陶器天目茶椀	12.0	—	—	外面下半ロクロケズリ	にぶい橙7.5YR7/3	精良	口縁部2/12	
800	174-1	SD38075	8区③	LG3	山茶椀椀	14.2	5.0	底径6.0	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	2mm以下の砂粒含	5/12	
801	174-2	SD38075	8区③	LG3	山茶椀椀	14.0	4.7	高台径6.0	ロクロナデ	灰白5Y7/1	3mm以下の小石含	9/12	
802	174-4	SD38075	8区③	LH2	山茶椀椀	—	—	高台径5.7	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	微砂粒含	底部5/12	
803	174-3	SD38075	8区③	LG3	山茶椀椀	—	—	高台径6.0	ロクロナデ	灰白5Y7/1	4mmの小石含	底部5/12	底部内面摩耗。
804	164-3	SD38062	8区④	LN5	土師器皿	8.4	2.4	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	精良	6/12	
805	165-5	SD38062	8区④	LN5	土師器皿	8.2	2.4	—	外面未調整	淡黄2.5Y8/3	精良	5/12	
806	165-4	SD38062	8区④	LN5	土師器皿	8.2	—	—	外面未調整	淡黄2.5Y8/3	精良	口縁部2/12	
807	164-5	SD38062	8区④	LO6	土師器皿	8.6	2.4	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	3/12	
808	165-6	SD38062	8区④	LN5	土師器皿	11.6	2.2	—	ナデ	灰白2.5Y8/2	3mmの砂粒含	1/12	
809	165-3	SD38062	8区④	LN5	土師器皿	7.8	1.6	—	ナデ	灰白2.5Y8/2	精良	7/12	内面に付着物。
810	164-1	SD38062	8区④	LO6	土師器皿	13.4	2.2	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	5/12	
811	165-1	SD38062	8区④	LN5	土師器皿	13.1	2.2	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	精良	3/12	
812	165-2	SD38062	8区④	LN5	土師器皿	14.9	3.0	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	1/12	
813	164-2	SD38062	8区④	LN5	土師器鍋	23.6	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	灰白2.5Y8/2	精良	1/12	
814	260-4	SD37005	7区	LU13	土師器皿	10.0	2.3	—	外面未調整	灰白10YR8/2	やや精良	3/12	
815	260-3	SD37005	7区	LU13	土師器皿	10.6	—	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	やや精良	口縁部4/12	
816	260-5	SD37005第6層	7区	—	土師器皿	7.4	1.1	—	外面未調整	灰白2.5Y8/1	やや精良	9/12	
817	260-1	SD37005	7区	LU13	土師器皿	15.4	2.4	—	外面未調整	灰白10YR8/2	やや精良	3/12	
818	260-2	SD37005	7区	LU13	土師器皿	15.0	2.2	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	やや精良	2/12	
819	260-7	SD37005	7区	LU13	山茶椀皿	7.8	1.7	底径4.8	ロクロナデ	灰白N8/	精良	2/12	歪みが大きい。
820	260-6	SD37005	7区	LU13	山茶椀皿	7.9	1.8	底径5.4	ロクロナデ	灰白N7/	精良	9/12	
821	260-8	SD37005	7区	LU13	山茶椀椀	—	—	高台径6.0	ロクロナデ	灰白N7/	精良	底部11/12	
822	260-9	SD37005	7区	LU13	山茶椀椀	—	—	高台径6.0	ロクロナデ	灰白N8/	精良	底部11/12	底部内面平滑。
823	255-1	SD37005	7区	LU13	山茶椀椀	—	—	高台径7.4	ロクロナデ	灰白2.5Y8/1	精良	底部9/12	底部外面に墨書。
824	261-2	SD37005	7区	LU13	石製品砥石	残幅4.4	長6.6	厚4.1	—	灰白N4/	砂岩	—	残重186g。
825	1003-4	SD37005	7区	LU13	木製品箸	幅0.8	長20.3	厚0.7	—	—	アスナロ属	ほぼ完形	腐食が激しい。
826	1003-5	SD37005	7区	LU13	木製品箸	幅0.6	長20.9	残厚0.4	—	—	コウヤマキ	8/12以下	
827	1001-2	SD37005	7区	LU13	金属製品鏨	最大幅2.0	長23.0	厚1.0	—	—	鉄	完形	
828	298-5	SD35006	5区	—	土師器皿	10.6	—	—	外面未調整	淡黄2.5Y8/3	精良	口縁部2/12	
829	134-2	SE38040	8区③	—	土師器鍋	—	—	—	—	灰白2.5Y8/2	精良	小片	

第３-15表　出土遺物観察表

番号	実測番号	遺構	調査区	出土位置	器種 器形	法量 (cm) 口径	器高	その他	調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
830	351-3	SD36013	6区	—	土師器 皿	10.9	1.7	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	1mm以下の微砂粒含	2/12	
831	351-4	SD36013	6区	—	土師器 皿	7.7	2.0	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	やや精良	11/12	歪みが大きい。
832	351-2	SD36013	6区	—	土師器 皿	14.8	—	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/3	やや精良	口縁部1/12	
833	351-1	SD36013	6区	—	土師器 鍋	38.0	—	—	工具ナデ	浅黄橙10YR8/3	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
834	351-5	SD36013	6区	—	須恵器 杯	13.4	3.2	底径 10.0	ロクロナデ	灰白2.5Y8/2	やや精良	1/12	還元不良。
835	351-6	SD36013	6区	—	山茶椀 椀	15.6	—	—	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	精良	口縁部1/12	口縁部に煤付着。
836	352-1	SD36013	6区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径 6.0	ロクロナデ	灰白5Y7/1	やや精良	底部6/12	底部外面に墨痕。
837	309-3	SK36020	6区	—	施釉陶器 壺	—	—	底径 9.7	外面下半ロクロケズリ	にぶい橙7.5YR7/3	1mm以下の砂粒含	底部3/12	鉄釉。
838	208-4	SB38067	8区④	LM5 P1柱痕	土師器 皿	9.0	—	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	口縁部1/12	
839	208-5	SB38067	8区④	LN5 P2	土師器 皿	—	—	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	小片	
840	206-3	SB38067	8区④	LN5 P5柱痕	土師器 鍋	—	—	—	—	浅黄橙10YR8/3	精良	小片	
841	206-4	SB38067	8区④	LM5 P1掘形	土師器 羽釜	—	—	—	—	浅黄橙10YR8/3	1.5mm以下の砂粒含	小片	
842	206-7	SB38067	8区④	LO5 P8掘形	山茶椀 椀	—	—	高台径 6.7	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	精良	底部2/12	
843	225-4	SK39003	9区	—	土師器 茶釜	12.0	—	—	—	灰白10YR8/2	微砂粒含	口縁部2/12	
844	400-1	SK39003	9区	—	土師器 甕	42.8	—	—	ハケメ	浅黄橙7.5YR8/3	やや精良	口縁部1/12以下	
845	336-5	SD36001	6区	LI13	土師器 皿	7.2	1.3	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	3/12	
846	336-1	SD36001	6区	LI13	土師器 鍋	—	—	—	—	灰白10YR8/2	微砂粒含	小片	
847	336-4	SD36001	6区	LI13	山茶椀 椀	14.6	—	—	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	微砂粒含	口縁部1/12	
848	336-3	SD36001	6区	LL13	山茶椀 椀	15.3	—	—	ロクロナデ	灰白2.5Y8/1	微砂粒含	口縁部1/12	
849	172-4	SD38072	8区③	KT24	陶器 鉢	—	—	—	ロクロナデ	にぶい赤褐2.5YR5/4	精良	小片	常滑。
850	172-2	SD38072	8区③	KS24	陶器 鉢	—	—	—	ロクロナデ	浅黄橙7.5YR8/4	精良	小片	常滑。
851	158-1	SE38047	8区③	KQ25	土師器 鍋	24.6	—	—	ハケメ	浅黄橙7.5YR8/3	精良	口縁部1/12	外面に煤付着。
852	106-1	SD38030	8区②	—	土師器 皿	10.6	2.5	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	4/12	
853	103-3	SD38030	8区②	NB2	土師器 皿	9.3	2.9	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	完形	
854	106-4	SD38030	8区②	—	土師器 皿	6.0	1.3	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	1mm以下の砂粒含	3/12	内外面に油煙が厚く付着。
855	312-7	SK36016	6区	LI12	土師器 皿	8.0	1.7	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	やや精良	1/12	
856	312-6	SK36016	6区	LI12	土師器 皿	7.8	1.1	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	やや精良	4/12	
857	312-8	SK36016	6区	LJ12	土師器 皿	13.0	2.4	—	外面工具ナデ	浅黄橙7.5YR8/3	やや精良	1/12	
858	312-1	SK36016	6区	LI12	山茶椀 椀	15.6	—	—	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	やや精良	口縁部1/12	
859	312-3	SK36016	6区	LJ12	山茶椀 椀	—	—	高台径 6.4	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	やや精良	底部4/12	内面黒変。
860	249-1	SD33011	3区	—	土師器 鍋	31.0	—	—	—	灰白10YR8/2	微砂粒含	口縁部2/12	
861	412-1	SD33011	3区	—	土師器 鍋	32.0	—	—	体部下半ヘラケズリ	にぶい黄橙10YR7/3	2mm以下の砂粒含	体部3/12	体部片＋口縁部片の合成図。内外面に煤付着。
862	236-5	SE39015 石組	9区	MC16	土師器 皿	9.3	1.4	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	2/12	口縁部に油煙付着。
863	236-4	SE39015 内部	9区	MC16	土師器 皿	8.1	1.5	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/2	1mm以下の砂粒含	6/12	歪みが大きい。
864	236-3	SE39015 石組内	9区	—	土師器 杯	14.0	—	—	ナデ	橙5YR7/8	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	内側に放射暗文。
865	1011-2	SE39015	9区	№3/5	木製品 井戸枠	幅 11.1	長 86.8	厚 2.5	—	—	アスナロ属	ほぼ完形	
866	1011-3	SE39015	9区	№1/5	木製品 井戸枠	幅 10.8	長 86.3	厚 2.8	—	—	アスナロ属	ほぼ完形	
867	1010-2	SE39015	9区	№2/5	木製品 井戸枠	幅 11.1	長 86.6	厚 3.0	—	—	アスナロ属	完形	
868	1009-2	SE39015	9区	№5/5	木製品 井戸枠	幅 12.6	長 87.3	厚 3.4	—	—	アスナロ属	完形	
869	1012-1	SE39015	9区	№4/5	木製品 井戸枠	幅 10.1	長 75.8	厚 2.6	—	—	アスナロ属	完形	木釘孔あり。
870	16-2	SE38005	8区	—	土師器 皿	9.8	—	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	口縁部5/12	
871	16-3	SE38005	8区	—	土師器 皿	9.4	1.5	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	4/12	
872	17-6	SE38005	8区	—	土師器 皿	6.8	1.5	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	精良	3/12	
873	17-4	SE38005	8区	—	土師器 皿	6.3	1.5	—	ナデ	浅黄橙7.5YR8/7	精良	完形	
874	16-7	SE38005	8区	—	土師器 皿	6.2	1.8	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	7/12	
875	17-1	SE38005	8区	—	土師器 皿	7.3	1.8	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	完形	底部外面に巻き簾状圧痕。
876	16-9	SE38005	8区	—	土師器 皿	7.0	1.5	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	7/12	
877	17-2	SE38005	8区	—	土師器 皿	7.2	1.5	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	5/12	
878	17-3	SE38005	8区	—	土師器 皿	7.2	1.9	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	精良	7/12	
879	16-4	SE38005	8区	—	土師器 皿	8.2	1.5	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	8/12	
880	16-8	SE38005	8区	—	土師器 皿	7.2	1.5	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	精良	11/12	
881	17-5	SE38005	8区	—	土師器 皿	7.1	1.5	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	精良	5/12	
882	16-6	SE38005	8区	—	土師器 皿	7.3	1.8	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	精良	11/12	
883	16-5	SE38005	8区	—	土師器 皿	12.4	2.4	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	5/12	
884	15-3	SE38005	8区	—	土師器 鍋	—	—	—	—	浅黄橙10YR8/3	精良	小片	外面に煤付着。
885	12-4	SE38001 枠内	8区①	—	土師器 皿	8.5	—	—	外面未調整	灰白10YR8/2	微砂粒含	口縁部2/12	
886	12-5	SE38001 枠内	8区①	—	土師器 鍋	—	—	—	—	灰黄2.5Y7/2	1mm以下の砂粒含	小片	外面に煤付着。
887	12-2	SE38001 枠内	8区①	—	土師器 鍋	—	—	—	—	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	小片	

第３-16表　出土遺物観察表

番号	実測番号	遺構	調査区	出土位置	器種器形	法量(cm) 口径	器高	その他	調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
888	12-1	SE38001掘形	8区	MD22	土師器鍋	—	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の砂粒含	小片	
889	12-3	SE38001枠内	8区①	—	陶器鉢	—	—	—	工具ナデ	灰褐7.5YR6/2	6mm以下の砂粒含	小片	常滑。
890	7-1	SE38001	8区	—	磚	幅32.5	長24.7	厚3.8	ヘラケズリ	灰N4/	精良	9/12以下	片面燻不良。
891	10-1	SE38001	8区	—	磚	幅25.0	残長15.7	厚3.8	ヘラケズリ	黒N2/	精良	9/12以下	
892	8-1	SE38001	8区	—	磚	幅24.7	残長27.3	厚4.4	ヘラケズリ	暗灰N3/	5mm以下の砂粒含	10/12以下	
893	9-1	SE38001	8区	—	磚	幅24.8	残長14.5	厚4.1	ヘラケズリ	暗灰N3/	精良	6/12以下	
894	11-1	SE38001	8区	—	磚	残幅12.8	残長10.5	厚4.0	ヘラケズリ	黒N2/	精良	3/12以下	
895	1036-1	SE38001	8区	№1	木製品井戸枠	幅9.6	長106.1	厚2.4	—	—	コウヤマキ	完形	
896	1044-2	SE38001	8区	№2	木製品井戸枠	幅4.6	長106.2	厚2.5	—	—	コウヤマキ	完形	
897	1038-1	SE38001	8区	№3	木製品井戸枠	幅11.3	長101.2	厚2.5	—	—	コウヤマキ	完形	
898	1033-3	SE38001	8区	№4	木製品井戸枠	幅10.0	長107.4	厚2.5	—	—	コウヤマキ	完形	
899	1041-1	SE38001	8区	№5	木製品井戸枠	幅10.7	長108.9	厚2.5	—	—	コウヤマキ	完形	
900	1039-2	SE38001	8区	№6	木製品井戸枠	幅12.0	長107.9	厚2.5	—	—	コウヤマキ	完形	
901	1036-2	SE38001	8区	№7	木製品井戸枠	幅10.8	長98.6	厚2.4	—	—	コウヤマキ	完形	
902	1043-1	SE38001	8区	№8	木製品井戸枠	幅11.5	長106.8	厚2.5	—	—	コウヤマキ	完形	
903	1041-2	SE38001	8区	№9	木製品井戸枠	幅9.8	長106.6	厚2.5	—	—	コウヤマキ	完形	
904	1038-2	SE38001	8区	№10	木製品井戸枠	幅11.1	長108.0	厚1.9	—	—	コウヤマキ	完形	
905	1035-2	SE38001	8区	№11	木製品井戸枠	幅13.4	長106.7	厚2.0	—	—	コウヤマキ	ほぼ完形	
906	1034-1	SE38001	8区	№12	木製品井戸枠	幅12.3	長108.0	厚2.5	—	—	コウヤマキ	ほぼ完形	
907	1044-1	SE38001	8区	№13	木製品井戸枠	幅10.0	長107.7	厚2.2	—	—	コウヤマキ	完形	
908	1043-2	SE38001	8区	№14	木製品井戸枠	幅10.8	残長99.8	厚2.6	—	—	コウヤマキ	11/12以下	
909	1037-2	SE38001	8区	№15	木製品井戸枠	幅13.7	長107.5	厚2.1	—	—	コウヤマキ	完形	
910	1035-1	SE38001	8区	№16	木製品井戸枠	幅8.8	長107.8	厚2.4	—	—	コウヤマキ	完形	
911	1034-2	SE38001	8区	№19	木製品井戸枠	幅12.0	長105.2	厚2.5	—	—	コウヤマキ	完形	
912	1039-1	SE38001	8区	№18	木製品井戸枠	幅12.0	長107.2	厚2.4	—	—	コウヤマキ	完形	
913	1037-1	SE38001	8区	№20	木製品井戸枠	幅10.6	長107.5	厚2.1	—	—	コウヤマキ	完形	
914	1040-1	SE38082	8区③	№10-1	木製品井戸枠	幅11.2	長181.8	厚2.9	—	—	—	完形	
915	1042-3	SE38082	8区	№2	木製品井戸枠	幅11.7	長180.6	厚3.1	—	—	コウヤマキ	完形	
916	1042-4	SE38082	8区	№3	木製品井戸枠	幅10.5	残長178.5	厚2.6	—	—	コウヤマキ	11/12以下	
917	1063-1	SE38082	8区	№4	木製品井戸枠	幅14.1	残長178.1	厚3.4	—	—	コウヤマキ	11/12以下	
918	1059-3	SE38082	8区	№5	木製品井戸枠	幅8.7	長181.5	厚3.2	—	—	コウヤマキ	完形	
919	1059-2	SE38082	8区	№6	木製品井戸枠	幅15.0	残長179.8	厚3.2	—	—	コウヤマキ	11/12以下	
920	1040-2	SE38082	8区	№7	木製品井戸枠	幅9.2	長175.8	厚3.2	—	—	コウヤマキ	完形	
921	1059-4	SE38082	8区	№8	木製品井戸枠	幅13.6	長180.4	厚2.8	—	—	コウヤマキ	完形	
922	1059-1	SE38082	8区	№9	木製品井戸枠	幅10.8	長181.8	厚3.2	—	—	コウヤマキ	完形	
923	1032-3	SE38082	8区③	№10-2	木製品井戸枠	幅11.6	残長75.0	厚2.3	—	—	コウヤマキ	—	
924	186-4	SE38082掘形	8区	—	土師器鍋	—	—	—	—	灰黄2.5Y7/2	精良	小片	外面に煤付着。
925	17-7	SE38006	8区①	—	土師器皿	7.0	1.7	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	精良	6/12	歪みが大きい。
926	17-8	SE38006	8区①	—	土師器皿	7.6	1.5	—	外面未調整	浅黄橙2.5YR8/3	精良	4/12	
927	15-1	SE38006内小穴	8区①	—	土師器鍋	30.2	—	—	下半ヘラケズリ	にぶい黄橙10YR6/3	精良	口縁部1/12	外面に煤付着。
928	15-2	SE38006	8区①	—	土師器鍋	27.0	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	浅黄橙7.5YR8/3	精良	口縁部1/12	外面に煤付着。
929	18-1	SE38006	8区	—	陶器甕	—	—	—	外面タタキ	灰褐5YR4/2	精良	小片	常滑。
930	308-3	SK36011	6区	LM11	土師器皿	8.5	1.7	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	3/12	
931	308-4	SK36011	6区	LM11	土師器皿	11.8	1.3	—	外面未調整	にぶい橙5YR6/4	微砂粒含	1/12	
932	308-1	SK36011	6区	—	土師器皿	7.2	1.4	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	1.5mm以下の砂粒含	3/12	
933	312-4	SK36011	6区	LM11	土師器皿	7.2	1.0	—	外面未調整	灰白10YR8/2	3mm以下の砂粒含	6/12	
934	308-2	SK36011	6区	LM11	土師器皿	7.0	1.0	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	4/12	
935	311-1	SK36011	6区	LM11	土師器鍋	21.4	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	灰黄2.5Y7/2	やや精良	口縁部1/12	外面煤付着。
936	309-2	SK36011	6区	LM11	陶器甕	—	—	—	—	暗赤褐2.5YR3/3	6mm以下の砂粒含	小片	
937	310-1	SK36011	6区	LM11	瓦質土器鉢	39.6	—	—	—	暗灰N3/	精良	口縁部1/12	
938	312-2	SK36011	6区	LM11	山茶椀椀	—	—	高台径6.6	ロクロナデ	灰白N8/	やや精良	底部6/12	
939	166-3	SE38064	8区②	MB22	土師器鍋	—	—	—	—	灰白2.5Y8/2	精良	小片	外面に煤付着。
940	165-7	SE38064	8区②	MB22	土師器羽釜	25.8	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	浅黄橙10YR8/4	精良	口縁部1/12	鍔以下に煤付着。
941	166-1	SE38064	8区②	MB22	陶器甕	—	—	—	—	にぶい橙5YR7/4	4mm以下の砂粒含	小片	
942	25-4	SK38013	8区①	—	土師器皿	10.8	2.1	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	精良	3/12	
943	26-1	SK38013	8区①	—	土師器鍋	20.4	—	—	体部下半ヘラケズリ	浅黄橙7.5YR8/3	精良	口縁部4/12	
944	26-3	SK38013	8区①	—	陶器鉢	—	—	—	ロクロナデ	赤橙10YR6/8	精良	小片	常滑。
945	26-2	SK38013	8区①	—	瓦質土器鉢	—	—	—	ヘラミガキ	灰N4/	精良	底部1/12	

第３-17表　出土遺物観察表

番号	実測番号	遺構	調査区	出土位置	器種 器形	法量 (cm) 口径	器高	その他	調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
946	169-3	SK38069	8区④	—	土師器 鍋	—	—	—	—	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	小片	
947	169-4	SK38069	8区④	—	土師器 鍋	—	—	—	—	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	小片	
948	169-2	SK38069	8区④	—	施釉陶器 天目茶椀	—	—	高台径 4.0	底部外面ロクロケズリ	灰黄2.5Y7/2	1mm以下の砂粒含	底部3/12	
949	169-1	SK38069	8区④	—	山茶椀 椀	13.2	4.7	底径 5.4	ロクロナデ	灰黄2.5Y7/2	2mm以下の砂粒含	底部4/12	
950	135-4	SE38041 掘形	8区	—	土師器 皿	7.8	2.3	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	精良	3/12	
951	135-2	SE38041	8区③	KT24	土師器 皿	9.4	1.4	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	2.5mm以下の微砂粒含	3/12	
952	134-1	SE38041 掘形	8区③	KU24 KU25	土師器 鍋	26.3	—	—	—	灰黄2.5Y7/2	精良	口縁部1/12	外面に煤付着。
953	133-4	SE38041	8区③	KT24	土師器 鍋	—	—	—	—	浅黄橙10YR8/3	精良	小片	
954	134-3	SE38041	8区③	KT24	平瓦	—	—	—	凸面縄タタキ、凹面布目	にぶい橙5YR6/4	精良	2/12以下	
955	134-5	SE38041 枠内	8区③	KU24	灰釉陶器 皿	—	—	高台径 7.1	ロクロナデ	黄灰2.5Y6/1	精良	底部3/12	
956	135-1	SE38041 枠内	8区③	KU24	ロクロ土師器 皿	—	—	底径 5.2	ロクロナデ	灰白10YR8/2	精良	底部5/12	
957	134-6	SE38041 枠内	8区③	KU24 KU25	山茶椀 椀	—	—	—	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	精良	小片	
958	105-3	SK38028	8区②	—	土師器 皿	9.8	2.4	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	2/12	
959	105-2	SK38028	8区②	—	土師器 鍋	—	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/3	精良	小片	外面煤付着。
960	104-2	SK38028	8区②	—	土師器 鍋	29.2	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	精良	口縁部1/12	外面煤付着。
961	105-1	SK38028	8区②	—	丸瓦	—	6.0	—	工具ナデ	灰白N8/	精良	1/12以下	
962	311-8	SK36010	6区	LO12	土師器 皿	8.8	1.1	—	外面未調整	橙5YR7/6	やや精良	1/12	
963	311-6	SK36010	6区	LO12	土師器 皿	8.6	1.2	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	やや精良	3/12	底部外面に板状圧痕。
964	311-7	SK36010	6区	LO12	土師器 皿	7.0	1.4	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	やや精良	1/12	
965	310-2	SK36010	6区	LO12	瓦質土器 風炉	23.6	—	—	ヘラミガキ	暗灰N3/	精良	口縁部2/12	
966	1001-3	SK36010	6区	LO12	鉄製品 釘	幅 0.4	長 7.6	—	—	—	—	完形	
967	106-7	SK38035	8区②	MC21	土師器 皿	9.8	1.9	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/4	1mm以下の砂粒含	2/12	
968	107-1	SK38035	8区②	MC21	土師器 鍋	—	—	—	—	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	小片	
969	106-8	SK38035	8区②	MC21	土師器 鍋	—	—	—	—	浅黄2.5Y7/3	1mm以下の砂粒含	小片	
970	107-2	SK38035	8区②	MC21	施釉陶器 天目茶椀	10.0	—	—	体部下半ロクロケズリ	灰白2.5Y8/1	微砂粒含	口縁部1/12	
971	311-2	SK36008	6区	LK10	土師器 皿	13.8	—	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	やや精良	口縁部1/12	
972	311-5	SK36008	6区	LK10	施釉陶器 鉢	—	—	—	ロクロナデ	灰白2.5Y8/2	精良	小片	灰釉。古瀬戸。
973	161-7	SK38055	8区④	LN2	土師器 皿	—	—	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	精良	小片	
974	163-3	SK38055	8区④	LN2	山茶椀 椀	—	—	高台径 7.0	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	精良	底部2/12	
975	163-2	SK38055	8区④	LN2	山茶椀 椀	—	—	高台径 7.0	ロクロナデ	灰黄2.5Y7/2	0.5mmの小石若干含	底部3/12	
976	12-6	SK38002	8区	ME22	土師器 皿	13.7	—	—	外面未調整	灰黄2.5Y7/2	3mm以下の砂粒含	口縁部1/12	内面に炭化物付着。
977	12-8	SK38002	8区	ME22	土師器 鍋	—	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/3	微砂粒含	小片	外面に煤付着。
978	12-7	SK38002	8区	ME22	土師器 鍋	—	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/3	微砂粒含	小片	外面に煤付着。
979	12-9	SK38002	8区	ME22	土師器 羽釜	—	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の砂粒含	小片	
980	135-3	SK38039	8区②	MC22	土師器 皿	7.0	1.8	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	4/12	
981	198-5	SK38089	8区③	KR25	土師器 鍋	—	—	—	—	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	小片	
982	195-3	SK38089	8区③	KR25	施釉陶器 天目茶椀	—	—	高台径 3.3	外面下半ロクロケズリ	灰白5Y7/2	精良	底部完存	
983	166-2	SK38063	8区	—	土師器 鍋	—	—	—	—	にぶい橙7.5YR7/4	精良	小片	
984	166-4	SK38063	8区②	MC22	灰釉陶器 壺	—	—	—	ロクロナデ	灰白5Y7/1	精良	小片	肩部に4本の平行沈線。
985	106-9	SK38034	8区②	MB21 MA21	土師器 鍋	18.2	—	—	—	にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
986	106-10	SK38034	8区②	—	土師器 鍋	—	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の砂粒含	小片	外面に煤付着。
987	312-5	SK36015	6区	LN12	土師器 皿	9.0	1.3	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	やや精良	2/12	
988	25-7	SK38015	8区①	—	土師器 鍋	—	—	—	—	浅黄橙10YR8/3	精良	小片	
989	309-1	SK36018	6区	—	土師器 鍋	25.1	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	浅黄橙10YR8/3	1.5mm以下の砂粒含	口縁部2/12	外面に煤付着。
990	185-1	SK38084	8区③	LG3	土師器 皿	—	—	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	小片	
991	186-3	SK38084	8区③	LG3	土師器 鍋	—	—	—	—	浅黄橙10YR8/3	2mm以下の砂粒含	小片	
992	19-4	SK38008	8区①	MD22	土師器 鍋	—	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/3	微砂粒含	小片	
993	19-3	SK38010	8区①	MF22	土師器 鍋	—	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/3	微砂粒含	小片	
994	263-1	SD37014	7区	—	土師器 鍋	31.3	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
995	261-4	SD37014	7区	—	陶器 甕	—	—	—	ロクロナデ	灰褐5YR5/2	精良	小片	常滑。
996	159-3	SK38050	8区④	LP1	青磁 椀	12.6	—	—	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	精良	口縁部1/12	
997	225-1	SD39007	9区	—	土師器 鍋	23.2	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	にぶい黄橙10YR6/4	微砂粒含	口縁部2/12	体部外面下半に煤付着。
998	157-4	SD38044	8区④	LQ1	土師器 皿	9.2	1.2	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	口縁部1/12	内面に工具痕。
999	160-3	SD38044	8区④	LQ1	青磁 椀	—	—	—	ロクロナデ	灰白N8/	精良	小片	
1000	24-4	SD38011	8区	MH22	土師器 皿	9.6	—	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	精良	口縁部2/12	
1001	24-3	SD38011	8区①	MH22	土師器 皿	13.9	2.0	—	外面未調整	灰白7.5YR8/2	精良	2/12	
1002	24-5	SD38011	8区	MH22	土師器 皿	7.0	1.5	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	2/12	
1003	24-6	SD38011	8区①	MH22	土師器 皿	10.2	—	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	口縁部2/12	

第３-18表　出土遺物観察表

番号	実測番号	遺構	調査区	出土位置	器種器形	法量(cm) 口径	器高	その他	調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
1004	19-1	SD38011	8区①	—	土師器鍋	29.0	—	—	体部下半ヘラケズリ	にぶい橙7.5YR7/4	精良	口縁部ほぼ完存	体部外面に煤付着。
1005	24-2	SD38011	8区①	MG22	土師器鍋	—	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	精良	小片	体部外面に煤付着。
1006	23-1	SD38011	8区①	MG22	土師器鍋	22.4	—	—	体部下半外面ヘラケズリ、内面工具ナデ	にぶい橙7.5YR6/4	精良	ほぼ完形	体部外面に煤付着。
1007	20-2	SD38011	8区①	MH22	土師器鍋	30.0	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	精良	口縁部3/12	体部外面に煤付着。
1008	19-2	SD38011	8区①	—	土師器鍋	28.6	—	—	体部下半ヘラケズリ	灰褐7.5YR6/2	微砂粒含	口縁部4/12	
1009	21-2	SD38011	8区①	MH22	土師器鍋	31.0	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	精良	口縁部2/12	内外面に煤付着。
1010	22-1	SD38011	8区①	MH22	土師器鍋	29.0	—	—	体部下半ヘラケズリ	にぶい橙7.5YR7/3	精良	口縁部2/12	外面に煤付着。
1011	22-2	SD38011	8区①	MH22	土師器釜釜	12.0	—	—	体部下半ヘラケズリ	灰白10YR8/2	精良	口縁部5/12	外面に煤付着。
1012	24-1	SD38011	8区①	MG22	土師器羽釜	31.4	—	鍔径40.4	—	浅黄橙10YR8/3	精良	口縁部1/12	
1013	18-2	SD38011	8区	MH22	陶器鉢	34.5	—	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	1.5mm以下の砂粒含	口縁部1/12	歪みが大きい。
1014	21-1	SD38011	8区①	MH22	陶器甕	21.4	—	—	内面工具ナデ	褐7.5Y4/4	4mm以下の小石含	口縁部3/12	常滑。
1015	20-1	SD38011	8区①	MH22	陶器甕	35.6	—	—	ロクロナデ	赤灰2.5YR4/1	精良	口縁部2/12	常滑。
1016	344-9	SD36002	6区	LL9	土師器皿	9.5	3.1	—	—	灰白2.5Y8/1	微砂粒含	10/12	剥離が激しく調整不明。
1017	344-8	SD36002	6区	LL9	土師器皿	10.5	3.0	—	—	灰白2.5Y8/2	精良	3/12	剥離が激しく調整不明。
1018	344-10	SD36002	6区	LL9	土師器皿	9.5	2.6	—	—	灰白2.5Y8/1	精良	口縁部ほぼ完存	剥離が激しく調整不明。
1019	344-5	SD36002	6区	LK9	土師器皿	9.0	—	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	精良	2/12	
1020	344-6	SD36002	6区	LL9	土師器皿	10.3	2.9	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	精良	8/12	歪みが大きい。
1021	344-4	SD36002	6区	LK9	土師器皿	9.0	—	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	精良	6/12	
1022	344-11	SD36002	6区	LL9	土師器皿	11.5	2.4	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/2	精良	2/12	
1023	344-7	SD36002	6区	LL9	土師器皿	10.0	2.3	—	ナデ	灰白10YR8/2	精良	2/12	
1024	344-3	SD36002	6区	LJ8	土師器皿	9.7	2.6	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	ほぼ完形	
1025	341-11	SD36002	6区	LK9	土師器皿	9.7	—	—	外面未調整	灰白10YR8/2	微砂粒含	口縁部3/12	
1026	341-1	SD36002	6区	LJ8	土師器皿	10.0	1.7	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/3	精良	2/12	
1027	341-6	SD36002	6区	LJ8	土師器皿	8.8	1.3	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	精良	3/12	
1028	342-5	SD36002	6区	LK9	土師器皿	7.9	1.5	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/3	精良	2/12	
1029	341-8	SD36002	6区	LJ8	土師器皿	8.6	1.3	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	3/12	
1030	341-4	SD36002	6区	LJ8	土師器皿	8.0	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	精良	口縁部3/12	
1031	341-7	SD36002	6区	LJ8	土師器皿	7.6	1.4	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/3	精良	口縁部4/12	
1032	342-4	SD36002	6区	LK9	土師器皿	7.3	0.8	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	3/12	歪みが大きい。
1033	341-9	SD36002	6区	LK9	土師器皿	5.8	1.3	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	8/12	歪みが大きい。
1034	341-5	SD36002	6区	LJ8	土師器皿	8.0	1.1	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/3	精良	4/12	
1035	341-3	SD36002	6区	LJ8	土師器皿	7.4	—	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	精良	口縁部3/12	
1036	342-7	SD36002	6区	LM10	土師器皿	8.2	1.4	—	ナデ	浅黄橙7.5YR8/3	精良	3/12	
1037	341-10	SD36002	6区	LJ8	土師器皿	8.3	1.1	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	2/12	
1038	341-2	SD36002	6区	LJ8	土師器皿	11.0	1.8	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	微砂粒含	3/12	
1039	342-6	SD36002	6区	LK9	土師器皿	10.4	1.8	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	2/12	高温焼成。
1040	342-9	SD36002	6区	LT9	土師器皿	11.0	2.0	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/3	微砂粒含	2/12	
1041	342-3	SD36002	6区	LK9	土師器皿	16.0	3.0	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	2/12	1033と同一個体の可能性大。
1042	342-1	SD36002	6区	LK9	土師器皿	15.9	—	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	口縁部3/12	1032と同一個体の可能性大。
1043	342-2	SD36002	6区	LK9	土師器皿	15.2	—	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	口縁部3/12	
1044	342-8	SD36002	6区	LM10	土師器皿	8.5	1.4	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	7/12	
1045	341-12	SD36002	6区	LK9	土師器椀	8.0	—	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/2	精良	口縁部3/12	
1046	340-5	SD36002	6区	LL9	土師器皿	—	—	高台4.3	ナデ	橙2.5Y7/6	2mm以下の砂粒含	底部4/12	
1047	307-3	SD36002	6区	LK9	土師器鍋	22.6	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	浅黄橙7.5YR8/4	やや精良	口縁部4/12	
1048	346-3	SD36002	6区	LK9	土師器鍋	20.6	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	浅黄橙10YR8/3	2mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
1049	347-4	SD36002	6区	LM10	土師器鍋	18.6	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	浅黄橙10YR8/3	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に煤付着。
1050	350-3	SD36002	6区	LJ8	土師器鍋	20.9	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1.5mm以下の砂粒含	口縁部4/12	外面に煤付着。
1051	340-3	SD36002	6区	LJ8	土師器鍋	20.8	—	—	—	浅黄橙7.5YR8/4	やや精良	口縁部2/12	外面に煤付着。
1052	349-1	SD36002	6区	LJ8	土師器鍋	26.6	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/3	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に煤付着。
1053	344-2	SD36002	6区	LJ8	土師器鍋	18.0	—	—	—	灰白10YR8/2	精良	口縁部2/12	
1054	349-2	SD36002	6区	LJ8	土師器鍋	21.8	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
1055	348-4	SD36002	6区	LJ8	土師器鍋	26.7	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1.5mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
1056	305-2	SD36002	6区	LM10	土師器鍋	21.6	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	浅黄橙10YR8/3	精良	口縁部6/12	内外面に煤付着。
1057	347-2	SD36002	6区	LT9	土師器鍋	22.0	—	—	体部下半ヘラケズリ	灰白10YR8/2	3mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
1058	305-1	SD36002	6区	LK9	土師器鍋	22.6	10.7	—	体部下半ヘラケズリ	灰白2.5YR8/2	4mm以下の砂粒含	5/12	
1059	307-1	SD36002	6区	LJ8	土師器鍋	22.8	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	口縁部4/12	外面に弱く煤付着。
1060	348-1	SD36002	6区	LJ8	土師器鍋	37.6	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/3	2mm以下の砂粒多含	口縁部1/12	
1061	345-5	SD36002	6区	LK9	土師器鍋	18.6	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/3	やや精良	口縁部2/12	外面に煤付着。

第３-19表　出土遺物観察表

番号	実測番号	遺構	調査区	出土位置	器種 器形	法量 (cm) 口径	器高	その他	調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
1062	348-5	SD36002	6区	LJ8	土師器 鍋	35.3	—	—	—	灰白10YR8/2	1.5mm以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に煤付着。
1063	349-3	SD36002	6区	LJ8	土師器 鍋	19.2	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/3	1.5mm以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に煤付着。
1064	345-2	SD36002	6区	LK9	土師器 鍋	34.6	—	—	—	浅黄橙7.5YR8/3	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
1065	347-3	SD36002	6区	LL9	土師器 鍋	21.8	—	—	—	灰白10YR8/2	3mm以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に煤付着。
1066	345-3	SD36002	6区	LK9	土師器 鍋	32.0	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/3	2mm以下の砂粒含	口縁部3/12	外面に煤付着。
1067	346-2	SD36002	6区	LK9	土師器 鍋	23.6	—	—	—	にぶい褐7.5YR5/3	やや精良	口縁部1/12	外面に煤付着。
1068	306-2	SD36002	6区	LJ8	土師器 鍋	30.6	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	浅黄橙10YR8/3	3mm以下の砂粒含	口縁部2/12	外面に煤付着。
1069	346-1	SD36002	6区	LK9	土師器 鍋	27.8	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	灰白10YR8/2	3mm以下の砂粒含	口縁部1/12	外面下部に煤付着。
1070	344-1	SD36002	6区	LJ8	土師器 鍋	21.7	—	—	—	褐灰7.5YR4/1	精良	口縁部2/12	外面に煤付着。
1071	350-2	SD36002	6区	LJ8	土師器 鍋	23.4	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	浅黄橙10YR8/3	1.5mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
1072	348-3	SD36002	6区	LT8	土師器 鍋	31.2	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/2	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
1073	350-1	SD36002	6区	LT8	土師器 鍋	32.7	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
1074	349-4	SD36002	6区	LT8	土師器 鍋	31.4	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	灰黄2.5Y7/2	1mm以下の砂粒含	口縁部3/12	
1075	340-1	SD36002	6区	LJ8	土師器 鍋	37.4	—	—	—	にぶい黄褐10YR5/3	やや精良	口縁部1/12	
1076	340-2	SD36002	6区	LT9	土師器 鍋	35.2	—	—	ハケメ	にぶい褐7.5YR5/3	やや精良	口縁部1/12	
1077	345-1	SD36002	6区	LJ8	土師器 鍋	36.0	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	浅黄橙10YR8/3	やや精良	口縁部1/12	
1078	348-2	SD36002	6区	LJ8	土師器 鍋	35.0	—	—	—	にぶい黄橙10YR6/3	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に煤付着。
1079	306-1	SD36002	6区	LJ8	土師器 鍋	37.2	—	—	ハケメ	浅黄橙10YR8/3	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に煤付着。
1080	347-1	SD36002	6区	LT9	土師器 鍋	27.2	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	やや精良	口縁部4/12	外面に煤付着。
1081	350-4	SD36002	6区	LJ8	土師器 鍋	24.0	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
1082	345-4	SD36002	6区	LK9	土師器 鍋	27.8	—	—	—	浅黄橙7.5YR8/4	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に煤付着。
1083	307-2	SD36002	6区	LJ8	土師器 鍋	20.4	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	灰白10YR8/2	2mm以下の砂粒含	口縁部4/12	外面に煤付着。
1084	349-5	SD36002	6区	LJ8	土師器 茶釜	12.6	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の砂粒含	口縁部3/12	外面に煤付着。
1085	304-1	SD36002	6区	LM10	土師器 羽釜	34.3	—	鍔径 46.8	外面ハケメ、内面ナデ	浅黄橙10YR8/3	3mm以下の砂粒含	口縁部4/12	内面に炭化物付着。
1086	303-1	SD36002	6区	LM10	土師器 羽釜	34.9	—	鍔径 46.6	ハケメ	灰白10YR8/1	4mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
1087	346-4	SD36002	6区	LM10	土師器 羽釜	23.4	—	鍔径 29.0	—	浅黄橙10YR8/3	やや精良	口縁部1/12	
1088	340-4	SD36002	6区	LJ8	土師器 甕	14.6	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	浅黄橙7.5YR8/4	やや精良	口縁部2/12	
1089	339-2	SD36002	6区	LJ8	施釉陶器 椀	11.2	5.9	高台径 4.2	外面下半ロクロケズリ	灰白2.5Y8/1	精良	4/12	灰釉。古瀬戸。
1090	339-3	SD36002	6区	LM10	施釉陶器 椀	—	—	高台径 5.2	ロクロナデ	灰白5Y8/1	精良	底部7/12	灰釉。古瀬戸。
1091	339-1	SD36002	6区	LJ8	施釉陶器 香炉	—	—	底径 23.3	ロクロナデ	浅黄橙10YR8/2	精良	底部3/12	灰釉。古瀬戸。
1092	338-2	SD36002	6区	LJ8	陶器 鉢	30.0	—	—	外面未調整	灰白10YR7/1	3mm以下の砂粒含	口縁部1/12	常滑。
1093	338-1	SD36002	6区	LJ8	陶器 鉢	30.4	—	—	ロクロナデ	にぶい橙5YR7/4	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	常滑。
1094	306-3	SD36002	6区	LJ8	陶器 鉢	29.6	—	—	外面未調整	灰褐5YR5/2	5mm以下の砂粒含	口縁部3/12	常滑。
1095	339-5	SD36002	6区	LL9	陶器 甕	—	—	—	ロクロナデ	灰白N7/	2mm以下の砂粒含	小片	常滑。
1096	339-6	SD36002	6区	LM10	陶器 鉢	—	—	—	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	やや精良	小片	常滑。
1097	339-4	SD36002	6区	LK9	白磁 椀	12.6	—	—	ロクロナデ	灰白N8/	精良	口縁部2/12	
1098	338-3	SD36002	6区	LJ8	山茶椀 椀	16.0	—	—	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	やや精良	口縁部2/12	
1099	338-4	SD36002	6区	LM10	山茶椀 椀	16.0	—	—	ロクロナデ	灰白N8/	やや精良	底部2/12	
1100	82-8	SD38018 上層	8区②	NA4	土師器 羹	12.6	2.0	—	底部外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	2/12	
1101	80-1	上層	8区②	NB6	土師器 皿	10.0	2.6	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	4/12	
1102	78-5	SD38018 下層	8区②	NB7	土師器 皿	10.0	2.7	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	5/12	
1103	80-5	SD38018	8区②	NB8	土師器 皿	10.1	2.4	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	4/12	
1104	78-1	SD38018	8区②	NB7	土師器 皿	9.7	2.7	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	精良	4/12	
1105	77-7	SD38018	8区②	NB6	土師器 皿	9.7	2.6	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	完形	歪みが大きい。
1106	78-3	SD38018	8区②	NB7	土師器 皿	10.0	2.8	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	5/12	
1107	78-2	SD38018 下層	8区②	NB6	土師器 皿	9.6	2.8	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	5/12	
1108	80-4	SD38018	8区②	NB8	土師器 皿	10.4	2.6	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	4/12	
1109	80-9	SD38018	8区②	NB8	土師器 皿	9.7	2.9	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	ほぼ完形	
1110	81-4	SD38018	8区②	NB6	土師器 皿	9.1	2.6	—	外面ナデ	灰白2.5Y8/2	5mm以下の砂粒含	完形	
1111	77-2	SD38018	8区②	NB5	土師器 皿	8.9	2.5	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	精良	ほぼ完形	
1112	77-1	SD38018 下層	8区②	NB3	土師器 皿	8.8	2.8	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	完形	口縁端部一部黒変。
1113	78-4	SD38018 上層	8区②	NB6	土師器 皿	9.0	2.8	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	7/12	
1114	79-10	SD38018 上層	8区②	NB6	土師器 皿	9.2	2.5	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	5/12	
1115	36-8	SD38018 下層	8区②	NB4	土師器 皿	8.3	2.8	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	2mm以下の砂粒含	5/12	
1116	36-4	SD38018 下層	8区②	NB4	土師器 皿	8.6	2.6	—	外面ナデ	灰白10YR8/2	精良	4/12	
1117	81-2	SD38018	8区②	NC2	土師器 皿	8.1	2.2	—	外面未調整	灰白10YR8/2	2.5mm以下の微砂粒含	4/12	
1118	35-2	SD38018 下層	8区②	NB4	土師器 皿	8.3	2.7	—	外面ナデ	灰白2.5Y8/2	精良	5/12	
1119	83-3	SD38018 上層	8区②	NB4	土師器 皿	8.2	1.9	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/3	精良	7/12	口縁部に油煙付着。

第３-20表　出土遺物観察表

番号	実測番号	遺構	調査区	出土位置	器種器形	法量 (cm)			調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
						口径	器高	その他					
1120	84-1	SD38018 上層	8区②	NB5	土師器 皿	7.9	1.5	—	外面ナデ	浅黄橙7.5YR8/4	精良	4/12	口縁部に油煙付着。
1121	83-4	SD38018 上層	8区②	NB4	土師器 皿	7.5	1.8	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	精良	8/12	
1122	81-3	SD38018 上層	8区②	NB5	土師器 皿	7.5	1.7	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	1.2mm以下の砂粒含	10/12	
1123	37-3	SD38018 下層	8区②	NB6	土師器 皿	7.0	1.7	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	微砂粒含	1/12	
1124	37-5	SD38018 下層	8区②	NB6	土師器 皿	7.7	1.9	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/3	精良	11/12	
1125	83-5	SD38018 上層	8区②	NB5	土師器 皿	6.2	1.5	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	5/12	
1126	80-8	SD38018	8区②	NB8	土師器 皿	6.8	1.5	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	精良	10/12	
1127	79-5	SD38018 上層	8区②	NB4	土師器 皿	6.5	1.4	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	10/12	口縁部に油煙付着。
1128	80-3	SD38018	8区②	NB8	土師器 皿	7.1	1.3	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	4/12	歪みが大きい。
1129	79-7	SD38018 上層	8区②	NB5	土師器 皿	6.1	1.5	—	外面未調整	褐灰10YR4/1	精良	4/12	油煙付着。
1130	36-5	SD38018	8区②	NB6	土師器 皿	6.0	1.6	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	5/12	
1131	79-6	SD38018	8区②	NB5	土師器 皿	6.1	1.4	—	外面未調整	淡橙5YR8/4	精良	ほぼ完形	
1132	83-7	SD38018 上層	8区②	NB5	土師器 皿	6.4	1.3	—	外面未調整	淡橙5YR8/4	精良	10/12	
1133	82-6	SD38018	8区②	NC2	土師器 皿	7.5	1.6	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	精良	11/12	口縁部に油煙付着。
1134	35-3	SD38018	8区②	NB6	土師器 皿	6.9	1.1	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	8/12	
1135	37-6	SD38018 下層	8区②	NB5	土師器 皿	7.5	1.5	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	10/12	
1136	36-3	SD38018	8区②	NB5	土師器 皿	5.8	1.2	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	7/12	
1137	82-5	SD38018 上層	8区②	NA5	土師器 皿	6.3	1.2	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	3mm以下の砂粒含	9/12	
1138	82-2	SD38018 上層	8区②	NB5	土師器 皿	6.3	1.3	—	外面ナデ	浅黄橙10YR8/3	精良	5/12	
1139	79-8	SD38018	8区②	NB5	土師器 皿	6.5	1.2	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	2/12	
1140	82-3	SD38018	8区②	NB6	土師器 皿	7.3	1.4	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	1/12	煤付着。底部外面に棒角による押圧痕。
1141	81-5	SD38018	8区②	NB5	土師器 皿	7.6	1.0	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	5/12	
1142	35-6	SD38018 下層	8区②	NB5	土師器 皿	6.8	1.3	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	精良	5/12	
1143	36-1	SD38018 下層	8区②	NB4	土師器 皿	7.2	1.0	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	精良	6/12	
1144	35-8	SD38018	8区②	NB6	土師器 皿	6.2	1.1	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	精良	9/12	煤付着。
1145	35-4	SD38018	8区②	NB4	土師器 皿	6.8	0.7	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	3/12	
1146	80-7	SD38018	8区②	NB8	土師器 皿	7.5	0.9	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	ほぼ完形	
1147	82-1	SD38018	8区②	NB6	土師器 皿	6.9	0.6	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	精良	5/12	
1148	83-6	SD38018 上層	8区②	NB4	土師器 皿	6.8	0.7	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	8/12	
1149	79-3	SD38018 上層	8区②	NB4	土師器 皿	10.8	1.7	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	4/12	
1150	79-4	SD38018 上層	8区②	NB4	土師器 皿	9.8	1.8	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	4/12	
1151	78-6	SD38018	8区②	NB7	土師器 皿	9.6	1.6	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	完形	歪みが大きい。
1152	80-6	SD38018	8区②	NB7	土師器 皿	9.8	1.6	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	4/12	
1153	77-5	SD38018	8区②	NB6	土師器 皿	8.1	1.4	—	外面未調整	浅黄橙9.5YR8/4	精良	完形	
1154	79-2	SD38018 上層	8区②	NB4	土師器 皿	8.1	1.4	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	8/12	歪みが大きい。
1155	35-1	SD38018 下層	8区②	NB4	土師器 皿	15.7	4.0	—	外面ナデ	灰白10YR8/2	精良	2/12	
1156	82-7	SD38018 上層	8区②	NB5	土師器 皿	15.8	—	—	外面ナデ	灰白10YR8/2	精良	1/12	
1157	83-1	SD38018 上層	8区②	NB4	土師器 皿	13.1	2.7	—	外面ナデ	浅黄橙7.5YR8/4	精良	9/12	
1158	80-2	SD38018	8区②	NB6	土師器 皿	8.9	1.4	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/4	精良	4/12	
1159	81-6	SD38018 上層	8区②	NB5	土師器 皿	14.9	2.5	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/4	精良	1/12	
1160	83-2	SD38018 上層	8区②	NB4	土師器 皿	13.2	2.8	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	9/12	
1161	81-1	SD38018 上層	8区②	NB5	土師器 皿	15.9	—	—	外面未調整	明褐灰7.5YR7/2	精良	5/12	
1162	79-1	SD38018 上層	8区②	NA4 NB4	土師器 皿	9.0	2.1	—	外面ナデ	浅黄橙7.5YR8/4	精良	2/12	
1163	77-4	SD38018	8区②	NB5	土師器 皿	10.0	1.8	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	3/12	
1164	77-6	SD38018	8区②	NB6	土師器 皿	15.4	1.5	—	外面ナデ	浅黄橙7.5YR8/4	精良	4/12	口縁部に油煙付着。
1165	82-4	SD38018 上層	8区②	NB5	土師器 椀	7.8	—	—	外面ナデ	浅黄橙7.5YR8/4	精良	2/12	
1166	77-3	SD38018	8区②	NB5	土師器 椀	8.8	—	—	外面ナデ	浅黄橙7.5YR8/4	精良	10/12	内面ハケメ状の痕跡。
1167	79-9	SD38018	8区②	NB5	土師器 椀	—	—	高台径 4.3	—	浅黄橙7.5YR8/4	精良	底部完存	
1168	81-9	SD38018 上層	8区②	NB5	土師器 椀	—	—	高台径 4.3	—	浅黄橙7.5YR8/4	精良	底部完存	
1169	81-8	SD38018 上層	8区②	NB5	土師器 椀	—	—	高台径 4.4	—	灰白10YR8/2	精良	底部完存	高台に煤付着。
1170	81-7	SD38018 上層	8区②	NB5	土師器 椀	—	—	高台径 5.0	—	浅黄橙10YR8/3	精良	底部ほぼ完存	
1171	41-4	SD38018 上層	8区②	NB4	土師器 鍋	20.8	—	—	体部下半ヘラケズリ	灰白10YR8/2	精良	口縁部2/12	
1172	49-1	SD38018 上層	8区②	NB5	土師器 鍋	20.4	—	—	外面未調整、内面工具ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	精良	口縁部2/12	
1173	45-2	SD38018 上層	8区②	NB4	土師器 鍋	22.0	7.3	—	外面未調整、内面工具ナデ	浅黄2.5Y8/3	1mm以下の砂粒含	3/12	
1174	43-2	SD38018 上層	8区②	NB4	土師器 鍋	21.8	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	浅黄橙7.5YR8/3	精良	口縁部1/12	
1175	47-2	SD38018 下層	8区②	NB6	土師器 鍋	23.8	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	にぶい黄橙10YR7/6	1mm以下の砂粒含	口縁部4/12	
1176	46-2	SD38018 上層	8区②	NB4	土師器 鍋	21.8	—	—	外面未調整、内面工具ナデ	浅黄2.5Y8/3	1.5mm以下の砂粒含	口縁部3/12	
1177	44-1	SD38018	8区②	NB6	土師器 鍋	23.0	—	—	外面未調整、内面工具ナデ	浅黄橙10YR8/3	精良	口縁部2/12	

第３-21表　出土遺物観察表

番号	実測番号	遺構	調査区	出土位置	器種 器形	法量 (cm) 口径	器高	その他	調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
1178	42-2	SD38018 上層	8区②	NB4	土師器 鍋	22.8	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	淡橙5YR8/4	精良	口縁部1/12	
1179	46-3	SD38018	8区②	NB9	土師器 鍋	—	—	—	—	淡黄2.5YR8/3	2㎜以下の砂粒含	小片	
1180	48-2	SD38018 上層	8区②	NB4	土師器 鍋	22.4	—	—	外面未調整、内面ナデ	淡黄橙7.5YR8/4	精良	口縁部4/12	
1181	47-1	SD38018 下層	8区②	NB5	土師器 鍋	25.0	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	にぶい黄橙10YR7/4	1.5㎜以下の砂粒含	口縁部2/12	
1182	48-3	SD38018 上層	8区②	NB6	土師器 鍋	23.0	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	灰白10YR8/2	2㎜以下の砂粒含	口縁部2/12	
1183	40-3	SD38018 下層	8区②	NB4	土師器 鍋	22.0	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	浅黄橙10YR8/3	微砂粒含	口縁部3/12	
1184	38-1	SD38018 下層	8区②	NB4	土師器 鍋	27.4	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	灰黄褐10YR6/2	微砂粒含	口縁部3/12	
1185	43-3	SD38018	8区②	NB6	土師器 鍋	24.8	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	浅黄橙10YR8/3	精良	口縁部1/12	外面に煤付着。
1186	41-5	SD38018 上層	8区②	NB4	土師器 鍋	19.8	—	—	外面ナデ、内面工具ナデ	浅黄橙10YR8/3	精良	口縁部1/12	
1187	46-1	SD38018 上層	8区②	NB5	土師器 鍋	24.0	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	にぶい黄橙10YR7/2	1㎜以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に煤付着。
1188	49-2	SD38018 上層	8区②	NB6	土師器 鍋	27.2	14.0	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	精良	完形	
1189	43-1	SD38018 上層	8区②	NB4	土師器 鍋	37.8	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	灰黄褐10YR5/2	精良	口縁部1/12	外面に煤付着。
1190	44-2	SD38018 上層	8区②	NB6	土師器 鍋	22.0	—	—	ハケメ	にぶい橙7.5YR7/3	精良	口縁部3/12	外面に厚く煤付着。
1191	40-1	SD38018 下層	8区②	NB6	土師器 鍋	29.8	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	にぶい黄橙10YR7/4	微砂粒含	口縁部1/12	外面に煤付着。
1192	40-2	SD38018 下層	8区②	NB4	土師器 鍋	23.4	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	にぶい橙7.5YR7/3	微砂粒含	口縁部1/12	外面に煤付着。
1193	42-1	SD38018 上層	8区②	NB4	土師器 鍋	29.0	—	—	ハケメ	浅黄橙7.5YR8/3	精良	口縁部1/12	外面に煤付着。
1194	38-2	SD38018	8区②	NB6	土師器 鍋	25.0	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	灰黄褐10YR6/2	微砂粒含	口縁部3/12	外面に煤付着。
1195	39-4	SD38018 下層	8区②	NB4	土師器 鍋	27.4	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	微砂粒含	口縁部2/12	
1196	44-3	SD38018	8区②	NB9	土師器 鍋	26.6	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	浅黄橙7.5YR8/4	精良	口縁部2/12	外面に煤付着。
1197	45-1	SD38018	8区②	NB6	土師器 鍋	26.8	12.7	—	下半ヘラケズリ	にぶい黄橙10YR7/3	1㎜以下の砂粒含	6/12	外面に煤付着。
1198	47-3	SD38018 上層	8区②	NB4	土師器 茶釜	27.0	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	灰黄褐10YR6/2	1㎜以下の砂粒含	口縁部1/12	
1199	45-3	SD38018	8区②	NB9	土師器 羽釜	—	—	—	—	灰白10YR8/2	2㎜以下の砂粒含	小片	
1200	39-2	SD38018 下層	8区②	NB6	土師器 羽釜	22.8	—	鍔径 31.6	—	にぶい黄橙10YR7/3	微砂粒含	口縁部1/12	
1201	404-2	SD38018 上層	8区②	NB5	土師器 羽釜	34.0	—	鍔径 45.6	—	浅黄橙10YR8/3	2㎜以下の砂粒含	口縁部1/12	内外面に炭化物付着。
1202	41-1	SD38018 上層	8区②	NB2	土師器 羽釜	32.4	—	鍔径 40.6	外面ハケメ、内面ナデ	浅黄橙7.5YR8/3	精良	口縁部1/12	鍔以下に煤付着。
1203	39-1	SD38018	8区②	NB7	土師器 羽釜	27.3	—	鍔径 38.0	外面ハケメ、内面ナデ	灰白10YR8/2	微砂粒含	鍔2/12	鍔以下に煤付着。
1204	48-1	SD38018	8区②	NB6	土師器 羽釜	26.0	—	鍔径 38.0	—	浅黄橙10YR8/3	4㎜以下の砂粒含	口縁部3/12	鍔以下に煤付着。
1205	39-3	SD38018 下層	8区②	NB4	土師器 羽釜	21.4	—	鍔径 25.8	外面ハケメ、内面ナデ	灰白10YR8/2	微砂粒含	口縁部1/12	鍔基部に穿孔。
1206	74-5	SD38018	8区②	—	施釉陶器 椀	15.9	—	—	外面下半ロクロケズリ	灰白7.5Y7/1	1.5㎜以下の砂粒含	口縁部2/12	灰釉。焼成不良。
1207	72-2	SD38018 上層	8区②	NB4	施釉陶器 椀	15.6	—	—	外面下半ロクロケズリ	灰白10YR8/2	微砂粒含	口縁部1/12	灰釉。
1208	74-6	SD38018	8区②	NB6	施釉陶器 椀	15.4	—	—	外面下半ロクロケズリ	灰黄2.5Y7/2	1㎜以下の砂粒含	口縁部1/12	灰釉。
1209	74-7	SD38018 上層	8区②	NB4	施釉陶器 椀	15.4	—	—	外面下半ロクロケズリ	灰黄2.5Y7/2	1㎜以下の砂粒含	口縁部2/12	灰釉。
1210	74-1	SD38018 下層	8区②	NB4	天目茶椀	12.5	6.8	高台径 3.2	外面下半ロクロケズリ	灰白2.5Y8/1	1㎜以下の砂粒含	底部完存	
1211	74-3	SD38018	8区②	NB8	天目茶椀	—	—	高台径 3.9	外面下半ロクロケズリ	灰白2.5Y8/2	1.5㎜以下の砂粒含	底部完存	
1212	75-2	SD38018 上層	8区②	NB4	施釉陶器 花瓶	—	—	頸部 5.0	ロクロナデ	灰N7/	微砂粒含	頸部完存	鉄釉。焼成不良。
1213	70-5	SD38018 上層	8区②	NB4	施釉陶器 花瓶	—	—	頸部 6.0	ロクロナデ	灰N8/	微砂粒含	頸部3/12	灰釉。焼成不良。
1214	70-4	SD38018	8区②	NB8	施釉陶器 鉢	—	—	—	ロクロナデ	浅黄橙10YR8/3	微砂粒含	小片	鉄釉。
1215	74-4	SD38018 下層	8区②	NB6	施釉陶器 香炉	—	—	底径 4.0	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	1.5㎜以下の砂粒含	底部11/12	鉄釉。
1216	75-1	SD38018 上層	8区②	NB4	施釉陶器 皿	—	—	高台径 6.8	ロクロナデ	灰白2.5Y5/1	微砂粒含	底部4/12	灰釉。見込みに印刻文。
1217	73-7	SD38018	8区②	NB7	施釉陶器 香炉	—	—	—	ロクロナデ	灰白10YR7/1	微砂粒含	底部3/12	灰釉。脚3方は仮定。
1218	70-3	SD38018	8区②	NB6	施釉陶器 鉢	32.0	—	—	ロクロナデ	灰白5Y7/1	微砂粒含	口縁部1/12	灰釉。
1219	72-1	SD38018 上層	8区②	NB5	施釉陶器 鉢	24.2	—	—	外面下半ロクロケズリ	灰白2.5Y8/2	微砂粒含	口縁部2/12	灰釉。
1220	70-2	SD38018 上層	8区②	NB2	陶器 鉢	—	—	—	外面未調整	橙7.5YR7/6	微砂粒含	小片	常滑。
1221	70-1	SD38018 上層	8区②	NB5	陶器 鉢	—	—	底径 14.0	工具ナデ	灰褐5YR5/2	2㎜以下の砂粒含	底部4/12	常滑。
1222	72-3	SD38018	8区②	—	加工円盤	8.7	厚 1.0	重 99g	ロクロケズリ	灰白2.5Y7/1	微砂粒含	完形	施釉陶器鉢を加工。鉄釉。
1223	72-4	SD38018 上層	8区②	NB5	加工円盤	7.0	厚 1.2	重 76g	ナデ	褐灰5YR5/1	微砂粒含	完形	陶器甕を加工。常滑。
1224	72-5	SD38018	8区②	NC2	加工円盤	8.4	厚 1.0	重 107g	ナデ	灰白N7/	微砂粒含	完形	陶器甕を加工。
1225	41-2	SD38018 上層	8区②	NB3	ロクロ土師器 皿	—	—	底径 4.8	ロクロナデ	浅黄橙7.5YR8/4	精良	底部10/12	
1226	73-1	SD38018	8区②	NB5	山茶椀 椀	—	—	高台径 6.0	ロクロナデ	灰白5Y7/1	微砂粒含	底部4/12	
1227	73-5	SD38018 上層	8区②	NB4	山茶椀 椀	—	—	高台径 7.4	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	微砂粒含	底部3/12	
1228	73-2	SD38018 下層	8区②	NB5	山茶椀 椀	—	—	高台径 5.4	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	微砂粒含	底部2/12	
1229	73-3	SD38018 上層	8区②	NA4	山茶椀 皿	—	—	高台径 4.0	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	微砂粒含	底部完存	
1230	73-4	SD38018	8区②	NB5	山茶椀 皿	—	—	高台径 3.9	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	微砂粒含	底部完存	
1231	73-6	SD38018 上層	8区②	NB5	山茶椀 皿	9.1	2.9	高台径 3.5	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	4㎜の小石含	3/12	
1232	75-3	SD38018 下層	8区②	NB4	瓦質土器 壺	21.4	—	—	ヘラミガキ	灰N4/	2㎜以下の砂粒含	口縁部3/12	
1233	75-4	SD38018 下層	8区②	NB6	瓦質土器 壺	17.0	—	—	ヘラミガキ	灰N3/	2㎜以下の砂粒含	口縁部4/12	口縁部にスタンプによる渦巻き文列。
1234	76-1	SD38018	8区②	NB6	瓦質土器 壺	16.4	—	—	ヘラミガキ	暗灰N3/	3㎜以下の砂粒含	口縁部1/12	口縁部にスタンプによる渦巻き文列。
1235	76-2	SD38018 下層	8区②	NB5	瓦質土器 火舎	—	—	—	外面ヘラミガキ	にぶい橙5YR6/4	1㎜以下の砂粒含	小片	口縁部にスタンプによる雷文列。酸化焼成。

第３-22表　出土遺物観察表

番号	実測番号	遺構	調査区	出土位置	器種器形	法量(cm) 口径	器高	その他	調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
1236	76-3	SD38018	8区②	NB6	瓦質土器火舎	—	—	—	—	灰N5/	2mm以下の砂粒含	小片	口縁部にスタンプによる巴文列。
1237	76-6	SD38018	8区②	NB9	瓦質土器火舎	—	—	—	外面ヘラミガキ	灰N4/	2mm以下の砂粒含	小片	口縁部にスタンプによる花菱文列。
1238	76-4	SD38018上層	8区②	NB4	瓦質土器火舎	—	—	—	—	灰N4/	1mm以下の砂粒含	小片	口縁部にスタンプによる花菱文列。
1239	71-1	SD38018上層	8区②	NB4	瓦質製品	—	—	—	—	灰N4/	微砂粒含	4/12以下	円孔あり。
1240	71-3	SD38018	8区②	NB9	瓦質製品	—	—	—	—	浅黄橙10YR8/3	微砂粒含	小片	円孔あり。
1241	51-3	SD38018上層	8区②	—	軒丸瓦	—	—	—	—	灰N6/	精良	瓦当部1/12	巴文。
1242	69-1	SD38018上層	8区②	NB5	軒丸瓦	—	6.4	—	—	灰N5/	微砂粒含	2/12以下	瓦当剥離。
1243	59-1	SD38018上層	8区②	NB5	軒丸瓦	—	6.4	—	—	灰白5Y7/1	微砂粒含	2/12以下	瓦当剥離。
1244	54-1	SD38018	8区②	NB8	丸瓦	—	—	—	—	暗灰N3/	精良	1/12以下	
1245	63-3	SD38018下層	8区②	NB4	丸瓦	—	—	—	—	暗灰N3/	1mm以下の砂粒含	1/12以下	
1246	58-1	SD38018上層	8区②	NB4	丸瓦	幅13.0	6.5	—	コビキA	灰白5Y7/1	微砂粒含	4/12以下	
1247	54-3	SD38018	8区②	NB5	丸瓦	—	6.0	—	凹面布目、凸面工具ナデ	灰N5/	精良	1/12以下	
1248	69-2	SD38018	8区②	NB6	丸瓦	—	6.1	—	—	灰N4/	微砂粒含	1/12以下	
1249	63-2	SD38018下層	8区②	NB4	丸瓦	—	—	—	—	暗灰N3/	1mm以下の砂粒含	1/12以下	玉縁部片。
1250	52-2	SD38018	8区②	—	丸瓦	—	6.5	—	—	灰N4/	精良	1/12以下	燻不良。
1251	53-1	SD38018上層	8区②	NB4	丸瓦	—	6.0	—	凹面布目、凸面縄タタキ	灰N4/	精良	2/12以下	
1252	53-2	SD38018	8区②	NC2	丸瓦	—	5.8	—	凹面布目、凸面ナデ	灰N5/	精良	2/12以下	
1253	54-2	SD38018泥の層	8区②	NB7	丸瓦	—	5.5	—	凹面布目、凸面縄タタキ	暗灰N3/	精良	1/12以下	
1254	53-3	SD38018上層	8区②	NB4	丸瓦	—	—	—	—	灰N5/	精良	2/12以下	玉縁部片。
1255	65-3	SD38018	8区②	NB7	丸瓦	—	—	—	—	灰N5/	精良	1/12以下	玉縁部片。
1256	66-2	SD38018	8区②	NB4	丸瓦	—	—	—	凹面布目、凸面ナデ	灰N6/	6mm以下の砂粒含	1/12以下	須恵質。
1257	56-1	SD38018下層	8区②	NB4	平瓦	—	谷深3.1	—	凹面ナデ、凸面工具ナデ	灰N5/	2mm以下の砂粒含	3/12以下	
1258	68-1	SD38018上層	8区②	NB5	平瓦	—	—	—	—	灰N5/	2mm以下の砂粒含	1/12以下	
1259	50-2	SD38018上層	8区②	NB4	平瓦	—	—	—	工具ナデ	灰N4/	精良	2/12以下	
1260	61-2	SD38018下層	8区②	NB4	平瓦	—	—	—	ナデ	暗灰N3/	1.5mm以下の砂粒含	2/12以下	
1261	50-1	SD38018	8区②	NB5	平瓦	—	—	—	—	灰白N7/	精良	1/12以下	須恵質。
1262	66-1	SD38018	8区②	NB5	平瓦	—	谷深2.4	—	凹面ナデ、凸面ヘラケズリ	灰N5/	4mm以下の砂粒含	3/12以下	燻不良。
1263	57-2	SD38018下層	8区②	NB4	平瓦	—	谷深2.1	—	凹面ナデ、凸面ヘラケズリ	灰N6/	4mm以下の砂粒含	3/12以下	
1264	60-3	SD38018下層	8区②	NB4	平瓦	—	—	—	—	暗灰N3/	2.5mm以下の砂粒含	1/12以下	側面に沈線1条。
1265	65-2	SD38018上層	8区②	NB5	平瓦	—	—	—	凹面ナデ、凸面ヘラケズリ	灰N5/	2mm以下の砂粒含	2/12以下	
1266	67-2	SD38018下層	8区②	NB3	平瓦	—	—	—	凹面コビキ、凸面ナデ	浅黄橙7.5YR8/3	5.5mm以下の砂粒含	1/12以下	酸化焼成。
1267	65-1	SD38018下層	8区②	NB5	平瓦	—	谷深3.0	—	凹面ナデ、凸面ヘラケズリ	灰6/	5mm以下の砂粒含	3/12以下	燻不良。
1268	62-1	SD38018下層	8区②	NB3	平瓦	—	谷深0.9	—	—	暗灰N3/	4mm以下の砂粒含	2/12以下	
1269	60-2	SD38018下層	8区②	NB4	平瓦	—	谷深2.4	—	凹面ナデ、凸面工具ナデ	灰N4/	1mm以下の砂粒含	2/12以下	
1270	52-1	SD38018上層	8区②	NB4	平瓦	—	谷深2.5	—	凹面ナデ、凸面工具ナデ	暗灰N3/	精良	3/12以下	
1271	50-3	SD38018泥の層	8区②	NB7	平瓦	—	—	—	—	にぶい橙7.5YR7/3	精良	1/12以下	酸化焼成。
1272	60-1	SD38018下層	8区②	NB4	平瓦	—	谷深2.4	—	—	灰N4/	3mm以下の砂粒含	3/12以下	
1273	51-1	SD38018上層	8区②	NB4	平瓦	—	谷深2.9	—	—	灰N6/	精良	2/12以下	
1274	67-1	SD38018	8区②	NB6	平瓦	—	—	—	ナデ	灰N6/	精良	3/12以下	
1275	51-2	SD38018上層	8区②	NB5	平瓦	—	谷深2.6	—	—	灰N5/	精良	3/12以下	
1276	58-2	SD38018下層	8区②	NB6	平瓦	—	—	—	ヘラケズリ	灰N4/	1.5mm以下の砂粒含	1/12以下	
1277	68-3	SD38018上層	8区②	NB4	熨斗瓦	—	—	—	ナデ	灰N5/	微砂粒含	1/12以下	
1278	64-2	SD38018	8区②	NB7	鬼瓦	—	—	—	ナデ	にぶい橙7.5YR7/3	1.5mm以下の砂粒含	小片	燻不良。
1279	64-1	SD38018下層	8区②	NB6	鬼瓦	—	—	—	表面工具ナデ、裏面ヘラケズリ	暗灰N3/	3mm以下の砂粒含	1/12以下	
1280	71-2	SD38018	8区②	NB8	砥石	最大幅5.4	長10.0	最大厚2.8	—	浅黄橙10YR8/3	砂岩	完形	171g。
1281	222-3	SD39001	9区	KV11	土師器皿	11.0	1.4	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	5/12	
1282	219-4	SD39001	9区	KX12	土師器皿	9.0	1.5	—	外面未調整	灰白7.5YR8/2	精良	1/12	
1283	219-5	SD39001	9区	KU10	土師器皿	7.4	1.6	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	3/12	
1284	219-6	SD39001	9区	KX12	土師器皿	6.0	1.4	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	3/12	
1285	220-5	SD39001	9区	—	土師器杯	14.2	3.2	—	ヘラミガキ	にぶい黄橙10YR7/3	3mm以下の砂粒含	3/12	
1286	219-3	SD39001	9区	KV10	土師器鍋	21.2	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	にぶい黄橙10YR7/2	1.5mm以下の砂粒含	口縁部4/12	外面に煤付着。
1287	222-2	SD39001	9区	KV10	土師器鍋	30.4	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	にぶい黄橙10YR6/4	微砂粒含	口縁部2/12	外面に煤付着。
1288	217-1	SD39001	9区	KU9	土師器鍋	34.0	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	1.5mm以下の砂粒含	頸部10/12	外面に煤付着。
1289	218-1	SD39001	9区	KV11	土師器茶釜	12.3	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	にぶい黄褐10YR5/3	1mm以下の砂粒含	頸部9/12	外面に煤厚く付着。
1290	219-1	SD39001	9区	—	土師器羽釜	36.0	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	浅黄橙10YR8/3	2mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
1291	220-1	SD39001	9区	—	土師器羽釜	27.0	—	鍔径40.4	—	灰白5Y8/1	3mm以下の砂粒多含	口縁部1/12	
1292	219-2	SD39001	9区	—	土師器羽釜	27.6	—	鍔径33.4	外面ハケメ、内面工具ナデ	灰白10YR8/2	2mm以下の砂粒多含	鍔部2/12	鍔以下に煤付着。
1293	221-2	SD39001	9区	—	青磁椀	—	—	高台径6.8	底部外面ロクロケズリ	灰白7.5Y7/1	精良	底部3/12	印刻文。

第３-23表　出土遺物観察表

番号	実測番号	遺構	調査区	出土位置	器種 器形	法量 (cm) 口径	器高	その他	調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
1294	219-7	SD39001	9区	KS9	緑釉陶器 椀	—	—	—	—	灰白5Y8/1	精良	小片	近江。
1295	220-4	SD39001	9区	—	施釉陶器 皿	12.0	—	—	底部外面ロクロケズリ	灰白5Y8/1	精良	1/12	灰釉。
1296	222-1	SD39001	9区	KV10	施釉陶器 鉢	—	—	—	—	灰白2.5Y7/1	微砂粒含	小片	鉄釉。
1297	220-6	SD39001	9区	KS9	陶器 鉢	—	—	—	—	灰白2.5Y7/1	精良	底部10/12	見込みに炭化物付着。
1298	220-3	SD39001	9区	KX12	陶器 甕	—	—	—	—	にぶい赤褐5YR5/4	精良	小片	常滑。
1299	221-1	SD39001	9区	KS9	平瓦	—	—	—	凸面縄タタキ、凹面布目	にぶい赤褐2.5YR4/3	4mm以下の砂粒含	2/12以下	
1300	221-3	SD39001	9区	—	土錘	2.8	長 7.1	重 59g	ナデ	灰黄2.5Y7/2	精良	完形	
1301	220-2	SD39001	9区	KV10	鞴 羽口	7.0	—	孔径 2.0	—	にぶい黄橙10YR6/3	4mm以下の砂粒多含	2/12以下	
1302	1067-3	SD39001	9区	—	木製品 杭	8.9	残長 54.1	—	—	—	—	—	自然木。
1303	236-6	SD39014	9区	KX13	土師器 皿	13.0	1.8	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/3	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
1304	233-3	SD39014	9区	KX13	土師器 皿	9.2	1.4	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/3	精良	11/12	
1305	234-1	SD39014	9区	KY14	土師器 皿	18.2	2.9	—	外面ヘラケズリ	にぶい橙7.5YR6/4	精良	6/12	内外面にヘラ記号「×」。
1306	233-1	SD39014	9区	KX13	土師器 鍋	20.0	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	精良	口縁部1/12	外面に煤付着。
1307	233-2	SD39014	9区	—	土師器 鍋	25.2	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	精良	口縁部1/12	外面に煤付着。
1308	232-2	SD39014	9区	KX12	土師器 焙烙	36.0	—	—	底部内外面ヘラケズリ	にぶい黄橙10YR7/3	精良	口縁部1/12	外面に煤付着。
1309	403-3	SD39014	9区	KY14	弥生～土師器 高杯	—	—	脚基部 3.8	ヘラミガキ	にぶい橙5YR6/4	4mm以下の砂粒含	脚基部完存	
1310	234-2	SD39014	9区	KX13	施釉陶器 椀	16.0	5.7	高台径 5.2	外面下半ロクロケズリ	灰白N7/	精良	3/12	灰釉。古瀬戸。
1311	236-7	SD39014	9区	KX13	陶器 壺	—	—	高台径 7.2	外面下半ロクロケズリ	灰白2.5Y8/1	1mm以下の砂粒含	底部4/12	
1312	232-1	SD39014	9区	KX13	陶器 鉢	27.8	—	—	外面未調整	橙5YR6/6	0.5mm以下の小石含	口縁部1/12	
1313	233-5	SD39014	9区	KX13	加工円盤	5.3	厚 1.2	重 40g	—	にぶい橙5YR7/4	精良	完形	陶器甕を加工。常滑。
1314	402-3	SD39014	9区	KY14	須恵器 壺	—	—	頸基部 5.4	ロクロナデ	灰N6/	精良	頸基部完存	頸部に凹線2条。
1315	236-8	SD39014	9区	KX13	山茶椀	—	—	高台径 8.0	—	灰白5Y7/1	1mm以下の砂粒含	底部5/12	内面平滑。加工して二次使用。
1316	233-4	SD39014	9区	KX12	山茶椀	—	—	高台径 7.6	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	精良	底部5/12	
1317	237-1	SD39014	9区	KX12	平瓦	—	谷深 2.7	—	凸面縄タタキ、凹面布目	橙5YR6/6	2mm以下の砂粒含	3/12以下	
1318	354-5	SD36012	6区	LN12	土師器 皿	9.0	1.9	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の砂粒含	3/12	
1319	354-4	SD36012	6区	LN12	土師器 皿	9.6	1.7	—	外面未調整	橙7.5YR7/6	1.5mm以下の砂粒含	5/12	歪みが大きい。
1320	354-7	SD36012	6区	LN14	土師器 皿	10.3	1.5	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/5	1mm以下の砂粒含	2/12	
1321	355-1	SD36012	6区	LN15	土師器 皿	8.6	1.5	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の砂粒含	4/12	
1322	355-6	SD36012	6区	LN15	土師器 皿	8.6	—	—	ナデ	橙7.5YR7/4	微砂粒含	2/12	
1323	355-2	SD36012	6区	LN15	土師器 皿	6.9	1.5	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/4	1mm以下の砂粒含	4/12	歪みが大きい。
1324	355-5	SD36012	6区	LN15	土師器 皿	6.4	—	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/4	微砂粒含	3/12	
1325	355-4	SD36012	6区	LN15	土師器 皿	6.4	1.1	—	外面未調整	橙7.5YR6/6	微砂粒含	3/12	
1326	354-6	SD36012	6区	LN13	土師器 皿	5.8	1.1	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の砂粒含	3/12	
1327	355-3	SD36012	6区	LN15	土師器 皿	6.2	1.3	—	外面未調整	橙7.5YR7/6	微砂粒含	10/12	
1328	354-8	SD36012	6区	LN14	土師器 皿	8.4	1.1	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	7/12	
1329	354-2	SD36012	6区	LN12	土師器 鍋	10.8	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	灰白10YR8/3	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	口縁部外面に煤付着。
1330	354-1	SD36012	6区	LN12	土師器 鍋	24.8	—	—	—	浅黄橙10YR8/3	2mm以下の砂粒含	口縁部2/12	外面に煤付着。
1331	354-3	SD36012	6区	LN13	土師器 鍋	23.8	—	—	—	にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	外面に煤付着。
1332	413-5	SD36012	6区	LN14	土師器 鍋	—	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の砂粒含	小片	外面に多条線刻。
1333	352-4	SD36012	6区	LN13	施釉陶器 椀	17.8	—	—	ロクロナデ	灰白N8/	精良	口縁部1/12	灰釉。
1334	352-5	SD36012	6区	LN14	施釉陶器 鉢	—	—	—	ロクロナデ	灰白N8/	精良	小片	灰釉。古瀬戸。
1335	352-2	SD36012	6区	LN13	青磁 椀	11.8	—	—	ロクロナデ	淡赤橙2.5YR7/4	精良	口縁部1/12	外面に連弁文。
1336	352-3	SD36012	6区	LN13	白磁 椀	16.0	—	—	—	灰白N8/	精良	口縁部1/12	
1337	358-2	SD36012	6区	LN13	陶器 甕	—	—	底径 9.4	ロクロナデ	灰褐5YR5/2	やや精良	底部3/12	常滑。
1338	358-3	SD36012	6区	LN12	陶器 擂鉢	—	—	底径 10.0	ロクロナデ	灰白2.5Y8/2	精良	底部2/12	瀬戸。
1339	358-1	SD36012	6区	LN12	陶器 甕	—	—	底径 19.8	ロクロナデ	灰白5Y8/1	3mm以下の砂粒含	底部1/12	常滑。
1340	358-4	SD36012	6区	LN12	陶器 甕	—	—	—	ロクロナデ	灰白N8/	やや精良	小片	常滑。
1341	357-2	SD36012	6区	LN14	陶器 甕	36.8	—	—	ロクロナデ	灰白N8/	やや精良	口縁部1/12	常滑。
1342	352-6	SD36012	6区	LN14	瓦質土器 鉢	18.8	—	—	外面ヘラミガキ、内面工具ナデ	黒褐7.5YR3/1	精良	口縁部1/12	内面に炭化物薄く付着。
1343	397-6	SD36012	6区	LN12	瓦質土器 浅鉢	—	—	—	—	灰5Y6/1	3mm以下の砂粒含	小片	
1344	353-1	SD36012	6区	LN14	瓦質土器 羽釜	—	—	—	工具ナデ	灰N4/	2mm以下の砂粒含	小片	
1345	357-1	SD36012	6区	LN14	陶器 鉢	—	—	底径 22.0	外面カキメ、内面工具ナデ	灰白N7/	やや精良	底部1/12	3脚は仮定。
1346	355-8	SD36012	6区	LN15	加工円盤	4.5	厚 1.0	重 31.94g	ナデ	灰N5/	1mm以下の砂粒含	完形	陶器甕体部を加工。
1347	355-7	SD36012	6区	LN12	加工円盤	4.5	厚 0.9	重 25.81g	ロクロケズリ	灰黄2.5Y7/2	1mm以下の砂粒含	完形	天目茶椀底部を加工。
1348	355-9	SD36012	6区	LN14	加工円盤	6.0	厚 1.0	重 40.92g	工具ナデ	浅黄橙7.5YR8/4	2mm以下の砂粒含	完形	陶器甕体部を加工。
1349	353-3	SD36012	6区	LN13	丸瓦	—	4.1	—	外面工具ナデ、内面布目	灰N4/	やや精良	2/12以下	
1350	353-2	SD36012	6区	LN14	平瓦	—	—	—	凸面工具ナデ、凹面ナデ	浅黄橙7.5YR8/3	やや精良	1/12以下	
1351	356-1	SD36012	6区	LN14	山茶椀 椀	—	—	高台径 6.9	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	2mm以下の砂粒含	底部10/12	見込みに葉脈痕、高台に板状圧痕。

第３-24表　出土遺物観察表

番号	実測番号	遺構	調査区	出土位置	器種器形	法量(cm) 口径	器高	その他	調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
1352	356-4	SD36012	6区	LN14	山茶椀 椀	—	—	高台径6.8	ロクロナデ	灰黄2.5Y7/1	2mm以下の砂粒含	底部3/12	
1353	356-5	SD36012	6区	LN14	山茶椀 椀	—	—	高台径7.5	ロクロナデ	灰黄2.5Y7/2	1.5mm以下の砂粒含	底部2/12	
1354	356-2	SD36012	6区	LN12	山茶椀 椀	—	—	高台径8.3	ロクロナデ	灰黄2.5Y7/2	1mm以下の砂粒含	底部5/12	内面平滑。
1355	356-3	SD36012	6区	LN12	山茶椀 椀	—	—	高台径6.8	ロクロナデ	灰黄2.5Y7/1	1mm以下の砂粒含	底部3/12	
1356	1001-6	SD36012	6区	LN13	鉄製品 釘	0.5	残長3.7	—	—	—	—	3/12以下	
1357	258-2	SD37006 炭上層	7区	—	土師器 皿	11.8	2.1	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	3mm以下の砂粒含	4/12	
1358	259-6	SD37006 炭上層	7区	—	土師器 皿	9.8	1.6	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/2	精良	2/12	
1359	254-6	SD37006	7区	LS6	土師器 皿	8.5	1.6	—	外面未調整	浅黄橙9.5YR8/3	精良	5/12	口縁部に油煙付着。
1360	259-3	SD37006 炭上層	7区	—	土師器 皿	8.6	1.1	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	3/12	
1361	259-2	SD37006 炭上層	7区	—	土師器 皿	7.0	1.4	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	11/12	歪みが大きい。
1362	254-4	SD37006	7区	—	土師器 皿	8.0	1.5	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	2/12	
1363	259-7	SD37006 炭上層	7区	—	土師器 皿	9.4	1.3	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/4	精良	3/12	
1364	258-10	SD37006 炭層	7区	—	土師器 皿	8.2	1.1	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	4/12	
1365	254-8	SD37006 炭下層	7区	—	土師器 皿	7.0	1.1	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	3/12	
1366	259-9	SD37006	7区	—	土師器 皿	7.7	1.0	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	2/12	歪みが大きい。
1367	254-5	SD37006 炭上層	7区	—	土師器 皿	9.1	1.7	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/2	精良	7/12	
1368	258-1	SD37006 炭下層	7区	—	土師器 皿	14.9	3.0	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	口縁部完存	
1369	259-8	SD37006 炭上層	7区	—	土師器 皿	10.5	2.0	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	4/12	
1370	259-1	SD37006 炭層	7区	—	土師器 皿	10.7	1.8	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	2/12	
1371	258-8	SD37006	7区	—	土師器 皿	12.0	2.2	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	1/12	
1372	254-3	SD37006	7区	LS6	土師器 皿	11.5	—	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	3/12	
1373	258-3	SD37006 炭上層	7区	—	土師器 皿	10.9	2.5	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	精良	4/12	
1374	259-5	SD37006 炭上層	7区	—	土師器 皿	9.9	—	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	2/12	
1375	258-6	SD37006 炭層	7区	—	土師器 皿	10.0	2.1	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	精良	3/12	
1376	258-5	SD37006	7区	—	土師器 皿	9.8	1.7	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	4/12	歪みが大きい。
1377	258-4	SD37006	7区	—	土師器 皿	11.8	2.0	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	3/12	
1378	258-9	SD37006	7区	—	土師器 皿	9.8	1.5	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	精良	2/12	
1379	259-4	SD37006 炭層	7区	—	土師器 皿	9.9	—	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	1/12	
1380	258-7	SD37006 炭層	7区	—	土師器 皿	11.5	1.9	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	2/12	
1381	256-3	SD37006	7区	—	土師器 皿	—	—	—	外面未調整	橙7.5YR7/6	精良	3/12	底部に焼成後外から内へ穿孔3ヶ所以上。
1382	254-7	SD37006	7区	LS6	土師器 椀	—	—	高台径5.2	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/4	精良	底部完存	
1383	254-2	SD37006 石上層	7区	—	土師器 鍋	24.0	—	—	—	橙5YR7/6	精良	口縁部2/12	内外面に炭化物付着。
1384	254-1	SD37006 石下層	7区	—	土師器 鍋	32.0	—	—	—	浅黄橙10YR8/3	3mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
1385	399-2	SD37006 石上層	7区	—	土師器 壺	—	—	底部21.0	ナデ	橙2.5YR7/1	やや精良	底部1/12	
1386	257-2	SD37006 石上層	7区	—	土師器 壺	—	—	底部28.0	—	橙2.5YR7/6	精良	底部1/12	
1387	257-1	SD37006 石上層	7区	LS6	土師器 十能	—	—	—	—	浅黄橙10YR8/4	精良	2/12	把手上部に穿孔。
1388	262-4	SD37006	7区	—	縄文土器	—	—	—	—	浅黄橙7.5YR8/3	4mm以下の砂粒含	小片	外面に羽状沈線＋刺突文。
1389	261-3	SD37006 石上層	7区	—	瓦質土器 鉢	—	—	—	外面ヘラミガキ	灰N5/	精良	小片	口縁部に突帯1条。
1390	262-3	SD37006	7区	—	施釉陶器 皿	—	—	高台径7.8	ロクロナデ	灰白2.5Y8/1	精良	底部1/12	灰釉。古瀬戸。
1391	261-6	SD37006 石上層	7区	—	青磁 椀	15.0	—	—	ロクロナデ	灰白N8/	精良	口縁部1/12	外面に連弁文。
1392	261-5	SD37006 石上層	7区	—	青磁 椀	14.6	—	—	ロクロナデ	灰白N7/	精良	口縁部2/12	内面に印刻文。
1393	262-5	SD37006 炭下層	7区	—	青磁 香炉	6.6	6.1	高台径3.3	ロクロナデ	灰白N8/	精良	底部11/12	3脚。
1394	256-2	SD37006	7区	—	陶器 甕	—	—	—	ロクロナデ	にぶい赤褐2.5YR5/3	精良	小片	
1395	256-1	SD37006 炭上層	7区	—	陶器 甕	38.2	—	—	ロクロナデ	灰褐5YR4/2	4mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
1396	262-6	SD37006	7区	—	陶器 擂鉢	30.0	—	—	ロクロナデ	灰白2.5Y8/2	精良	口縁部1/12以下	
1397	255-4	SD37006	7区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径7.4	ロクロナデ	灰黄2.5Y7/2	精良	底部4/12	
1398	255-2	SD37006	7区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径7.5	ロクロナデ	灰白5Y7/1	精良	底部2/12	
1399	255-3	SD37006	7区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径5.9	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	精良	底部3/12	
1400	261-1	SD37006	7区	LS6	熨斗瓦	—	—	—	—	橙5YR6/6	1mm以下の砂粒多含	3/12以下	酸化焼成。摩滅が激しく調整不明。
1401	1001-8	SD37006	7区	LS6	鉄製品 釘	0.8	残長7.9	—	—	—	—	7/12以下	
1402	383-1	SD36004	6区	LL11	土師器 蓋	11.0	1.6	底径6.8	底部外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の砂粒含	10/12	
1403	372-10	SD36004	6区	LM11	土師器 皿	15.0	—	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	1.5mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
1404	371-4	SD36004	6区	—	土師器 皿	10.0	2.0	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	2/12	成形時の強い当たりにより口縁部が窪み変形。
1405	365-9	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	10.0	1.5	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	やや精良	2/12	
1406	377-6	SD36004	6区	LM13	土師器 皿	10.0	1.5	—	ナデ	浅黄橙7.5YR8/3	精良	2/12	
1407	367-11	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	9.6	1.2	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の砂粒含	5/12	
1408	372-3	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	8.2	1.3	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の砂粒含	9/12	焼成やや不良。
1409	377-5	SD36004	6区	LM3	土師器 皿	10.3	1.6	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	1/12	口縁部に油煙僅かに付着。

第３-25表　出土遺物観察表

番号	実測番号	遺構	調査区	出土位置	器種 器形	法量 (cm) 口径	器高	その他	調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
1410	366-1	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	10.3	1.5	—	ナデ	浅黄橙7.5YR8/3	やや精良	2/12	内外面に炭化物付着。
1411	371-6	SD36004	6区	—	土師器 皿	8.6	1.6	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	微砂粒含	10/12	口縁部内外面に油煙付着。底部外面に布圧痕。
1412	363-6	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	7.8	1.3	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	やや精良	3/12	口縁部内外面に油煙付着。
1413	363-5	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	8.8	1.4	—	ナデ	浅黄橙7.5YR8/4	やや精良	口縁部完存	口縁部内外面に油煙付着。
1414	370-3	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	8.3	1.4	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	やや精良	完形	口縁部内外面に油煙付着。
1415	364-5	SD36004	6区	LM13	土師器 皿	7.9	1.4	—	ナデ	橙5YR7/6	やや精良	7/12	口縁部内外面に油煙付着。
1416	364-2	SD36004	6区	LM13	土師器 皿	8.8	1.3	—	外面未調整	橙5YR7/6	やや精良	3/12	口縁部内外面に油煙付着。
1417	368-3	SD36004	6区	LM12	土師器 皿	8.7	1.4	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	2/12	口縁部内外面に油煙付着。
1418	363-8	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	8.0	—	—	ナデ	浅黄橙10YR8/3	やや精良	口縁部3/12	
1419	370-4	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	8.4	1.6	—	外面未調整	橙5YR7/6	やや精良	完形	口縁部内外面に油煙付着。
1420	370-8	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	7.8	1.6	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	やや精良	10/12	底部外面に爪圧痕多数。
1421	337-5	SD36004	6区	LM11	土師器 皿	7.0	—	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	口縁部3/12	底部外面に人面墨書。内面に幾何学的墨書。
1422	337-6	SD36004	6区	LM11	土師器 皿	8.4	1.4	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	5/12	
1423	365-7	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	8.1	1.3	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	やや精良	3/12	
1424	370-9	SD36004	6区	LM12	土師器 皿	8.9	1.3	—	ナデ	浅黄橙7.5YR8/4	やや精良	2/12	
1425	364-9	SD36004	6区	LM13	土師器 皿	8.9	1.5	—	外面未調整	橙5YR7/4	やや精良	1/12	口縁部内外面に油煙付着。
1426	371-8	SD36004	6区	—	土師器 皿	7.8	1.5	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の砂粒含	6/12	口縁部内外面に油煙付着。
1427	336-10	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	8.2	1.2	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	3/12	
1428	365-1	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	8.7	1.6	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	やや精良	7/12	口縁部内外面に油煙付着。
1429	368-8	SD36004	6区	LM12	土師器 皿	7.8	1.4	—	外面未調整	橙5YR7/6	微砂粒含	2/12	口縁部内外面に油煙付着。
1430	365-2	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	8.8	1.4	—	底部外面工具ナデ	浅黄橙7.5YR8/4	やや精良	3/12	
1431	368-2	SD36004	6区	LM12	土師器 皿	8.1	1.5	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	7/12	口縁部内外面に油煙付着。
1432	377-7	SD36004	6区	LM13	土師器 皿	9.0	1.4	—	外面未調整	にぶい橙5YR7/4	精良	2/12	
1433	363-7	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	7.2	1.3	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	やや精良	3/12	口縁部内外面に油煙付着。
1434	337-1	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	8.1	1.6	—	外面未調整	灰白10YR8/2	微砂粒含	完形	歪みが大きい。底部外面に2条1組の爪形圧痕多数。
1435	365-8	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	8.1	1.3	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	やや精良	2/12	口縁部に油煙薄く付着。
1436	364-7	SD36004	6区	LM13	土師器 皿	7.4	1.4	—	ナデ	黒褐7.5YR3/1	やや精良	2/12	口縁部内外面に油煙付着。焼成不良。
1437	366-3	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	8.2	1.4	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	やや精良	6/12	
1438	364-1	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	7.0	1.2	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	やや精良	3/12	
1439	377-8	SD36004	6区	LM13	土師器 皿	6.4	1.5	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	9/12	
1440	372-7	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	6.2	1.3	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	2.5mm以下の砂粒含	10/12	口縁部内外面に油煙付着。
1441	367-5	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	6.3	1.7	—	外面未調整	灰白7.5YR8/2	1mm以下の砂粒含	5/12	口縁部に油煙薄く付着。
1442	363-11	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	6.4	1.4	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	やや精良	4/12	
1443	368-7	SD36004	6区	LM12	土師器 皿	5.9	1.5	—	ナデ	橙5YR7/6	微砂粒含	2/12	口縁部内外面に油煙付着。
1444	378-7	SD36004	6区	LM13	土師器 皿	6.2	1.4	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	10/12	
1445	371-10	SD36004	6区	—	土師器 皿	6.2	1.5	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/3	微砂粒含	3/12	
1446	378-11	SD36004	6区	LM13	土師器 皿	6.0	1.3	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	精良	4/12	
1447	370-5	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	6.3	1.4	—	外面未調整	淡橙5YR8/4	やや精良	完形	口縁部内外面に油煙付着。
1448	368-9	SD36004	6区	LM12	土師器 皿	5.2	1.0	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/4	微砂粒含	3/12	
1449	337-8	SD36004	6区	LM11	土師器 皿	5.9	1.2	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	10/12	
1450	363-2	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	6.8	1.1	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	やや精良	2/12	
1451	372-9	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	6.5	1.4	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	1mm以下の砂粒含	4/12	底部外面に筒状圧痕が円形に並ぶ。
1452	378-10	SD36004	6区	LM13	土師器 皿	6.0	1.2	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	3/12	
1453	378-9	SD36004	6区	LM13	土師器 皿	6.4	1.3	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	4/12	
1454	363-12	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	6.0	1.1	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	やや精良	4/12	
1455	366-7	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	6.0	1.2	—	外面未調整	橙5YR7/6	やや精良	3/12	
1456	367-7	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	6.2	1.5	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の砂粒含	完形	口縁部内面に油煙付着。
1457	337-9	SD36004	6区	LM11	土師器 皿	5.6	1.4	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	精良	3/12	
1458	336-8	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	6.5	1.2	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	精良	4/12	
1459	337-7	SD36004	6区	LM11	土師器 皿	6.4	1.3	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	4/12	口縁部内外面に油煙付着。
1460	378-8	SD36004	6区	LM13	土師器 皿	5.9	1.3	—	外面未調整	淡橙5YR8/4	精良	7/12	
1461	378-1	SD36004	6区	LM13	土師器 皿	6.2	1.8	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	11/12	口縁部内外面に油煙付着。
1462	365-5	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	5.9	1.4	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	やや精良	7/12	
1463	378-3	SD36004	6区	LM13	土師器 皿	6.0	1.5	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	11/12	
1464	378-6	SD36004	6区	LM13	土師器 皿	6.2	1.2	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	3/12	
1465	378-5	SD36004	6区	LM13	土師器 皿	6.4	1.2	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	5/12	
1466	367-9	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	6.1	1.5	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の砂粒含	9/12	口縁部内外面に炭化物付着。
1467	377-10	SD36004	6区	LM13	土師器 皿	6.3	1.4	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	6/12	

第３-26表　出土遺物観察表

番号	実測番号	遺構	調査区	出土位置	器種 器形	法量 (cm) 口径	器高	その他	調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
1468	377-11	SD36004	6区	LM13	土師器 皿	6.0	1.3	—	外面未調整	淡橙5YR8/4	精良	6/12	
1469	378-4	SD36004	6区	LM13	土師器 皿	6.3	1.1	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	3/12	
1470	337-12	SD36004	6区	LM11	土師器 皿	6.0	1.3	—	外面未調整	橙5YR7/6	精良	9/12	歪みが大きい。
1471	337-11	SD36004	6区	LM11	土師器 皿	6.3	1.1	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	精良	6/12	
1472	367-8	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	6.4	1.3	—	外面未調整	にぶい橙5YR7/4	1mm以下の砂粒含	7/12	
1473	365-4	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	6.0	1.4	—	外面未調整	橙5YR7/6	やや精良	11/12	
1474	377-9	SD36004	6区	LH13	土師器 皿	6.0	1.2	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	7/12	
1475	336-9	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	6.4	1.0	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	精良	4/12	
1476	370-6	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	6.4	1.4	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	やや精良	9/12	
1477	378-2	SD36004	6区	LM13	土師器 皿	6.6	1.6	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	精良	8/12	口縁部内外面に油煙付着。
1478	364-12	SD36004	6区	LM14	土師器 皿	10.9	—	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	やや精良	口縁部2/12	
1479	371-1	SD36004	6区	—	土師器 皿	10.4	2.4	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/4	1mm以下の砂粒含	10/12	
1480	376-2	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	10.2	—	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	口縁部4/12	
1481	377-2	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	9.8	1.9	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	7/12	
1482	366-6	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	10.2	2.2	—	外面未調整	灰褐7.5YR5/2	やや精良	7/12	底部に炭化物付着。
1483	337-4	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	10.0	—	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	口縁部2/12	
1484	367-6	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	9.8	1.9	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/3	微砂粒含	3/12	
1485	367-12	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	10.5	1.9	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の砂粒含	1/12	
1486	368-10	SD36004	6区	LM12	土師器 皿	9.4	1.8	—	外面未調整	橙5YR7/6	1mm以下の砂粒含	3/12	
1487	363-9	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	8.0	1.6	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	やや精良	2/12	
1488	370-2	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	9.9	1.9	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	やや精良	11/12	歪みが大きい。底部外面に布圧痕。
1489	371-3	SD36004	6区	—	土師器 皿	10.2	—	—	外面未調整	にぶい橙5YR7/4	1mm以下の砂粒含	口縁部4/12	
1490	377-1	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	10.9	1.8	—	外面未調整	淡橙5YR8/4	精良	5/12	
1491	366-4	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	9.9	1.3	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	やや精良	11/12	外面に煤付着。
1492	367-4	SD36004	6区	LM11	土師器 皿	9.0	—	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	微砂粒含	口縁部3/12	
1493	365-6	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	8.8	1.7	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	やや精良	3/12	
1494	370-1	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	10.0	2.1	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	やや精良	10/12	
1495	336-7	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	9.0	1.6	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	精良	3/12	
1496	371-2	SD36004	6区	—	土師器 皿	10.4	1.7	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の砂粒含	6/12	
1497	369-3	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	10.0	—	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	やや精良	口縁部4/12	
1498	371-5	SD36004	6区	—	土師器 皿	10.1	—	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	微砂粒含	口縁部3/12	
1499	364-3	SD36004	6区	LM13	土師器 皿	8.4	1.5	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	やや精良	8/12	口縁部内外面に油煙付着。
1500	369-2	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	9.5	1.6	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	やや精良	4/12	
1501	367-1	SD36004	6区	—	土師器 皿	8.7	1.5	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	1.5mm以下の砂粒含	口縁部完存	歪みが大きい。口縁部内外面に油煙付着。
1502	368-1	SD36004	6区	LM12	土師器 皿	8.0	1.4	—	底部外面の一部に弱いヘラケズリ	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	5/12	口縁部内外面に油煙付着。
1503	369-7	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	10.2	1.7	—	ナデ	灰黄褐10YR7/2	やや精良	6/12	焼成不良。底部に焼成後内から外へ穿孔。
1504	365-3	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	8.8	1.4	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	やや精良	2/12	
1505	367-10	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	8.0	1.3	—	外面未調整	橙7.5YR7/6	1.5mm以下の砂粒含	3/12	
1506	337-3	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	10.0	1.6	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/3	精良	3/12	歪みが大きい。
1507	364-11	SD36004	6区	LM13	土師器 皿	11.4	1.6	—	外面ヘラミガキ	橙7.5YR7/6	やや精良	4/12	
1508	372-6	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	8.8	1.2	—	ナデ	浅黄橙7.5YR8/3	微砂粒含	3/12	口縁部内外面に油煙付着。
1509	371-7	SD36004	6区	—	土師器 皿	9.0	1.4	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	1mm以下の砂粒含	4/12	口縁部内外面に油煙付着。
1510	366-8	SD36004	6区	LM12	土師器 皿	9.0	1.3	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	やや精良	2/12	口縁部内外面に油煙付着。
1511	372-4	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	8.7	1.6	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	微砂粒含	7/12	口縁部内外面に油煙付着。
1512	377-4	SD36004	6区	LM13	土師器 皿	9.0	1.3	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	2/12	
1513	367-2	SD36004	6区	LM11	土師器 皿	8.2	1.2	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	1.5mm以下の砂粒含	4/12	
1514	368-6	SD36004	6区	LM12	土師器 皿	8.2	1.5	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	2mm以下の砂粒含	6/12	
1515	372-2	SD36004	6区	—	土師器 皿	7.4	1.3	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の砂粒含	3/12	
1516	364-10	SD36004	6区	LM13	土師器 皿	7.9	1.4	—	外面未調整	橙5YR7/6	やや精良	3/12	
1517	364-8	SD36004	6区	LM13	土師器 皿	8.0	1.2	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	やや精良	4/12	
1518	337-2	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	9.1	—	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	口縁部3/12	
1519	363-1	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	8.8	1.7	—	ナデ	浅黄橙7.5YR7/3	やや精良	3/12	
1520	372-8	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	8.5	1.5	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	10/12	歪みが大きい。
1521	369-5	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	7.9	1.4	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	やや精良	3/12	
1522	363-10	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	7.9	1.5	—	ナデ	浅黄橙7.5YR8/4	やや精良	3/12	
1523	372-5	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	7.4	1.4	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/3	微砂粒含	3/12	内外面に炭化物付着。
1524	377-3	SD36004	6区	LM13	土師器 皿	8.0	1.3	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	9/12	
1525	368-4	SD36004	6区	LM12	土師器 皿	8.1	1.3	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	精良	2/12	口縁部内外面に油煙付着。

第３-27表　出土遺物観察表

番号	実測番号	遺構	調査区	出土位置	器種 器形	法量 (cm) 口径	器高	その他	調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
1526	371-9	SD36004	6区	—	土師器 皿	8.2	1.4	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	1.5mm以下の砂粒含	4/12	
1527	368-5	SD36004	6区	LM12	土師器 皿	8.0	1.5	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	1.5mm以下の砂粒含	5/12	
1528	363-4	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	7.8	1.3	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	やや精良	3/12	口縁部内外面に油煙付着。
1529	370-7	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	8.1	1.6	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	2mm以下の砂粒含	完形	底部外面に爪圧痕多数。
1530	369-6	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	10.0	1.3	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	やや精良	2/12	
1531	367-3	SD36004	6区	LM11	土師器 皿	7.8	1.2	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の砂粒含	4/12	
1532	337-10	SD36004	6区	LM11	土師器 皿	9.2	—	—	外面未調整	橙5YR7/6	精良	口縁部3/12	口縁部内外面に油煙付着。
1533	369-8	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	8.4	1.4	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	やや精良	8/12	
1534	364-6	SD36004	6区	LM13	土師器 皿	7.7	1.2	—	外面未調整	橙5YR7/6	やや精良	2/12	口縁端部内外面に油煙付着。
1535	363-3	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	8.0	1.2	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	4mmの小石含	2/12	口縁部内外面に油煙付着。
1536	364-4	SD36004	6区	LM13	土師器 皿	8.3	1.5	—	ナデ	橙5YR7/6	やや精良	3/12	口縁部内外面に油煙付着。
1537	369-4	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	8.1	1.0	—	ナデ	浅黄橙7.5YR8/3	やや精良	4/12	口縁部内外面に油煙付着。
1538	372-1	SD36004	6区	—	土師器 皿	8.0	1.3	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	微砂粒含	4/12	
1539	366-2	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	8.2	1.4	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	やや精良	10/12	内外面に炭化物付着。
1540	336-11	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	7.9	1.3	—	外面未調整	にぶい橙5YR7/4	精良	8/12	
1541	366-5	SD36004	6区	LL11	土師器 皿	10.2	2.4	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	3mm以下の砂粒含	10/12	
1542	369-1	SD36004	6区	LL11	土師器 椀	9.8	—	—	ナデ	浅黄橙7.5YR8/3	やや精良	口縁部1/12	
1543	376-3	SD36004	6区	LL11	土師器 椀	—	—	高台径 4.3	ナデ	灰白10YR8/2	精良	底部2/12	
1544	368-11	SD36004	6区	LM12	土師器 椀	10.0	—	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	1.5mm以下の砂粒含	口縁部2/12	歪みが大きい。
1545	369-9	SD36004	6区	LL11	土師器 椀	—	—	高台径 4.5	ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	やや精良	底部11/12	歪みが大きい。
1546	373-4	SD36004	6区	LM13	土師器 鍋	24.8	—	—	外面ハケメ	橙7.5YR7/6	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
1547	375-3	SD36004	6区	LM13	土師器 鍋	24.2	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	浅黄橙10YR8/3	2mm以下の砂粒多含	口縁部1/12	外面に煤付着。
1548	375-1	SD36004	6区	LM12	土師器 鍋	24.2	—	—	外面未調整、内面ナデ	浅黄橙7.5YR8/4	精良	口縁部1/12	
1549	376-1	SD36004	6区	LM12	土師器 鍋	22.2	—	—	外面未調整、内面ナデ	浅黄橙7.5YR8/6	精良	口縁部2/12	
1550	375-4	SD36004	6区	LM11	土師器 鍋	17.4	—	—	—	浅黄橙10YR8/3	精良	口縁部1/12	
1551	374-1	SD36004	6区	LM11	土師器 鍋	36.0	—	—	—	浅黄橙10YR8/4	精良	口縁部1/12	外面に煤付着。
1552	374-2	SD36004	6区	LM12	土師器 鍋	36.4	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に煤付着。
1553	374-4	SD36004	6区	LL11	土師器 茶釜	24.6	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	浅黄橙10YR8/4	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
1554	405-1	SD36004	6区	LM13	土師器 茶釜	—	—	体部径 39.0	外面ハケメ、内面工具ナデ	橙5YR7/6	やや精良	体部3/12	
1555	374-3	SD36004	6区	LM12	土師器 茶釜	32.4	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	橙5YR7/6	精良	口縁部1/12	
1556	373-2	SD36004	6区	LL11	土師器 茶釜	33.2	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	浅黄橙7.5YR8/6	精良	口縁部1/12	
1557	404-1	SD36004	6区	LM11	土師器 茶釜	26.2	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	にぶい黄橙10YR7/4	1mm以下の砂粒含	頸部2/12	
1558	373-1	SD36004	6区	LM13	土師器 茶釜	26.4	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	浅黄橙7.5YR8/4	精良	口縁部1/12	
1559	373-3	SD36004	6区	LL11	土師器 茶釜	25.0	—	—	ハケメ	にぶい橙7.5YR7/4	精良	口縁部2/12	
1560	375-2	SD36004	6区	LL11	土師器 茶釜	23.0	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	浅黄橙10YR8/3	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
1561	403-1	SD36004	6区	LL11	土師器 鉢	16.0	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の砂粒含	口縁部4/12	
1562	376-4	SD36004	6区	LL11	土師器 鉢	—	—	高台径 14.4	—	浅黄橙7.5YR8/6	精良	底部3/12	
1563	389-1	SD36004	6区	LL11	土師器 鉢	—	—	高台径 14.8	外面下半ヘラケズリ、内面ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	精良	底部3/12	
1564	398-7	SD36004	6区	LL11	土師器 鉢	—	—	高台径 14.0	—	淡橙5YR8/4	やや精良	底部1/12	高台外面に板状工具の圧痕。
1565	376-5	SD36004	6区	LM12	土師器 十能	—	—	把手径 3.3	—	浅黄橙7.5YR8/6	精良	把手6/12	
1566	383-6	SD36004	6区	LL11	施釉陶器 天目茶椀	11.6	—	—	体部下半ロクロケズリ	灰白5Y8/1	微砂粒含	口縁部3/12	体部下半に錆釉。
1567	384-5	SD36004	6区	LN12	施釉陶器 天目茶椀	11.8	—	—	体部下半ロクロケズリ	灰白2.5Y8/2	微砂粒含	口縁部3/12	体部下半に錆釉。
1568	384-6	SD36004	6区	LM12	施釉陶器 天目茶椀	12.0	6.2	高台径 4.5	体部下半ロクロケズリ	にぶい黄橙10YR7/3	微砂粒含	1/12	体部下半に錆釉。
1569	384-1	SD36004	6区	LL11	施釉陶器 天目茶椀	12.0	—	—	体部下半ロクロケズリ	灰白2.5Y8/2	微砂粒含	口縁部1/12	体部下半に錆釉。
1570	384-7	SD36004	6区	LM12	施釉陶器 椀	12.0	—	—	—	灰白2.5Y7/1	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	灰釉。古瀬戸。
1571	389-2	SD36004	6区	LL11	施釉陶器 椀	16.2	6.1	高台径 5.4	ロクロナデ	灰白2.5Y8/1	精良	底部11/12	灰釉。古瀬戸。
1572	385-3	SD36004	6区	LM13	施釉陶器 皿	10.8	2.5	高台径 6.4	—	灰白2.5Y8/2	2mm以下の砂粒含	底部3/12	内面に菊花文。
1573	383-5	SD36004	6区	LL11	施釉陶器 皿	—	—	底径 6.4	ロクロナデ	浅黄2.5Y7/3	1mm以下の砂粒含	底部2/12	灰釉。古瀬戸。
1574	387-6	SD36004	6区	LM13	陶器 壺	15.2	—	—	ロクロナデ	にぶい橙2.5YR6/3	4mm以下の砂粒多含	口縁部3/12	信楽。口縁部に沈線1条。
1575	387-5	SD36004	6区	LM13	陶器 壺	—	—	底径 9.0	ロクロナデ	にぶい黄橙10YR7/2	2mm以下の砂粒含	底部3/12	常滑。
1576	383-2	SD36004	6区	LL11	施釉陶器 鉢	37.7	—	—	ロクロナデ	浅黄2.5Y7/3	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	灰釉。古瀬戸。
1577	384-8	SD36004	6区	LM12	施釉陶器 鉢	—	—	—	—	灰黄2.5Y7/2	1mm以下の砂粒含	小片	灰釉。古瀬戸。
1578	385-1	SD36004	6区	LM13	施釉陶器 鉢	34.0	—	—	体部下半ロクロケズリ	灰黄2.5Y7/2	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	灰釉。古瀬戸。焼成やや不良。
1579	383-3	SD36004	6区	LL11	施釉陶器 皿	—	—	底径 14.8	ロクロナデ	灰黄2.5Y7/2	4mm以下の砂粒含	底部3/12	灰釉。古瀬戸。
1580	393-1	SD36004	6区	LL11	陶器 壺	23.7	22.0	底径 19.7	工具ナデ	にぶい赤褐5YR5/4	3mm以下の砂粒含	底部完存	常滑。
1581	388-1	SD36004	6区	LL11	陶器 壺	26.4	—	—	外面工具ナデ、内面荒いナデ	にぶい赤褐5YR5/4	3mm以下の砂粒含	底部完存	常滑。
1582	386-2	SD36004	6区	LM12	陶器 甕	40.8	—	—	内面未調整	暗褐7.5YR3/4	3mm以下の砂粒多含	口縁部1/12以下	常滑。
1583	386-1	SD36004	6区	LL11	陶器 甕	44.4	—	—	ロクロナデ	暗赤褐5YR3/3	3mm以下の砂粒含	口縁部1/12以下	常滑。

第３-28表　出土遺物観察表

番号	実測番号	遺構	調査区	出土位置	器種器形	法量(cm) 口径	器高	その他	調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
1584	387-1	SD36004	6区	LL11	陶器甕	46.6	—	—	ロクロナデ	暗褐7.5YR3/3	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12以下	常滑。
1585	392-1	SD36004	6区	LL11	陶器甕	38.9	—	—	内面未調整	灰褐7.5YR5/2	4mm以下の砂粒含	口縁部1/12以下	常滑。
1586	387-3	SD36004	6区	LL11	陶器甕	—	—	—	—	暗赤褐2.5YR3/3	3mm以下の砂粒含	小片	常滑。
1587	387-4	SD36004	6区	LM12	陶器甕	—	—	底径12.7	—	灰褐7.5YR5/2	5mm以下の小石粒含	底部1/12	常滑。
1588	387-2	SD36004	6区	LM12	陶器甕	—	—	底径20.4	—	にぶい褐7.5YR5/3	5mm以下の小石粒多含	底部1/12	常滑。
1589	384-3	SD36004	6区	LL11	白磁皿	10.9	—	—	—	灰白2.5Y7/1	微砂粒含	口縁部2/12	口縁端部を8弁に変形。
1590	384-4	SD36004	6区	LL11	青磁椀	—	—	—	—	灰白10YR7/1	微砂粒含	小片	龍泉。
1591	383-4	SD36004	6区	LL11	青磁壺	—	—	高台径7.0	—	灰白5Y8/1	微砂粒含	底部3/12	体部下端に平行線状の縦沈線。
1592	375-5	SD36004	6区	LM11	加工円盤	4.8	厚1.2	重50g	ナデ	浅黄橙10YR8/4	精良	完形	陶器甕の底部を加工。
1593	385-2	SD36004	6区	LM13	施釉陶器小椀	10.0	—	—	—	白N9/	微砂粒含	口縁部1/12	陶体染付。
1594	384-2	SD36004	6区	LL11	磁器小椀	10.0	—	—	—	白N9/	精良	口縁部1/12	染付。瀬戸。
1595	388-3	SD36004	6区	LM12	山茶椀椀	—	—	高台径7.0	ロクロナデ	灰白2.5Y8/2	精良	底部完存	内面平滑・墨痕。
1596	388-5	SD36004	6区	LL10	山茶椀椀	—	—	高台径7.0	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	3mm以下の砂粒含	底部3/12	内面平滑・墨痕。
1597	388-7	SD36004	6区	—	山茶椀椀	—	—	高台径7.3	ロクロナデ	灰白5Y8/1	1mm以下の砂粒含	底部4/12	内面平滑。
1598	388-4	SD36004	6区	LM11	灰釉陶器椀椀	—	—	高台径6.7	底部外面未調整	灰白2.5Y7/1	精良	底部4/12	灰釉刷毛塗。底部外面に記号「｜」。
1599	411-1	SD36004	6区	LM12	土製品磚	—	—	厚3.4	—	灰N6/	精良	小片	瓦質焼成。
1600	389-3	SD36004	6区	LL11	土製品磚	—	—	厚3.9	工具ナデ	灰N5/	精良	小片	瓦質焼成。
1601	390-1	SD36004	6区	LL11	土製品磚	—	—	厚3.7	ヘラケズリ	灰N4/	精良	4/12以下	瓦質焼成。
1602	410-1	SD36004	6区	LL11	土製品磚	—	—	厚3.6	ヘラケズリ	灰5Y6/1	3mm以下の砂粒含	小片	瓦質焼成。
1603	410-2	SD36004	6区	LL11	土製品磚	—	—	厚4.0	ヘラケズリ	灰N5/	精良	小片	
1604	391-2	SD36004	6区	LL11	土製品磚	—	—	厚3.7	ヘラケズリ、工具ナデ	灰N4/	精良	小片	瓦質焼成。
1605	391-1	SD36004	6区	LL11	土製品磚	—	—	厚3.7	ヘラケズリ、工具ナデ	灰N4/	精良	小片	瓦質焼成。
1606	388-2	SD36004	6区	LL11	石臼	—	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/2	砂岩	1/12以下	使用痕あり。
1607	29-4	SD38017	8区②	NA5	土師器蓋	13.6	—	—	ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	外面に煤付着。
1608	24-8	SD38017	8区②	NA6	土師器皿	8.8	1.7	—	外面工具ナデ	灰白10YR8/2	精良	10/12	
1609	27-1	SD38017	8区②	NA5	土師器皿	9.0	1.5	—	ナデ	浅黄橙10YR8/3	微砂粒含	2/12	
1610	28-11	SD38017	8区②	NA6	土師器皿	8.8	1.3	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/3	微砂粒含	3/12	歪みが大きい。
1611	25-2	SD38017	8区②	NA6	土師器皿	8.2	1.6	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	精良	4/12	
1612	28-10	SD38017	8区②	NA6	土師器皿	6.0	1.7	—	外面未調整	灰白10YR8/2	微砂粒含	4/12	
1613	27-9	SD38017	8区②	NA5	土師器皿	6.1	1.4	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	微砂粒含	5/12	
1614	27-5	SD38017	8区②	NA5	土師器皿	6.3	1.7	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	微砂粒含	3/12	口縁部に油煙付着。
1615	28-9	SD38017	8区②	NA6	土師器皿	7.0	—	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	微砂粒含	3/12	
1616	24-7	SD38017	8区②	NA6	土師器皿	6.5	1.3	—	—	浅黄橙10YR8/3	精良	8/12	摩滅のため調整不明。
1617	27-3	SD38017	8区②	NA6	土師器皿	6.2	1.3	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	微砂粒含	5/12	
1618	28-5	SD38017	8区②	NA5	土師器皿	6.0	1.5	—	外面未調整	褐灰7.5YR5/1	微砂粒含	3/12	
1619	27-8	SD38017	8区②	NA5	土師器皿	6.0	1.4	—	外面未調整	灰黄褐10YR6/2	微砂粒含	9/12	内面に炭化物付着。
1620	27-7	SD38017	8区②	NA5	土師器皿	6.6	1.5	—	外面未調整	褐灰10YR4/1	微砂粒含	4/12	
1621	28-1	SD38017	8区②	NA5	土師器皿	6.0	1.2	—	外面未調整	灰白10YR8/2	微砂粒含	9/12	
1622	27-12	SD38017	8区②	NA5	土師器皿	6.0	1.1	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/2	微砂粒含	5/12	
1623	25-3	SD38017	8区②	NA8	土師器皿	6.0	1.2	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/2	精良	6/12	口縁部に油煙付着。
1624	27-4	SD38017	8区②	NA5	土師器皿	6.1	1.1	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/3	微砂粒含	8/12	
1625	28-3	SD38017	8区②	NA5	土師器皿	6.0	1.2	—	外面未調整	灰白10YR8/2	微砂粒含	8/12	
1626	25-5	SD38017	8区②	NA6	土師器皿	6.9	1.2	—	外面未調整	淡橙5YR8/4	精良	5/12	口縁部に油煙付着。
1627	27-6	SD38017	8区②	NA5	土師器皿	5.9	1.2	—	外面未調整	褐灰7.5YR6/1	微砂粒含	10/12	
1628	28-7	SD38017	8区②	NA5	土師器皿	6.0	0.9	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	微砂粒含	4/12	
1629	27-2	SD38017	8区②	NA6	土師器皿	6.3	1.3	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	微砂粒含	5/12	
1630	28-8	SD38017	8区②	NA5	土師器皿	6.0	1.3	—	外面未調整	灰白10YR8/2	微砂粒含	ほぼ完形	底部に穿孔。底部外面に板状圧痕。
1631	28-4	SD38017	8区②	NA5	土師器皿	8.0	1.2	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	微砂粒含	8/12	底部に穿孔。
1632	28-6	SD38017	8区②	NA6	土師器皿	8.4	1.2	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	3/12	
1633	28-12	SD38017	8区②	NA6	土師器皿	8.5	—	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	微砂粒含	4/12	
1634	27-10	SD38017	8区②	NA5	土師器皿	8.4	1.5	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	微砂粒含	4/12	
1635	27-11	SD38017	8区②	NA5	土師器皿	8.4	1.5	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	微砂粒含	4/12	
1636	28-2	SD38017	8区②	NA5	土師器皿	8.0	1.5	—	外面未調整	褐灰10YR5/1	微砂粒含	5/12	
1637	25-6	SD38017	8区②	NA6	土師器椀	—	—	高台径4.7	ナデ	浅黄橙7.5YR8/3	精良	底部完存	
1638	29-1	SD38017	8区②	NA5	土師器鍋	24.0	—	—	体部下半ヘラケズリ	にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の砂粒含	口縁部4/12	
1639	29-2	SD38017	8区②	NA5	土師器鍋	22.0	—	—	体部下半ヘラケズリ	にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の砂粒含	口縁部4/12	
1640	29-3	SD38017	8区②	NA5	土師器鍋	21.0	—	—	体部下半ヘラケズリ	にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の砂粒含	口縁部6/12	口縁部内面から外面全面に煤付着。
1641	36-6	SD38017	8区②	NA6	土師器鍋	18.0	—	—	体部下半ヘラケズリ	灰白10YR8/2	3.5mm以下の砂粒含	口縁部1/12	

第３-29表　出土遺物観察表

番号	実測番号	遺構	調査区	出土位置	器種 器形	法量 (cm) 口径	器高	その他	調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
1642	30-2	SD38017	8区②	NA6	土師器鍋	19.0	—	—	体部下半ヘラケズリ	にぶい黄橙10YR7/3	1.5㎜以下の砂粒含	口縁部4/12	外面に煤付着。
1643	30-3	SD38017	8区②	NA6	土師器鍋	24.8	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	浅黄2.5Y7/3	1㎜以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に煤付着。
1644	30-4	SD38017	8区②	NA6	土師器鍋	29.8	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1㎜以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に煤付着。
1645	31-2	SD38017	8区②	NA6	土師器鍋	35.0	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	1㎜以下の砂粒含	頸部3/12	外面に煤付着。
1646	31-1	SD38017	8区②	NA6	土師器鍋	37.0	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	橙7.5YR6/6	1.5㎜以下の砂粒含	口縁部2/12	外面に煤厚く付着。
1647	30-1	SD38017	8区②	NA5	土師器焙烙	24.0	—	—	外面ヘラケズリ、内面工具ナデ	灰黄褐10YR6/2	1㎜以下の砂粒含	口縁部4/12	外面に煤付着。体部上部に注口。
1648	31-3	SD38017	8区②	NA8	土師器茶釜	26.8	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	にぶい黄橙10YR7/4	1㎜以下の砂粒含	口縁部2/12	
1649	35-7	SD38017	8区②	NA5	土師器茶釜	—	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	橙2.5YR6/6	1㎜以下の砂粒含	小片	
1650	32-1	SD38017	8区②	NA6	土師器茶釜	13.6	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	にぶい黄橙10YR8/2	1㎜以下の砂粒含	口縁部9/12	体部下半に煤厚く付着。
1651	34-1	SD38017	8区②	NA5	土師器茶釜	33.2	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	5㎜以下の小石含	口縁部2/12	
1652	33-1	SD38017	8区②	NA5 NA6	土師器茶釜	29.4	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	6㎜以下の小石含	口縁部3/12	
1653	29-5	SD38017	8区②	NA5	土師器十能	—	—	把手径3.2	ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1㎜以下の砂粒含	把手6/12	
1654	29-6	SD38017	8区②	NA6	土師器十能	—	—	把手径3.9	ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1.5㎜以下の砂粒含	把手6/12	
1655	25-1	SD38017	8区②	NA5	施釉陶器天目茶椀	12.4	6.5	高台径4.4	体部下半ロクロケズリ	灰赤2.5YR4/2	精良	ほぼ完形	
1656	36-7	SD38017	8区②	NA5	青磁椀	—	—	—	—	灰白5Y7/1	精良	小片	外面に連弁文。
1657	37-1	SD38017	8区②	NA6	山茶椀椀	—	—	高台径7.5	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	精良	底部1/12	高台に棒状圧痕。
1658	35-5	SD38017	8区②	NA6	山茶椀椀	—	—	高台径6.6	ロクロナデ	灰白10Y8/1	3.5㎜以下の砂粒含	底部5/12	
1659	37-2	SD38017	8区②	NA7	山茶椀椀	—	—	底径5.5	—	灰白N7/	2㎜以下の砂粒含	底部7/12	
1660	37-4	SD38017	8区②	NA6	加工円盤	7.1	厚1.8	重72g	ハケメ、ナデ	橙5YR7/6	精良	完形	陶器甕体部を加工。
1661	37-7	SD38017	8区②	NA3	石製品砥石	残幅4.4	残長4.3	厚4.2	—	灰白5Y8/	砂岩	—	残重120g。
1662	139-6	SD38042	8区③	—	土師器蓋	13.3	2.1	—	外面未調整、内面ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	精良	5/12	
1663	149-6	SD38042上層	8区③	—	土師器皿	9.0	—	—	外面未調整	灰白10YR8/2	微砂粒含	口縁部3/12	
1664	153-4	SD38042上層	8区③	KV24	土師器皿	6.4	1.8	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	3/12	
1665	137-7	SD38042	8区③	—	土師器皿	8.1	1.4	—	外面未調整	淡橙5YR8/4	精良	3/12	
1666	153-1	SD38042	8区③	KV24	土師器皿	7.8	1.3	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	5/12	
1667	137-1	SD38042	8区③	—	土師器皿	6.4	1.3	—	外面未調整	橙5YR6/8	2㎜の砂粒含	11/12	
1668	153-7	SD38042	8区③	KV24	土師器皿	5.8	1.3	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	精良	8/12	
1669	137-5	SD38042	8区③	—	土師器皿	5.6	1.1	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	精良	4/12	
1670	137-2	SD38042	8区③	—	土師器皿	6.2	1.3	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	精良	完形	
1671	135-5	SD38042	8区	KY23	土師器皿	8.2	1.2	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	3/12	
1672	137-6	SD38042	8区③	—	土師器皿	6.7	1.3	—	外面未調整	明褐灰7.5YR7/2	精良	9/12	
1673	137-3	SD38042	8区③	—	土師器皿	6.2	1.2	—	外面未調整	灰白10YR7/2	精良	7/12	
1674	137-4	SD38042	8区③	—	土師器皿	6.9	1.4	—	外面未調整	橙5YR6/6	精良	5/12	焼成不良。
1675	153-6	SD38042	8区③	KV24	土師器皿	6.6	1.4	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	精良	4/12	
1676	145-2	SD38042最下層	8区③	KV24	土師器皿	13.6	2.1	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/3	1.5㎜以下の砂粒含	2/12	
1677	149-5	SD38042上層	8区③	—	土師器皿	8.3	1.3	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	微砂粒含	ほぼ完形	
1678	139-4	SD38042	8区③	—	土師器皿	11.0	1.7	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	精良	5/12	
1679	139-1	SD38042	8区③	—	土師器皿	12.0	—	—	—	橙5YR6/8	精良	口縁部2/12	摩滅のため調整不明。
1680	139-5	SD38042	8区③	—	土師器皿	10.4	2.2	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/3	精良	5/12	口縁端部に圧痕。
1681	139-3	SD38042	8区③	—	土師器皿	10.2	1.9	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	1.5㎜の砂粒含	8/12	
1682	135-7	SD38042	8区③	—	土師器皿	10.9	—	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	精良	口縁部2/12	
1683	135-6	SD38042	8区③	—	土師器皿	8.2	1.5	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	精良	3/12	
1684	139-2	SD38042	8区③	—	土師器皿	10.0	1.6	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/2	精良	4/12	
1685	137-8	SD38042	8区③	—	土師器皿	10.0	1.6	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	精良	5/12	
1686	153-5	SD38042	8区③	KV24	土師器皿	9.0	1.2	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	精良	4/12	
1687	152-3	SD38042	8区③	KV24	土師器皿	11.0	1.6	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	2/12	
1688	138-2	SD38042	8区③	—	土師器椀	8.9	4.0	高台径4.0	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	9/12	
1689	138-3	SD38042	8区③	—	土師器椀	8.6	—	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	精良	5/12	
1690	138-1	SD38042	8区③	—	土師器椀	8.6	—	—	外面未調整	淡橙5YR8/3	1㎜の砂粒含	10/12	
1691	140-4	SD38042	8区③	—	土師器椀	8.8	—	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/2	微砂粒含	3/12	
1692	151-5	SD38042	8区③	KV24	土師器椀	—	—	高台径5.2	—	灰白2.5Y8/2	精良	底部3/12	
1693	138-5	SD38042	8区③	—	土師器椀	—	—	高台径4.3	—	橙5YR7/6	精良	底部完存	
1694	138-6	SD38042	8区③	—	土師器椀	—	—	高台径4.4	—	灰白10YR8/2	精良	底部完存	
1695	138-4	SD38042	8区③	—	土師器椀	—	—	高台径4.2	—	浅黄橙7.5YR8/3	精良	底部完存	
1696	134-4	SD38042	8区③	KV24	土師器壺	—	—	底径9.4	—	浅黄橙10YR8/3	精良	底部完存	底部に付着物あり。
1697	133-2	SD38042	8区③	—	土師器鍋	18.0	—	—	外面未調整、内面工具ナデ	にぶい橙10YR7/3	精良	口縁部3/12	
1698	144-1	SD38042	8区③	—	土師器鍋	20.4	—	—	外面未調整、内面工具ナデ	にぶい橙5YR6/4	1㎜以下の砂粒含	口縁部4/12	外面に煤付着。
1699	144-3	SD38042最下層	8区③	KV24	土師器鍋	23.0	—	—	外面未調整、内面工具ナデ	灰白10YR8/2	1.5㎜以下の砂粒含	口縁部2/12	

第３-30表　出土遺物観察表

番号	実測番号	遺構	調査区	出土位置	器種器形	法量(cm) 口径	器高	その他	調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
1700	140-3	SD38042	8区③	—	土師器鍋	19.2	—	—	外面ヘラケズリ、内面工具ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	微砂粒含	口縁部3/12	
1701	142-2	SD38042	8区③	—	土師器鍋	20.8	—	—	外面未調整、内面工具ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	1.5mm以下の砂粒含	口縁部3/12	外面に煤若干付着。
1702	145-1	SD38042最下層	8区③	KV24	土師器鍋	21.4	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	にぶい黄橙10YR7/4	1.5mm以下の砂粒含	口縁部2/12	外面に煤付着。
1703	142-4	SD38042	8区③	—	土師器鍋	22.8	—	—	外面未調整、内面工具ナデ	にぶい黄橙10YR7/2	1.5mm以下の砂粒含	口縁部3/12	外面に煤付着。
1704	149-4	SD38042	8区③	KV24	土師器鍋	24.0	—	—	外面未調整、内面工具ナデ	灰白10YR8/2	精良	口縁部1/12	
1705	399-3	SD38042	8区③	—	土師器鍋	23.2	—	—	外面ナデ、内面工具ナデ	灰白10YR8/2	やや精良	口縁部1/12	外面に煤付着。
1706	144-2	SD38042	8区③	—	土師器鍋	23.4	—	—	外面未調整、内面工具ナデ	にぶい黄橙10YR6/3	1mm以下の砂粒含	頸部2/12	外面に煤付着。
1707	143-2	SD38042	8区③	—	土師器鍋	23.9	—	—	外面未調整、内面工具ナデ	灰黄2.5Y7/2	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	外面に煤付着。
1708	140-2	SD38042	8区③	KX25	土師器鍋	21.6	—	—	外面工具ナデ、内面ハケメ	にぶい橙7.5YR7/4	微砂粒含	口縁部11/12	
1709	147-1	SD38042	8区③	—	土師器鍋	26.5	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	灰N5/	精良	口縁部4/12	内外面に炭化物付着。
1710	144-4	SD38042最下層	8区③	KV24	土師器鍋	29.8	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1.5mm以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に炭化物付着。
1711	133-1	SD38042最下層	8区③	KV24	土師器鍋	21.4	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	精良	口縁部3/12	底部内面に炭化物付着。
1712	133-3	SD38042	8区	MA23	土師器鍋	—	—	—	ハケメ	にぶい橙7.5YR6/4	精良	小片	
1713	143-1	SD38042	8区③	—	土師器鍋	27.2	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	にぶい黄橙10YR7/2	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に煤若干付着。
1714	147-2	SD38042	8区③	—	土師器鍋	28.4	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	灰褐7.5YR6/2	精良	口縁部2/12	内外面に煤若干付着。
1715	143-4	SD38042	8区③	—	土師器鍋	25.2	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	にぶい橙7.5YR6/4	1mm以下の砂粒含	口縁部3/12	
1716	140-1	SD38042	8区③	—	土師器鍋	27.7	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	微砂粒含	口縁部9/12	
1717	149-3	SD38042	8区③	KV24	土師器鍋	29.7	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	にぶい橙7.5YR7/3	微砂粒含	口縁部2/12	
1718	141-2	SD38042	8区③	—	土師器鍋	30.9	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	微砂粒含	口縁部1/12	
1719	150-2	SD38042	8区③	KV24	土師器鍋	32.8	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	浅黄橙7.5YR8/4	微砂粒含	口縁部2/12	
1720	150-3	SD38042	8区	KV24	土師器鍋	32.4	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	灰白10YR8/2	微砂粒含	口縁部1/12	
1721	150-1	SD38042	8区③	KV24	土師器鍋	36.2	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	にぶい褐7.5YR6/3	微砂粒含	口縁部2/12	外面に煤若干付着。
1722	146-1	SD38042	8区③	—	土師器鍋	37.8	13.5	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	浅黄橙10YR8/3	精良	口縁部4/12	
1723	142-1	SD38042	8区③	—	土師器鍋	38.4	—	—	外面未調整、内面工具ナデ	にぶい黄橙10YR6/4	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に煤付着。
1724	146-2	SD38042上層	8区③	—	土師器鍋	47.0	—	—	ハケメ	にぶい黄橙10YR7/3	精良	口縁部1/12	外面に煤付着。
1725	149-1	SD38042	8区③	KV24	土師器茶釜	13.2	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	微砂粒含	口縁部7/12	
1726	142-3	SD38042	8区③	—	土師器茶釜	14.0	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	1.5mm以下の砂粒含	口縁部3/12	
1727	149-2	SD38042	8区③	KV24	土師器茶釜	10.0	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	にぶい黄橙10YR7/2	微砂粒含	口縁部3/12	口縁部に片口。
1728	143-3	SD38042	8区③	—	土師器焙烙	25.1	—	—	外面未調整、内面ナデ	にぶい橙10YR7/2	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
1729	151-4	SD38042	8区③	KV24	土師器羽釜	—	—	—	—	浅黄橙10YR8/3	精良	小片	
1730	136-3	SD38042	8区③	—	施釉陶器天目茶椀	11.9	—	—	体部外面下半ロクロケズリ	灰7.5Y5/1	精良	口縁部1/12	
1731	145-3	SD38042	8区③	KW22	施釉陶器天目茶椀	—	—	高台径4.6	底部外面ロクロケズリ	灰白10YR8/2	微砂粒含	底部7/12	
1732	136-1	SD38042	8区③	—	施釉陶器皿	11.6	2.6	高台径6.8	ロクロナデ	灰白2.5Y8/1	精良	5/12	灰釉。菊花文。
1733	136-2	SD38042	8区	KY23	陶器壺	—	—	—	工具ナデ	灰N6/	精良	小片	常滑。
1734	141-3	SD38042	8区	—	陶器鉢	—	—	高台径11.4	体部外面下半ロクロケズリ	灰白2.5Y7/1	微砂粒含	底部2/12	内面平滑。
1735	148-3	SD38042	8区	MB23	陶器擂鉢	38.4	—	—	ロクロナデ	にぶい赤褐5YR4/3	微砂粒含	口縁部1/12	瀬戸。
1736	152-1	SD38042	8区③	KV24	陶器擂鉢	—	—	底径9.8	ロクロナデ	灰白2.5Y8/2	精良	底部5/12	
1737	141-1	SD38042	8区③	KW22	陶器鉢	28.8	—	—	外面未調整、内面ナデ	にぶい橙2.5YR7/6	3mm以下の砂粒含	口縁部5/12	常滑。体部内面に記号「×」。
1738	148-4	SD38042	8区③	KY23	陶器鉢	—	—	底径14.0	ロクロナデ	褐灰5YR4/1	2mm以下の砂粒含	底部2/12	
1739	148-1	SD38042	8区	MA24	陶器甕	—	—	—	ロクロナデ	灰赤10YR5/2	微砂粒含	小片	常滑。
1740	148-2	SD38042	8区②	MB23	陶器甕	—	—	—	ロクロナデ	褐灰10YR5/1	1.5mm以下の砂粒含	小片	常滑。
1741	141-4	SD38042	8区③	—	灰釉陶器椀	—	—	高台径7.5	ロクロナデ	灰白2.5Y8/1	微砂粒含	底部3/12	内面平滑。
1742	145-4	SD38042	8区②	MC23	石製品砥石	幅3.7	残長9.8	厚1.3	—	灰N6/	頁岩	3/12以下	
1743	324-7	SD36007	6区	LM10	土師器皿	9.8	2.6	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	2mm以下の砂粒含	4/12	
1744	322-3	SD36007	6区	LM10	土師器皿	9.5	3.6	—	ナデ	灰白2.5Y8/2	精良	2/12	
1745	327-1	SD36007	6区	LM10	土師器皿	9.4	2.6	—	外面未調整	灰白10YR8/2	2mm以下の砂粒含	8/12	
1746	331-7	SD36007	6区	LM10	土師器皿	10.2	2.1	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	微砂粒含	3/12	
1747	331-8	SD36007	6区	LM10	土師器皿	9.5	—	—	ナデ	灰白2.5Y8/2	2mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
1748	327-2	SD36007	6区	LM10	土師器皿	9.5	2.5	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1.5mm以下の砂粒含	2/12	
1749	327-7	SD36007	6区	—	土師器皿	7.8	1.4	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の砂粒含	口縁部4/12	
1750	329-12	SD36007	6区	LM10	土師器皿	7.4	1.2	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	7/12	
1751	324-8	SD36007	6区	LM10	土師器皿	6.8	0.9	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	2/12	
1752	327-11	SD36007	6区	—	土師器皿	9.0	—	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/4	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
1753	327-9	SD36007	6区	—	土師器皿	8.3	—	—	外面未調整	橙5YR6/6	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
1754	327-3	SD36007	6区	LM10	土師器皿	7.8	1.0	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1.5mm以下の砂粒含	2/12	
1755	327-6	SD36007	6区	—	土師器皿	10.5	1.7	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の砂粒含	2/12	
1756	327-8	SD36007	6区	—	土師器皿	10.5	1.6	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/4	1mm以下の砂粒含	2/12	
1757	327-10	SD36007	6区	—	土師器皿	8.8	1.5	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の砂粒含	2/12	焼成不良。

第３-31表　出土遺物観察表

番号	実測番号	遺構	調査区	出土位置	器種 器形	法量 (cm) 口径	器高	その他	調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
1758	327-4	SD36007	6区	LM10	土師器 皿	8.8	1.4	—	外面未調整	橙5YR6/6	1mm以下の砂粒含	2/12	
1759	327-5	SD36007	6区	LM10	土師器 皿	16.8	2.1	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	1/12	
1760	324-6	SD36007	6区	LM10	土師器 皿	15.0	—	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	2mm以下の砂粒含	2/12	
1761	321-1	SD36007	6区	LM10	土師器 鍋	24.5	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の砂粒含	頸部2/12	外面に煤付着。
1762	326-1	SD36007	6区	LM10	土師器 鍋	34.8	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
1763	320-3	SD36007	6区	LM10	土師器 鍋	23.8	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/2	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	外面に煤付着。
1764	323-1	SD36007	6区	—	土師器 茶釜	31.6	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	橙7.5YR7/6	微砂粒含	口縁部2/12	
1765	322-5	SD36007	6区	—	土師器 十能	—	—	把手径 3.4	—	浅黄橙10YR8/3	精良	把手完存	
1766	322-1	SD36007	6区	—	施釉陶器 皿	—	—	高台径 8.5	ロクロナデ	灰白5Y8/2	4mm以下の砂粒含	6/12	灰釉。見込みに多重圏線。
1767	409-4	SD36007	6区	—	弥生～土師器 蓋	—	3.8	—	ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	精良	天井部6/12	
1768	322-2	SD36007	6区	LM10	山茶椀 椀	—	—	高台径 6.8	ロクロナデ	灰白5Y7/1	微砂粒含	底部完存	砂痕。
1769	322-4	SD36007	6区	—	平瓦	—	—	—	ナデ	明黄褐10YR7/6	3mm以下の砂粒含	1/12以下	
1770	1001-4	SD36007	6区	—	鉄製品 釘	幅 0.4	残長 5.9	—	—	—	—	6/12以下	
1771	336-6	SD36003	6区	LO12	土師器 鍋	21.8	—	—	—	灰白2.5Y8/2	微砂粒含	口縁部2/12	外面に煤付着。
1772	409-5	SD36003	6区	LO12	土製品 磚	残幅 7.2	残長 7.5	残厚 3.8	—	橙7.5YR7/1	3mm以下の砂粒含	小片	剥離面疑口縁。
1773	336-2	SD36003	6区	LN14	山茶椀 椀	—	—	高台径 6.0	—	灰白2.5Y7/1	微砂粒含	底部6/12	
1774	1001-5	SD36003	6区	LO12	鉄製品 釘	幅 0.4	残長 5.2	—	—	—	—	6/12以下	
1775	263-4	SD37011	7区	—	土師器 鍋	25.6	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/3	3mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
1776	263-2	SD37011	7区	—	土師器 鍋	31.4	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に煤付着。
1777	264-2	SD37011	7区	—	土師器 鍋	31.4	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	にぶい黄橙10YR7/2	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	外面に煤付着。
1778	264-1	SD37011	7区	—	土師器 鍋	20.9	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	にぶい黄橙10YR7/4	1.5mm以下の砂粒含	口縁部2/12	外面に煤付着。
1779	264-3	SD37011	7区	—	瓦質土器 火舎	—	—	—	工具ナデ	灰N4/	1mm以下の砂粒含	小片	外面に突線。
1780	1065-3	SD37011	7区	—	木製品 杭	6.8	残長 69.8	—	—	—	—	9/12以下	腐食が激しい。
1781	152-5	SD38043	8区③	KV24	土師器 皿	10.8	2.2	—	ナデ	浅黄橙10YR8/3	精良	2/12	
1782	152-4	SD38043	8区③	KV24	土師器 皿	11.2	—	—	ナデ	灰白10YR8/2	精良	4/12	
1783	153-3	SD38043	8区③	KV24	土師器 皿	7.2	1.3	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	精良	5/12	
1784	153-8	SD38043	8区③	KV24	土師器 皿	8.0	1.0	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	2/12	摩滅のため調整不明確。
1785	152-6	SD38043	8区③	KV24	土師器 皿	8.3	2.0	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	9/12	
1786	153-2	SD38043	8区③	KV24	土師器 皿	8.0	1.5	—	外面未調整	橙5YR7/6	精良	11/12	
1787	152-2	SD38043	8区③	KV24	土師器 皿	10.9	2.2	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	精良	11/12	
1788	155-2	SD38043	8区③	KV24	土師器 鍋	27.8	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に煤付着。
1789	151-2	SD38043	8区③	KV24	土師器 鍋	25.8	—	—	ハケメ	浅黄橙7.5YR8/4	精良	口縁部4/12	
1790	151-3	SD38043	8区③	KV24	土師器 鍋	23.4	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	浅黄橙7.5YR8/4	精良	口縁部1/12	外面に煤付着。
1791	155-1	SD38043	8区③	KV24	土師器 鍋	26.0	—	—	外面未調整、内面工具ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	1.5mm以下の砂粒含	ほぼ完形	外面に煤付着。
1792	151-1	SD38043	8区③	KV24	土師器 鍋	31.6	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	灰白10YR8/2	精良	口縁部4/12	外面から口縁部内に煤付着。
1793	154-2	SD38043	8区③	KV24	土師器 鍋	40.2	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	にぶい黄橙10YR7/4	1.5mm以下の砂粒含	口縁部6/12	外面に煤付着。内面に炭化物付着。
1794	154-1	SD38043	8区③	KV24	土師器 鍋	38.0	—	—	外面ナデ、内面工具ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	1.5mm以下の砂粒含	口縁部7/12	外面に煤付着。
1795	157-1	SD38043	8区③	—	土師器 羽釜	31.0	—	—	—	灰白10YR8/2	精良	口縁部1/12	
1796	156-1	SD38043	8区③	—	瓦質土器 風炉	38.4	—	—	ナデ	灰5Y4/1	2.5mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
1797	156-3	SD38043	8区③	KY24	施釉陶器 天目茶椀	—	—	高台径 3.6	体部下半ロクロケズリ	灰白5Y8/1	2mm以下の砂粒含	底部完存	底部外面露胎。
1798	156-2	SD38043	8区③	KY24	施釉陶器 鉢	25.5	—	—	体部下半ロクロケズリ	灰黄2.5Y7/2	微砂粒含	口縁部2/12	灰釉。
1799	157-3	SD38043	8区③	—	陶器 鉢	—	—	—	ロクロナデ	灰赤2.5YR4/2	精良	小片	
1800	156-4	SD38043	8区③	KY24	陶器 壺	16.8	—	—	ロクロナデ	灰N4/	1.5mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
1801	157-2	SD38043	8区③	—	陶器 壺	19.8	—	—	工具ナデ	淡橙5YR8/4	2mm以下の砂粒含	底部2/12	
1802	181-3	SD38080	8区③	LF3	土師器 皿	8.9	1.5	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/3	精良	1/12	
1803	180-4	SD38080	8区③	LF3	土師器 皿	8.7	1.6	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	完形	歪みが大きい。
1804	180-3	SD38080	8区③	LF2	土師器 皿	8.4	1.4	—	外面未調整	橙5YR7/6	1mm以下の砂粒含	8/12	
1805	181-6	SD38080	8区③	LF3	土師器 皿	9.2	1.4	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	5/12	
1806	182-5	SD38080	8区③	LF3	土師器 皿	6.8	1.6	—	外面未調整	灰白10YR8/2	8mm以下の砂粒含	7/12	
1807	182-12	SD38080	8区③	LF3	土師器 皿	6.7	1.5	—	外面未調整	浅黄2.5Y8/3	精良	完形	
1808	182-8	SD38080	8区③	LF3	土師器 皿	6.7	1.6	—	外面未調整、内面ハケメ	浅黄橙7.5YR8/3	精良	2/12	
1809	181-7	SD38080	8区③	LF3	土師器 皿	6.7	1.7	—	外面未調整	浅黄2.5Y7/3	精良	9/12	内外面に煤付着。
1810	180-10	SD38080	—	—	土師器 皿	7.0	1.4	—	外面未調整	灰黄2.5Y7/2	微砂粒含	2/12	
1811	180-6	SD38080	8区③	LF3	土師器 皿	6.8	1.8	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/3	微砂粒含	完形	
1812	181-2	SD38080	8区③	LF3	土師器 皿	6.4	1.5	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/4	精良	7/12	
1813	180-5	SD38080	8区③	LF3	土師器 皿	6.7	1.6	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/3	微砂粒含	完形	
1814	185-9	SD38080	8区③	LF3	土師器 皿	6.9	1.3	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	3/12	
1815	181-5	SD38080	8区③	LF3	土師器 皿	6.2	1.3	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	精良	5/12	

第３-32表　出土遺物観察表

番号	実測番号	遺構	調査区	出土位置	器種器形	法量(cm) 口径	器高	その他	調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
1816	179-4	SD38079	8区③	LG2	土師器皿	6.9	1.4	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	4/12	
1817	180-9	SD38080	8区③	LF2	土師器皿	6.5	1.6	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	微砂粒含	4/12	
1818	182-1	SD38080	8区③	LF3	土師器皿	6.4	1.5	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/3	精良	9/12	
1819	182-7	SD38080	8区③	LF3	土師器皿	5.7	1.7	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	5/12	
1820	182-6	SD38080	8区③	LF3	土師器皿	6.4	1.3	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	3/12	
1821	179-9	SD38080	8区③	LF3	土師器皿	7.0	1.3	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	微砂粒含	3/12	
1822	180-8	SD38080	8区③	LF3	土師器皿	7.0	1.6	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	微砂粒含	4/12	
1823	179-3	SD38079	8区③	LG2	土師器皿	6.9	1.5	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/3	微砂粒含	3/12	
1824	185-8	SD38080	8区③	LF3	土師器皿	6.8	1.6	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	3/12	
1825	185-5	SD38080	8区③	LF3	土師器皿	5.6	1.3	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/3	精良	2/12	
1826	181-11	SD38080	8区③	LF3	土師器皿	6.9	1.4	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	6/12	
1827	179-5	SD38079	8区③	LG2	土師器皿	6.8	1.8	—	外面未調整	浅黄2.5Y7/3	1mm以下の砂粒含	ほぼ完形	
1828	185-4	SD38080	8区③	LF3	土師器皿	6.6	—	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	3/12	
1829	182-10	SD38080	8区③	LF3	土師器皿	6.8	1.4	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/4	精良	2/12	
1830	181-12	SD38080	8区③	LF3	土師器皿	6.8	1.2	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	3/12	見込みに2条の圏線。
1831	182-3	SD38080	8区③	LF3	土師器皿	6.5	1.6	—	ナデ	灰黄2.5Y7/2	精良	7/12	
1832	181-1	SD38080	8区③	LF3	土師器皿	6.8	1.1	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	5/12	
1833	182-9	SD38080	8区③	LF3	土師器皿	6.4	1.4	—	外面未調整	灰黄2.5Y7/2	精良	2/12	
1834	181-9	SD38080	8区③	LF3	土師器皿	6.2	1.5	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	6/12	
1835	181-10	SD38080	8区③	LF3	土師器皿	6.9	1.2	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/4	精良	6/12	
1836	185-7	SD38080	8区③	LF3	土師器皿	5.6	1.4	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	精良	2/12	
1837	185-6	SD38080	8区③	LF3	土師器皿	6.0	1.2	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	2/12	
1838	182-11	SD38080	8区③	LF3	土師器皿	5.8	1.3	—	ナデ	浅黄橙7.5YR8/4	精良	2/12	
1839	181-8	SD38080	8区③	LF3	土師器皿	6.8	1.3	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	精良	1/12	
1840	182-2	SD38080	8区③	LF3	土師器皿	7.8	1.0	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	4/12	歪みが大きい。底部外面の一部に板状圧痕。
1841	180-7	SD38080	8区③	LF3	土師器皿	6.9	1.8	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の砂粒含	完形	
1842	182-4	SD38080	8区③	LF3	土師器皿	6.9	1.5	—	外面未調整	灰黄2.5Y7/2	精良	7/12	
1843	179-10	SD38080	8区③	LF3	土師器皿	6.7	1.3	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	微砂粒含	11/12	
1844	181-4	SD38080	8区③	LF3	土師器皿	6.6	1.1	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	精良	3/12	
1845	180-2	SD38080	8区③	LF2	土師器皿	17.9	2.5	—	—	にぶい黄橙10YR7/2	微砂粒含	1/12	
1846	187-4	SD38080	8区③	LF3	土師器皿	16.3	2.0	—	底部外面未調整	灰白10YR8/2	精良	1/12	
1847	180-1	SD38080	8区③	LF3	土師器皿	15.0	2.0	—	底部外面未調整	にぶい黄橙10YR7/3	微砂粒含	4/12	焼成やや不良。
1848	187-5	SD38080	8区③	LF3	土師器皿	14.4	—	—	底部外面未調整	にぶい黄橙10YR7/3	4mm以下の砂粒含	3/12	
1849	179-2	SD38079	8区③	GL2	土師器皿	14.6	2.0	—	底部外面未調整	にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の砂粒含	4/12	
1850	179-1	SD38080	8区③	LF3	陶器鉢	30.6	—	—	外面未調整、内面工具ナデ	橙5YR6/6	3mm以下の砂粒含	2/12	常滑。
1851	184-2	SD38080	8区③	LF3	陶器鉢	—	—	底径24.0	ロクロナデ	灰白10YR8/2	微砂粒含	底部5/12	常滑。底部内面に重焼痕。
1852	184-1	SD38080	8区③	LF3	陶器甕	29.0	—	—	—	灰赤10R4/2	微砂粒含	口縁部3/12	常滑。
1853	184-3	SD38080	8区③	LF3	陶器甕	—	—	—	—	にぶい赤褐5YR5/3	微砂粒含	小片	常滑。
1854	183-1	SD38080	8区③	LF3	陶器甕	32.0	—	—	工具ナデ	にぶい赤褐7.5YR5/3	2mm以下の砂粒含	口縁部3/12	常滑。
1855	179-8	SD38080	8区③	LF2	山茶椀椀	—	—	高台径6.0	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	1mm以下の砂粒含	底部2/12	
1856	195-5	SD38087	8区③	LD3	土師器皿	5.7	1.4	—	ナデ	灰白10YR8/2	精良	1/12	
1857	170-2	SD38073	8区③	LH2	土師器皿	—	1.8	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	小片	
1858	171-2	SD38073	8区③	LH2	土師器鍋	21.8	—	—	—	にぶい橙7.5YR7/4	精良	口縁部1/12	外面に煤付着。
1859	171-3	SD38073	8区③	LI2	土師器鍋	33.0	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	浅黄橙10YR8/3	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
1860	172-3	SD38073	8区③	LH3	陶器鉢	—	—	—	ロクロナデ	橙5YR7/6	精良	小片	常滑。
1861	171-6	SD38073	8区③	LH3	施釉陶器椀	—	—	底径5.0	ロクロナデ	灰白N8/	精良	底部7/12	
1862	171-4	SD38073	8区③	LI2	山茶椀椀	—	—	高台径7.2	ロクロナデ	灰白N8/	精良	底部10/12	
1863	171-5	SD38073	8区③	LH3	山茶椀椀	—	—	高台径6.0	ロクロナデ	灰白N8/	精良	底部4/12	
1864	172-1	SD38073	8区③	LI2	棒状石	5.2	残長28.1	残重973g	—	褐灰7.5YR5/1	片麻岩	—	
1865	176-5	SD38078	8区③	KY24	土師器椀	11.5	2.8	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	2/12	外面に煤付着。
1866	179-6	SD38078	8区③	KY24	土師器皿	8.8	2.0	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	2/12	
1867	176-4	SD38078	8区③	KY23	土師器鍋	18.8	—	—	外面未調整、内面ナデ	灰白10YR8/2	精良	口縁部3/12	
1868	179-7	SD38078	—	—	灰釉陶器椀	—	—	高台径7.0	底部外面ナデ	灰白2.5Y8/1	1mm以下の砂粒含	底部4/12	刷毛塗。
1869	178-2	SD38078	8区③	KY24	平瓦	—	—	—	凸面縄タタキ、凹面布目	にぶい橙7.5YR7/4	3mm以下の砂粒含	1/12以下	
1870	178-3	SD38078	8区③	KY23	平瓦	—	—	—	凸面縄タタキ、凹面布目	橙5YR6/8	精良	1/12以下	
1871	168-2	SD38066	8区③	KY23	土師器蓋	14.8	2.3	—	底部外面未調整	にぶい黄橙10YR6/3	1mm以下の砂粒含	2/12	歪みが大きい。内外面に煤付着。
1872	168-4	SD38066	8区③	KY23	土師器皿	13.8	—	—	外面未調整	灰白10YR8/1	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
1873	168-3	SD38066	8区③	KY23	土師器皿	9.8	1.9	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の砂粒含	2/12	歪みが大きい。

第３-33表　出土遺物観察表

番号	実測番号	遺構	調査区	出土位置	器種 器形	法量 (cm) 口径	器高	その他	調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
1874	168-5	SD38066	8区③	KY23	土師器 皿	6.3	1.2	—	外面未調整	灰黄2.5Y7/2	微砂粒含	3/12	
1875	167-2	SD38066	8区③	KY23	土師器 鍋	39.2	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	灰黄2.5Y7/2	1.5mm以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に煤若干付着。内面に炭化物付着。
1876	167-1	SD38066	8区③	KY23	土師器 鍋	38.6	—	—	ハケメ	にぶい黄褐10YR7/3	1.5mm以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に煤付着。内面に炭化物付着。
1877	168-1	SD38066	8区③	KY23	土師器 鍋	21.8	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1.5mm以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に煤付着。
1878	169-6	SD38066	8区③	KY23	陶器 壺	12.2	—	—	ロクロナデ	褐灰7.5YR4/1	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	常滑。
1879	168-6	SD38066	8区③	KY23	陶器 鉢	—	—	—	外面未調整、内面工具ナデ	橙5YR6/6	1.5mm以下の砂粒含	小片	常滑。
1880	168-7	SD38066	8区③	KY23	陶器 甕	—	—	底径9.6	工具ナデ	灰褐5YR5/2	2mm以下の砂粒含	底部3/12	
1881	169-5	SD38066	8区③	KY23	瓦質土器 鉢	—	—	—	ヘラミガキ	灰N4/	1mm以下の砂粒含	小片	口縁部に突線２条。
1882	161-6	SD38051	8区③	KQ25	土師器 皿	8.3	2.5	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	2.5mm以下の砂粒含	5/12	
1883	158-4	SD38051	8区④	LQ1	土師器 皿	9.6	—	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	口縁部2/12	
1884	158-2	SD38051	8区③	KQ25	土師器 鍋	21.6	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	浅黄橙10YR8/3	精良	口縁部1/12	外面に煤付着。
1885	162-7	SD38051	8区③	KQ25	土師器 焙烙	20.0	3.0	—	外面未調整、内面ナデ	浅黄橙10YR8/3	精良	口縁部1/12	外面に煤付着。
1886	160-2	SD38051	8区④	LQ1	施釉陶器 皿	11.6	2.8	底径6.0	ロクロナデ	灰白2.5Y8/1	精良	1/12	灰釉。
1887	159-2	SD38051	8区③④	KQ25 LQ1	山茶椀 椀	—	—	高台径8.0	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	精良	底部7/12	
1888	159-1	SD38051	8区④	LQ1	陶器 壺	—	—	—	ロクロナデ	灰N6/	精良	底部3/12	
1889	224-2	SD39004 第4層	9区	—	土師器 鍋	31.0	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	にぶい黄橙10YR7/2	微砂粒含	口縁部2/12	
1890	224-3	SD39004 第4層	9区	—	土師器 鍋	27.0	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	灰黄2.5Y7/2	微砂粒含	口縁部1/12	外面に煤付着。
1891	225-3	SD39004 第1層	9区	—	土師器 茶釜	14.0	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	灰黄2.5Y7/2	精良	口縁部2/12	
1892	226-3	SD39004 第4層	9区	—	施釉陶器 椀	—	—	高台径6.3	底部外面ロクロケズリ	灰白5Y8/1	1.5mm以下の砂粒含	底部完存	加工円盤状に破断。
1893	226-2	SD39004 第1層	9区	—	陶器 擂鉢	—	—	—	ロクロナデ	褐灰5YR4/1	精良	小片	瀬戸。
1894	226-1	SD39004 第4層	9区	—	陶器 鉢	—	—	—	外面未調整、内面ナデ	にぶい橙5YR7/4	3mm以下の小石含	小片	常滑。
1895	120-2	SD38038	8区③	KX25	土師器 皿	8.4	1.5	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	精良	3/12	
1896	120-7	SD38038	8区③	—	土師器 皿	8.6	1.4	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	完形	
1897	119-7	SD38038	8区③	KX25	土師器 皿	8.5	1.5	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	精良	8/12	
1898	120-1	SD38038	8区③	KX25	土師器 皿	8.2	1.2	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	精良	3/12	
1899	108-3	SD38038	8区③	KX25	土師器 皿	6.4	1.6	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	1.5mm以下の砂粒含	完形	
1900	119-3	SD38038	8区③	KX25	土師器 皿	6.2	1.4	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	6/12	
1901	119-2	SD38038	8区③	KX25	土師器 皿	6.7	1.4	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	5/12	
1902	120-3	SD38038	8区③	KX25	土師器 皿	7.6	1.2	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	3/12	
1903	121-3	SD38038	8区③	KX25	土師器 皿	6.4	1.3	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	1/12	
1904	120-5	SD38038	8区③	KX25	土師器 皿	12.6	—	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	精良	口縁部2/12	
1905	121-5	SD38038	8区③	KX25	土師器 皿	9.2	2.0	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	1.5mm以下の微砂粒含	4/12	
1906	121-6	SD38038	8区	KX24	土師器 皿	8.8	2.0	—	外面未調整	橙5YR7/6	精良	3/12	
1907	121-7	SD38038	8区③	—	土師器 皿	10.7	1.8	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	精良	6/12	
1908	121-1	SD38038	8区③	KY25	土師器 皿	9.4	2.1	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/3	精良	4/12	
1909	121-4	SD38038 第3層	8区③	—	土師器 皿	8.6	1.4	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	1mmの微砂粒含	3/12	
1910	119-8	SD38038	8区③	KX25	土師器 皿	10.4	—	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	2/12	
1911	120-6	SD38038	8区③	KX25	土師器 皿	9.8	2.0	—	外面未調整	橙7.5YR7/6	0.7mm以下の砂粒含	2/12	
1912	119-4	SD38038	8区③	KX25	土師器 皿	8.2	1.4	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	3/12	
1913	119-1	SD38038	8区③	KX25	土師器 皿	8.0	1.7	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	精良	3/12	
1914	121-2	SD38038	8区	KX24	土師器 皿	—	1.1	—	外面未調整	橙5YR7/6	精良	小片	
1915	119-5	SD38038	8区③	KX25	土師器 皿	8.4	1.5	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	精良	3/12	底部に外から内へ穿孔。
1916	119-6	SD38038	8区③	KX	土師器 椀	8.0	—	—	ナデ	浅黄橙10YR8/3	精良	口縁部4/12	
1917	120-8	SD38038	8区③	KX25	土師器 椀	—	—	高台径4.0	ナデ	浅黄橙7.5YR8/3	精良	底部11/12	
1918	120-4	SD38038	8区③	—	土師器 椀	—	—	高台径5.1	ナデ	浅黄橙7.5YR8/4	精良	底部完存	
1919	127-4	SD38038	8区③	—	土師器 鍋	28.6	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	灰黄褐10YR6/2	精良	口縁部1/12	外面から口縁部内面に煤付着。
1920	108-1	SD38038	8区③	KX24	土師器 鍋	23.6	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	外面に煤付着。
1921	131-1	SD38038	8区③	—	土師器 鍋	28.0	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	浅黄橙10YR8/3	1.5mm以下の砂粒含	口縁部2/12	外面に煤付着。
1922	130-3	SD38038 第3層	8区③	—	土師器 鍋	26.0	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	にぶい黄橙10YR6/4	3mm以下の砂粒含	口縁部3/12	外面に煤付着。内面に炭化物付着。
1923	127-1	SD38038	8区③	KX25	土師器 鍋	38.6	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	浅黄橙10YR8/3	2mm以下の砂粒含	口縁部2/12	外面に煤付着。
1924	126-3	SD38038 第2層	8区③	—	土師器 鍋	34.4	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	微砂粒含	口縁部2/12	外面に煤付着。
1925	128-1	SD38038	8区③	KX25	土師器 鍋	33.5	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	精良	口縁部2/12	外面に煤付着。
1926	129-1	SD38038	8区③	KY23	土師器 鍋	27.1	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	灰黄褐10YR6/2	精良	口縁部3/12	外面に煤付着。
1927	131-3	SD38038	8区	KX24	土師器 鍋	22.8	—	—	外面未調整、内面ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
1928	130-2	SD38038 第2層	8区③	—	土師器 鍋	21.8	—	—	外面未調整、内面工具ナデ	浅黄橙10YR8/3	2mm以下の砂粒含	頸部5/12	内外面に炭化物若干付着。
1929	107-7	SD38038	8区③	KY24	土師器 鍋	20.2	—	—	外面ナデ、内面工具ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	1.5mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
1930	108-2	SD38038	8区③	KX24	土師器 鍋	17.8	—	—	外面未調整、内面工具ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
1931	132-3	SD38038	8区③	KX25	土師器 鍋	23.4	—	—	外面未調整、内面工具ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に煤若干付着。

第３-34表　出土遺物観察表

番号	実測番号	遺構	調査区	出土位置	器種 器形	法量 (cm) 口径	器高	その他	調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
1932	130-1	SD38038 第2層	8区 ③	—	土師器 鍋	20.0	—	—	外面未調整、内面工具ナデ	灰褐7.5YR4/2	1.5mm以下の砂粒含	口縁部3/12	外面に煤付着。
1933	130-4	SD38038	8区 ③	—	土師器 鍋	23.0	—	—	外面ヘラケズリ、内面工具ナデ	にぶい黄橙10YR6/3	1mm以下の砂粒含	口縁部3/12	
1934	126-2	SD38038	8区 ③	KX23	土師器 鍋	17.8	—	—	ナデ	にぶい褐7.5YR6/3	精良	口縁部2/12	外面に煤付着。
1935	128-3	SD38038	8区 ③	KX25	土師器 鍋	20.0	—	—	外面ナデ、内面工具ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	精良	口縁部1/12	
1936	129-3	SD38038	8区 ③	KY23	土師器 鍋	19.0	—	—	ナデ	浅黄橙10YR8/3	精良	口縁部1/12	
1937	128-2	SD38038 第2層	8区 ③	—	土師器 鍋	19.9	—	—	内面工具ナデ	浅黄橙10YR8/3	精良	口縁部1/12	外面に煤付着。煤のため調整不明。
1938	132-2	SD38038	8区 ③	KX25	土師器 鍋	23.0	—	—	外面未調整、内面工具ナデ	浅黄橙10YR8/3	1.5mm以下の砂粒含	口縁部2/12	外面に煤若干付着。
1939	127-2	SD38038	8区 ③	KX25	土師器 鍋	21.2	—	—	外面未調整、内面工具ナデ	灰白10YR8/2	微砂粒含	口縁部5/12	外面に煤付着。
1940	132-1	SD38038	8区 ③	KW24	土師器 羽釜	34.4	—	鍔径 50.0	外面ハケメ、内面ナデ	浅黄橙10YR8/3	2mm以下の砂粒・雲母含	鍔2/12	
1941	131-2	SD38038	8区 ③	—	土師器 茶釜	11.8	—	—	ハケメ	にぶい黄橙10YR7/3	微砂粒含	頸部3/12	外面に煤付着。
1942	129-2	SD38038 第1層	8区 ③	—	土師器 茶釜	13.4	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	精良	口縁部1/12	
1943	127-3	SD38038 第2層	8区 ③	—	土師器 茶釜	8.8	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	精良	口縁部2/12	外面から口縁部内面に煤付着。
1944	126-1	SD38038 第1層	8区 ③	—	土師器 茶釜	24.5	—	—	外面ナデ、内面工具ナデ	浅黄橙10YR8/3	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	口縁部内面に薄く煤付着。
1945	122-2	SD38038	8区 ③	KW22	土師器 甕	19.2	—	—	ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	精良	口縁部2/12	口縁部内面に煤付着。肩部に注口。
1946	131-4	SD38038	8区 ③	MC24	土師器 支脚	5.6	7.4	—	ナデ	橙5YR6/6	1mm以下の砂粒含	ほぼ完形	
1947	107-5	SD38038	8区 ③	KV24	施釉陶器 椀	—	—	高台径 5.8	体部下半ロクロケズリ	灰白2.5Y7/1	1.5mm以下の砂粒含	底部3/12	灰釉。
1948	123-4	SD38038	8区 ③	KY25	施釉陶器 椀	9.8	—	—	ロクロナデ	灰白2.5Y8/2	精良	口縁部1/12	焼成不良。
1949	108-5	SD38038	8区 ③	KX25	陶器 椀	—	—	高台径 3.0	底部外面ロクロケズリ	灰白2.5Y8/2	1mm以下の砂粒含	底部完存	透明釉。
1950	123-5	SD38038	8区 ③	MB23	施釉陶器 椀	—	—	—	ロクロナデ	灰白2.5Y8/1	精良	小片	灰釉。
1951	122-6	SD38038	8区 ③	—	施釉陶器 天目茶椀	12.0	—	—	ロクロナデ	灰白10YR8/1	精良	口縁部1/12	
1952	122-5	SD38038	8区 ③	MB23	施釉陶器 天目茶椀	12.8	—	—	ロクロナデ	浅黄橙10YR8/3	精良	口縁部1/12	体部下半に錆釉。
1953	107-6	SD38038	8区 ③	KV24	施釉陶器 天目茶椀	9.9	—	—	ロクロナデ	灰白5Y8/1	微砂粒含	口縁部1/12	
1954	116-1	SD38038	8区 ③	KY23	陶器 仏花瓶	—	—	底径 7.0	ロクロナデ	灰白5Y7/1	精良	底部完存	鉄釉。
1955	123-3	SD38038	8区 ③	KY23	陶器 秉燭	—	—	底径 4.0	ロクロナデ	灰白5Y8/1	精良	底部完存	鉄釉。
1956	115-3	SD38038	8区 ③	KX25	陶器 鉢	—	—	—	ロクロナデ	浅黄橙10YR8/3	精良	小片	
1957	122-1	SD38038	8区 ③	KW24	陶器 鉢	24.0	—	—	ロクロナデ	橙2.5Y6/6	精良	口縁部1/12	
1958	115-1	SD38038	8区 ③	—	陶器 鉢	30.8	9.0	底径 13.2	ロクロナデ	にぶい赤褐2.5YR5/3	精良	2/12	内面使用痕。体部下半外面に炭化物付着。
1959	114-1	SD38038	8区 ③	KY23	陶器 甕	27.8	—	—	外面一部にカキメ	褐灰5YR4/1	精良	口縁部2/12	
1960	115-2	SD38038	8区 ③	—	陶器 甕	—	—	底径 19.6	工具ナデ	にぶい赤褐2.5YR5/3	精良	2/12	
1961	125-1	SD38038	8区 ③	KW24	陶器 蓋	8.4	1.9	—	ロクロナデ	淡黄2.5Y8/3	精良	2/12	陶体染付。四方襷文等。
1962	124-2	SD38038	8区 ③	MC23	陶器 椀	7.0	5.2	高台径 3.6	ロクロナデ	灰白5Y8/1	精良	4/12	陶体染付。草花文。
1963	124-6	SD38038	8区 ②	MB23	陶器 椀	—	—	高台径 3.4	ロクロナデ	灰白5Y8/1	精良	底部8/12	見込みに文字「立」。陶体染付。
1964	123-6	SD38038	8区 ③	—	磁器 椀	14.9	—	—	—	灰白N8/	精良	口縁部1/12	透明釉。肥前。
1965	107-4	SD38038	8区 ③	KV24	青磁 椀	12.2	—	—	—	灰白5Y8/1	微砂粒含	口縁部2/12	
1966	108-4	SD38038	8区 ③	KX25	青磁 椀	—	—	—	—	灰白7.5Y7/1	微砂粒含	小片	
1967	124-5	SD38038	8区 ②	MB23	青磁 椀	—	—	高台径 4.4	—	灰白N8/	精良	底部3/12	
1968	117-2	SD38038	8区 ③	MC24	青磁 椀	—	—	高台径 5.4	—	灰白N8/	精良	底部完存	見込みに印刻花文。
1969	117-1	SD38038	8区	KX24	青磁 椀	10.6	6.7	高台径 4.5	—	灰白N7/	精良	10/12	外面に連弁文、見込みに文字「積」。
1970	124-3	SD38038	8区 ②	MB23	磁器 椀	11.4	—	—	—	灰白N8/	精良	口縁部1/12	草花文。
1971	124-1	SD38038	8区 ②	MB23	磁器 椀	11.2	6.0	高台径 3.8	—	灰白N8/	精良	4/12	瀬戸。プリント。
1972	125-3	SD38038	8区 ③	KW24	磁器 椀	7.7	—	—	—	灰白N8/	精良	口縁部2/12	四方襷文他。
1973	124-4	SD38038 第1層	8区 ③	—	磁器 椀	—	—	—	—	灰白N8/	精良	小片	染付。
1974	108-6	SD38038	8区 ③	KX25	磁器 椀	—	—	—	—	白9/	精良	小片	染付。蔓草文。
1975	125-4	SD38038	8区 ②	MC23	磁器 猪口	—	—	高台径 5.0	—	灰白N8/	精良	底部1/12	肥前。染付。
1976	124-7	SD38038	8区 ②	MB23	磁器 椀	—	—	高台径 3.4	—	灰白N8/	精良	底部9/12	染付。五弁花文、草文。
1977	125-5	SD38038	8区 ③	—	磁器 小椀	—	—	高台径 2.7	—	灰白N8/	精良	底部3/12	肥前。
1978	125-2	SD38038	8区 ②	MC24	磁器 皿	13.2	2.9	高台径 6.6	—	灰白N8/	精良	3/12	瀬戸。草花文＋文字。
1979	122-4	SD38038	8区 ③	MB23	加工円盤	5.2	厚 1.4	重 40g	—	暗赤褐5YR3/2	精良	完形	陶器甕体部を加工。
1980	122-3	SD38038	8区 ③	MC24	加工円盤	4.1	厚 1.3	重 21g	—	褐灰7.5YR4/2	精良	完形	陶器甕体部を加工。
1981	116-2	SD38038	8区 ③	KY23	瓦質土器 鉢	—	—	—	—	暗灰N3/	精良	小片	口縁部に突線2条。
1982	116-3	SD38038	8区 ③	MC24	瓦質土器 風炉	—	—	—	—	灰N4/	精良	小片	口縁部に縦線刻目。
1983	118-1	SD38038 第2層	8区 ③	—	瓦質土器 風炉	—	—	—	—	灰N5/	精良	小片	3脚に仮定。
1984	109-2	SD38038	8区 ②	MB23	軒桟瓦	—	—	垂長 4.0	—	暗灰3/	精良	1/12以下	
1985	109-3	SD38038	8区 ②	MB23	軒桟瓦	—	—	垂長 4.8	—	灰N4/	精良	1/12以下	
1986	111-2	SD38038	8区 ②	MB23	丸瓦	—	—	—	—	灰N4/	精良	1/12以下	
1987	112-2	SD38038	8区 ②	MB23	桟瓦	—	—	—	—	灰N4/	精良	1/12以下	
1988	112-1	SD38038	8区 ②	MB23	角桟伏間瓦	—	5.4	—	ナデ	灰5Y5/1	精良	3/12以下	
1989	109-1	SD38038	8区 ②	MB23	鳥伏間瓦	—	—	—	ナデ、ヘラケズリ	灰N4/	精良	4/12以下	

第３-35表　出土遺物観察表

番号	実測番号	遺構	調査区	出土位置	器種 器形	法量 (cm) 口径	器高	その他	調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
1990	111-1	SD38038	8区②	MB23	平瓦	—	—	谷深1.4	ナデ	灰N4/	精良	3/12以下	
1991	110-2	SD38038	8区②	MB23	角桟伏間瓦	—	—	—	ナデ	灰N4/	精良	1/12以下	
1992	113-1	SD38038	8区②	MB23	鬼瓦	—	—	—	ヘラケズリ	灰N4/	精良	3/12以下	
1993	110-1	SD38038	8区③	MB23	磚	—	—	厚4.2	ナデ	灰N5/	精良	8/12以下	弱く燻が掛かる。
1994	123-1	SD38038	8区③	—	石製品 石臼	—	—	—	—	灰N5/	砂岩	1/12以下	
1995	123-2	SD38038	8区③	KY23	石製品 砥石	幅3.1	長8.4	厚1.8	—	灰白5Y8/1	泥岩	完形	
1996	116-4	SD38038	8区③	—	石製品 砥石	幅3.0	長13.4	厚3.4	—	にぶい黄橙10YR7/2	泥岩	完形	
1997	1001-7	SD38038	8区③	KV24	鉄製品 釘	幅0.5	残長5.7	—	—	—	—	8/12以下	
1998	89-3	SD38026	8区②	—	土師器 鍋	17.2	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	灰白2.5Y8/2	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
1999	89-2	SD38026	8区②	—	土師器 鍋	22.8	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に煤若干付着。
2000	103-2	SD38026	8区②	—	土師器 羽釜	33.2	—	—	—	灰白10YR8/2	精良	口縁部1/12	
2001	104-1	SD38026	8区②	—	土師器 羽釜	24.4	—	鍔径31.6	ハケメ	にぶい橙7.5YR6/4	精良	口縁部1/12	
2002	88-1	SD38026	8区②	—	土師器 羽釜	35.6	—	鍔径43.0	外面ハケメ、内面工具ナデ	浅黄橙7.5YR8/3	2mm以下の砂粒含	鍔部4/12	
2003	88-3	SD38026	8区②	—	土師器 竈の天板	26.2	—	—	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	1mm以下の砂粒含	2/12	
2004	89-1	SD38026	8区②	—	陶器 蓋	10.7	5.3	鍔径13.9	ロクロナデ	灰白2.5Y8/2	微砂粒含	6/12	鋼緑釉。伊賀・信楽。
2005	89-5	SD38026	8区②	—	施釉陶器 椀	—	—	高台径4.4	底部外面ロクロケズリ	灰白2.5Y7/1	1.5mm以下の砂粒含	底部4/12	灰釉。
2006	105-4	SD38026	8区	MC17	施釉陶器 鉢	—	—	底径6.1	ロクロナデ	灰白2.5Y8/2	精良	底部4/12	鉄釉。
2007	88-2	SD38026	8区②	—	施釉陶器 壺	—	—	底径11.0	底部外面ロクロケズリ	灰白2.5Y8/1	微砂粒含	底部5/12	灰釉。外面に煤付着。
2008	89-4	SD38026	8区②	—	施釉陶器 皿	6.6	2.0	底径3.6	ロクロナデ	灰白2.5Y8/2	1mm以下の砂粒含	5/12	灰釉。
2009	104-5	SD38026	8区②	—	陶器 皿	7.4	—	—	ロクロナデ	灰白N8/	精良	口縁部2/12	灰釉。
2010	104-4	SD38026	8区②	—	青磁 椀	—	—	高台径6.0	—	灰白N8/	精良	底部7/12	見込みに菊花文。
2011	88-4	SD38026	8区②	—	陶器 擂鉢	—	—	—	—	灰白2.5Y8/2	精良	小片	
2012	104-3	SD38026	8区②	—	陶器 鉢	16.4	6.9	底径9.6	外面未調整	灰褐5YR5/2	精良	5/12	常滑。
2013	103-1	SD38026	8区②	—	陶器 甕	39.4	—	—	ロクロナデ	赤灰2.5YR4/1	精良	口縁部1/12	
2014	92-1	SD38026	8区②	—	軒桟瓦	—	—	垂長4.2	ナデ	灰4/	精良	2/12以下	唐草文。
2015	91-1	SD38026	8区②	—	軒丸瓦	幅14.9	7.3	瓦当径16.0	ナデ	暗灰N3/	2mm以下の砂粒含	6/12以下	巴文。頂部に釘穴。
2016	96-1	SD38026	8区②	—	軒丸瓦	—	—	—	—	灰N4/	精良	1/12以下	巴文。
2017	92-2	SD38026	8区②	—	棟込瓦	幅4.6	長13.4	厚2.0	ナデ	灰N4/	精良	11/12以下	花菱文。
2018	93-2	SD38026	8区②	—	棟込瓦	幅5.6	長15.2	厚1.0	ナデ	灰N4/	精良	ほぼ完形	花菱文。
2019	98-1	SD38026	8区②	—	丸瓦	—	7.3	—	外面ヘラケズリ、内面ゴザ状圧痕	灰N5/	1.5mm以下の砂粒含	4/12以下	
2020	99-2	SD38026	8区②	—	丸瓦	—	4.9	—	外面ヘラケズリ、内面コビキ痕	暗灰N3/	2mm以下の砂粒含	2/12以下	
2021	99-1	SD38026	8区②	—	丸瓦	—	—	—	外面ヘラケズリ、内面ゴザ状圧痕	灰N5/	微砂粒含	2/12以下	
2022	97-1	SD38026	8区②	—	桟瓦	—	谷深3.9	—	工具ナデ	灰N4/	微砂粒含	9/12以下	
2023	91-2	SD38026	8区②	—	丸瓦	—	—	—	内面ゴザ状圧痕	灰N4/	1mm以下の砂粒含	2/12以下	
2024	101-1	SD38026	8区②	—	伏間瓦	—	—	—	外面ナデ、内面ヘラケズリ	灰N5/	精良	4/12以下	
2025	93-1	SD38026	8区②	—	伏間瓦	—	5.0	—	ナデ	灰N4/	精良	4/12以下	
2026	95-1	SD38026	8区②	—	谷丸瓦	—	7.6	—	外面ナデ、内面コビキ痕	灰N4/	精良	9/12以下	
2027	94-1	SD38026	8区②	—	谷丸瓦	—	6.6	—	外面ナデ、内面布目痕	灰N4/	精良	9/12以下	
2028	90-1	SD38026	8区②	—	本谷瓦	幅9.9	4.9	—	外面工具ナデ、内面布目痕	灰N4/	5mm以下の砂粒含	ほぼ完形	
2029	102-2	SD38026	8区②	—	谷丸瓦	幅7.6	3.4	—	外面ナデ、内面布目痕	灰N4/	微砂粒含	11/12以下	
2030	102-1	SD38026	8区②	—	谷丸瓦	—	7.1	—	外面ナデ、ゴザ状圧痕	灰N5/	2mm以下の砂粒含	11/12以下	
2031	100-1	SD38026	8区②	—	並谷瓦	—	—	—	ナデ	灰N6/	微砂粒含	9/12以下	
2032	92-3	SD38026	8区②	—	谷丸瓦	—	4.3	—	外面ナデ、内面コビキ・ゴザ圧痕	灰N4/	精良	9/12以下	
2033	14-2	SK38003	8区	ME22	桟瓦	—	—	—	凹面ナデ、凸面工具ナデ	暗灰N3/	1.5mm以下の砂粒含	2/12以下	
2034	13-1	SK38003	8区	ME22	桟瓦	—	—	—	工具ナデ	灰N4/	2mm以下の砂粒含	4/12以下	燻弱い。
2035	14-3	SK38003	8区	ME22	桟瓦	—	—	—	工具ナデ	暗灰N3/	1.5mm以下の砂粒含	1/12以下	
2036	13-3	SK38003	8区	ME22	丸瓦	—	—	—	—	暗灰N3/	1.5mm以下の砂粒含	2/12以下	
2037	14-1	SK38003	8区	ME22	平瓦	—	谷深2.5	—	ナデ	暗灰N3/	1mm以下の砂粒含	9/12以下	
2038	13-2	SK38003	8区	ME22	拝本掛瓦	—	—	—	ナデ	暗灰N3/	1.5mm以下の砂粒含	3/12以下	小孔4ヶ所。
2039	226-5	SK39010 半裁東側	9区	—	陶器 土瓶	8.1	—	—	—	灰白10YR8/1	精良	口縁部2/12	透明釉。
2040	227-4	SK39012	9区	KY13	土師器 皿	7.6	—	—	ナデ	橙5YR6/6	精良	口縁部3/12	
2041	227-2	SK39012	9区	KY13	陶器 花瓶	2.5	—	—	ロクロナデ	黄灰2.5Y5/1	精良	口縁部10/12	鉄釉。
2042	227-1	SK39012	9区	KY13	陶器 鍋	19.0	9.2	底径8.0	体部下半ロクロケズリ	灰白N8/	精良	口縁部4/12	鉄釉。底部外面に煤付着。
2043	227-3	SK39012	9区	KY13	陶器 椀	—	—	高台径6.4	底部外面ロクロケズリ	灰白8/	精良	底部2/12	灰釉。
2044	230-2	SK39012	9区	—	軒平瓦	—	—	垂長4.4	工具ナデ	灰N6/	精良	2/12以下	唐草文。
2045	229-2	SK39012	9区	—	丸瓦	—	—	—	外面ナデ、内面布目痕	暗灰N3/	精良	精良	
2046	230-1	SK39012	9区	—	丸瓦	—	7.4	—	外面ナデ、内面タタキ	灰N4/	精良	3/12以下	
2047	228-1	SK39012	9区	—	丸瓦	幅13.0	6.4	—	外面ヘラケズリ、内面タタキ	灰N4/	精良	8/12以下	

第３-36表　出土遺物観察表

番号	実測番号	遺構	調査区	出土位置	器種器形	法量(cm) 口径	器高	その他	調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
2048	229-4	SK39012	9区	—	平瓦	—	—	—	工具ナデ	暗灰N3/	精良	2/12以下	
2049	229-3	SK39012	9区	—	平瓦	—	—	—	工具ナデ	暗灰N3/	精良	2/12以下	
2050	229-1	SK39012	9区	—	平瓦	—	谷深1.9	—	工具ナデ	灰N4/	精良	2/12以下	
2051	231-3	SK39012	9区	—	桟瓦	—	—	—	工具ナデ	灰N6/	精良	2/12以下	
2052	231-4	SK39012	9区	—	平瓦	—	—	—	工具ナデ	灰N6/	精良	2/12以下	
2053	231-1	SK39012	9区	—	隅瓦	—	—	—	工具ナデ	暗灰N3/	精良	8/12以下	
2054	227-5	SK39012	9区	—	冠瓦	—	—	—	工具ナデ	灰N4/	精良	2/12以下	
2055	231-2	SK39012	9区	—	箱冠瓦	—	—	—	工具ナデ	灰N4/	精良	2/12以下	
2056	1046-4	SK39012	9区	—	木製品杭	幅4.3	残長31.4	厚3.9	ケズリ	—	—	6/12以下	
2057	413-6	表土	3区	—	縄文土器鉢	—	—	—	—	にぶい黄褐10YR5/2	5mm以下の小石多含	小片	波状口縁。沈線。
2058	268-6	—	7区	LS9 P1	縄文土器鉢	—	—	—	—	橙7.5YR7/6	5mm以下の砂粒含	小片	波状口縁。沈線。
2059	216-3	表土	8区②	—	縄文土器鉢	—	—	—	—	橙5YR6/6	5mm以下の砂粒含	小片	波状口縁。条線。
2060	3-1	SD32013	2区①	—	縄文土器浅鉢	—	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/3	精良	小片	
2061	248-4	排土	1区	—	縄文土器深鉢	—	—	底径8.0	—	にぶい黄橙10YR7/2	3mm以下の砂粒含	底部3/12	
2062	268-1	—	7区	LT10 P9	縄文土器深鉢	—	—	底径11.5	ナデ	橙7.5YR7/6	5.5mm以下の砂粒含	底部9/12	
2063	5-3	表土	2区③	—	土師器椀	10.8	3.5	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	9/12	内面に炭化物付着。
2064	248-2	表土	1区	—	土師器椀	10.8	3.4	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	3mmの砂粒含	1/12	内面に工具痕。
2065	397-4	表土	2区②	—	土師器椀	12.0	—	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
2066	216-4	表土	8区	—	土師器椀	—	—	—	外面未調整	褐灰10YR5/2	精良	小片	底部外面に墨画。
2067	414-3	表土	2区①	—	土師器椀	14.2	3.2	底径10.0	外面未調整	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	2/12	
2068	242-3	表土	9区	—	土師器椀	12.8	—	—	ナデ	灰白10YR8/2	微砂粒含	口縁部2/12	
2069	247-5	表土	1区	—	土師器椀	17.0	—	—	外面未調整、内面ヘラミガキ	橙5YR7/8	やや精良	口縁部1/12	
2070	397-2	表土	2区①	—	土師器椀	15.6	4.4	—	—	橙5YR7/6	1mm以下の砂粒含	1/12	摩滅のため調整不明。
2071	397-5	表土	2区③	—	土師器椀	16.0	3.8	—	外面ヘラケズリ	橙7.5YR7/6	1.5mm以下の砂粒含	1/12	
2072	288-3	表土	5区	CV14	土師器椀	11.8	2.8	—	外面工具ナデ、内面ヘラミガキ	にぶい黄橙10YR7/3	やや精良	2/12	
2073	208-2	トレンチ	8区④	LP5	土師器杯	13.0	2.8	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	6/12	
2074	247-7	—	1区	AN6 P1	土師器杯	16.8	3.3	—	外面ヘラケズリ	橙5YR7/6	やや精良	1/12	
2075	414-2	表土	2区①	—	土師器杯	15.4	3.2	—	ナデ	橙5YR6/6	赤色斑、微砂粒含	2/12	
2076	398-1	表土	2区①	—	土師器杯	15.8	3.2	—	底部外面ヘラケズリ	橙2.5YR7/8	やや精良	1/12	
2077	397-3	表土	2区②	—	土師器杯	15.7	3.9	—	底部外面ヘラケズリ	橙5YR8/6	1mm以下の砂粒含	3/12	
2078	408-1	表土	1区	—	土師器杯	12.8	—	—	ナデ	にぶい橙7.5YR6/4	精良	口縁部1/12	
2079	247-6	表土	1区	—	土師器杯	15.6	3.1	—	ナデ	浅黄橙7.5YR8/4	やや精良	1/12	内面にラセン暗文。
2080	162-6	SD38060	8区④	LP6	土師器杯	14.0	3.0	—	底部外面ヘラケズリ	橙5YR6/8	精良	2/12	
2081	164-4	SK38061	8区④	LN3	土師器杯	12.4	—	—	—	橙5YR6/6	精良	口縁部1/12	
2082	247-8	表土	1区	—	土師器杯	—	—	—	底部外面未調整	橙5YR7/8	やや精良	底部3/12	
2083	317-4	—	6区	LJ12	土師器杯	12.8	—	—	ナデ	にぶい橙5YR7/4	2mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
2084	414-5	表土	2区①	—	土師器皿	25.0	3.2	—	底部外面ヘラケズリ	橙5YR6/6	1.5mm以下の砂粒含	1/12	
2085	248-6	表土	1区	—	土師器皿	19.6	—	—	—	橙5YR7/6	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
2086	408-2	表土	1区	—	土師器皿	—	—	—	底部外面ヘラケズリ	浅黄橙7.5YR8/4	精良	1/12	内面に線刻。
2087	248-7	表土	1区	—	土師器皿	20.2	2.5	—	外面ヘラミガキ	橙5YR7/6	やや精良	1/12	
2088	294-3	—	5区	CX14 P1掘形	土師器皿	16.6	2.2	—	外面工具ナデ	浅黄橙7.5YR8/4	やや精良	1/12	
2089	5-2	表土	2区①	—	土師器皿	15.4	2.8	—	底部外面ヘラケズリ	橙5YR7/6	精良	5/12	
2090	397-7	トレンチ南壁	7区	LS6	土師器皿	—	3.4	—	外面ヘラケズリ	にぶい橙7.5YR7/4	1mm以下の砂粒含	小片	
2091	248-3	表土	1区	—	土師器皿	10.8	2.5	—	底部外面未調整	橙2.5Y6/8	やや精良	2/12	
2092	208-1	—	8区④	LQ4 P1	土師器皿	14.0	—	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/3	精良	口縁部1/12	
2093	313-9	表土	6区	LN12	土師器皿	9.7	—	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/3	1.5mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
2094	294-6	—	5区	CY14 P2	土師器皿	7.8	1.5	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	2mm以下の砂粒含	3/12	
2095	286-2	表土	5区	CW15	土師器皿	10.8	1.9	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	1/12	
2096	208-6	—	8区④	LN6 P4	土師器皿	—	—	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	小片	
2097	267-5	包含層	7区	LR4	土師器皿	10.5	3.0	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	2/12	
2098	317-7	—	6区	LK13 P3	土師器皿	6.0	—	—	外面未調整	灰白10YR8/2	やや精良	口縁部1/12	
2099	313-6	表土	6区	LN11	土師器皿	10.3	2.6	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1.5mm以下の砂粒含	3/12	
2100	313-7	表土	6区	LM2	土師器皿	9.4	2.4	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	2/12	
2101	267-1	排土	7区	—	土師器皿	8.3	2.2	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	精良	9/12	
2102	202-1	—	8区③	KN25 P4	土師器皿	10.4	2.7	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	5/12	
2103	203-7	—	8区③	LH3 P2	土師器皿	11.6	2.2	—	外面未調整	灰白10YR8/2	やや精良	3/12	
2104	286-1	表土	5区	WC15	土師器皿	12.0	—	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	1mm以下の砂粒含	口縁部3/12	
2105	198-8	—	8区①	MC22 P1	土師器皿	8.0	—	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の砂粒含	口縁部3/12	

第３-37表　出土遺物観察表

番号	実測番号	遺構	調査区	出土位置	器種器形	法量 (cm) 口径	器高	その他	調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
2106	318-3	—	6区	LK11 P11	土師器 皿	10.6	—	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	やや精良	口縁部3/12	
2107	203-3	—	8区 ④	KQ25 P1	土師器 皿	8.8	2.1	—	外面未調整	灰白10YR8/2	2㎜以下の砂粒含	1/12	
2108	242-4	包含層	9区	MA14	土師器 皿	7.4	—	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	2/12	
2109	318-5	—	6区	LJ11 P12	土師器 皿	11.8	—	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	やや精良	口縁部1/12	
2110	318-4	—	6区	LK11 P11	土師器 皿	9.8	—	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	やや精良	口縁部2/12	内面に工具痕。
2111	208-3	包含層	8区 ②	NB4	土師器 皿	7.5	1.6	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/4	精良	7/12	歪みが大きい。
2112	213-5	表土	8区	MH22	土師器 皿	7.2	1.7	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	精良	11/12	歪みが大きい。
2113	212-6	表土	8区	MH22	土師器 皿	7.1	1.6	—	外面未調整	灰白10YR8/2	やや精良	11/12	
2114	202-2	—	8区 ③	KQ25 P1	土師器 皿	7.4	—	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	精良	口縁部2/12	
2115	204-8	—	8区 ③	LN1 P6	土師器 皿	6.9	1.6	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	2/12	
2116	212-4	表土	8区	MH22	土師器 皿	7.0	1.5	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	やや精良	完形	
2117	213-6	表土	8区	MH22	土師器 皿	7.0	1.5	—	外面未調整	灰白10YR8/2	やや精良	11/12	
2118	317-5	—	6区	LL13 P2	土師器 皿	5.9	1.0	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	やや精良	2/12	
2119	212-5	表土	8区	MH22	土師器 皿	7.1	1.5	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	やや精良	11/12	
2120	213-2	表土	8区	MG22	土師器 皿	8.7	1.3	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	6/12	
2121	318-7	—	6区	LJ11 P12	土師器 皿	7.7	—	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	やや精良	口縁部2/12	
2122	316-4	—	6区	LK11 P1	土師器 皿	10.0	1.4	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	やや精良	1/12	
2123	313-8	表土	6区	LK10	土師器 皿	7.5	1.3	—	外面未調整	灰白10YR8/2	1㎜以下の砂粒含	5/12	
2124	203-4	—	8区 ④	LM2 P1	土師器 皿	9.0	0.9	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	やや精良	3/12	
2125	198-7	—	8区 ①	MG21 P1	土師器 皿	—	1.2	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/3	1㎜以下の砂粒含	小片	焼成不良。
2126	213-3	トレンチ ③-2	8区 ③	KX23	土師器 皿	8.7	1.3	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	精良	5/12	
2127	203-5	—	8区 ③	LJ1 P1	土師器 皿	7.9	1.1	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	精良	5/12	
2128	203-6	—	8区 ③	LL13 P2	土師器 皿	9.0	0.9	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	精良	2/12	
2129	294-4	—	5区	CV13 P2	土師器 皿	6.8	1.0	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	やや精良	3/12	内面に工具痕。
2130	318-2	—	6区	LK13 P5	土師器 皿	7.6	1.0	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	やや精良	5/12	
2131	294-5	—	5区	CV13 P2	土師器 皿	7.2	1.0	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	やや精良	2/12	
2132	205-5	—	8区 ③	LM1 P9	土師器 皿	6.9	0.8	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	精良	3/12	
2133	204-3	—	8区 ③	LM1 P4	土師器 皿	6.9	1.1	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	やや精良	7/12	歪みが大きい。
2134	318-6	—	6区	LJ11 P12	土師器 皿	6.0	0.9	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	やや精良	2/12	
2135	213-4	表土	8区	東延長	土師器 皿	7.2	1.0	—	外面未調整	灰白10YR8/2	3㎜以下の砂粒含	10/12	
2136	202-6	—	8区 ②	MC18 P1	土師器 皿	7.5	—	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	口縁部2/12	
2137	202-5	—	8区 ②	MA19 P1	土師器 皿	—	0.9	—	外面未調整	灰白10YR8/2	精良	小片	
2138	202-3	—	8区 ②	MC21 P1	土師器 皿	6.8	0.6	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	精良	8/12	外面に植物圧痕。
2139	204-4	—	8区 ④	LN2 P4	土師器 皿	—	0.5	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/6	精良	小片	
2140	215-3	表土	8区 ④	LN5	土師器 皿	12.8	2.6	—	外面未調整	灰白2.5Y8/1	2㎜以下の砂粒含	3/12	
2141	205-4	—	8区 ③	LN1 P6	土師器 皿	11.8	2.3	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	やや精良	5/12	
2142	207-5	—	8区 ④	LQ2 P3	土師器 皿	10.2	—	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	口縁部4/12	
2143	317-8	—	6区	LH14 P3	土師器 皿	13.8	1.6	—	外面未調整	灰白2.5Y8/2	やや精良	1/12	
2144	316-5	—	6区	LK13 P1	土師器 皿	9.4	1.8	—	ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	やや精良	2/12	内面に工具痕。
2145	204-6	—	8区 ③	LN1 P6	土師器 皿	13.0	1.8	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	精良	2/12	
2146	317-6	—	6区	LL13 P3	土師器 皿	10.0	1.4	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	やや精良	2/12	
2147	316-3	—	6区	LK13 P1	土師器 皿	9.2	—	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	やや精良	口縁部3/12	
2148	212-3	表土	8区	MG22	土師器 皿	12.4	2.0	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/2	精良	4/12	
2149	316-2	—	6区	LK13 P1	土師器 皿	8.2	—	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/3	やや精良	口縁部2/12	
2150	316-7	—	6区	LL13 P2	土師器 皿	10.0	—	—	外面未調整	浅黄橙7.5YR8/4	やや精良	口縁部1/12	
2151	204-7	—	8区 ③	LN1 P6	土師器 皿	12.0	—	—	外面未調整	浅黄橙10YR8/3	精良	口縁部2/12	
2152	408-5	表土	1区	—	土師器 皿	—	—	高台径 13.0	—	橙5YR7/6	微砂粒含	底部1/12	摩滅のため調整不明。
2153	213-7	トレンチ ③-2	8区 ③	KX23	土師器 椀	—	—	高台径 4.2	—	にぶい橙7.5YR7/4	精良	底部10/12	
2154	411-2	SD36014	6区	LK13	土師器 椀	13.2	—	—	外面未調整	にぶい黄橙10YR7/3	微砂粒含	口縁部3/12	
2155	209-1	—	8区 ③	LN1 P6	土師器 盤	33.0	—	—	ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	6㎜の小石含	口縁部4/12	
2156	402-2	表土	5区	—	土師器 高杯	—	—	脚径 13.6	ヘラミガキ	橙5YR6/6	1㎜以下の砂粒含	脚部2/12	
2157	286-3	表土	5区	—	土師器 高杯	—	—	脚径 16.2	ハケメ	橙5YR6/6	1.5㎜以下の砂粒含	脚部1/12	
2158	414-6	表土	2区 ①	—	土師器 高杯	21.9	—	—	ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	微砂粒含	口縁部2/12	摩滅のため調整不明確。
2159	408-3	表土	1区	—	土師器 高杯	—	—	脚径 4.0	外面ヘラケズリ	橙5YR7/6	精良	脚柱部10/12	
2160	161-4	SD38060	8区 ④	LN4	土師器 甕	—	—	—	—	浅黄橙10YR8/4	精良	小片	
2161	203-1	—	8区 ④	KQ25 P1	土師器 甕	13.8	—	—	外面ハケメ	浅黄橙7.5YR8/4	精良	口縁部1/12	
2162	201-7	—	8区 ③	LL1 P8	土師器 甕	13.8	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	にぶい橙7.5YR7/3	精良	口縁部1/12	
2163	5-4	—	2区 ②	EY17 P1掘形	土師器 甕	—	—	—	—	浅黄橙10YR8/3	精良	小片	

第３-38表　出土遺物観察表

番号	実測番号	遺構	調査区	出土位置	器種器形	法量(cm) 口径	器高	その他	調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
2164	206-1	—	8区④	LP3 P2掘形	土師器甕	—	—	—	—	浅黄橙10YR8/3	精良	小片	口縁部外面に工具痕。
2165	200-3	—	8区③	LL1 P7	土師器甕	29.2	—	—	ハケメ	にぶい黄橙10YR7/3	微砂粒含	口縁部1/12	
2166	200-2	—	8区③	LL1 P6	土師器甕	28.8	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	微砂粒含	口縁部1/12	
2167	248-5	表土	1区	—	土師器甕	—	—	—	—	浅黄橙7.5YR8/3	2mm以下の砂粒含	把手完存	
2168	403-2	SD38060	8区④	LN4	土師器甕	—	—	—	外面ハケメ	にぶい黄橙10YR7/3	2mm以下の砂粒含	底部6/12	
2169	248-1	表土	1区	—	土師器甕	16.4	—	—	—	浅黄橙7.5YR8/3	2mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
2170	205-2	—	8区③	LM1 P6	土師器甕	—	—	—	—	灰白10YR8/2	やや精良	小片	
2171	206-2	—	8区④	LO3 P4	土師器甕	—	—	—	—	灰白10YR8/2	1mm以下の微砂粒含	小片	
2172	266-3	SK37001	7区	LR2	土師器鍋	33.8	—	—	—	灰白2.5Y8/2	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
2173	294-2	—	5区	CX17 P1	土師器鍋	21.6	—	—	—	浅黄橙10YR8/3	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	外面に煤付着。
2174	205-6	—	8区③	LM2 P9	土師器鍋	—	—	—	—	浅黄橙10YR8/3	やや精良	小片	外面に煤付着。
2175	398-6	表土	5区	—	土師器鍋	22.4	—	—	工具ナデ	橙2.5Y7/6	2mm以下の微砂粒含	口縁部1/12	外面に煤付着。
2176	214-2	トレンチ③-2	8区③	KX24	土師器鍋	19.2	—	—	外面未調整、内面ハケメ	にぶい黄橙10YR7/4	微砂粒含	口縁部2/12	
2177	314-1	表土	6区	LK9	土師器鍋	20.6	—	—	—	橙7.5Y7/6	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
2178	201-5	—	8区②	MB18 P1	土師器鍋	—	—	—	—	浅黄橙10YR8/3	精良	小片	
2179	201-6	—	8区②	MC18 P3	土師器鍋	—	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/3	精良	小片	
2180	215-2	トレンチ③-2	8区③	KX24	土師器鍋	22.6	—	—	工具ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	精良	口縁部1/12	外面に煤付着。
2181	198-6	—	8区④	MG21 P1	土師器鍋	—	—	—	—	灰白10YR8/2	1mm以下の砂粒含	小片	外面に煤付着。
2182	288-2	表土	5区	CQ12	土師器鍋	28.0	—	—	—	灰白10YR8/2	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
2183	285-1	トレンチ4	5区	CV11	土師器鍋	34.2	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	灰白10YR8/2	3mm以下の砂粒含	口縁部2/12	外面に煤若干付着。
2184	239-6	—	9区	KW11 P4	土師器鍋	—	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/3	1.5mm以下の砂粒含	小片	外面に煤付着。
2185	201-8	—	8区③	KQ25 P2	土師器鍋	13.4	—	—	—	灰白10YR8/2	精良	口縁部1/12	外面に煤付着。
2186	201-9	—	8区①	MH21 P2	土師器鍋	10.4	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/2	精良	口縁部1/12	
2187	201-3	—	8区②	MB19 P1	土師器鍋	—	—	—	—	浅黄橙7.5YR8/4	精良	小片	
2188	215-1	トレンチ③-2	8区③	KX24	土師器鍋	25.4	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	にぶい橙7.5YR7/3	精良	口縁部2/12	
2189	242-2	表土	9区	—	土師器鍋	—	—	—	外面ナデ、内面工具ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	微砂粒含	小片	
2190	162-2	SK38057	8区④	LN4	土師器鍋	21.0	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/3	精良	口縁部1/12	
2191	238-5	—	9区	KX13 P2	土師器鍋	30.4	—	—	—	にぶい橙7.5YR7/4	精良	口縁部1/12	内外面に煤付着。
2192	241-1	表土	9区	—	土師器鍋	35.0	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	微砂粒含	口縁部2/12	
2193	201-4	—	8区②	MB18 P3	土師器鍋	—	—	—	—	にぶい黄橙10YR7/4	精良	小片	外面に煤付着。
2194	203-2	—	8区④	KQ25 P1	土師器鍋	—	—	—	—	浅黄橙7.5YR8/4	精良	小片	
2195	288-1	表土	5区	CU11	土師器羽釜	39.0	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	浅黄橙10YR8/3	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
2196	401-3	表土	9区	—	土師器羽釜	40.8	—	—	—	にぶい橙7.5YR7/4	2mm以下の微砂粒含	口縁部1/12	
2197	201-1	—	8区②	MC19 P6	土師器羽釜	—	—	—	ハケメ	にぶい黄橙10YR7/3	精良	小片	外面に煤付着。
2198	216-1	東トレンチ	8区③	LI3	土師器羽釜	34.0	—	—	外面ハケメ、内面ナデ	灰白2.5Y8/2	1.5mm以下の砂粒含	口縁部1/12	鍔以下に煤付着。
2199	201-2	—	8区②	MC17 P1	土師器茶釜	—	—	—	—	灰白10YR8/2	精良	小片	
2200	210-1	トレンチ③-2	8区③	KX24	土師器茶釜	30.0	—	—	外面ハケメ、内面工具ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	微砂粒含	口縁部1/12	
2201	213-1	表土	8区④	LN2	黒色土器杯	—	—	—	外面未調整、内面ヘラミガキ	灰白2.5Y8/2	2mm以下の砂粒含	小片	A類。
2202	207-2	—	8区④	LP2 P5	ロクロ土師器椀	—	—	高台径6.0	—	浅黄橙10YR8/3	6mm以下の小石含	底部1/12	
2203	318-1	—	6区	LL12 P6	ロクロ土師器皿	—	—	底径4.4	ロクロナデ	浅黄橙7.5YR8/4	2mm以下の砂粒含	底部完存	
2204	202-4	—	8区③	KO25 P1	ロクロ土師器椀	—	—	—	—	浅黄橙10YR8/3	微砂粒含	底部5/12	
2205	399-1	SD36014	6区	LL13	製塩土器	—	4.0	—	外面未調整、内面ナデ	橙5YR6/8	3mm以下の砂粒多含	小片	
2206	397-1	表土	2区①	—	須恵器蓋	—	—	—	天井部外面ロクロケズリ	灰白N7/	1mm以下の砂粒含	摘み完存	
2207	290-6	表土	5区	—	須恵器蓋	—	—	—	—	灰N5/	2mm以下の砂粒含	摘み4/12	
2208	247-3	表土	1区	—	須恵器蓋	12.6	—	—	天井部外面ロクロケズリ	灰白N7/	精良	口縁部2/12	
2209	247-2	表土	1区	AN6	須恵器蓋	12.8	—	—	天井部外面ロクロケズリ	灰白N7/	精良	口縁部1/12	
2210	414-4	表土	2区①	—	須恵器杯	13.0	—	受部径15.0	ロクロナデ	灰白N7/	1mm以下の砂粒含	受部1/12	
2211	5-7	—	2区②	EW16 P1	須恵器杯	—	—	—	ロクロナデ	灰白N7/	精良	小片	
2212	207-4	—	8区④	LO4 P3	須恵器杯	10.0	3.7	受部径11.6	ロクロナデ	にぶい褐7.5YR5/3	精良	2/12	酸化焼成。
2213	247-4	表土	1区	AK5	須恵器杯	14.0	3.6	高台径8.2	底部外面ロクロケズリ	灰N6/	精良	1/12	
2214	6-5	表土	2区②	—	須恵器杯	—	—	高台径9.8	ロクロナデ	灰N6/	精良	底部2/12	
2215	247-1	表土	1区	—	須恵器壺	18.5	—	—	カキメ	灰N7/	やや精良	口縁部1/12	
2216	251-2	表土	3区	—	須恵器壺	—	—	高台径8.1	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	精良	底部5/12	
2217	6-3	表土	2区②	—	須恵器壺	—	—	高台径9.8	体部外面下端ロクロケズリ	灰N6/	精良	底部2/12	底部外面にヘラ記号。
2218	408-6	表土	2区②	—	須恵器高杯	—	—	脚基部径3.7	ロクロナデ	灰N7/	精良	脚基部完存	
2219	251-4	—	3区	DG8 P2	灰釉陶器椀	—	—	高台径5.3	底部外面ロクロケズリ	灰白2.5Y7/1	精良	底部3/12	
2220	226-4	SD39009	9区	—	灰釉陶器椀	—	—	高台径6.6	底部外面未調整	灰白2.5Y8/1	精良	底部5/12	
2221	409-1	表土	2区②	—	灰釉陶器椀	—	—	高台径8.2	底部外面未調整	灰白2.5Y8/1	精良	底部3/12	

第３-39表　出土遺物観察表

番号	実測番号	遺構	調査区	出土位置	器種 器形	法量 (cm) 口径	器高	その他	調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
2222	6-4	表土	2区②	—	灰釉陶器 椀	—	—	高台径7.6	底部外面未調整	灰白N8/	精良	底部1/12	
2223	204-1	—	8区④	KQ25 P1	灰釉陶器 椀	—	—	底径6.5	底部外面未調整	灰白N7/	精良	底部3/12	
2224	6-1	表土	2区①	—	灰釉陶器 甕	—	—	—	外面タタキ	灰N5/	精良	小片	
2225	262-2	包含層	7区	LS8	緑釉陶器 椀	11.7	—	—	ロクロナデ	淡黄2.5Y8/3	精良	口縁部1/12	近江。
2226	212-2	表土	8区③	—	山茶椀 椀	—	—	高台径7.6	ロクロナデ	灰白N8/	7㎜の小石含	底部10/12	内面に墨痕。
2227	289-7	表土	5区	—	山茶椀 椀	14.6	—	—	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	5㎜の小石含	口縁部1/12	輪花。
2228	296-6	—	5区	CW14 P6	山茶椀 椀	14.6	—	—	ロクロナデ	灰白5Y7/1	6㎜の小石含	口縁部1/12	内面黒変。
2229	317-1	—	6区	LN11 P1	山茶椀 椀	—	—	高台径7.4	ロクロナデ	灰白N8/	やや精良	底部1/12	
2230	286-6	表土	5区	CS11	山茶椀 椀	—	—	高台径7.8	ロクロナデ	灰白5Y7/1	1㎜以下の砂粒含	底部6/12	内面平滑。
2231	6-2	表土	2区①	—	山茶椀 椀	—	—	高台径7.4	ロクロナデ	灰白N8/	精良	底部完存	
2232	314-4	表土	6区	LN11	山茶椀 椀	—	—	高台径6.9	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	1㎜以下の砂粒含	底部3/12	
2233	287-1	表土	5区	CV14	山茶椀 椀	—	—	高台径7.9	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	1.5㎜以下の砂粒含	底部完存	内面に重焼痕。
2234	290-3	表土	5区	CQ13	山茶椀 椀	—	—	高台径7.6	ロクロナデ	灰白N8/	精良	底部1/12	
2235	204-2	—	8区④	LL5 P2	山茶椀 椀	—	—	高台径8.8	ロクロナデ	灰白N8/	精良	底部1/12	
2236	315-4	排土	6区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径6.6	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	1.5㎜以下の砂粒含	底部3/12	
2237	314-2	表土	6区	LM13	山茶椀 椀	—	—	高台径7.2	ロクロナデ	灰黄2.5Y7/2	1㎜以下の砂粒含	底部5/12	内面平滑。
2238	286-7	表土	5区	CS11	山茶椀 椀	—	—	高台径8.0	ロクロナデ	灰白7.5Y7/1	2㎜以下の砂粒含	底部4/12	内面平滑。
2239	84-4	SK38021	8区	NB25	山茶椀 椀	—	—	—	ロクロナデ	灰白N8/	精良	小片	
2240	314-3	表土	6区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径7.6	ロクロナデ	灰白7.5Y7/1	1㎜以下の砂粒含	底部5/12	
2241	315-3	排土	6区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径6.8	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	1.5㎜以下の砂粒含	底部4/12	
2242	285-5	包含層	5区	CV11	山茶椀 椀	—	—	高台径6.6	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	1㎜以下の砂粒含	底部2/12	内面平滑。内面に重焼痕。
2243	289-2	表土	5区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径7.6	ロクロナデ	灰白N7/	精良	底部3/12	内面平滑。
2244	266-1	SK37001	7区	LR3	山茶椀 椀	—	—	高台径7.4	ロクロナデ	灰白5Y7/1	精良	底部2/12	
2245	296-1	—	5区	CX14 P1掘形	山茶椀 椀	—	—	高台径7.2	ロクロナデ	灰黄2.5Y7/2	やや精良	底部5/12	
2246	290-1	表土	5区	CX15	山茶椀 椀	—	—	高台径5.6	ロクロナデ	灰白5Y7/1	精良	底部11/12	
2247	239-4	表土	9区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径10.0	ロクロナデ	灰白7.5Y7/1	微砂粒含	底部2/12	
2248	290-5	表土	5区	CW13	山茶椀 椀	16.6	—	—	ロクロナデ	灰黄2.5Y7/2	精良	口縁部1/12	
2249	285-6	包含層	5区	CX11	山茶椀 椀	15.4	—	—	ロクロナデ	灰黄2.5Y7/2	1㎜以下の砂粒含	口縁部1/12	
2250	296-4	—	5区	CW14 P5	山茶椀 椀	14.8	—	—	ロクロナデ	灰白7.5Y7/1	精良	口縁部1/12	内面に煤付着。
2251	288-6	表土	5区	CY13	山茶椀 椀	—	—	高台径5.8	ロクロナデ	灰白5Y7/1	精良	底部3/12	内面平滑。
2252	286-8	表土	5区	CR13	山茶椀 椀	—	—	高台径7.0	ロクロナデ	灰白5Y7/1	2㎜以下の砂粒含	底部4/12	
2253	206-8	—	8区④	LN3 P6	山茶椀 椀	—	—	高台径7.2	ロクロナデ	灰白N7/	精良	底部2/12	
2254	290-2	表土	5区	CR11	山茶椀 椀	—	—	高台径6.8	ロクロナデ	灰黄2.5Y7/2	精良	底部3/12	内面平滑。
2255	287-3	表土	5区	CW14	山茶椀 椀	16.4	5.4	高台径6.8	ロクロナデ	灰黄2.5Y7/2	1.5㎜以下の砂粒含	7/12	内面平滑。内面に炭化物付着。
2256	296-5	—	5区	CX14 P2	山茶椀 椀	—	—	高台径6.0	ロクロナデ	灰黄2.5Y7/2	やや精良	底部11/12	内外面一部黒変。
2257	288-4	表土	5区	CV12	山茶椀 椀	—	—	高台径6.0	ロクロナデ	灰白2.5Y8/1	精良	底部3/12	高台に工具痕。
2258	289-1	表土	5区	—	山茶椀 椀	15.8	5.8	高台径6.1	ロクロナデ	灰黄2.5Y7/2	やや精良	9/12	
2259	206-6	—	8区④	LN3 P2	山茶椀 椀	—	—	高台径6.8	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	精良	底部4/12	
2260	214-3	東トレンチ	8区③	LI3	山茶椀 椀	—	—	高台径6.3	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	微砂粒含	底部6/12	
2261	289-5	表土	5区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径5.8	ロクロナデ	灰白2.5Y8/1	精良	底部1/12	
2262	204-5	—	8区④	LM5 P5	山茶椀 椀	—	—	高台径7.0	ロクロナデ	灰白5Y7/1	精良	底部2/12	内面黒変。
2263	288-5	表土	5区	CV15	山茶椀 椀	—	—	高台径5.6	ロクロナデ	灰N6/	精良	底部完存	
2264	286-4	表土	5区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径6.5	ロクロナデ	灰黄2.5Y7/2	1㎜以下の砂粒含	底部4/12	内面平滑。
2265	253-4	SD33001	3区	DG12 DH12	山茶椀 椀	—	—	高台径6.4	ロクロナデ	灰白2.5Y8/1	1㎜以下の砂粒含	底部4/12	
2266	267-2	包含層	7区	LR5	山茶椀 椀	—	—	高台径7.0	ロクロナデ	灰黄2.5Y7/2	精良	底部6/12	高台剥離多い。
2267	289-3	表土	5区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径8.6	ロクロナデ	灰白2.5Y8/1	精良	底部3/12	内面平滑。
2268	287-4	表土	5区	CR13	山茶椀 椀	—	—	高台径7.0	ロクロナデ	灰黄2.5Y7/2	2㎜以下の砂粒含	底部4/12	内面平滑。
2269	289-4	表土	5区	—	山茶椀 椀	—	—	高台径6.3	ロクロナデ	灰白5Y7/1	精良	底部10/12	
2270	266-2	SK37001	7区	LR2	山茶椀 椀	14.4	—	—	ロクロナデ	灰白7.5Y7/1	精良	口縁部1/12	
2271	207-1	—	8区④	LP5 P5	山茶椀 椀	—	—	高台径7.5	ロクロナデ	灰白2.5Y8/1	精良	底部1/12	
2272	215-5	排土	8区④	—	山茶椀 椀	—	—	高台径5.5	ロクロナデ	灰白5Y7/1	精良	底部完存	
2273	266-4	SK37001	7区	LR3	山茶椀 椀	—	—	高台径5.4	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	精良	底部完存	高台大半剥離。
2274	290-4	表土	5区	CW13	山茶椀 椀	—	—	底径4.0	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	やや精良	底部7/12	
2275	159-4	SK38048	8区④	—	山茶椀 皿	7.6	—	—	ロクロナデ	灰白5Y7/1	精良	口縁部1/12	口縁部に灰釉。
2276	296-3	—	5区	CX17 P1	山茶椀 皿	8.2	—	—	ロクロナデ	灰白N7/	精良	口縁部2/12	
2277	287-2	表土	5区	CW14	山茶椀 皿	8.2	2.4	底径4.0	ロクロナデ	浅黄2.5Y7/3	1.5㎜以下の砂粒含	3/12	
2278	286-5	表土	5区	—	山茶椀 皿	—	—	底径4.4	ロクロナデ	灰白5Y7/1	1㎜以下の砂粒含	底部7/12	
2279	296-7	—	5区	CX14 P2	山茶椀 皿	8.6	1.5	底径5.2	ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	2㎜以下の砂粒含	2/12	

第３-40表　出土遺物観察表

番号	実測番号	遺構	調査区	出土位置	器種 器形	法量 (cm) 口径	器高	その他	調整技法の特徴	色調	胎土	残存度	備考
2280	296-2	—	5区	CX17 P1	山茶椀 小椀	—	—	高台径 5.0	ロクロナデ	灰白5Y7/1	精良	底部1/12以下	
2281	162-3	SK38061	8区 ④	LN3	山茶椀 小椀	—	—	高台径 5.2	ロクロナデ	灰黄2.5Y7/2	精良	底部5/12	
2282	214-1	表土	8区 ③	—	陶器 鉢	41.6	—	—	外面未調整	にぶい橙7.5YR7/4	精良	口縁部1/12	常滑。内面平滑。
2283	209-2	表土	8区	東延長	陶器 擂鉢	32.6	13.1	底径 14.0	外面ロクロケズリ	にぶい赤褐10YR8/2	精良	5/12	
2284	399-4	表土	8区	東延長	陶器 壺	—	—	—	ロクロナデ	灰白N7/	精良	底部4/12	
2285	240-4	—	9区	KX13 P2	陶器 甕	—	—	—	—	褐灰10YR5/1	微砂粒含	小片	常滑。
2286	215-4	表土	8区 ③	LQ1	陶器 甕	—	—	—	—	灰5Y4/1	精良	小片	常滑。
2287	206-5	—	8区	LN2 P4	陶器 甕	—	—	—	—	褐7.5YR4/3	精良	小片	常滑。
2288	216-2	表土	8区 ③	LJ2	陶器 甕	32.0	—	—	—	橙2.5YR6/6	2.5mm以下の砂粒含	口縁部1/12以下	常滑。
2289	200-1	—	8区 ③	KX23 P2	陶器 甕	39.6	—	—	—	灰褐5YR5/2	精良	口縁部1/12	常滑。
2290	211-2	表土	8区 ①	MH21	陶器 甕	—	—	—	—	灰白N8/	精良	小片	
2291	214-4	東トレンチ	8区 ③	LI3	陶器 甕	—	—	—	—	灰5Y5/1	6mm以下の砂粒含	小片	常滑。
2292	316-1	—	6区	LK13 P1	陶器 甕	40.6	—	—	—	にぶい橙5YR7/4	2mm以下の砂粒含	口縁部1/12	常滑。
2293	211-1	表土	8区 ③	KY23	陶器 甕	—	—	底径 12.6	ナデ	灰白N7/	精良	底部3/12	
2294	285-4	包含層	5区	CV12	施釉陶器 天目茶椀	12.1	—	—	外面下半ロクロケズリ	淡黄2.5Y8/3	1mm以下の砂粒含	口縁部1/12	
2295	315-6	表土	6区	LN12	施釉陶器 天目茶椀	12.2	—	—	ロクロナデ	灰白2.5Y8/2	1mm以下の砂粒含	口縁部2/12	
2296	211-5	表土	8区	—	施釉陶器 天目茶椀	—	—	高台径 4.6	—	灰白5Y8/1	精良	底部1/12	
2297	241-3	表土	9区	—	施釉陶器 壺	7.0	—	—	—	灰白8/	精良	口縁部4/12	鉄釉。
2298	207-7	—	8区 ④	LQ2 P3	陶器 壺	—	—	体部径 10.6	ロクロナデ	橙2.5Y6/6	精良	体部1/12	肩部に波板状突帯。
2299	285-2	トレンチ3	5区	CV11	陶器 壺	—	—	体部径 5.4	ロクロナデ	淡黄2.5Y8/3	1.5mm以下の砂粒含	体部7/12	
2300	314-5	表土	6区	—	施釉陶器 鉢	—	—	底径 3.0	ロクロナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1mm以下の砂粒含	底部6/12	鉄釉。
2301	315-1	排土	6区	—	施釉陶器 皿	10.8	—	—	ロクロナデ	灰黄2.5Y7/2	微砂粒含	口縁部2/12	鉄釉。古瀬戸。
2302	211-4	表土	8区 ④	LP3	施釉陶器 皿	12.0	3.2	高台径 6.4	底部外面ロクロケズリ	灰白5Y8/1	精良	1/12	透明釉。
2303	315-2	排土	6区	—	施釉陶器 皿	29.7	—	—	ロクロナデ	灰黄2.5Y7/2	1mm以下の砂粒含	1/12	灰釉。古瀬戸。
2304	317-2	—	6区	LN13 P1	施釉陶器 鉢	—	—	—	ロクロナデ	灰白10YR8/2	精良	小片	灰釉。古瀬戸。
2305	202-7	—	8区 ②	MC20 P3	施釉陶器 鉢	—	—	—	ロクロナデ	にぶい橙5YR7/3	精良	小片	灰釉。
2306	205-3	—	8区 ③	LM1 P6	施釉陶器 鉢	—	—	—	ロクロナデ	浅黄橙10YR8/3	精良	小片	灰釉。瀬戸。
2307	285-3	包含層	5区	CX11	施釉陶器 椀	—	—	高台径 5.3	底部外面ロクロケズリ	淡黄2.5Y8/3	1mm以下の砂粒含	底部6/12	黄瀬戸釉。瀬戸。
2308	241-2	表土	9区	—	施釉陶器 壺	—	—	高台径 9.8	底部外面ロクロケズリ	灰白2.5Y8/2	精良	底部3/12	灰釉。瀬戸。
2309	215-6	表土	8区 ③	LF3	青磁 椀	—	—	—	—	灰N6/	精良	小片	
2310	286-9	表土	5区	CV12	青磁 椀	—	—	高台径 3.7	—	灰白5Y7/1	精良	底部3/12	陰刻花文。
2311	290-7	表土	5区	CX15	青磁 椀	—	—	高台径 5.2	—	灰白N8/	精良	底部2/12	
2312	211-3	表土	8区 ③	KV24	青磁 椀	12.8	—	—	ロクロナデ	灰白N8/	精良	口縁部2/12	連弁文。
2313	242-5	表土	9区	—	磁器 椀	6.5	—	—	ロクロナデ	灰白2.5Y8/1	精良	口縁部2/12	染付。菊花文。
2314	241-4	表土	9区	—	陶器 人形	—	—	—	—	灰白10YR8/2	精良	頭部完存	たたら造。
2315	212-1	表土	8区 ③	KY23	瓦質土器 風炉	42.7	—	—	ナデ	黒N2/	精良	口縁部1/12	口縁部にスタンプによる花菱文列。
2316	314-6	表土	6区	LM14	瓦質土器 鉢	—	—	—	ナデ	褐灰10YR5/1	1mm以下の砂粒含	脚小片	
2317	202-8	—	8区 ③	KQ25 P2	瓦質土器 鉢	—	—	—	ロクロナデ	灰褐7.5YR5/2	精良	小片	体部下端に突線。脚欠損。
2318	199-1	—	8区 ①	MI21 P3	丸瓦	—	7.0	—	外面ヘラミガキ、内面布目痕	灰N5/	1.5mm以下の砂粒含	2/12以下	
2319	242-1	表土	9区	—	軒桟瓦	—	—	垂長 4.1	—	灰4/	精良	1/12以下	唐草文。
2320	251-1	表土	3区	—	平瓦	—	—	—	凸面縄タタキ、凹面ナデ	灰褐5Y6/2	精良	1/12以下	酸化焼成。
2321	314-7	排土	6区	—	平瓦	—	—	—	凸面ヘラケズリ、凹面布目	灰黄褐10YR6/2	精良	2/12以下	
2322	315-5	排土	6区	—	鬼瓦	—	—	—	—	灰7.5Y6/1	2.5mm以下の砂粒含	小片	
2323	213-8	トレンチ ③-2	8区 ③	KX24	加工円盤	4.8	厚 1.5	重 33g	—	浅黄橙10YR8/3	2mm以下の砂粒含	完形	陶器甕の底部を加工。
2324	216-5	表土	8区 ③	—	加工円盤	4.4	厚 1.2	重 27g	—	灰白5Y8/2	精良	完形	施釉陶器椀の底部を加工。
2325	317-3	—	6区	LK13 P2	加工円盤	4.8	厚 1.0	重 26.7g	—	淡黄2.5Y8/3	精良	完形	古瀬戸椀底部を加工。
2326	248-8	排土	1区	—	土錘	2.6	残長 5.9	残重 29g	—	灰白2.5Y8/1	やや精良	9/12	
2327	207-3	—	8区 ④	LO4 P2	土錘	2.1	残長 6.0	残重 25g	—	にぶい褐7.5YR5/3	精良	ほぼ完形	
2328	267-6	包含層	7区	LR5	土錘	2.3	残長 5.3	残重 20g	—	褐灰7.5YR5/1	精良	8/12	
2329	251-6	—	3区	DG8	土錘	1.5	残長 3.4	残重 6.3g	—	にぶい黄橙10YR7/3	精良	11/12	
2330	396-1	表土	2区 ②	EW16	石鏃	幅 1.5	長 2.1	重 1g	—	灰N/	サヌカイト	完形	
2331	396-2	—	8区 ④	LN2 P1	石錘	幅 6.5	長 7.7	重 106.8g	—	灰白10Y7/1	緑泥片岩	完形	
2332	396-4	表土	8区 ②	NC5	石斧	残幅 5.9	残長 11.9	残重 342.9g	—	灰白7.5Y8/1	泥岩	11/12	定角式磨製石斧。
2333	313-5	—	6区	LJ10 P8	砥石	残幅 5.0	残長 6.7	残重 100g	—	にぶい褐7.5YR6/3	泥岩	10/12以下	
2334	207-6	—	8区 ④	LN3 P2	砥石	幅 5.8	残長 6.8	残重 69g	—	灰白10YR8/1	泥岩	9/12以下	
2335	313-4	—	6区	LI13 P3	砥石	幅 3.2	残長 4.4	残重 15g	—	にぶい橙5YR7/3	頁岩	9/12以下	
2336	313-3	—	6区	LJ11 P7	砥石	幅 3.4	残長 6.6	残重 32g	—	灰白7.5Y8/2	頁岩	10/12以下	
2337	1001-1	表土	8区 ③	KY24	金属製品 銭貨	2.5	厚 0.1	残重 32g	—	—	—	完形	3枚癒着。「熙寧元宝」。

第3-41表　出土遺物観察表

Ⅴ．微化石分析

１．分析試料

分析試料の一覧を第４表に示す。試料 No.53 ～ 58 は、室町時代の区画溝の埋土であり、泥層で構成される。このうち、試料 No.53 の１点のみがＳＤ 38027 から、残りの試料 No.54 ～ 58 がＳＤ 38080 から採取された試料である。ＳＤ 38080 では、溝の底部の 119 層（試料 No.58）から上位の 116 層（試料 No.54）にかけて層位的に細かく連続して採取された。

試料 No.59、60 は基本層序の堆積層で、シルトを主体とする堆積層である。

２．珪藻分析・花粉分析・植物珪酸体分析

Ａ．方法

（１）珪藻分析

各試料について以下の処理を行い、珪藻分析用プレパラートを作製した。

① 湿潤重量約 1.0g を取り出し、秤量した後ビーカーに移して 30% 過酸化水素水を加え、加熱・反応させ、有機物の分解と粒子の分散を行った。

② 反応終了後、水を加え、１時間程してから上澄み液を除去し、細粒のコロイドを捨てる。この作業を 20 回ほど繰り返した。

③ 懸濁残渣を遠心管に回収し、マイクロピペットで適量取り、カバーガラスに滴下し、乾燥させた。乾燥後は、マウントメディアで封入し、プレパラートを作製した。

作製したプレパラートを顕微鏡下 600 ～ 1000 倍で観察し、プレパラートの2/3以上の面積について同定・計数した。顕微鏡は、三眼生物顕微鏡　オリンパス BX43（珪藻）を使用した。珪藻殻は、完形と非完形（原則として半分程度残っている殻）に分けて計数し、完形殻の出現率として示した。さらに、試料の処理重量とプレパラート上の計数面積から、堆積物１g 当たりの殻数を計算した。また、保存状態の良好な珪藻化石を選び、写真を写真図版 49 に載せた。

（２）花粉分析

試料（湿重量約３～４g）を遠沈管にとり、10% 水酸化カリウム溶液を加え、10 分間湯煎する。水洗後、46% フッ化水素酸溶液を加え、１時間放置する。水洗後、比重分離（比重 2.1 に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離）を行い、浮遊物を回収し、水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続いてアセトリシス処理（無水酢酸９：濃硫酸１の割合の混酸を加え 20 分間湯煎）を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し、保存用とする。この残渣より適宜プレパラートを作製し、全面を検鏡した。顕微鏡は、三眼生物顕微鏡　オリンパス　BH-2（花粉）を使用した。また、保存状態の良好な花粉化石を選び、写真を写真図版 49 に載せた。

（３）植物珪酸体分析

秤量した試料を乾燥後、再び秤量する（絶対乾燥重量測定）。別に試料約１g（秤量）をトールビーカーにとり、約 0.02g のガラスビーズ（直径約 0.04㎜）を加える。これに 30% の過酸化水素水を約 20 ～ 30cc 加え、脱有機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波洗浄機による試料の分散後、沈降法により 0.01㎜以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作製し、検鏡した。同定および計数は、機動細胞珪酸体に由来するプラント・オパールについて、ガラスビーズが 300 個に達するまで行った。また、植物珪酸体の写真を撮り、写真を写真図版 50 に載せた。

Ｂ．結果

（１）珪藻分析

珪藻化石の環境指標種群　珪藻化石の環境指標種群は、主に小杉（1988）および安藤（1990）が設定

試料No.	種別	調査区・遺構・層位
53	堆積物	８区　SD38027
54	堆積物	８区　SD38080　116層
55	堆積物	８区　SD38080　117層
56	堆積物	８区　SD38080　88層
57	堆積物	８区　SD38080　118層
58	堆積物	８区　SD38080　119層
59	堆積物	８区　基本層序６層
60	堆積物	８区　基本層序４層

第４表　分析試料一覧

し、千葉・澤井（2014）により再検討された環境指標種群に基づいた（第５表）。写真図版 49 に珪藻化石の写真を示して同定の根拠とするとともに、同定された種についての環境指標群とそれ以外の対応関係を結果表（第６表）に示す。

なお、環境指標種群以外の珪藻種については、汽水種は汽水不定・不明種（?）として、淡水種は広布種（W）として､その他の種はまとめて不明種（?）として扱った。また、破片のため属レベルの同定にとどめた分類群は､その種群を不明（?）として扱った。

結果　堆積物から検出された珪藻化石は、汽水種が１分類群１属１種、淡水種が 46 分類群 26 属 31 種１変種であった（第６表）。

これらの珪藻化石は、淡水域における７環境指標種群（Ｊ、Ｋ、Ｌ、Ｏ、Ｐ、Qa、Qb）に分類された。珪藻化石群集の特徴から、堆積物はⅠ～Ⅲ帯に分帯された（第 136 図）。

以下では、各珪藻帯における珪藻化石の特徴とその堆積環境について述べる。

・Ⅰ帯：８区　基本層序ａ層、ｂ層（試料 No.60、59）

堆積物１ｇ中の珪藻殻数は 3.7×10^3 個および 2.4×10^3 個、完形殻の出現率は 55.6% および 16.7% である。淡水種のみが検出された。堆積物中の珪藻殻数は非常に少ない。環境指標種群では、陸生珪藻Ａ群（Qa）のみが検出された。

珪藻化石の残存状況から、基本的に乾燥した陸域環境の可能性が考えられる。

・Ⅱａ・Ⅱｂ帯：８区　ＳＤ 38080　116 層～ 119 層（ａ亜帯：試料 No.58 ～ 56、ｂ亜帯：No.55、54）

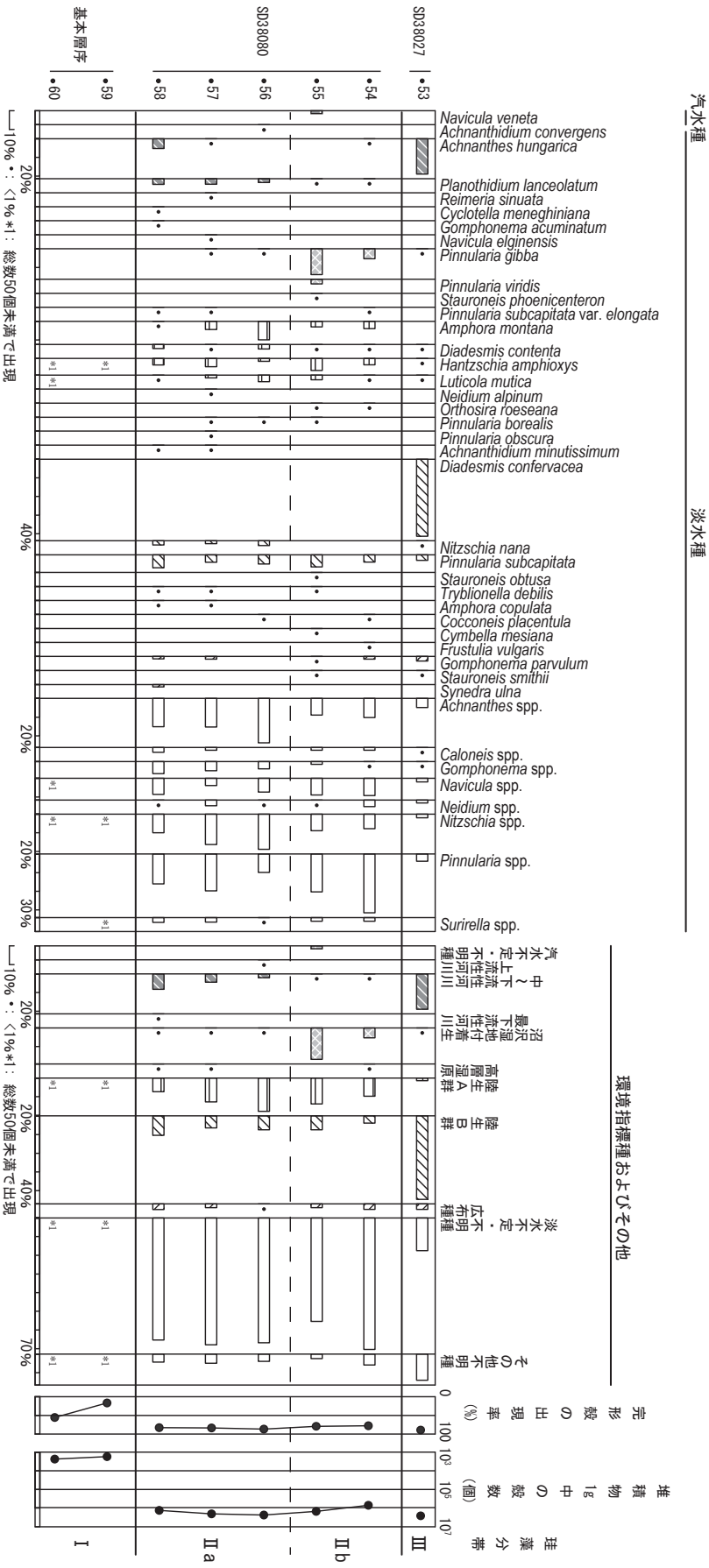
堆積物１ｇ中の珪藻殻数は 8.5×10^5 個～ 3.7×10^6 個、完形殻の出現率は 78.0% ～ 86.6% である。主に淡水種からなり、試料 No.55 のみ汽水種をわずかに伴う。堆積物中の珪藻殻数は非常に多い。環境指標種群では、陸生珪藻（Qa、Qb）が多く、中～下流性河川指標種群（Ｋ）や沼沢湿地付着生指標種群（Ｏ）をわずかに伴う。ｂ亜帯では、陸生珪藻（Qa、Qb）の他に、沼沢湿地付着生指標種群（Ｏ）も特徴的である。

[外洋指標種群（A）] 塩分濃度が35ﾊﾟｰﾐﾙ以上の外洋水中を浮遊生活する種群である。
[内湾指標種群（B）] 塩分濃度が26～35ﾊﾟｰﾐﾙの内湾水中を浮遊生活する種群である。
[海水藻場指標種群（C1）] 塩分濃度が12～35ﾊﾟｰﾐﾙの水域の海藻や海草（アマモなど）に付着生活する種群である。
[海水砂質干潟指標種群（D1）] 塩分濃度が26～35ﾊﾟｰﾐﾙの水域の砂底（砂の表面や砂粒間）に付着生活する種群である。この生育場所には、ウミニナ類、キサゴ類、アサリ、ハマグリ類などの貝類が生活する。
[海水泥質干潟指標種群（E1）] 塩分濃度が12～30ﾊﾟｰﾐﾙの水域の泥底に付着生活する種群である。この生育場所には、イボウミニナ主体の貝類相やカニなどの甲殻類相が見られる。
[汽水藻場指標種群（C2）] 塩分濃度が4～12ﾊﾟｰﾐﾙの水域の海藻や海草に付着生活する種群である。
[汽水砂質干潟指標種群（D2）] 塩分濃度が5～26ﾊﾟｰﾐﾙの水域の砂底（砂の表面や砂粒間）に付着生活する種群である。
[汽水泥質干潟指標種群（E2）] 塩分濃度が2～12ﾊﾟｰﾐﾙの水域の泥底に付着生活する種群である。淡水の影響により、汽水化した塩性湿地に生活するものである。
[上流性河川指標種群（J）] 河川上流部の渓谷部に集中して出現する種群である。これらは、殻面全体で岩にぴったりと張り付いて生育しているため、流れによってはぎ取られてしまうことがない。
[中～下流性河川指標種群（K）] 河川の中～下流部、すなわち河川沿いで河成段丘、扇状地および自然堤防、後背湿地といった地形が見られる部分に集中して出現する種群である。これらの種には、柄またはさやで基物に付着し、体を水中に伸ばして生活する種が多い。
[最下流性河川指標種群（L）] 最下流部の三角州の部分に集中して出現する種群である。これらの種には、水中を浮遊しながら生育している種が多い。これは、河川が三角州地帯に入ると流速が遅くなり、浮遊生の種でも生育できるようになるためである。
[湖沼浮遊生指標種群（M）] 水深が約1.5m以上で、岸では水生植物が見られるが、水底には植物が生育していない湖沼に出現する種群である。
[湖沼沼沢湿地指標種群（N）] 湖沼における浮遊生種としても、沼沢湿地における付着生種としても優勢な出現が見られ、湖沼・沼沢湿地の環境を指標する可能性が大きい種群である。
[沼沢湿地付着生指標種群（O）] 水深1m内外で、一面に植物が繁殖している所および湿地において、付着の状態で優勢な出現が見られる種群である。
[高層湿原指標種群（P）] 尾瀬ケ原湿原や霧ケ峰湿原などのように、ミズゴケを主とした植物群落および泥炭層の発達が見られる場所に出現する種群である。
[陸域指標種群（Q）] 上述の水域に対して、陸域を生息地として生活している種群である（陸生珪藻と呼ばれている）。
[陸生珪藻Ａ群（Qa）] 耐乾性の強い特定のグループである。
[陸生珪藻Ｂ群（Qb）] Ａ群に随伴し、湿った環境や水中にも生育する種群である。

第５表　珪藻化石の環境指標種群一覧

No.		分類群	種群	53	54	55	56	57	58	59	60
1	*Navicula*	*veneta*	?			3					
2	*Achnanthes*	*hungarica*	K	39	1			2	12		
3	*A.*	spp.	?	10	21	18	48	31	35		
4	*Achnanthidium*	*convergens*	J				1				
5	*A.*	*minutissimum*	Qb					1	2		
6	*Amphora*	*copulata*	W					1	1		
7	*A.*	*montana*	Qa		8	6	20	9	2		
8	*Caloneis*	spp.	?	2	3	3		3	6		
9	*Cocconeis*	*placentula*	W		1		1				
10	*Cyclotella*	*meneghiniana*	L						1		
11	*Cymbella*	*mesiana*	W			1					
12	*C.*	spp.	?				1		2		
13	*Diadesmis*	*confervacea*	Qb	85							
14	*D.*	*contenta*	Qa	1	2	2	5	1	5		
15	*Diploneis*	spp.	?		2			1			
16	*Eunotia*	spp.	?	2	1		2	1	2		
17	*Frustulia*	*vulgaris*	W		2						
18	*F.*	spp.	?						2		
19	*Gomphonema*	*acuminatum*	O						1		
20	*G.*	*parvulum*	W	5	3	2		3	3		
21	*G.*	spp.	?	2	2	3	8	10	15		
22	*Gyrosigma*	spp.	?						1		
23	*Hantzschia*	*amphioxys*	Qa	1	7	13	3	9	8	3	3
24	*Luticola*	*mutica*	Qa	1	2	5	7	3	2		3
25	*Navicula*	*elginensis*	O					1			
26	*N.*	spp.	?	4	19	18	15	8	20		1
27	*Neidium*	*alpinum*	Qa					1			
28	*N.*	spp.	?	3	7	1	1	6	2		
29	*Nitzschia*	*nana*	Qb	1			5	3	5		
30	*N.*	spp.	?	4	16	18	38	33	23	4	1
31	*Orthosira*	*roeseana*	Qa		1	1					
32	*Pinnularia*	*borealis*	Qa			1	1	2			
33	*P.*	*gibba*	O	1	11	28	2	1			
34	*P.*	*obscura*	Qa					1			
35	*P.*	*subcapitata*	Qb	6	8	13	10	8	16		
36	*P.*	*subcapitata* var. *elongata*	P		2			1	1		
37	*P.*	*viridis*	O			5					
38	*P.*	spp.	?	8	65	41	20	40	37		
39	*Planothidium*	*lanceolatum*	K		1	1	4	6	7		
40	*Reimeria*	*sinuata*	K					1			
41	*Stauroneis*	*obtusa*	Qb			1					
42	*S.*	*phoenicenteron*	O			1					
43	*S.*	*smithii*	W	1		1					
44	*S.*	spp.	?	1	5	6	1				
45	*Surirella*	spp.	?		4	4	1	5	6	2	
46	*Synedra*	*ulna*	W						3		
47	*Tryblionella*	*debilis*	Qb			1		1	1		
48		Unknown	?	29	12	5	8	10	10	3	1
		汽水不定・不明種	?			3					
		上流性河川	J				1				
		中～下流性河川	K	39	2	1	4	9	19		
		最下流性河川	L						1		
		沼沢湿地付着生	O	1	11	34	2	2	1		
		高層湿原	P		2			1	1		
		陸生Ａ群	Qa	3	20	28	36	26	17	3	6
		陸生Ｂ群	Qb	92	8	15	15	13	24		
		広布種	W	6	6	4	1	4	7		
		淡水不定・不明種	?	36	145	112	135	138	151	6	2
		その他不明種	?	29	12	5	8	10	10	3	1
		汽水種				3					
		淡水種		177	194	194	194	193	221	9	8
		合　計		206	206	202	202	203	231	12	9
		完形殻の出現率(%)		89.3	78.0	79.2	86.6	83.7	82.7	16.7	55.6
		堆積物1g中の殻数(個)		4.1E+06	8.5E+05	1.7E+06	3.7E+06	3.2E+06	1.2E+06	2.4E+03	3.7E+03

第６表　堆積物中の珪藻化石産出表（種群は、千葉・澤井（2014）による）



第 136 図　堆積物中の珪藻化石分布（主な分類群を表示）

学名	和名	試料No.							
		53	54	55	56	57	58	59	60
樹木									
Podocarpus	マキ属	－	－	－	－	－	1	－	－
Tsuga	ツガ属	－	1	－	－	－	－	－	－
Pinus subgen. *Diploxylon*	マツ属複維管束亜属	14	13	7	4	1	1	1	1
Cryptomeria	スギ属	27	7	10	－	1	7	2	－
Taxaceae－Cephalotaxaceae－Cupressaceae	イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科	－	－	－	1	－	－	－	－
Salix	ヤナギ属	－	1	－	1	－	－	－	－
Platycarya	ノグルミ属	1	－	－	－	－	－	－	－
Pterocarya－Juglans	サワグルミ属－クルミ属	2	－	－	－	－	－	－	－
Carpinus－Ostrya	クマシデ属－アサダ属	4	2	2	2	1	1	－	－
Betula	カバノキ属	－	2	－	1	1	－	－	－
Alnus	ハンノキ属	2	38	43	1	2	3	－	－
Fagus	ブナ属	－	1	2	1	－	1	－	－
Quercus subgen. *Lepidobalanus*	コナラ属コナラ亜属	49	13	20	3	3	5	－	－
Quercus subgen. *Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属	18	10	4	9	4	3	－	－
Castanea	クリ属	2	5	5	120	156	168	－	－
Castanopsis－Pasania	シイノキ属－マテバシイ属	－	1	1	－	－	1	－	－
Ulmus－Zelkova	ニレ属－ケヤキ属	18	33	5	4	1	2	－	－
Celtis－Aphananthe	エノキ属－ムクノキ属	51	16	10	1	14	17	－	－
Euptelea	フサザクラ属	－	－	－	－	－	1	－	－
Phellodendron	キハダ属	9	1	－	－	2	－	－	－
Citrus－Fortu.－Ponci.	ミカン属－キンカン属－カラタチ属	3	8	5	1	5	－	－	－
Mallotus	アカメガシワ属	1	29	80	53	29	19	－	－
Rhus－Toxicodendron	ヌルデ属－ウルシ属	－	1	－	－	－	－	－	－
Ilex	モチノキ属	2	2	4	2	1	3	－	－
Parthenocissus	ツタ属	1	1	1	2	－	1	－	－
Camellia	ツバキ属	－	13	7	3	6	2	－	－
Araliaceae	ウコギ科	－	1	－	－	1	－	－	－
Ericaceae	ツツジ科	1	－	－	－	－	－	－	－
Diospyros	カキノキ属	－	1	－	1	1	－	－	－
Symplocos	ハイノキ属	－	1	－	－	－	－	－	－
Styrax	エゴノキ属	－	－	－	－	－	1	－	－
Ligustrum	イボタノキ属	－	－	－	－	1	－	－	－
Fraxinus	トネリコ属	1	2	－	－	－	4	－	－
草本									
Sagittaria	オモダカ属	－	－	1	－	－	－	－	－
Gramineae	イネ科	110	109	83	7	9	11	－	－
Cyperaceae	カヤツリグサ科	－	－	1	1	－	－	－	－
Aneilema	イボクサ属	1	－	－	－	－	－	－	－
Rumex	ギシギシ属	－	－	－	1	－	－	－	－
Polygonum sect. *Persicaria－Echinocaulon*	サナエタデ節－ウナギツカミ節	1	－	－	－	－	－	－	－
Fagopyrum	ソバ属	5	5	1	1	1	－	－	－
Chenopodiaceae－Amaranthaceae	アカザ科－ヒユ科	52	9	25	3	3	1	－	－
Caryophyllaceae	ナデシコ科	7	－	5	－	－	－	－	－
Brassicaceae	アブラナ科	35	25	24	2	7	3	－	－
Rosaceae	バラ科	－	－	－	－	－	1	－	－
Leguminosae	マメ科	－	－	－	－	－	1	－	－
Rotala	キカシグサ属	1	2	2	－	1	1	－	－
Haloragis	アリノトウグサ属	－	1	1	1	2	1	－	－
Apiaceae	セリ科	－	1	－	－	－	－	－	－
Solanum	ナス属	1	－	－	－	－	－	－	－
Plantago	オオバコ属	－	－	－	－	1	－	－	－
Artemisia	ヨモギ属	21	25	28	2	9	8	－	－
Tubuliflorae	キク亜科	2	－	4	－	1	1	－	－
Liguliflorae	タンポポ亜科	－	－	1	－	－	1	－	－
シダ植物									
monolete type spore	単条溝胞子	1	－	－	－	－	－	－	－
trilete type spore	三条溝胞子	2	－	1	－	－	－	－	1
Arboreal pollen	樹木花粉	206	203	206	210	230	241	3	1
Nonarboreal pollen	草本花粉	236	177	176	18	34	29	－	－
Spores	シダ植物胞子	3	－	1	－	－	－	－	1
Total Pollen ＆ Spores	花粉・胞子総数	445	380	383	228	264	270	3	2
unknown	不明	12	7	12	1	1	5	－	－

第７表　産出花粉胞子一覧

環境指標種群の特徴から、ジメジメとした陸域環境が推定され、b亜帯ではジメジメとした陸域～沼沢湿地環境が推定される。

・Ⅲ帯：8区　S D 38027（試料 No.53）

堆積物1g中の珪藻殻数は 4.1×10^6 個、完形殻の出現率は89.3%である。淡水種のみが検出された。堆積物中の珪藻殻数は非常に多い。環境指標種群では、陸生珪藻B群（Qb）が多く、中～下流性河川指標種群（K）を伴う。

環境指標種群の特徴から、流水環境を伴う湿った環境や淡水域環境が推定される。

（2）花粉分析

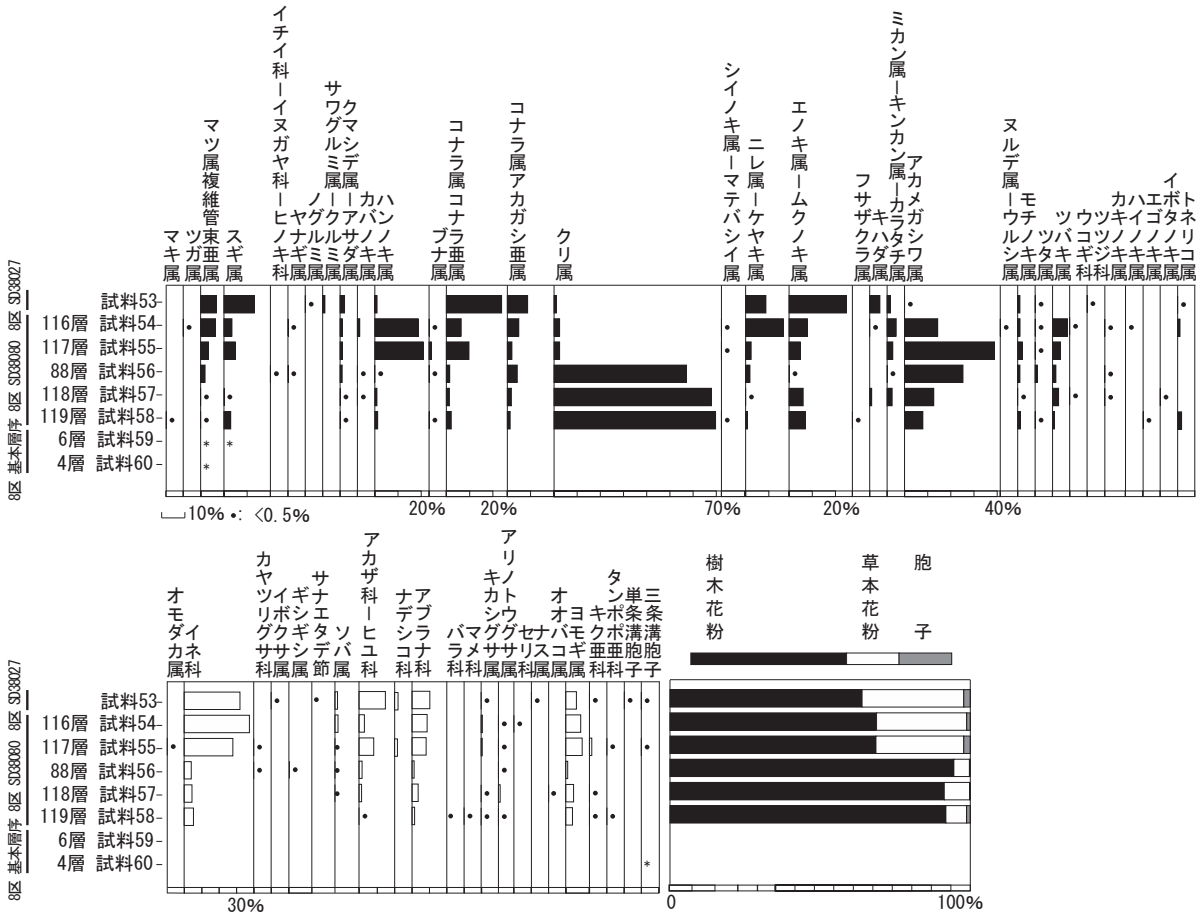
検鏡の結果、十分な量の花粉化石が得られた試料は、試料 No.54 ～ 58 の5試料である。この5試料から検出された花粉・胞子の分類群数は、樹木花粉 40、草本花粉 27、形態分類のシダ植物胞子2の、総計 69 である。これらの花粉・シダ植物胞子の一覧を第7表に、花粉分布図を第 137 図に示した。

花粉分布図では、樹木花粉の産出率は樹木花粉総数を、草本花粉・胞子の産出率は産出花粉胞子総数を基数とした百分率で示してある。また、図表においてハイフン（－）で結んだ分類群は、それらの分類群間の区別が困難なものを示す。さらに、クワ科やバラ科、マメ科の花粉には樹木起源と草本起源のものがあるが、各々に分けるのが困難なため、便宜的に草本花粉に一括して入れてある。

（3）植物珪酸体分析

同定・計数された各植物のプラント・オパール個数とガラスビーズ個数の比率から、試料1g当りの各プラント・オパール個数を求め（第8表）、分布図に示した（第 138 図）。

検鏡の結果、イネ機動細胞珪酸体とネザサ節型機



*: ダイアグラムの分類群で示したサナエダデ節は、サナエダデ節－ウナギツカミ節を省略して示した。

樹木花粉は樹木花粉総数、草本花粉・胞子は産出花粉胞子総数を基数として百分率で算出した。
＊は樹木花粉 200 個未満の試料について、検出した分類群を示す。

第 137 図　花粉分布

動細胞珪酸体、ササ属型機動細動珪酸体、他のタケ亜科機動細胞珪酸体、ヨシ属機動細胞珪酸体、シバ属機動細胞珪酸体、キビ族機動細胞珪酸体、ウシクサ族機動細胞珪酸体の８種類の機動細胞珪酸体の産出が確認できた。また、イネの籾殻で形成される珪酸体の破片（イネ穎破片）も確認された。

Ｃ．考察

（１）珪藻分析

層位的に連続して試料採取されたＳＤ 38080 では、下部の 119 層（試料 No.58）～ 88 層（試料 No.56）と、上部の 117 層（試料 No.55）と 116 層（試料 No.54）で珪藻化石群集が変化しており、ⅡａとⅡｂ帯に分帯される。したがって、88 層から 117 層にかけて、堆積・水文環境の大きく変化したとみられる。下部の 119 層（試料 No.58）～ 88 層（試料 No.56）の化石群集は、河川性種の中～下流性河川指標種群（Ｋ）で特徴づけられる。この層準の堆積段階には、溝内が完全には閉鎖されておらず、水の流れが生じるような状態であったと推定される。ただし､優占種群は陸生珪藻（Qa､Qb）であるため、流水環境が常に維持されるような状況ではなかったと考えられる。珪藻化石群集と泥層で構成される溝埋土の層相から、119 層（試料 No.58）～ 88 層（試料 No.56）では、基本的に溝の底が湿地もしくは水深の極浅い水域環境下にあり、なんらかの要因で水流が発生するような状況であったと推定される。

上部の117層(試料No.55)と116層(試料No.54)は、沼沢湿地付着生指標種群（Ｏ）で特徴づけられる。陸生珪藻（Qa、Qb）については、(Qb）がやや減少するものの、Ⅱｂ胎から大きな変化は生じていない。珪藻化石群集と溝埋土の層相から､117 層（試料 No.55）と 116 層（試料 No.54）では、溝下部の堆積段階よりも相対的に水流の発生が減り、より安定した湿地もしくは水深の極浅い滞水域になっていたと考えられる。試料採取層準と溝の埋没状況から、117 層（試料 No.55）と 116 層（試料 No.54）では、溝内部の埋没が進行していたと捉えられる。溝の上位層の堆積段階における溝内の湿潤化の要因としては、溝内において閉鎖的環境が強まったために起こった排水不良が想定される。このような状態は、一般的に溝の放棄段階に認められる場合が多い。117 層（試料 No.55）と 116 層（試料 No.54）が溝の放棄段階に位置づけられる場合、下部の 119 層（試料 No.58）～ 88 層（試料 No.56）の堆積段階は、区画溝が機能していた段階もしくは放棄前後に対比されると考えられる。そして、溝の貝層の堆積段階に水の流れが生じていた時期が存在した可能性があり、区画溝の機能と関係があると予想される。

今回の分析結果からは、ＳＤ 38080 の構築後に一定の水深が安定して維持されるような閉鎖的な滞水域は形成されていなかった可能性が示唆される。ＳＤ 38080 の埋土の珪藻化石群集では、水の循環が不良で、栄養塩類の流入が豊富な場所にしばしば出現する珪藻は認められない。したがって、ＳＤ 38080 は完全には閉鎖されておらず、水の循環が比較的良かったと推定される｡以上のような状況から、溝内への水の流入・流出および滞水は、人為的に調節可能であった可能性もある。

以上、今回の分析報告では、ＳＤ 38080 についての層位的な堆積・水文環境の復元とその変化が捉えられたが、その要因については検討できなかった。この点は、より詳細な発掘調査結果および溝埋土の

	イネ (個/ｇ)	イネ穎破片 (個/ｇ)	ネザサ節型 (個/ｇ)	ササ属型 (個/ｇ)	他のタケ亜科 (個/ｇ)	ヨシ属 (個/ｇ)	シバ属 (個/ｇ)	キビ族 (個/ｇ)	ウシクサ族 (個/ｇ)	ポイント型珪酸体 (個/ｇ)	不明 (個/ｇ)
試料53	31,700	9,500	38,100	0	0	0	0	20,600	11,100	6,300	3,200
試料54	194,000	52,300	78,400	4,100	50,900	1,400	0	56,400	30,300	8,300	4,100
試料55	160,000	56,700	90,200	5,800	212,400	1,500	4,400	56,700	37,800	23,300	1,500
試料56	13,400	3,800	61,100	7,600	301,500	0	1,900	13,400	5,700	0	0
試料57	25,700	3,700	51,300	3,700	95,300	0	1,800	12,800	5,500	5,500	0
試料58	33,200	2,900	86,600	2,900	36,100	0	0	10,100	13,000	0	2,900
試料59	1,100	0	16,500	0	1,100	0	0	3,300	1,100	0	0
試料60	0	0	3,300	0	0	0	0	2,200	0	0	0

第８表　試料１g当りのプラント･オパール個数

層相変化の検討と併せて、さらに考察を進めていく必要がある。

なお、溝埋土１点のみが分析されたＳＤ 38027（試料 No.53）では、ＳＤ 38080 よりも中～下流性河川指標種群（Ｋ）の産出率が高く、陸生珪藻Ｂ群（Qb）の産出が相対的に目立つ。また、ＳＤ 38027（試料 No.53）では、陸生珪藻Ｂ群（Qb）より耐乾性が高い陸生珪藻Ａ群（Qa）の産出がＳＤ 38080 よりもかなり少ない。このような珪藻化石群集から、ＳＤ 38027 は試料 No.53 の採取層準では、ＳＤ 38080 よりも水の流れの影響を受けやすい場所であったとともに、湿潤状態もより強かったとみられる。

一方、基本層序では、珪藻化石の保存状態が非常に不良であった。後述する花粉・植物珪酸体分析で詳細を述べるように、このような産状を示すのは、分析層準が好気的環境下にあったためである。

ところで、雲出川下流の沖積氾濫原面上に立地する中林・中道遺跡では、埋土の層相観察と分析微化石および種実分析による室町時代後半の屋敷地の区画溝（ＳＤ 143）の埋没過程と古環境変遷の検討が行われている（水谷・上村・野鳶編，2009）。この分析結果から、区画溝の機能期～人為的に埋め戻されるまでの放置期には、溝内部が基本的に水生植物が生育可能な過湿地ないし、かなり浅い水深の静穏な水域堆積環境下にあったとみられる。ただし、軟Ｘ線写真による層相観察では、溝内で弱い水流が間欠的に発生していた様子が指摘されている。これらの分析結果から、中林・中道遺跡の室町時代後半の区画溝は、完全に閉鎖されて溝内部が一定の水深で帯水するような状況でなかった可能性が示唆される。中世段階の居住域に伴う溝については、堆積過程をふまえた遺構の機能に関する検討も、今後の課題と認識される。

（２）花粉・植物珪酸体分析

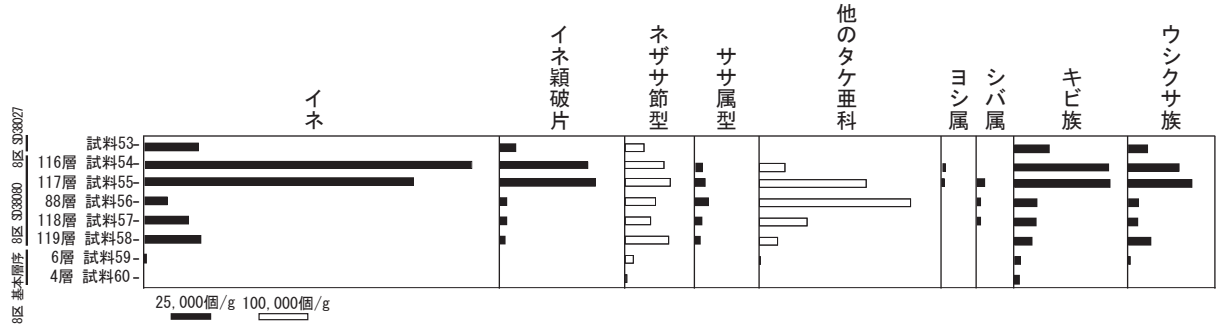
a. 室町時代の区画溝

溝内の堆積物を層位的に連続して採取したＳＤ 38080 の 119 層～ 116 層（試料 No.58 ～ 54）では、119 層（試料 58）～ 88 層（試料 No.56）においてクリ属が 57 ～ 70% の産出率を示す。クリについては、花粉の散布様式が詳しく研究されており、大部分のクリ花粉はクリ林内に落下し、樹冠縁から離れると、産出率が極端に下がる例が知られている（吉川，2011）。クリ花粉は広範囲に散布されにくい花粉であるため、119 層（試料 No.58）～ 88 層（試料 No.56）におけるクリ属の優占は、溝のすぐ傍にクリの木が存在していた状況を示している。

また、ミカン属 - キンカン属 - カラタチ属やカキノキ属など果実類を含む分類群や観賞用植物を含むツバキ属の産出も見られ、溝周辺にはクリやカキ、柑橘類、ツバキ類などの有用植物が植えられていたと考えられる。

さらにはソバ属の産出も見られ、溝周辺ではソバ栽培が行われていた可能性がある。こうした人為的環境が広がる場所は、明るく開けていたと考えられ、アカメガシワ属をはじめとしてヌルデ属 - ウルシ属やウコギ科など、陽樹を含む分類群も産出している。

プラント・オパール分析では、119 層（試料 No.58）～ 88 層（試料 No.56）でネザサ節型機動細胞珪酸体と他のタケ亜科機動細胞珪酸体の産出が目立ち、溝周辺の明るく開けた場所にはネザサ節のササ類や、ネザサ節とササ属以外のタケ亜科も分布を広げていたと思われる。さらに、118 層（試料



第 138 図　植物珪酸体分布

No.57）～ 117 層（試料 No.55）では、草地において相対的に強い植生撹乱を受ける場所に成立するシバを含むシバ属が産出する。区画溝の近傍では、地表への比較的強い植生撹乱の影響が定常的に及ぶような領域が存在したと推測される。発掘調査結果をふまえると、タケ亜科やシバ属といった明るく開けた場所に展開するイネ科草本は、区画溝の肩部やその近傍の居住域などに生育していた可能性がある。

117 層（試料 No.55）と 116 層（試料 No.54）の堆積時期になると、クリ属が激減する。この時期には、溝周辺に植栽されていた有用植物のうち、クリだけが何らかの理由で伐採されたと思われる。代わりに増加するのがイネ科である。イネ科とともに水田雑草を含む分類群でもあるオモダカ属やキカシグサ属も微増しており、溝周辺では水田稲作が行われていた可能性がある。その様子は、プラント・オパール分析においても顕著に表れている。117 層（試料 55）と 116 層（試料 54）では、イネ機動細胞珪酸体とイネ穎破片が激増しており、溝周辺における水田の展開を示唆する。さらに、プラント・オパール分析ではキビ族とウシクサ族の増加も見られ、周辺ではキビ族とウシクサ族の分布も拡大していたと考えられる。

また、117 層（試料 No.55）と 116 層（試料 No.54）では、湿地林を構成する種類を含むハンノキ属花粉の増加も認められる。さらにこの層準では、湿潤地を好むヨシ属も産出するようになる。この段階には、区画溝の埋没が進み、溝底部付近が排水不良の湿地や水深の極浅い滞水域へと変化した様子が、珪藻分析結果から確認できる。117 層（試料 No.55）と 116 層（試料 No.54）におけるハンノキ属花粉の増加やヨシ属の産出は、このような溝内部の堆積・水文環境の変化と連動していると考えられる。ただし、ハンノキ属花粉の増加は、上記したような水田の拡大に伴って湿地的環境が増加し、そこにハンノキ属からなる湿地林が分布を広げていた状況を示している可能性もある。ハンノキ属の増加の要因は、今後の検討課題である。

一方、1 点のみ試料が採取されたＳＤ 38027（試料 No.53）では、樹木花粉のコナラ亜属やエノキ属 - ムクノキ属が、草本花粉のイネ科やアカザ科 - ヒユ科、アブラナ科、ヨモギ属などの産出が目立ち、こうした分類群が溝周辺に生育していたと思われる。このような産状は、ＳＤ 38027 とＳＤ 38080 における区画溝近傍の地点による植生の違いを反映している可能性がある。また、ＳＤ 38027（試料 No.53）の植物珪酸体ではイネ機動細胞珪酸体の産出が見られ、溝周辺の水田から供給された可能性がある。その他にもネザサ節型、キビ族、ウシクサ族などの産出が見られ、溝周辺に生育していたと思われる。

以上の室町時代の区画溝の花粉・植物珪酸体分析の結果から、溝埋土について層位的に細かく試料採取したＳＤ 38080 では、溝近傍の土地利用と植生変化を明瞭に捉えられた点が、特に重要な分析成果であったと認識される。この変化を引き起こした人間の行動については、より詳細な発掘調査結果の検討と併せて、さらに考察を進めていく必要がある。

ところで、上記した中林・中道遺跡の花粉分析結果（水谷・上村・野鳥編，2009）では、今回得られた中坪遺跡の分析結果と異なり、草本花粉が圧倒的に優占する。また、マツ属が多産しており、木本花粉化石群集も中坪遺跡とは大きく異なる。一方で、機動細胞植物珪酸体群集は、ウシクサ族を伴ってタケ亜科が多産するともに、イネ頴に形成される珪酸体を伴うイネ機動細胞珪酸体も多く含まれており、今回の中坪遺跡の分析結果と類似する結果である。種実分析の結果をふまえると、室町時代後半において、中林・中道遺跡の屋敷地の区画溝の周辺では、樹木がほとんど分布しておらず、草地が卓越する景観であったと考えられる。中坪遺跡と中林・中道遺跡の屋敷地付近の植生景観が異なっていた可能性があり、興味深い。

b. 基本層序

試料 No.59、60 では、花粉化石の保存状態が悪かった。一般的に花粉の保存は、埋没後の土壌環境が水浸かりとなる嫌気的（還元的）状態で良く、大気に常時曝されるような好気的（酸化的）状態で相対的に不良となる傾向がある。花粉化石が残っていなかったため、基本層序の６層と４層の形成段階および埋没後に好気的な環境に晒されていた可能性がある。

一方、植物珪酸体はガラス質であり、風化に対する耐性が花粉よりも強いため、少ないながら統計的に扱えるだけの個数の産出が見られた。植物珪酸体

の産状をふまえると、基本層序の６層と４層（試料No.59・60）の形成時期には、ネザサ節のササ類などが生育しており、水はけの良い乾燥傾向にある好気的な堆積環境であったと推測される。

（株式会社パレオ・ラボ）

［引用・参考文献］

・　安藤一男「淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用」『東北地理，42，73-88』1990

・　千葉　崇・澤井裕紀「環境指標種群の再検討と更新」『Diatom，30，7-30』2014

・　小杉正人「珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用」『第四紀研究，27，1-20』1988

・　水谷　豊・上村安生・野蔦美沙子編『中林・中道遺跡発掘調査報告．232p』三重県埋蔵文化財センター　2016

・　吉川昌伸「クリ花粉の散布と三内丸山遺跡周辺における縄文時代のクリ林の分布状況」『植生史研究，18，65-76』2011

Ⅵ．貝殻同定

１．試料と方法

試料は発掘調査現場で採取された６点の貝殻である。試料が採取された遺構は、中世の井戸であるＳＫ 37001 である。

試料の観察を肉眼で行い、標本との比較により分類群と部位を同定した。

２．結果と考察

中世の土坑であるＳＫ 37001 では、海産と考えられる巻貝の破片が６点見られた。おそらくアカニシ（*Rapana venosa*）と思われる。中坪遺跡に近い伊勢湾で採取されたと考えられる。

（中村賢太郎　株式会社パレオ・ラボ）

試料No.	地区名	遺構・層位	分類群	部位	左右	部分・状態	数量	備考
9	7区L-R2	SK37001	アカニシ?	殻	—	破片	6	

第９表　貝殻同定結果

Ⅶ. 塗膜構造調査

１．調査資料

調査した資料は、第10表に示す中～近世の漆椀１点（449）である。

２．調査方法

第10表の資料本体の塗膜付着部分から数㎜四方の破片を採取してエポキシ樹脂に包埋し、塗膜断面の薄片プレパラートを作製した。これを落射光ならびに透過光の下で検鏡した。

３．断面観察

塗膜断面の観察結果を、第11表と以下の文章に示す。

塗膜構造　下層から、木胎、下地、漆層が観察された。

下地　内外両面ともに褐色を呈する柿渋に木炭粉が混和された炭粉渋下地が見られた。

漆層　内面には極めて層厚の薄い、淡黄褐色を呈する透明漆が１層見られた。外面には内面と同様に薄い透明漆層の上に、漆に赤色顔料が混和された赤色漆が１層重なる様子が観察された。

顔料　外面の赤色漆層に混和された顔料は、明確な粒子形状が認められる透明度の高い朱であった。

４．摘要

ケヤキの木胎に、柿渋に木炭粉を混和した炭粉渋下地を施し、全体に顔料を混和していない透明漆を１層塗布し、内面見込みと外面の口縁付近に赤色漆で文様が描かれた。見込みの文様部は不明だが、外面口縁部の文様部には、朱漆が用いられた。

（株式会社吉田生物研究所）

No.	保存処理 No.	品名	写真 No.	樹種*	概　　要
449	10	木椀	1,3	ケヤキ	内面見込みと外面の口縁部付近に赤色漆で文様が施された椀。見込みの赤色部からは試料は採取していない。

＊：樹種については、別稿の樹種同定を参照のこと。

第10表　調査資料

No.	器種	部位	写真No.	塗膜構造（下層から）			
				下地		漆層構造	顔料
				膠着剤	混和材		
449	椀	内面	2	柿渋	木炭粉	透明漆1層	—
		外面	4	柿渋	木炭粉	透明漆1層／赤色漆1層	朱

第11表　漆器の断面観察結果

Ⅷ. 樹種同定

１．観察方法

剃刀で木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。この内、No.80 ～ 82・84・85・461・552・825・826 については遺物の形状から木口が採取出来なかった。

２．結果

樹種同定結果（針葉樹６種、広葉樹５種）の表と顕微鏡写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

（1）マキ科マキ属イヌマキ（*Podocarpus macropyllus* Sweet）

（遺物 No.103,114,117,120）

（写真 No.103,114,117,120）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はゆるやかであり、年輪界がやや不明瞭で均質な材である。樹脂細胞はほぼ平等に散在し数も多い。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型で１分野に１～２個ある。短冊型をした樹脂細胞が早材部、晩材部の別なく軸方向に連続（ストランド）をなして存在する。板目では放射組織はすべて単列であった。イヌマキは本州（中・南部）、四国、九州、琉球に分布する。

（２）マツ科マツ属［二葉松類］（*Pinus* sp.）

（遺物 No.159,162 ～ 169,171 ～ 182,184,186,188, 189,191 ～ 206,208,209,211 ～ 224,226,228, 丸太Ａ , 丸太Ｃ , 丸太Ｄ）

（写真 No. 159,162 ～ 169,171 ～ 182,184,186,188, 189,191 ～ 206,208,209,211 ～ 224,226,228, 丸太Ａ , 丸太Ｃ , 丸太Ｄ）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は急であった。大型の垂直樹脂道が細胞間隙としてみられる。柾目では放射組織の放射柔細胞の分野壁孔は窓型である。上下両端の放射仮道管内は内腔に向かって鋸歯状に著しくかつ不規則に突出している。板目では放射組織は単列で１～ 15 細胞高のものと、水平樹脂道を含んだ紡錘形のものがある。マツ属［二葉松類］はクロマツ、アカマツがあり、北海道南部、本州、四国、九州に分布する。

（３）コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ（*Sciadopitys verticillata* Sieb. et Zucc.）

（遺物 No.826,895 ～ 907,909 ～ 913,915 ～ 923）

（写真 No. 826,895 ～ 907,909 ～ 913,915 ～ 923）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや緩やかで晩材部の幅は極めて狭い。柾目では放射組織の分野壁孔は小型の窓状で１分野に１～２個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。コウヤマキは本州（福島以南）、四国、九州（宮崎まで）に分布する。

（４）スギ科スギ属スギ（*Cryptomeria japonica* D.Don）

（遺物 No.50,51,80,81,85,87,89,90,92,102,104,105,110, 116,118,119,122,126,127,133,137 ～ 140,143,146,149,151 ～ 153,155 ～ 157,159,245,908）

（写真 No.50,51,80,81,85,87,89,90,92,102,104,105,110, 116,118,119,122,126,127,133,137 ～ 140,143,146,149,151 ～ 153,155 ～ 157,159,245,908）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部で接線方向に並んでいた。柾目では放射組織の分野壁孔は典型的なスギ型で１分野に１～３個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。樹脂細胞の末端壁はおおむね偏平である。スギは本州、四国、九州の主として太平洋側に分布する。

（５）ヒノキ科ヒノキ属（*Chamaecyparis* sp.）

（遺物 No.82,86,88,91,95,106 ～ 108,115,132,135, 136,147,154,160,461, 552）

（写真 No. 82,86,88,91,95,106 ～ 108,115,132,135, 136,147,154,160,461, 552）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行が急であった。樹脂細胞は晩材部に偏在している。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型で１分野に１～２個ある。板目では放射組織はすべて単列であっ

た。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。ヒノキ属はヒノキ、サワラがあり、本州（福島以南）、四国、九州に分布する。

（６）ヒノキ科アスナロ属（*Thujopsis* sp.）

（遺物 No.84, 825,865 ～ 869）

（写真 No.84,825,865 ～ 869）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであった。樹脂細胞は晩材部に散在または接線配列である。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型からややスギ型で１分野に２～４個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。アスナロ属にはアスナロ（ヒバ、アテ）とヒノキアスナロ（ヒバ）があるが顕微鏡下では識別困難である。アスナロ属は本州、四国、九州に分布する。

（７）ブナ科クリ属クリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.）

（遺物 No.123,124,128,142,207）

（写真 No.123,124,128,142,207）

環孔材である。木口では円形ないし楕円形で大体単独の大道管（～ 500 μ m）が年輪にそって幅のかなり広い孔圏部を形成している。孔圏外は急に大きさを減じ薄壁で角張った小道管が単独あるいは２～３個集まって火炎状に配列している。柾目では道管は単穿孔と多数の有縁壁孔を有する。放射組織は大体において平伏細胞からなり同性である。板目では多数の単列放射組織が見られ、軸方向要素として道管、それを取り囲む短冊型柔細胞の連なり（ストランド）、軸方向要素の大部分を占める木繊維が見られる。クリは北海道（西南部）、本州、四国、九州に分布する。

（８）ブナ科シイ属（*Castanopsis* sp.）

（遺物 No.94,98,111,227）

（写真 No. 94,98,111,227）

環孔性放射孔材である。木口では孔圏部の道管（～ 300 μ m）は単独でかつ大きいが接線方向には連続していない。孔圏外に移るにしたがって大きさを減じ、放射方向に火炎状に配列している。柾目では道管は単穿孔と多数の有縁壁孔を有する。放射組織は平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔には大型で柵状の壁孔がある。板目では多数の単列放射組織が見られる。シイ属にはツブラジイとスダジイがあるが、ツブラジイに見られる集合～複合放射組織の出現頻度が低い為区別は難しい。シイ属は本州（福島、佐渡以南）、四国、九州、琉球に分布する。

（９）ブナ科コナラ属アカガシ亜属（*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*）

（遺物 No.97,99,100,112,113,130,134,141,144, 145,148,150,158）

（写真 No.97,99,100,112,113,130,134,141,144, 145,148,150,158）

放射孔材である。木口では年輪に関係なくまちまちな大きさの道管（～ 200 μ m）が放射方向に配列する。軸方向柔細胞は接線方向に１～３細胞幅の独立帯状柔細胞をつくっている。放射組織は単列放射組織と非常に列数の広い放射組織がある。柾目では道管は単穿孔と多数の壁孔を有する。放射組織はおおむね平伏細胞からなり、時々上下縁辺に方形細胞が見られる。道管放射組織間壁孔は大型で柵状の壁孔が存在する。板目では多数の単列放射組織と放射柔細胞の塊の間に道管以外の軸方向要素が挟まれている集合型と複合型の中間となる型の広放射組織が見られる。アカガシ亜属はイチイガシ、アカガシ、シラカシ等があり、本州（宮城、新潟以南）、四国、九州、琉球に分布する。

（10）ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節（*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* Endlicher sect. *Cerris*）

（遺物 No.109,101,125,129,161,185,210,225）

（写真 No. 109,101,125,129,161,185,210,225）

環孔材である。木口では大道管（～ 430 μ m）が年輪界にそって１～数列並んで孔圏部を形成している。孔圏外では急に大きさを減じ、厚壁で円形の小道管が単独に放射方向に配列している。放射組織は単列放射組織と非常に幅の広い放射組織がある。柾目では道管は単穿孔と対列壁孔を有する。放射組織はすべて平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔には柵状の壁孔が存在する。板目では多数の単列放射組織と肉眼でも見られる典型的な複合型の広放射組織が見られる。クヌギ節はクヌギ、アベマキがあり、本州（岩手、山形以南）、四国、九州、琉球に分布する。

(11) ニレ科ケヤキ属ケヤキ（*Zelkova serrata* Makino）

（遺物 No.449）

（写真 No.449）

環孔材である。木口ではおおむね円形で単独の大道管（～ 270 μ m）が１列で孔圏部を形成している。孔圏外では急に大きさを減じ、多角形の小道管が多数集まって円形、接線状あるいは斜線状の集団管孔を形成している。軸方向柔細胞は孔圏部では道管を鞘状に取り囲み、さらに接線方向に連続している（イニシアル柔組織）。放射組織は１～数列で多数の筋として見られる。柾目では大道管は単穿孔と側壁に交互壁孔を有する。小道管はさらに螺旋肥厚も持つ。放射組織は平伏細胞と上下縁辺の方形細胞からなり異性である。方形細胞はしばしば大型のものがある。板目では放射組織は少数の１～３列のものと大部分を占める６～７細胞列のほぼ大きさの一様な紡錘形放射組織がある。紡錘形放射組織の上下端の細胞は、他の部分に比べ大型である。ケヤキは本州、四国、九州に分布する。

(12) ツバキ科ツバキ属（*Camellia* sp.）

（遺物 No.170,190）

（写真 No. 170,190）

散孔材である。木口では極めて小さい道管（～ 40 μ m）が、単独ないし２～３個接合して均等に分布する。放射組織は１～３細胞列で黒い筋としてみられる。木繊維の壁はきわめて厚い。柾目では道管は階段穿孔と螺旋肥厚を有する。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。道管放射組織間壁孔（とくに直立細胞）は大型のレンズ状の壁孔が階段状に並んでいる。放射柔細胞の直立細胞と軸方向柔細胞にはダルマ状にふくれているものがある。板目では放射組織は１～４細胞列、高さ～１㎜以下からなり、平伏細胞の多列部の上下または間に直立細胞の単列部がくる構造をしている。木繊維の壁には有縁壁孔が一列に多数並んでいるのが全体で見られる。ツバキ属はツバキ、サザンカ、チャがあり、本州、四国、九州に分布する。

３．まとめ

今回の試料 187 点は針葉樹材 154 点、広葉樹材 33 点であった。これらは奈良～戦国時代の木製品で、針葉樹材にはマキ科のイヌマキ４点、マツ科のマツ属〔二葉松類〕62 点、コウヤマキ科のコウヤマキ 28 点、スギ科のスギ 36 点、ヒノキ科のヒノキ属 17 点、ヒノキ科のアスナロ属７点である。広葉樹材には常緑樹材のブナ科のシイ属４点、コナラ属アカガシ亜属 13 点、ツバキ科のツバキ属２点、落葉樹材のブナ科のクリ属クリ５点、コナラ属コナラ亜属クヌギ節８点、ニレ科ケヤキ属ケヤキ１点がある。

本遺跡付近の周辺は、奈良時代の層から出土した木製品中でマツ属［二葉松類］の割合が突出していることから、奈良時代にはすでに原生林伐採後のマツ属 [二葉松類] の二次林となっており、その中に陽樹のクリ、クヌギ節などの混じった明るい落葉樹林が形成されている段階と推測する。また、近隣にシイ属やアカガシ亜属、ツバキ属などの生育する照葉樹林の箇所があり、建築材などにする為のコウヤマキやヒノキ、スギを産出する針葉樹林も維持していたのであろう。

（汐見 真　株式会社吉田生物研究所）

[引用・参考文献]

- 林 昭三「日本産木材顕微鏡写真集」京都大学木質科学研究所（1991）
- 伊東隆夫 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ～Ⅴ」京都大学木質科学研究所（1999）
- 島地 謙・伊東隆夫「日本の遺跡出土木製品総覧」雄山閣出版（1988）
- 北村四郎・村田 源「原色日本植物図鑑木本編Ⅰ・Ⅱ」保育社（1979）
- 奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第 27 冊 木器集成図録 近畿古代篇」（1985）
- 奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第 36 冊 木器集成図録 近畿原始篇」（1993）

[使用顕微鏡]

Nikon DS-Fi1

番号	品　名	調査区	遺　構	時代	樹　　種	分析結果報告書ファイル番号	分析番号
50	井戸枠材	1	SD31005	奈良	スギ科スギ属スギ	256	179
51	井戸枠材	1	SD31005	奈良	スギ科スギ属スギ	256	178
80	板状加工材	9	SR39016	奈良	スギ科スギ属スギ	259	3
81	棒状加工材	9	SR39016	奈良	スギ科スギ属スギ	259	4
82	斎串	9	SR39016	奈良	ヒノキ科ヒノキ属	259	9
84	棒状加工材	9	SR39016	奈良	ヒノキ科アスナロ属	259	5
85	盤	9	SR39016	奈良	スギ科スギ属スギ	259	8
86	杭	9	SR39016	奈良	ヒノキ科ヒノキ属	256	117
87	杭	9	SR39016	奈良	スギ科スギ属スギ	256	61
88	杭	9	SR39016	奈良	ヒノキ科ヒノキ属	256	60
89	杭	9	SR39016	奈良	スギ科スギ属スギ	256	64
90	杭	9	SR39016	奈良	スギ科スギ属スギ	256	94
91	杭	9	SR39016	奈良	ヒノキ科ヒノキ属	256	84
92	杭	9	SR39016	奈良	スギ科スギ属スギ	256	63
94	杭	9	SR39016	奈良	ブナ科シイ属	256	139
95	杭	9	SR39016	奈良	ヒノキ科ヒノキ属	256	52
97	杭	9	SR39016	奈良	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	256	121
98	杭	9	SR39016	奈良	ブナ科シイ属	256	134
99	杭	9	SR39016	奈良	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	256	138
100	杭	9	SR39016	奈良	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	256	50
101	杭	9	SR39016	奈良	ブナ科ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節	256	135
102	杭	9	SR39016	奈良	スギ科スギ属スギ	256	10
103	杭	9	SR39016	奈良	マキ科マキ属イヌマキ	256	6
104	杭	9	SR39016	奈良	スギ科スギ属スギ	256	7
105	杭	9	SR39016	奈良	スギ科スギ属スギ	256	5
106	杭	9	SR39016	奈良	ヒノキ科ヒノキ属	256	14
107	杭	9	SR39016	奈良	ヒノキ科ヒノキ属	256	3
108	杭	9	SR39016	奈良	ヒノキ科ヒノキ属	256	22
109	杭	9	SR39016	奈良	ブナ科ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節	256	36
110	杭	9	SR39016	奈良	スギ科スギ属スギ	256	19
111	杭	9	SR39016	奈良	ブナ科シイ属	256	98
112	杭	9	SR39016	奈良	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	256	102
113	杭	9	SR39016	奈良	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	256	95
114	杭	9	SR39016	奈良	マキ科マキ属イヌマキ	256	45
115	杭	9	SR39016	奈良	ヒノキ科ヒノキ属	256	29
116	杭	9	SR39016	奈良	スギ科スギ属スギ	256	55
117	杭	9	SR39016	奈良	マキ科マキ属イヌマキ	256	2
118	杭	9	SR39016	奈良	スギ科スギ属スギ	256	12
119	杭	9	SR39016	奈良	スギ科スギ属スギ	256	4
120	杭	9	SR39016	奈良	マキ科マキ属イヌマキ	256	16
122	杭	9	SR39016	奈良	スギ科スギ属スギ	256	8
123	杭	9	SR39016	奈良	ブナ科クリ属クリ	256	99
124	杭	9	SR39016	奈良	ブナ科クリ属クリ	256	90
125	杭	9	SR39016	奈良	ブナ科ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節	256	100
126	杭	9	SR39016	奈良	スギ科スギ属スギ	256	13
127	杭	9	SR39016	奈良	スギ科スギ属スギ	256	48
128	杭	9	SR39016	奈良	ブナ科クリ属クリ	256	96
129	杭	9	SR39016	奈良	ブナ科ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節	256	118
130	杭	9	SR39016	奈良	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	256	116
132	杭	9	SR39016	奈良	ヒノキ科ヒノキ属	256	59
133	杭	9	SR39016	奈良	スギ科スギ属スギ	256	71
134	杭	9	SR39016	奈良	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	256	75
135	杭	9	SR39016	奈良	ヒノキ科ヒノキ属	256	51
136	杭	9	SR39016	奈良	ヒノキ科ヒノキ属	256	17
137	杭	9	SR39016	奈良	スギ科スギ属スギ	256	9
138	杭	9	SR39016	奈良	スギ科スギ属スギ	256	1
139	杭	9	SR39016	奈良	スギ科スギ属スギ	256	15
140	杭	9	SR39016	奈良	スギ科スギ属スギ	256	11
141	杭	9	SR39016	奈良	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	256	68
142	杭	9	SR39016	奈良	ブナ科クリ属クリ	256	142
143	杭	9	SR39016	奈良	スギ科スギ属スギ	256	41
144	杭	9	SR39016	奈良	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	256	69
145	杭	9	SR39016	奈良	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	256	47

第12−１表　樹種同定結果

番号	品　名	調査区	遺　構	時代	樹　　種	分析結果報告書ファイル番号	分析番号
146	杭	9	SR39016	奈良	スギ科スギ属スギ	256	18
147	杭	9	SR39016	奈良	ヒノキ科ヒノキ属	256	65
148	杭	9	SR39016	奈良	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	256	133
149	杭	9	SR39016	奈良	スギ科スギ属スギ	256	70
150	杭	9	SR39016	奈良	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	256	130
151	杭	9	SR39016	奈良	スギ科スギ属スギ	256	28
152	杭	9	SR39016	奈良	スギ科スギ属スギ	256	58
153	杭	9	SR39016	奈良	スギ科スギ属スギ	256	46
154	杭	9	SR39016	奈良	ヒノキ科ヒノキ属	256	24
155	杭	9	SR39016	奈良	スギ科スギ属スギ	256	49
156	杭	9	SR39016	奈良	スギ科スギ属スギ	256	57
157	杭	9	SR39016	奈良	スギ科スギ属スギ	256	56
158	杭	9	SR39016	奈良	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	256	53
159	杭	9	SR39016	奈良	スギ科スギ属スギ	256	26
160	杭	9	SR39016	奈良	ヒノキ科ヒノキ属	256	67
161	杭	9	SR39016	奈良	ブナ科ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節	256	131
162	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	88
163	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	86
164	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	91
165	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	80
166	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	31
167	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	37
168	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	39
169	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	92
170	杭	9	SR39016	奈良	ツバキ科ツバキ属	256	93
171	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	81
172	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	79
173	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	82
174	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	20
175	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	21
176	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	72
177	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	115
178	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	74
179	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	124
180	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	128
181	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	66
182	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	122
183	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	27
184	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	89
185	杭	9	SR39016	奈良	ブナ科ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節	256	97
186	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	113
188	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	85
189	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	40
190	杭	9	SR39016	奈良	ツバキ科ツバキ属	256	123
191	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	76
192	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	110
193	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	108
194	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	112
195	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	104
196	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	42
197	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	33
198	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	125
199	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	23
200	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	35
201	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	30
202	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	34
203	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	32
204	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	62
205	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	137
206	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	83
207	杭	9	SR39016	奈良	ブナ科クリ属クリ	256	77

第12−２表　樹種同定結果

番号	品　名	調査区	遺　構	時代	樹　　種	分析結果報告書ファイル番号	分析番号
208	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	120
209	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	136
210	杭	9	SR39016	奈良	ブナ科ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節	256	78
211	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	106
212	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	140
213	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	132
214	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	111
215	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	129
216	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	107
217	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	25
218	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	127
219	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	141
220	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	109
221	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	126
222	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	105
223	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	38
224	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	103
225	杭	9	SR39016	奈良	ブナ科ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節	256	101
226	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	54
227	杭	9	SR39016	奈良	ブナ科シイ属	256	114
228	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	119
245	曲物	2	SE32016	平安	スギ科スギ属スギ	256	180
449	木椀	8	SE38002	室町	ニレ科ケヤキ属ケヤキ	259	10
461	板状加工材	9	SE39002	室町	ヒノキ科ヒノキ属	259	2
552	下駄	8	SK38085	室町	ヒノキ科ヒノキ属	259	1
825	箸	7	SD37005	室町	ヒノキ科アスナロ属	259	6
826	箸	7	SD37005	室町	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	259	7
865	井戸枠材	9	SE39015	室町	ヒノキ科アスナロ属	256	167
866	井戸枠材	9	SE39015	室町	ヒノキ科アスナロ属	256	164
867	井戸枠材	9	SE39015	室町	ヒノキ科アスナロ属	256	165
868	井戸枠材	9	SE39015	室町	ヒノキ科アスナロ属	256	168
869	井戸枠材	9	SE39015	室町	ヒノキ科アスナロ属	256	166
895	井戸枠材	8	SE38001	室町	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	256	156
896	井戸枠材	8	SE38001	室町	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	256	152
897	井戸枠材	8	SE38001	室町	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	256	158
898	井戸枠材	8	SE38001	室町	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	256	161
899	井戸枠材	8	SE38001	室町	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	256	154
900	井戸枠材	8	SE38001	室町	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	256	146
901	井戸枠材	8	SE38001	室町	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	256	162
902	井戸枠材	8	SE38001	室町	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	256	147
903	井戸枠材	8	SE38001	室町	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	256	153
904	井戸枠材	8	SE38001	室町	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	256	151
905	井戸枠材	8	SE38001	室町	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	256	148
906	井戸枠材	8	SE38001	室町	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	256	160
907	井戸枠材	8	SE38001	室町	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	256	149
908	井戸枠材	8	SE38001	室町	スギ科スギ属スギ	256	144
909	井戸枠材	8	SE38001	室町	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	256	150
910	井戸枠材	8	SE38001	室町	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	256	157
911	井戸枠材	8	SE38001	室町	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	256	159
912	井戸枠材	8	SE38001	室町	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	256	145
913	井戸枠材	8	SE38001	室町	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	256	155
915	井戸枠材	8	SE38082	室町	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	256	172
916	井戸枠材	8	SE38082	室町	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	256	173
917	井戸枠材	8	SE38082	室町	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	256	176
918	井戸枠材	8	SE38082	室町	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	256	169
919	井戸枠材	8	SE38082	室町	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	256	175
920	井戸枠材	8	SE38082	室町	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	256	177
921	井戸枠材	8	SE38082	室町	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	256	170
922	井戸枠材	8	SE38082	室町	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	256	171
923	井戸枠材	8	SE38001	室町	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	256	163
丸太A	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	73
丸太C	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	44
丸太D	杭	9	SR39016	奈良	マツ科マツ属［二葉松類］	256	43

第12-３表　樹種同定結果

Ⅸ. 結　語

１．各遺構の時期

今回の調査では、縄文時代から室町時代に至る各時期の遺物が出土している。そのなかで時期を確定できた遺構については、６時期に分けて既述した。ここでは、各時期の詳細な時期や遺構構成を検討する。

（１）縄文時代

この時期の遺構は７区東部の土坑群に限定され、他には８区で検出面に縄文土器を含むことが確認されている。既述したように出土遺物は少なく、時期決定に疑問が残るものである。３基の土坑をこの時期としたが、同様な規模の土坑がこの付近に密集しており、他の調査区域とは異なる様相を示している。ＳＫ 37020 は竪穴住居の可能性を残すため、竪穴住居とその周囲に設けられた土坑群という集落の一端を示しているものかも知れない。図示できたものが深鉢の小片のみのため、中期から後期とするに止めるが、隣接する朝見遺跡では形状は異なるものの後期前半の土坑群が検出されている[1]ことから、これらも同様な時期の可能性がある。

（２）弥生時代終末～古墳時代初頭

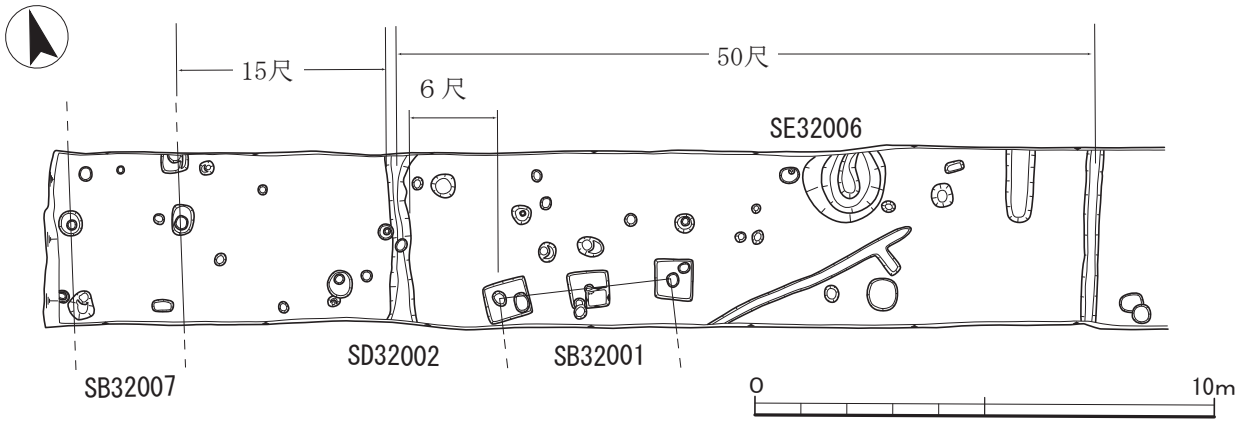
弥生時代終末～古墳時代初頭のものは土坑１基を除き全て流路である。出土遺物も少なく、図示できたものは高杯と台付甕の小片３点に止まる。台付甕の脚台は直立気味、高杯の杯部は浅い傾向を示すが、流路という性格もあり、これ以上詳細に時期を限定できない。

（３）奈良時代

この時期の遺構は、調査区北部の１区・２区が中心で、掘立柱建物や井戸・土坑・溝を検出している。集落構成を示す状況にはないが、斎宮の編年[2]に従い詳細な時期を検討する。

この時期を示す遺物として、最も良好なものはＳＢ 32007 柱穴に埋納された粗製椀（20）である。粗製椀は杯と比べ明確な型式変遷を示さないが、時期が下るに従い口径に対する器高を減ずるのは周知のとおりである。この口径と器高の関係について類似するのはⅠ－３期からⅡ－１期であろう。他の柱穴からは底部外面をヘラケズリで調整する土師器皿が出土しているため、Ⅰ－３期に止めたい。次に２基の井戸が重複するＳＤ 31005 出土の土師器皿には底部外面のヘラケズリは認められないものの口縁部が内弯し器壁も厚いことからⅠ期に止めたい。一部にはⅡ期に登場する皿Ａ２に分類されるものや、新相を示す土師器甕もある。このことからⅠ期からⅡ期への過渡期と考えられ、前述したＳＢ 32007 と同様な時期として、８世紀末頃にしておきたい。

一方、遠く南方に離れた９区で検出された水利遺構を伴う自然流路ＳＲ 39008・39016 から出土した土師器の杯皿類につては、底部外面をヘラケズリで調整する。同様にＳＫ 31008 やＳＤ 31010 の土師器皿も同様な調整で器壁も厚い。したがって、これら



第139図　平安時代前半の遺構配置図

は前述のものよりやや遡って十分Ⅰ－３期に収まるものと考えられ、８世紀後半となる。

この様に、当時代の遺構は８世紀後半から末頃のものである。

（４）平安時代前半

この時期の遺構も前代と同様に調査区北部の２区及び３区で検出している。なお、時期については前代と同様に斎宮の編年による。

２区では建物、井戸、溝があり、集落構成の一端を示している。ＳＢ 32001 は柱掘形に比べ柱間が短く、倉庫風の建物である。近隣にはＳＤ 32002 があり、第 139 図に示すようにＳＢ 32001 の西側柱筋から約６尺で溝の西岸に至る。このＳＤ 32002 から東に 15 ｍの位置に並行する同様な規模の南北溝があり、溝芯々では丁度 50 尺である。東西 50 尺の区画に中に建物と井戸を配置した構成を想定できそうである。ＳＢ 32001 柱穴から出土した土師器杯は口縁部が屈曲し、底部外面のヘラケズリはみられない。Ⅱ－１期からⅡ－２期で８世紀末～９世紀前半に相当する。問題点としては、ＳＤ 32002 及びＳＥ 32006 は遺物による時期決定の根拠を持たず、ＳＤ 32002 においては前代のＳＢ 32007 と方向を揃えるものとすることも可能である。両者は約 15 尺の間隔をとる。ＳＢ 32007 を奈良時代末に止めたが、その差は僅少である。むしろ、溝により区切られたそれぞれの区画にＳＢ 32007 及びＳＢ 32001 が配置されるものとの解釈が妥当である。この様にＳＢ 32007 とＳＢ 32001 については、時期決定に疑問を残す。両者は時期差ではなく、区画内への建築順を示すに過ぎないのかもしれない。

同じ２区のＳＥ 32016 は土師器甕の口縁端部が内に肥厚する傾向を見せ、灰釉陶器の共伴もある。Ⅱ－２期以降となり、ＳＢ 32001 の一群よりやや下る。３区のＳＤ 33005 とＳＤ 33007 は同様な規模のしっかりした溝である。芯々で約 30 尺の間隔を空け並走するが、両者で区画を構成するものとしては狭く思われる。出土遺物からはＳＤ 33005 は古相を示しⅡ－１～Ⅱ－２期か。対してＳＤ 33007 の土師器甕は明確に口縁端部を内に折り返しており、ハケメも縦方向で荒い。Ⅱ－４期まで下ることも可能であるが、他の遺物はそこまでの新相はなく、Ⅱ－３期までに止めることにする。したがって、ＳＤ 33005 は９世紀前半～中頃、ＳＤ 33007 は９世紀後半となり時期差を生じる。何らかの区画が拡張または縮小する様子を示す可能性があるが、調査区が狭小なこともあり詳細は不明である。

この様に、この時期の遺構は、数は少ないものの８世紀末から９世紀後半に分布し、奈良時代とした前代の時期に一部重複する。前代から連綿と続く区画消長の一端を垣間見ているものかも知れない。

（５）平安時代中頃

この時期の遺構は全て３区で検出している。溝や落ち込みで、自然流路の可能性を残す性格の不明なものである。

これまでと同様に斎宮の編年によれば、ＳＤ 33012 出土の土師器杯は古相を示すものを含むものの、器高を減じ口縁端部は外反する。器壁もやや薄くなりⅡ－４期以降として良いであろう。しかしロクロ土師器は出土しておらず、Ⅱ－４期の 10 世紀前半としておきたい。ＳＤ 33010 も大きな時期差はないものと考えられる。ＳＺ 33002 出土の灰釉陶器皿は断面方形の高台を貼り付け、底部外面をロクロケズリで調整する。釉の状況は不明であるが、黒笹 14 号窯式の可能性があり、９世紀後葉から 10 世紀前半の時期が与えられている[3]。この様に平安時代中頃とした遺構は、10 世紀前半の近接した時期のものである。

（６）平安時代末～鎌倉時代

この時期の遺構は、５区、７区、８区から検出されており、特に５区では中心的な時期である。井戸、土坑、溝があるが、建物の検出はない。ただし、後代の室町時代の遺構には山茶椀等が多数混入する遺構が多くあり、これら以外にも本来は多くの遺構が存在した可能性がある。ここでは、土師器については伊藤裕偉氏の分類・時期区分[4]、山茶椀については藤澤良祐氏の編年[5]による。

ＳＫ 38093 からはロクロ土師器、陶器鉢等が出土している。ロクロ土師器の下限は斎宮では一部Ⅳ期に残るもののⅢ期のうちに消滅する[6]。一方、陶器の鉢は常滑の片口鉢と思われる。１ａ型式期から量産されていたとするものの具体例に乏しく、安定的には１ｂ型式期からとされる[7]。図示できなかったがⅡ

段階の山茶椀小片も出土しており、ＳＫ 38093 の時期を中世Ⅰ期の 12 世紀中頃としたい。

ＳＫ 35002 は山茶椀や土師器鍋が比較的まとまって出土している。山茶椀は４型式から５型式、土師器皿は口径 15㎝を測り、器壁が厚く、口縁部の内弯は弱い。中世Ⅰ期に止まるものと考えられ、山茶椀に比べ若干古相である。中世Ⅰ期～Ⅱ期への過渡期として 12 世紀末頃としたい。

ＳＫ 37004 からは良好なかたちで出土した土師器鍋をはじめ、皿や山茶椀等が多量に出土している。土師器皿の口径は 11 ～ 12㎝程度に縮小しており、山茶椀は６型式～７型式が多く、８型式に下るものはない。土師器鍋の形状にも矛盾がないため、中世Ⅱ期の 13 世紀のものとなる。一方、ＳＫ 35007 は山茶椀に高台の消失した８型式以降のものがあり、土師器皿の口縁部の内弯は顕著である。中世Ⅱ期でも下限に近い 14 世紀初頭まで下るものであろう。

上述した観点からこの時期の遺構は、12 世紀の中世Ⅰ期と 13 世紀の中世Ⅱ期に大別できる。中世Ⅰ期には、ＳＫ１、ＳＫ 35002、ＳＥ 35005、ＳＫ 38093、ＳＫ 38094 があり、ＳＫ 38093 が最も古相を示す。中世Ⅱ期には、ＳＫ 35003、ＳＫ 35007、ＳＤ 35008、ＳＤ 35009、ＳＫ 37004、ＳＫ 38019、ＳＥ 38022、ＳＫ 38052、ＳＤ 38081 があり、ＳＫ 35007、ＳＥ 38022、ＳＤ 38081 は中世Ⅲ期に近接する時期まで下る。

この時期は井戸等の検出があるものの集落構成を垣間見ることは不可能な状況である。しかし、上述した様に時期の後半に遺構が増加する。これは、多量の遺構や遺物を検出した後代の室町時代への連続した移行を示すものと思われる。

（７）室町時代

今回の調査区で中心となる時期で、遺構、遺物の大半を占める。ここでも前代と同様に、土師器については伊藤裕偉氏の分類・時期区分[8]による。

ＳＫ 38085 からは土師器皿を中心にまとまった出土があった。土師器皿は大型のＢ形態の口径が９～12㎝、小型のＡ形態も口径７㎝前後で、やや縮小している。共伴する土師器鍋の口縁部も第３段階に下るものを含み、14 世紀中葉から 15 世紀前半頃の中世Ⅲ期とするに矛盾はない。

ＳＤ 36006 からも土師器皿を中心にまとまった出土がある。土師器皿は大型のＢ形態の口径が９～10㎝、小型のＡ形態は口径７㎝前後で、ＳＫ 38085 と比べＢ形態に口径の縮小がみられる。土師器鍋の口縁部に第４段階に下るものは無く中世Ⅲ期としたいところではあるが、少量ではあるものの中世Ⅳ期から出現す土師器皿Ｄ形態の出土がある。したがって、中世Ⅲ期からⅣ期の過渡期と思われ、15 世紀中頃を中心とする時期が与えられる。

ＳＥ 38005 からは土師器皿がまとまって出土している。大型のＢ形態は口径６～７㎝まで縮小し、Ｃ形態やＤ形態がみられる。15 世紀後半から 16 世紀末頃とされる中世Ⅳ期とすることができる。小片ではあるが、土師器鍋も第４段階を示しており矛盾はない。

以上の観点で当代の遺構は中世Ⅲ期と中世Ⅳ期に大別され、それに加え一部にその過渡期のものが存在することになる。中世Ⅲ期には、ＳＤ 36022、ＳＫ 38077、ＳＫ 38085、ＳＥ 39002 等があり、中世Ⅳ期には、ＳＤ 36002、ＳＤ 36004、ＳＤ 36012、ＳＤ 37006、ＳＥ 38001、ＳＥ 38005、ＳＤ 38011、ＳＤ 38017、ＳＤ 38018、ＳＤ 38038、ＳＤ 38042、ＳＢ 38067、ＳＤ 39001、ＳＤ 39014、ＳＥ 39015 等がある。そして過渡期のものにＳＤ 36006、ＳＢ 36025、ＳＤ 38027 等である。

以上の結果による集落構成や変遷等は後述することにする。

２．水利施設

既述したように９区で検出したＳＲ 39016 は幅 24 ｍの自然流路である。調査区が狭小なため正確な水流方向は不明確であるが、僅かに検出できた両岸の方向から第 140 図の矢印Ｇの方向と推測した。この延長上で現代まで小溝として残る低地に合流することになり、現地形とも整合する。

既述したように、この流路の南東岸ちかくに水利施設は設置されている。第 140 図Ｅ列の西側にも多数の杭があり、見ようによってはＥ列の西側にもう１列を想定し、２列並走する構造とみることもできる。

水利施設の構成材は、建築部材を杭に加工したもの、建築部材や自然木をみかん割にしたものを杭に加工したもの、自然の幹枝を杭に加工したものがある。第141図はそれぞれの樹種比率を示したものであるが、自然木の大半はマツ属である。この自然木加工杭の位置を示したものが第140図である。一見して分かるように、E列からF列に使用されており、西側に散在する杭には使用されていない。このことから、杭に加工する材料の差は、時間差を示すものと推測する。E列西側に散在する杭はE列・F列の前身施設の痕跡ということが証明できるものと考える。当初、転用材を中心に水利施設が設置されたが、何らかの理由で破損し、後にE列からF列が造られたものとした。

さて、水利遺構は全国各地で検出されているが、その大半は流水方向に対し直角に設置されている。しかしSR 39016ではE列が南東岸と1.5mの間隔で4m以上平行に延びている。この状況から護岸施設を想定しなければならないであろう。護岸施設が岸から遊離することは流水浸食及び流路拡大により想定される現象[9]とされる。板付遺跡では堰と護岸に構造的共通性が認められるとされ、当遺跡のものは直立型に分類される[10]ことになる。しかし、護岸施設とするには板材の使用が少なく違和感があり、何よ

第140図　水利施設

りも丸太Ａ～Ｄの解釈が困難を極める。築的な施設としても、流水方向と合致しない。

堰とした場合は、流水に平行する角度が問題となろう。福岡市四箇周辺遺跡では横木を杭列で固定し、堤防状の構造物を形成し流路を固定している[11]。この様なものを菅原康夫氏は「流路固定形態」に分類している[12]。当遺跡のＥ列は流水方向に設置した横木の両側に杭を密に乱立させるもので、杭列と南東岸の間に流路を固定したのもとすれば「流路固定形態」として良いであろう。取水堰の構造は古墳時代には合掌型が普遍的になったとされる[13]が、奈良時代に下るＥ列は杭を直立に打ち込んでおり、既述したように直立型である。これは流水方向に対し平行に設置されるため、水圧をまともに受けることがなく、複雑な合掌型の採用に至らなかったものと思われる。この様にして水流矢印Ｇの一部を矢印Ｈとして分流固定したものと考えたい。

次に分流固定された水流矢印Ｈは、Ｅ列に連結するＦ列により鈍角に大きく方向を変えられる。水流矢印Ｉとなり、おそらくその延長上にあると思われる用水路へ導かれるものと推測される。

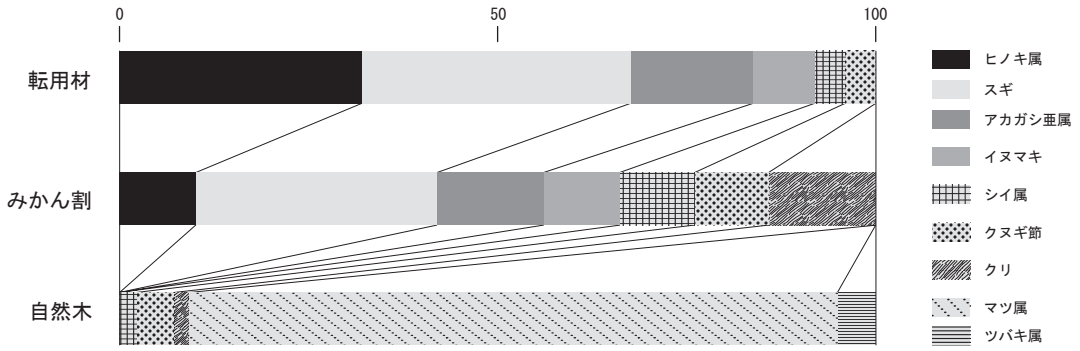
この様に想定した場合、丸太Ａ～Ｄには次の機能が考えられる。流水方向が変化するＦ列は、越水が発生し易い場所である。あるいは常時越水していたのかもしれない。このような越水個所では洗堀を防止するための水たたきを備える必要があるようで、複数平行する杭列のうち主堰の背後の杭列にその機能を持たせている[14]との解釈も行われている。当遺跡の水利施設では、杭列の代わりに太い丸太を４本並べ川底を覆い、水たたきとしていたものと解釈できないであろうか。越水圧による横方向への変形を防ぐためか、丸太を固定する杭には２ｍに及ぶものもあり、しっかりと川底に打ち込まれている。この様に固定された丸太は、Ｆ列を背後から支える機能も合わせ持ったものと思われる。

ＳＲ 39016 に設置された水利施設が「流路固定形態」を採用した理由は、多くの類例にあるような水流を堰き止め、水位を上げて取水する必要がなかったためで、それだけＳＲ 39016 の水流が豊富であったものと思われる。

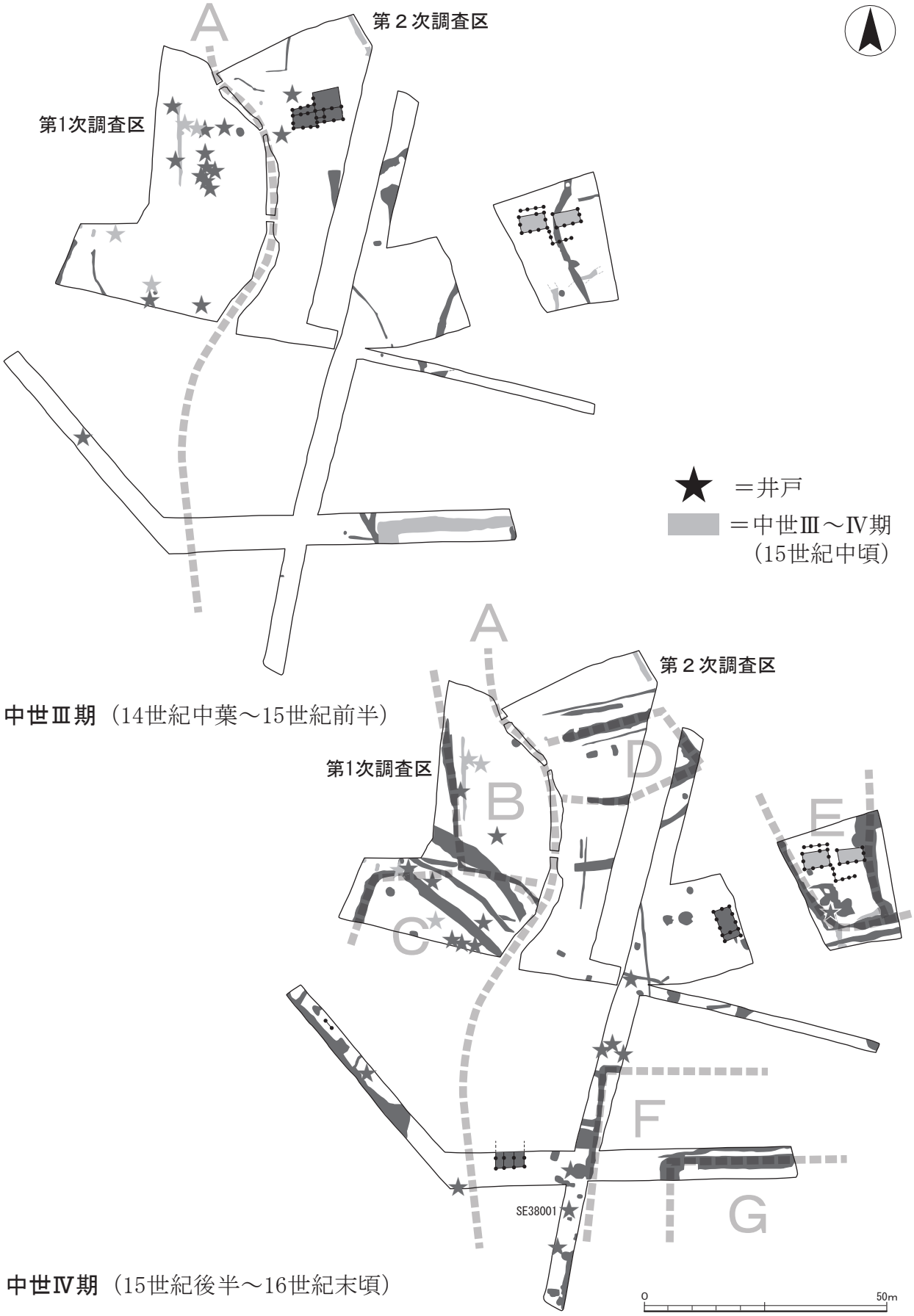
以上、ＳＲ 39016 の水利施設について現状から利用形態を推測してみた。しかし何よりも、流水矢印Ｉに取り付く用水路の有無で、大きく考え方を変えなければならない。流水矢印Ｉの延長上に位置する８区では、その可能性のある奈良時代の溝は確認できておらず、今回の推測は、その可能性のひとつに止めざるを得ないものである。

３．室町時代の集落構成

検出した遺構・遺物の大半を占め、今回の調査の中心的時代である室町時代の遺構変遷をみることにする。第 142 図は前述した時期決定に従い、過去の調査結果を含めて図示したものである。中世Ⅲ期とされる 14 世紀中葉から 15 世紀前半では、若干の建物と井戸が目立つ。線Ａは微谷筋で、現代でも小溝が流れている。これを境に西側では井戸が多数掘られるが建物はなく、東側では建物と井戸が配置され区画であったようである。後に東へ 30 ｍ離れた地点にも区画が出現するが、全体として集落としては散在的なものである。西側の井戸群については第１



第141図　水利施設樹種比較図



第142図　室町時代遺構変遷図（1：1,200）

次調査において田畑に伴うものに位置付けている[15]。この様に中世Ⅲ期では、自然地形による線Ａを境に土地利用が大きく異なる。

次に中世Ⅳ期とされる15世紀後半から16世紀末頃では、状況が一変する。図中に示した様に堀状の溝によってＢ～Ｇの区画が出現する。

区画Ｂ・Ｃは第１次調査で想定されていた区画であるが、両者とも東限は自然地形線Ａによる不整形な方形である。区画Ｂでは北辺が不明確で建物の検出もない。

区画Ｄは第２次調査で想定されていたもので今回の調査において東限を明確にできた。西限は線Ａにより、不整形な平行四辺形を呈する。区画内には建物は無く土坑のみであるが、幅３～４ｍ、深さ１ｍ以上のしっかりした堀状の溝で囲まれる。何か特異な区画であろうか。土壌分析の結果からは栗、柿等の有用植物の存在が想定されている。中世Ⅲ期とした建物や井戸が時期を下るとすれば、区画の北側中央に建物を配置し、南側に栗や柿が植えられた屋敷地の状況が生じる。建物と溝が近接に過ぎる問題もあるが、時期決定再考の余地を残す。また､溝の規模に比べ区画内の面積が小さく、特異な様相である。

区画Ｅは不整方形に囲まれた区画である。建物がやや先行するが、後に区画溝を巡らせた可能性もある。建物１棟が溝に重複するが、建物復元の問題かもしれない。建物２棟、塀２条に復元したが、検出できなかった柱穴もあり疑問も残っている。第143図に示すように、調査区内には他にも根石を伴う柱穴や原位置を保っていないものの根石状の川原石が数基あり、根本的に異なる建物様相であった可能性が否定できない。また、特筆すべきことに区画南部を鍵状に屈曲して延びるＳＤ36004からは多量の土師器皿が出土している。しかもその多くの口縁部に油煙が付着する。灯明皿として使用されたものであろうが、全調査区内での出土比率は突出している。さらに人面墨書土器の出土もあり、住宅としての区画だけではなく､祭祀的な場であった可能性がある。

なお、第２次調査ではＤの南北にも区画を想定して南北に並ぶ３つの区画を想定している[16]。しかし、区画Ｅの南側については今回の調査で区画溝が検出されておらず、否定的な結果となった。

これらの区画が不整形を呈するのは、区画Ｅの溝埋土分析において一時的な流水のある湿地的な空堀であったことが示すように、自然の微地形を利用した結果と思われる。微地形を無視して造成した整形

第143図　根石検出位置図

区画を設ける力が不足していたとも考えられよう。それは、整形な区画溝を有する糀谷垣内遺跡[17]等の建物と比べ、当遺跡の建物は雑舎的な様相であることが証明している。

一方、区画Ｆ・Ｇは大きく様相を違える。両者とも直線的な溝が直角に屈曲する。両者とも北西角が明らかになるに止まっており、伴う建物等は不明である。区画Ｆは区画Ｇと同時存在する限り、区画Ｇが障害となって区画が成立しない。両者は方向を揃えており、区画Ｇの外側に区画Ｆの溝が巡るとすれば、２重の堀状の溝に囲まれた区画が成立する。しかも方位は正方位で、他の区画との格差は非常に大きなものである。櫛田川対岸の中の坊遺跡では多量の土師器皿・鍋や瓦質の火鉢、和鏡の出土をもって有力者の屋敷を想定している[18]。当遺跡においても和鏡の出土は無いものの多くの土師器皿・鍋、比較的多くの瓦質の風炉等が出土しており、状況は似る。近隣の朝見遺跡でも二重とも考えられる堀状の溝が巡ることが確認されている[19]。この様に櫛田川下流域には、埋没した中世城館的な屋敷があるものと思われ、区画Ｆ・Ｇは区画Ｂ～Ｅ等を統括する領主層の館の可能性がある。現在、区画Ｇ内には穴師神社が鎮座する。式内社として由緒ある神社であるが、他所から移転してきたと『朝見村沿革史』等に記されている[20]。現在この地には、神社に隣接して公民館も所在し、地元の中心となる場所である。領主層の屋敷跡が後世まで中心的地位を保ち、神社の移転場所や公民館の設置場所に選定されたものと考えられよう。

もう一つの可能性としては寺院である。区画Ｇ近隣のＳＥ 38001 からは磚が出土している。磚は禅宗寺院等の床に敷かれている様子を今日でも見ることができる。その他、既述した風炉等の瓦質土器や多くの瓦片があり、寺院の存在を伺わせる。調査区のやや南方の集落内には「十王堂」という字があり[21]、興味深い。

二重区画Ｆ・Ｇの正体は、狭小な今回の調査区では明らかにすることがでず、領主層の屋敷または寺院の可能性を列挙するに止めざるを得ない。しかし、いずれであったとしても圧倒的優位な区画Ｆ・Ｇ、祭祀的な場の可能性をもつ区画Ｅ、溝の規模に比べ区画内が狭いＤとそれぞれ特色があり、単なる区画された屋敷地等の集合とは思えない様相である。しかしながら、今回の調査ではそれを含め明らかにすることができなかった。

15 世紀後半になって周囲に堀状の溝を巡らせるようになる背景としては、戦国時代の開始があるものと思われる。『内宮引付』には飯野郡等の神料を北畠氏が横領したことが記されており[22]、不安定な世相は当地域にも及んできたものと思われる。さて、昭和 63 年に新田洋氏が中坪遺跡の所在する南勢地域では出土することは無いと予測した[23]京都系土師器皿であるが、今回の調査で区画Ｄ等から少量ながら出土している。その背景として、当地を貫く中世伊勢街道の存在が一因であることは想定に難くない。遠方の情報や文物を入手し易い環境にあることが、京都系土師器皿をもたらしたものであろう。15 世紀後半の堀状の区画溝の出現は、戦国時代の開始に伴う世相の変化に、この環境が敏感に反応させた結果とも思われるのである。

〔註〕

① 三重県埋蔵文化財センター『朝見遺跡（第３・４・６次）発掘調査報告』2020 年 3 月

②・ 斎宮歴史博物館『斎宮跡発掘調査報告Ⅰ』平成 13 年 3 月 31 日

・ 斎宮歴史博物館『斎宮跡発掘調査報告Ⅱ』2019 年 3 月

③ 斎藤孝正「猿投用における灰釉陶器の展開」『考古学ジャーナル№ 211』ニューサイエンス社 1982

④・ 伊藤裕偉「中世南伊勢系土師器に関する一試論」『Mie history vol.1』三重歴史文化研究会 1990

・ 伊藤裕偉「南伊勢・志摩地域の中世土器」『三重県史 資料編 考古２』三重県平成 20 年 3 月 31 日

⑤ 藤澤良祐「瀬戸古窯址群Ⅰ」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要Ⅰ』瀬戸市民俗資料館 1982

⑥ 前掲②に同じ

⑦ 中野晴久「赤羽･中野「生産地における編年について」」『「中世常滑焼をおって」資料集』日本福祉大学知多半島総合研究所 1994 年

⑧ 前掲④に同じ

⑨ 菅原康夫「弥生系農業における水利施設の意義と展開

（上）」『古代学研究 92』古代学研究会 1980
⑩　前掲⑨に同じ。
⑪　福岡市教育委員会『四箇周辺遺跡調査報告書（１）』1977
⑫　前掲⑨に同じ
⑬　広瀬和雄「古代の開発」『考古学研究第 30 巻第 2 号』考古学研究会 1983
⑭　上田健太郎「弥生時代の取水堰について」『先史・考古学論究Ⅴ（甲元眞之先生退任記念）』龍田考古会 2010 年 2 月 20 日
⑮　小原雄也ほか『中坪遺跡（第 1 次）発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター 2017 年 3 月
⑯　谷口文隆ほか『中坪遺跡（第 2 次）発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター 2018 年 3 月
⑰　三重県埋蔵文化財センター・亀山市教育委員会『糀谷垣内遺跡』1944.3
⑱　伊藤裕之ほか『中の坊遺跡』三重県埋蔵文化財センター 1997.3
⑲　三重県埋蔵文化財センター『朝見遺跡（第３・４・６次発掘調査報告』2020 年 3 月
⑳　三重県神社庁教化委員会による。
㉑　松阪市史編さん委員会『松阪市史 別館 1 松阪地図集成』畠山滋 1983 年 6 月 10 日
㉒「角川日本地名大辞典」編纂委員会『角川日本地名大辞典 24 三重県』株式会社角川書店昭和 58 年 6 月 8 日
㉓　新田洋「三重県における古代末～中世にかけての土器様相」『マージナル№ 9』愛知考古学談話会 1988.10

調査前風景−１～３区方面を望む−（南から）

１区全景（西から）

１区全景（東から）

写真図版２

２区北部全景（東から）

２区全景（南から）

２区全景（北から）

２区中央突出部全景（東から）

３区北部全景（東から）

４－１区全景（南から）

４－２区全景（南から）

５区全景（北から）

写真図版４

６区全景（北西から）

７区全景（東から）

８区全景（北から）

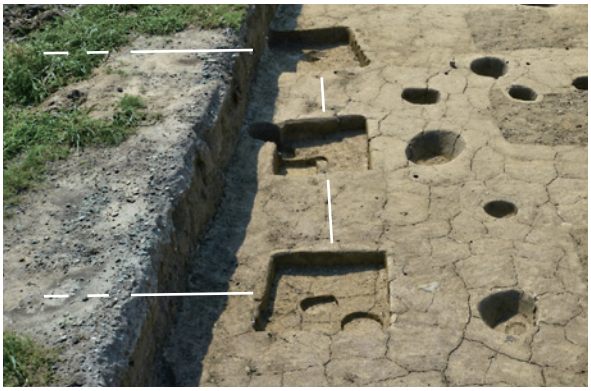
８区中央部全景（南東から）

８区南部全景（西から）

写真図版６

９区下層全景（南東から）

９区全景（北西から）



SB32001（東から）

SB32007柱穴遺物出土状況（東から）

SB36025・SA36027（西から）

SA36027柱穴（東から）

SB36025柱穴（東から）

SB36025柱穴（東から）

SB36026（西から）

SB36026柱穴（東から）

SB36026柱穴（東から）

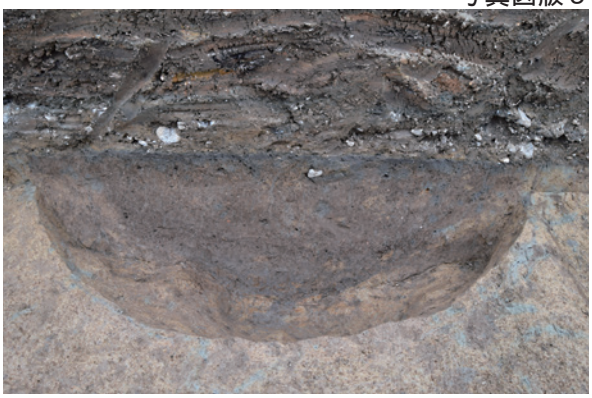
SB36026柱穴（東から）

写真図版８

SB38102（西から）

SB38067・SD38062（北から）

SA39017（北西から）

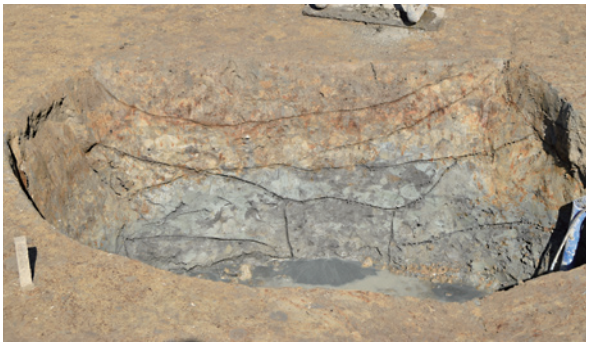


SK1断面（東から）

SE32006断面（南から）

SE38041（東から）

SE35005断面（北から）



SE38064断面（南から）

SE38040断面（西から）

写真図版10

SE38001断面（西から）

SE38001（東から）

SE38082（北東から）

SE39015（北から）

写真図版12

SE39002断面（東から）

SK35002断面（東から）

SK35003断面（西から）

SK35004・SK35007（北から）

SK36010断面（北から）

SK36008（東から）

SK37016（南から）

SK38013（東から）

SK37004断面（北から）

SK38034（南から）

SK39012（北東から）

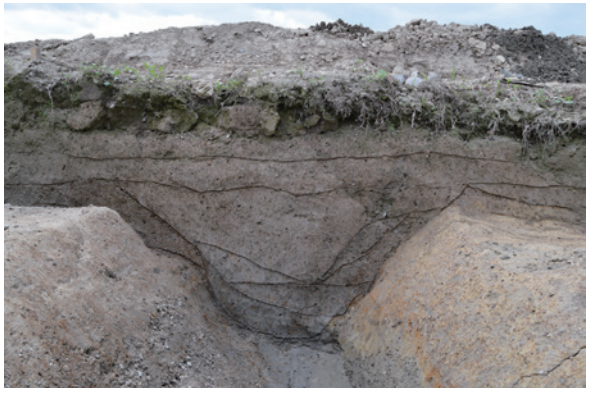
SK38035・SK38036・SK38037断面（西から）

SD31002（東から）

写真図版14

SD32002（南から）

SD33005（南から）



SD33007断面（南から）

SD33005断面（北から）

SD33012断面（西から）

SD36004（東から）

SD36007（西から）

SD36012・SD36017（東から）

SD38074（東から）

SD37007断面（北から）

SD38078（東から）

SD37008（北西から）

SD37009・SD37011・SD37014断面（東から）

SD37013断面（北から）

SD37006断面（北から）

写真図版16

SD38011遺物出土状況（西から）

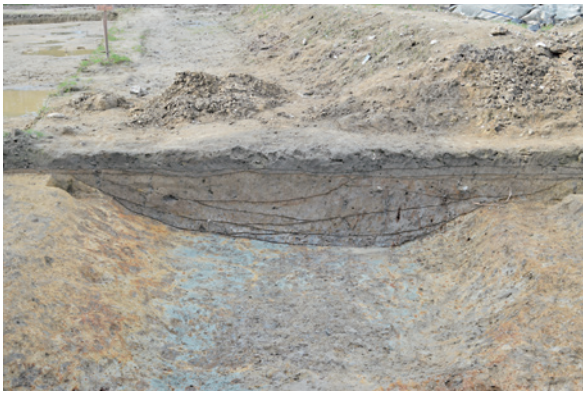
SD38018・SD38027・SD38030（東から）

SD38018・SD38027断面（西から）

SD38044（北から）

SD38059・SD38086断面（東から）

SD38060（南から）



SD38066断面（東から）

SD38072・SD38076・SD38100（東から）

SD38080（南西から）

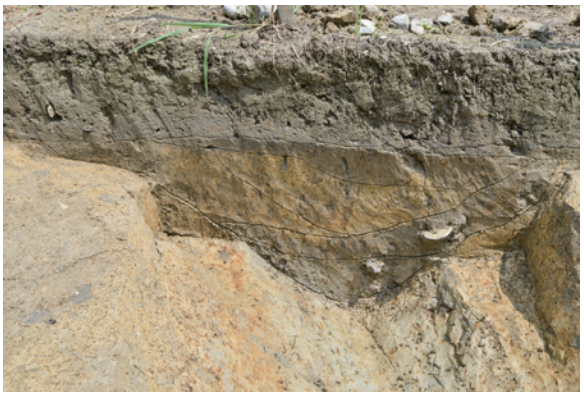
SD38087（北西から）

写真図版18

SD38073（北東から）

SD39001遺物出土状況（南から）

SD38081（北西から）



SD39004（南西から）

SR39016（北西から）

水利施設（南東から）

水利施設（北から）

水利施設（南から）

水利施設（南東から）

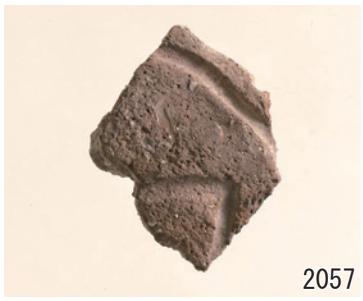
写真図版20

1

1388

2058

2059


2057

2061

2062

487

3

47

2217

2206

446

732

738

縄文土器・弥生土器・古式土師器・須恵器

20

55

58

2063

2089

864

1305

60

1305

7

1946

1305

2086

42

234

土師器

写真図版22

1100

1402

1662

435

451

443

456

447

495

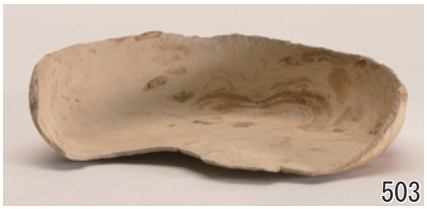
500

572

494

508

629


503

553

554

478

571

581

578

507

492

496

土師器

586

608

591

597

804

602

647

632

831

853

1016

1020

1024

1102

1105

1109

1106

1110

1111

1113

1112

1123

1122

1124

土師器

写真図版24

873

1131

882

1126

876

880

925

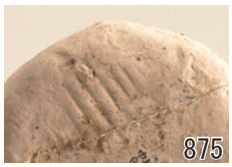
1439

1132

1461

1127

1327


875

1367

1361

1408

1411

1133

1420

1414

1419

1304

1428

1440

1444

1447

1449

1456

1451

1421

1421

1434

1381

土師器

1745

2119

1463

2117

1466

2113

2116

1467

1813

2112

1473

1803

1827

1476

1843

1896

1477

1899

1608

1619

1621

1666

1630

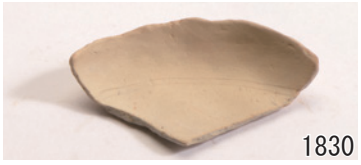
1667

1670

1811

1807

1809


1830

土師器

写真図版26

518

1136

530

533

654

543

534

523

1328

2135

655

678

1146

1144

521

1140

536

1153

1151

685

656

666

673

542

667

2138

1157

1160

1368

693

1541

1787

土師器

1479

1494

963

1533

1631

1677

1915

1158

1499

1488

1501

1491

1044

1520

1785

1524

1529

1511

1786

1539

1849

1847

556

1688

1166

1690

1167

1382

土師器

写真図版28

796

314

315

322

土師器

288

323

326

1006

土師器

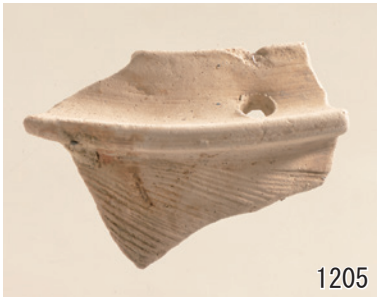
写真図版30

土師器

460

1085

1289


1205

1562

1563

1765

1387

1696

土師器

写真図版32

1598

1868

328

447

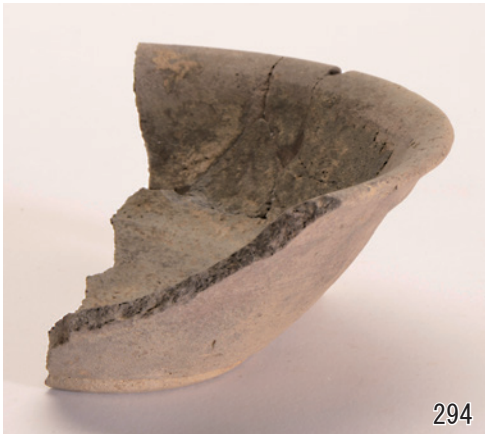
328

800

292

329

灰釉陶器・山茶椀


294

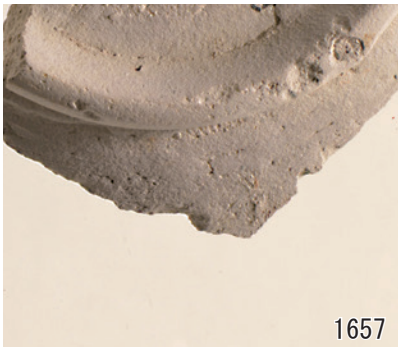
448

335

336

1231

356


1657

1351

1351

753

285

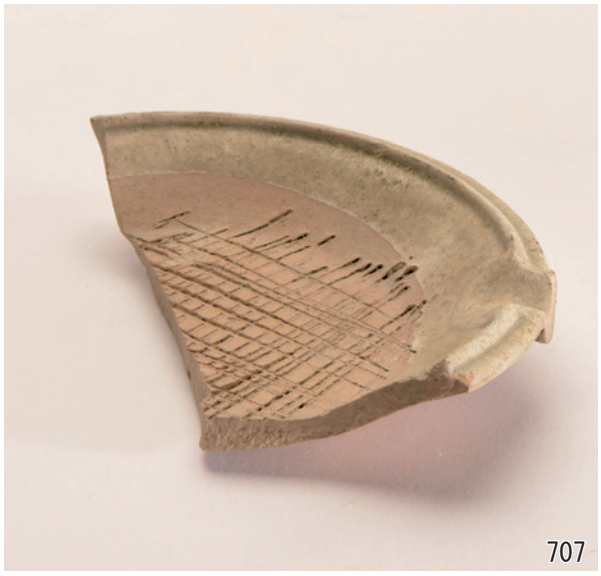
412

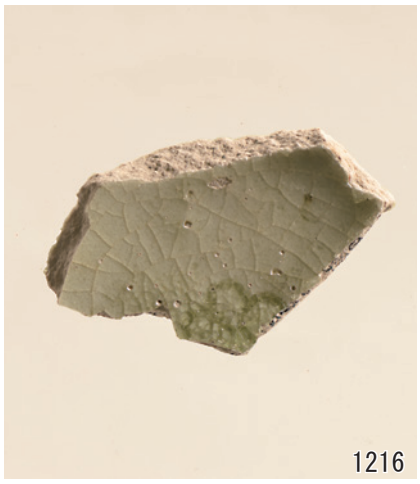
820

山茶椀

写真図版34

1732


707


1216

1766

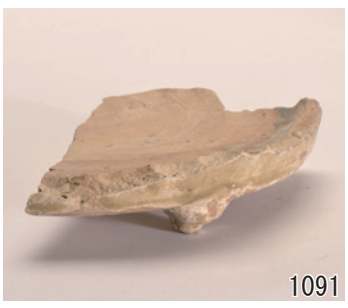
789

1219

2008

1572

1798


1091

547

施釉陶器

1655

484

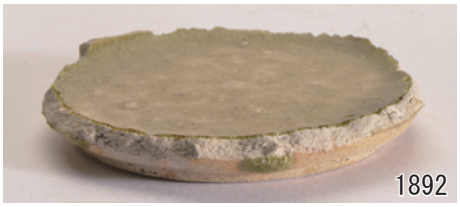
1210

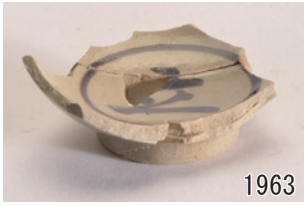
1210

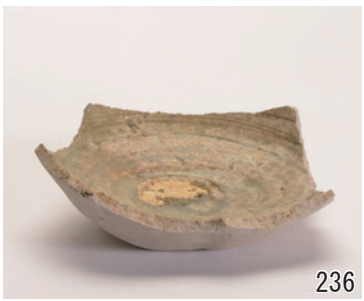
1571

1089

1310


1892


1963


236

2299

1212

2314

施釉陶器

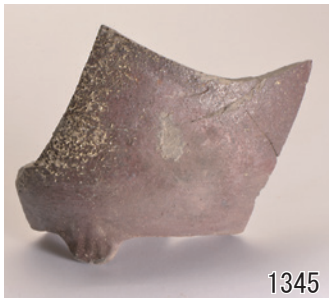
写真図版36

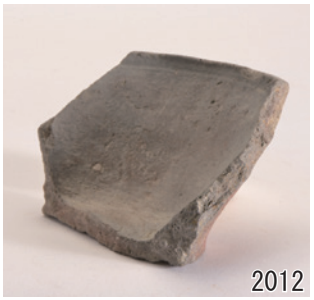
380

1337

1737

1851


1345


2012

1736

2212

1888

2283

549

1854

1580

陶器

558

1796

1233

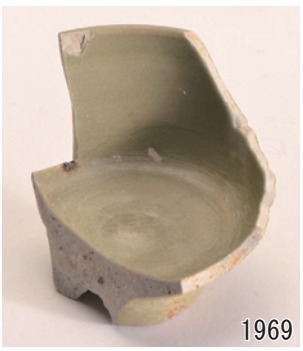
1238

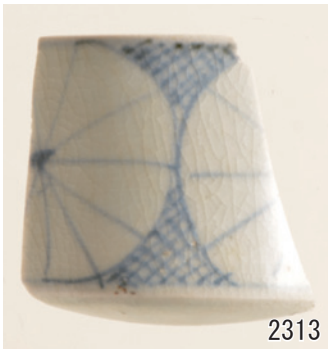
2315

1881

1235

1236

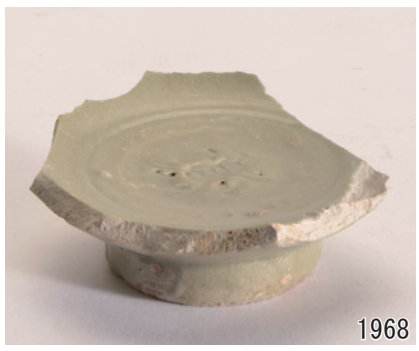

1969

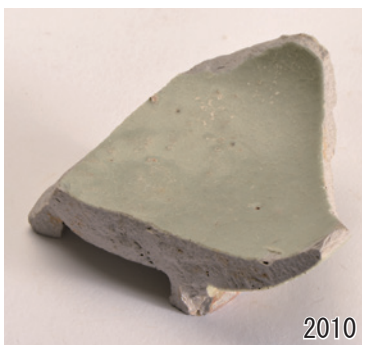

2313

710

1983

1976


1968


2010

1393

瓦質土器・磁器

写真図版38

394

2047

1246

2046

1250

1264

562

564

565

1257

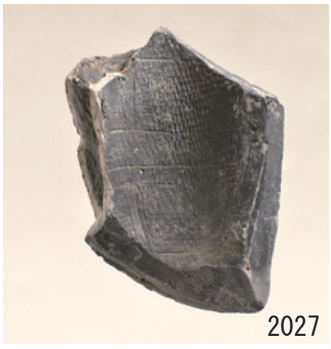
2028

954

1317

2038

2026


2027

瓦

2015

2016

1241

2018

2017

2319

569

1992

1279

1278

瓦

写真図版40

磚

774

1300

2328

2327

486

1222

1223

1224

1313

1346

1347

1348

1660

1979

1980

2323

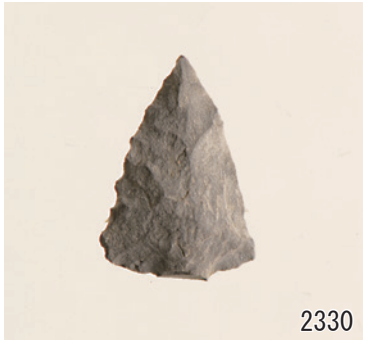
2324

2325

1301

土製品

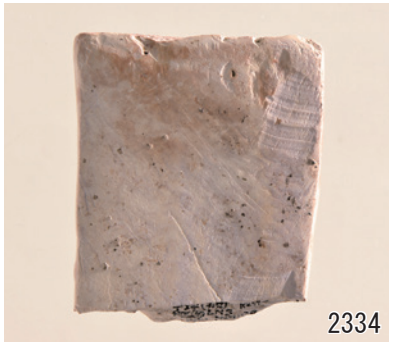
写真図版42


2330

25

2332

2331


2334

750

166

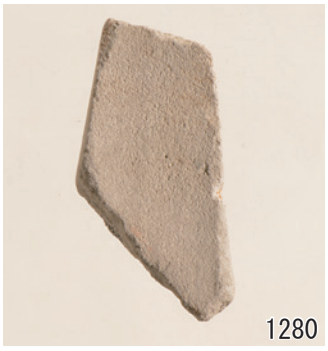
1996

2335

824

2336

1995


1280

1742

2333

1994

石器・石製品

80

81

82

84

85

449（処理後）

825

826

552

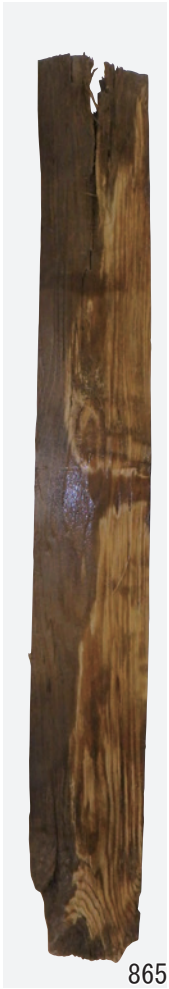
461

木製品

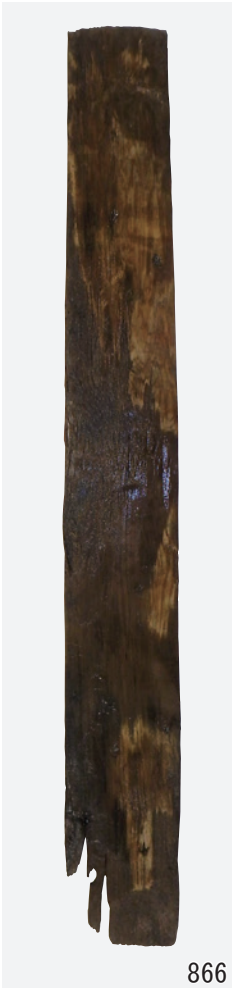
写真図版44

50

51



865



866

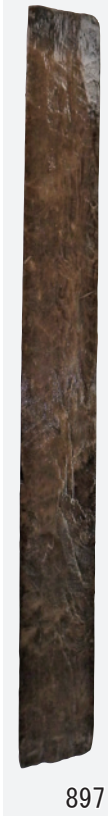
867

868

869

木製品

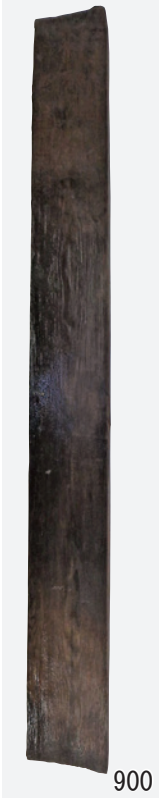
896

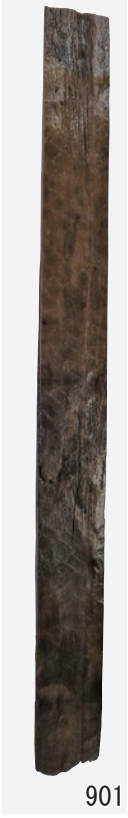

897

899

897

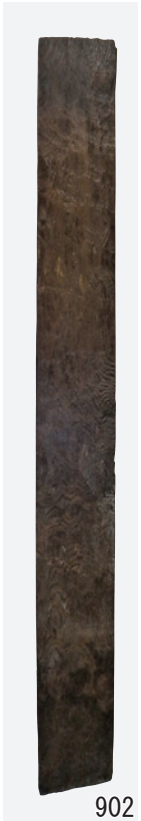
898

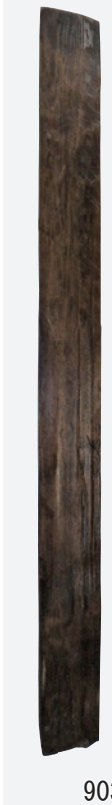

900

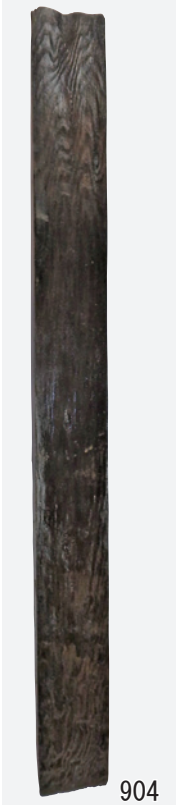

901

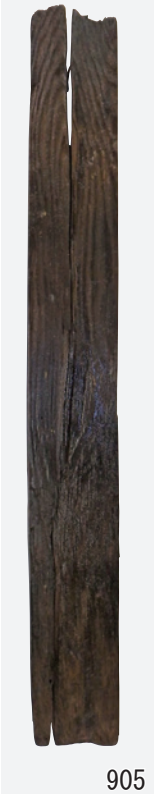
909

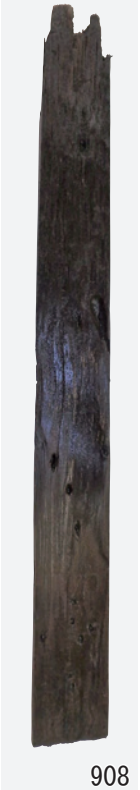
911


902


903


904


905


908

912

913

木製品

写真図版46

914

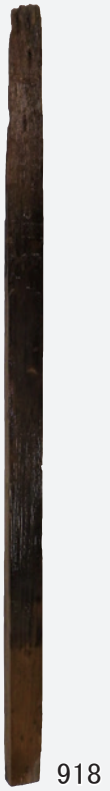
915

916

917

917

917


918

919

920

921

922

923

木製品

173

186

195

214

211

162

169

181

176

196

162

169

173

181

196

195

211

木製品

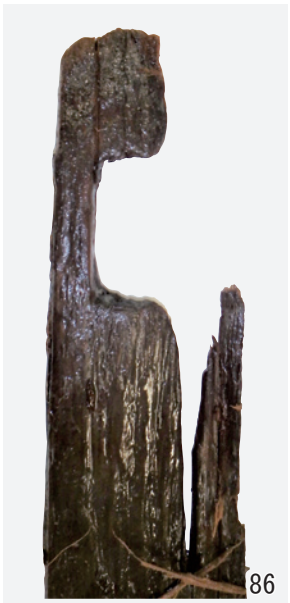
写真図版48

147

147

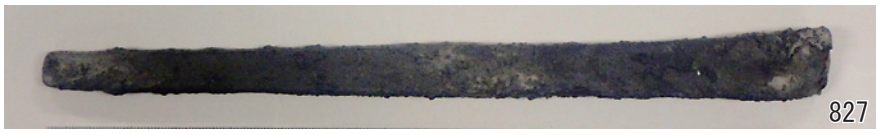
160

160


86

110

丸太Ａ


827

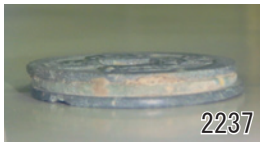
996

1401

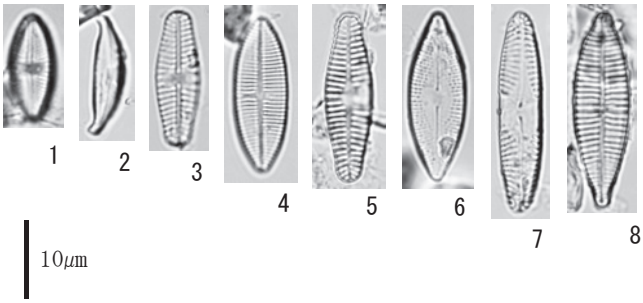
1774

1997

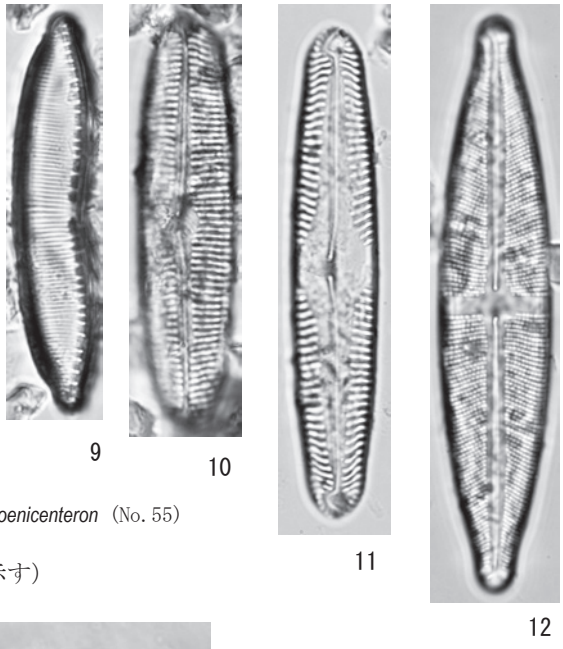
2237


2237

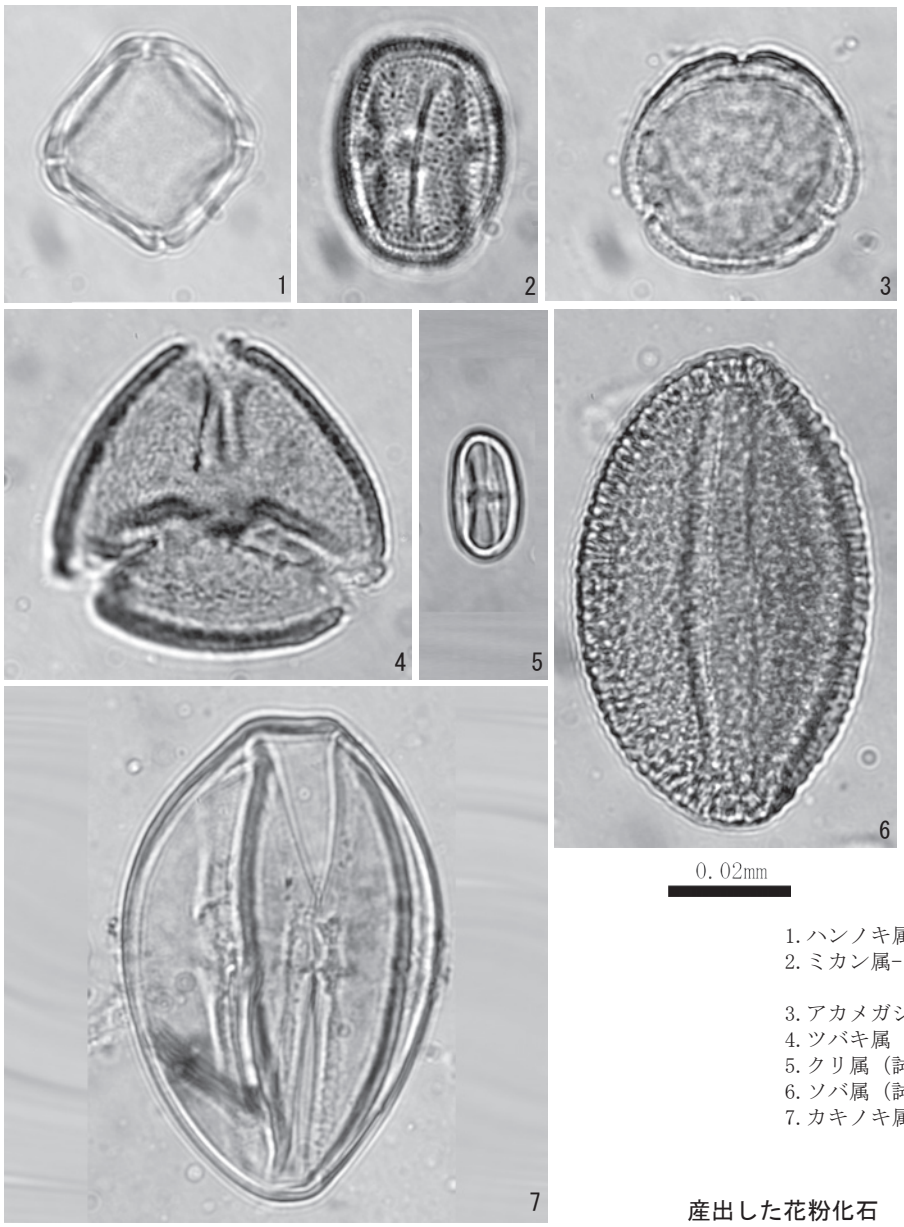
木製品・金属製品



1. *Luticola mutica*（No. 57） 2. *Amphora montana*（No. 57）
3. *Planothidium lanceolatum*（No. 59）
4. *Achnanthes hungarica*（No. 53） 5. *Planothidium lanceolatum*（No. 57）
6. *Diadesmis confervacea*（No. 53） 7. *Pinnularia subcapitata*（No. 55）
8. *Gomphonema parvulum*（No. 53） 9. *Hantzschia amphioxys*（No. 55）
10. *Pinnularia viridis*（No. 55） 11. *Pinnularia gibba*（No. 55） 12. *Stauroneis phoenicenteron*（No. 55）



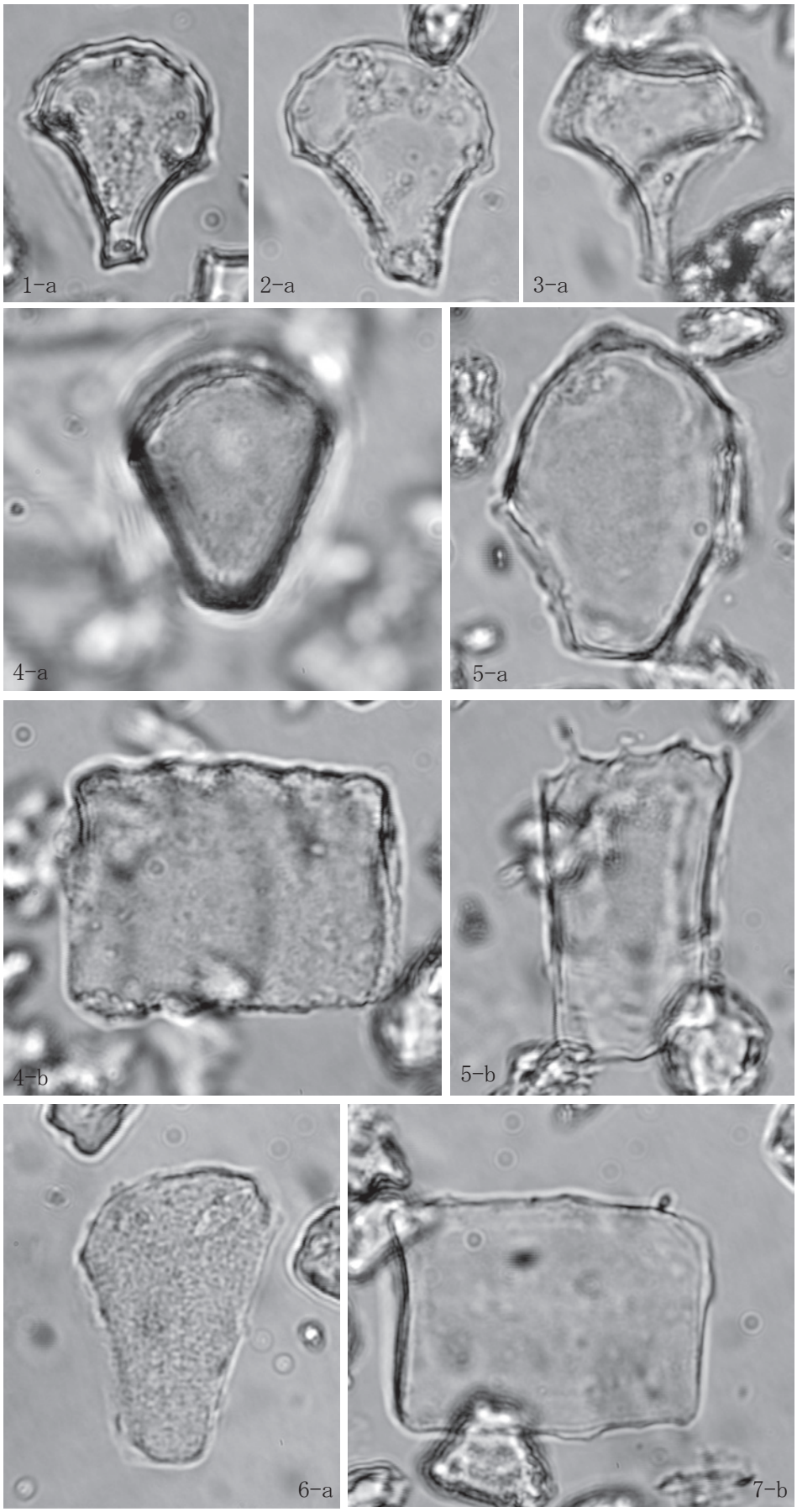
堆積物中の珪藻化石の顕微鏡写真（括弧内の数字は試料No. を示す）



1. ハンノキ属（試料55 PLC. 2605）
2. ミカン属-キンカン属-カラタチ属
（試料54 PLC. 2606）
3. アカメガシワ属（試料56 PLC. 2607）
4. ツバキ属（試料54 PLC. 2608）
5. クリ属（試料56 PLC. 2609）
6. ソバ属（試料54 PLC. 2610）
7. カキノキ属（試料56 PLC. 2611）

産出した花粉化石

写真図版50



1. イネ機動細胞珪酸体 (試料54)

2. イネ機動細胞珪酸体 (試料54)

3. シバ属機動細胞珪酸体 (試料55)

4. ネザサ節型機動細胞珪酸体 (試料54)

5. 他のタケ亜科機動細胞珪酸体 (試料54)

6. ウシクサ族機動細胞珪酸体 (試料55)

7. キビ族機動細胞珪酸体 (試料54)

a:断面　　b:側面

産出した植物珪酸体

写真１　資料№449内面

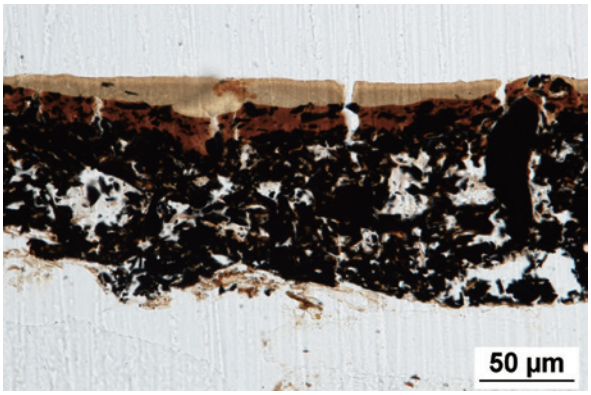


写真２　№449内面の断面

写真３　資料№449外面

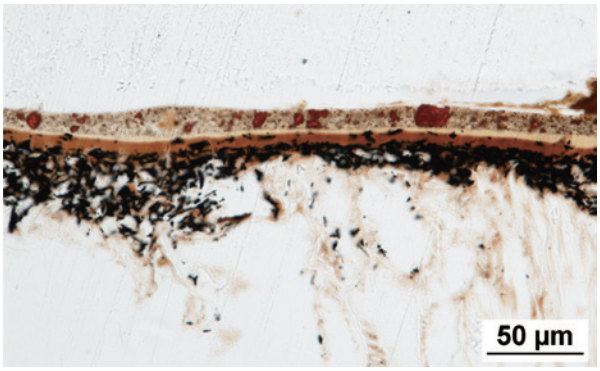
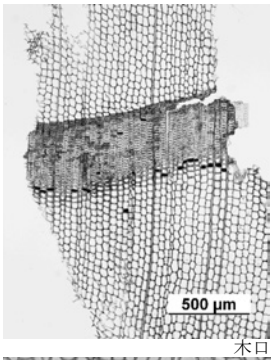


写真４　№449外面の断面

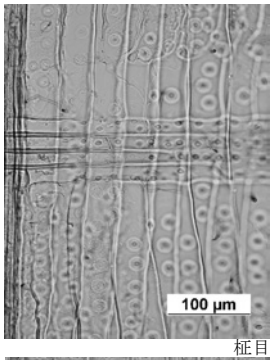
１．アカニシ？（№９）

写真図版52

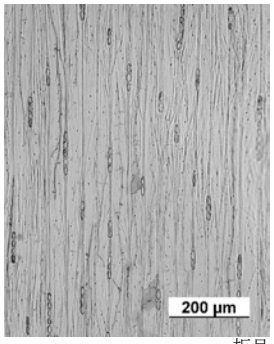
50 スギ科スギ属スギ



木口

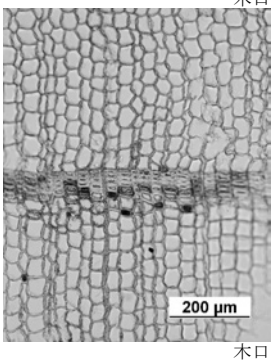


柾目

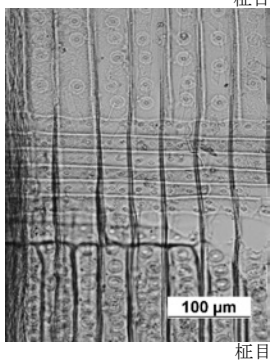


板目

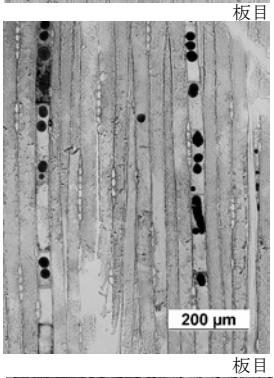
51 スギ科スギ属スギ



木口

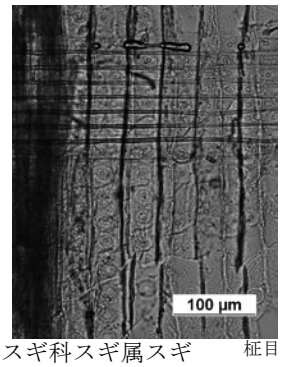


柾目

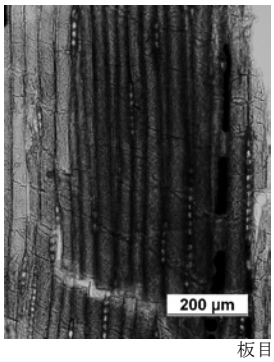


板目

80 スギ科スギ属スギ

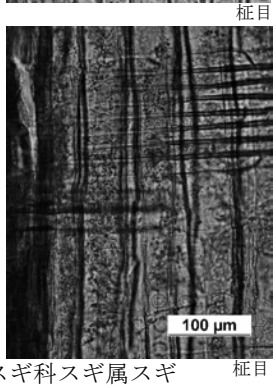


柾目

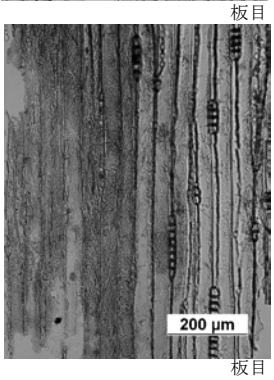


板目

81 スギ科スギ属スギ

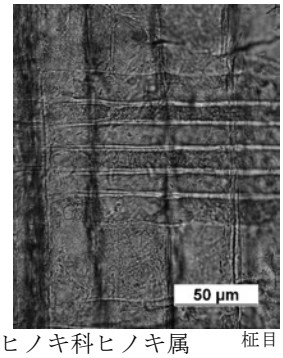


柾目

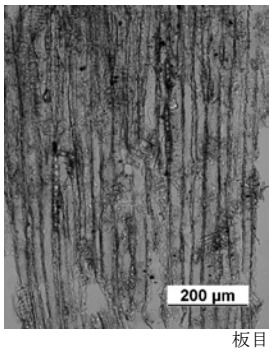


板目

82 ヒノキ科ヒノキ属

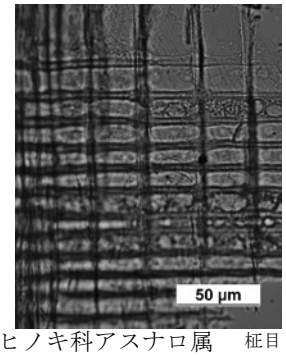


柾目

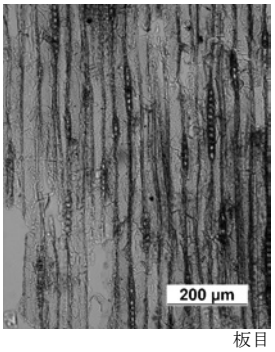


板目

84 ヒノキ科アスナロ属

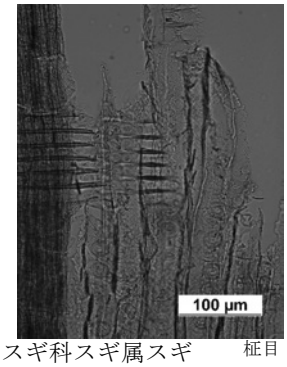


柾目

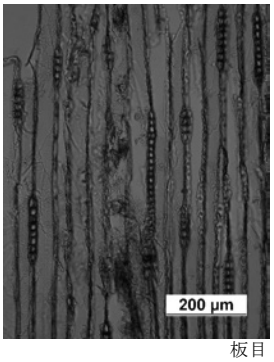


板目

85 スギ科スギ属スギ

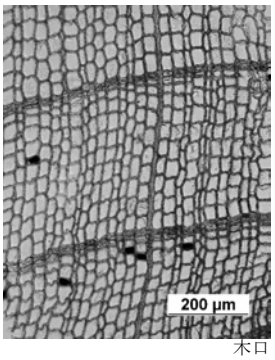


柾目

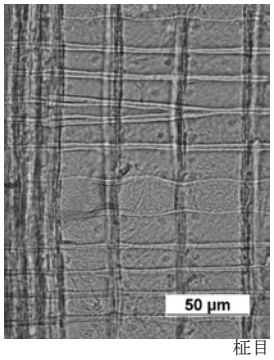


板目

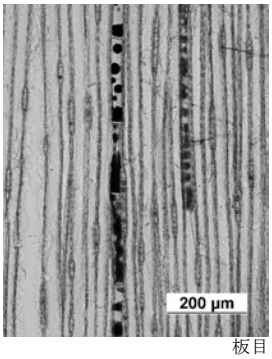
86 ヒノキ科ヒノキ属



木口

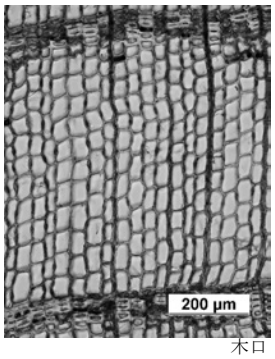


柾目

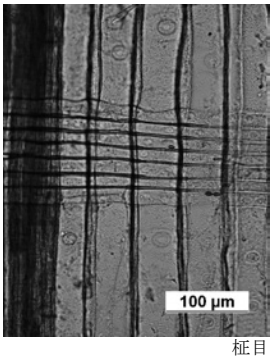


板目

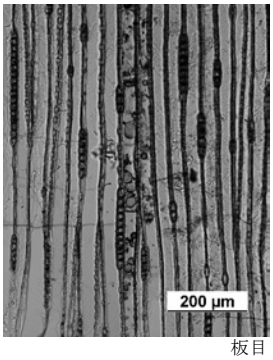
87 スギ科スギ属スギ



木口

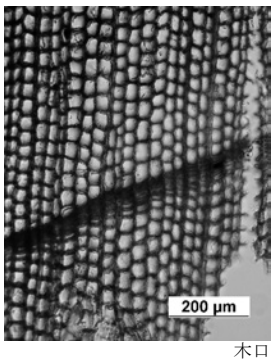


柾目

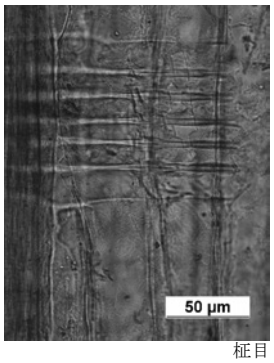


板目

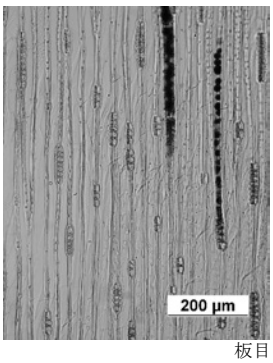
88 ヒノキ科ヒノキ属



木口

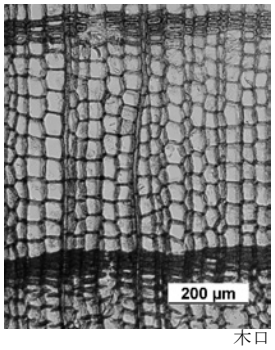


柾目

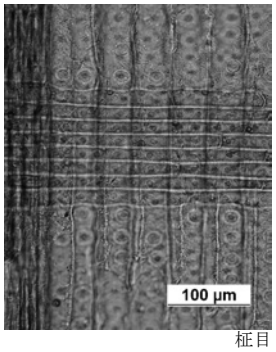


板目

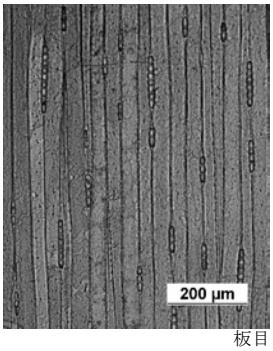
89 スギ科スギ属スギ



木口

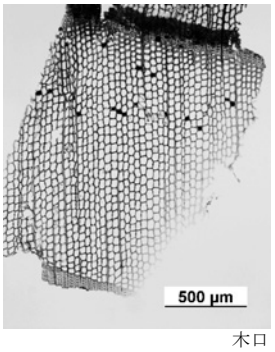


柾目

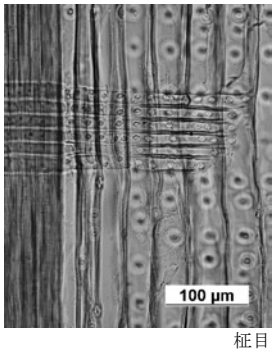


板目

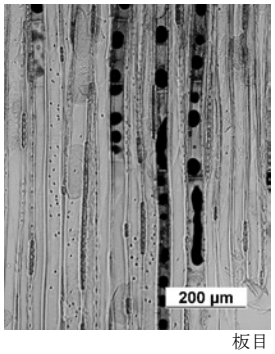
90 スギ科スギ属スギ



木口



柾目

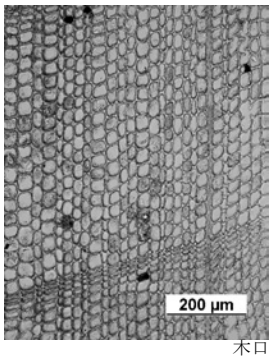


板目

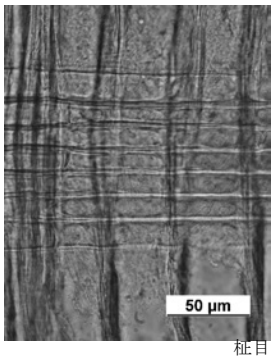
木製品顕微鏡写真

写真図版54

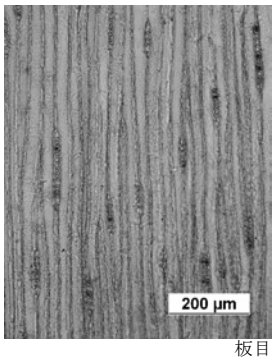
91 ヒノキ科ヒノキ属



木口

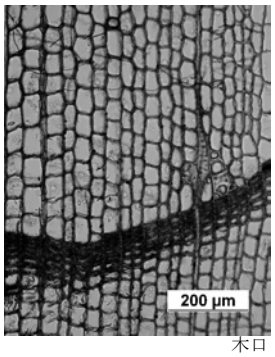


柾目

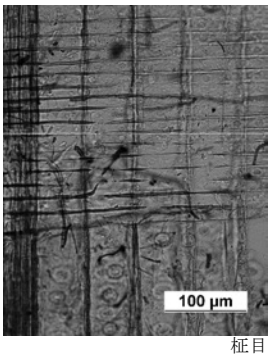


板目

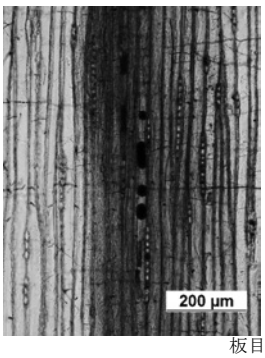
92 スギ科スギ属スギ



木口

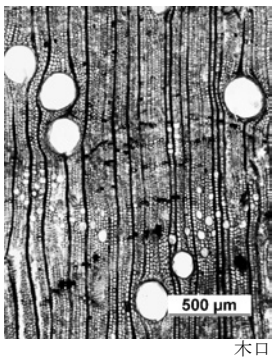


柾目

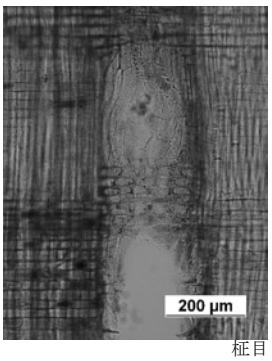


板目

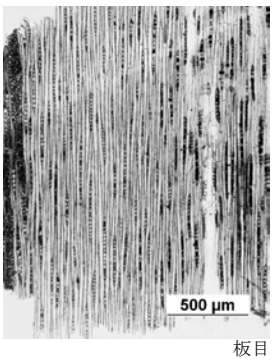
94 ブナ科シイ属



木口

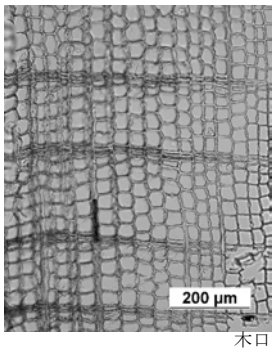


柾目

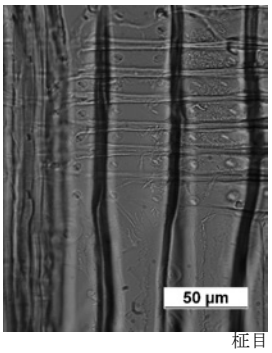


板目

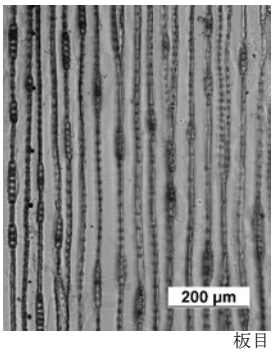
95 ヒノキ科ヒノキ属



木口

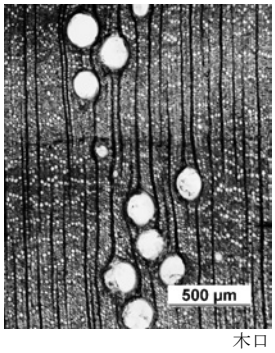


柾目

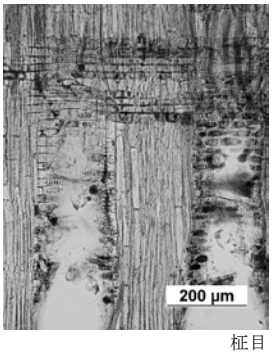


板目

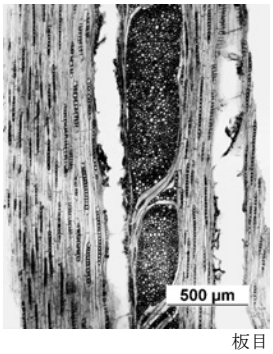
97 ブナ科コナラ属アカガシ亜属



木口



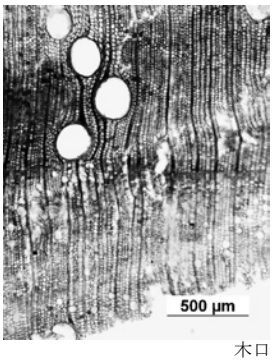
柾目



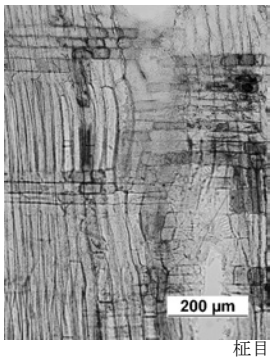
板目

木製品顕微鏡写真

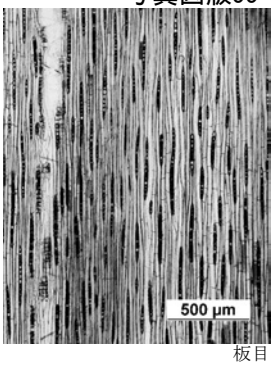
98 ブナ科シイ属



木口

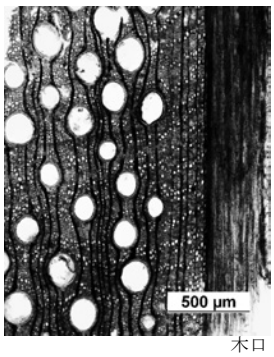


柾目

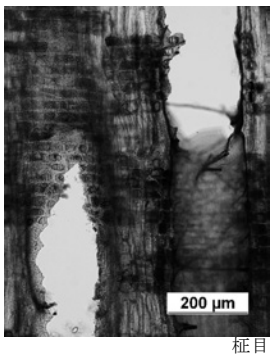


板目

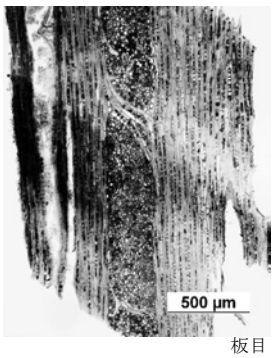
99 ブナ科コナラ属アカガシ亜属



木口

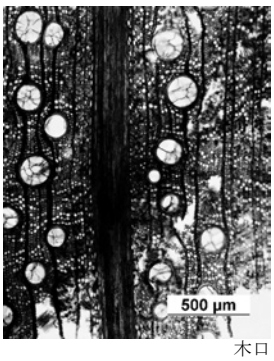


柾目

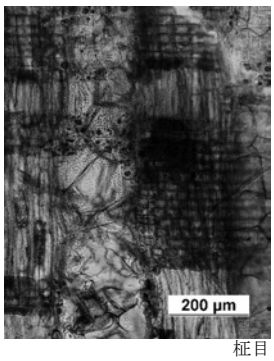


板目

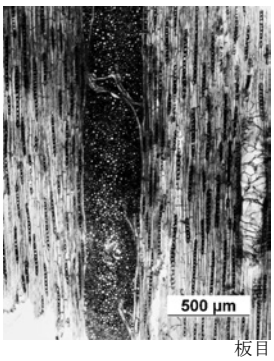
100 ブナ科コナラ属アカガシ亜属



木口

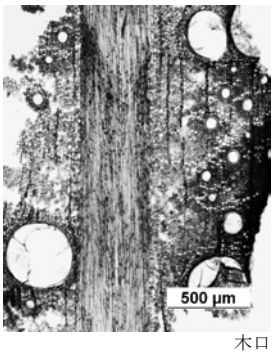


柾目

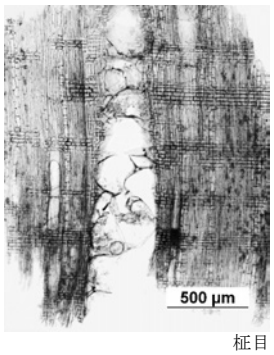


板目

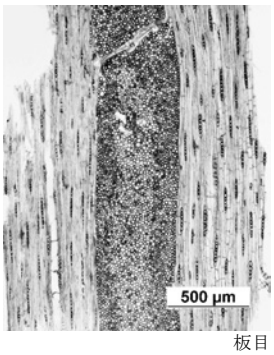
101 ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節



木口

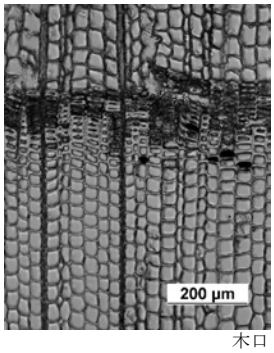


柾目

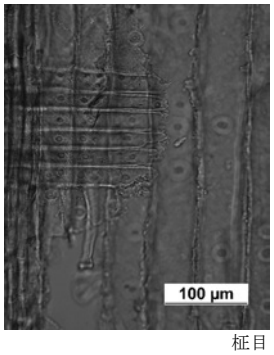


板目

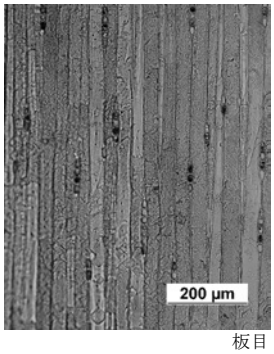
102 スギ科スギ属スギ



木口



柾目

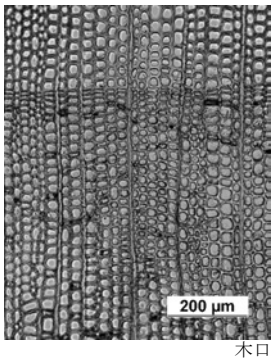


板目

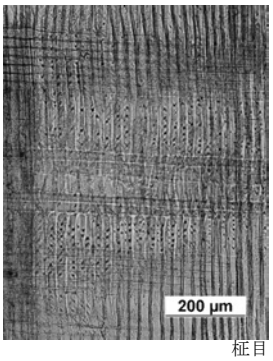
木製品顕微鏡写真

写真図版56

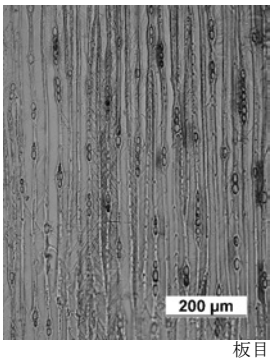
103 マキ科マキ属イヌマキ



木口

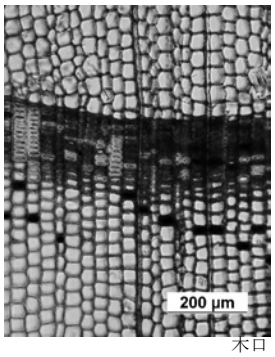


柾目

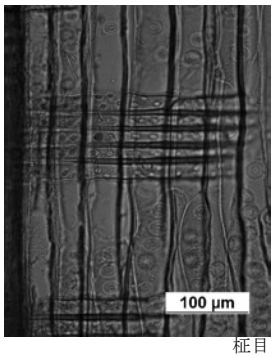


板目

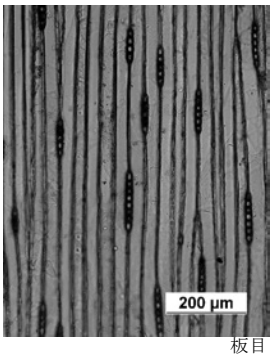
104 スギ科スギ属スギ



木口

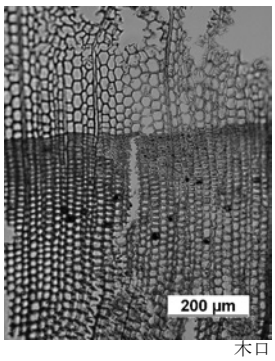


柾目

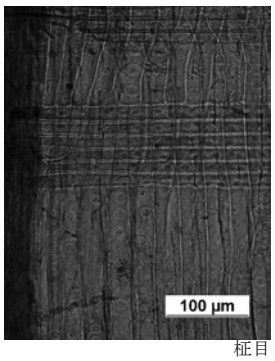


板目

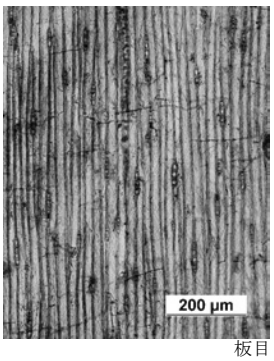
105 スギ科スギ属スギ



木口

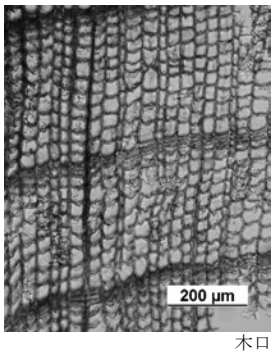


柾目

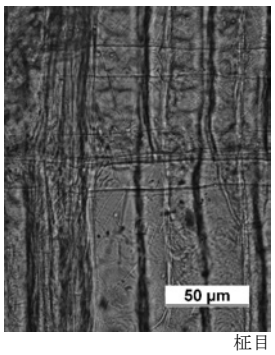


板目

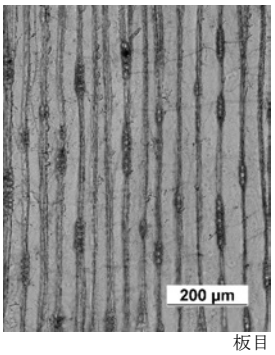
106　ヒノキ科ヒノキ属



木口

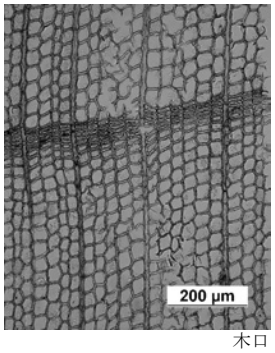


柾目

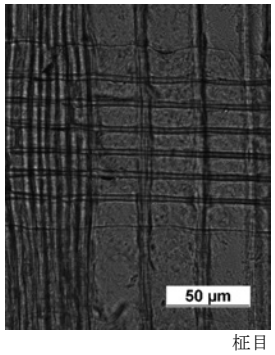


板目

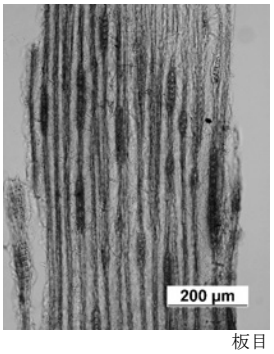
107 ヒノキ科ヒノキ属



木口



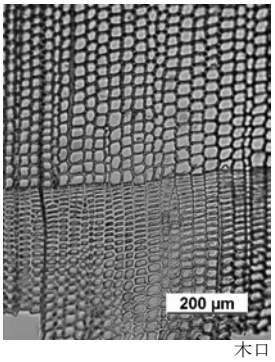
柾目



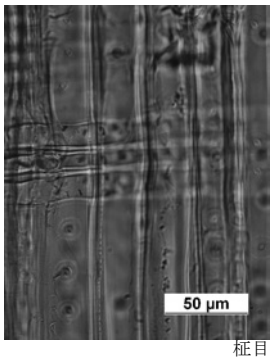
板目

木製品顕微鏡写真

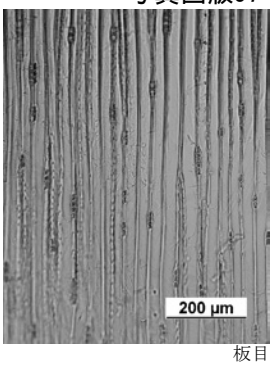
108 ヒノキ科ヒノキ属



木口

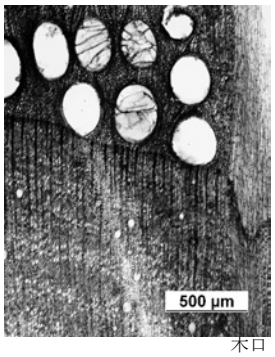


柾目

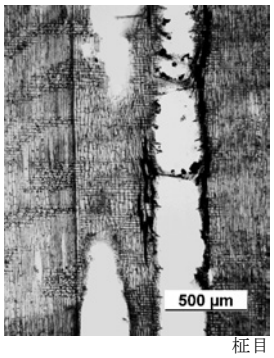


板目

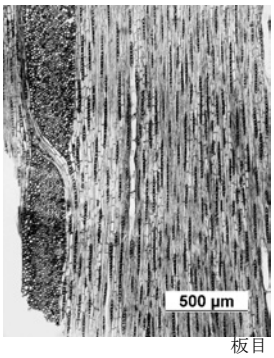
109 ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節



木口

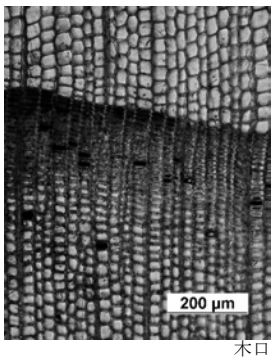


柾目

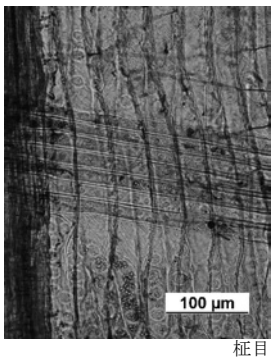


板目

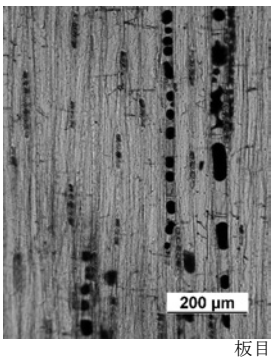
110 スギ科スギ属スギ



木口

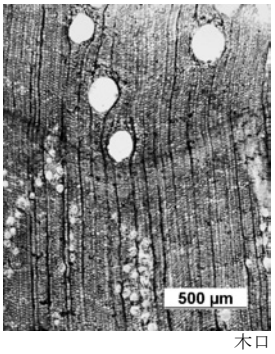


柾目

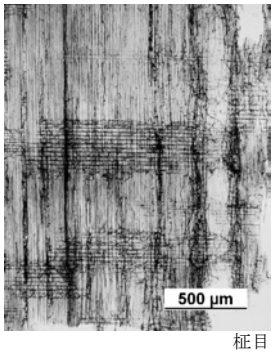


板目

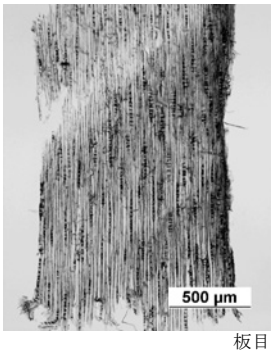
111　ブナ科シイ属



木口

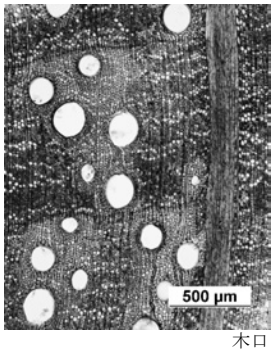


柾目

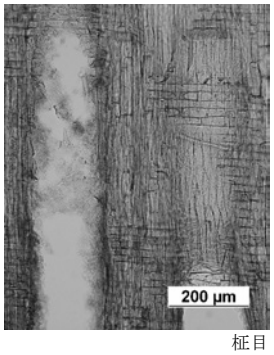


板目

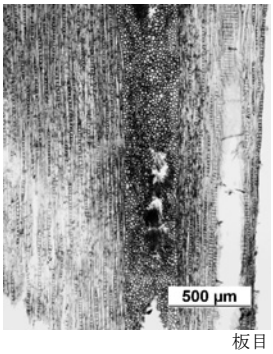
112 ブナ科コナラ属アカガシ亜属



木口



柾目

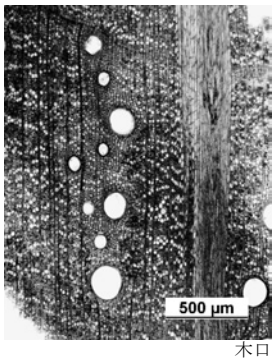


板目

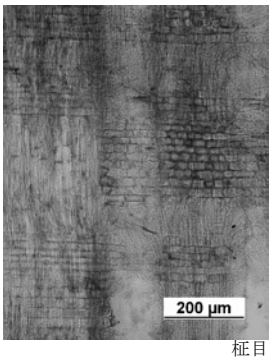
木製品顕微鏡写真

写真図版58

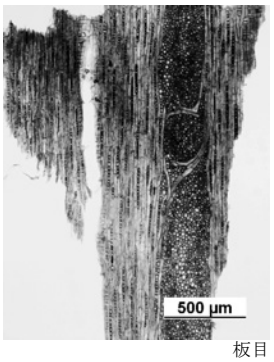
113 ブナ科コナラ属アカガシ亜属



木口

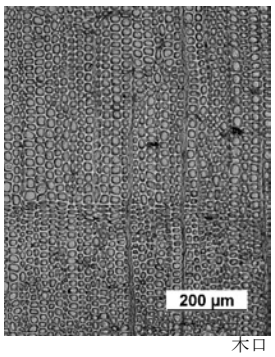


柾目

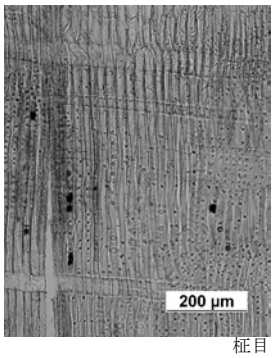


板目

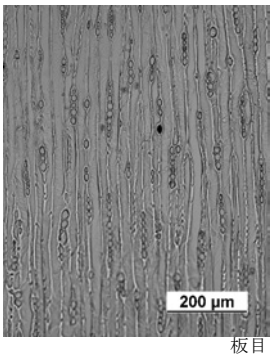
114 マキ科マキ属イヌマキ



木口

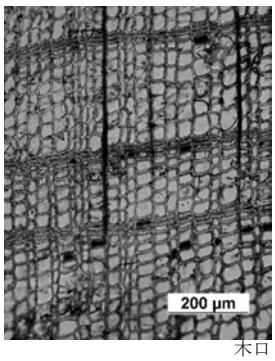


柾目

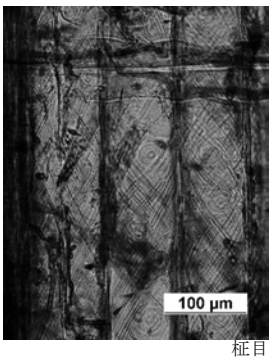


板目

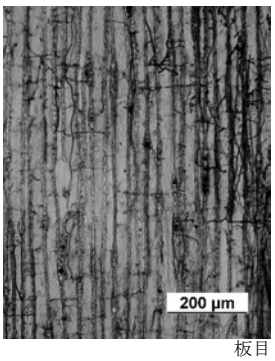
115 ヒノキ科ヒノキ属



木口

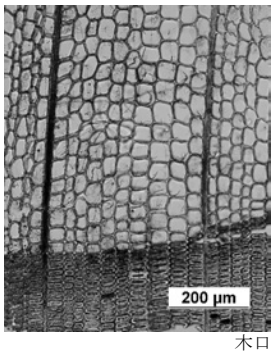


柾目

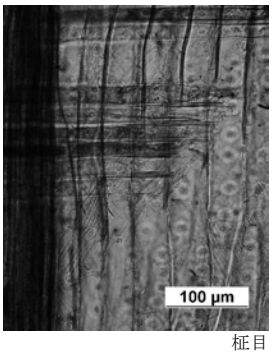


板目

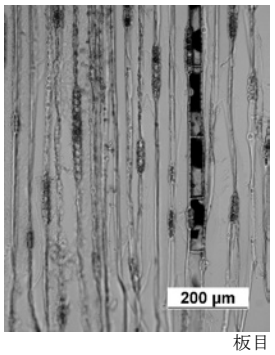
116　スギ科スギ属スギ



木口

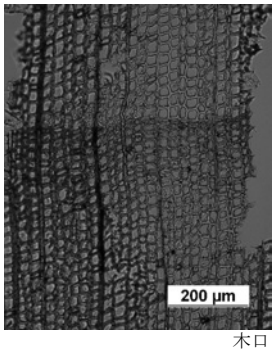


柾目

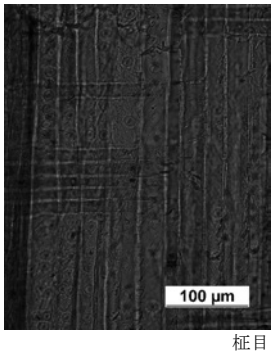


板目

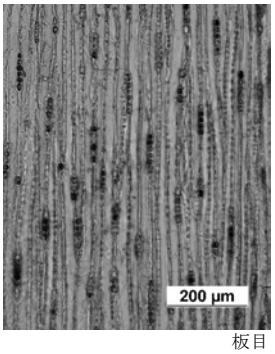
117 マキ科マキ属イヌマキ



木口



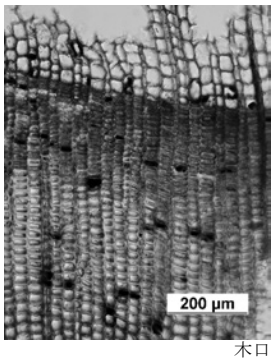
柾目



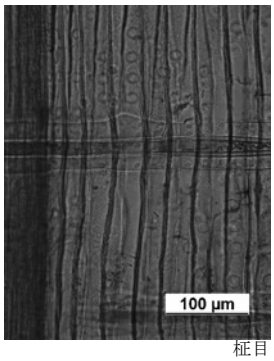
板目

木製品顕微鏡写真

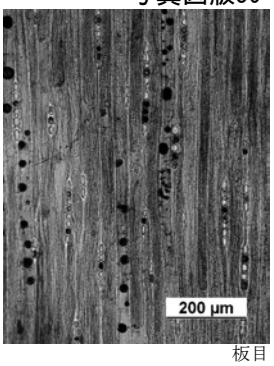
118 スギ科スギ属スギ



木口

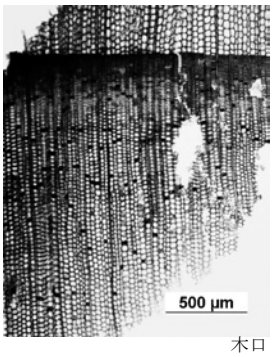


柾目

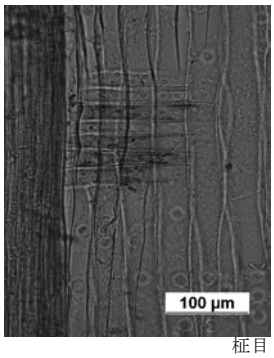


板目

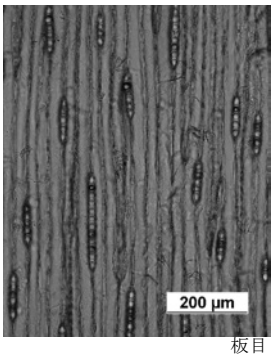
119 スギ科スギ属スギ



木口

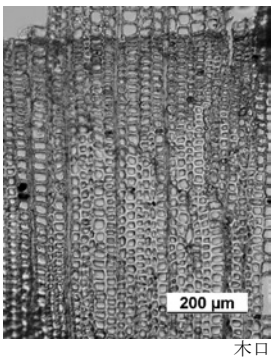


柾目

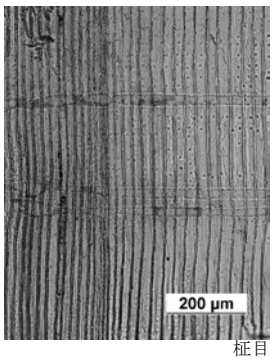


板目

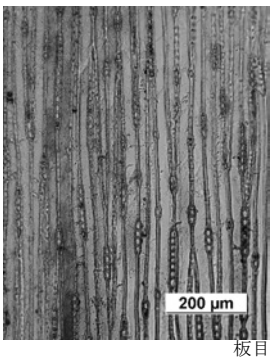
120 マキ科マキ属イヌマキ



木口

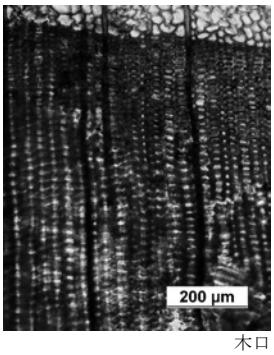


柾目

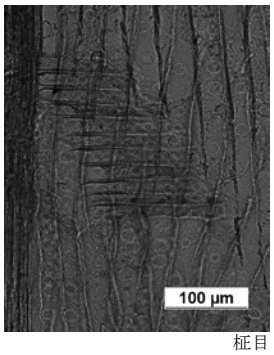


板目

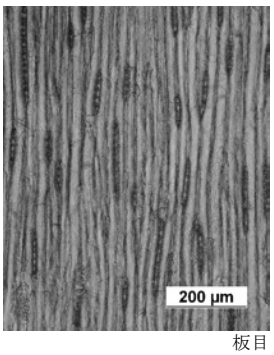
122　スギ科スギ属スギ



木口

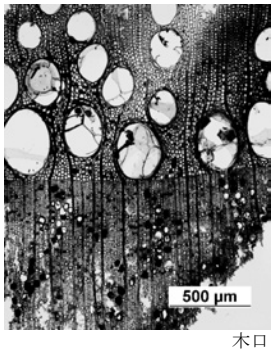


柾目

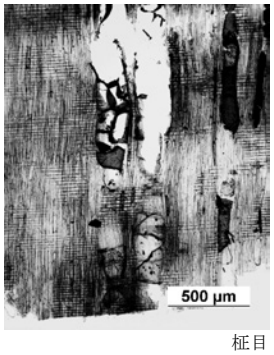


板目

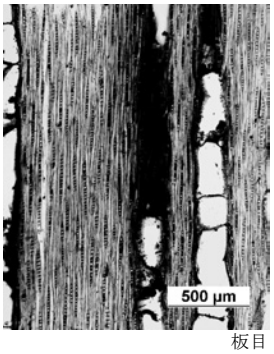
123 ブナ科クリ属クリ



木口



柾目

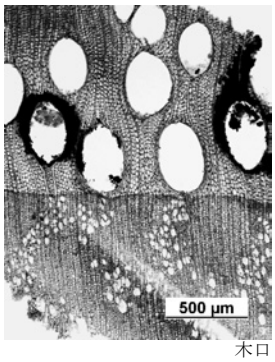


板目

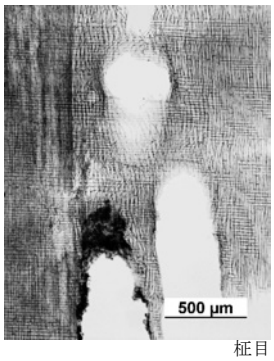
木製品顕微鏡写真

写真図版60

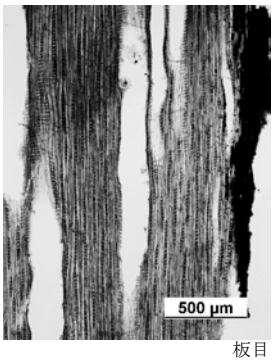
124 ブナ科クリ属クリ



木口

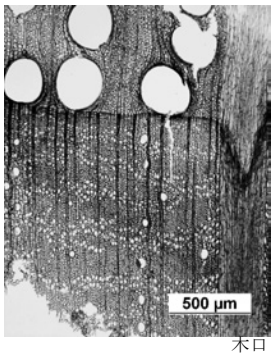


柾目

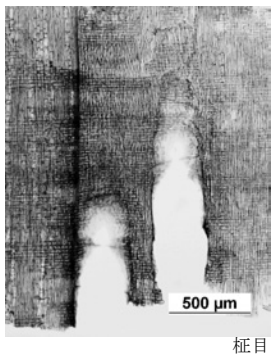


板目

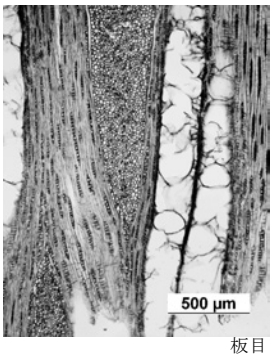
125 ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節



木口

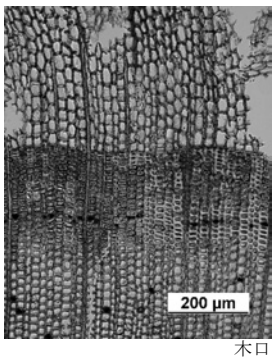


柾目

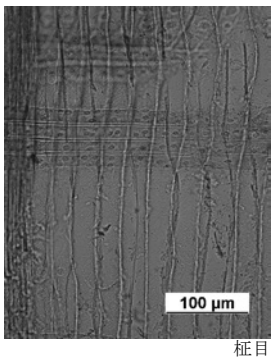


板目

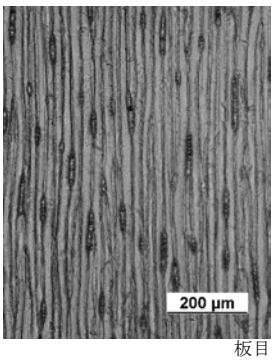
126 スギ科スギ属スギ



木口

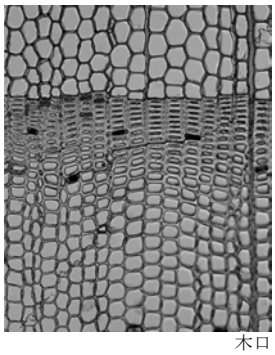


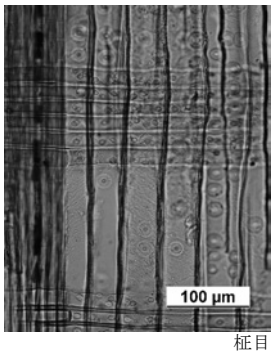
柾目



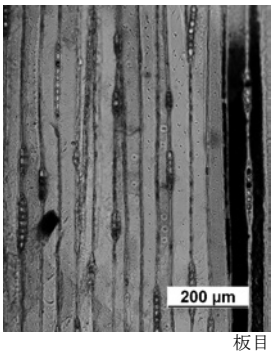
板目

127　スギ科スギ属スギ


木口

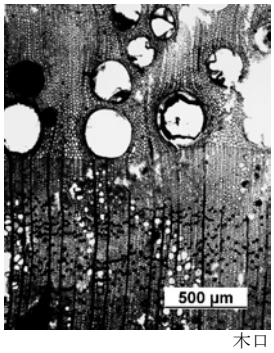


柾目



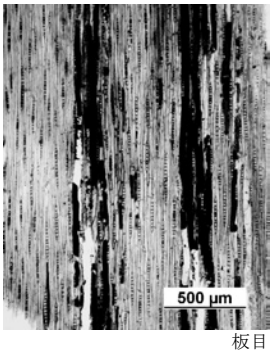
板目

128 ブナ科クリ属クリ



木口

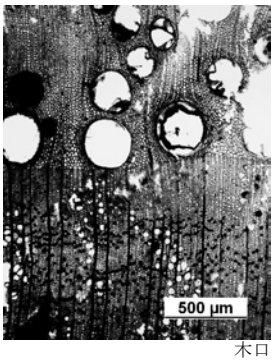
柾目



板目

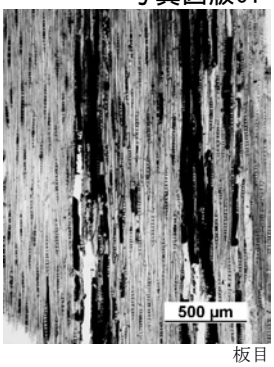
木製品顕微鏡写真

128 ブナ科クリ属クリ



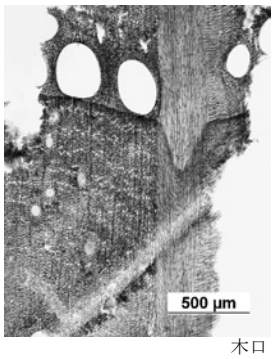
木口

柾目

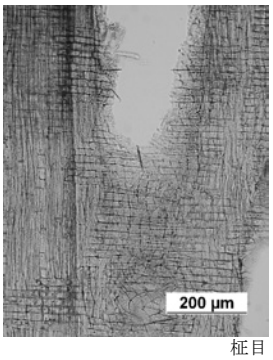


板目

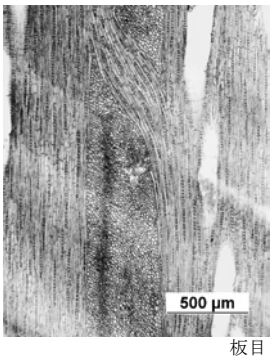
129 ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節



木口

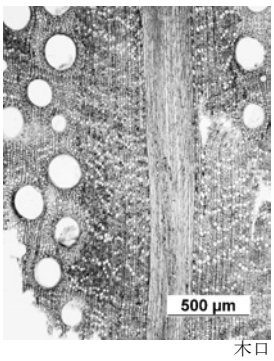


柾目

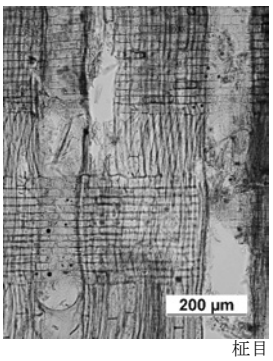


板目

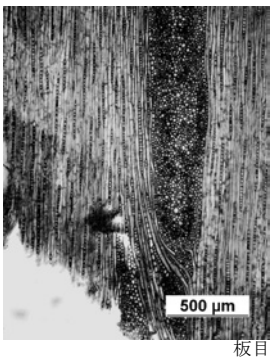
130 ブナ科コナラ属アカガシ亜属



木口

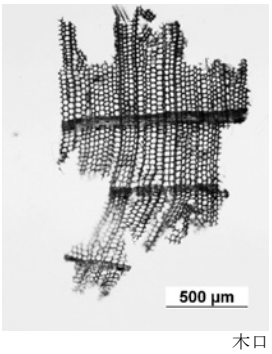


柾目

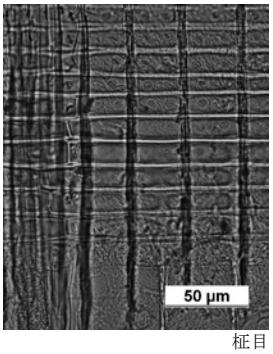


板目

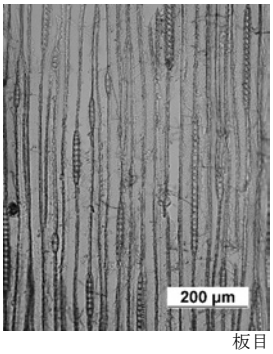
132　ヒノキ科ヒノキ属



木口

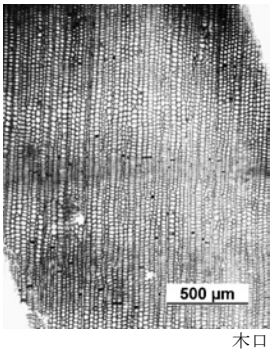


柾目

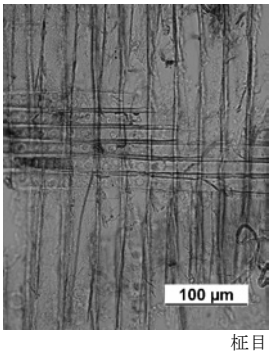


板目

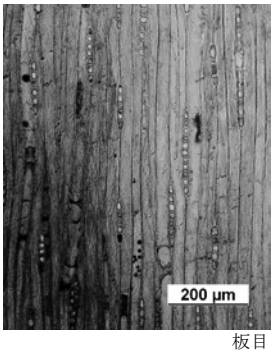
133 スギ科スギ属スギ



木口



柾目

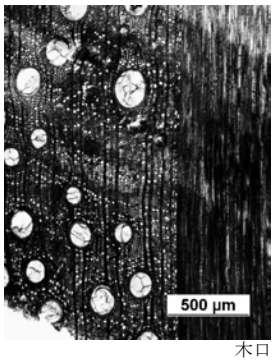


板目

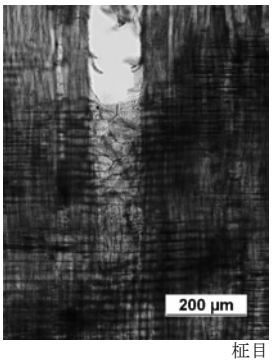
木製品顕微鏡写真

写真図版62

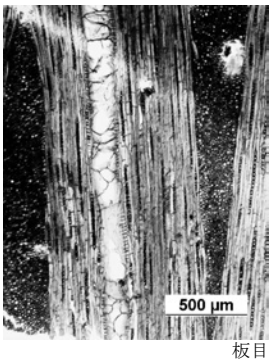
134 ブナ科コナラ属アカガシ亜属



木口

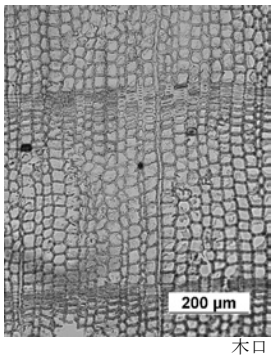


柾目

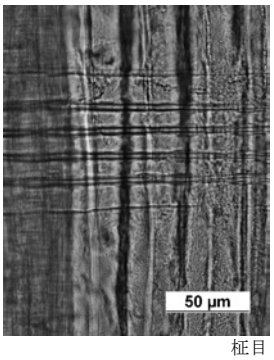


板目

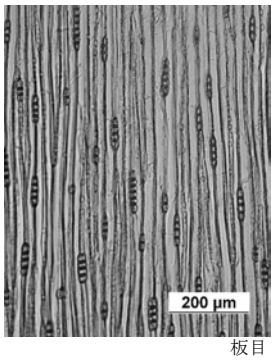
135 ヒノキ科ヒノキ属



木口

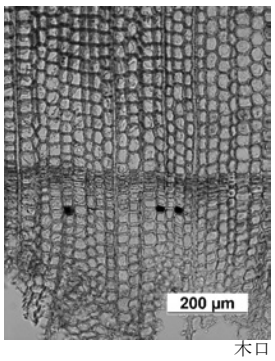


柾目

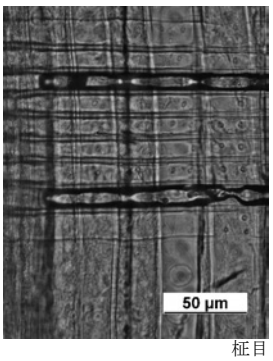


板目

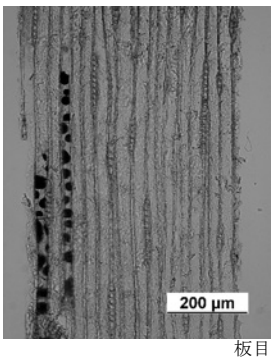
136 ヒノキ科ヒノキ属



木口

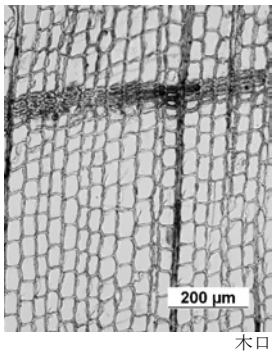


柾目

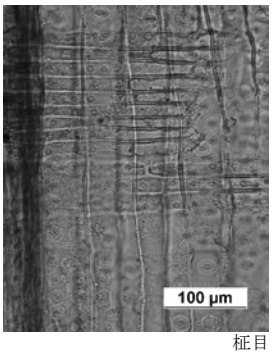


板目

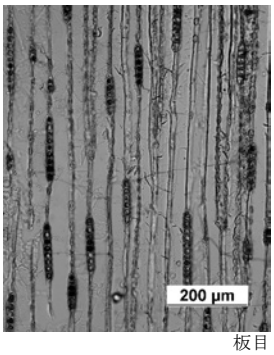
137　スギ科スギ属スギ



木口

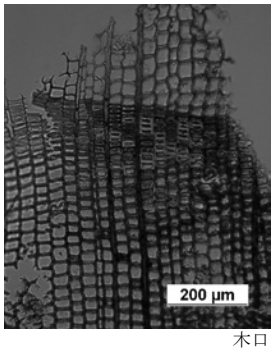


柾目

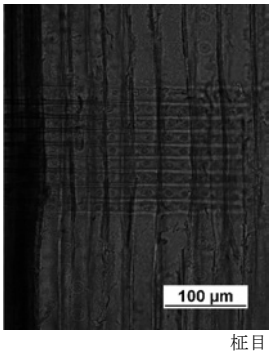


板目

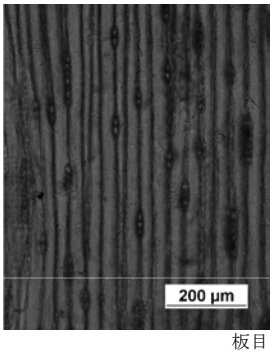
138 スギ科スギ属スギ



木口



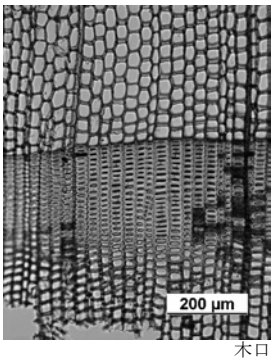
柾目



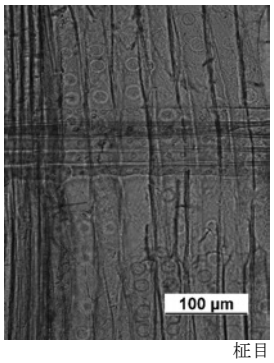
板目

木製品顕微鏡写真

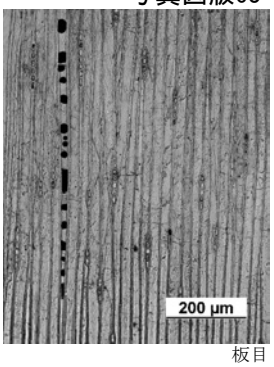
139 スギ科スギ属スギ



木口

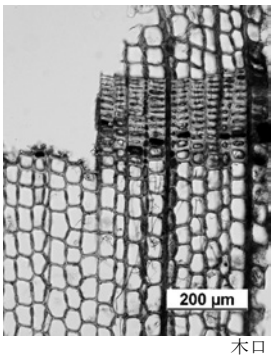


柾目

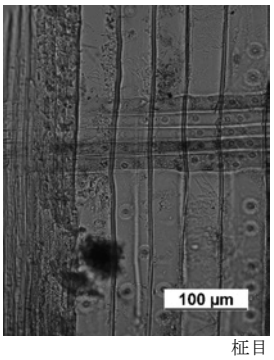


板目

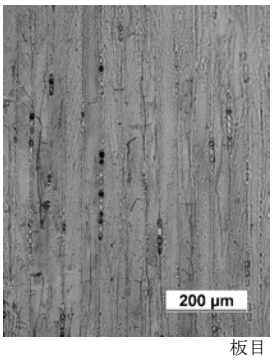
140 スギ科スギ属スギ



木口

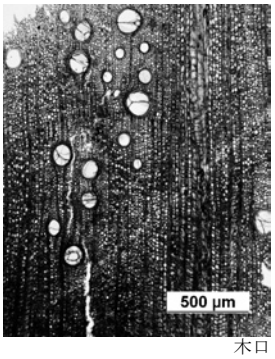


柾目

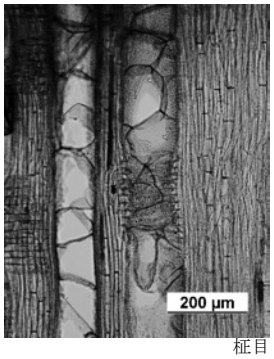


板目

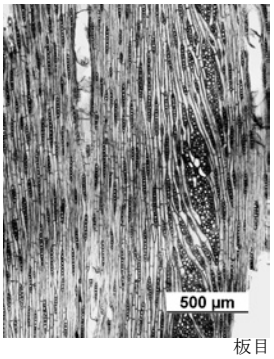
141 ブナ科コナラ属アカガシ亜属



木口

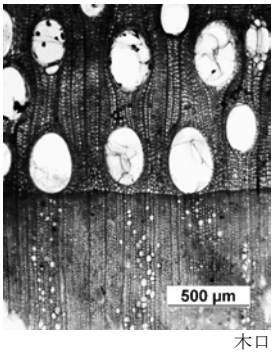


柾目

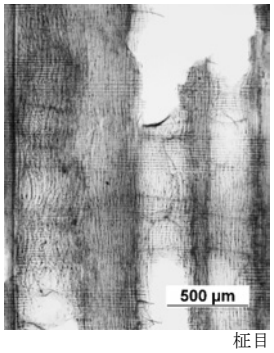


板目

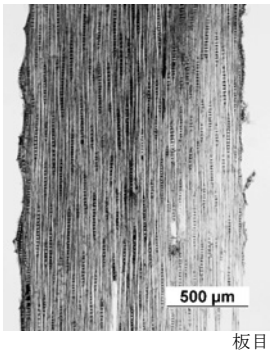
142　ブナ科クリ属クリ



木口

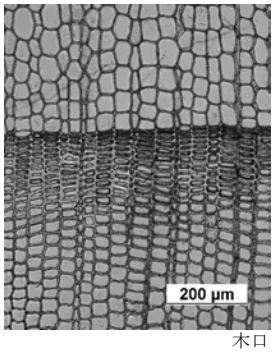


柾目

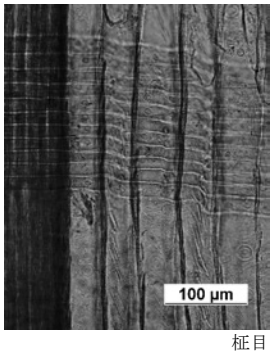


板目

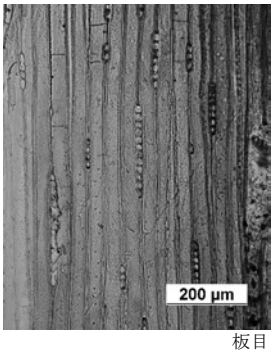
143 スギ科スギ属スギ



木口



柾目

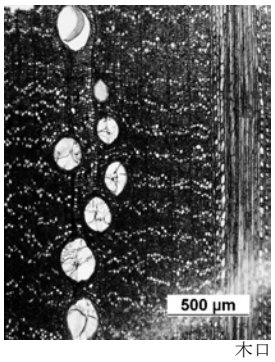


板目

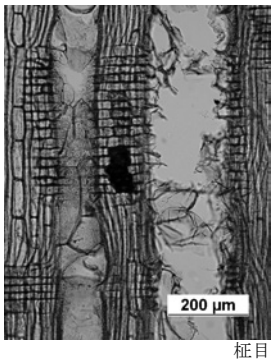
木製品顕微鏡写真

写真図版64

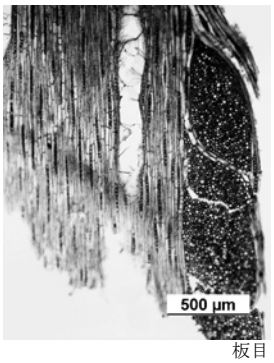
144 ブナ科コナラ属アカガシ亜属



木口

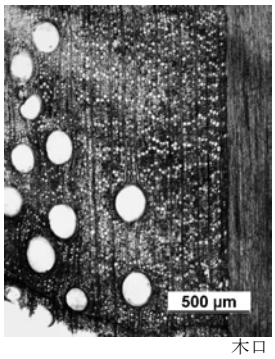


柾目

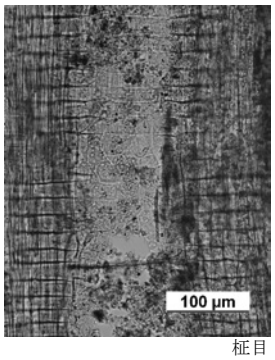


板目

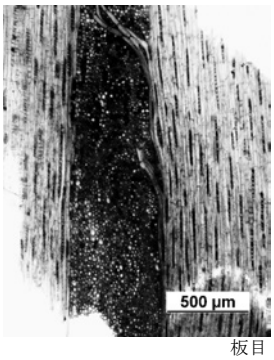
145 ブナ科コナラ属アカガシ亜属



木口

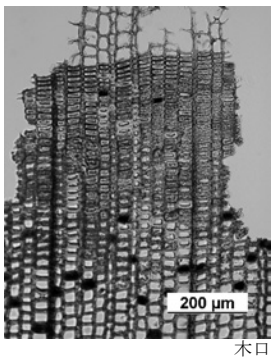


柾目

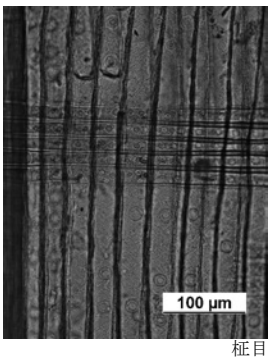


板目

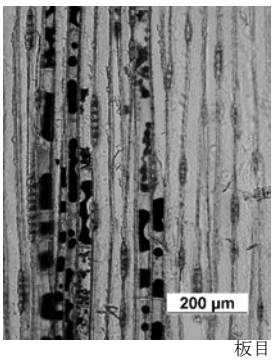
146 スギ科スギ属スギ



木口

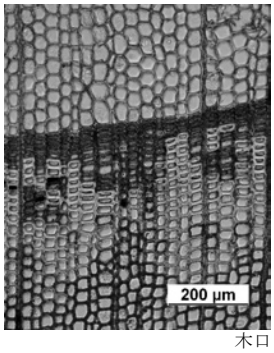


柾目

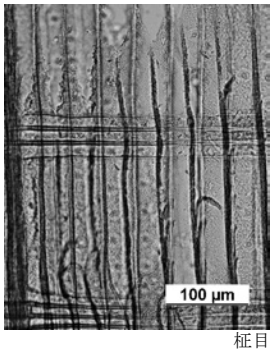


板目

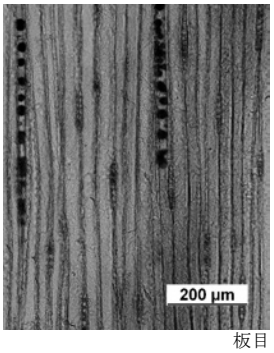
147　ヒノキ科ヒノキ属



木口

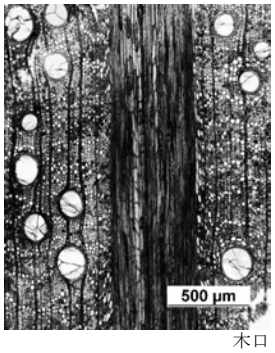


柾目

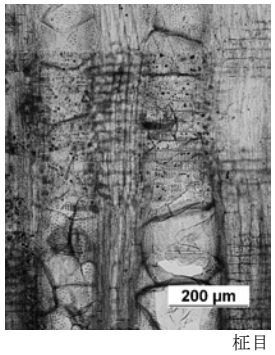


板目

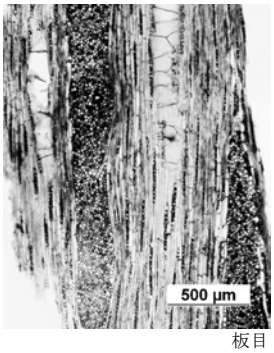
148 ブナ科コナラ属アカガシ亜属



木口



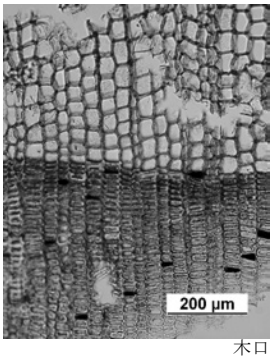
柾目



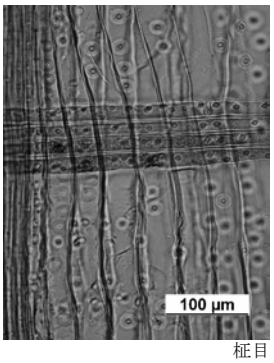
板目

木製品顕微鏡写真

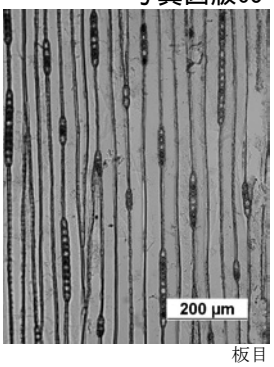
149 スギ科スギ属スギ



木口

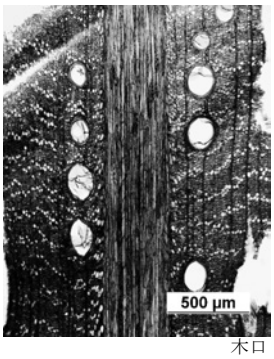


柾目

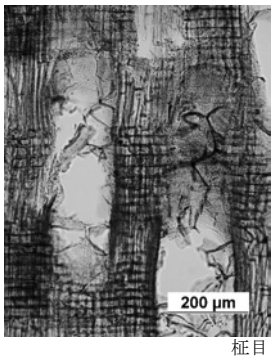


板目

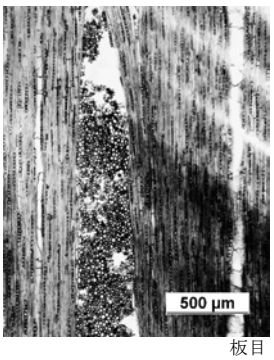
150 ブナ科コナラ属アカガシ亜属



木口

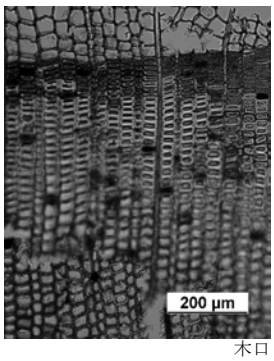


柾目

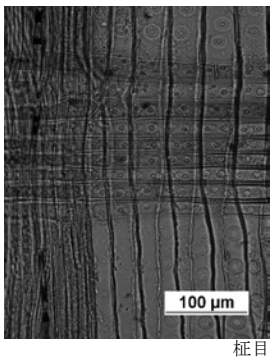


板目

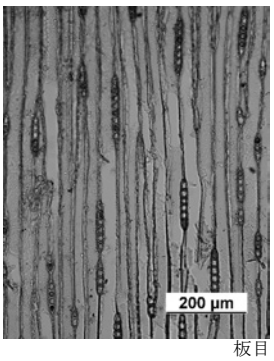
151 スギ科スギ属スギ



木口

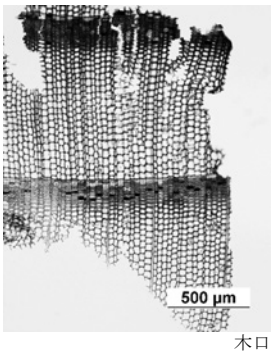


柾目

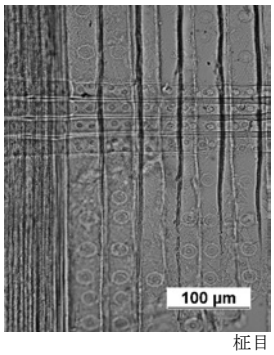


板目

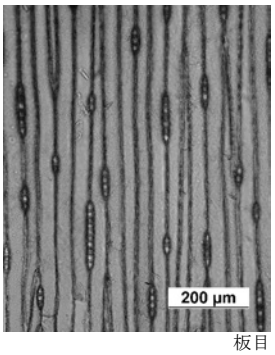
152　スギ科スギ属スギ



木口

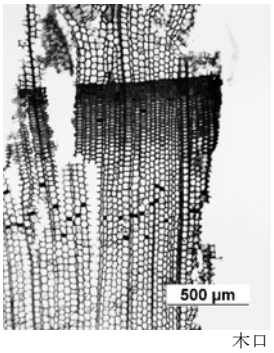


柾目

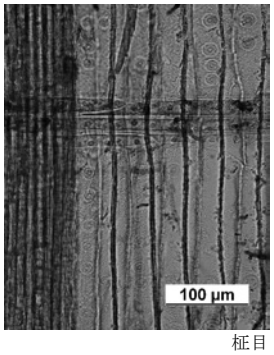


板目

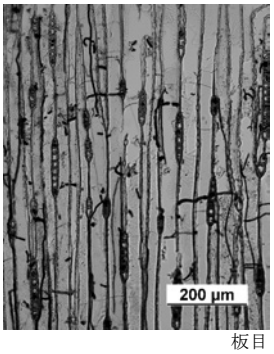
153 スギ科スギ属スギ



木口



柾目

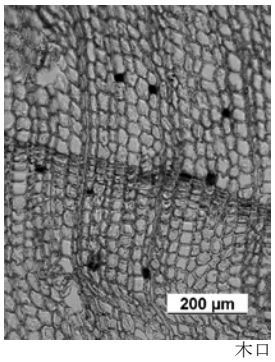


板目

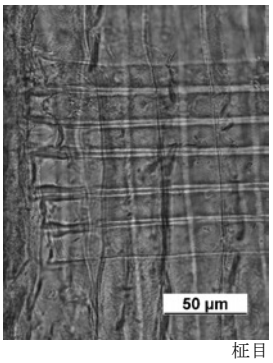
木製品顕微鏡写真

写真図版66

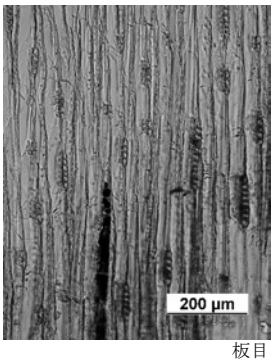
154 ヒノキ科ヒノキ属



木口

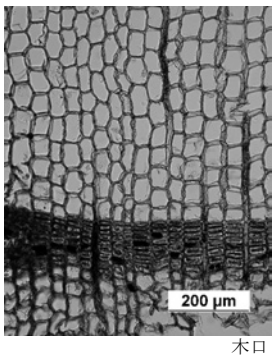


柾目

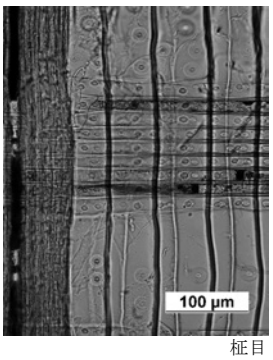


板目

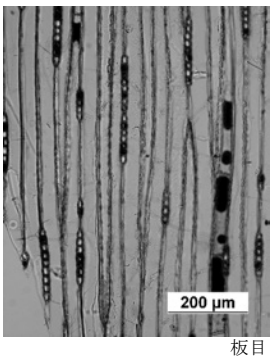
155 スギ科スギ属スギ



木口

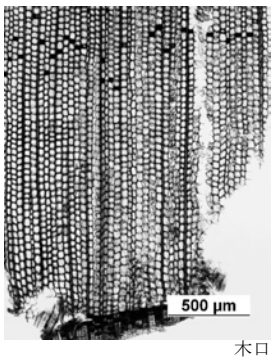


柾目

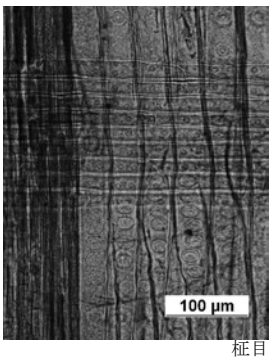


板目

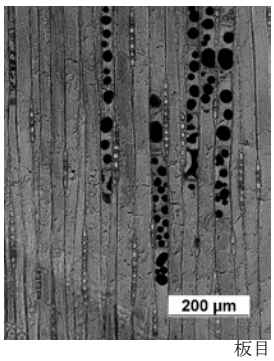
156 スギ科スギ属スギ



木口

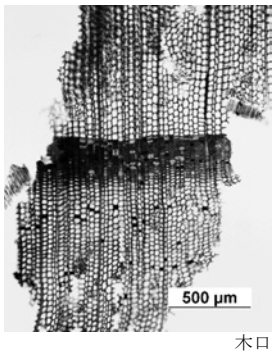


柾目

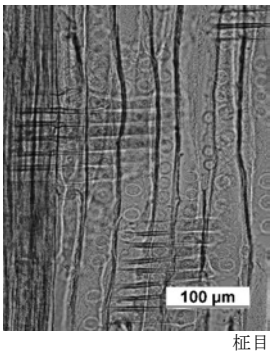


板目

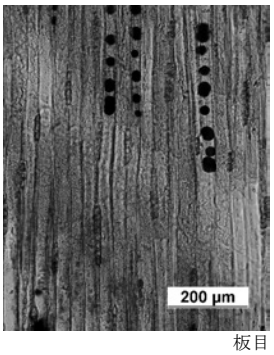
157　スギ科スギ属スギ



木口

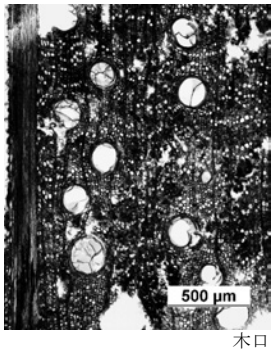


柾目

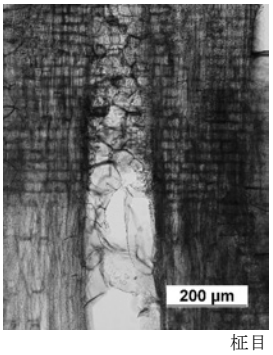


板目

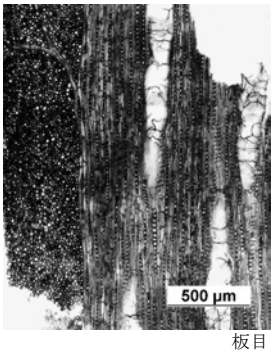
158 ブナ科コナラ属アカガシ亜属



木口



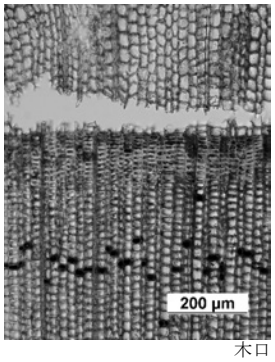
柾目



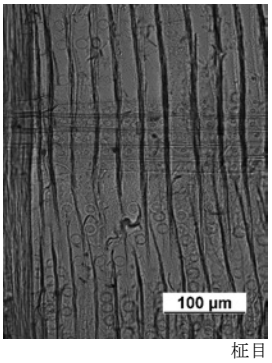
板目

木製品顕微鏡写真

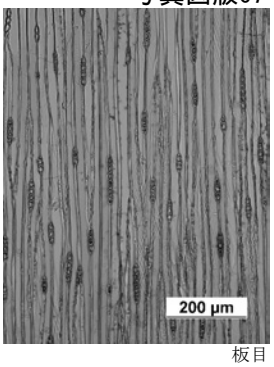
159 スギ科スギ属スギ



木口

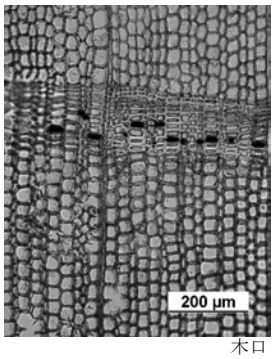


柾目

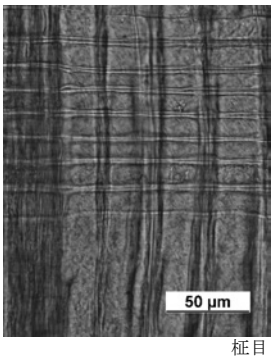


板目

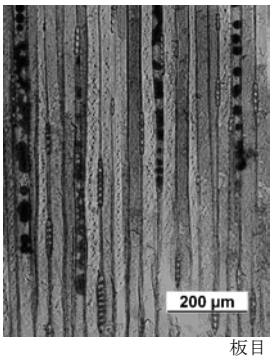
160 ヒノキ科ヒノキ属



木口

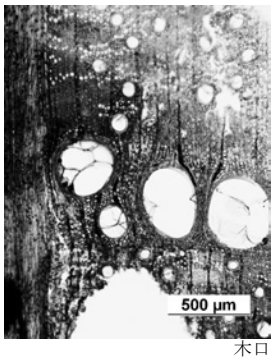


柾目

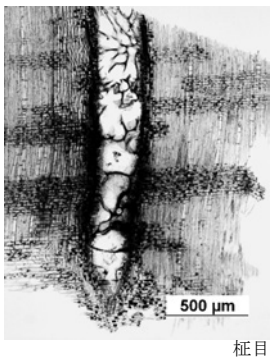


板目

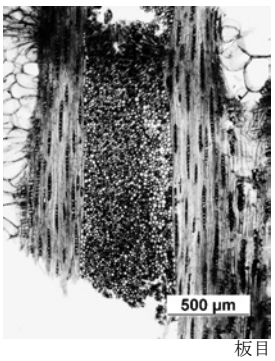
161 ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節



木口

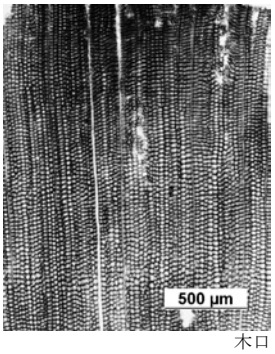


柾目

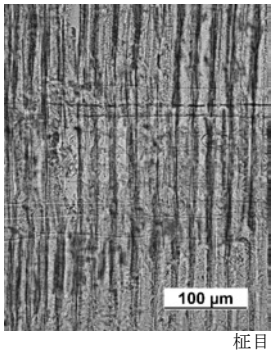


板目

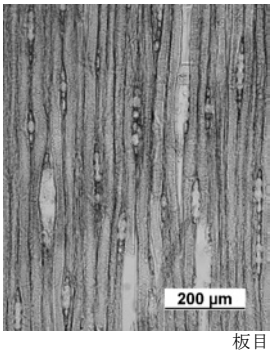
162 マツ科マツ属［二葉松類］



木口

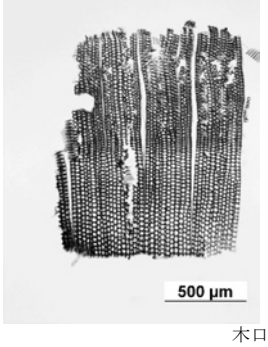


柾目

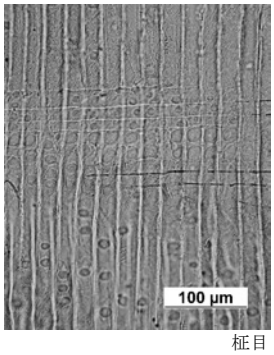


板目

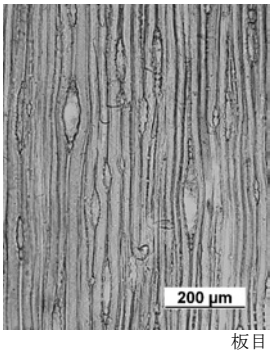
163 マツ科マツ属［二葉松類］



木口



柾目

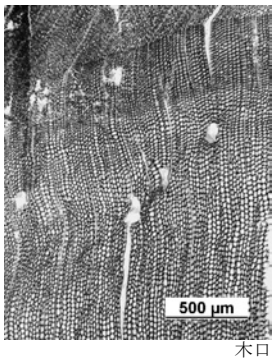


板目

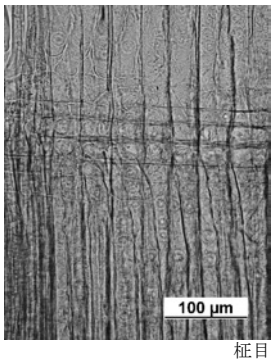
木製品顕微鏡写真

写真図版68

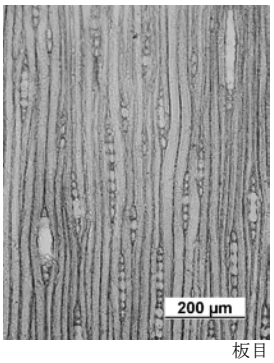
164 マツ科マツ属［二葉松類］



木口

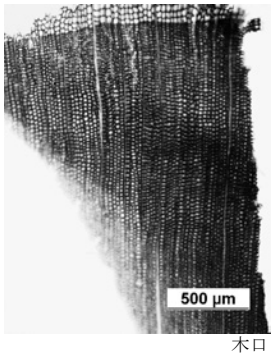


柾目

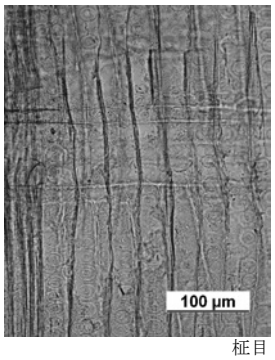


板目

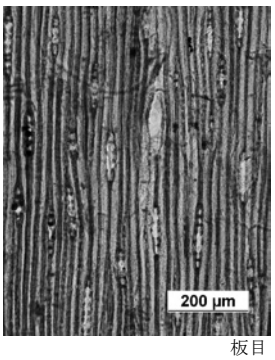
165 マツ科マツ属［二葉松類］



木口

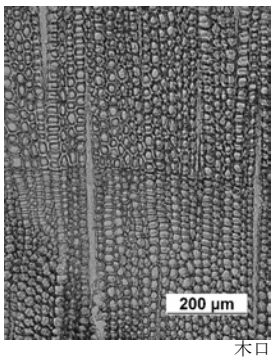


柾目

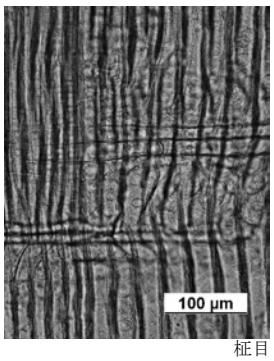


板目

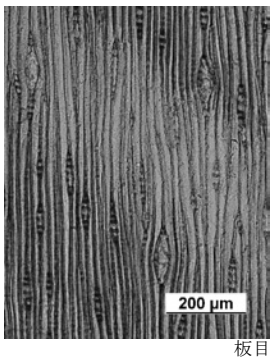
166 マツ科マツ属［二葉松類］



木口

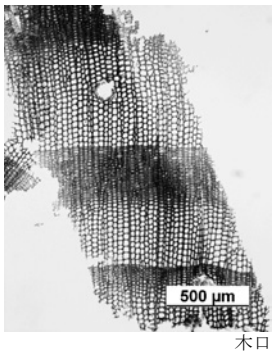


柾目

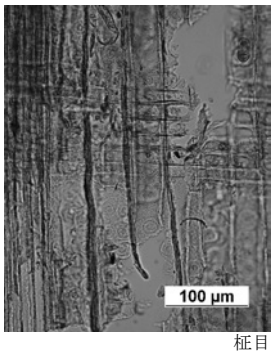


板目

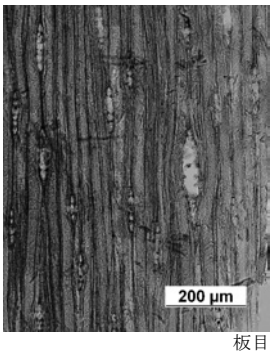
167 マツ科マツ属［二葉松類］



木口

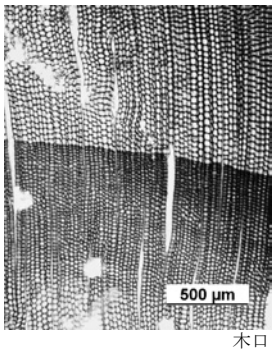


柾目

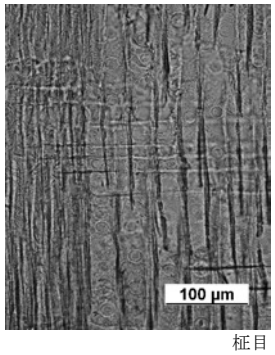


板目

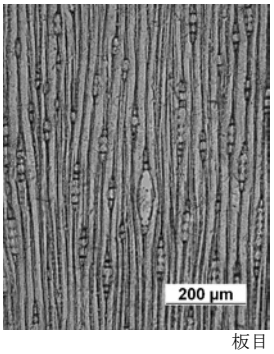
168 マツ科マツ属［二葉松類］



木口



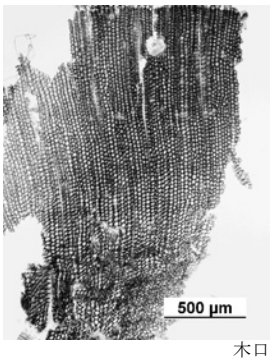
柾目



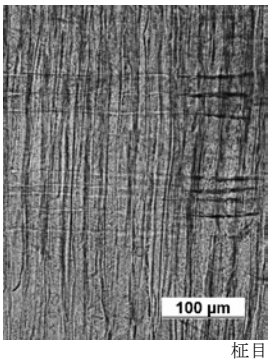
板目

木製品顕微鏡写真

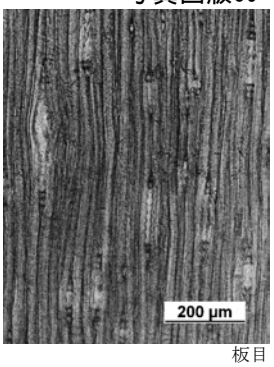
169 マツ科マツ属［二葉松類］



木口

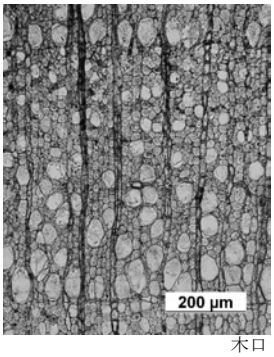


柾目

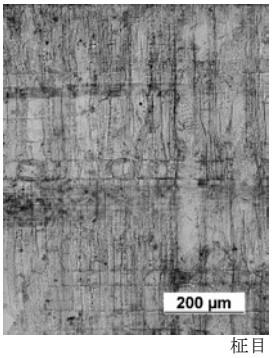


板目

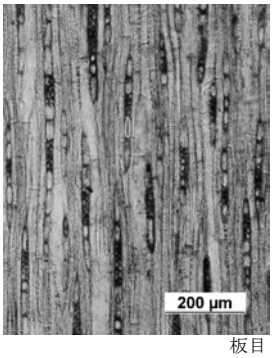
170 ツバキ科ツバキ属



木口

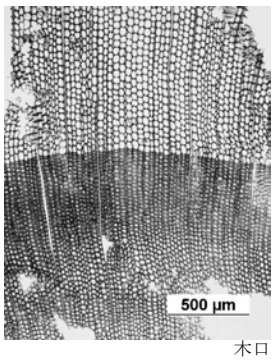


柾目

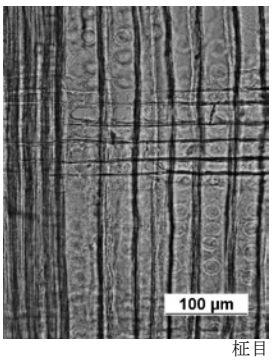


板目

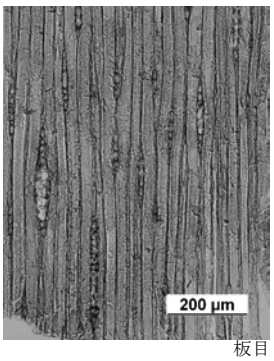
171 マツ科マツ属［二葉松類］



木口

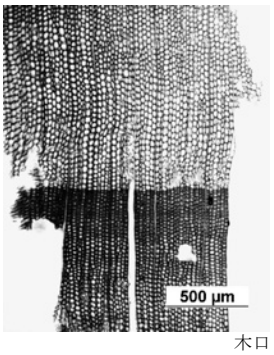


柾目

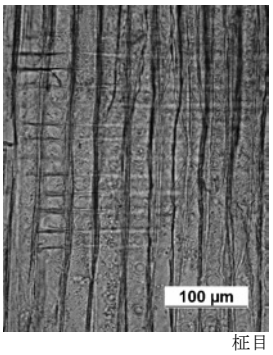


板目

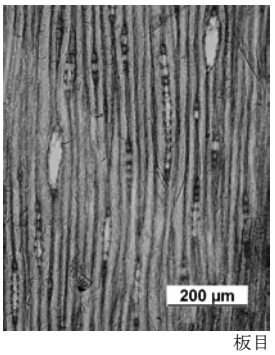
172 マツ科マツ属［二葉松類］



木口

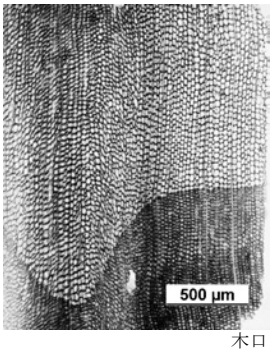


柾目

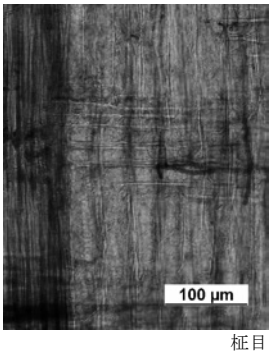


板目

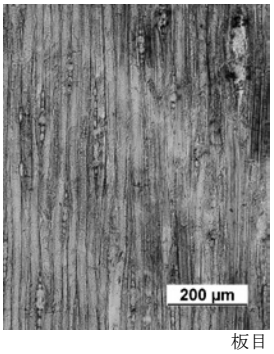
173 マツ科マツ属［二葉松類］



木口



柾目

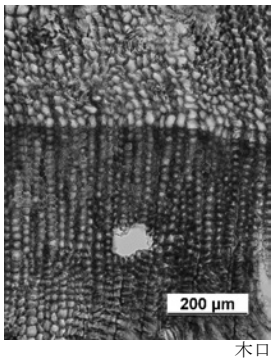


板目

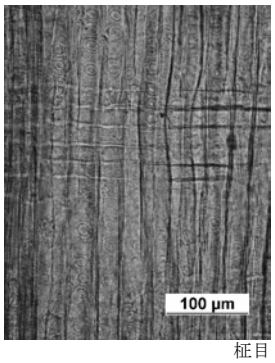
木製品顕微鏡写真

写真図版70

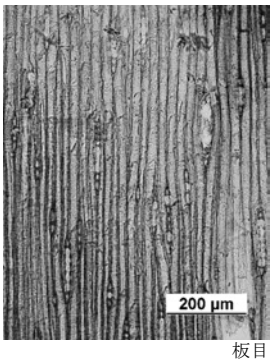
174 マツ科マツ属［二葉松類］



木口

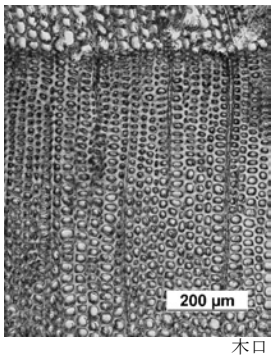


柾目

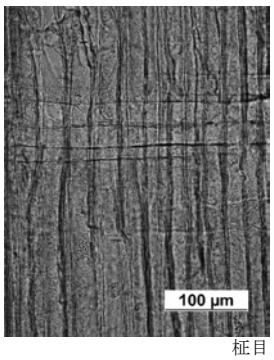


板目

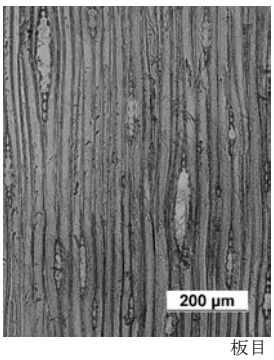
175 マツ科マツ属［二葉松類］



木口

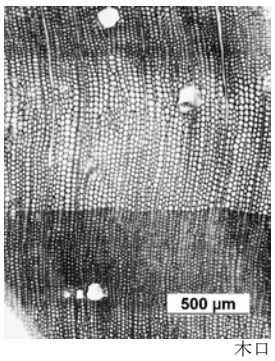


柾目

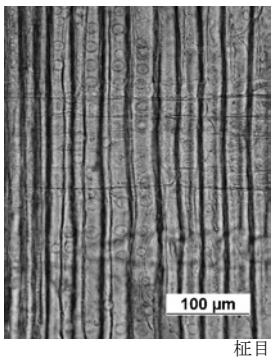


板目

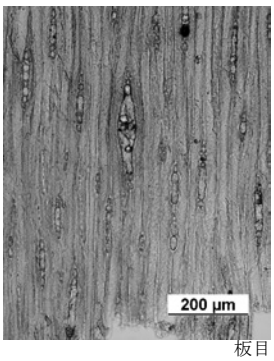
176 マツ科マツ属［二葉松類］



木口

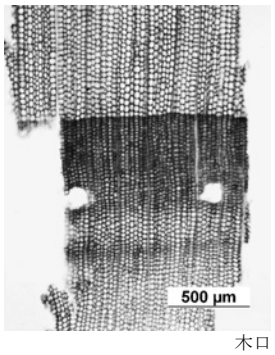


柾目

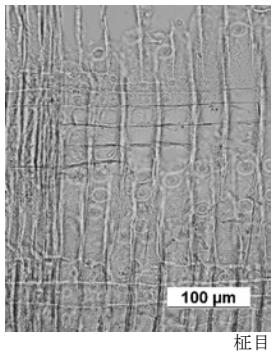


板目

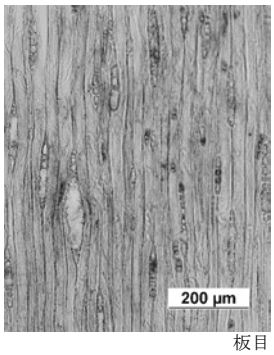
177 マツ科マツ属［二葉松類］



木口

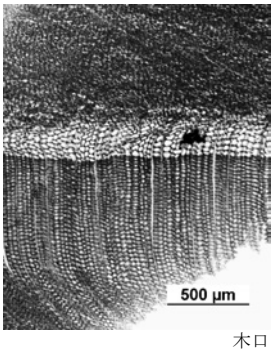


柾目

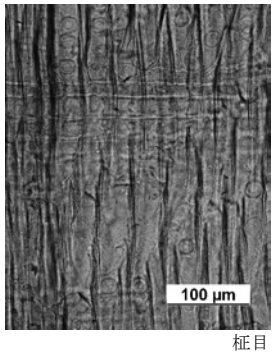


板目

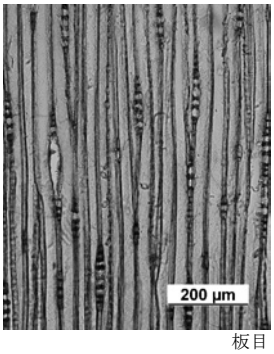
178 マツ科マツ属［二葉松類］



木口



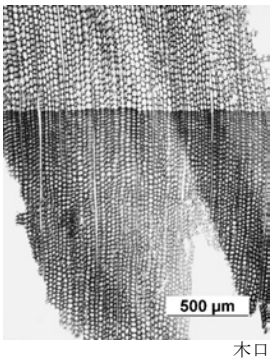
柾目



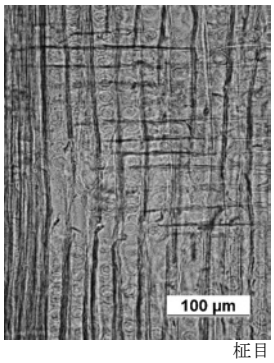
板目

木製品顕微鏡写真

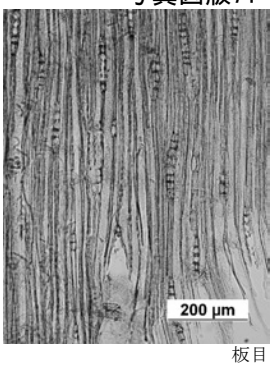
179 マツ科マツ属［二葉松類］



木口

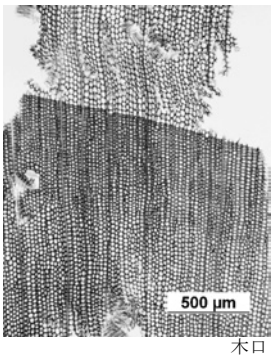


柾目

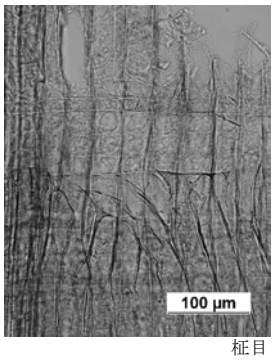


板目

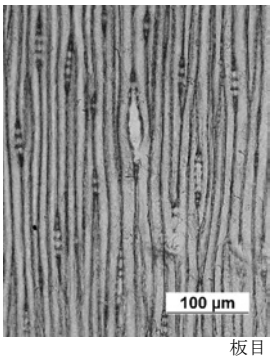
180 マツ科マツ属［二葉松類］



木口

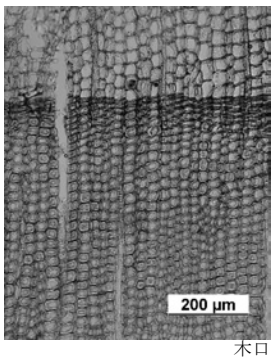


柾目

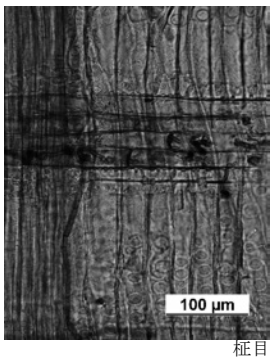


板目

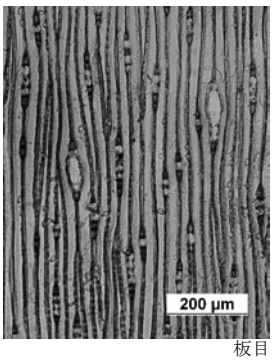
181 マツ科マツ属［二葉松類］



木口

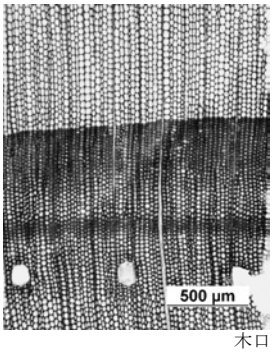


柾目

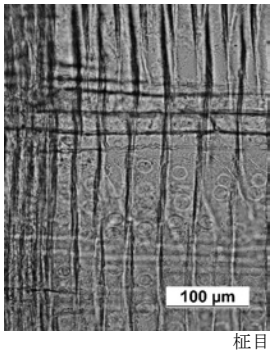


板目

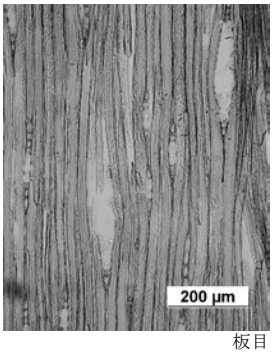
182 マツ科マツ属［二葉松類］



木口

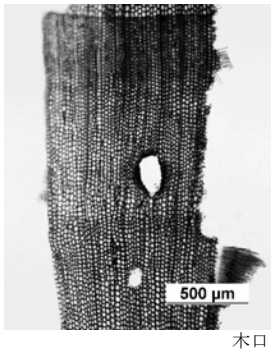


柾目

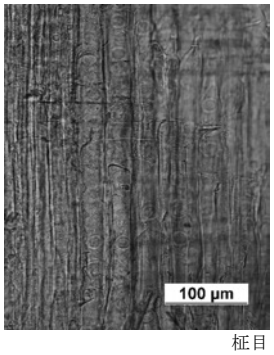


板目

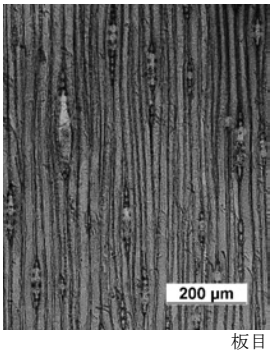
183 マツ科マツ属［二葉松類］



木口



柾目

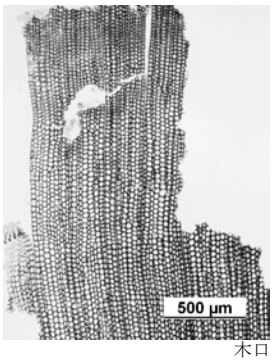


板目

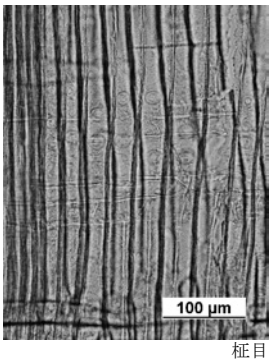
木製品顕微鏡写真

写真図版72

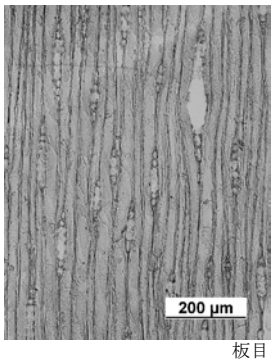
184 マツ科マツ属［二葉松類］



木口

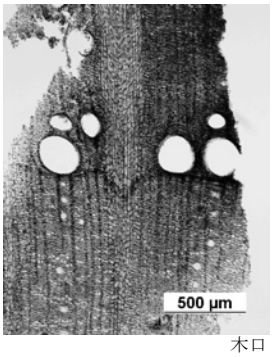


柾目

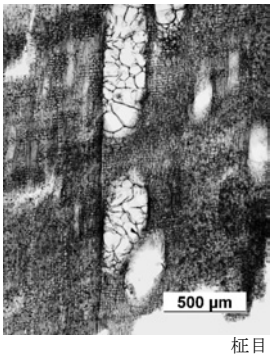


板目

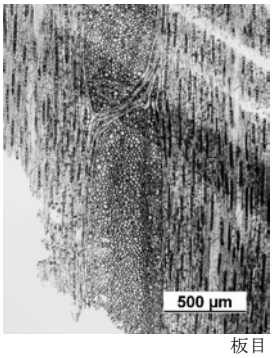
185 ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節



木口

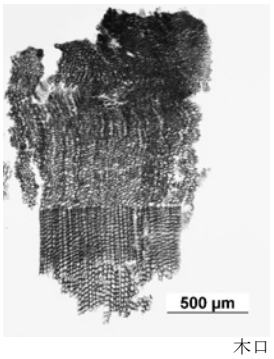


柾目

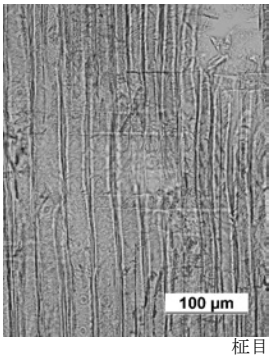


板目

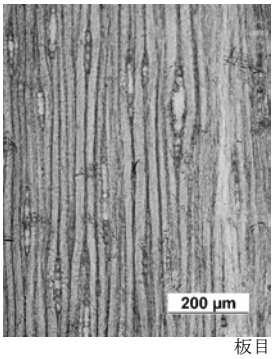
186 マツ科マツ属［二葉松類］



木口

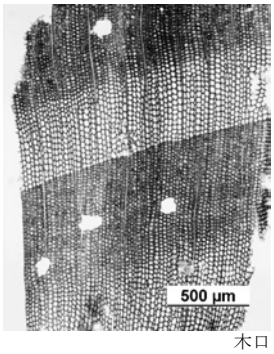


柾目

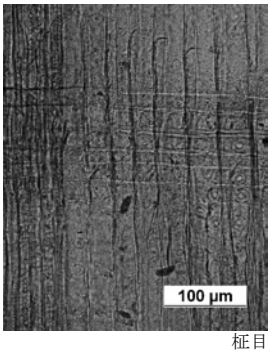


板目

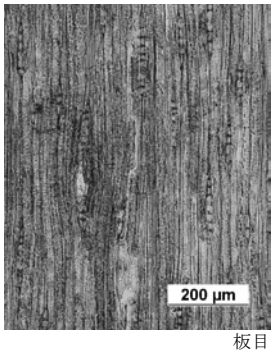
188 マツ科マツ属［二葉松類］



木口

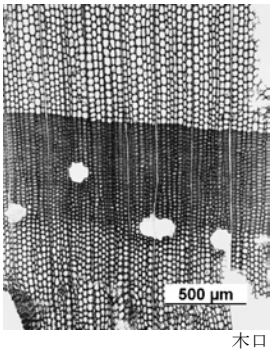


柾目

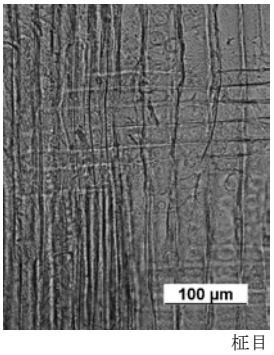


板目

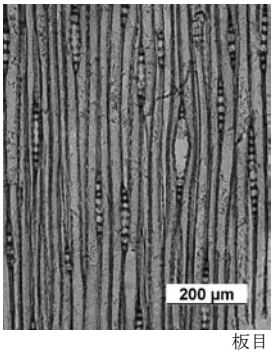
189 マツ科マツ属［二葉松類］



木口



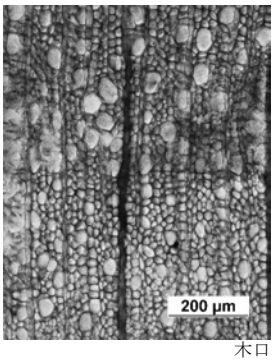
柾目



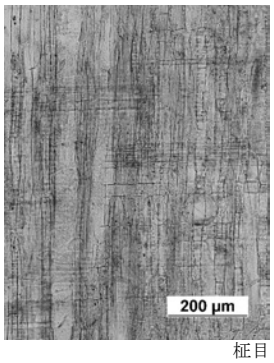
板目

木製品顕微鏡写真

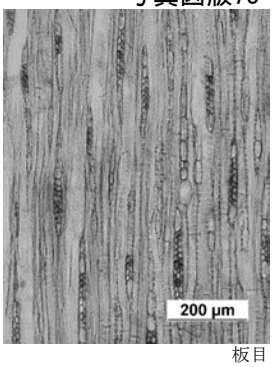
190 ツバキ科ツバキ属



木口

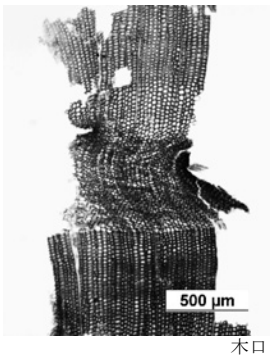


柾目

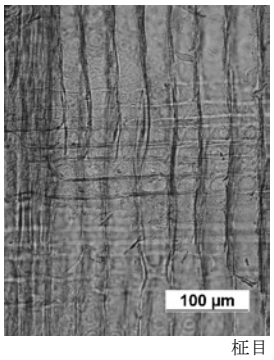


板目

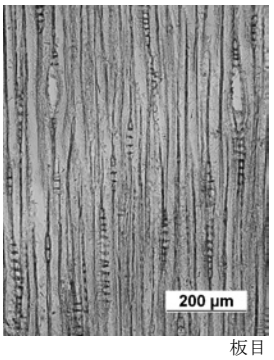
191 マツ科マツ属［二葉松類］



木口

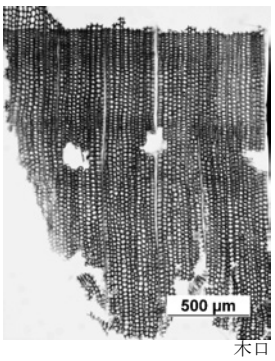


柾目

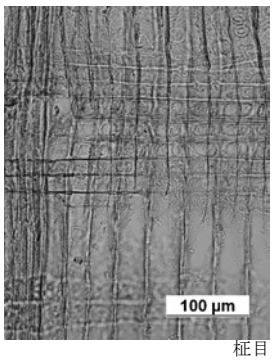


板目

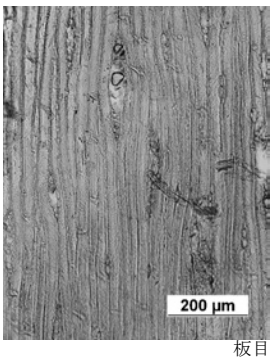
192 マツ科マツ属［二葉松類］



木口

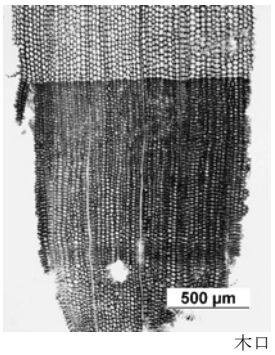


柾目

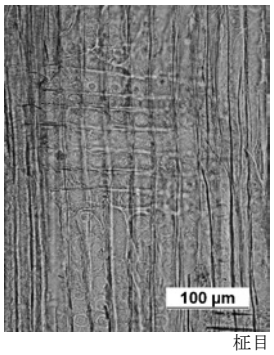


板目

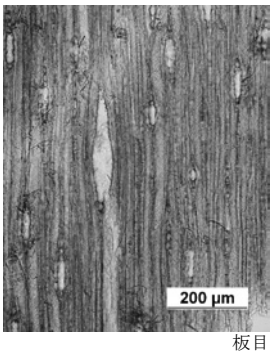
193 マツ科マツ属［二葉松類］



木口

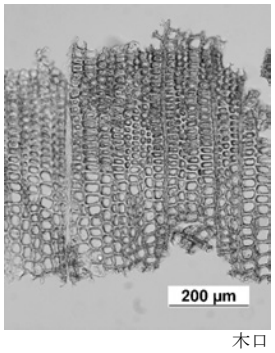


柾目

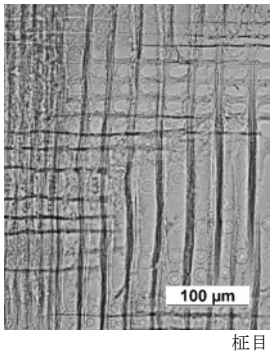


板目

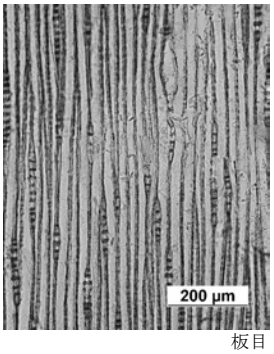
194 マツ科マツ属［二葉松類］



木口



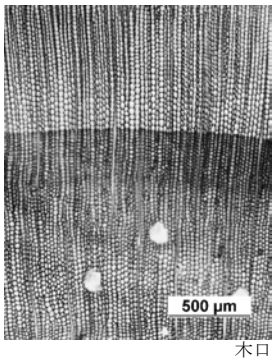
柾目

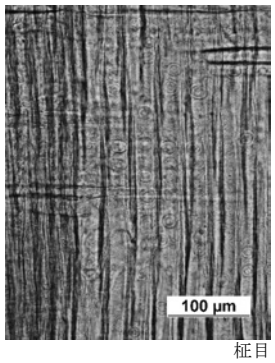


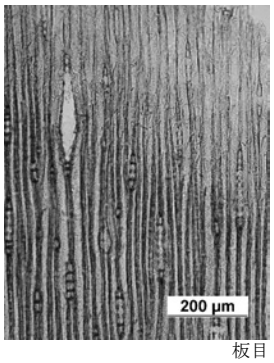
板目

木製品顕微鏡写真

写真図版74

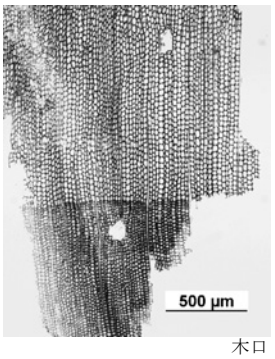


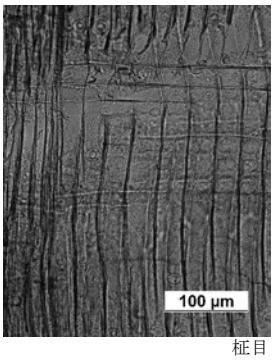


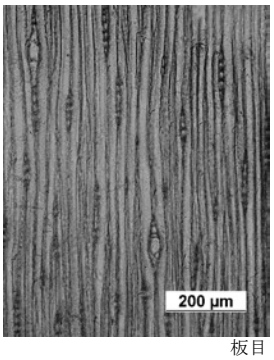


195 マツ科マツ属［二葉松類］

木口　柾目　板目

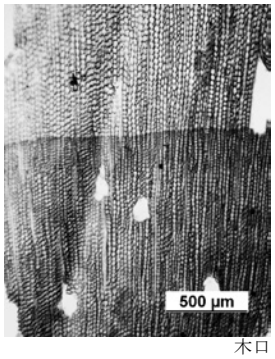


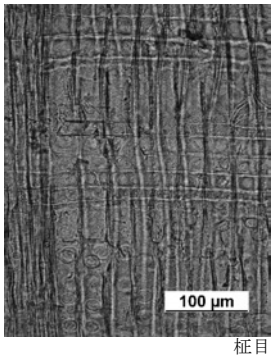


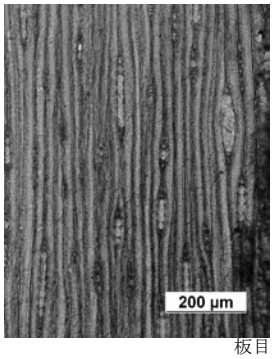


196 マツ科マツ属［二葉松類］

木口　柾目　板目

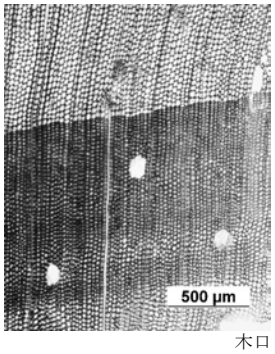


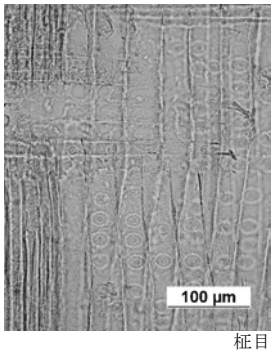


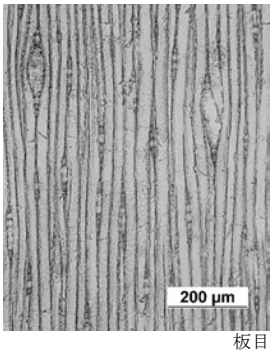


197 マツ科マツ属［二葉松類］

木口　柾目　板目

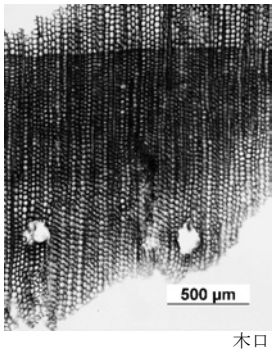


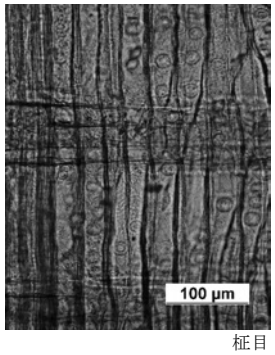


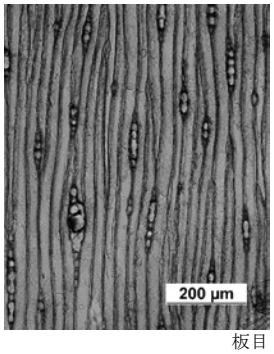


198 マツ科マツ属［二葉松類］

木口　柾目　板目



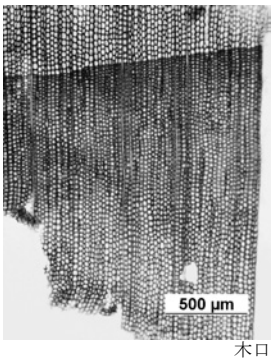




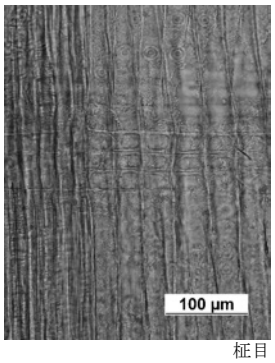
199 マツ科マツ属［二葉松類］

木口　柾目　板目

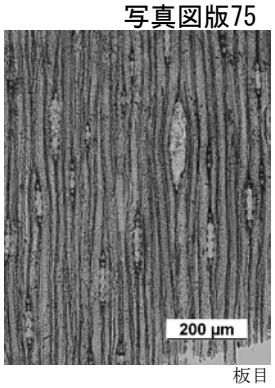
200 マツ科マツ属［二葉松類］



木口

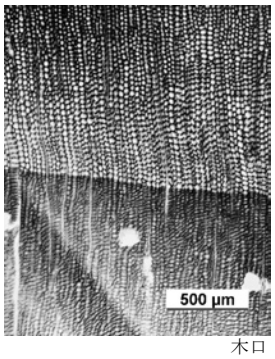


柾目

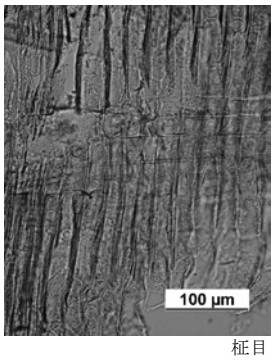


板目

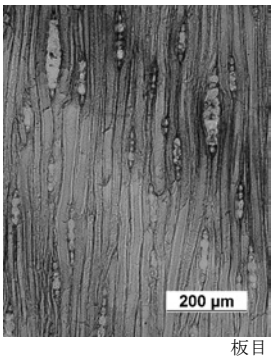
201 マツ科マツ属［二葉松類］



木口

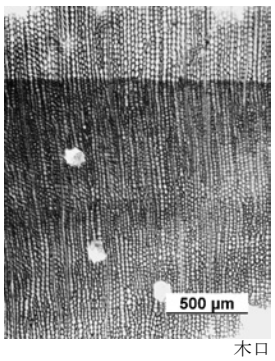


柾目

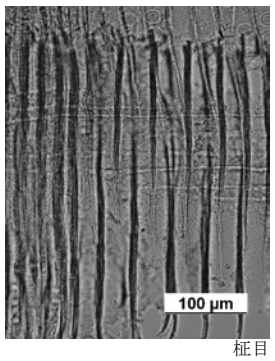


板目

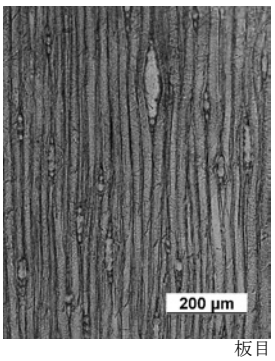
202 マツ科マツ属［二葉松類］



木口

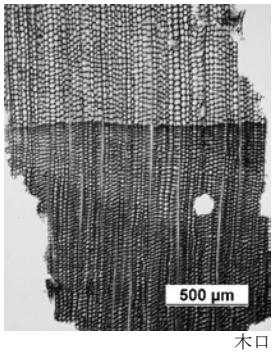


柾目

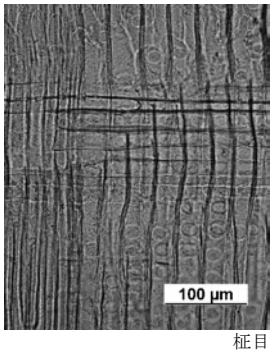


板目

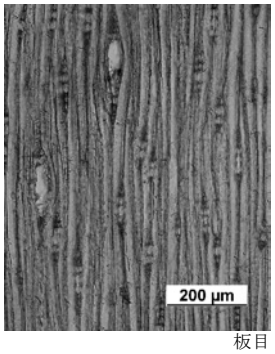
203 マツ科マツ属［二葉松類］



木口

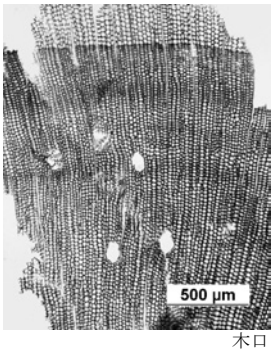


柾目

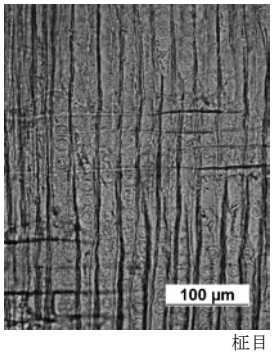


板目

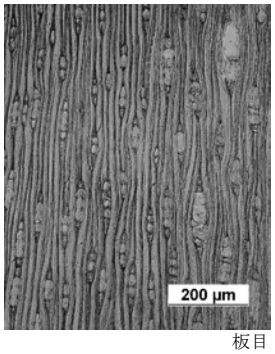
204 マツ科マツ属［二葉松類］



木口



柾目

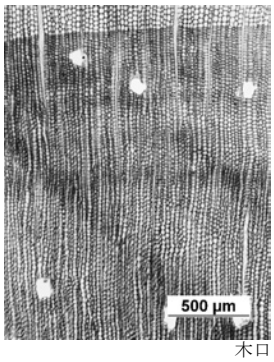


板目

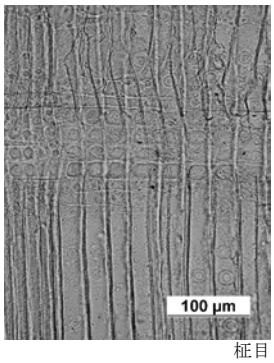
木製品顕微鏡写真

写真図版76

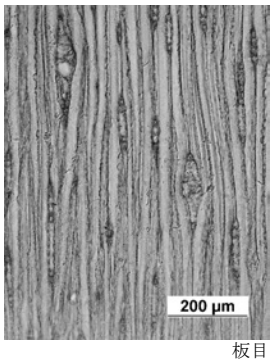
205 マツ科マツ属［二葉松類］



木口

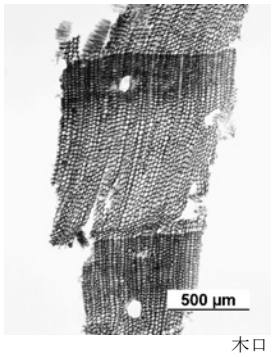


柾目

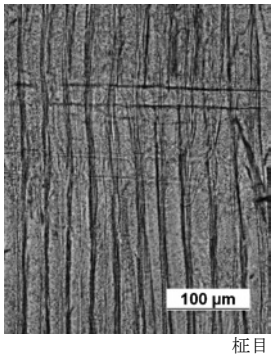


板目

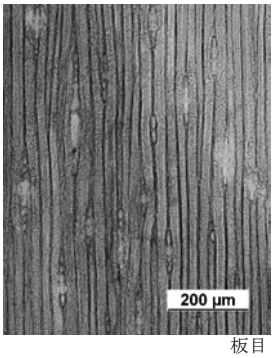
206 マツ科マツ属［二葉松類］



木口

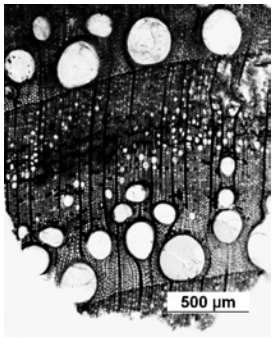


柾目

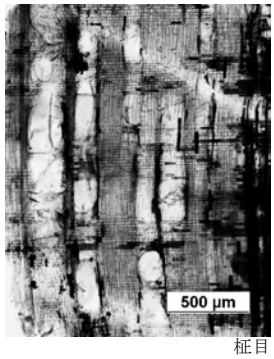


板目

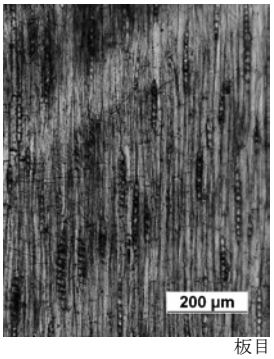
207 ブナ科クリ属クリ



木口

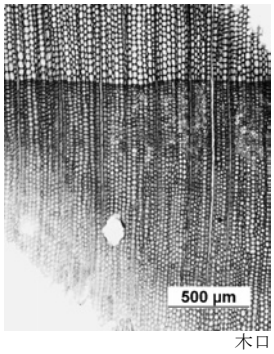


柾目

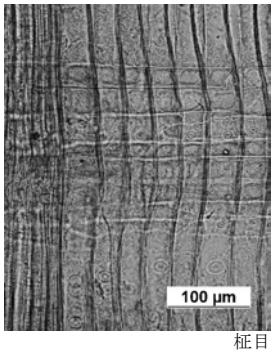


板目

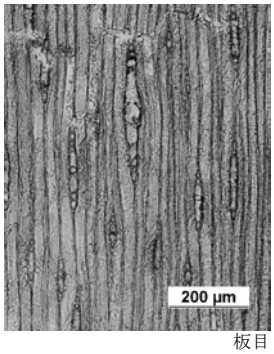
208 マツ科マツ属［二葉松類］



木口

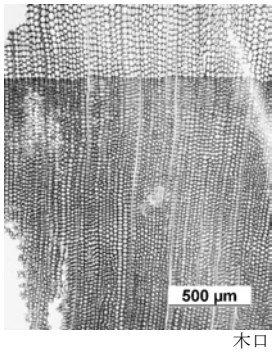


柾目

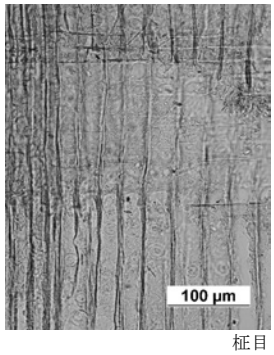


板目

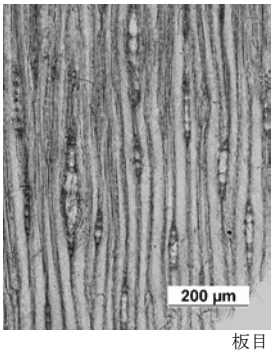
209 マツ科マツ属［二葉松類］



木口



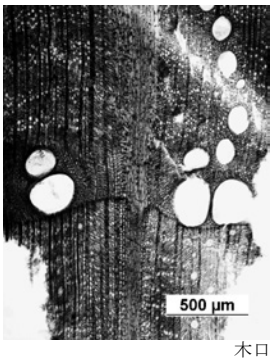
柾目



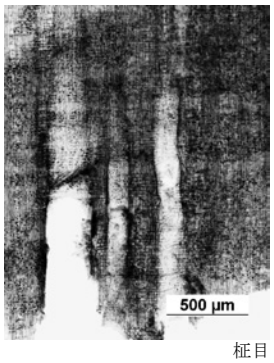
板目

木製品顕微鏡写真

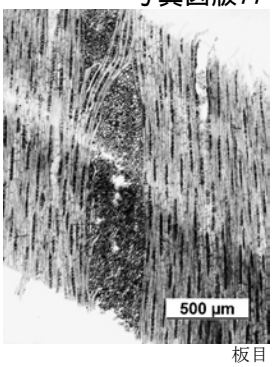
210 ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節



木口

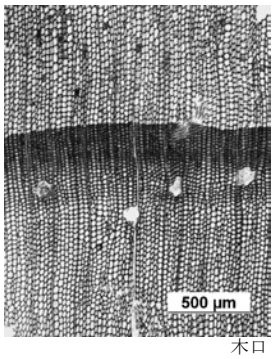


柾目

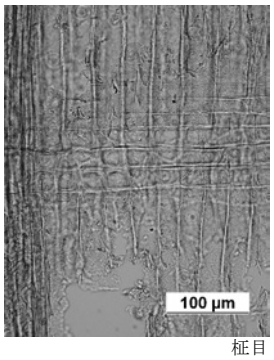


板目

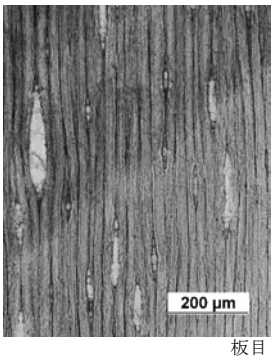
211 マツ科マツ属［二葉松類］



木口

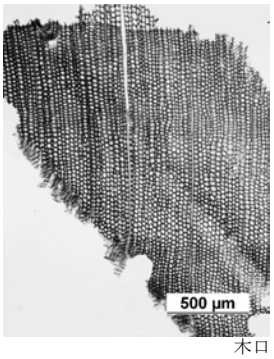


柾目

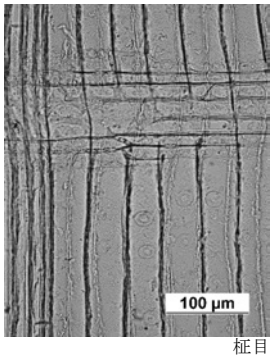


板目

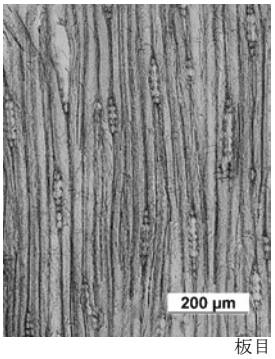
212 マツ科マツ属［二葉松類］



木口

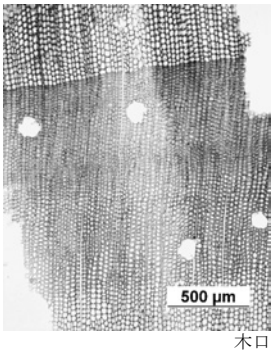


柾目

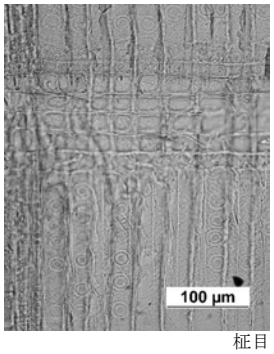


板目

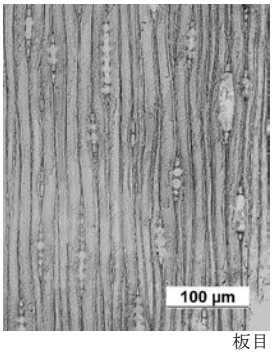
213 マツ科マツ属［二葉松類］



木口

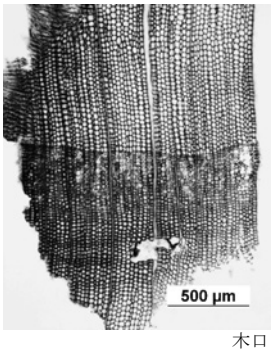


柾目

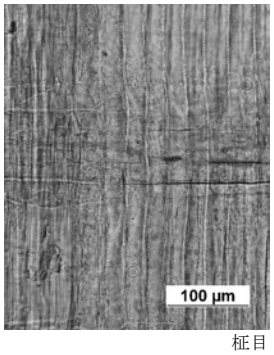


板目

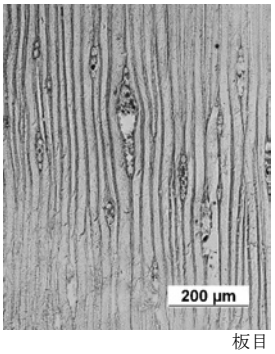
214 マツ科マツ属［二葉松類］



木口



柾目

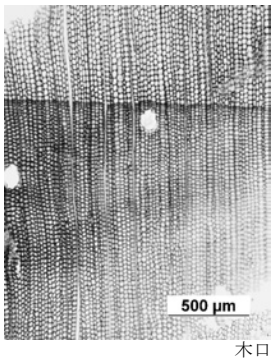


板目

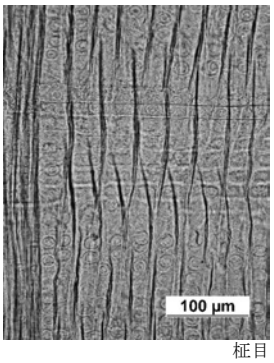
木製品顕微鏡写真

写真図版78

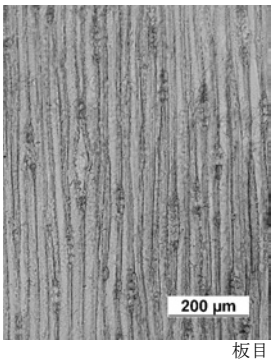
215 マツ科マツ属［二葉松類］



木口

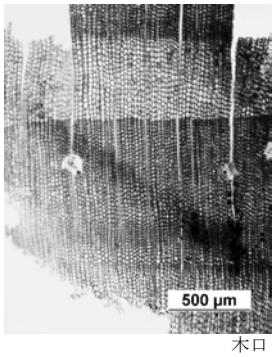


柾目

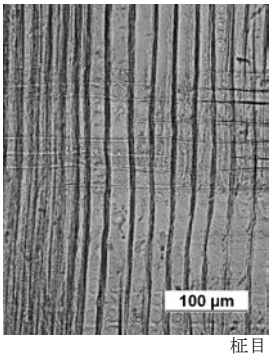


板目

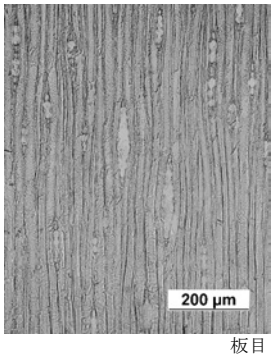
216 マツ科マツ属［二葉松類］



木口

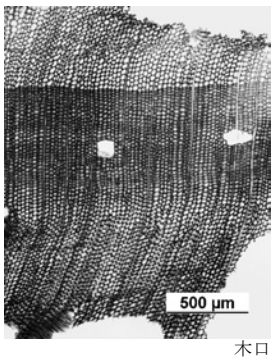


柾目

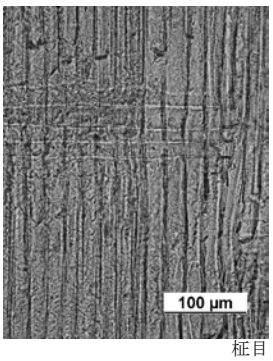


板目

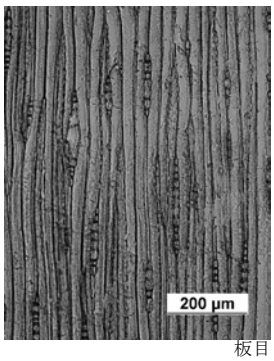
217 マツ科マツ属［二葉松類］



木口

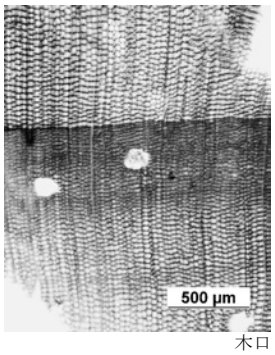


柾目

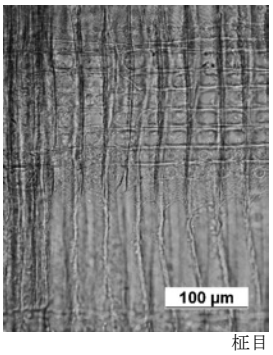


板目

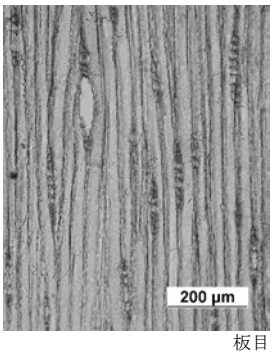
218 マツ科マツ属［二葉松類］



木口

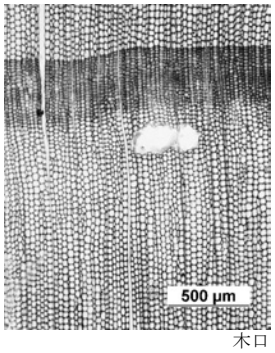


柾目

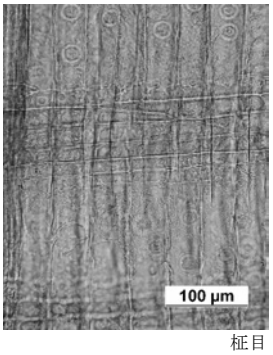


板目

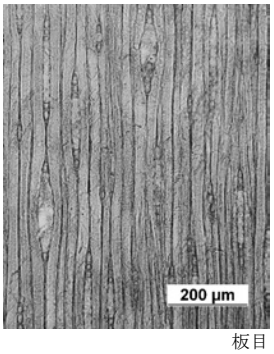
219 マツ科マツ属［二葉松類］



木口



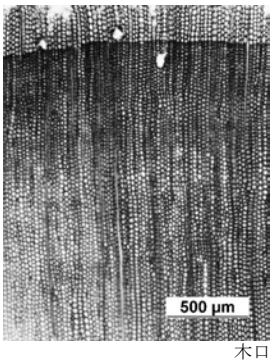
柾目



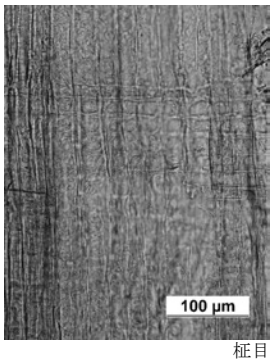
板目

木製品顕微鏡写真

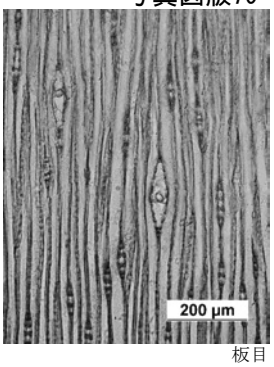
220 マツ科マツ属［二葉松類］



木口

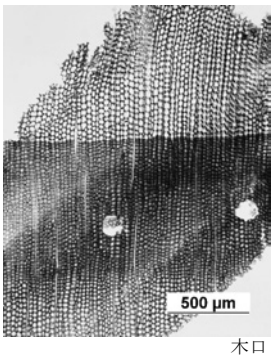


柾目

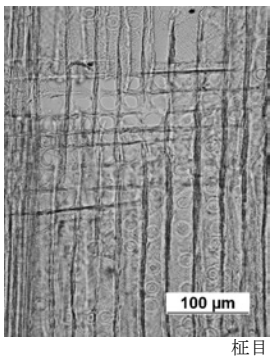


板目

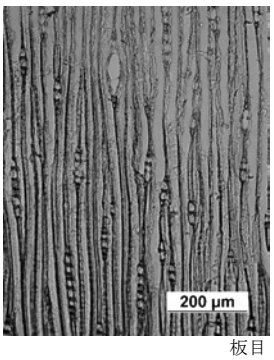
221 マツ科マツ属［二葉松類］



木口

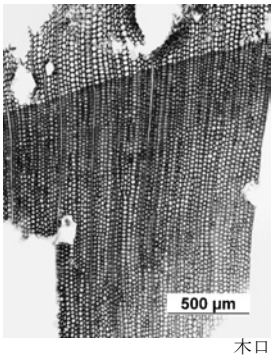


柾目

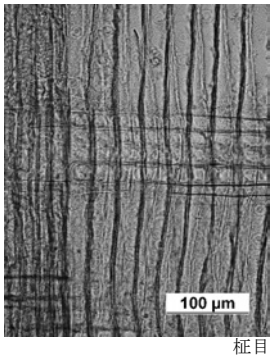


板目

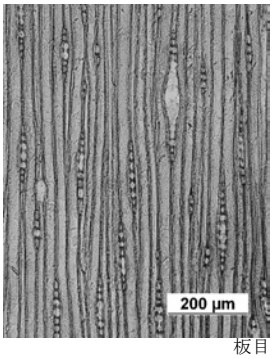
222 マツ科マツ属［二葉松類］



木口

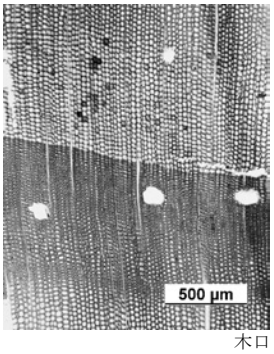


柾目

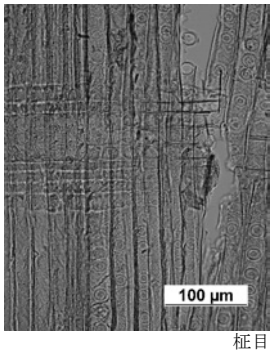


板目

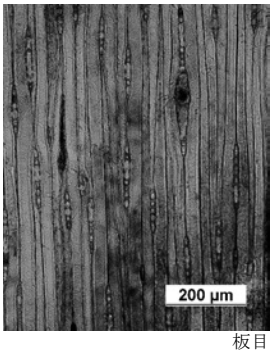
223 マツ科マツ属［二葉松類］



木口

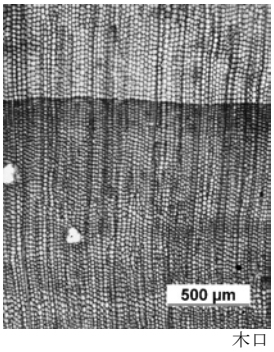


柾目

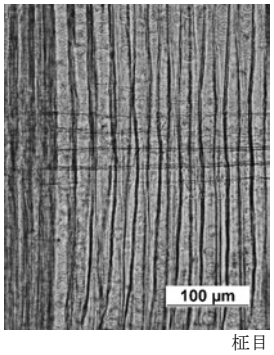


板目

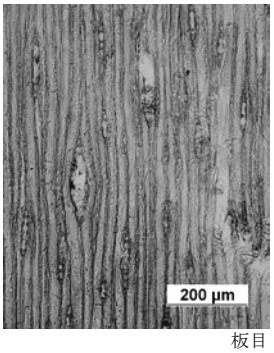
224 マツ科マツ属［二葉松類］



木口



柾目

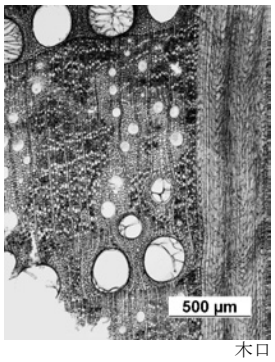


板目

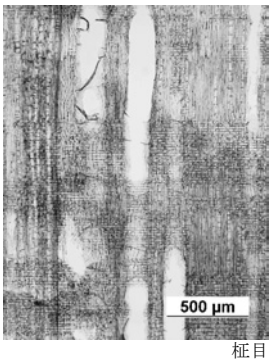
木製品顕微鏡写真

写真図版80

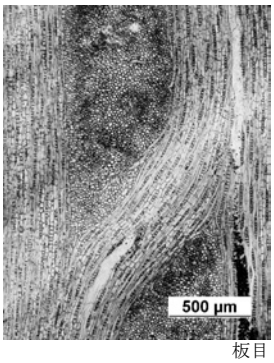
225 ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節



木口

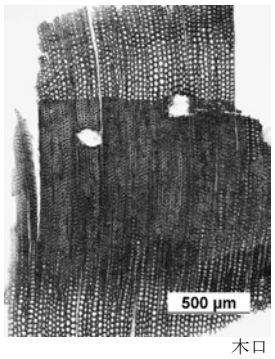


柾目

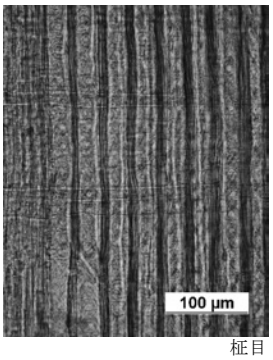


板目

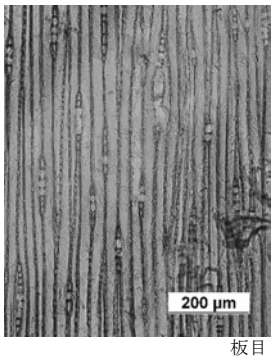
226 マツ科マツ属［二葉松類］



木口

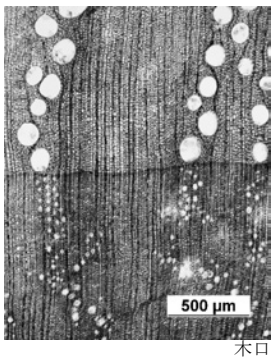


柾目

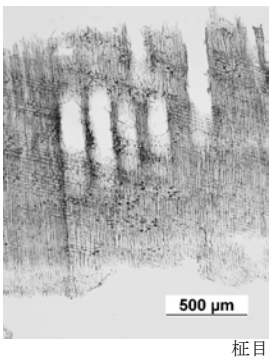


板目

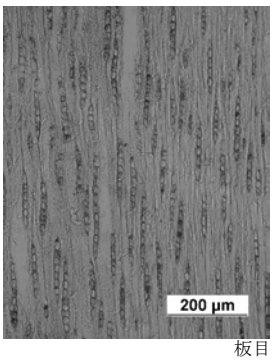
227 ブナ科シイ属



木口

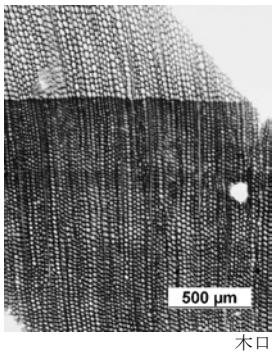


柾目

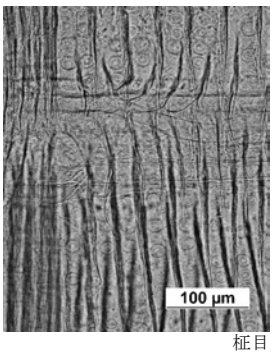


板目

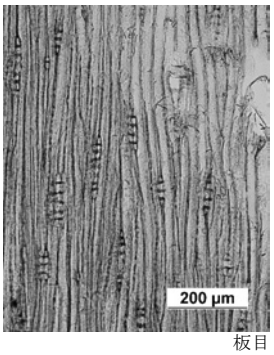
228 マツ科マツ属［二葉松類］



木口

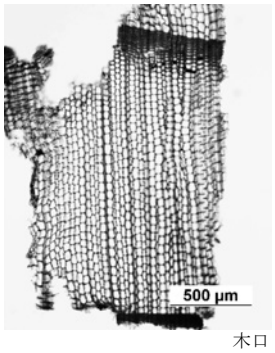


柾目

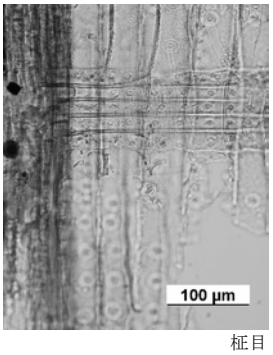


板目

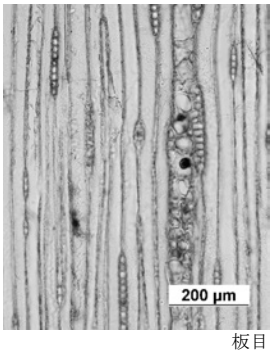
245 スギ科スギ属スギ



木口



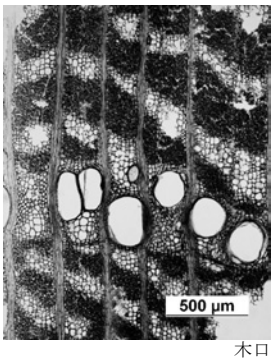
柾目



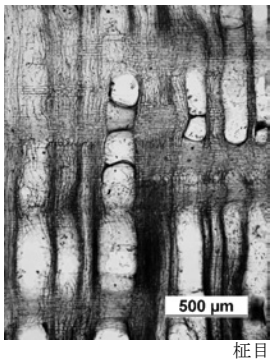
板目

木製品顕微鏡写真

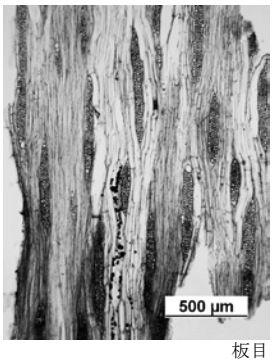
449 ニレ科ケヤキ属ケヤキ



木口

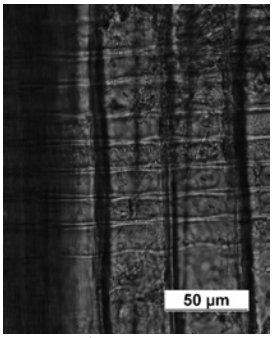


柾目

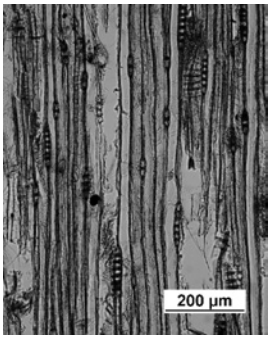


板目

461 ヒノキ科ヒノキ属

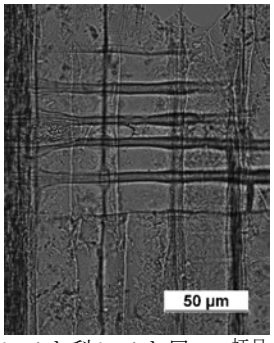


柾目

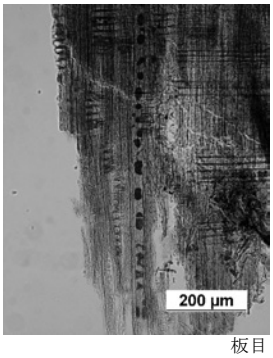


板目

552 ヒノキ科ヒノキ属

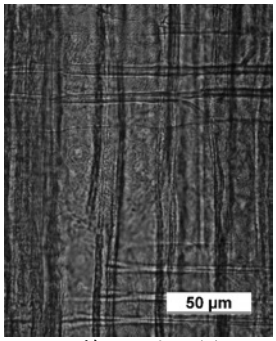


柾目

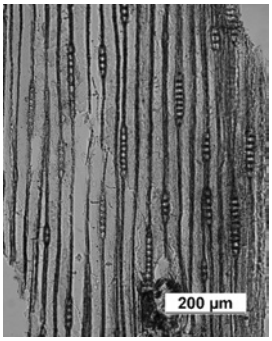


板目

825 ヒノキ科アスナロ属

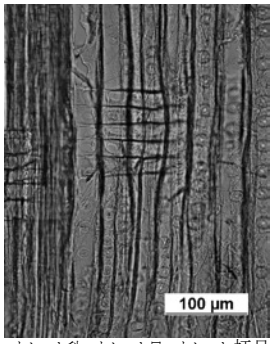


柾目

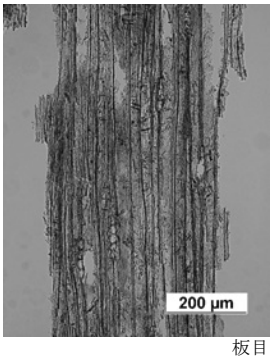


板目

826 コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ

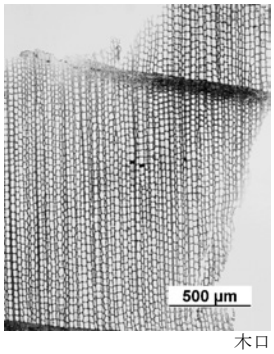


柾目

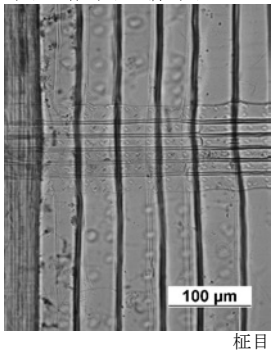


板目

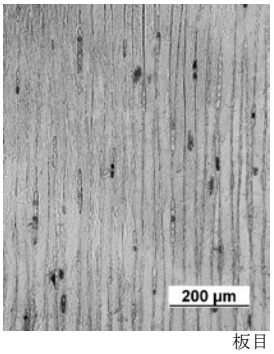
865 ヒノキ科アスナロ属



木口

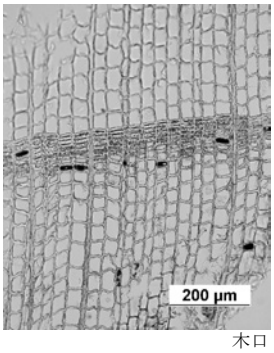


柾目

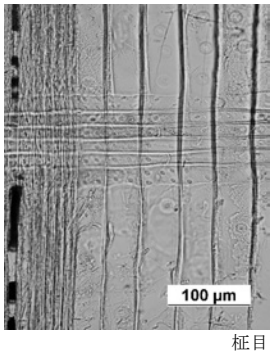


板目

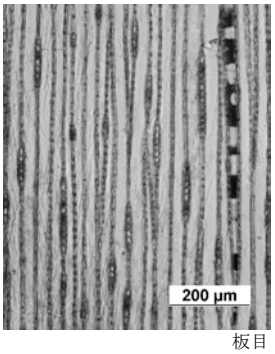
866 ヒノキ科アスナロ属



木口



柾目

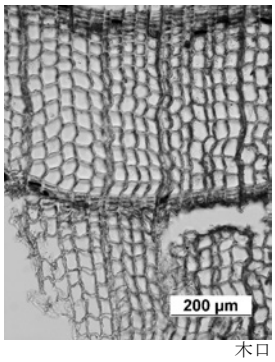


板目

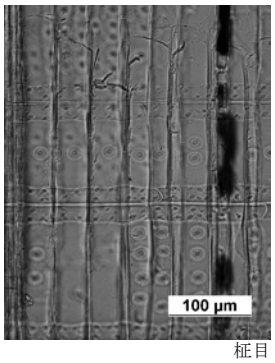
木製品顕微鏡写真

写真図版82

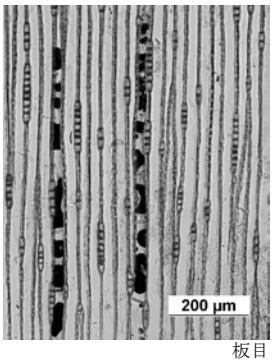
867 ヒノキ科アスナロ属



木口

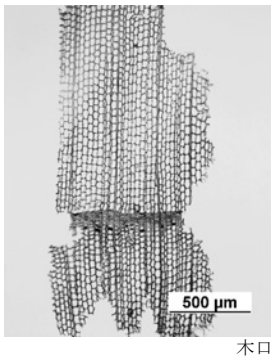


柾目

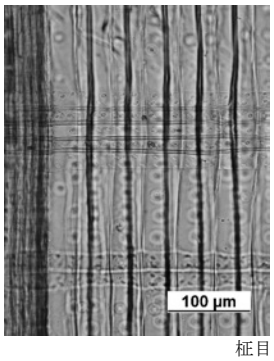


板目

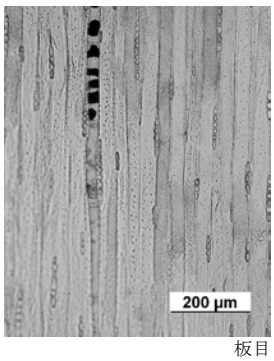
868 ヒノキ科アスナロ属



木口

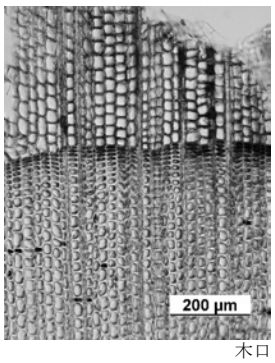


柾目

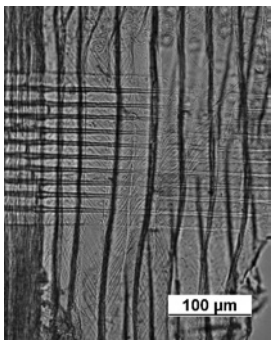


板目

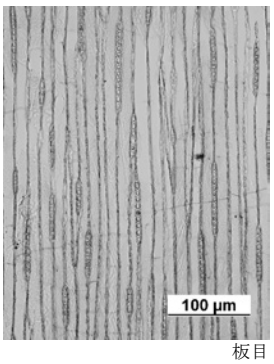
869 ヒノキ科アスナロ属



木口

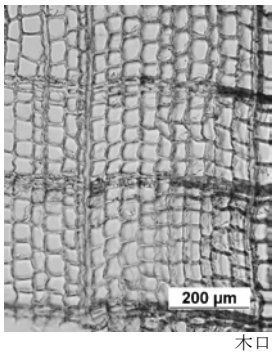


柾目

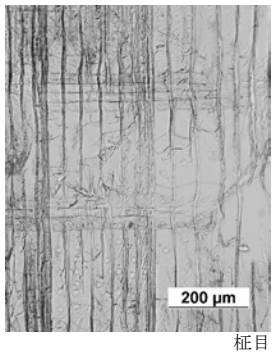


板目

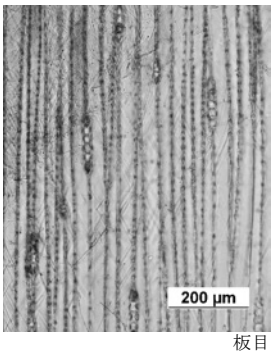
895 コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ



木口

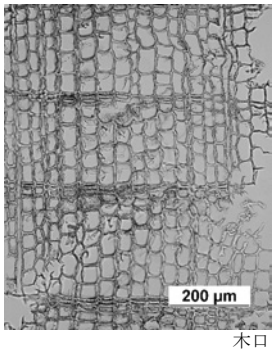


柾目

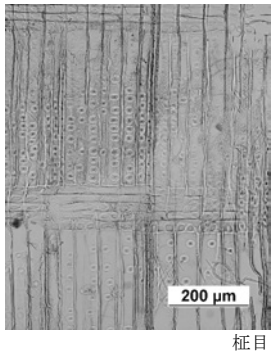


板目

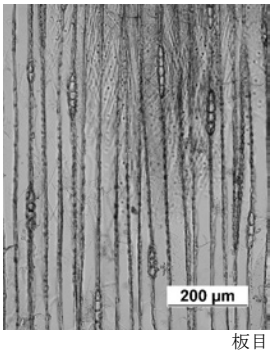
896 コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ



木口



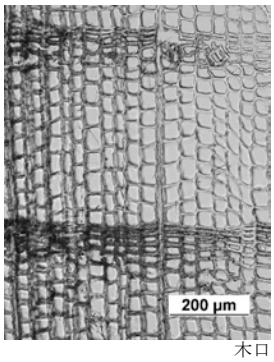
柾目



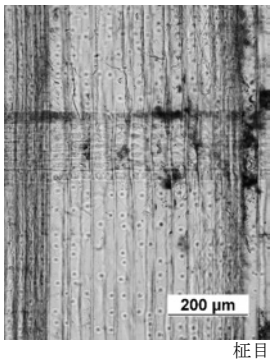
板目

木製品顕微鏡写真

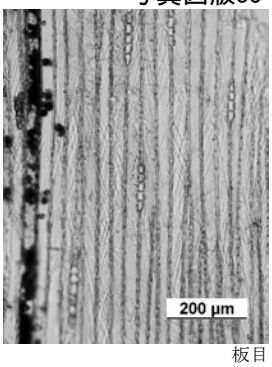
897 コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ



木口

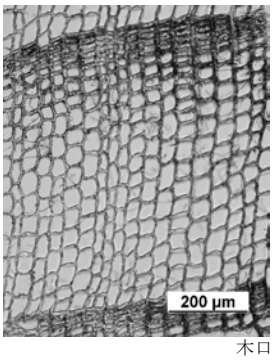


柾目

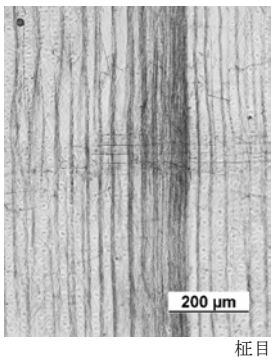


板目

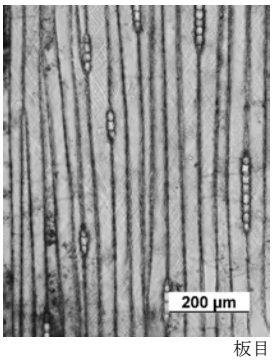
898 コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ



木口

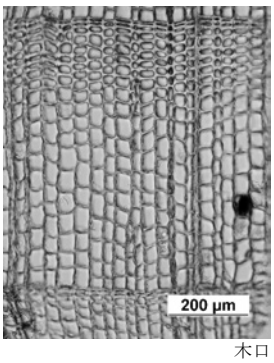


柾目

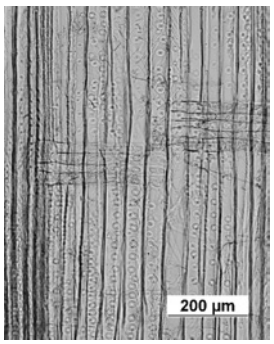


板目

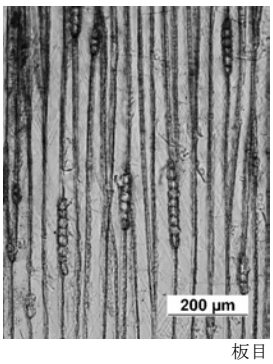
899 コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ



木口

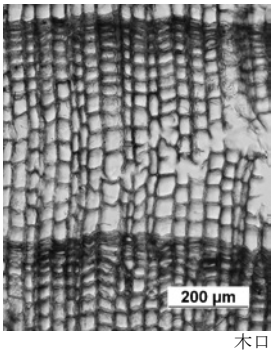


柾目

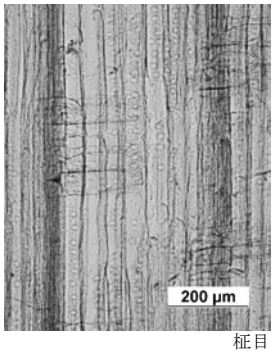


板目

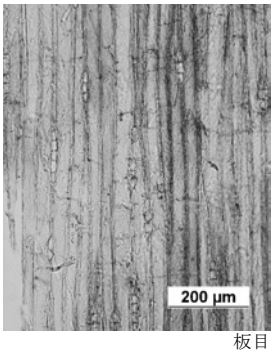
900 コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ



木口

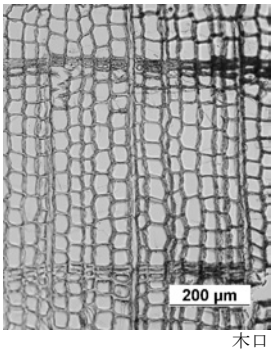


柾目

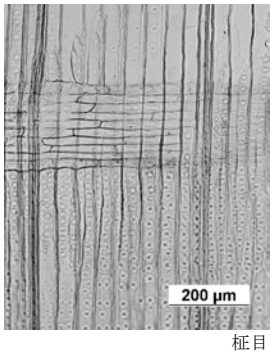


板目

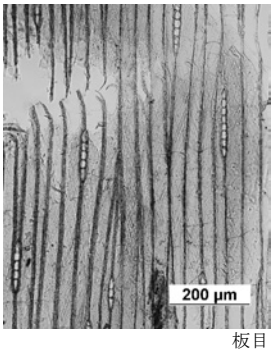
901 コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ



木口



柾目

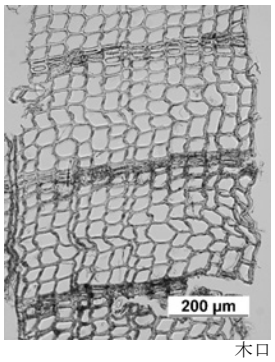


板目

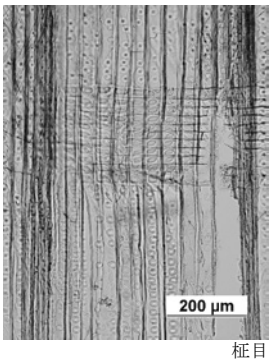
木製品顕微鏡写真

写真図版84

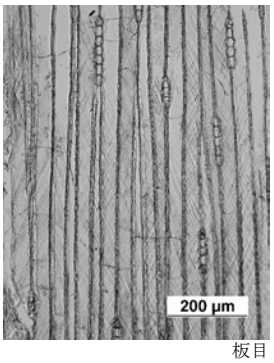
902 コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ



木口

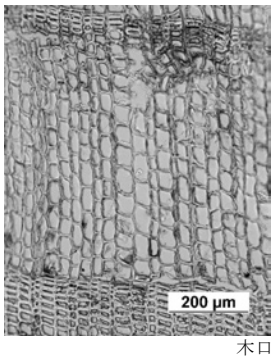


柾目

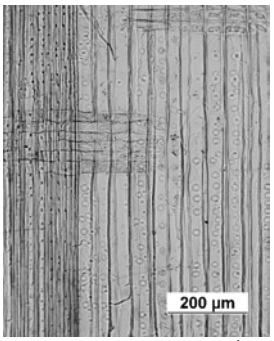


板目

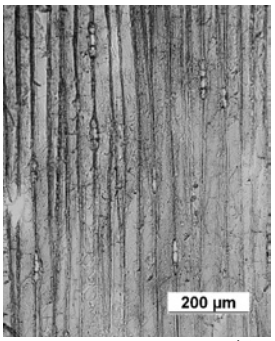
903 コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ



木口

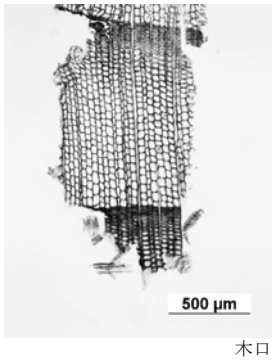


柾目

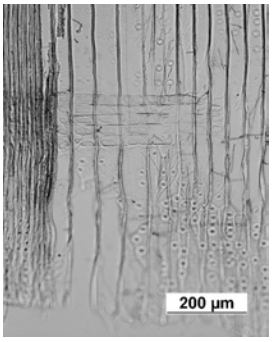


板目

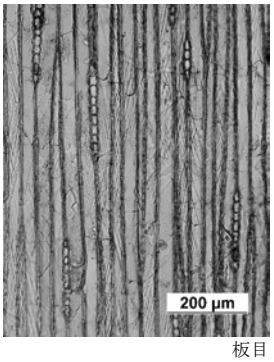
904 コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ



木口

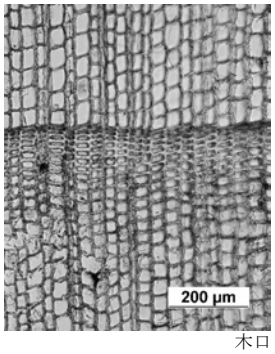


柾目

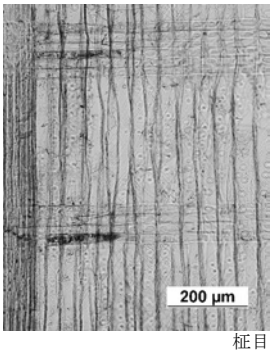


板目

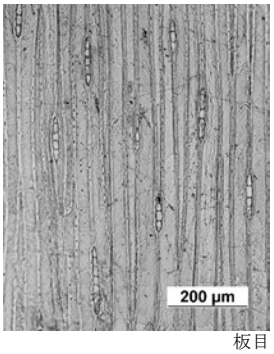
905 コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ



木口

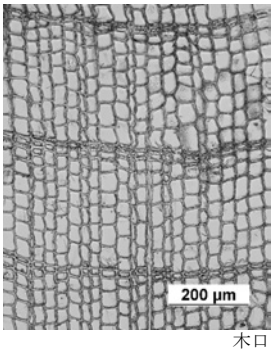


柾目

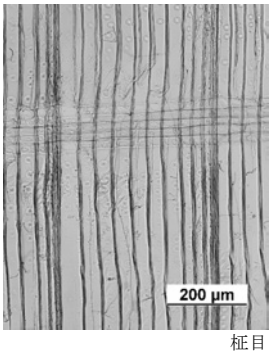


板目

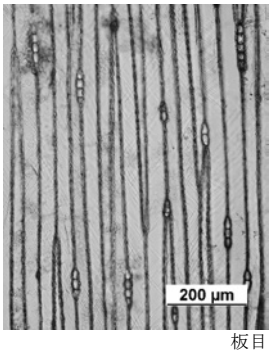
906 コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ



木口



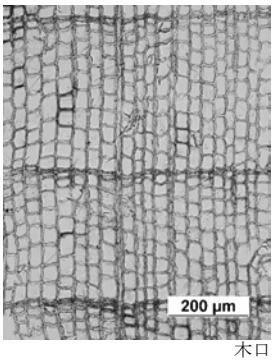
柾目



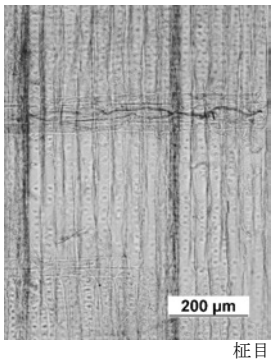
板目

木製品顕微鏡写真

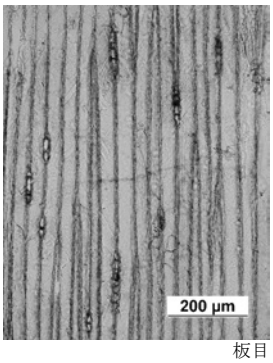
907 コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ



木口

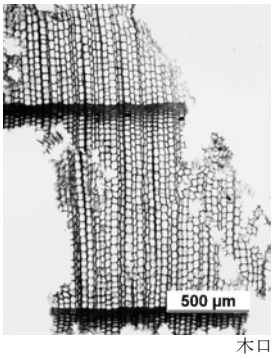


柾目

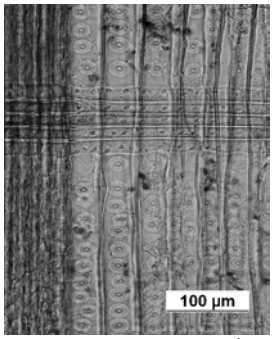


板目

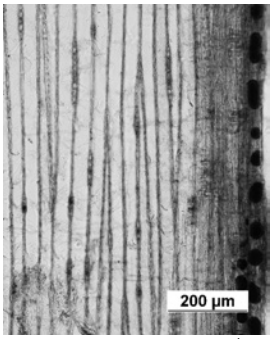
908 スギ科スギ属スギ



木口

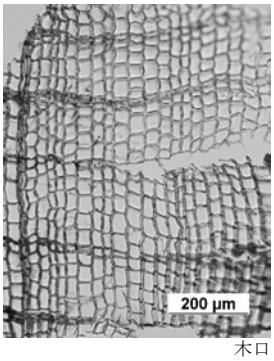


柾目

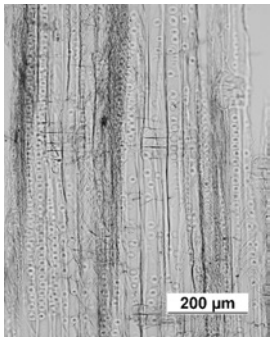


板目

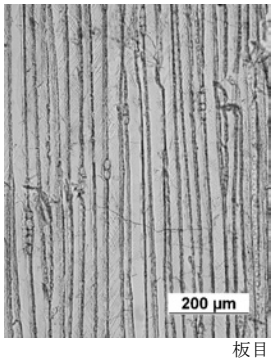
909 コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ



木口

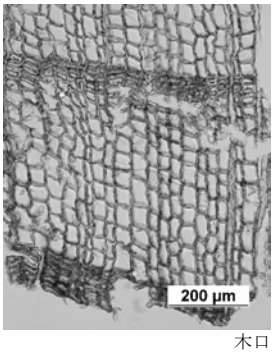


柾目

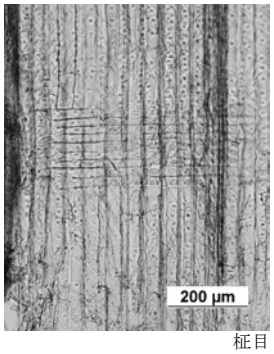


板目

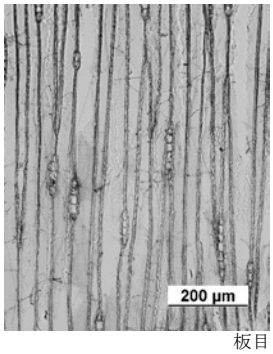
910 コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ



木口

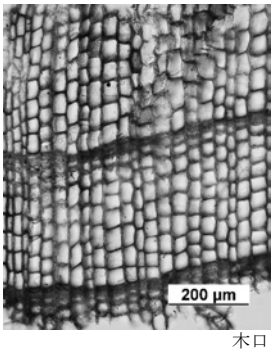


柾目

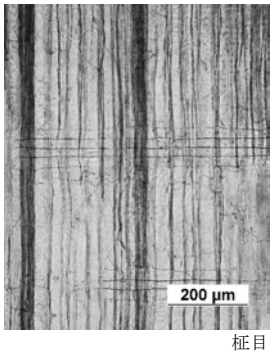


板目

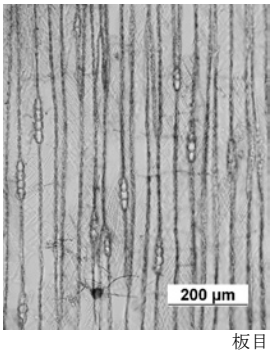
911 コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ



木口



柾目

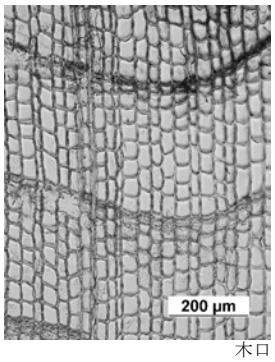


板目

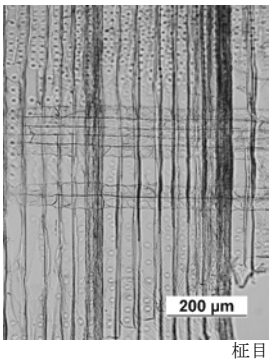
木製品顕微鏡写真

写真図版86

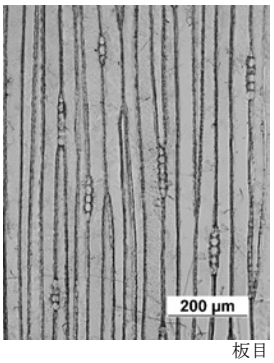
912 コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ



木口

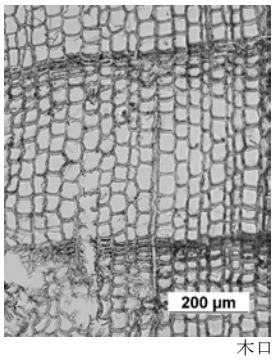


柾目

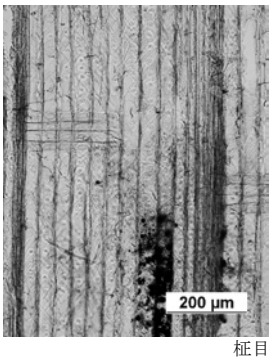


板目

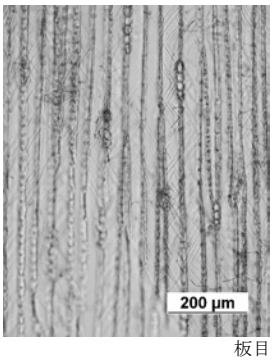
913 コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ



木口

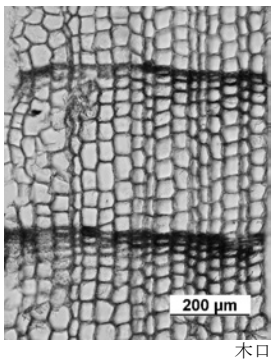


柾目

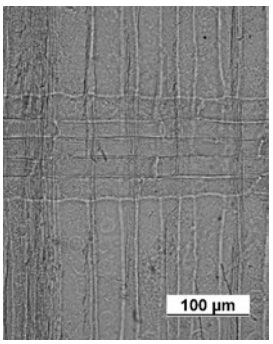


板目

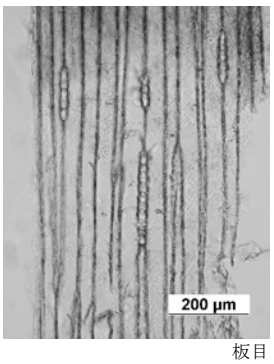
915 コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ



木口

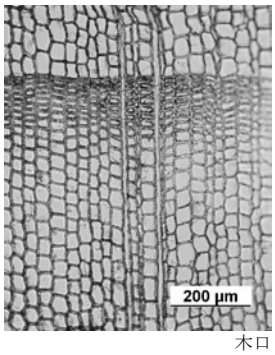


柾目

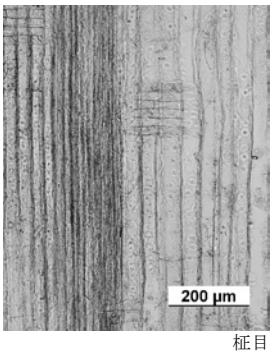


板目

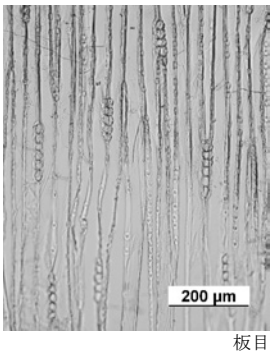
916 コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ



木口

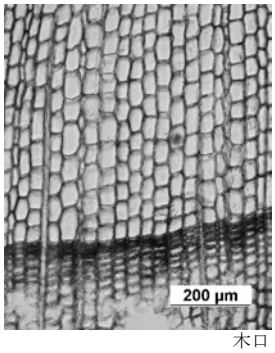


柾目

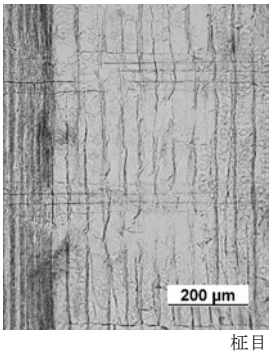


板目

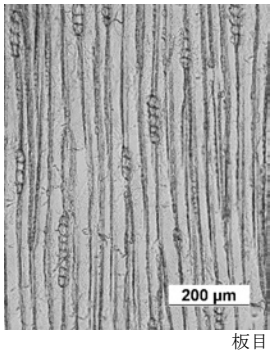
917 コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ



木口

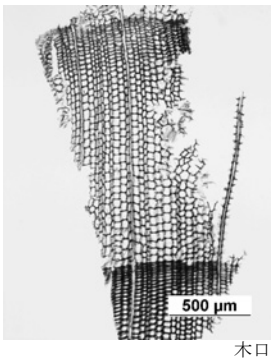


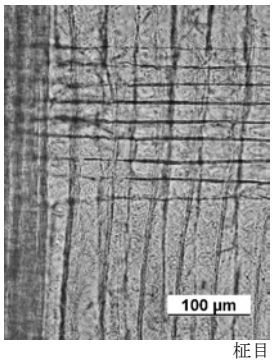
柾目

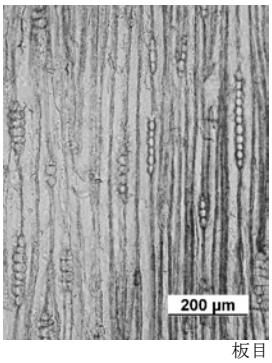


板目

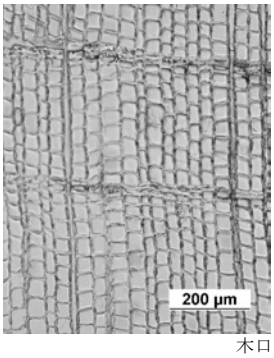
木製品顕微鏡写真

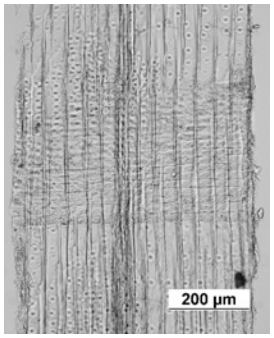


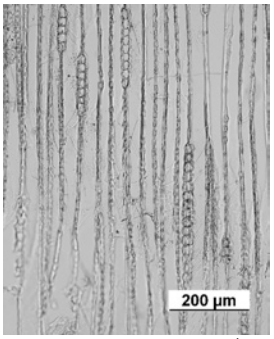




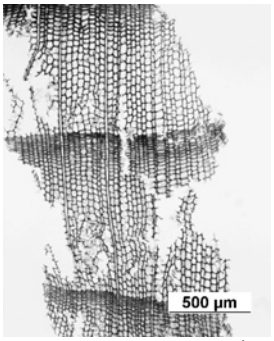
918 コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ　木口　柾目　板目

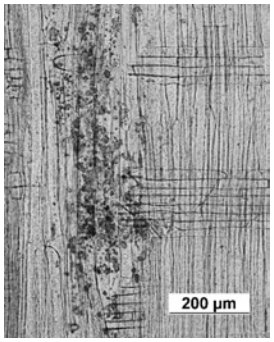


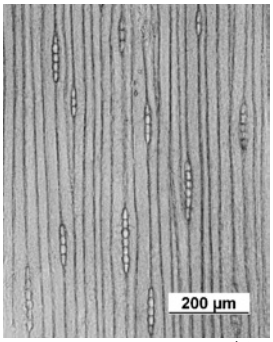




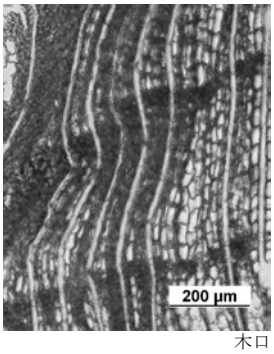
919 コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ　木口　柾目　板目

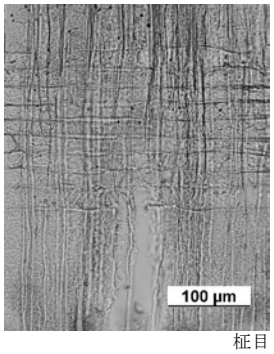


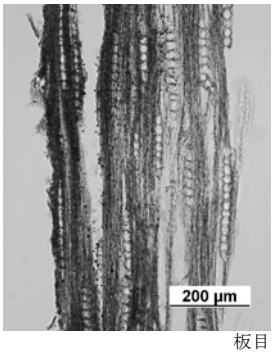




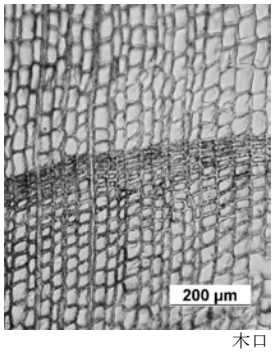
920 コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ　木口　柾目　板目

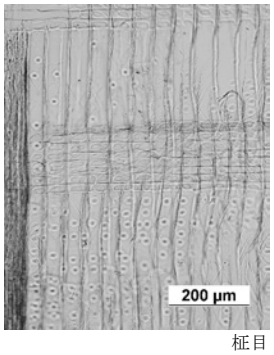


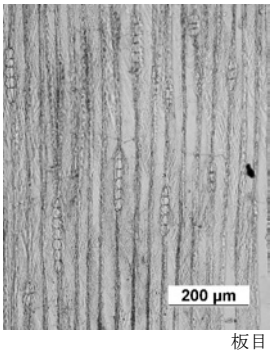




921 コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ　木口　柾目　板目



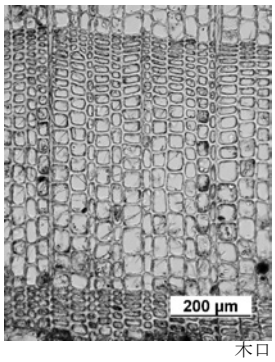




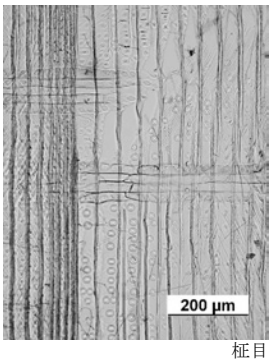
922 コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ　木口　柾目　板目

写真図版88

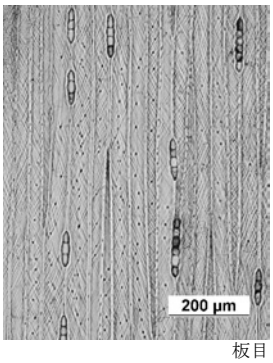
923 コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ



木口

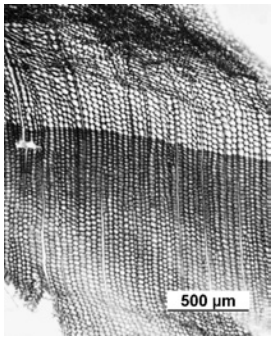


柾目

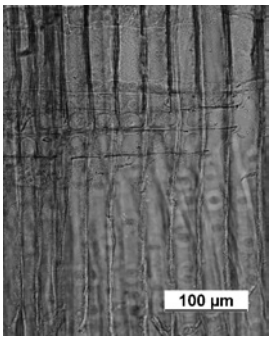


板目

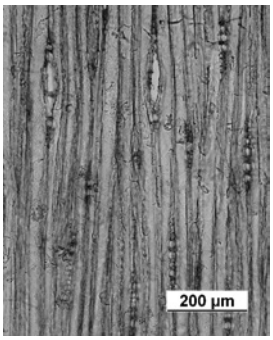
丸太A マツ科マツ属［二葉松類］



木口

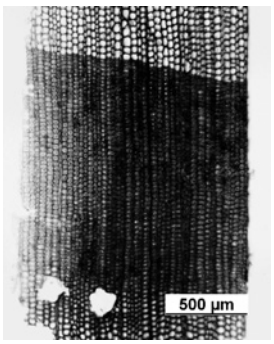


柾目

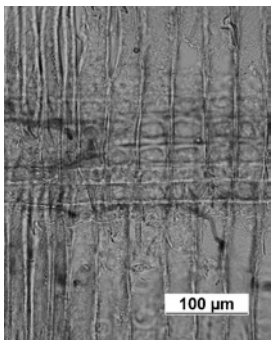


板目

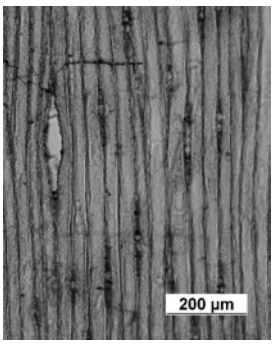
丸太C マツ科マツ属［二葉松類］



木口

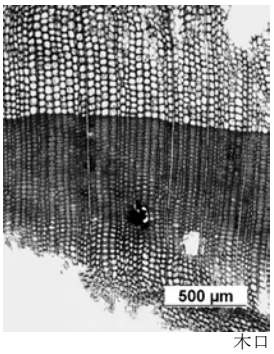


柾目

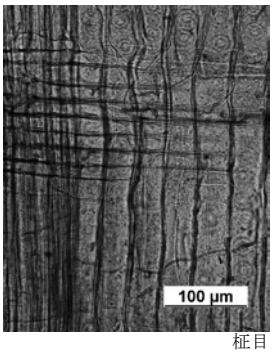


板目

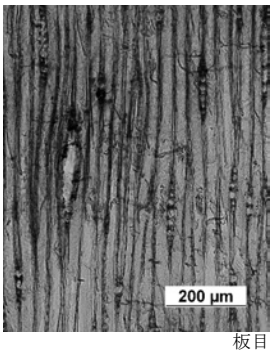
丸太D マツ科マツ属［二葉松類］



木口



柾目



板目

木製品顕微鏡写真

報　告　書　抄　録

ふりがな	なかつぼいせき（だい３・４じ）はっくつちょうさほうこく
書　　名	中坪遺跡（第３・４次）発掘調査報告
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	三重県埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	４０４
編 著 者 名	森川常厚　　株式会社パレオ・ラボ　　株式会社吉田生物研究所
編 集 機 関	三重県埋蔵文化財センター
所　在　地	〒515－0325　　三重県多気郡明和町竹川503　　TEL 0596（52）1732
発行年月日	2022(令和4)年３月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
中坪遺跡（第３次）	松阪市立田町	24204	a 907	34度33分57秒	136度34分26秒	20170629～20180129	3,775㎡	高度水利機能確保基盤整備事業(朝見上地区)
中坪遺跡（第４次）						20181016～20181018	64㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中坪遺跡	集落跡	古代・中世	掘立柱建物・井戸 水利施設・溝	土師器・須恵器 陶器・瓦質土器 磚・木製品	

要約　中坪遺跡は櫛田川左岸沖積地に位置する。奈良時代の水利遺構や室町時代の堀状の溝に区画された集落跡等を検出している。多量の土師器皿や鍋等が出土しているが、瓦質の磚や風炉、人面が墨書された室町時代の土師器皿等も注目される。

三重県埋蔵文化財調査報告４０４

中坪遺跡（第３・４次）
発掘調査報告

２０２２（令和４）年３月

編集
発行　三重県埋蔵文化財センター

印刷　株式会社アイブレーン